



Nagoya City University Academic Repository

学位の種類	博士（芸術工学）
報告番号	甲第1834号
学位記番号	第21号
氏名	楠川 充敏
授与年月日	令和3年3月24日
学位論文の題名	大学図書館の開架閲覧室とラーニングコモンズにおける学習活動と場所選択に関する研究 (A Study on Learning activity and Place chooses in Reading room of University libraries and Learning Commons)
論文審査担当者	主査： 鈴木 賢一 副査： 伊藤 恭行, 原田 昌幸, 中井 孝幸

令和2年度
学位請求論文

大学図書館の開架閲覧室とラーニングコモンズにおける
学習活動と場所選択に関する研究

主査 鈴木 賢一 教授
副査 伊藤 恭行 教授
副査 原田 昌幸 教授
副査 中井 孝幸 教授

令和3年03月12日

名古屋市立大学大学院

芸術工学研究科 芸術工学専攻
楠川 充敏

大学図書館の開架閲覧室とラーニングcommonsにおける 学習活動と場所選択に関する研究

A Study on Learning activity and Place chooses in Reading room of Academic libraies and Learning Commons

目次

第1章 研究の目的と方法	1
1.1 研究の背景	3
1.1.1 高等教育機関の変遷と現状	
1.1.2 学習を支える学習環境の現状	
1.1.3 学生の学習活動の現状と課題	
1.1.4 自学自主に対応した学習場所としての開架閲覧室と ラーニングcommons	
1.1.5 開架閲覧室とラーニングcommonsにおける学習場所 としての問題	
1.2 研究の目的	10
1.3 研究の方法	10
1.4 用語の定義	13
1.5 既往研究と研究の位置づけ	15
1.5.1 出納システムと来館ピーク時把握の研究	
1.5.2 大学図書館の規模計画の研究	
1.5.3 情報化時代における研究	
1.5.4 ラーニングcommons導入後の研究	
1.5.5 本研究の特色	
1.6 調査の概要	22
1.5.1 調査方法	
1.5.2 利用実態調査の対象大学と対象施設の概要	
第2章 大学図書館とラーニングcommonsの整備・計画の変遷と現状	47
2.1 研究の目的と方法	49
2.2 米国における大学図書館の変遷とラーニングcommonsの導入	49
2.2.1 学習図書館の発展とモジュラープランニング	
2.2.2 ラーニングcommonsの誕生	
2.3 日本の大学図書館の平面計画の変遷と代表作品	52
2.3.1 大学増加による量的確保	
2.3.2 VHSの登場と視聴による閲覧機能の整備	
2.3.3 ネットワーク構築による電子機器の発達	
2.3.4 ICT機器の過渡期とラーニングcommonsの誕生	
2.3.5 キャンパス内へ導入されるラーニングcommons	

2.4 東海北陸甲信越地方の開架閲覧室とラーニングコモন্ズの整備状況	69
2.4.1 研究の目的と方法	
2.4.2 延床面積と学生数からみた規模	
2.4.3 開架閲覧室の整備状況	
2.4.4 ラーニングコモন্ズの整備状況	
2.4.5 グループ学習室とパソコン室のサービス内容	
2.4.6 図書館における利用者向けのサービス・取り組み	
2.5 まとめ	75
第3章 学習利用者の分布場所と学習媒体からみた来訪理由	79
3.1 研究の目的と方法	81
3.2 利用者の所属構成	82
3.2.1 利用者の所属と学年	
3.2.2 学生の学部	
3.2.3 学生の男女比	
3.2.4 人数形態	
3.3 利用者の利用目的と来訪理由	85
3.3.1 入退館前後の場所	
3.3.2 利用頻度	
3.3.3 滞在時間	
3.3.4 選択理由	
3.3.5 利用目的	
3.3.6 開架閲覧室と LC 内での過ごし方	
3.3.7 開架閲覧室と LC に対する利用イメージ	
3.4 利用者の選択場所	92
3.4.1 利用率と学習率	
3.4.2 利用者の分布	
3.5 学習媒体からみた利用者属性と来訪理由	108
3.5.1 学習媒体の分類と割合	
3.5.2 学年と学部構成	
3.5.3 滞在時間	
3.5.4 来訪理由と開架閲覧室と LC に対するイメージ	
3.6 まとめ	113
3.5.1 開架閲覧室と LC の利用者層と利用内容	
3.5.2 学習利用者の分布場所	
3.5.3 学習媒体別の来訪理由	
第4章 個人とグループからみた学習媒体と来訪理由と滞在場所	115
4.1 研究の目的と方法	117
4.2 個人とグループの学習利用者の学習媒体と来訪理由	118

4.2.1	個人と2人組と多人数の割合	
4.2.2	学年構成と利用頻度	
4.2.3	学習媒体と滞在時間と来訪理由	
4.3	個人とグループの行為と滞在場所	123
4.3.1	個人とグループの行為	
4.3.2	個人とグループの滞在場所	
4.4	まとめ	134
4.4.1	個人とグループの学習媒体と来訪理由	
4.4.2	個人とグループの滞在場所	
第5章 学習活動別の選択理由及び場所の開放度と 会話率からみた座席選択		137
5.1	研究の目的と方法	139
5.2	座席の開放度の分類及び学習率と会話率	140
5.2.1	座席の配置と仕切りの関係からみた開放度の分類	
5.2.2	座席の開放度からみた利用率と学習率	
5.2.3	開放度からみた会話率	
5.2.4	開放度と会話率の分類による座席の割合	
5.3	学習活動の選択理由と開放度と会話率からみた座席選択	147
5.3.1	選択理由	
5.3.2	開放度と会話率からみた座席選択	
5.4	選択理由からみた開放度と会話率による座席選択	151
5.4.1	全学習活動における「集中・作業がしやすい」の座席選択	
5.4.2	個人利用における「他人の視線が気にならない」の座席選択	
5.4.3	グループ利用における「友人と会話がしやすい」の座席選択	
5.4.4	全学習活動における「リラックスできる」の座席選択	
5.4.5	図書利用における「図書・資料が利用しやすい」の座席選択	
5.4.6	PC利用における「PCが利用しやすい」の座席選択	
5.4.7	併用利用における「図書・資料、PCの利用がしやすい」 の座席選択	
5.5	まとめ	161
5.5.1	学習活動毎の選択理由	
5.5.2	学習活動毎の座席選択	
5.5.3	学習活動毎の選択理由と座席選択の関係	
第6章 ラーニングコモンズの設置形態別における 使い分け行動からみた理由と座席選択		163
6.1	研究の目的と方法	165
6.2	開架閲覧室とラーニングコモンズの比率と会話率	166
6.2.1	開架閲覧室とラーニングコモンズの各規模の比率	
6.2.2	個人利用者とグループ利用者の滞在と会話の発生場所	

6.3	開架閲覧室とラーニングcommonsの使い分け状況	
6.3.1	使い分け利用者と使い分けしない利用者の比率	・・・ 169
6.3.2	使い分け利用別にみた学習場所の来訪理由	
6.3.3	使い分け利用別にみた利用目的	
6.4	使い分け利用者の特徴	
6.4.1	利用人数別の使い分け状況	・・・ 172
6.4.2	同形態利用者の選択理由と使い分け理由	
6.4.3	分棟型における静かで落ち着いた場所を求める利用者の座席選択	
6.4.4	一体隣接型の静かな場所としている選択場所	
6.5	まとめ	・・・ 176
6.5.1	使い分け利用の割合と利用人数	
6.5.2	同じ利用人数での使い分け理由	
6.5.3	ラーニングcommonsの設置形態と会話率の関係	
第7章	結論	・・・ 177
7.1	まとめ	・・・ 179
7.1.1	開架閲覧室とラーニングcommonsの現状と計画の課題	
7.1.2	学部生と学習目的の高さ及び着座への要求	
7.1.3	学習媒体及び利用人数からみた来訪理由と滞在場所	
7.1.4	学習活動ごとの開放度と会話率からみた座席選択と選択理由の関係	
7.1.5	ラーニングcommonsの設置形態における場所の使い分け行動と会話率の関係	
7.2	学習場所整備に向けた計画の知見	・・・ 181
7.2.1	開放度と会話率の「選択肢」の重要性	
7.2.2	多様な会話率の創出	
7.2.3	学習活動に対応した開放度と会話率	
7.3	今後の課題	・・・ 184
7.3.1	人的支援の学習場所として	
7.3.2	調査方法	
7.3.3	大学生の学習場所から地域の学習場所へ	
	関連発表論文	・・・ 186
	謝辞	・・・ 189
	付録	

第1章 研究の目的と方法

第1章 研究の目的と方法

1.1 研究の背景

高等教育における教育改革の変化と現状を把握し、どのような教育のあり方から学習環境の整備に至ったかを戦後以降からおおまかに整理する。また、研究の動機となる問題意識を整理する。

1.1.1 高等教育機関の変遷と現状

(1) 大学設置数と学生数の減少

日本では1970年初めから出生数が年々減少したことで、少子化社会を迎え、大学生の人数に大きな影響を及ぼした。図1-1をみると70年代生まれの子どもが大学へ進学する約20年後の1992年に180万人（高等学校卒業生数）をピークに減少に転じている。現在の予測でも、子どもの数が増える見込みはなく、緩やかに人口減少が進んでいる。

一方で、大学の設置数をみていくと2018年には782大学設置されており、微増している（図1-2）。社会的に大卒者を優遇する流れ、専門性のある学部再編、女子学生の獲得、学校法人の経営的な状況を加味して、大学が増えてきた。それにより、多くの学生に門徒が広がり大学進学率も上昇させてきたが、現状では3割以上の大学で定員割れを起こしている^{注1-1、文1-1}。

大学増加に伴い、私立大学では需要と供給のバランスが難しくなり、さらに学部再編による専門分野の幅が広がったことで、受験生ニーズの高度化、選択の多様化、地域差によって優秀な学生を獲得する動きが起きている。競争は受験生同士に留まらず、大学間で激しさを増しており、特に地方の小規模の私立

注1-1) 私立大学における2019年度の調査（配布数591校、回収数587校（回収率99%））によると入学定員充足率は102.67%となっている。100%未満の大学は194校で33%となっている。

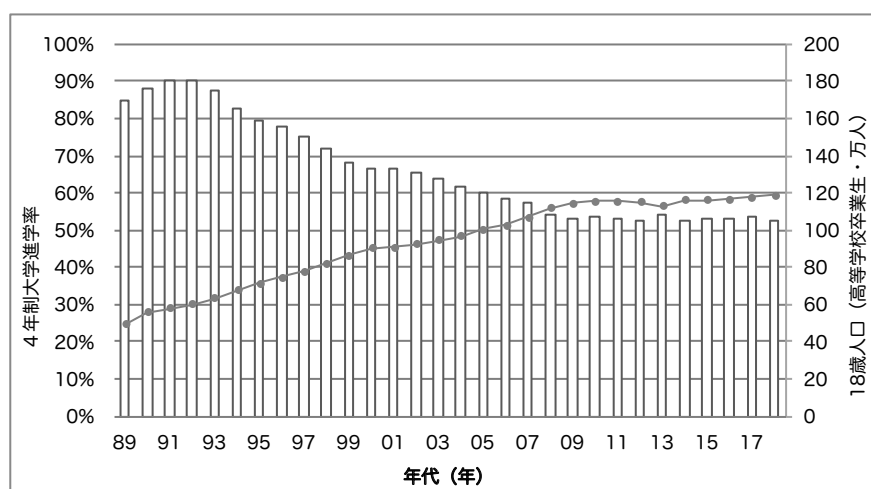


図1-1 18歳人口と大学の進学率

文1-2、3)の図表を基に作成

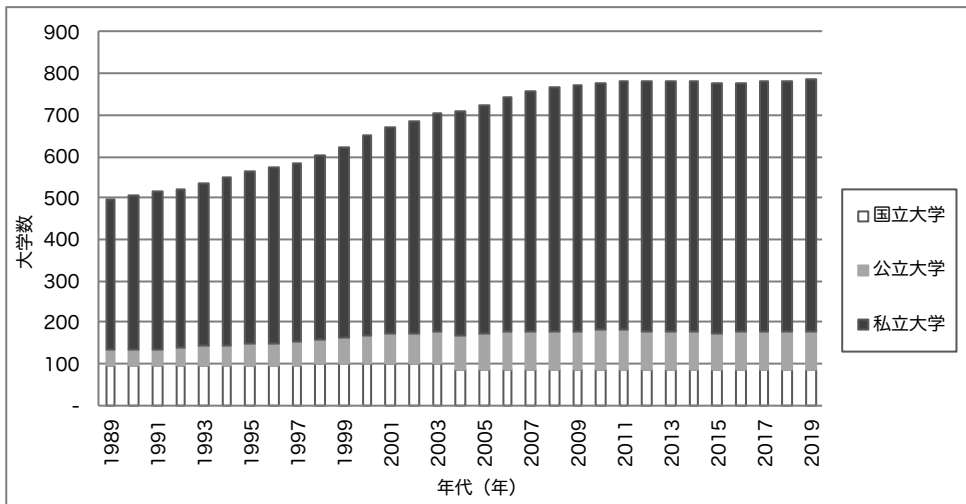


図 1-2 大学数の経年変化

文 1-2、3) の図表を基に作成

大学では、厳しい状況に置かれている^{注1-2)}。大学の運営は、教育、研究実績だけで生き残ることが厳しい環境になっており、社会状況とのバランスを計り、素早い対応と、長期的な視点で経営基盤を固める工夫が求められる。こうした環境下で日本の大学は、新しい知恵を出し合いながら「学生が求める環境とはなにか」を考え、学生にとって必要な施設なにかを議論する時間をじっくりつくる必要がある。

注 1-2) 2004 年時に日本の高等教育における公的財政支援は、対 GDP 比等でみると、先進国の中で低い位置にある。OECD (経済協力開発機構) 加盟国の 29 カ国中の平均は、1%に対して、0.5%しかない (28 位)。

(2) 学習時間確保による学士課程の特色性から共通性へ

日本の教育は、機会均等の理念を達成し、国民の教育水準を高めることで社会の発展に貢献してきた。しかし 21 世紀以降、大学教育については、国際的な競争環境下に置かれ、知的活動によって社会経済をリードするために、専攻名称の規制緩和、教養学部の解体、教育課程の改善、卒業後における出口管理を推し進めてきた。

この観点をさらに発展させ、大学全入時代に対応するよう最低ラインの学力を身につけ、グローバル化と産業界と大学の乖離の払拭等の課題をクリアにすることを目標にした「学士課程教育の構築に向けて (答申) (2008 年)」^{文 1-4)} が示された。本答申は、現在の高等教育の重要な指針であり、「何を教えるか」よりも「何ができるようになるか」に力点を置いている。そして教員の意向が優先されてきた授業形態から、教育の共通性を再確認させ、学生の視点に立って学習の系統性や順次性を作り出すことを目標にしている。すなわち、全国で一律に共通した認識のもとに立ち、学生の学習時間^{注 1-3)}の増加と、初年次教育の充実などを図ることを重要視している。また、知的活動、職業生活における汎用的能力 (コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考、問題解決能力) を培うことを明確化するようになった。

注 1-3) 1 単位当たりの授業時間数は、大学設置基準の規定によると講義や実習等の授業の方法に応じて 15 ~ 45 時間とされており、講義であれば最低でも 15 時間 / 1 単位の確保が必要とされる。なお定期試験の期間を含めてはならない。総務省の調査 (平成 18 年度) によると、学内外を通じた学習時間 (土日を含む一日平均) は、3 時間 30 分であり、国際的にみても日本の大学生の学習時間は短い (表 1-1)。

表 1-1 教育機関別の学習時間

	小学校	中学校	高等学校	短大・高専	大学・大学院
授業にあてる時間 (授業、予習・復習、塾)	4h 41min	5h 35min	5h 27min	4h 27min	3h 30min
授業にあてる時間 + 授業以外の、知識・教養を高めるための学修時間	5h 17min	6h 30min	6h 23min	4h 59min	4h 04min

総務省「社会生活基本調査 (2006)」文 1-5) の図表を基に作成

しかし、本答申では具体的にどういった場所や空間で学習活動を展開していくかまでの議論はされてはいない。

(3) 学士課程教育の質的転換と求められる学生像

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）（2012年）」^{文1-6)}では、個人から社会まであらゆる変化による将来予測の困難さ、さらなる国際化によるグローバル人材への育成が急務と考え、将来目指すべき社会像を描く構想力養うことを目標に掲げている。具体的には、学力の質的転換を掲げ、自ら問題を発見し、解決するための道筋を見定める能力である。これらは、「主体的な学び（アクティブ・ラーニング（以下：AL）」^{注1-4)}と呼ばれ、個々の学習だけではなく、教授方法から学生個々の学習スタイルに応じて、能力を伸ばす学びである。

この目標に至った背景として、再度、諸外国に比べ学修時間が短いという指摘が挙げられている^{注1-5)}。そのため、学修に対して時間をただ費やすのではなく、学修を行う習慣を身に付けさせることが必要であるとの認識で主体的な学びが展開されている。

(4) 学びの多様化と拡幅化

学びは、ICT化によって、場所や時間を問うことなく、様々な媒体を通して、どこでもできるようになった。さらには、自分自身が情報発信することも容易になったことで、情報の伝達・取得が身近になり、教え合う機会も増している。これにより、他者との交流を通して、学ぶ専門分野の幅も広がっている。その一つに、ある専門分野だけを学習するのではなく、主専攻と副専攻を持つメジャー・マイナー、主専攻を2つ持つダブルメジャーといった学び方も導入されようとしている。

また、リカレント教育の動きもある。リカレント教育は受講者や地域のニーズを的確に捉え、学びを深め続けられる仕組みづくりが要求されている。

このように大学は、次々と新しい学習方法、教育方法を模索しながら大学で学ぶことの意味を考えている。そして、それらの学びに対応するよう学習環境も変化しようとしている。

1.1.2 学習を支える学習環境の現状

(1) 学習活動を支援する大学図書館

文科省は、AL^{注1-6)}を支えるために大学図書館の充実を掲げた。大学図書館には、開館時間の延長、グループ学習の場所など、資料の保管管だけでなく、利用者目線の施設整備が求められるようになった。第2期教育振興基本計画^{文1-8)}でも、学生の主体的な学びのために大学図書館の活用が促されている。

また、「大学図書館の整備について（審議のまとめ）」^{文1-9)}では、大学図書館^{注1-7)}の在り方が大きく2つ示された。

一つは、学習支援・教育活動に関与することである。課題解決能力を養うには、自分で情報収集を行うことが重要であり、これまでの図書館での学びがカ

注1-4) 答申文1-6) p.9

『・・・従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見だしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。・・・』としている。

注1-5) 授業に関連して行われている学修時間をみると「0時間」の割合から、日本の学生の方が明らかに短いことがわかる（図1-3）。

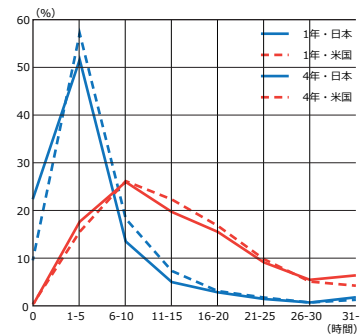


図1-3 日米の学習時間
答申 p.59 の谷村ら文1-7) より作成した。

注1-6) 主体的な学びとは、平成28年度の答申 (p.46) 文1-6) によると、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の活動を振り返って次につなげる。」という意味を持っている。さらには、前出の「自らで問題を発見し、それを解決するための道筋を見定める能力を養う力」としている。

注1-7) 大学図書館の基本的役割として審議のまとめによると、「大学図書館は、大学における学生の学習や大学が行う高等教育及び学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤の役割を有しており、大学の教育研究にとって不可欠な中核を成す総合的な機能を担う機関の一つである。」とされている。

ギを握るとされた。

もう一つは、ICTの発達によって電子情報資源へのアクセスを保証することである。印刷物も重要な学術情報であるが、データの活用、情報リテラシー能力の向上に関与し、従来のレファレンス業務の延長として、学習能力や情報収集能力向上のための人的支援の構築が求められた。

以上のことから、大学図書館の役割は図書資料の保存・管理業務から、利用者のための学習環境に変化し、主体的な学びを支えようとしている。

(2) ラーニングコモンズの導入

上記のあり方を受けて、大学図書館は、主体的な学びを担う一貫として、「ラーニングコモンズ(以下:LC)」^{注1-8)}を開架閲覧室に付設する形で導入した。LCは、米国が発祥で、2000年代に入り日本にも導入されるようになってきた。

文科省によるとLCは、
『複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。』
文¹⁻⁹⁾とされている。

また、国立大学図書館協会の委員会^{注1-9)}によると、
『授業時間以外に学生が行う自学自習や共同学習などの様々な学習形態に対応するために、大学図書館が提供する学習環境(施設、設備及び情報、コンテンツ)と、学生の主体的な学びを促す仕組み(人的支援)の総体を指す。』
文¹⁻¹⁰⁾とされている。

つまり、LCは、学生の主体的な学習を促すために、開架閲覧室では補えない機能を持ち、会話ができ、デジタル資料があり、人的支援を提供した学習環境を持つ場所である。なお学習支援については、従来のレファレンス支援だけでなく、学習相談やレポートの書き方等がある。

またLC導入当初は、米国に習って図書資料と司書との親和性を重視して、図書館内に整備してきた。しかし、2010年代に入り、LCは利用のしやすさを意識して図書館以外に設置される事例^{注1-10)}も増えてきた。これは、審議のまとめ^{文1-10)}において、「利用者の利便性を優先して部局等に展開することも想定される」とし、設置位置の多様化が進んだ。しかし、いずれの設置位置でも、学生への主体的な学びを行う姿勢に変わりはない。

(3) ラーニングコモンズの設置推移とサービス内容

文科省の学術基盤実態調査^{文1-11)}によると、LCを含むアクティブラーニングスペース^{注1-11)}の設置数は、2009年から10年の間で約6倍に増加し、年々増加している。その内、私立大学は600大学以上ある中、約400大学で導入して

注1-8) LCの定義や具体的な導入の経つては、2章にて再度詳しく述べる。

注1-9) 本委員会の提言は、国立大学の図書館員によって作成されているが、事例紹介などは私立大学も記載されている。また、国公立大学にかかわらず、多くの大学で本提言を参考にしているため、LCの概要として掲載する。

注1-10) 図書館外に設置される事例は、2章で詳しく述べる。

注1-11) LCは各大学、様々な名称で導入されている。そのため、文科省も実態把握にてLCと呼称せず、アクティブラーニングスペースとして、集計している。また文1-20においてもLC整備について本データを用いて解説している。そのため、本論文でも、LCの整備状況として示す。

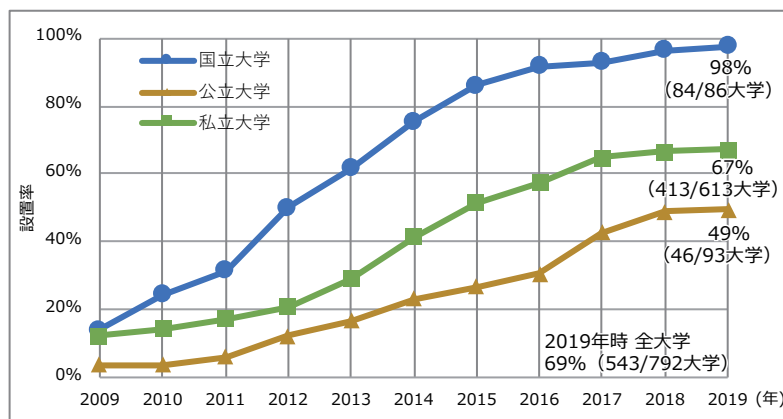


図 1-4 アクティブラーニングスペースの設置推移
学術基盤実態調査文 1-12) を基に筆者が作成

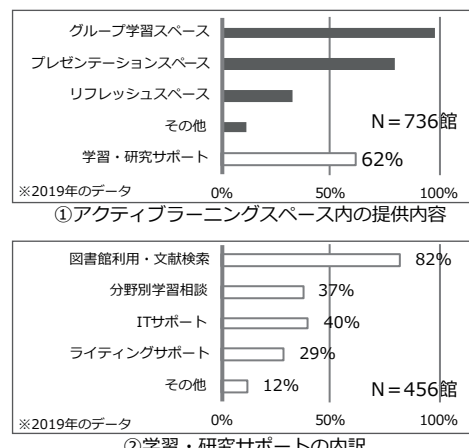


図 1-5 アクティブラーニングスペース
におけるハードとソフトのサービス内容
学術基盤実態調査文 1-12) を基に筆者が作成

おり、一般化してきたと考えられる (図 1-4)。

また、アクティブラーニングスペース内でのサービス内容を図 1-5 にみる。ここでは、図書館数を母数にしている。多くの大学でグループ学習スペースやプレゼンテーションスペースが設置され、会話ができる場所として整備されている。学習・研究サポートは、62%の図書館で実施され、うち、分野別学習相談、IT サポート (電子機器の利用・操作方法) は 4 割程度である。

1.1.3 学生の学習活動の現状と課題

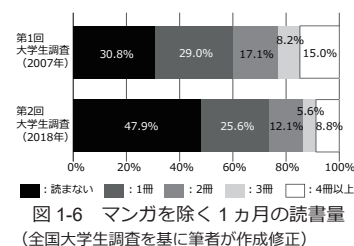
(1) 図書利用の活用

読書離れが進んでいるという報道^{文 1-13)} は多くで目にする。全国大学生調査^{文 1-14)} によると、一か月に本を利用しない人は、10 年間で、3 割から 5 割に増加している (図 1-6)。竹内^{文 1-15)} によると、1960 年代は販売書籍総数の 3 分の 1 が大学生 (当時、人口の約 2% が大学生) であったと報告し、現在の読書利用の低さ分かる。この要因として、読書習慣がないまま大学生になっていることが影響している。また、スマートフォン利用も影響の一つに挙げられ、利用時間及び通信費用の出費によって、読書利用を妨げている。

読書による学びは、知識・思考に深みと広がりを与え、主体性や成長にかかわる。また図書資料から得られる情報は、インターネット情報とは異なり、信憑性や正確性に長ける。学術の世界においても、図書資料から情報を取得することは、基本であると同時に今後も変わることはない。学術や研究等の分野の成長や、主体的な学びには、より一層の図書利用を通じた学びが必要である。

(2) アナログとデジタル資料のハイブリット利用

昨今の情報化によって、大量のデータが私たちを取り巻いている。2020 年度から始まった小中学校の新学習指導要領^{文 1-16)} では、言語能力と同様に、情



報活用能力も学習の基盤として位置づけられた。さらに大学では、より高度な情報収集技術を正しく、上手に活用できる能力を養い、社会で生かすことが求められている。

そこで、PC等の電子情報（デジタル）を用いた学びに限らず、図書資料（アナログ）を含めたハイブリッドな利用で学習や情報収集が求められる。学問は、過去の知の蓄積をもとにして新しい知を追加する営みである。長年かけて蓄積してきた膨大な知の価値を十分に活かすことは、アナログに限らずデジタル情報も併用することが重要である。また大学の講義においてもノートPCの必携とする事例が増えていることから、徹底した情報活用能力が問われる。

(3) 主体的な学びの方法

これまでの大学生の学び方の主流は、個人で黙々と授業を聞く一方向的な形式で学び、授業以外は、個々で予習・復習を行っていた。

一方、ALは、学生参加型によるグループ学習を中心として授業が組み立てられている。しかし、ALに対して研究、実践経験を多く持つ溝上氏^{文1-17}によると、グループ学習だけを行うのではなく、これまでの授業形式での学びを折り返合わせて行うことが効果的であるとしている。

つまり、グループ学習だけが主体的な学びを指すのではなく、個人（自分自身）で考え、問題を解決する時間（予習・復習）も必要であることを示している。

またグループ学習は、個人の学習成果を集約することでもある。グループ学習だけに着目するのではなく、個人学習の必要性も示されなければならない。

1.1.4 自学自習に対応した学習場所としての開架閲覧室とラーニングコモンズ

これらより主体的な学びは、自らで問題を考え、学ぶことが重要であることが分かる。そのためには、教職員から学習支援を受けることや、授業内でグループ学習をする前に、まずは自主的に図書や電子情報を用いて情報収集を行い、思考を整理する時間を設けなくてはならないと考える。またグループでの学習だけでなく、従来のように個人で専門書等を用いたり、記述して考えを整理することも学習において重要な要素である。

そこで、個人やグループの利用者が自主的に学習したい場所、できる場所を充実させることが優先され、求められるべきである。

LCは先で触れたように、開架閲覧室では補えない学習環境を提供する学習場所である。その中でも物理的な側面を持つ「会話ができる学習場所」に着目することで、利用者が求める学習したい場所整備に向けた議論ができると考えている。

また、開架閲覧室も資料を扱う場所として主体的な学びを支え、保存管理だけではなく、学習場所として検討する必要がある。

以上のことから、自学自習の学習場所として学習に対して同じ目的を持ち、

機能の補完関係にある開架閲覧室と LC を同時に扱い利用者中心の学習場所として整備が必要になってくる。

1.1.5 開架閲覧室と LC における学習場所としての問題

(1) 教職員主体で整備される学習場所

大学で整備が進められている学習場所は、教職員間で立ち上げた運営委員会の中で検討し、多くがそのまま設計事務所等に発注される^{注1-12)}。特に LC では、教育目標の達成に向けて、大学の経営層や教育担当部署などの学内合意形成が重要であるとしている^{文1-11)}。また、明確な整備の指針はなく、先進事例を基に手探りで整備されている。

しかし、利用者は学生であるため、教職員間だけでの議論だけではなく、学生の利用が浮かび上がるような計画がされるべきと考える。

(2) 学習場所に対して低下する評価

学生がキャンパス内の施設や大学の学習・教育について、どのように捉えているのかを報告したものがいくつかみられる。

ベネッセ教育総合研究所が4年毎に実施している学生アンケートの結果^{文1-18)} (図1-7)によると、「施設・設備(図書館、ラーニングコモンズ、インターネットの利用など)」の項目に対する満足度は、「とても満足している」が2018年には15%程度に留まり年々低下している。

日本学生支援機構が2年毎に実施している調査^{文1-19)} (図1-8)では、「図書館・自習室などの学習支援施設など」について7割が満足している。しかし、前回調査に比べて横ばいで、LCが増加していても、満足度は高まっていない。松本^{文1-20)}によると『大学教育をサービスとしてとらえ消費者的目線から評価する学生が増えている・・・』と述べ、学生一人ひとりのニーズが高まってきているとの見方もある。

このように学生の満足度は年々低下しているため、それに応える学習場所の検討が必要である。利用者の実態が反映されることで、利用促進に寄与できると考える。

(3) 人的学習支援への重視

LCは、図書館員等による人的支援や情報資源の豊富さ強く主張し^{文1-21)}、人的支援や活動といった目には見えないサービスに力点を置いている。

しかし、いくら支援や情報資源が充実し、授業によって強制的な利用ができたとしても、居心地のよい場所が形成されていなければ、利用者は集まらないし、学習機会の促進も見込めないと考える。裏を返せば、居心地が良ければ、人的支援や情報資源を求めて利用するきっかけにもなると考えられる。

注1-12) イギリスの University College London や University of Manchester 等では学生らが計画段階の検討会議に参画している。日本でも2017年に竣工した京都女子大学図書館では、コンペ後であるが、学生と建設会社と一緒に、空間のアイデアを出し、実現させている。

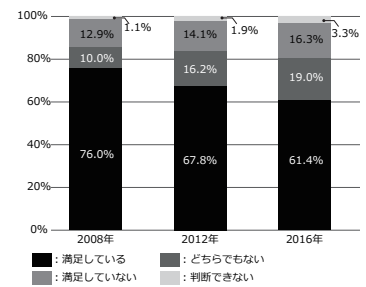


図1-7 施設・設備の満足度(図書館・ラーニングコモンズ等) 大学生の学習・生活実態調査報告書・文1-18)を基に筆者が作成

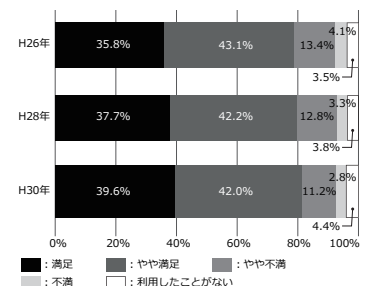


図1-8 図書館・自習室などの学習支援施設の満足度(学部生) 学生生活調査・文1-19)を基に筆者が作成

そのためにも、自主的に利用できる場所整備の重要性が示されるべきである。

(4) 開架閲覧室と LC の分断

発注者のニーズが捉えやすいとされる家具メーカーの製品カタログを参照^文^{1-22~24)}すると、各メーカーでオリジナルの考え方が数多く示されている。いずれも様々な学習活動に対応するために「多様な空間構成」をコンセプトに、「発表できる場」、「人と情報のつながり場」、「見える・見せる場」がつけられるよう検討されている。これらは、いずれもグループ利用者に焦点を当てており、ディスカッションやプレゼンテーション等の会話を交えた学習を複数想定している。一方で、開架閲覧室も学習場所として中核的な位置づけがされているにもかかわらず、新たな家具に対しての提案はほとんどみられず、個人的な学習活動に対しての検討はあまり考慮されていない。

1.2 研究の目的

研究の背景より、学生の学習意欲の低下が、新たな学習方法や施設計画に繋がっていることを整理した。そして、それらを計画する際、いくつかの問題点も見受けられ、実際に利用する学生の活動実態が反映されず、明確な整備指針がないことを整理した。

主体的な学びを行うためには、自主的に学習したい、できる場所が構築されることが基本条件であると考えた。そこで本研究は、その学習場所を大学の中核的施設である開架閲覧室と LC に整備するために研究を進めるものである。

学生の利用実態を通して、開架閲覧室と LC の学習利用者が、どのような理由でどの場所を選択しているかを構造的に解明して、学習場所としての建築計画の知見を得ることを目的とする。

1.3 研究の方法

本研究は、開架閲覧室と LC の利用実態を把握して施設整備の知見を抽出することを目的としている。

まず、開架閲覧室と LC の現状課題の把握するために、大学図書館の職員にアンケート調査を実施した。次に学生の利用実態を把握するために、利用者へのアンケート調査と館内選択場所を捉えた巡回プロット調査を実施した。

現状課題の把握は、学生数が多い大学から少ない大学まで幅広い施設規模をカバーした東北北陸甲信越地方の大学図書館を対象にした。学生の利用実態把

握における調査対象は、様々な施設形態、多くの利用者を捉えることを念頭に置いた。そのため、私立大学^{注1-13)}においてLCの設置形態が異なり、中央図書館をキャンパスに持つこと、複数の学部及び学部生から大学院生まで在籍している大学を8つ選定した。以下に研究の方法を概観する(図1-9)。

注1-13) 国立大学では、文科省によって限られた予算で施設整備の大枠(国立大学等施設整備指針)が定められ、安全性・メンテナンス性を重視し、制限が多い中で学習場所を整備する傾向にある。そのため、図書館の耐震改修工事のついでにLCを整備する事例が多くある。一方、私立大学は、学長を中心に比較的自由的な発想で学習場所が整備され新築する大学も多く、整備のコンセプトが明確である。そのため、整備の知見を得るには、私立大学での利用実態の把握が適当と考える。

第1章：研究の背景、目的、方法、調査方法を概観する

大学における教育改革の変化と現状、大学生が抱える問題点、開架閲覧室とLCに対する問題意識を整理し、なぜ利用実態から研究を進めるかを述べる。2章以降で分析に用いる調査の方法、対象館の概要を示す。

第2章：大学図書館の開架閲覧室とLCの整備状況を把握する

開架閲覧室とLCの整備の変遷と近年の整備の実態から、各大学の整備方針の共通性と課題点を明らかにした。

第3章：開架閲覧室とLCにおける利用の全体像と学習利用者の分布場所及び学習媒体別に来訪理由を明らかにする

全ての調査対象における学生の全利用者の属性、目的、行為を整理し、全体像の把握と学習利用者を抽出した。そして、学習利用者の開架閲覧室とLCにおける分布状況を大まかに捉えた。

また、主体的な学びは、情報収集の仕方が重要と考え、学習で用いる図書やPC等の学習媒体の違いから学習利用者を分類し、それぞれの属性、来訪理由を明らかにした。

第4章：学習利用者の個人とグループ別に来訪理由と滞在場所を明らかにする

学習活動において、利用人数の違いで学習媒体や来訪理由、滞在場所が異なると考え、学習利用者を個人、2人組、多人数(3人以上)に分類して利用状況を明らかにした。

第5章：学習活動別に選択理由と座席の開放度と場所の会話率から座席選択を明らかにする

座席選択の要因を周辺環境の影響と考え、座席の選択理由及び座席の開放度と場所の会話率の違いから座席選択を分析した。また、座席の開放度と場所の会話率が座席選択行動にどのような影響を与えるかは、学習利用者の利用人数と学習媒体で異なると考え、利用人数と学習媒体のの組合せで区分される8つの学習活動を設定し、選択場所を明らかにした。

第6章：LCの設置形態の違いから使い分け行動を明らかにする

5章までは利用者一人に対して、一つの座席の選択行動を捉えてきた。ここでは、利用者が状況に応じて複数の場所を選択する使い分け行動に着目し、LCの設置形態の違う4大学から、使い分け利用者の割合、利用人数、使い分け理由と座席選択から明らかにした。

第7章：結論

研究のまとめを行った。

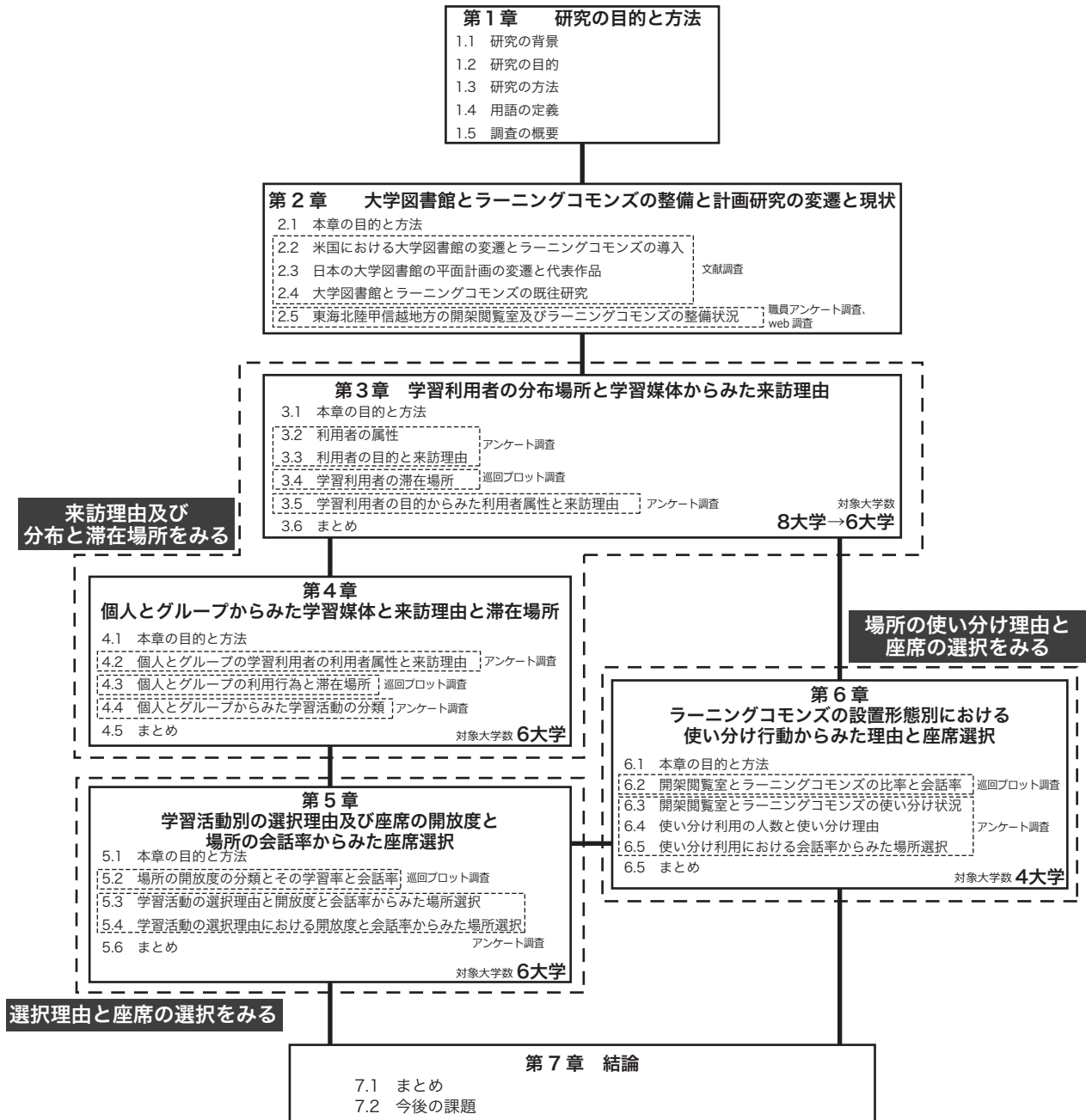


図 1-9 研究の流れ

1.4 用語の定義

1.4.1 ラーニングコモンズ (LC)

先に述べたように LC は、開架閲覧室では補えない機能を持ち、会話を伴う学習ができ、デジタル資料があり、人的支援が受けられるの3つのサービスで構成された学生の主体的な学びを促す学習環境を提供する場所である。学習支援には、従来のレファレンス支援だけでなく、専門分野に特化した学習相談やレポートの書き方等がある。

これらは、図書館情報学用語辞典^{文1-25)}をみても同様の記載がある^{注1-14)}。

LC は、多くの文献でソフトやハードの機能を包含して位置付けているが、本研究では LC の「会話ができる」に着目し、学習場所として捉えていく。

一方、LC を述べる上で3つのキーワードは切り離せないものであるため、対象館の選定においては、大学の教育方針や主体的な学びのために導入することを前提とした LC を対象にしている。以下は、全ての調査対象で行われている。

- ① 共同学習が可能で会話ができる場所がある。
- ② インターネット情報や図書館が提供する資料が手に取れる。
- ③ 人的支援の実施が図書館内、もしくは LC エリア内にある。

注1-14) 図書館情報学用語辞典より
学生の学習支援を意図して大学図書館に設けられた場所や施設。具体的には、情報通信環境が整い、自習やグループ学習用の家具や設備が用意され、相談係がいる開放的な学習空間。飲食コーナーが付設されたり、図書館外に設置される例もある。1990年代に米国で増加し、日本では2000年代後半に導入が始まった。運営については、図書館資料やデータベースの利用と図書館員の常駐は必須とする考え方から、学生が快適に学習する環境があれば良いとする考え方で多様である。「インフォメーションコモンズ」、「ラーニングセンター」など名称も一定ではない。図書館という物理的な空間が持つ力を評価する「場としての図書館」の議論が高まる中で、大学図書館を中心にラーニングコモンズにかかわる多様な試みがみられる。

1.4.2 開架閲覧室

用語辞典^{文1-25)}によると、「利用者が館内閲覧をするための部屋」としている。その他、「大学図書館では、・・・の学習、研究のために独立した閲覧室を設ける・・・」と明記されており、学習場所としての機能を有する。本研究では、書架と閲覧席が一体となった学習場所とする。

1.4.3 学習と学修の違いと扱い方

文科省の答申(2012)^{文1-6)}によって、大学での学びの名称を「学修」とするよう統一された。これは、大学設置基準上、講義、演習、実験、実習、実技等の授業時間とともに、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間を内在した「単位制」により形成されているため“修める”とされている。

しかし本研究では、講義や授業準備といった学習の実態を捉えているが、開架閲覧室及び LC 内での行為は、それらの学びだけではない。演習、実験、実習など、講義とは直接的にかかわりのない学びもある。一般的な『学習』は、広辞苑^{文1-26)}によると《①まなび・ならうこと、②経験によって新しい知識・技能・態度・行動傾向・認知様式などを習得すること、およびその活動》としている。そのため態度や活動まで幅広い学びを捉えていくことから、『学習』の言葉を用いて研究を進めていく。

1.4.4 学習媒体

学習で利用する図書資料、ノート PC、デスクトップ PC、持込の資料を指す。

1.4.5 座席の開放度

開架閲覧室と LC 内にある机・椅子（座席）について、机の仕切りの有無及び、壁際や書架際といった配置状況から、座席の開き具合を閉・中・開の3つに分類したもの。なお、個人学習室やグループ学習室、デスクトップ PC がある席は含まれていない。

1.4.6 場所の会話率

場所周辺部での会話行為による周辺の音の状況をみたもの。会話率は、低・中・高の3つに分類している。なお、利用者が少なくても会話が多いと会話率は高くなる。計算式は以下である。

会話率 = (会話利用者 / 全利用者) * 100

1.4.7 使い分け利用

使い分け利用は、開架閲覧室と LC（場合によっては、開架閲覧室内、LC 内）の両方を利用しているかを指している。

『使い分け』は、広辞苑^{文1-26)}によると《同じものをいろいろに分けて使うこと。それぞれを適所に使うこと。》とし、同一の学習に対して、複数の学習場所以を利用することを意味しているが、本調査では使い分け利用時の活動は把握できていない。

しかし、使い分け利用の理由も聞き出していたため、選択理由が同一であるかどうかの判断が可能であり、『使い分け』の名称をとって実態の把握を試みる。

1.5 既往研究と研究の位置づけ

図書館の中でも、大学図書館の研究は、公共図書館に比して歴史は浅い。公共図書館は、1950年代ごろ^{注1-15)}より東京大学吉武研究室が先導して研究が進められ、配架方式の違いによる出納システムの分類や、都心部における利用圏域など、現在の計画に多くの知見を与える成果を蓄積してきた。

一方、大学図書館の研究は、1960年前半から、先進的である米国の事例を踏まえ、柘植によって研究が進められた。そして60年代後半に利用実態を捉えて研究が進められるようになった。本節では、利用実態を捉えることになる1960年後半から現在までの大学図書館とLCの研究を先歴史的流れを踏まえて整理し、研究の位置づけを行う。

注1-15) 1950年代以前に全く研究がされていないわけではない。栗原・植松によると、図書館施設についての研究はいくつかみられるが、書架の新考案といったごく部分的かつ思いつきのものにとどまっていると指摘している。

1.5.1 出納システムと来館ピーク時把握の研究（1960～70年）

1960～70年以降、大学図書館が学生に開かれた学習場所として成立し、全面開架方式を採用する図書館が現れるようになる。その頃から利用実態が行われるようになってきた。

自大学の図書館を調査した足立らや、首都圏の大学を対象とした佐藤らが挙げられる。

足立、舟橋ら^{文1-27,28)}は、学生の利用実態を通して、入退館時刻が講義時間に伴って変動し、さらに学部の性格の違いも利用時間に影響を与えていることを整理した。さらに閲覧をしない自習利用者が半数以上を占めることを明らかにした。

佐藤ら^{文1-29,30)}は、首都圏の大学で来館者全員を対象とし、出納システム別の図書館利用実態調査を通して、利用目的、滞在時間等の来館状況を把握している。それにより、利用目的に応じて滞在時間は異なり、不閲覧者（閲覧席のみの利用）が来館者の30%以上を占めていることを報告している。

1.5.2 大学図書館の規模計画の研究（1970～1990年）

大学図書館の施設計画指針の一つである大学図書館施設計画要項（S.41）には、適切な規模計画の基本となる蔵書数に関する基準には全く触れられていない。そこで1970年代後半より栗原・富江らは、図書館の規模決定は、図書資料の利用と管理収集の実態を考慮するべきとして研究を進めた。

主には、学問分野別に生産されている資料の量^{文1-31)}、一つの学術論文を完成させるまでの図書資料の種類と量^{文1-32)}、論文の参考文献等に記載される年代からみた資料の寿命の長さ^{文1-33)}、教員の雑誌利用の実態^{文1-34)}を整理し、規模計画の主要な要素である資料配架の必要面積の算定の骨組みを捉えている。次いで、中央館と分館と部局別に分け、資料の集中制、分散制の観点から蔵書冊数を把握し、国立大学の規模がいずれの館種でも大きいことを整理した。ま

た、平米あたりの蔵書冊数や、学部図書館の図書資料の受入状況を明らかにした^{文2-35-37}。

さらに、栗原らは、首都圏の全面開架式を採用した4大学（筑波大中央・筑波大医学・ICU・東京工業大）を対象にアンケート調査によって、利用者による閲覧席の利用実態の把握を行い、佐藤らの研究から約10年ぶりに利用者の実態を詳細に把握した研究がされた^{文1-38,39}。そこでは主に6つの点が明らかになっている。①ピーク日（試験期）は、平均入館者数の1.5～2.7倍になる。②利用者の滞在時間は、6割以上が1時間未満の利用である。③学部生、学習利用、不読者（席のみ利用）が多いことで学習図書館としての位置づけを示している。④1回の来館でのスペース利用は1か所強、⑤図書閲覧利用が中心で貸出、複写、新聞のセットでの利用も多い。⑥着座率（座席の埋まり具合）は平均で13%～20%程度で、ピーク時でも3割である。館内での利用行動はサービス内容によって左右され、学問領域に対応した図書資料の利用のし易さが必要になることを述べている。

以上の一連の研究を体系的にまとめ、冨江の学位論文^{文1-40}によって、図書館システムの確立から配置・規模計画等の具体的な計画手法を提案している。そしてここに一端の大学図書館館計画が確立した。現在も多くの大学で、規模計画の算定基準として活用されている。

その他、加藤ら^{文1-41,42}は、延床面積の増大に伴い、館内のわかりやすさを決定する要因を空間構成の観点から整理している。

利用者の実態

規模計画の後、冨江らは筑波大の3館を対象に、調査を通常期と試験期に分け、ピーク時を考慮した大学図書館の座席算定の指標を示している。目安として、最低座席数（筑波の場合822席）＝〔試験期の最多入館者数〕×〔一日のピーク時刻の来館者比〕を求めた^{注1-16}。また、9割近い利用者が着座していることを整理し、それが本や資料に囲まれた雰囲気求めて来館していることを指摘している^{文1-43,44}。

注1-16) 在籍学生数の7%の座席数に相当する。なお、建築学体系文1-101)によると、大学図書館の座席数は、収容定員の10%以上の座席数が設けられることが望ましいとされていたが、平成15年の大学設置基準の改正により廃止されている。

1.5.3 情報化時代における研究（1990～2010年）

日本建築学会で発行する各種論文を参照すると、大学図書館をキーワードにしたものは、1990年頃から10年間において研究成果が非常に少ない。一方、メディアセンターという呼称も散見され、2000年代以降は、情報化が進み、情報端末機器を分析条件に加えた研究がされるようになる。

山口・谷口ら^{文1-45-48}は、大学図書館とキャンパス内のメディア関連施設を調査対象とし、大学図書館の電子化が進んでいることを整理した。しかし大学図書館と情報関連施設間では、施設の一体化がされていないことを指摘し、情報機器の付加は大学図書館利用者への利用環境の悪化であると述べている。

山崎・和田ら^{文1-49}は、大学図書館実態調査より、館内の床面積や蔵書冊数

を整理し、図書館内のスペース不足を懸念し、情報スペースの検討が必要であると述べている。

利用者の実態

先進的な図書館であった SFC のメディアセンターを対象に渡邊^{文1-50,51)} が、行動調査やアンケート調査を行った研究があり、情報機器の使い方とその活動内容、場所を捉え5つのタイプと、活動行為を明らかにしている。そして、他者とのコミュニケーションを主体にした環境計画が必要であると述べている。

さらに利用の経年変化と無線 LAN 環境等の普及による変化を捉えるために2004年に再調査を行い^{文1-52)}、長時間の作業場の提供から、特殊な情報機器やここにしかない場が必要になってきていると指摘している。

山下・真境名^{文1-53)} は、個人の利用だけの図書館でないことを指摘し、複数人での利用に着目した。複数人利用は、学習の行為が多くなることを整理し、静と騒のゾーン分けについて述べられている。

情報機器利用が増えたことで、個人の利用だけでなく、大学図書館内にコミュニケーションやグループ利用について問われるようになってきた。2000年初頭には、個人とグループに着目した研究がされている。LC が台頭する以前の実態調査として、立石や中井らの研究がある。

立石^{文1-54)} は、横浜国大で行動観察調査を行い、利用者を4つに類型（①個人で集中して学習する利用者、②PCを使って学習する利用者、③グループで相談や雑談をしながら学習する利用者、④グループで静かに学習する利用者）している。

中井・蔣^{文1-55-60)} は、LC 以外の空間で特徴的な学習環境を導入している図書館を終日調査している。館内での滞在時間、利用行動、利用目的等を整理し、個人利用・グループ利用で館内の場の選択行動が異なることが明らかにし、デジタル資料とアナログ資料の使い分けについても述べている。また公共図書館と違い、着座への意識が8割以上と高いことを述べている。

両者ともにスペースとしての利用があることを報告し、そうした利用を評価し、図書利用だけにかかわらない場所の整備が必要であると述べている。

1.5.4 ラーニングコモンズ導入後の研究（2010～）

LC が整備され始めた2010年頃以降は、LC を対象にした研究が多く散見される。様々な視点で研究が進められている。

(1) 事例紹介

日本で LC が導入されはじめた頃、加藤ら^{文1-61-67)} は、PBL 教育の重要性を指摘し、米国の LC の見学から整備の状況を把握した。当時の米国の状況からは、グループ学習の視点から配置されている什器や空間が利用者に与える影響を述べている。その後、三重大で講義室を LC としてのグループ学習室の計画・

改修を行い、学生の利用状況に基づいての計画の必要性を報告している。また、人的支援を重視すること、PC等の機器整備を検討することを述べている。

また、加藤・藤田^{文1-68)}は、三重大の2つのLC(図書館内と別棟)での目的の相違から、使い分けて利用していることを述べている。また、職員と学生の利用実態が乖離していることを明らかにした。

(2) LCの設置形態と平面構成

山岡・渡辺ら^{文1-69)}は、首都圏の大学におけるLCの配置位置を分類している。その他TA・SAの人員を確保することにより、図書館スタッフの負担軽減につながることを整理している。重田・赤川^{文1-70)}は、約180大学の図書館職員によるアンケート調査を行い、LCの設置経緯等の学習環境整備状況を整理している。阿部・夏目^{文1-71)}は、全国の国公立大学を対象に、LCの整備状況を把握し、設置位置の分類と、雑誌や新聞コーナーがLCに転換する傾向を整理している。有光・田中^{文1-72)}は、九州地方の大学でLCの有無などを調査し、LCにおける静と動の空間のつなぎ方や館内での位置関係を考察し、LCと他のエリアの両方を利用した相互利用を捉えている。石塚、柳澤^{文1-73)}は、職員へのヒアリング調査を行い、LCの設置形態を「図書館併設型」と「独立型」の2つに分類し、メリットとデメリットを整理し、図書館併設型は、音環境の選択、個人利用しやすく、独立型は会話がしやすいことを述べている。

中原・宮本^{文1-74)}は、閲覧室と開架書架の位置から、LCの配置構成を調べ、矩形や細長の形状において、多様な配置構成があることを報告している。

(3) 個人とグループ利用

石塚・興安・柳澤^{文1-75)}は、2012年に増改築を行った千葉大で、試験期と休暇期に調査を行い、試験期には個人席でもグループで利用するなど混雑することを報告し、座席の多さは混雑を引き起こすと指摘している。浅間・込山^{文1-76)}は、秋田県立大の図書館外にあるLCを対象とし、選択肢を広げる必要があることを述べている。川角、高木^{文1-77)}は、和歌山大でアンケート調査とグラウンデッド・セオリー・アプローチによって、LC用の机に個人利用が着座していることを述べている。

堀江・田上^{文1-78)}は、アジアの先進事例と国内の事例から、LC利用において、個人学習の行為が頻繁であることを報告している。またオープンな空間ほど、個人から共同まで多様な使い方がされていることを捉えている。

阿部・横山ら^{文1-79)}は8施設のLCを対象に、121種類の活動パターンを整理している。個人用机や、多人数用の机は2人までの利用に留まることを捉え、多様性を高めるために家具の種類やその家具が機能させる必要を述べている。

(4) 音の問題

米国でLCの成果が得られてきた頃、Bennet^{文1-80)}は利用者にアンケート調査を実施し、学習場所に対して「感覚遮断室にいるように感じないで、済むよ

うに十分な雑音と活動があつて……気を散らすものがない。」といった選択理由を捉え、多少の雑音空間を利用者が求めていると報告している。

奥安・柳澤ら^{文1-81,82)}は、図書館やメディアセンターの使われ方、設計者・運営者への聴き取りを通して、音の運営・管理の問題について言及している。キャンパス内にあるAL型教室、LC、コミュニケーションスペースを対象に、授業の観察などを行い、秩序や境界が曖昧な学習場所は多様さを生むことができるとし、階層的に静かから活動的な空間がある事例を報告している。

伊藤・夏目^{文1-83,84)}は、様々な設置形態のLCでアンケート調査と職員へのヒアリングを行い、静と動の区分けを重視している意見を捉えている。杉浦・夏目^{文1-85)}は、職員が学生の自由な場としての活用を尊重し、会話量や収容量を意識していることを述べている。

(5) 学習ツールの利用

LC内では、PC利用が推奨されている場合が多い。そのため、それらの学習ツールをどのように利用しているかを論じたものが複数みられる。川角・小倉・高木ら^{文1-86)}は、LCを有する図書館内において、個人席が最も居心地の良い場所であることを整理している。また、図書館を改修後についても調査し、学習ツールで求めている場所と居心地の良い場所は相違であることを述べている。

大山・田中・中井^{文1-87,88)}は、館内での利用行為と滞在場所からPCのある席は、利用者数が増加することを報告している。

栗山・横田ら^{文1-89,90)}は、LC利用者がPCを求めて利用していること明らかにし、情報端末などの設置台数の検討が必要であることを述べている。

(6) 学習活動からみた学習者の分類

LC等の学習場所が与える心理状況を整理したものや、学習活動からみた利用者の影響を報告したものもみられる。

徐・西出^{文1-91)}は、学習スペースにおける心理評価を学習効率から分析し、騒音や他の利用者の視線が少ない壁型席で学習効率が高いこと示した。しかし、学習効率と心理評価が必ずしも一致するわけではないことを明らかにしている。大山・中井^{文1-92)}は、9館の大学図書館から、学習スタイルをいくつか分け、図書利用と勉強利用の二つの図書館像に分類されること述べている。そして、利用者はソフトからハードにかけて図書館サービスに応じた利用行動をとっていることを明らかにしている。谷川・仲ら^{文1-93)}は、利用者のヒアリングから、学習行動と周辺環境が関係していることを述べている。

(7) キャンパス内の学習環境として

図書館の内外に限らず、様々な学習環境が大学キャンパス内に整備されている。LCが大学の教育目標を達成する機関として位置づけ、キャンパス内の学習環境として研究したものもみられている。

長井・松本・仲^{文1-94)}は、サードプレイスに着目し、学習空間の選択特性に

ついて整理している。1人当たり2.6個の学習空間を選択していることが明らかとなり、学習効率の重視とモチベーションの重視に分けられ、学習形態によって変えていることが述べられている。

河合・武田・及川^{文1-95)}は、立命館大学の「キャンパス全体をラーニング・プレイスに」というコンセプトのもと学習活動の展開状況を把握している。LCは、他のオープンスペースより、利用人数が多く、人数に応じて場を選択していることと述べている。

(8) その他

利用者の動線変化を計測・予測するSS（スペースシンタックス）理論を用いた分析もみられた。川角^{文1-96)}は、図書館改修前後の空間の評価から、CGモデリングによって評価の有効性を確認している。大村・松林・渡辺^{文1-97)}は、筑波大で、館内のそれぞれの空間がどれだけ繋がりを持っているかを測定し、LCが中心的な位置にあること明らかにしている。

また、鈴木、夏目^{文1-98)}は、LCの学習支援に着目し職員へヒアリングから、学習支援や機器使用の質問が職員の負担になっていることを報告している。

1.5.5 本研究の特色

以上、開架閲覧室とLCの既往研究の流れを読み取った。1990年頃までは、図書資料の利用・管理に着目して研究がされ、図書利用に限定して利用実態を捉え、計画論へと展開していた。

1990年代後半からは、情報化や共同的な学習の推奨などによって、開架閲覧室での個人やグループといった利用人数の実態やPCの利用実態の報告されている。しかし、2010年代になるとLCの研究が主流になる。

LCの研究の視点は、①座席の利用状況、②使用機器の状況、③利用者が発生する音、④キャンパス内の他の学習空間との関係、⑤LCの設置形態に分けられる。また、近年は、④でみられるように、学習場所単体の研究だけでなく、キャンパス全体で捉えようとしているものもある。

しかし、LCの研究の多くは、執筆者の所属する大学の事例や、利用者が多い時間帯を捉えた実態調査であり、断片的な把握に留まっている。また、ヒアリングによって職員側が管理運営上、静かさと賑やかさの明確な区分けを求めている報告がされているが、そうした音はLCだけでなく、静かさを担保してきた開架閲覧室も含めて実態把握をする必要があると考える。

また、座席の利用状況の分析においては、個人とグループといった人数ごとの実態を扱った研究が多くみられる。しかし、個人あるいはグループ学習の中にも様々な活動があり、その違いに着目した研究はまだみられない。また、机と椅子等座席の種類の違いから場所選択を捉えているが、座席などの配置状況等を考慮した報告はまだない。

そこで本研究は、開架閲覧室と LC を包括して、終日調査によって利用者の場所選択を解明していく必要があると考えた。以下に詳しく研究の特色を示す。

- 1) LC の設置タイプの異なる複数の大学を調査対象に扱い、利用者の実態を終日調査し、大学間での比較、時間ごとでの利用の隔たりを無くして分析をする。
- 2) 開架閲覧室と LC の利用実態を同時に把握し、大学における中心的な学習場所の利用の全体像を捉え、両学習場所を合わせた施設計画の知見を得る。
- 3) 利用者の学習活動を細分化し、利用人数と学習で利用する媒体の違いを加えて、選択理由と座席選択を明らかにする。
- 4) 学習利用者の場所選択を机の仕切りや配置状況（座席の開放度）や会話による音の状況（場所の会話率）等の空間側の要因との関係で分析し、どのような影響を受けているかを明らかにする。
- 5) 複数の選択行動を捉えた使い分け行動を明らかにする。

1.6 調査の概要

本研究は大学図書館の職員を対象に施設整備状況を捉えた調査と、学生の利用実態を捉えた調査を行っている。詳しい調査内容は下記に記す。なお、学生の利用実態を捉えた(3)、(4)の調査は、定期考査等がない、平時の時期に行い、注1-17) さらに講義が開講される週の中で、休講数が比較的少ない平均的な1日を職員のヒアリングを基に抽出して実施した。

注1-17) 全ての大学は、2学期制をとる。そのため、定期考査で利用者が増加する7.8.1.2月を除く時期とした。一方、4～6月の時期も考えられるが、1年生の図書館利用のガイダンスがされていない等、まだ図書館利用に不慣れな可能性があり、利用者の要求が十分に把握できないと判断したため、夏期休暇が終わる10～12月を調査時期とした。

1.6.1 整備状況の実態の調査方法

(1) 東海北陸甲信越地方の大学図書館職員へのアンケート調査(2章)

大学図書館の整備状況を把握するため、地域差を考慮し『日本の図書館-統計と名簿』^{文1-99)}に掲載されている東海・北陸・甲信越地方の国公立大学すべての大学図書館(分館を含む)の職員に、郵送回答方式(一部E-mail、FAX)でアンケート調査を実施した。設問は、開架閲覧室やLC等の構成状況や、今後の計画を把握したLC等の導入予定を聞いた。郵送数は208館、回収数は108館である。

表1-2 東海北陸甲信越地方の大学図書館職員へのアンケート調査概要

回収期間	2016年10月～11月まで		回答した大学図書館の平均値	
	調査対象館数(館)	配布数	回収数	
国立大学	51	29	蔵書冊数	261,600冊
公立大学	27	17	延床面積	2,881.8㎡
私立大学	130	72	1日の来館者数	390人
合計(回収率)	208	118(57%)	座席数	312席

(2) 東海北陸甲信越地方の大学のweb調査(2章)

LCの設置形態を把握するために、(1)で回答した118館を対象に2019年11月に、「ラーニング」、「コモンズ」、「アクティブ」をキーワードにホームページ上で再確認した。

図書館内に設置されたLCを持つ大学は、(1)調査において職員の回答に委ねている^{注1-18)}。図書館外に設置されたLCの把握は、3つのキーワードが1つでも名称に入ったもの、説明に加えられているものと定義した。しかし、説明不足や画像のみの情報など判断に齟齬が生じるものは除外した。

注1-18) 一体型の多くは、回答者にLC設置の判断を委ねている。回答の中にはフロア別で構成している館もみられ、その場合はLCが開架閲覧室と連続せず、全面に整備され、扉を介して入室する場合は、一体隔離型として分類した。しかしフロア別でも、書架のある開架閲覧室と少しでも接続している場合は、一体隣接型とした。

1.6.2 学生の利用実態の調査方法

3章以降の利用実態は3つの調査によって行った。まずは、対象大学の図書館とLCの学生数と学部、そして対象にしたの基本情報^{文1-100)}を表1-3-①、②に示す。調査時間は開館時間(利用開始時間)から閉館時間(利用終了時間)まで行った。

(1) 来館者アンケート調査 (3, 4, 5, 6章)

対象は学生、教職員、一般利用者を含めた来館者全員を対象とし、図書館及びLCの各出入口で、入館時にアンケート用紙^{注1-19)}を配布し、その後、退館時に利用者から用紙を直接受け取って回収を行った。なお、配布と回収時には、調査員が入退館時間を記入し、滞在時間を把握している。一体型に分類される対象館は、図書館の入口で用紙を配布している。しかし、図書館内を通らずにLCに入室できる場合は、その限りではない。

アンケートの主な項目は、学年や学部といった所属情報、利用目的や利用する資料の種類、選択座席や選択理由等とした(表1-4)。

注1-19) 付録に実際に配布したアンケート用紙を添付する。なお、用紙サイズはA3サイズである。京産グローバルcommonsは、留学生が多いため、担当者より英語に対応したアンケート用紙の作成を依頼され、日本語と英語の両方を用意した。

(2) 巡回プロット調査 (3, 4, 5, 6章)

15分毎^{注1-20)}に閉架書庫や事務室、トイレを除いた、開架閲覧室及びLC内を同一ルートで巡回し、位置・性別・推定属性(学生、教員、一般)・姿勢(立位、座位、歩行中等)・行為(本を読む・探す等)の5項目の情報を平面図に記入した。行為の記録は、調査員間で事前打合せを行った上で実施している。なお、利用開始時刻と終了時刻に利用者があることは考えられないため、利用開始15分後からと終了15分前まで行った(表1-5)。

注1-20) 既往研究において、滞在時間等を考慮すると10～20分の利用が多いため、15分毎で調査した。そのため利用状況は十分に把握できていると判断している。また榎山はアンケート調査と巡回プロット調査の期間が大きく異なるが、アンケートの利用目的を比較してみても本研究に大きな影響がないと判断し、分析に用いた。

また行為の詳細は、利用者が机に向かって何か書いている場合は「読み書き」とし、顔をあげて本を読んでいる・開いている場合、筆記のない場合は「図書利用」とした。「PC」はPCの前に利用者が座りPCの電源が入っている場合とした。数が少ない行為については「その他」にまとめている。

表1-3-① 利用実態の調査対象館の概要

大学名(省略名)	愛知淑徳大学 (愛淑)	榎山女学園大学 (榎山)	愛知学院大学 (愛学)	名古屋学院大学 (名学)	愛知大学 (愛知)	立命館大学 (立命)	中部大学 (中部)	京都産業大学 (京産)
LCの設置形態	LCなし	図書館内	図書館内	図書館内	図書館内	図書館内	図書館内外	図書館外
学部数	6	7	7	4	5	5	7	8
学生数(人)	9,345	6,126	11,551	5,420	9,807	15,627	11,265	12,978
図書館施設概要								
竣工年月	1987年3月	1981年2月 改修2014年4月	1974年3月 改修2013年10月	2007年4月	2012年3月	2016年4月	1981年10月 改修2009年	1987年4月 改修2014年3月
延床面積(m ²)	3,303	3,427	13,690	1,773	4,650	14,585	11,273	11,045
開館時間	9:00-20:00	9:00-20:00	9:00-20:00	9:00-20:00	8:50-21:00	8:30-22:00	9:00-21:00	8:30-20:00
年間開館日数(日)	261	281	275	264	284	341	281	306
蔵書冊数(千冊)	290	366	899	70	542	968	527	1030
LC施設概要								
竣工年月							2015年4月	LC: 2014年4月 GC: 2016年3月
延床面積(m ²)							1,925	LC: 1,860 GC: 888
開館時間							9:00-21:00	LC: 9:00-20:00 GC: 8:45-20:00
年間開館日数(日)							284	-
蔵書冊数(千冊)							-	LC: - GC: 3

表 1-3-② 各大学に設置されている学部^{注 1-21)}

学部		愛淑	椋山	愛学	名学	愛知	立命	中部	京産	合計
人文学	文学	○		○		○	○			4
	外国語学				○				○	2
	国際コミュニケーション学		○			○				2
	人文学							○		1
	心理学	○								1
	文化学								○	1
	人間情報学	○								1
	創造表現学	○								1
	交流文化学	○								1
	グローバルコミュニケーション学	○								1
	現代中国学					○				1
社会科学	法学			○	○	○	○		○	5
	経済学			○	○	○			○	4
	経営学			○		○			○	3
	商学			○	○					2
	地域政策学					○				1
	産業社会学						○			1
	福祉健康学	○						○		1
	経営情報学							○		1
	文化情報学		○							1
	現代マネジメント学		○							1
	総合政策学			○						1
理学	応用生物学							○		1
	理学								○	1
工学	工学							○		1
	コンピュータ理工学								○	1
保健	歯学			○						1
	薬学			○						1
	看護学		○							1
	健康医療科学	○								1
	心身科学			○						1
	生命健康科							○		1
	総合生命科学								○	1
	スポーツ健康科学				○					1
	リハビリテーション学				○					1
家政	生活科学		○						1	
教育	教育学		○							1
	現代教育学							○		1
芸術	映像学						○		1	
その他	国際関係学						○	○	2	
学部数合計		8	6	9	6	7	5	7	8	56

注 1-21) 学部の大きな括りは、文部科学省の令和元年度学校基本調査における付属資料、高等教育機関学科系統分類表を参考にした。

表 1-4 来館者アンケート調査の概要

施設名	調査日	天候	調査日来館者数 (人)	回収数/配布数	回収率	有効回答数 (人)	調査日貸出者数 (人)	調査日貸出冊数 (冊)
愛淑 図書館	2018/11/5	晴れ	847 *4)	493/574	86%	472	142	259
椋山 図書館	2019/11/28	晴れ	343	258/273	95%	256	81	166
愛学 図書館	2014/10/16	晴れ	901 *5)	673/824	82%	638	134	273
名学 図書館	2014/10/21	曇り	664 *5)	528/618	85%	482	42	71
愛知 図書館	2018/12/5	晴れ	1,477 *5)	633/781	81%	619	152	329
立命 図書館	2016/10/12	晴れ	4,379 *7)	1395/2027	69%	1332	-	-
中部 図書館	2017/11/27	晴れ	1,368 *7)	672/850	79%	653	141	266
中部 LC	2017/11/27	晴れ	235	180/192	94%	171	-	-
京産 図書館	2016/10/13	曇り	1,759 *7)	831/1115	75%	802	382	683
京産 ラーニングcommons (LC)	2016/10/13	曇り	315	169/255	66%	167	-	-
京産 グローバルcommons (GC)	2016/10/13	曇り	430	239/316	76%	222	49	77

表 1-5 巡回プロット調査の概要

施設名	調査日	天候	座席数 (席)	調査時間	巡回回数	プロット総人数 (人)	備考
愛淑 図書館	2017/11/16	晴れ	563	9:15-20:45	43	2,364	
椋山 図書館	2014/10/9	雨	432	9:15-18:45	39	2,265	2,3限目にガイダンス
愛学 図書館	同日	-	1,307	9:15-19:45	43	3,980	
名学 図書館	同日	-	390	9:15-19:45	43	2,965	
愛知 図書館	同日	-	830	9:00-20:45	47		
立命 図書館	同日	-	1,900	9:15-21:45	53	19,322	授業
中部 図書館	2017/11/16	晴れ	976	9:15-20:45	47	7,355	附属高校テスト期間
中部 LC	2017/11/16	晴れ	397	9:15-20:45	47	1,466	写真展開催
京産 図書館	2016/10/11	晴れ	1,383	8:45-19:45	45	6,893	中学生見学、3限目にガイダンス
京産 ラーニングcommons (LC)	2016/10/11	晴れ	124	9:15-19:45	43	1,574	3限目に授業
京産 グローバルcommons (GC)	2016/10/11	晴れ	286	9:00-19:45	44	1,771	Chat in English(イベント)開催

1.6.3 利用実態調査の対象大学と対象施設の概要

(a) 愛知淑徳大学図書館長久手本館（長久手キャンパス）

名古屋市東側、長久手市に位置し、文系を主とした大学である。1995年に女子大学から男女共学になったが、現在も女子の比率は高い。長久手キャンパスには、7学部を持っている。

図書館はキャンパスの南側の正門付近に位置し、市営バスのターミナルに近いエリアである。両隣の棟から直接アクセスが可能になっており、正面出入口の他に2階に2か所ある。図書館情報学の専攻（人間情報学部）も有している関係からか、図書館での積極的な取り組みとして、文献探索講習が挙げられる。さらに、授業で利用する図書を並べた書架コーナーが設置され、調査時はブラウジングコーナー付近に排架されていた。施設状況について、LCは整備されておらず、グループ学習室以外は、基本的に会話が禁止である。2001年に図書館南棟2階にマルチメディアリソース室が開設され、教養の映像資料に加えて、娯楽用映画も多数用意されている。書庫は自由に出入りが可能で、各階に閲覧席（カウンター席）が設けられている。



外観

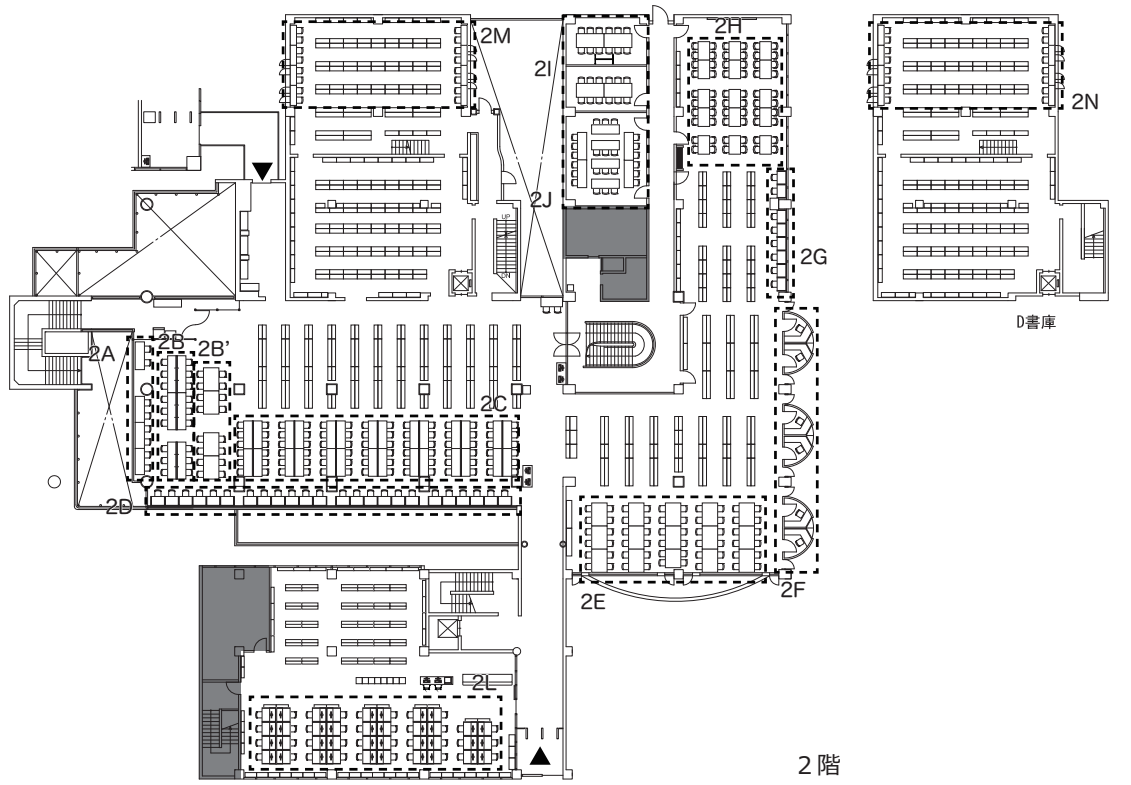


2階 開架閲覧室

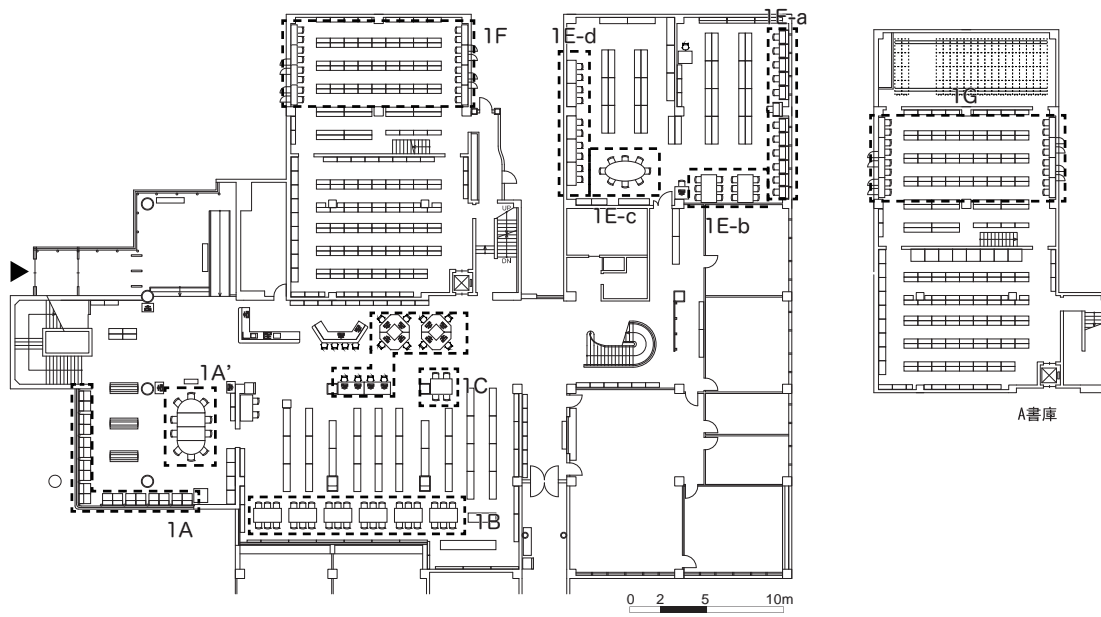


マルチメディアリソース室





2階



1階

(b) 相山女学園大学中央図書館（星が丘キャンパス）

名古屋市東部に位置する女子大学である。対象としたキャンパスには6学部を有している。

館内は5層に分かれ、平成26年3月に全館リニューアルを行い、1階の開架閲覧室に隣接する形で『iサークル・iカフェ』と呼ばれるLCを設置した。また、地下1階は既存の机に仕切りを設けて、多くの座席をキャレル席に改修している。会話は地上階(1-3階、地下1-2階は吹抜)で可能、地下階で禁止されている。全フロアでフタ付きの飲み物の持ち込みが可能で、館内で購入することもできる。携帯電話の充電やノートPC、タブレットPCの貸し出しも行う。

2019年度の調査時は、2014年の調査時からいくつかサービス内容が変更され、貸出PC台数が30台から50台に、座席数が30席程度増加した。また閉館が1時間延長され、20時までとなった。



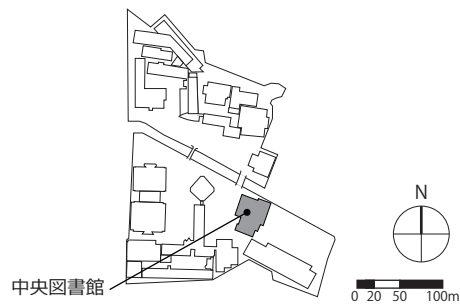
外観



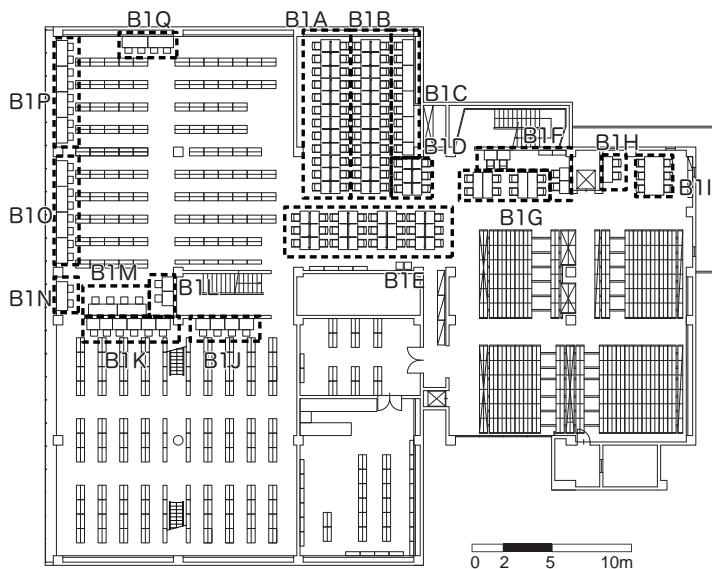
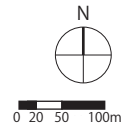
地下1階 開架閲覧室（キャレル席）



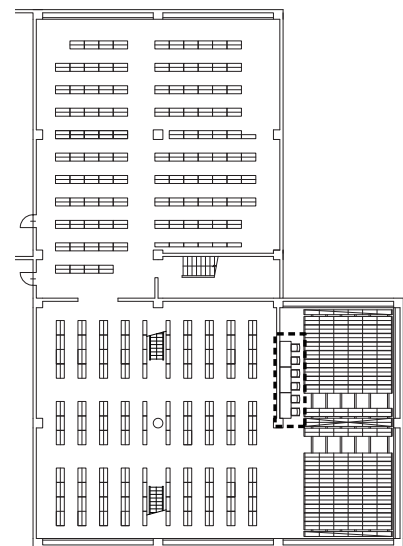
1階 ラーニングcommons



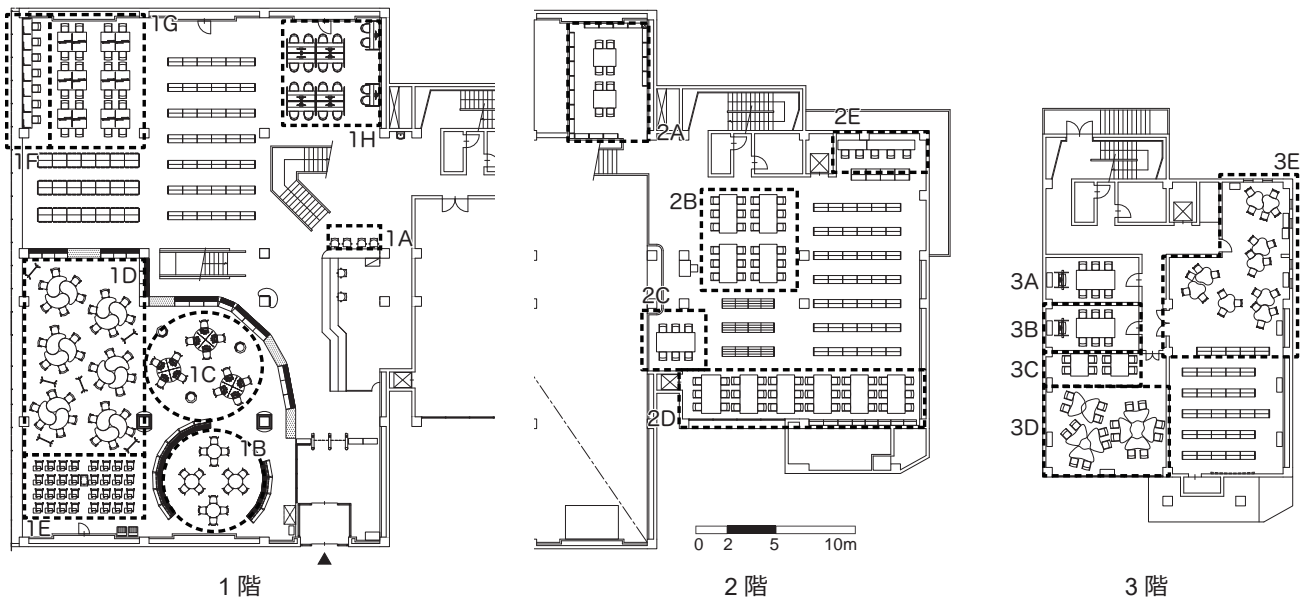
中央図書館



地下1階



地下2階



(c) 愛知学院大学図書館情報センター（日進キャンパス）

文系から薬学系まで9学部を有する総合大学である。2014年には、名古屋市内に新しいキャンパスを設置し、2～4年生・大学院生の商学部、経営学部、経済学部が移動した。調査対象の日進キャンパスは、名城キャンパスと歯学、薬学部（楠本キャンパス）を除く学生が在籍している。

図書館は、キャンパスの中でも多くの利用者の動線上に設置され、3階建てで旧館と新館からなる。施設上階には法科学研究科が所属し、法科学研究科から直接館内へアクセスが可能である。平成25年10月に1階の閲覧席を廃止し、私大で東海地区最大規模の482 m²（当時）のLCを整備した。

LCは、フタ付きの飲み物が持込み可能な他、ノートPCの貸出やPCからのプリントアウト、Wi-Fiの利用が可能である。専用コーナーには携帯電話の通話が認められているが、充電はエリア内全面禁止としている。3階の視聴覚学習センターでは、教養の映像資料の他、娯楽の映画の視聴もできる。



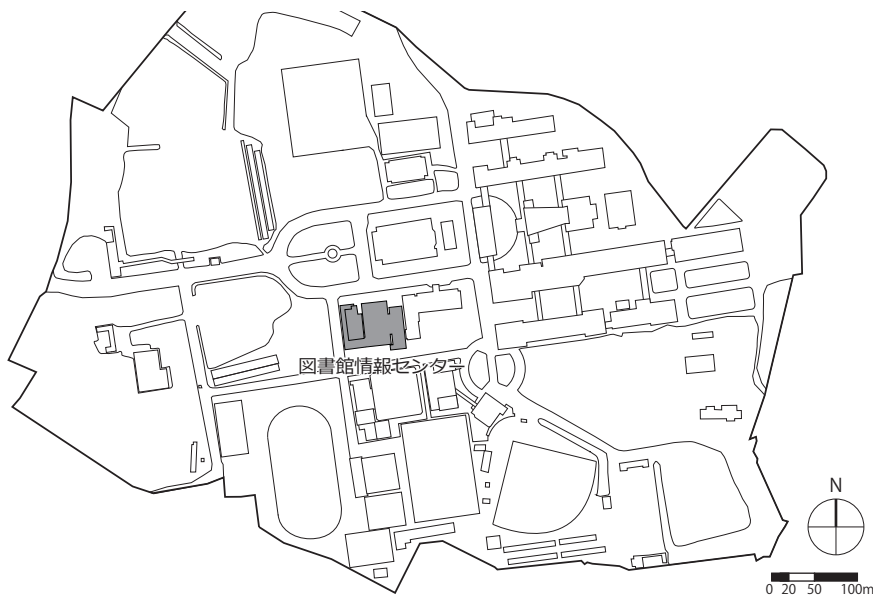
外観

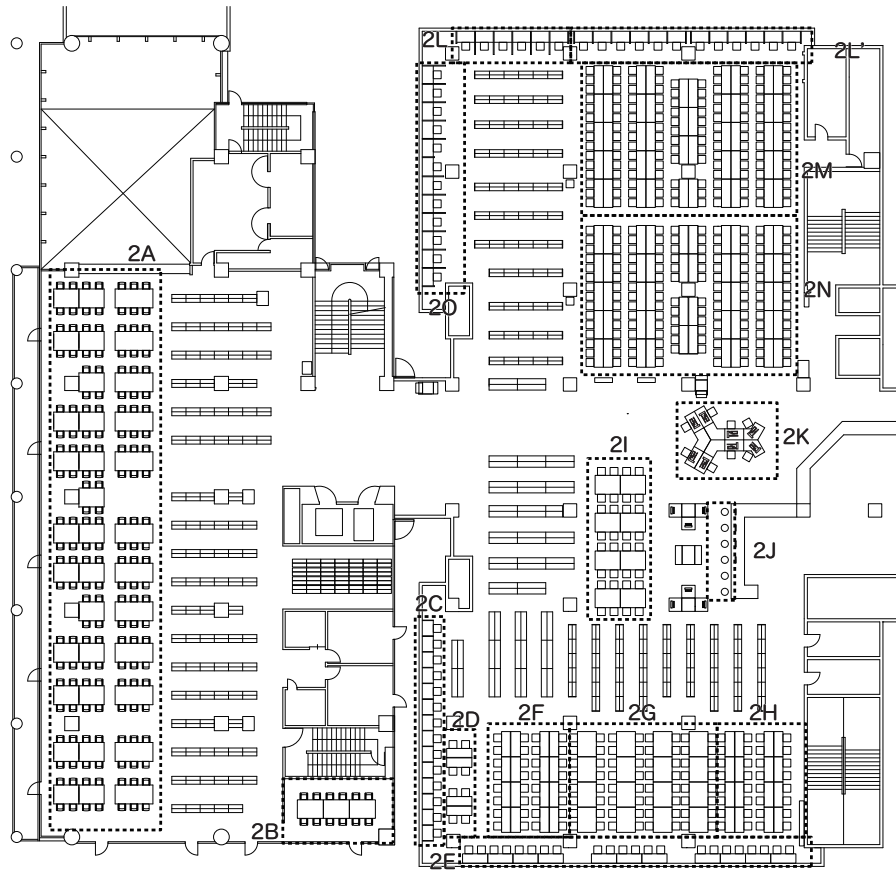


2階 開架閲覧室（新館）

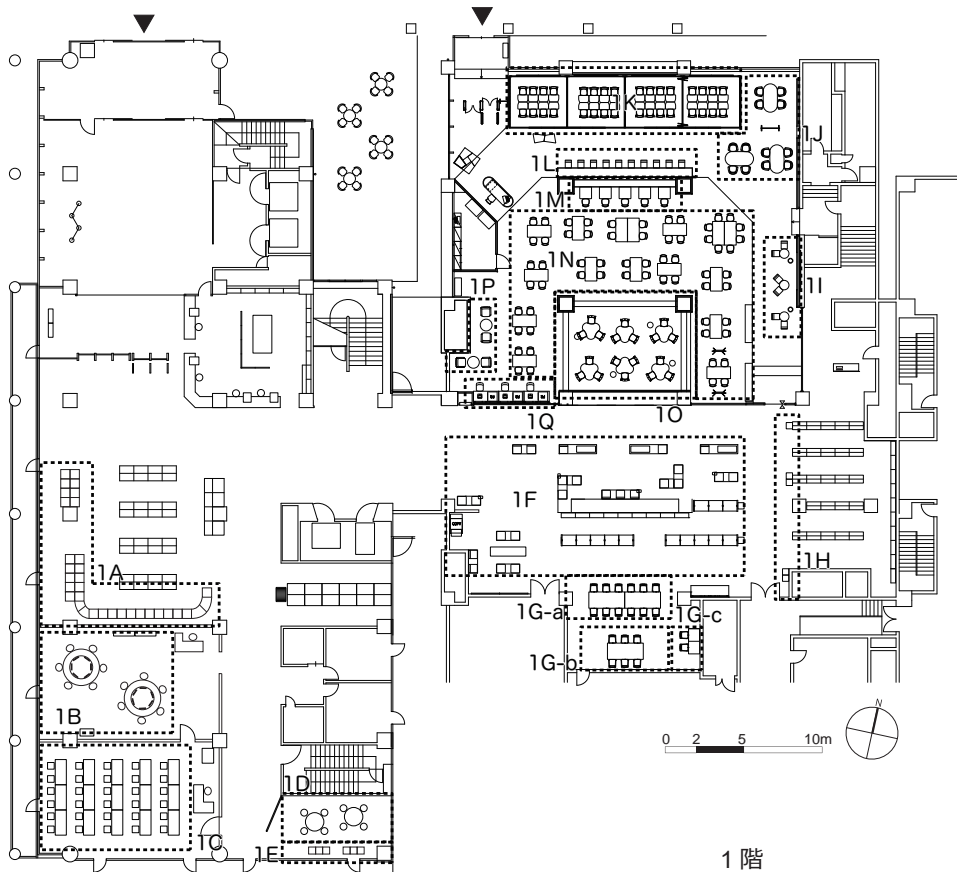


1階 ラーニングcommons

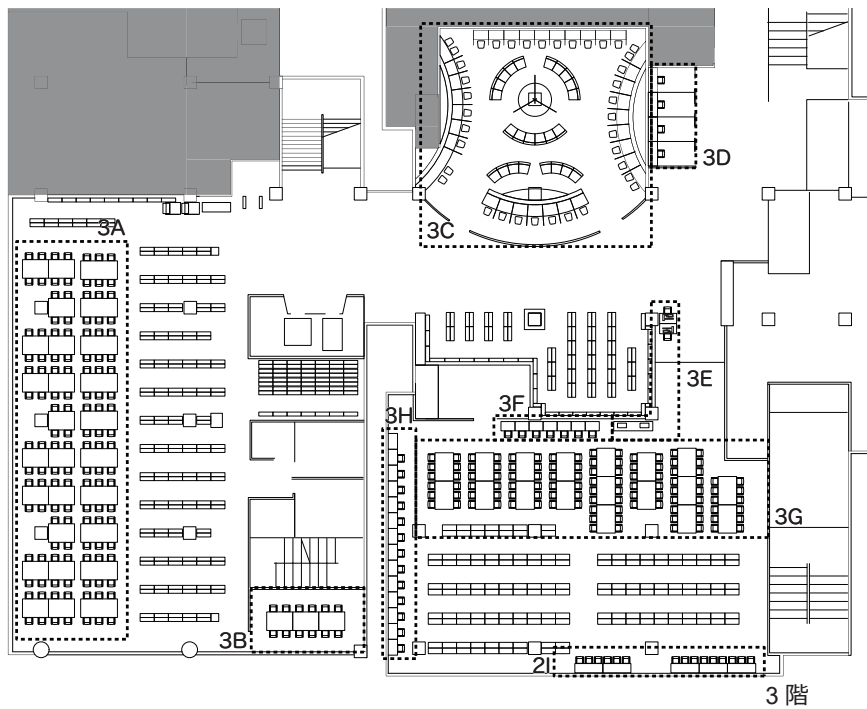




2階



1階



(d) 名古屋学院大学学術情報センター（名古屋キャンパス白鳥学舎（現・しろとり））

名古屋キャンパス白鳥学舎は、大規模な校地面積を持たないビルディングタイプの都市型キャンパスである。経済学部、商学部、法学部、外国語学部の生徒が在籍し、2007年まで大学が置かれていた瀬戸キャンパスよりも多くの学生が学ぶ。

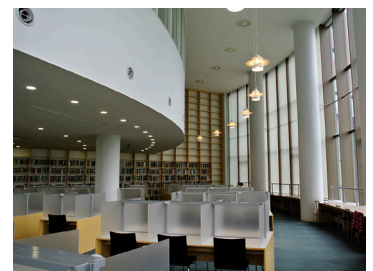
学術情報センターは、2007年の白鳥学舎完成時にキャンパスで最も大きな棟である曙館内の3,4階の一部エリアに整備した。外国語教育センター [声を出して外国語を学ぶ]・基礎教育センター [学習支援を行う]・情報教育センター [web 閲覧、PC を使用したレポート作成]・附属図書館を集約した施設として導入を図った。前3センターを統合した施設としてLCが位置付けられている。3階が図書館機能、4階がLCである。

4階LCは、プリンターに接続された約50台のデスクトップ型PCを配した席が多くを占める。その他、3台の大型モニターで視聴覚資料の視聴が可能である。グループ机は、コンセントが備わり、各自PCの持ち込むことができる。

3階の開架閲覧室は、比較的面積が狭小であることから4万冊の蔵書数である（瀬戸キャンパスは万冊）。座席はキャレル席が最も多く、吹き抜けエリアに設置されている。17時以降は高校生の利用が認められている。



外観

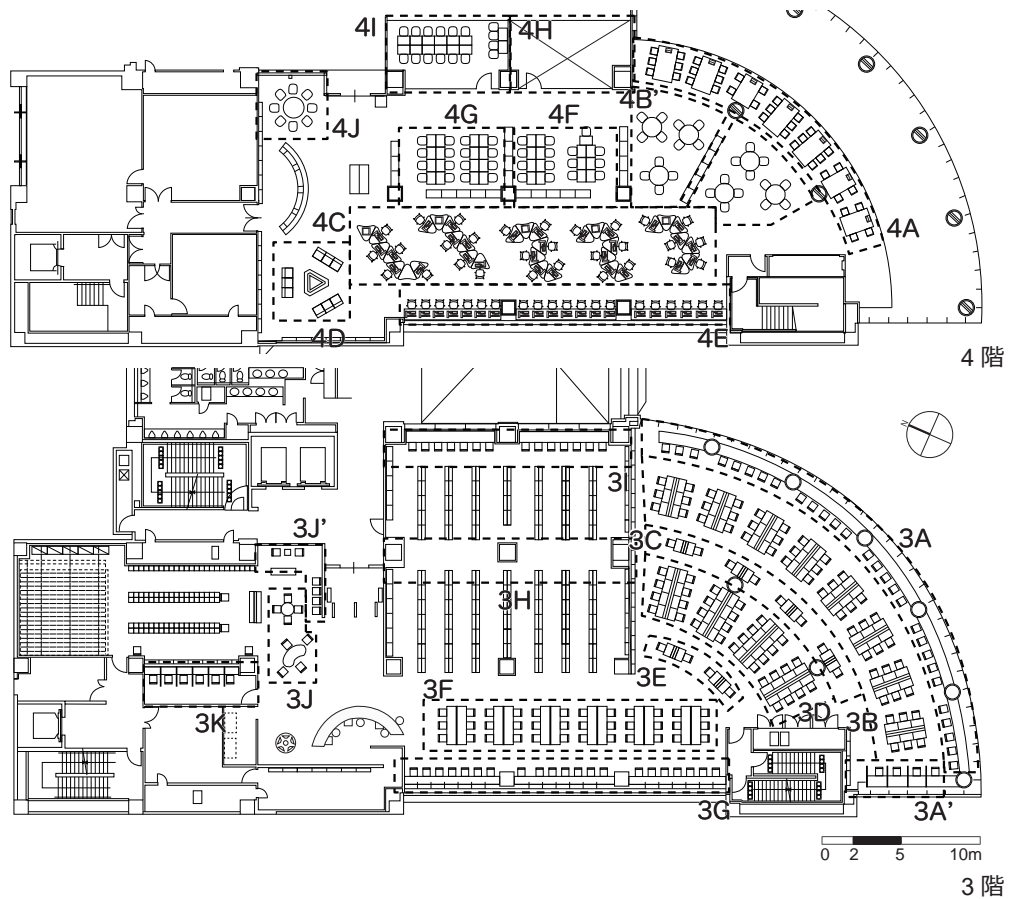


2階 開架閲覧室（新館）



1階 ラーニングcommons





(e) 愛知大学名古屋図書館（名古屋キャンパス）

名古屋市の「ささしまライブ24地区」に位置し、名古屋駅から徒歩15分のところにある。2012年に本地区に移転が行われた、7学部中5学部が入っている。2017年には、キャンパス東側に20階建の本館（研究棟）とグローバルコンベンションホールを整備した。

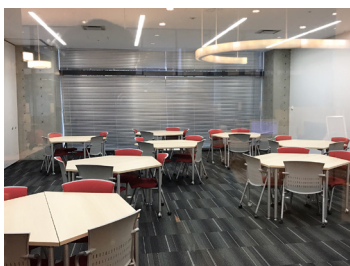
図書館は、都市型のキャンパスのため10階建ての厚生棟と呼ばれるアリーナや学生課等の部署が入る建物の1～3階（一部のフロア）に図書館がある。館内の多くは、キャレル席で構成され、窓側に面したカウンター席にも仕切りが設けられたキャレル席である。1階には、ガラスで仕切られたディスカッションルーム（3分割可能）がつくられ、可動式の机、椅子、ホワイトボードがあり、LCとして運用されている。その他の学習場所として厚生棟4階には、メディアゾーンと呼ばれるPCを主としたスペースがあり、本館2階にもLCが導入されている。そのため、館内には自由に利用できるPC（OPACは有）を設置していない。なお全フロアでWi-Fiの利用が可能である。



1階 開架閲覧室

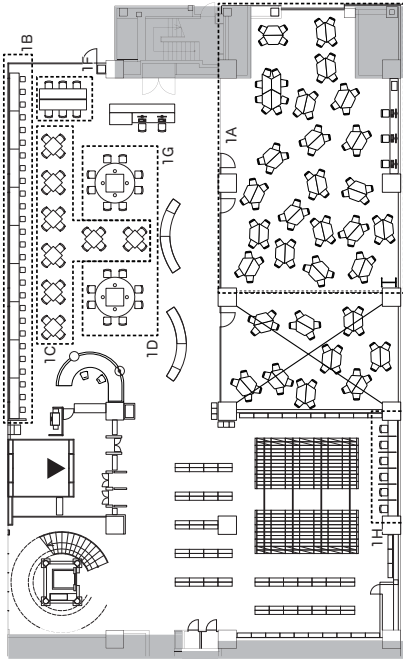


2階 開架閲覧室

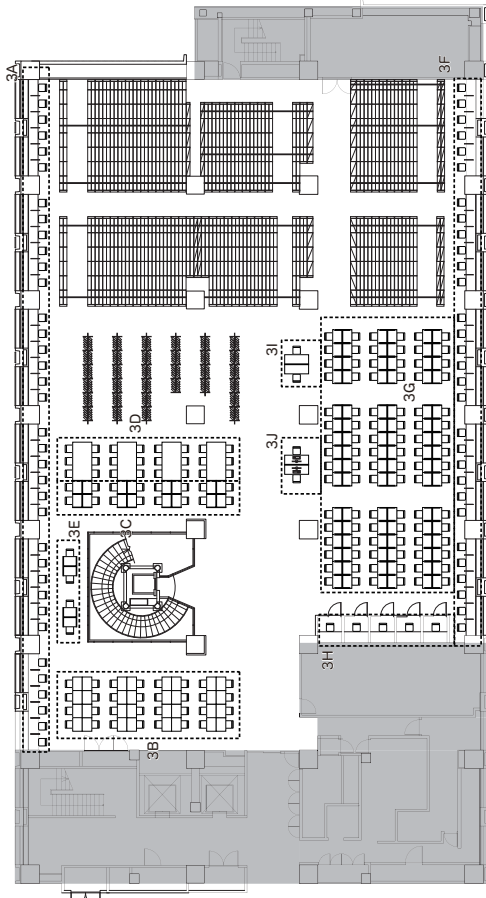


1階 ディスカッションルーム

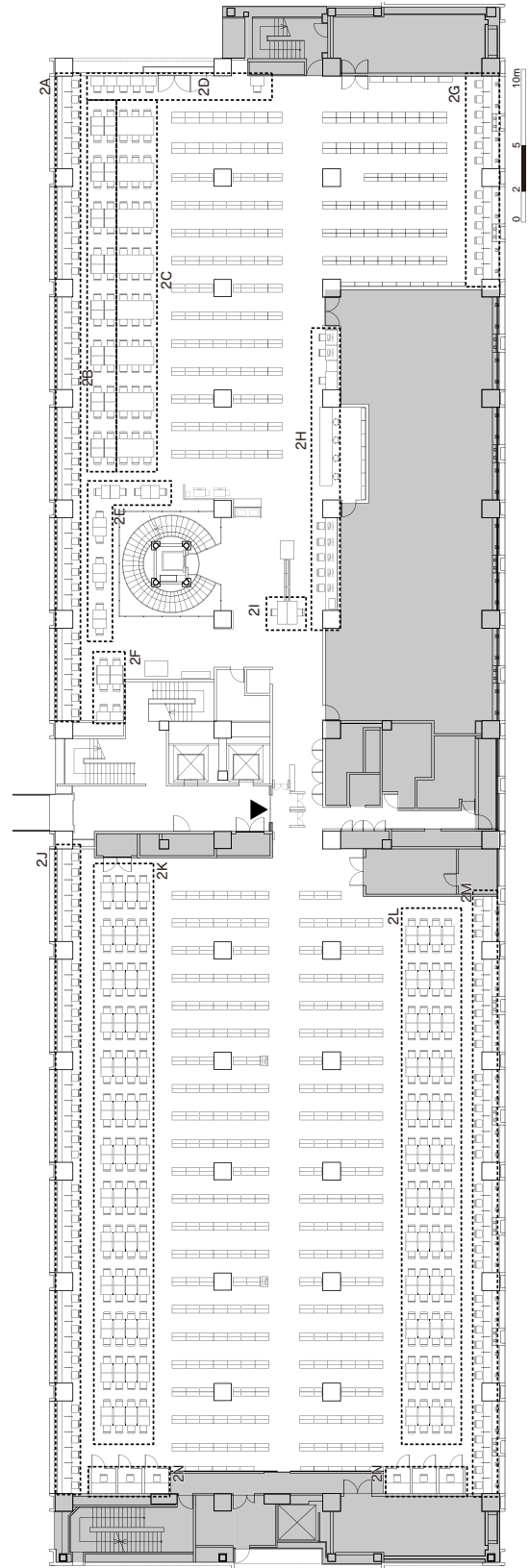




1階



3階



2階



(f) 立命館大学平井嘉一郎記念図書館（衣笠キャンパス）



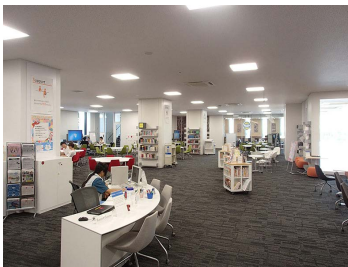
外観

14学部30学科をもつ関西圏でも有数の総合大学であり、4つのキャンパスに7つの図書館がある。その内、京都市内の北山にある衣笠キャンパスは、大学に歴史の中でも古いキャンパスで、主に文系の学生で占められている。滋賀県草津市や大阪府茨木市にもキャンパスを持ち、そこに所属する学生は、一日数便のシャトルバスで来ることができる。

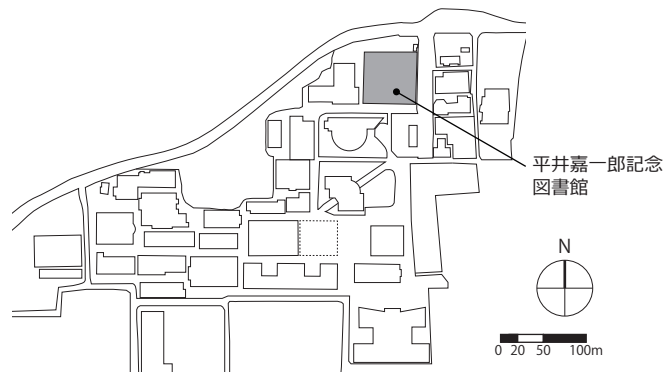


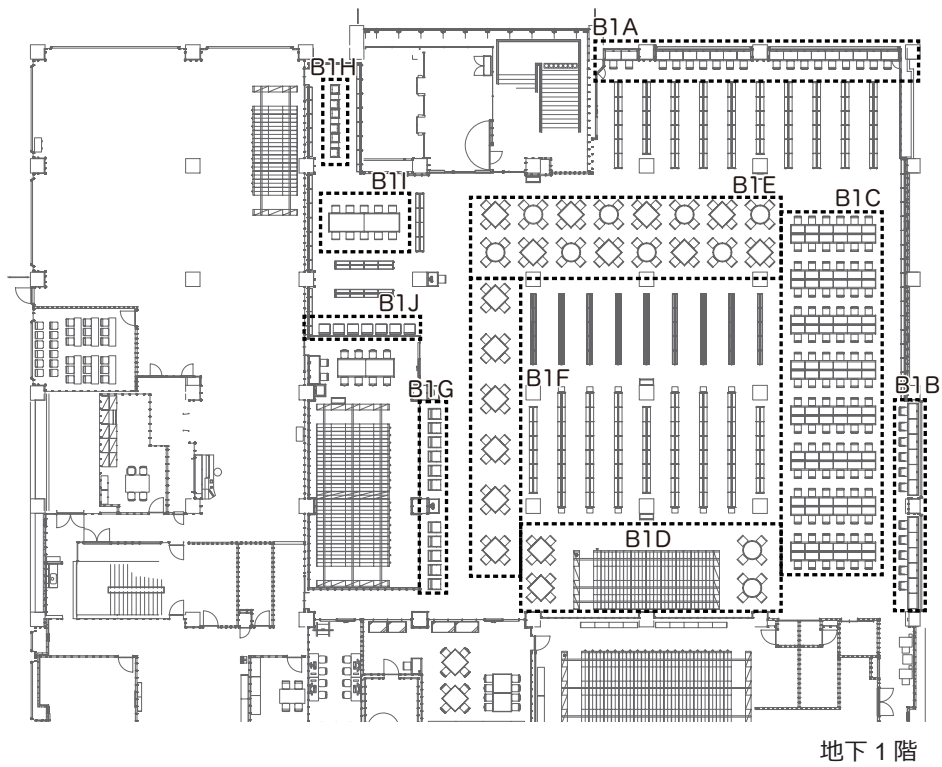
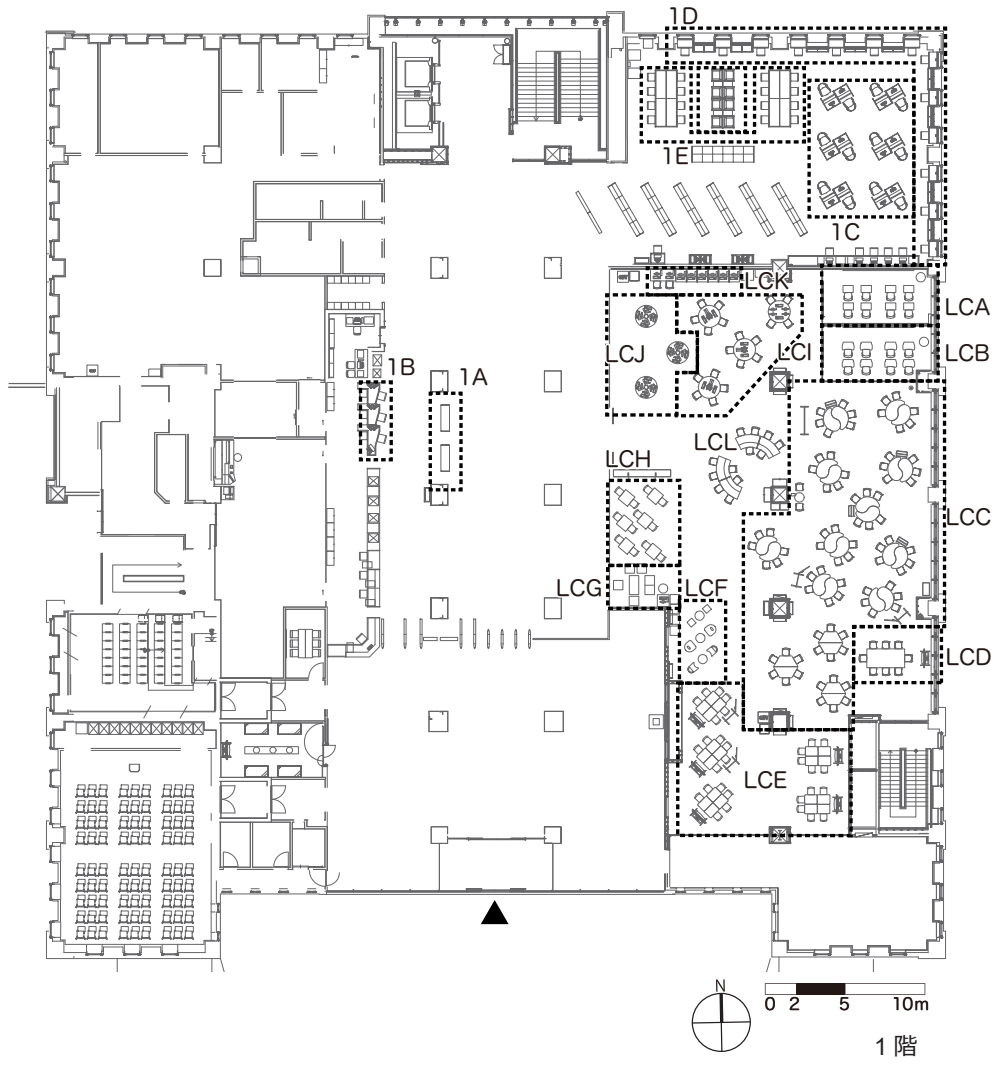
2階 開架閲覧室

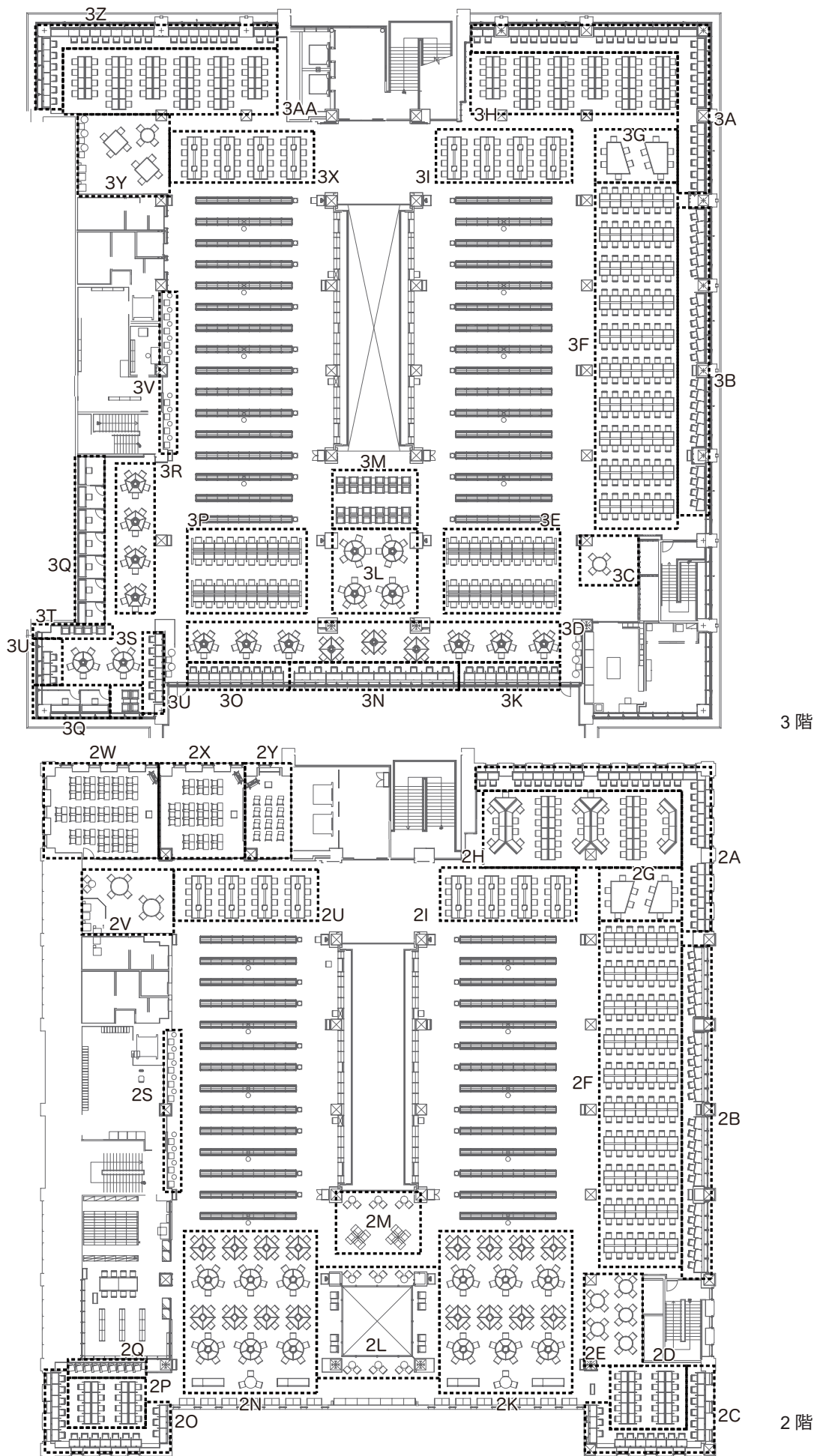
中央館である平井嘉一郎記念図書館は、キャンパス北側の正門脇に位置し、旧館の衣笠図書館の老朽化に伴い、2016年4月に竣工した。館内は地上3階地下2階で、地下2階部分は自動書庫である。日本初の自動貸出ゲートを設置し、貸出手続きを行わずに退館できる。ゲート外はカフェが併設されている。1階の一部には、ガラススクリーンで仕切られた『びあら』と呼ばれるLCを整備している。これは旧図書館LCの約2.3倍の広さである。LC内は会話が可能である他、デスクトップ型PC等による情報検索機能や、約1,500冊の図書・雑誌の排架、人的支援も行う。開架閲覧室は、ほとんどがキャレル席で構成され、すべてのエリアで会話は禁止されている。約半数の1000席以上にコンセントがある。蔵書は、文系が主であることから人文科学・社会科学分野中心である。なお、衣笠には他にも研究用資料の保存場所として、図書館の管轄である「修学館リサーチライブラリ」と「人文系文献資料室」がある。



1階 ラーニングcommons（びあら）







(g) 中部大学

愛知県春日井市の丘陵地にあり、文系から工学部などの理系を有する7学部の総合大学である。中部は、附属三浦記念図書館と別棟LCの不言実行館コモンズセンターが設置されている。大学に隣接し、北側には附属高校もあり、図書館の利用が認められている。

附属三浦記念図書館

図書館は、全学教養の授業が開講される棟のそばに位置する。東西に長く、北側窓には多くのカウンター席が並ぶ。1階一部に「ラーニングスペース」注1-3) と呼ばれる会話可能なエリア(70席程度)がある。ラーニングスペースでの人的支援は行っていない。3階は開架閲覧室の他に、個室のグループ学習室や、文章作成や表計算のできるソフトが入ったデスクトップ型PC、AVブースが設置されている。

会話の可否について、ラーニングスペースとグループ学習室以外は、基本的に会話禁止である。また、多くのエリアで無線LAN接続やノートPCの利用ができようになっている。

不言実行館コモンズセンター

コモンズセンターの入る不言実行館は、2015年にキャンパスの中心に竣工した6階建の建物である。食堂、学生支援課や就職関係の部署が入る。コモンズセンターは、2、3階に位置する。2階は、「スチューデント・コモンズ」と呼ばれ、グループ席を中心にソファや可動式机など自由に利用できる。イベント開催用としても利用され、コモンズサポーター(学生スタッフ)等が行う企画イベントの使用がある(最大300名の利用が可)。

3階の「ラーニング・コモンズ」は、5つのエリアで構成されている。その一つに会話禁止で、個人利用を想定した、クワイエットルームが設けられている。一方で、コンシェルジュによる人的支援も行われ、LCとしての機能も有する。また科学雑誌や小説、漫画が排架されているが、貸出は行っていない。

附属三浦記念図書館



外観



2階 開架閲覧室



1階 ラーニングスペース

不言実行館
コモンズセンター



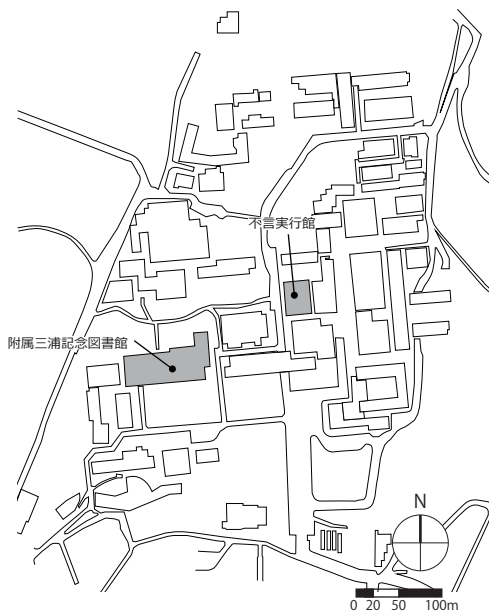
外観

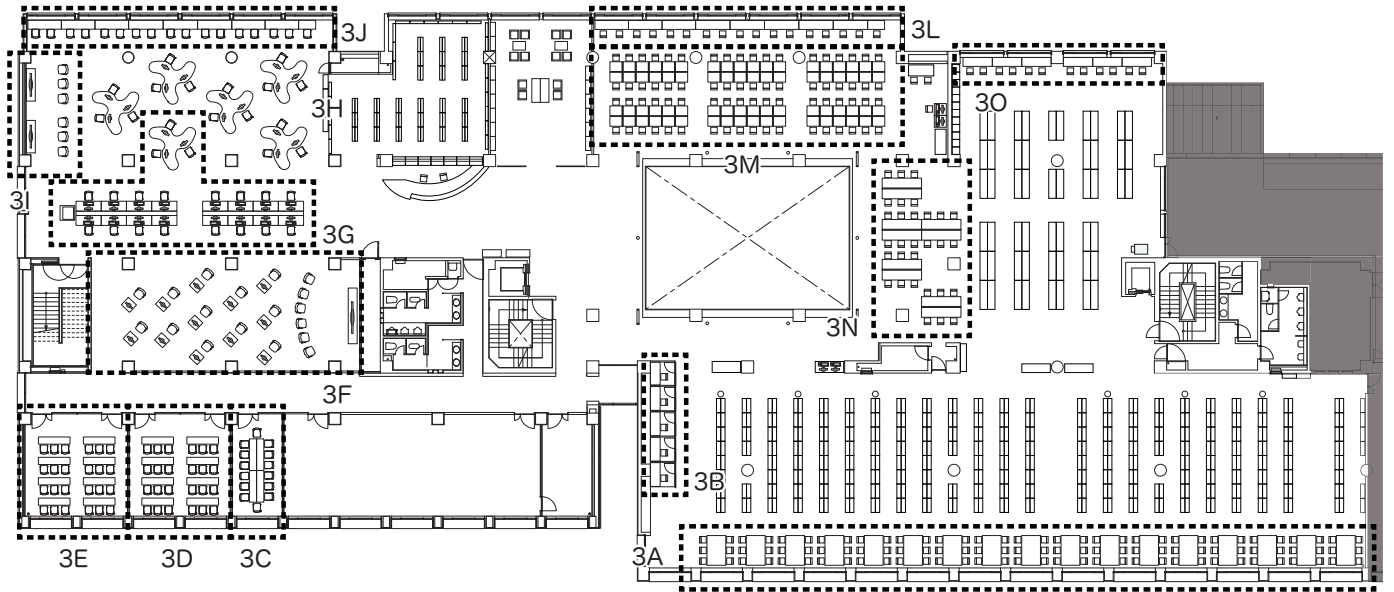


2階 スチューデントコモンズ

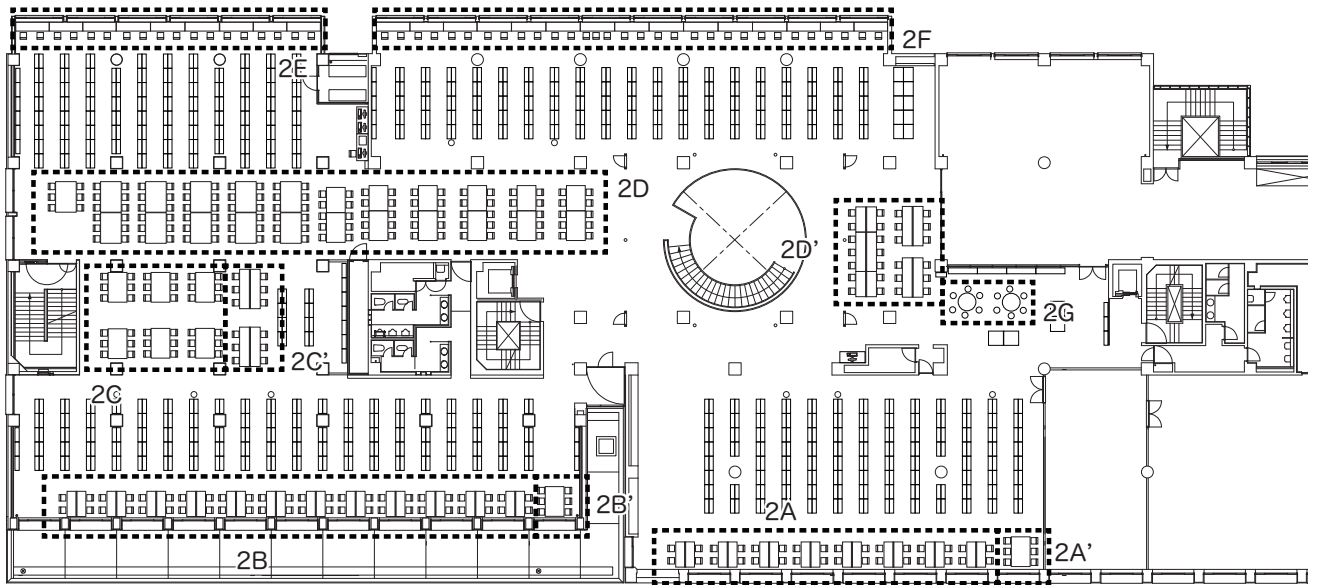


3階 ラーニングコモンズ

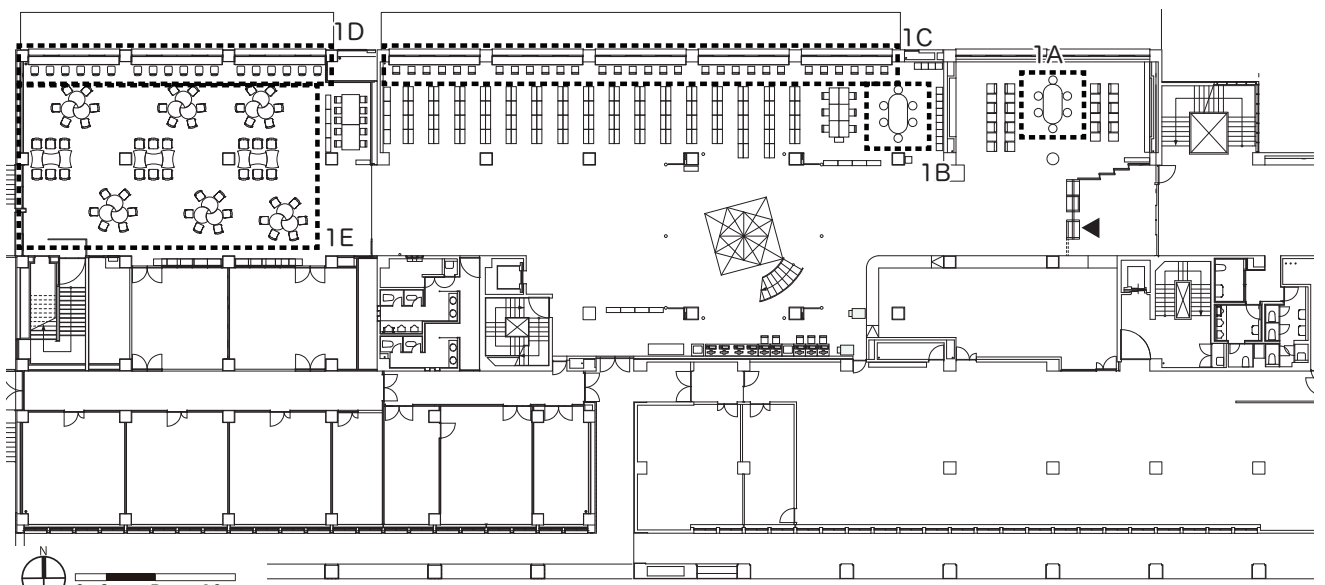




3階

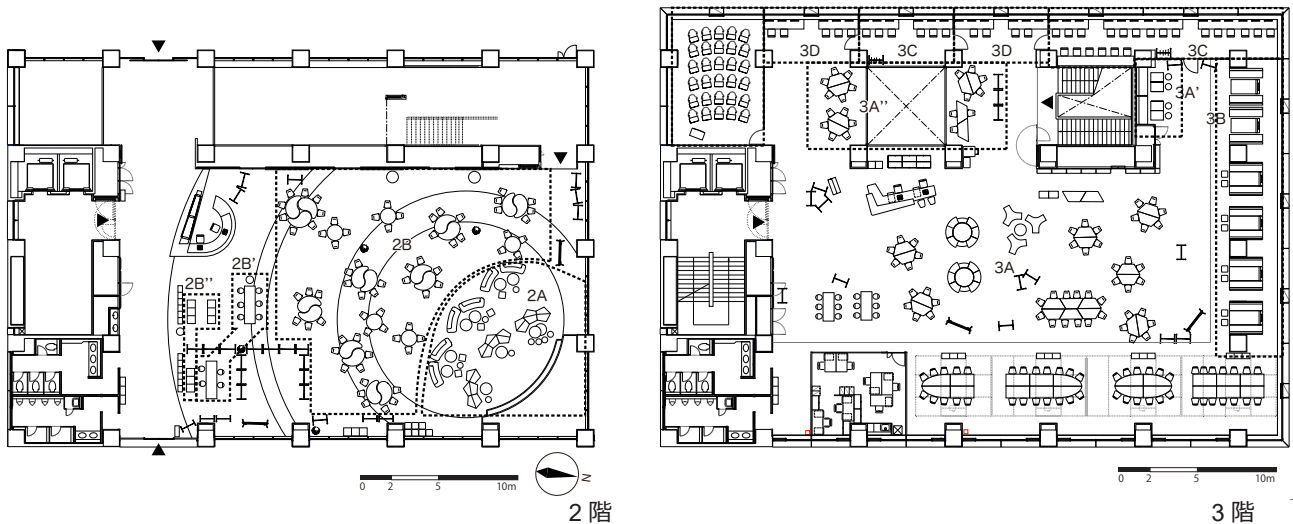


2階



1階





(h) 京都産業大学

総合大学として8学部を有している。キャンパスは山の中腹に位置し、校舎間ごとの高低差は大きい。開学50周年を迎え、キャンパスマスタープランを作成し、2030年を目途にキャンパス施設を、教育・研究環境などの充実を図り新校舎の建設や既存校舎の建て替えなどを実施している。本研究では、3つの学習場所を調査対象とした。LCである雄飛館ラーニングcommonsとサギタリウス館グローバルcommonsは、教育支援研究開発センター（学長室管轄）が管理している。

図書館

図書館は、1986年に日本図書館協会建築賞を受賞している。キャンパス計画の一環として、2011年に約80万冊蔵書可能な書庫棟を整備し、自動書庫を導入した。LCは整備されてていないが、1階の図書館ホールでは、空いている時間にグループ学習スペースとして活用できる。その他、視聴覚室や56台のデスクトップ型PCを設けたパソコン室がある。2～3階は、研究個室と呼ばれる個室型の閲覧席や仕切りの高いキャレル席を配置している。

雄飛館ラーニングcommons

ラーニングcommonsは、京都産業大学グローバル人材育成推進事業の一環で、大学図書館とは別棟の雄飛館2、3階に設置している。室内は主に、32インチの液晶モニターが利用できる「ラーニングスペース」、100名規模の勉強会や研修会が行われる「パフォーマンススペース」、L字型ソファを配した「クリエイティブスペース」で構成している。

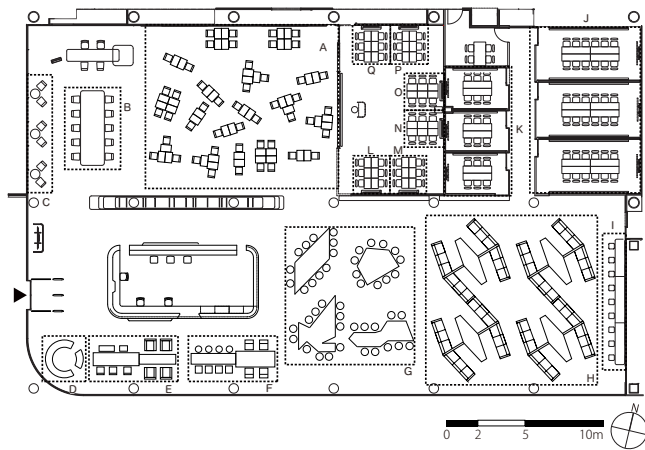
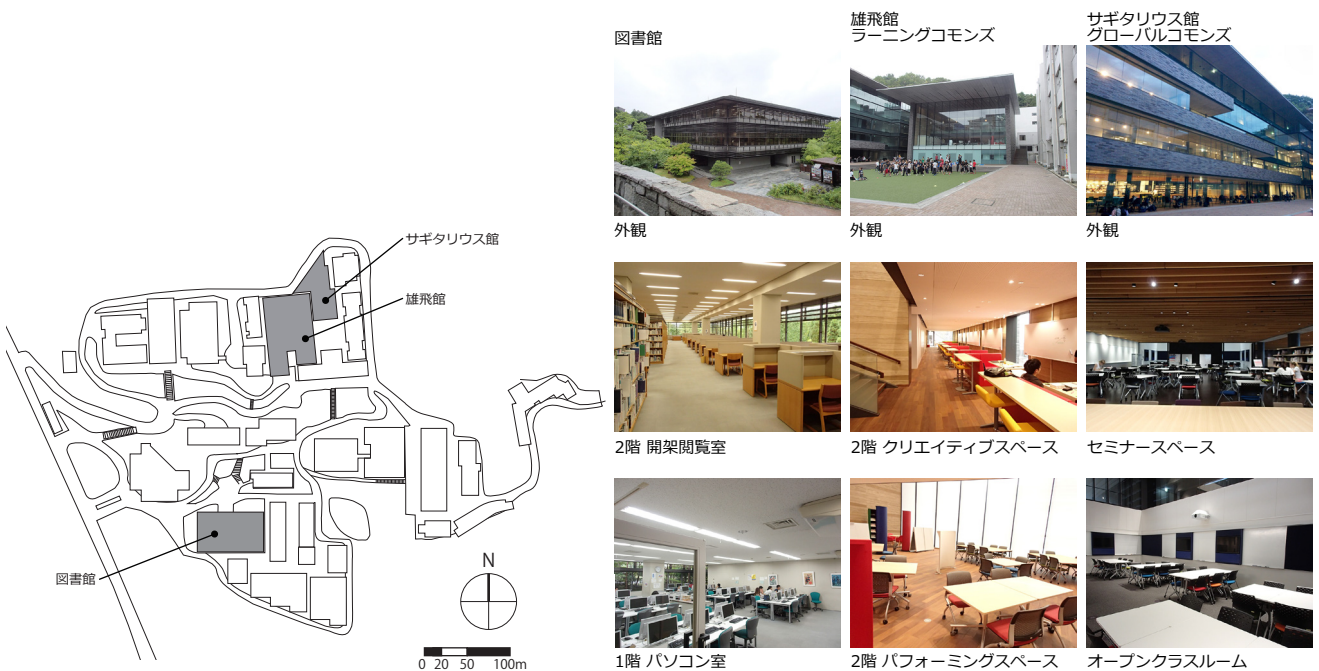
人的支援は、学習、ICT、館内利用法などに対応し、3か所のカウンターには、職員（専門職員3名）や学生スタッフが在籍している。学習支援の主な内容は、日本語ライティング支援が半数以上を占め（2013～2015年実績）、定期的に予約制にて支援活動を行っている。

貸出は、ノートPC、iPad mini、延長コードがある。また蓋付飲料の持ち込みを全フロアで可能にしている。

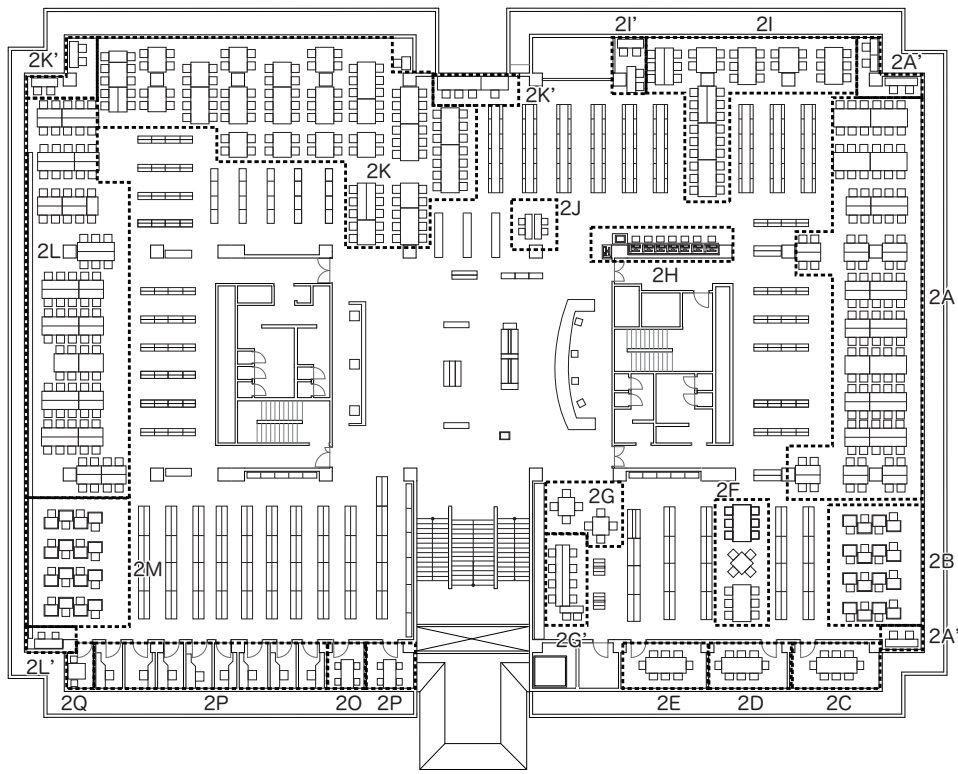
サギタリウス館グローバルコモンズ

サギタリウス館（外国語学部棟）の1階にあり、雄飛館とは渡り廊下で接続されている。2016年3月に竣工し、調査時は1年経過していない。授業外での外国語学習および異文化の理解深めるために整備され、英語による個別学習支援(1回30分予約制)が行われている。館内は主に「セミナースペース」、「オープンクラスルーム」、「DVDブース」で構成され、DVDブースは90分間のみ洋画又は邦画の外国語版の視聴覚資料を見ることができる。

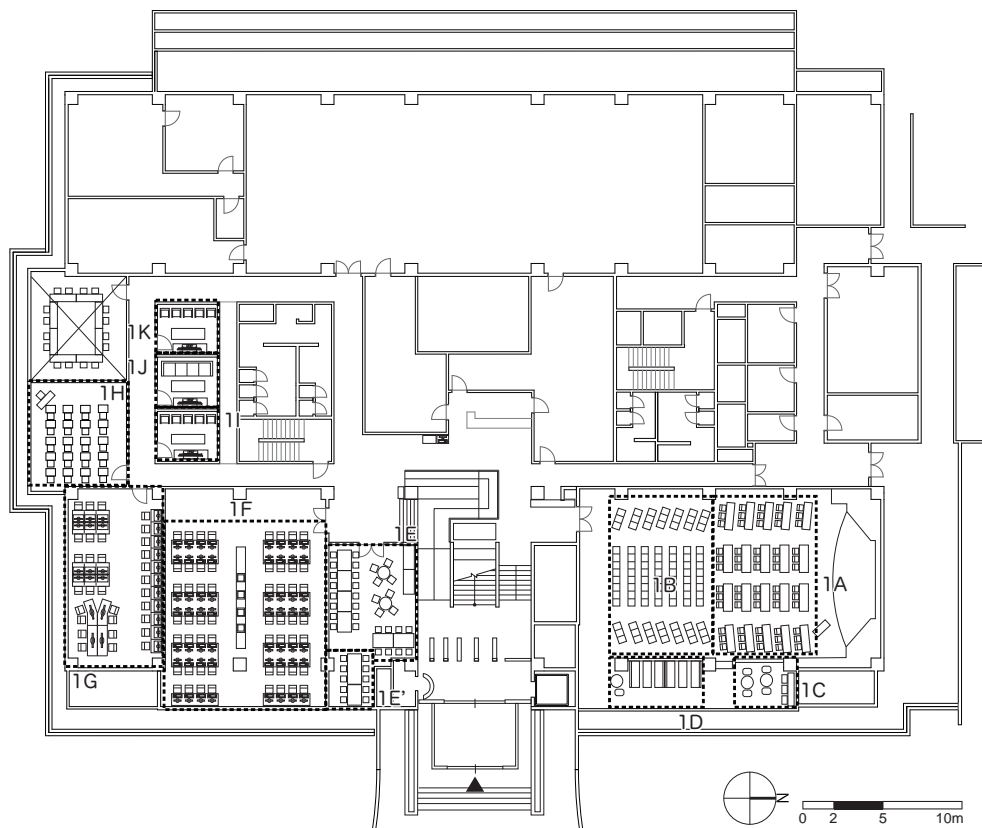
貸出内容は、ノートPCが30台、iPadが10台、マイク2本が可能である。さらに外国の語学や文化等が学べる多読本も3000冊ほど用意されており、2泊3日の1人2冊まで貸出ができる。



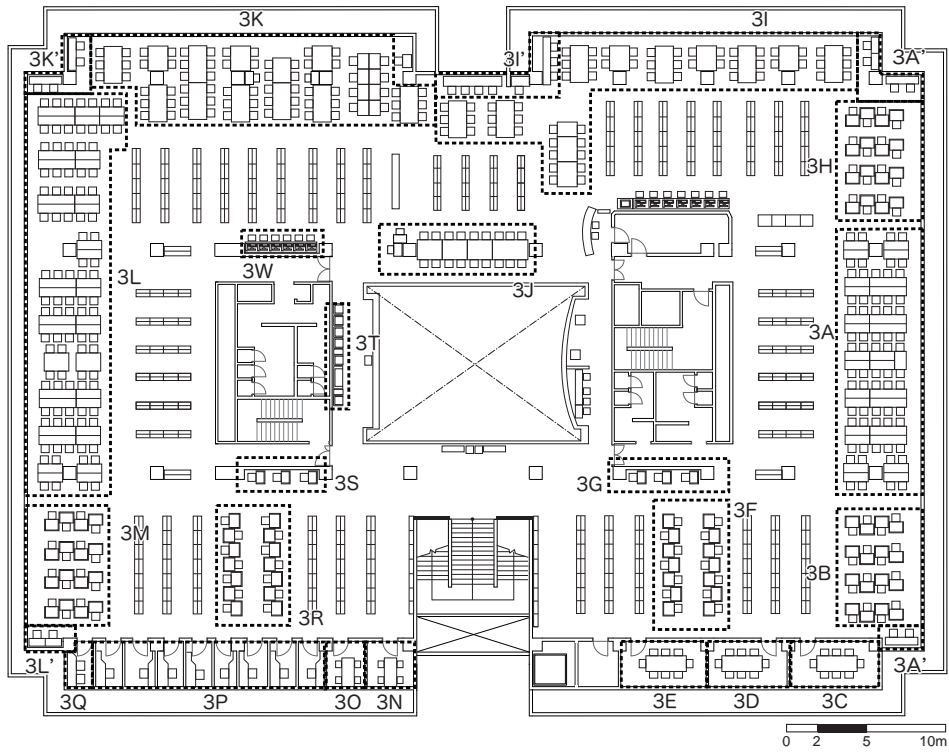
グローバルコモンズ 1階



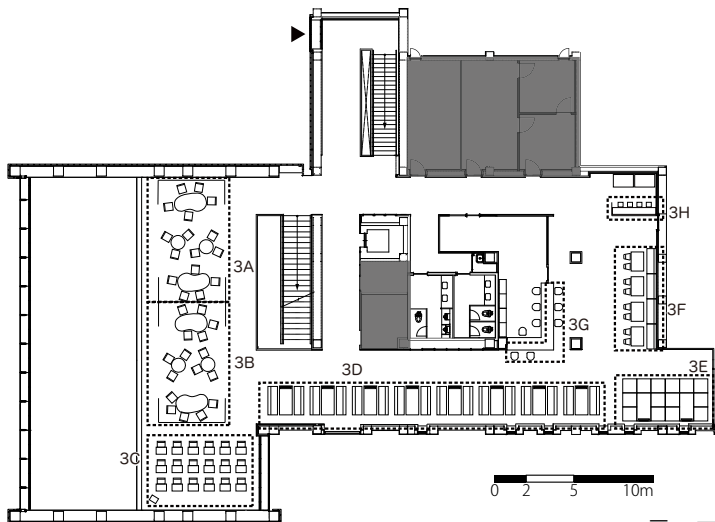
図書館 2階



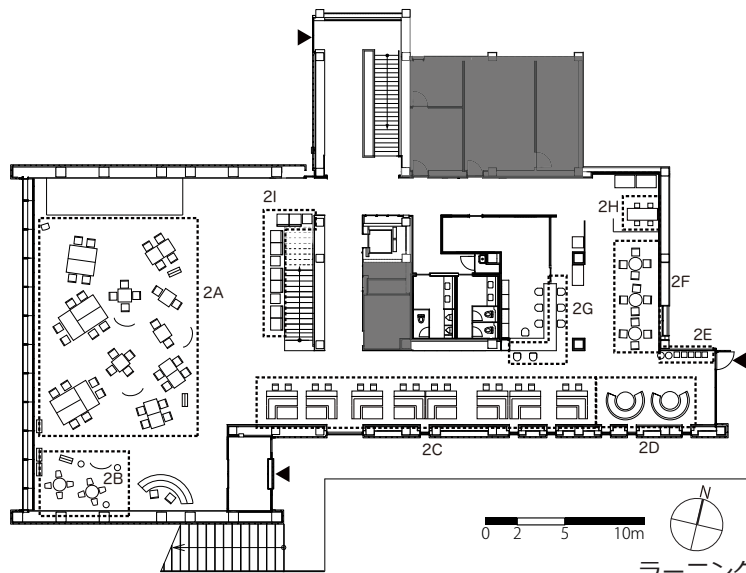
図書館 1階



図書館 3階



ラーニングcommons 3階



ラーニングcommons 2階

参考文献

- 文 1-1) 日本私立学校振興・共済事業団：平成 31 年度 日本私立大学・短期大学入学志願動向、2019.8、https://www.shigaku.go.jp/s_center_d_shigandoukou.htm (最終参照日 2020.03.13)
- 文 1-2) 文部省：文部統計要覧、大学、平成 4 年～ 13 年
- 文 1-3) 文部科学省：文部科学統計要覧、大学、平成 14 年～平成 31 年
- 文 1-4) 文部科学省 中央教育審議会：学士課程教育の構築に向けて (答申)、2008、https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm (最終参照日 2020.03.10)
- 文 1-5) 総務省：平成 18 年社会生活基本調査、生活時間編・時間帯編、2006
- 文 1-6) 文部科学省 中央教育審議会：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて 生涯学び続け 主体的に考える力を育成する大学へ (答申)、2012、http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm(最終参照日 2020.03.10)
- 文 1-7) 谷村英洋、金子元久：学習時間の日米比較、IDE 現代の高等教育 No.515、pp.61-65、2009.11
- 文 1-8) 文部科学省：第 2 期教育振興基本計画、本文、https://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/1336379.htm (最終参照日 2020.03.10)
- 文 1-9) 文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会：大学図書館の整備について (審議のまとめ) - 変革する大学にあつて求められる大学図書館、2011、http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1306126.htm (最終参照日 2020.03.10)
- 文 1-10) 文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会：大学図書館の整備について (審議のまとめ) - 変革する大学にあつて求められる大学図書館像 - 用語解説、2010.12 (参照 2020.04.16)
- 文 1-11) 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会：ラーニング・コモンズの在り方に関する提言 - 実践事例普遍化小委員会報告 (総会資料 No.62-2)、2015
- 文 1-12) 文部科学省：平成 30 年度学術情報基盤実態調査結果報告、2019.6
- 文 1-13) 杉原里美：「大学生の読書離れ止められる？」『朝日新聞』、2018 年 3 月 19 日、朝刊、p.28 (朝日新聞社 聞蔵 II ビジュアル閲覧日：2020.08.31)
- 文 1-14) 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター：第 2 回全国大学生調査 2018 第一次報告書、2019.08、http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/resource/%E6%95%99%E8%82%B2%E6%8B%85%E5%BD%93%E7%90%86%E4%BA%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB_202007.pdf (最終参照日 2020.9.1)
- 文 1-15) 金子元久：読書の危機・大学の危機、IDE 現代の高等教育 No.621、pp.4-10、2020.6
- 文 1-16) 文部科学省：新学習指導要領について、公表 2018 年 7 月 9 日、https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/044/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2018/07/09/1405957_003.pdf、(最終参照日 2020.09.10)
- 文 1-17) 溝上慎一：(理論) 大学教育におけるアクティブラーニングとは、溝上慎一の教育論、2016 年 12 月 14 日掲載、[http://smizok.net/education/subpages/a00002\(daigaku\).html](http://smizok.net/education/subpages/a00002(daigaku).html) (最終参照日 2020.9.10)
- 文 1-18) ベネッセ教育総合研究所：第 3 回大学生の学習・生活実態調査報告書、公表 2018 年 3 月 6 日、https://berd.benesse.jp/up_images/research/000_daigakusei_all.pdf、(最終参照日 2020.08.25)
- 文 1-19) 日本学生支援機構 学生生活部学生支援企画課：平成 28 年学生生活調査結果、独立行政法人日本学生支援機構、2017 年、https://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_ch (最終参照日 2020.08.25)
- 文 1-20) 松本留奈：8 年間の学生の変遷からみえる大学教育の成果と課題、第 3 回大学生の学習・生活実態調査報告書、ベネッセ教育総合研究所、pp.17-29、2018 年、<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=5259> (最終参照日 2020.08.25)
- 文 1-21) 溝上智恵子：世界のラーニング・コモンズ 大学教育と「学び」の空間モデル、樹村房、pp.1-7、2015.3
- 文 1-22) KOKUYO：コクヨ教育施設用カタログ、vol.26、pp.70-83、2019.07、<https://cata.kokuyo.com/iportal/>

CatalogPageGroupSearch.do?method=catalogPageGroupSearchByCatalogCategory&type=clcsr&volumeID=KKYF1401&catalogID=585810000&catalogCategoryID=201470000 (最終参照日 2020.11.18)

- 文 1-23) Okamura : Education [教育施設] 総合カタログ 2020-2021、pp.261-262、2020.01、<https://gmd.okamura.jp/portal/CatalogViewInterfaceStartUpAction.do?method=startUp&mode=PAGE&volumeID=OKM05&catalogId=27532170000&pageGroupId=1&catalogCategoryId=&designConfirmFlg=&keyword=> (最終参照日 2020.11.18)
- 文 1-24) ITOKI : 高等教育施設ガイドブック、pp.70-71、2019.09、https://www.uchida.co.jp/education/catalog/efacility26/#target/page_no=1 (最終参照日 2020.11.18)
- 文 1-25) 図書館情報学会用語辞典編集委員会 : 図書館情報学会用語辞典、第4版、2013.12
- 文 1-26) 新村出編 : 広辞苑 (第六版)、岩波書店、2008
- 文 1-27) 足立孝、岡田光正、神野圭人、舟橋国男 : 大学図書館の利用について、日本建築学会近畿支部研究報告集、設計計画・都市計画・住居、pp.25-28、1966.5
- 文 1-28) 足立孝、岡田光正、片倉健雄、柏原士郎、香西喜八郎 : 大学図書館の建築計画的な研究、日本建築学会近畿支部研究報告集、設計計画・都市計画・住居、pp.85-88、1968.5
- 文 1-29) 久米田紘一、佐藤仁、佐藤征 : 大学図書館の施設計画について 1- 利用目的と在館時間、日本建築学会大会学術講演梗概集、計画系、pp.493-494、1969.8
- 文 1-30) 久米田紘一、佐藤仁 : 大学図書館の施設計画について 2- キャンパスにおける他施設との関係、日本建築学会大会学術講演梗概集、計画系、pp.285-286、1970.9
- 文 1-31) 栗原嘉一郎、富江伸治、植松貞夫、門谷眞一郎、木野 修造、戸村雅昭 : 学問分野別にみた図書資料の出版数 - 大学図書館の建築計画に関する研究 1、日本建築学会論文報告集、第 286 号、pp.113-123、1979.12
- 文 1-32) 栗原嘉一郎、富江伸治、植松貞夫、門谷眞一郎、木野 修造、戸村雅昭 : 研究行為において利用される図書資料の種類と量 - 大学図書館の建築計画に関する研究 2、日本建築学会論文報告集、第 289 号、pp.131-137、1980.3
- 文 1-33) 栗原嘉一郎、富江伸治、植松貞夫、門谷眞一郎、木野 修造、戸村雅昭 : 研究行為において利用される図書資料の年令 - 大学図書館の建築計画に関する研究 3、日本建築学会論文報告集、第 299 号、pp.115-125、1981.1
- 文 1-34) 栗原嘉一郎、富江伸治、植松貞夫、門谷眞一郎 : 研究領域別にみた研究者の雑誌利用 - 大学図書館の建築計画に関する研究 4、日本建築学会論文報告集、第 311 号、pp.93-100、1982.1
- 文 1-35) 富江伸治 : 大学における図書館の構成と図書館資料の配置状況 - 大学図書館のキャンパス内配置計画に関する基礎的研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、計画系、pp.1611-1612、1984.9
- 文 1-36) 富江伸治 : 大学図書館の機構別館種と面積の構成 - 大学図書館のキャンパス内配置計画に関する基礎的研究・2、日本建築学会大会学術講演梗概集、E. 建築計画・農村計画、pp.527-528、1985.9
- 文 1-37) 富江伸治 : 学部図書館の年間図書受入冊数 - 大学図書館の規模計画に関する研究・3、日本建築学会大会学術講演梗概集、E. 建築計画・農村計画、pp.345-346、1987.9
- 文 1-38) 富江伸治、植松貞夫、門谷眞一郎、川島宏、栗原嘉一郎 : 大学図書館の利用状況 1-4、日本建築学会大会学術講演梗概集、計画系、pp.1093-1100、1981.9
- 文 1-39) 富江伸治、植松貞夫、門谷眞一郎、川島宏、栗原嘉一郎 : 大学図書館の利用状況 5-7、日本建築学会大会学術講演梗概集、計画系、pp.1493-1498、1983.9
- 文 1-40) 富江伸治 : 大学図書館の設置・配置・規模計画に関する研究、学位論文 (筑波大学)、1987.4
- 文 1-41) 西村浩一、加藤彰一、小松尚 : 大学図書館の規模と分かりやすさ、日本建築学会大会学術講演梗概集、E. 建築計画・農村計画、pp.525-526、1993.7
- 文 1-42) 小松尚、加藤彰一 : 大学図書館の規模に関する考察 - キャンパス FM 研究、日本建築学会東海支部研究報告集 第 31 号、pp.497-480、1993.2
- 文 1-43) 富江伸治 : 筑波大学図書館の入館者数・在館者数・座席専有の状況 - 大学図書館の規模算定のための一考察、日本建築学会大会学術講演梗概集、E. 建築計画・農村計画、pp.573-574、1990.9

- 文 1-44) 富江伸治:筑波大学中央図書館における利用者の閲覧機の選択、日本建築学会大会学術講演梗概集、E. 建築計画・農村計画、pp.525-526、1992.8
- 文 1-45) 駒村衣美、山口勝巳、谷口汎邦:大学図書館の電子化及び情報関連施設との関係、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp.195-196、2000.9
- 文 1-46) 谷口汎邦、山口勝巳、駒村衣美:大学における図書館と情報関連施設の融合状況 - 大学におけるメディア関連施設の融合に関する研究その 1-2、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp.95-98、2001.7
- 文 1-47) 小針崇、山口勝巳、谷口汎邦:大学における図書館と情報関連施設の融合の効果と問題点 - 大学におけるメディア関連施設の融合に関する研究その 3、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp.93-94、2002.8
- 文 1-48) 谷口汎邦、山口勝巳:武蔵工業大学横浜キャンパスにおけるメディア関連施設の利用実態と評価、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp.97-98、2003.9
- 文 1-49) 山崎俊裕、花岡雄太、和田后司:私立大学図書館の施設面積と機能の現状について - 私立大学図書館施設の現状と今日的課題に関する調査研究 その 1-2、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp.111-114、2007.8
- 文 1-50) 渡邊朗子:大学のメディアセンターにおける利用者の電子情報活動と物理的環境に関する考察、日本建築学会計画系論文集、第 510 号、pp.147-154、1998.8
- 文 1-51) 渡邊朗子、萬行英美、岸本知子、相馬健太郎:大学のキャンパスにおける人の居方と情報環境が装着された空間に関する研究 その 2-3 メディアセンターの利用と居方に関する考察、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp.235-238、2000.7
- 文 1-52) 長野佳子、渡邊朗子:大学メディアセンターにおける利用者の情報活動に関する調査、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp.567-568、2005.9
- 文 1-53) 下山準、真境名達哉:大学図書館における複数利用の実態とその特徴、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp.189-190、2004.8
- 文 1-54) 立石亜希子:大学図書館における「場所としての図書館」の利用実態、Library and Information Science 2012、no.67、pp.39-61、2012
- 文 1-55) 岩倉光助、高橋徹、蔣逸凡、中井孝幸:大学図書館の施設構成からみた学習スタイルについて - 居場所の形成からみた大学図書館の施設計画に関する研究・その 1、日本建築学会東海支部研究報告集第 50 号、pp.457-460、2012.2
- 文 1-56) 蔣逸凡、高橋徹、岩倉光助、中井孝幸:大学図書館における学習スタイルと座席選択 - 居場所の形成からみた大学図書館の施設計画に関する研究・その 2、日本建築学会東海支部研究報告集第 50 号、pp.461-463、2012.2
- 文 1-57) 中井孝幸、蔣逸凡:「個人」と「グループ」利用からみた大学図書館での居場所形成、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.245-246、2012.9
- 文 1-58) 中井孝幸、蔣逸凡:大学図書館における利用意識と利用行動からみた場としての図書館像、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.233-234、2013.8
- 文 1-59) 蔣逸凡、中井孝幸:利用者意識と座席選択からみた居場所としての大学図書館に関する研究、愛知工業大学研究報告、第 48 号、pp.297-307、2013.6
- 文 1-60) 中井孝幸、蔣逸凡:大学図書館における学習環境と利用者の図書館像 - 「場」としての大学図書館の施設計画に関する研究・その 1、日本建築学会計画系論文集、第 705 号、pp.2347-2356、2014.11
- 文 1-61) 原郭二、加藤彰一、木下誠一:大学図書館におけるコモンスペースのプレースメイキングに関する考察 - 電子ジャーナル化に伴うコモンスペースの利用変化に関する研究、日本建築学会東海支部研究報告集第 47 号、pp.421-424、2009.2
- 文 1-62) 原郭二、加藤彰一:学習スタイルの変化から見た大学図書館におけるコモンスペースの在り方に関する研究 - LC のファシリティマネジメント研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp.457-458、2009.7
- 文 1-63) 原郭二、加藤彰一:学習スタイルの変化から見た大学図書館のコモンスペースの計画と利用に関する研究 - ラーニングコモングスのファシリティマネジメント研究、日本建築学会東海支部研究報告集第 48 号、pp.369-372、

2010.2

- 文 1-64) 原郭二、加藤彰一:大学図書館のコモンスペースの利用と PBL の導入に関する研究 - ラーニングコモنزのファシリティマネジメント研究、日本建築学会東海支部研究報告集第 48 号、pp.373-376、2010.2
- 文 1-65) 柴山依子、ハサウネ・ファヘッド、加藤彰一:学習形態と学習施設の関係に関する研究:三重大学におけるラーニングコモنزの改修計画を事例として、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp. 463-464、2010.7
- 文 1-66) 柴山依子、加藤彰一、毛利志保:アメリカにおけるグループワークを支援する学習環境の考察に関する研究 - ジョージア工科大学 West Commons をケーススタディとして、日本建築学会東海支部研究報告集第 49 号、pp.421-424、2011.2
- 文 1-67) 柴山依子、ハサウネ・ファヘッド、加藤彰一、毛利志保:大学におけるグループワークを支援する学習環境に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp. 463-464、2011.7
- 文 1-68) 藤田祥行、加藤彰一:分散したラーニングコモنزにおける各所の比較に関する研究・その 1,2、日本建築学会東海支部研究報告集第 58 号、pp.373-380、2020.2
- 文 1-69) 山岡俊介、佐藤涼介、五十嵐勇里、矢野裕芳、渡辺富雄:大学図書館のラーニングコモنزの現状:国内の 14 の大学図書館の事例、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 229-230、2013.7
- 文 1-70) 重田真裕美、赤川貴雄:大学図書館におけるラーニング・コモنزの学習支援環境に関する研究、日本建築学会研究報告九州支部、計画系、第 52 号、pp.73-76、2013.3
- 文 1-71) 安部信汰、夏目欣昇:国公立大学図書館におけるラーニングコモنزの現状、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.107-108、2016.8
- 文 1-72) 有光史弥、田中智之:ラーニングコモنزと空間構成、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 123-124、2015.9
- 文 1-73) 石塚由布子、水野遊、柳澤要:アクティブラーニングと自主学修空間におけるケーススタディ - 大学における先進的な学習空間に関する研究 (その 3)、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 331-332、2014.7
- 文 1-74) 中原拓哉、宮本文人:大学図書館における建物形態と機能構成、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 419-420、2014.9
- 文 1-75) 石塚由布子、與安拓馬、柳澤要:千葉大学附属図書館の新学習空間におけるケーススタディ - 大学における先進的な学習空間に関する研究 (その 2)、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 475-476、2013.7
- 文 1-76) 浅間亮太、込山教司:空間転用により整備されたラーニングコモنزの利用実態 - 秋田県立大学本庄キャンパスを対象として、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.567-568、2017.7
- 文 1-77) 川角典弘、高木祐多:大学図書館における学生の居場所と行動に関する基礎的研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.421-422、2014.7
- 文 1-78) 堀江壮、田上健一:大学のラーニング・コモنزが有する空間的課題、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 277-278、2015.7
- 文 1-79) 阿部葵、横山峻祐、徳尾野徹、石山央樹:大学のラーニングコモنزにおける過ごし方の特性の研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.349-350、2019.7
- 文 1-80) Bennet, Scott. : First Questions for Designing Higher Education Learning Spaces. The Journal of Academic Librarianship, Vol.33, 2007, No.1, p.14-26
- 文 1-81) 與安拓馬、柳澤要:大学の図書館・メディアセンターにおける学習空間の研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 139-140、2012.7
- 文 1-82) 與安拓馬、石塚由布子、柳澤要:アクティブラーニング空間を中心としたケーススタディ:大学における先進的な学習空間に関する研究 (その 1)、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 473-474、2013.7
- 文 1-83) 伊藤宏毅、夏目欣昇:大学におけるラーニング・コモنزの利用と運営からみた類型化:東海圏 7 大学を事例として、日本建築学会東海支部研究報告集第 55 号、pp.461-464、2017.2

-
- 文 1-84) 伊藤宏毅、夏目欣昇：大学におけるラーニング・コモنزの利用と運営からみた類型化：東海圏 7 大学を事例として、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.129-130、2017.7
- 文 1-85) 杉浦嵩人、夏目欣昇：運営と教育からみるラーニング・コモنزの利用実態 - 東海地区の大学を対象として、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.351-352、2019.7
- 文 1-86) 川角典弘、小倉早貴、吉田知央、松榮将也、川邊秀明：アメニティ性と行動選択からみた空間構成に関する研究 (その 2) - 附属図書館の使われ方と利用イメージの観察調査、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp. 761-762、2010.7
- 文 1-87) 田中隆一郎、大山真司、中井孝幸：利用目的と利用行為からみた図書館像 - 居場所としての大学図書館の施設計画に関する研究・その 1、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.423-424、2014.7
- 文 1-88) 大山真司、田中隆一郎、中井孝幸：図書館の座席レイアウトからみた滞留行動について - 居場所としての大学図書館の施設計画に関する研究・その 2、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.425-426、2014.7
- 文 1-89) 栗山和也、横田隆司、飯田匡、伊丹康二：大学図書館における諸室の建築計画と利用実態に関する研究 - ラーニング・コモنزに着目して、日本建築学会近畿支部研究報告集、計画系、第 53 号、pp.93-96、2013.8
- 文 1-90) 栗山和也、横田隆司、飯田匡、伊丹康二：大学図書館における諸室の利用実態に関する研究：ラーニング・コモنزに着目して、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 231-232、2013.7
- 文 1-91) 徐華、西出和彦：大学図書館の学習スペースにおける学習効率及び心理評価、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 719-720、2015.7
- 文 1-92) 大山真司、楠川充敏、中井孝幸：大学図書館における学習スタイルからみた図書館サービスと利用行動に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.121-122、2015.7
- 文 1-93) 谷川羅依騎、鶴賀美里、松本裕司、仲隆介：空間要素が学習に与える影響：利用者の学習空間に対する評価に着目して、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.135-136、2017.7
- 文 1-94) 長井瑞希、松本裕司、仲隆介：大学生の学習空間の選択特性に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.131-132、2017.7
- 文 1-95) 河合孝一郎、武田史朗、及川清昭：立命館大学大阪いばらきキャンパスにおけるラーニング・プレイスの考え方と利用実態・その 2、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.133-134、2017.7
- 文 1-96) 川角典弘、菅原幹人、中元希：大学図書館の空間構成分析と動線計画に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 235-236、2013.8
- 文 1-97) 大村清美、松林道雄、渡辺俊：大学図書館におけるラーニング・コモنز空間の整備実態と学生の利用動向、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.127-128、2017.7
- 文 1-98) 鈴木悠介、夏目欣昇、前田明洋：大学のラーニングコモنزにおける人的支援の特徴 - 東海地区の理工系コースを持つ大学を対象として、日本建築学会東海支部研究報告集第 58 号、pp.389-392、2020.2
- 文 1-99) 日本図書館協会図書館調査委員会：日本の図書館 - 統計と名簿 2015、日本図書館協会、2016.2
- 文 1-100) 図書館年鑑編集委員会：図書館年鑑、日本図書館協会、2014-2018
- 文 1-101) 栗原嘉一郎、富江伸治、奥平耕造：建築学体系 30 図書館・博物館の設計、彰国社、1983.8

第2章 大学図書館とラーニング commons の 整備・計画の変遷と現状

第2章 大学図書館とラーニングcommonsの計画の変遷と現状

2.1 研究の目的と方法

大学図書館は、キャンパス施設の中核機関として学術研究を支援する学習場所である。そしてLCもまた、新しい学習を補う形で計画され、キャンパス内の学習スペースとして主要な位置を確立しようとしている。この2つの学習場所は、社会状況や要請に応じ、あらゆる変化を捉えて整備がされている。LCは、開架閲覧室から発展し、初めて導入してから約20年が経ち、現在も増加傾向にある。

本章では、どのようにして現在の開架閲覧室とLCが整備されてきたかを年代別で明らかにする。平面構成の分析にあたり、先進事例である米国を参照したのち、国内の主要な文献より情報を得る。次に時代背景と共に発展した学習場所整備の変遷を整理する。

その後、実際に現状、どのように開架閲覧室やLCが整備され、どのような取り組みを行っているかを地域を限定して大学図書館職員にアンケート調査を実施して把握する。そして、本研究の位置づけと本研究に対する問題点の整理を行う。

2.2 米国における大学図書館の変遷とラーニングcommonsの導入

第二次世界大戦後、連合国軍の支配下で新しい教育の仕組みができ、米国を模範とする大学の在り方が日本で誕生する。しかし、社会構造や抱える問題が日本と米国では異なるため、同じ空間づくりを行っても成功するとは言い難い。大学図書館も例外ではなく、米国の影響を強く受ける側面がみられる。そこで、米国の図書館事情に触れ、どの面が日本に影響を与えたか整理する。

2.2.1 学習図書館の発展とモデューラープランニング

(1) 蔵書冊数の増加とモデューラー・プランニング

19世紀はじめ米国は、当時世界の学術の中心であったドイツへ多くの留学生を送り出す。第一次世界大戦以降、学術中心はドイツから米国に移行し、大学図書館もまた同じように変化することになった。研究活動に必要な蔵書と学生人口の増加は、建築空間に対して次第に柔軟性（flexibility）や拡張性（expansibility）を求めるようになる。

そこで、これまで図書館計画の主流であった「機能固定型図書館」（図2-1）^{注2-1)}に対して「機能非固定型図書館」が生まれる。モデューラー・プランニングは、空間用途の融通性を最大限に求める平面計画手法であり、建物全体の空間用途・

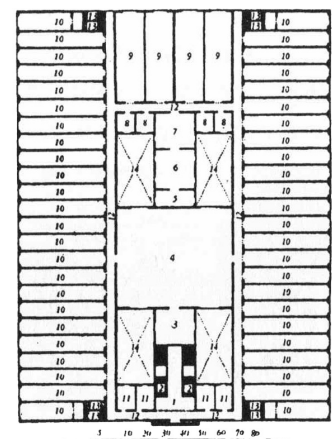


図2-1 機能固定型図書館（デラ・サタンの図書館平面図）

機能を固定させずに将来性を踏まえて可變的に利用できる特色があり、当時の米国のトレンドになった^{文2-1)}。

注2-1) ウォールシステムと呼ばれる建物の室内床面から壁にかけて配架できる本棚が配置され、本棚と壁がセットになったタイプの配置構成をとる図書館である。それと同時に利用者、蔵書、職員の3つの空間を完全に壁で分離した空間構成をしている。

(2) 学習図書館の導入

そして、第二次世界大戦以降、多くの兵士が退役することになり、1944年に復員兵援護法 (Service-men's readjustment act of 1944) が制定され、大学の授業料や生活費の補助が謳われた。それにより、大学に入学する学生数が増加し、大学図書館では閲覧スペースの不足となり、建設ラッシュが始まることになり、単純明快なモデュラープランが流行する。一方で、従来行ってきた研究のためのレファレンスの対応も支障をきたしてきた。

そこで、学習図書館 (Undergraduate libraries)^{注2-2)} と呼ばれる大学図書館の利用法に習熟していない学生に、館内の蔵書や人的サービスを展開した学習支援空間を整備した。学習図書館は、学習活動に対する支援を行い、蔵書 (ほとんどが副本) やスペースのみの提供に限らない場であった。すなわち学生への人的支援が行われる場所であり、この時点で人 (ライブラリアン) によるサポート体制が米国には存在している。なお、学習図書館は1970年半ばをピークに減少していった。また、モデュラープランも建設費用やエネルギーの非効率性、均質空間への問題意識から、次第に建設されなくなり、そこから脱出する大学図書館が計画されるようになった^{文2-3)}。

注2-2) Irene A. Braden 文2-2) によると、1 開架式であること、2 学部学生に対して集中・簡略化されたサービスを提供すること、3 学部学生のための授業と関連した図書や一般教養のための図書コレクションを提供すること、4 将来的に学部学生が、大規模で複雑な研究図書館を使いこなせるよう、学習図書館そのものが教育ツールとしての役割を果たすこと、5 視聴覚資料の利用、ミーティングや討論ができるスペース、展示など、より広範囲の学習機会を学部学生に与えること、6 学部学生の好みや志向を考慮してデザインすること、の6つを挙げている。

2.2.2 ラーニングコモنزの誕生

(1) インフォメーションコモنزの誕生

LC の話を進める前に、LC の前進の考え方である IC (インフォメーションコモنز) と呼ばれる学習環境を整理する必要がある。米国は世界的にみても早期に電子化の流れを受け、LC の前身として、インフォメーションコモنز (以下: IC) という空間が作られた。中でも、ジャクソン・コミュニティ・カレッジは、IC が最初に整備された場所として有名である。

Beagle^{文2-4)} は、IC について、「学習支援のために組織された物理的、電子的、人的、社会的支援を関連付けた、ネットワーク利用のためのアクセスポイントと、関連する IT のツール集合体」であるとしている。ICT 活用のためのバーチャルな環境とそれを利用する物理的な環境の両方を指している。そして、IC の構成として、以下の3つにまとめ、これらで統合的な議論を推し量る必要性を述べている。

- ・物理的コモنز (物理的資源: ワークステーション、グループ学習環境、印刷コレクション等)
- ・仮想的コモنز (デジタル資源: ウェブサイト、データベース、サーチエンジン等)
- ・文化的コモنز (社会的資源: 共同研究、アカデミックスキル、ワークショップ等)

を挙げている。

MacWhinnie^{文2-5)}によると、ICは、デジタル情報資源と印刷情報資源に素早く柔軟なアクセスを提供し、快適で協力的な環境のもとで学術研究を推進することができ、協同学習を促すスタッフの配置がある空間としている。

また、Lippincott^{文2-6)}は、学習のために多様なコンテンツや学生個人では購入できないテクノロジーを提供し、協調と相互作用を促進するスペースを提供することで、これらの活動を育成する環境をつくる場所として捉えている。さらに、ICは図書館に従来から存在していたサービス・空間と位置付けており、大きな違いは、意図的であるかどうかであると述べている。

これらは、先で述べた Beagle の定義と類似した認識であり、そのことからICは、①デジタル情報資源の閲覧・検索と②電子情報機器の利用を可能にし、それらの閲覧や使い方に対して、③人（司書を含む図書館職員）を通して学生にサポートする場所であると考えられる。また、ICは従来の開架閲覧室があつてこそその空間であり、図書館機能の一部として学習する環境を提供している。

(2) インフォメーションcommonsからラーニングcommonsへの発展

ICの機能や概念を維持し、大学全体、あるいは学部学科の教育方針と連動した場合にLCになるとしている。LCが機能するには、図書館や大学コンピューティングのような支援・サービス部署による協力だけでなく、当該機関の学習目標を策定した大学の部署の関与が必要であり、大学図書館員の担当者だけでは、LCの設置はできないとしている。図書館員は、支援者であるが策定者ではないため、図書館員や技術者を加えなければならないと述べている。

ICからLCへの移行を図にしたもの図2-2に示す。①、②はICに、③、④はLCに該当するとされている。

また、Bennett^{文2-7)}も同様に、Beagleの言葉を借りながらも、ICを機関の使命を支援し、LCはそれを制定する（成立させる）ことであるとしている。

MacMullen^{文2-8)}によると、LCにはマルチメディアプロジェクトを展開する学生をサポートした高度なテクノロジー設備、利用者の要求の赴くままに変化すること、人間中心の設計に焦点を置くこと、を要求している。そして、9つのスペースを例に挙げている（図2-3）。

その後、学士課程教育において、知識の伝達ではなく知識の創造と自律的学習が必要であるという認識で、LCは広まった。2000年初頭に137大学を対象にしたweb調査によって、当時のLCのサービス内容を示す報告がある^{文2-9)}。取組んでいるサービスは、「貸出」102大学、次いで「研究支援」92大学、「テクノロジー支援」66大学の順であった。貸出が上位にきていることで、これまでのレファレンスデスクでのサービスにLCのサービスが付随したものであると述べている。

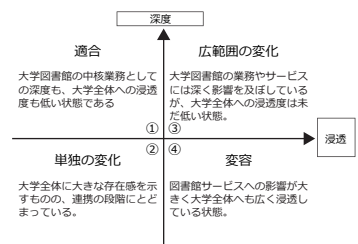


図2-2 変革構想のマトリクス

- MacMullenによる米国の大学でみられたスペース
- A. コンピュータ・ワークステーション・クラス
 - B. サービスデスク
 - C. 共同学習スペース
 - D. プレゼンテーション・サポート・センター
 - E. FDのための教育テクノロジー・センター
 - F. 電子教室
 - G. ライティング・センターと他大学サポート施設
 - H. 会合、セミナー、レセプション、プログラム及び文化イベントのためのスペース
 - I. カフェとラウンジ

図2-3 MacMullenによる米国の大学でみられたスペース

また、米国の University of Rochester では、人類学者の Nancy Fried Foster 博士が図書館で行動観察調査やニーズ調査を行い、その都度、家具を移動させたり、図書を電子化するなどして空きスペースを作り、空間構成を検討している。

Georgia Institute of Technology では、Student Advisory Board と呼ばれる学生組織が代表して図書館のニーズを把握している^{文2-10}。

以上のように米国の大学は、20世紀には研究分野において世界をリードするところまで成長している。それに伴い図書館の役割は、学習と研究機能に明確に分け、サービスを行う対象を絞り込んでいた。

図書館に不慣れな学生に対しては、職員が支援する体制が早期につくられ、根付いている。LC 導入以前にそういった考え方が示されていることで、ICT と人的支援が盛り込まれた LC が構築できたと考えられる。

では、日本は施設整備においてどのような変遷であるかを次節でみる。

2.3 日本の大学図書館の平面計画の変遷と代表作品

日本で最初にできた大学図書館は、1877年（明治10年）に東京開成学校・東京医学校を合併してできた旧東京大学（東京帝国大学）である^{注2-3}。東京大学の図書館は当初、〈図書ヲ貯蔵スル所〉という考えの基で運営されていた。しかし、岩猿ら^{文2-1}によれば、中央図書館としてつくられたのではなく、各部局に点在する複数の図書室の総称であったと述べている。その後1918年に、〈東京帝国大学附属図書館ハ東京帝国大学所蔵図書ノ管理ニ関スル事務ヲ掌ル〉（東京帝国大学図書館規則・第一条）としており、貯蔵から管理・処理の場所へと変化していった。

私立大学でも古い歴史を持つところもある。龍谷大学や大谷大学は、東京大学の設立以前に書物を管理する組織である文庫をもっていたとされている^{文2-11}。近代的な大学としては、慶應義塾大学の図書館が挙げられる。また、慶應義塾大学の創立者で知られる福沢諭吉は、日本に初めて西洋諸国の図書館を持ち込んだ人物としても認識されている^{文2-12}。

戦後は、米国の指揮のもと、1952年に国公私立大学全てに適用する『大学図書館基準』を策定し、全国の大学図書館の最低基準ではなく、向上基準を目指した。ハードに関わる部分として、基準の施設・設備の項目^{注2-4}では、利用スペース（閲覧室）、利用者サービスの計画に配慮すると共に、利用の動向を注視して随時改善することを図ることが述べられている。

そして4年後の1956年に発表された大学設置基準^{注2-5}では、大学図書館の設置が義務づけられた。図書館が保存収集の機能を中心とする考え方を改め、教育機関としての効果を十分に発揮するよう、奉仕の考え方に変化してきた。

代表事例の収集は、以下の文献を対象にして資料収集を行った。その他代表

注2-3) 1877年に学習院（現在の学習院大学）が開講され、3183部、1万5406巻の和漢洋の蔵書を備えていた。当時は文部省が定めたところによる大学としてではなかったため、東京大学を最初として扱う。

注2-4) 大学図書館基準〔昭和二十七年六月一七日大学基準協会決定〕

(1) 大学図書館は、その機能を十分に発揮しうよう設計されなければならない。

(2) 大学図書館は、大学構内の適切な位置に建設されなければならない。

(3) 大学図書館の性格および規模に応じて、利用スペース、収蔵スペース、業務スペース、その他のスペースが有機的に配置されていなければならない。

(4) 大学図書館の施設・設備は、すべての利用者が快適に図書館サービスを受けられるよう常に環境と条件が整備され、維持されるとともに、大学における研究・教育活動の進歩発展と図書館の行うべきサービスの拡大に伴い、随時改善がはからなければならない。

(5) 大学図書館は、研究・教育・学習に必要な十分な規模であり、かつその時代の趨勢に沿って柔軟に対応しうようスペースの互換性や拡張の可能性について配慮したものでなければならない。

注2-5) 大学設置基準（昭和三十一年十月二十二日文科省令第二十八号）最終改正：平成二十四年五月一〇日文科省令第三号

（校舎等施設）第三十六条 大学は、その組織及び規模に応じ、少なくとも次に掲げる専用の施設を備えた校舎を有するものとする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育研究に支障がないと認められるときは、この限りでない。

一 学長室、会議室、事務室

二 研究室、教室（講義室、演習室、実験・実習室等とする。）

三 図書館、医務室、学生自習室、学生控室

的な事例の詳細については、適宜複数の文献から把握した。それらの情報は章末の参考文献に記述（文 2-39-46）する。なお、得られたすべての大学図書館。LCの学習環境は、付録に記載し、特に代表的な施設を年代を追ったものは表 2-1 に示す。

- ①『図書館建築図集』：日本図書館協会編、1964年
- ②『図書館建築図集'79』：日本図書館協会編、1979年
- ③『日本図書館協会建築賞作品集 1985-2006 - 図書館空間の創造』：日本図書館協会施設委員会図書館建築図集編集委員会編、2007年
- ④『建築設計資料集成 7 建築文化』：日本建築学会編、1981年
- ⑤『建築設計資料集成 [全面改訂版] 教育 図書』：日本建築学会編、2003年
- ⑥『新建築』：新建築社、1959年～2019年
- ⑦『近代建築 特集 図書館の設計と計画 2008』：近代建築社、2008年
- ⑧『わが国の大学図書館におけるラーニング・commonsの事例研究』：上田直人、長谷川豊祐、名古屋大学附属図書館研究年報 7、2009年

2.3.1 大学増加による量的確保

国立大学は、旧制高校や師範学校の校舎を引き継いで新制大学の校舎として整備したことでキャンパスの分散が生じていた。さらには、米露での宇宙開発の影響、経済からの要請によって、理工学の分野の拡張を模索中であった。そこで、キャンパスの統合や理工系大学の新設に追われ、図書館の改善に取り組む時間はなく、特に地方はその問題は深刻であったとされている。

一方で、戦後のベビーブームの影響により、特に大学入学志願者の急増する1966～69年の対策として、私立大学を中心に入学定員の大幅な増加を図ってきた。そのような中で、次々と増築・新設した図書館が増えていく。中でも代表的な建築をいくつかあげたい^{文 2-13-15}。

(1) 閲覧席と書架が分棟する戦前のタイプ

立教大学（図 2-4）は、閲覧室・蔵書共に手狭になった旧図書館（大正 5 年）に増築させた事例である。旧図書館との調和を図るため尺度の統一を調整している。また単なる書庫としてではなく、学生生活の中心である広場に向けて大階段を設け、キャンパスの顔を意識して計画されている。一方館内は、当時の基本的な配架方式で、入口に目録室と参考図書エリア、そして書架と閲覧室が完全に分離した計画である。現在、改修によって 2,3 階は、メーザー・ラーニング・commonsとして整備している。

(2) 日本初開架方式の採用

開架式が主流であった図書館は、1960 年代以降に開架方式で閲覧空間を提供するようになった。現在のような全面的、あるいは広範囲で開架方式を採用

表 2-1 日本の大学図書館と LC の施設整備の変遷

年代	社会状況	大学を取り巻く環境	図書館と LC の動向	代表作品
戦前 ~1940年代	'45 終戦 '49 湯川秀樹が日本人初ノーベル賞受賞		帝国大学をみると、各学部に散らばった書籍の整理。中央館としての機能を確立を目指す。	'28 東京帝国大学図書館（内田 祥三） 関東大震災で焼失したが、ロックフェラー Jr.より図書館再建資金400万円受ける
1950年代	GHQの指導を受けて、公共図書館の改革が始まる '54 高度経済成長開始 '57 カラーテレビ放送開始 '59 スプートニクショック	'56 大学設置基準 '59 工場等制限法 施行	'52 大学図書館設置基準	'58 神奈川大学図書館（RIA建築総合研究所・山口文象） '60 立教大学図書館（丹下 健三）
1960年代	'60 国民所得倍増計画 '63 中小都市における公共図書館の運営（中小レポート）発行	'60 理工系学部新設の緩和による増加 '65~70 東大紛争・全学共闘会議（学生運動）	第二期 大学の量的確保と座席数の確保 ↓ 学生数が増え、量的確保は続く	'60 国際基督教大学図書館（アントニン・レーモンド） 全面開架方式を採用する。 '68 東京経済大学図書館（鬼頭梓建築設計事務所）
1970年代	'70 高度経済成長終了 '74 書籍売上過去最高 '76 日本ベクター社がVHS(Video Home System) 第一号を発売	'75 私立大学振興助成法施行（私学助成が格段に充実） '79 大学共通一次試験導入	第三期 MSの登場と 視覚機能的整備 ↓ 目録の標準化 データベースの管理	'73 同志社大学図書館（栗原研究室、富家建築事務所） '73 東京工業大学図書館（東京工業大学施設部+石塚建築事務所） '78 中央大学図書館（多摩）（久米設計） '79 筑波大学中央図書館（筑波大学中央図書館設計小委員会、筑波大学施設部+岡田新一建築設計事務所）
1980年代	'82 CDソフト・プレイヤーの発売開始 '83 任天堂が「ファミリーコンピュータ」発売 '84 電話回線を用いたコンピュータネットワークが、東大、東工大、慶応大の3大学で開始 '85 一般向けにLaptop（ノートPC）が普及		第四期 パソコンと「ロ」機器の導入 ↓ 一次資料の電子化	'81 慶応義塾大学図書館 新館・三田情報センター（楨総合計画研究所） '82 金沢工業大学メディアセンター（大谷幸夫+大谷研究室） '84 関西大学図書館（鬼頭梓建築設計事務所） '87 京都産業大学図書館（日建設計）
1990年代	'91 バブル崩壊 '93 World Wide Web（www）が自由公開し普及し始める '95 Microsoft 社が「Windows95」を販売 '96 東芝が「DVDプレイヤー」を世界初で発売	'90 大学入試センター試験導入開始 '92 18歳人口が204万人超となり、以後減少が始まる	第五期 オープンアクセスへの関与 ↓ 座席数（学生数に対し10%）の目安の規則削除	'90 慶応義塾大学湘南藤沢メディアセンター（楨総合計画研究所） '96 大阪市立大学学術情報総合センター
2000年代	'03 Google社が「Google Print（現 Google Books）」プロジェクトを始動 '07 Apple社が「iPhone」を発売 '07 Amazon社が電子書籍「Kindle」の利用を開始 '09 リーマン・ショックで経済低迷	'02 工場等制限法廃止され、大学の都心回帰が進む '04 国立大学法人化	第六期 ラーニングコモンズの導入・積極的な学習支援 ↓ 図書館+LC+α 研究支援	'00 国際基督教大学 The Mildred Topp Othmer Library（レーモンド事務所） '00 公立はこだて未来大学（山本理顕設計工場） '06 お茶の水女子大学図書館・改修（??） '07 多摩美術大学図書館（伊東豊雄建築設計事務所） '09 大手前大学さくら夙川キャンパスメディアライブラリー「CELL」（日建設計） '10 国際教養大学図書館（環境デザイン研究所）
2010年代	'10 Apple社が「iPad」を発売			'12 明治大学和泉図書館（松田平田設計） '12 千葉大学アカデミックリンク（佐藤総合計画） '13 同志社大学良心館（東畑建築事務所・類設計室） '16 近畿大学 ACADEMIC THEATER（NTTファシリティーズ） '19 梅光学院大学 The Learning Station CROSSLIGHT（小堀哲夫建築設計事務所）
2020年以降	'19 第5世代移動通信システム（5G）の運用開始	'20 国立大学一法人複数大学（アンブレラ方式）の導入（名大と岐大で開始） '30 18歳人口が100万人を割る予想		'22 （予定・仮称）駒沢大学図書館（石本建築事務所） '23 （予定・仮称）青山学院大学図書館（清水建設）

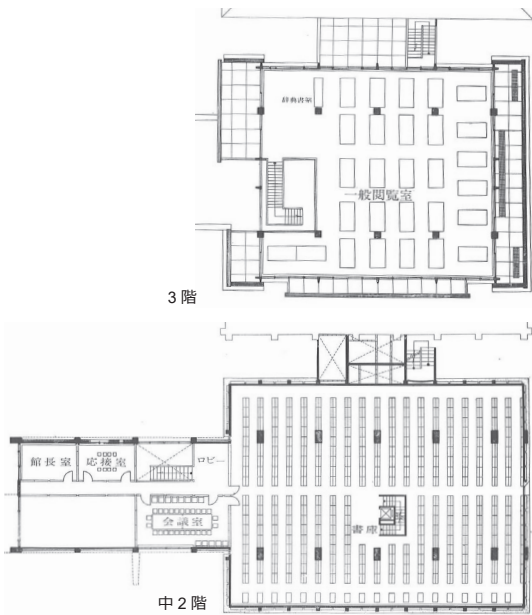


図 2-4 立教大学図書館 (丹下健三 1960) 1:700

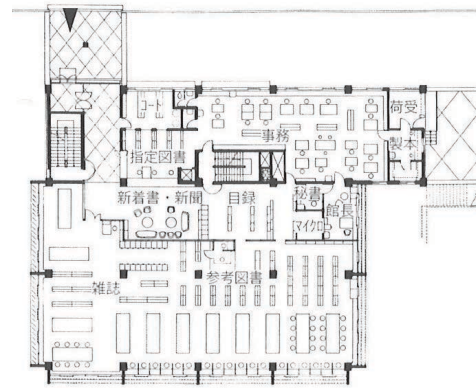


図 2-5 国際基督教大学図書館 2階 (アントニン・レーモンド 1960) 1:700

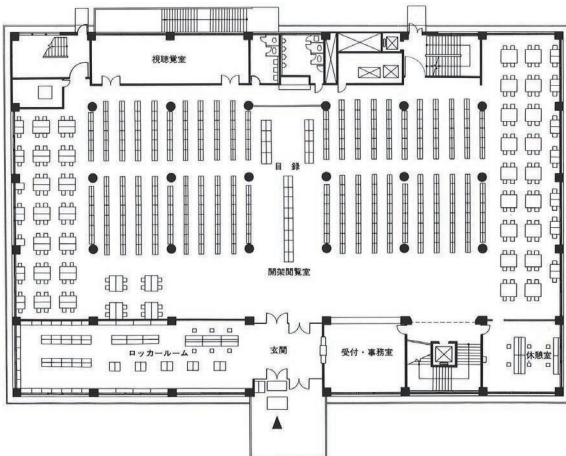


図 2-6 東京工業大学附属図書館 1階 (東京工業大学施設部+石塚建築事務所 1973) 1:700

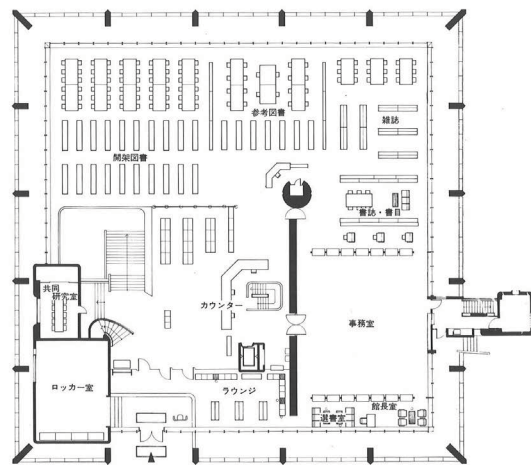


図 2-7 東京経済大学図書館 1階 (鬼頭梓建築設計事務所 1968) 1:700

した初めての大学図書館として、国際基督教大学附属図書館（以下：ICU）が挙げられる（図 2-5）。

ICU は、1957 年に米国のクレスギー財団とロックフェラー財団の寄付金によって図書館整備に向けた計画が動き出した。また、コンサルタントとして図書館建築に詳しい建築家オコーナー氏を招聘し、1960 年に米国式の図書館を完成させた。当時の米国式は、全面開架式を採用することであり、自由に学生が入って閲覧が可能で最先端の配架システムであった。また、モジュラープランニングを日本で初めて採用し、柱を少なくし壁があまり設けられていない建築様式とした。

(3) モジュラープラン

1980 年代まで主流となるモジュラープランを採用し、その原型とも呼べる図書館であったのが、東京工業大学附属図書館（図 2-6）である。国立大学で初めて全面開架方式を採用し、閉架書庫は一切設けない徹底ぶりである。図書

利用の利用者を完全にターゲットにしていることから自習室を廃止している。ICUと同様、当時の基本的な考えであった出入口のロッカールームは非常にゆとりがある。また視聴覚室は、開架閲覧室を通過して利用する形式で、当時まだ、視聴覚資料が充実しておらず、手探りで設計であったため、動線上の問題を抱えているとされている。

(4) 無柱空間の図書館

モジュラープランがトレンドになりつつあるところだが、全く新しい建築の一つとして、鬼頭梓氏が設計した東京経済大学図書館（図 2-7）が挙げられる。エントランス階である1階は、館内には柱を設けず、目録、参考図書や雑誌などサービスの中核をまとめ、職員の要望を忠実に再現している。一方、地下階は書架と閲覧席が分離されており、スタッフの監視があるわけではないが、管理上に配慮した点が残されている。

2.3.2 VHS の登場と視聴による閲覧機能の整備

1960年代に起こった量的整備は70年代も続いた。第二次ベビーブームによって高等教育機関に対する社会的需要に即応した変革はほとんど行われず、大学教育自体では遅れをとった時期とされている。

一方、図書館では利用者教育に力を入れるようになってきた。日本は先進国に比べ、ソフト面が追いついておらず、相互貸借や市民公開が進んでいない等が課題として挙げられていた。そのような中で、基本的文献の案内、授業内容に応じた文献案内などが重視され、さらに図書館職員の研修も積極的に実施されてきた^{文2-16}。

施設としては、70年初めにつくられたVHSの登場によって、視聴覚室が新しく登場する。伊藤ら^{文2-17}に研究によると、VHSは、一般に普及し始めた76年頃から増加し、80年代に入り一気に増加した。特に80年代竣工の7割はAVブースを導入している。その後もAVブースは増加し、1990年の郵送アンケート調査によると、442大学中、53.8%がAVブースを導入していることが明らかになっており、当時のトレンドであった。また、私立大学でも図書資料がキャンパス内に分散しており、集中化を図るために中央図書館の建設が進むようになった。以下は、当時先進的かつ、多くの建築雑誌等に掲載された4大学の図書館を事例にトレンドをみていく。

(1) 全面開架方式の採用とBDSの設置

最も先進的かつ大規模図書館として、さらに図書閲覧機能を管理や利用の観点から総合的に見直し最良の形で示したた大学図書館として筑波大学中央図書館（図 2-8）が挙げられる。

全学的な集中管理式、全面開架方式、電算化を積極的に採用・導入している。

全面開架方式は、日本では初めての事例であり、さらに当時としては珍しかったブック・ディテクション・システム（BDS）を採用した。一方で配架状況は、目録や二次資料が入口付近に設置されているなど大きな変更点行っていない。また貸出返却、蔵書検索をコンピュータによって管理する仕組みを採用し、そのため、目録コーナー付近に情報検索室が設けられている。ハードの面では、研究資料も一括でまとめていることから、研究個室も60室以上を提供しており、研究図書館としての機能も充実させる計画がされた。

(2) 都心の大規模図書館

他の私立大学同様に、都心部にキャンパスを整備する動きが始まる。首都圏など、狭い敷地に対応できるよう、高層の図書館建築（地下5階、地上7階）として先進事例であったのが、慶應義塾大学図書館新館である（図2-9）。慶応は、当時、私大では最大級の100万冊以上の蔵書を誇っていた。そのため日本で最

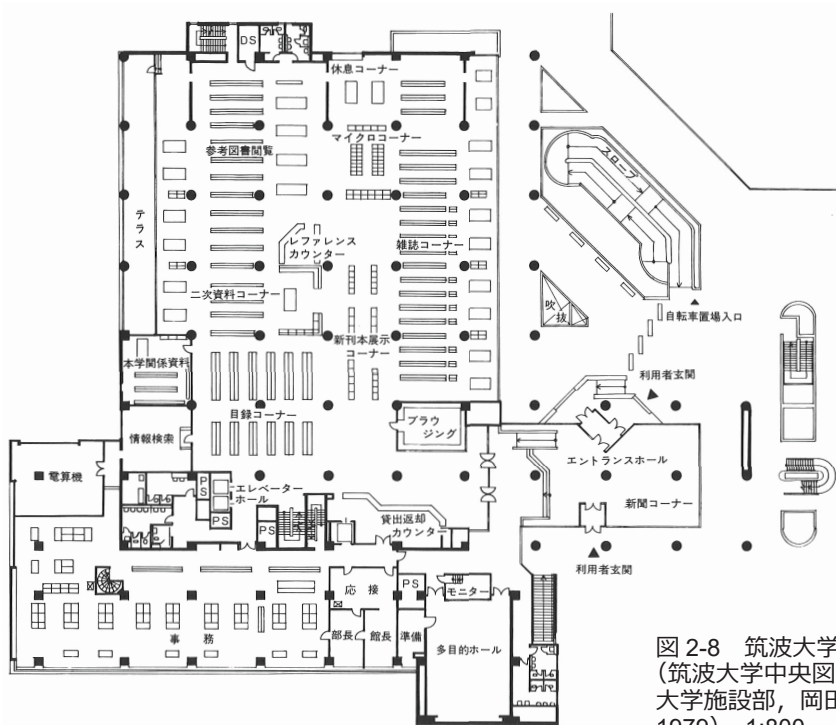


図 2-8 筑波大学附属中央図書館 2階
(筑波大学中央図書館設計小委員, 筑波大学施設部, 岡田新一建築設計事務所 1979) 1:800

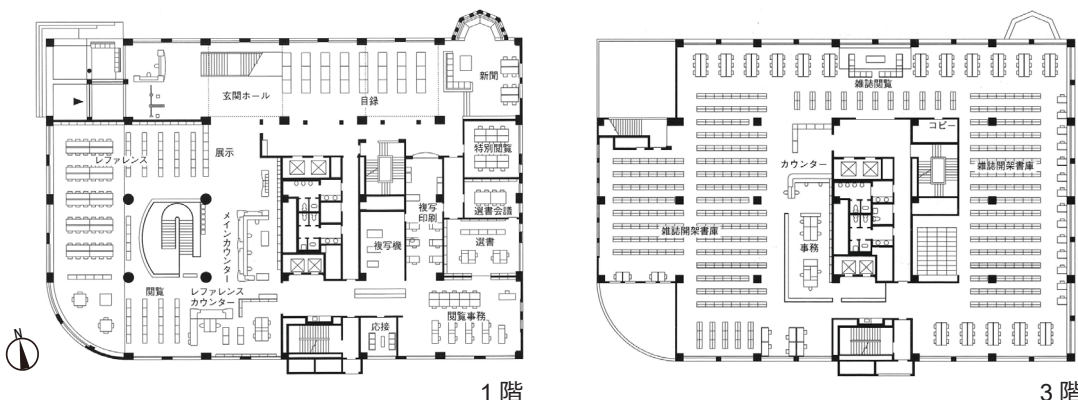


図 2-9 慶應義塾大学図書館新館（楨総合計画事務所 1981）1:800

も広い延床面積（約 15,000 m²）が誕生し、キャンパス内でも図書館は外観的にも象徴的な位置づけである。

設備として、筑波大学と同様に BDS を導入している。図書館では珍しいセンターコアを採用し、回遊性を持たせ、さらに書架スペースの内 8 割が開架方式として運用していることから、館内を自由に利用でき、図書資料を階を跨いで、動き回れるようになった。

また、図書館利用指導（特にグループ単位）や資料展示など周辺サービスを提供することを目標に掲げていたことから 80 席の AV ホールを設けた。そのため、館内利用に限らず、学会等、館外活動の場所としても利用されるようになった。このように、図書館内の活動だけでなく館外へ開いていく施設の先駆けでもあったと思われる^{文2-18)}。

(3) 中央図書館への機能集約

先の 2 大学を含め、中央図書館への機能集中が話題になった時代である。図書資料の集中に対して問題となるのが、学習・研究・収蔵・管理のそれぞれの機能空間をどのようにまとめるかである。全学蔵書の 90% の集中管理を実現したものとして関西大学総合図書館（図 2-10）が挙げられる。最も多い学部生を対象とした学習図書館機能は、メインの 2,3 階に配置し、利用者が最もアクセスしやすい場所を確保している。学生数 1 万人以上の学生を持つ大学の図書館として、模範的な建築であった。

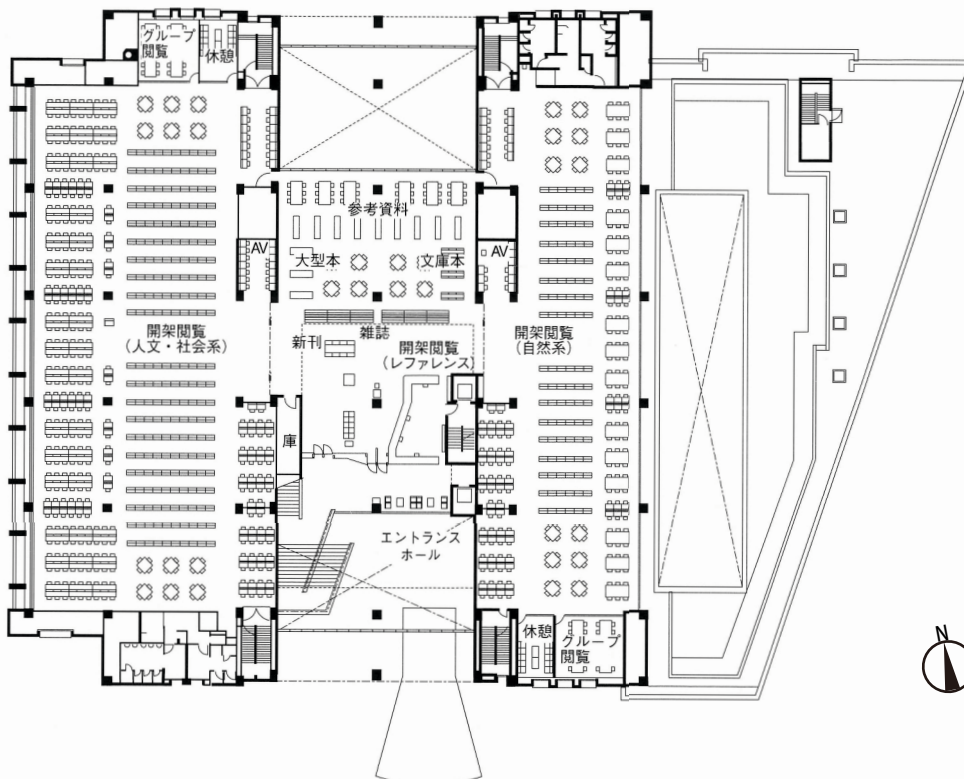


図 2-10 関西大学中央図書館 2 階(鬼頭梓建築設計事務所 1984) 1:800

(4) 中央図書館の確立

日本図書館協会建築賞を受賞した京都産業大学図書館は、これまでの図書館整備の潮流を集約した図書館であったと考えられる（図 2-11）。

ここもまた各部局（6 か所）に散らばった図書資料を一元管理するために、中央図書館の建設を進めた。特徴的な点として、学術情報センターとしての位置づけ、およびカードレスの図書館を目指すことであった。

1 階には、大人数が収容できる視聴覚ホールがある。また個人、グループで利用できる AV ブースがある。またマイクロフィルムの自動出納保管庫も設置している。2,3 階は、開架閲覧室になっており、書架と閲覧席がセットになっている。なお、京都産業は大規模な大学でありながら、閲覧室単体で整備部屋はなく、いずれも書架と一体で座席が設けられている。また、照明も人感センサーを導入するなど最新設備で整備している。

そのため、図書閲覧空間、AV 視聴空間の確立、図書館サービスに限らないホールの建設、さらには、機械化としてパソコンによる自動出納システムの導入、による早期情報センターとして駆け出し図書館とされる^{文 2-19}。

2.3.3 ネットワーク構築による電子機器の発達

(1) 図書館のオートメーション化

ICT 等の発達によってデジタル化は、これまでの図書館業務を大きく変えてきた。目録情報の電子化が行われ、これまでの印刷媒体としての図書や、雑誌が CD-ROM 等での閲覧が行われるようになった。しかし、手に取っていた媒体が、紙から電子画面へと変化したことに留まり、まだ図書館の役割が大きく問われてはいなかった。富江^{文 2-20}は、高山氏^{注 2-6}の言葉を借りて、『紙メディア図書をベースにした「機械化図書館」の段階にある』と述べている。

注 2-6) 高山正也：機械化図書館から電子図書館への展開 - 情報化環境の図書館に及ぼす影響と図書館の類型化、現代の図書館、vol. 33、No. 4、1995. 12

(2) 場としての図書館問題

90 年代では、インターネットの普及によって、ネットワーク上に資料が保存されるようになり、図書館外でも電子資料の閲覧が可能になった。Google

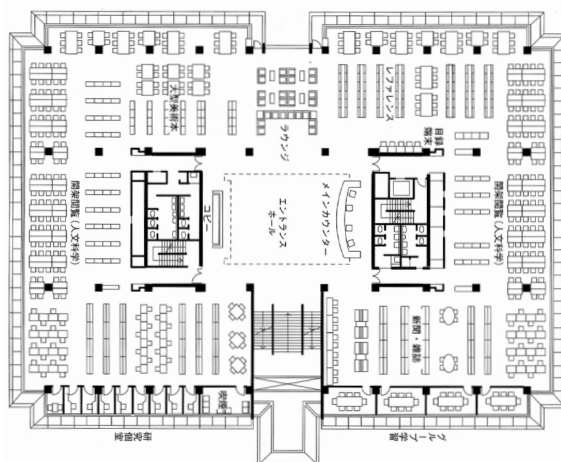
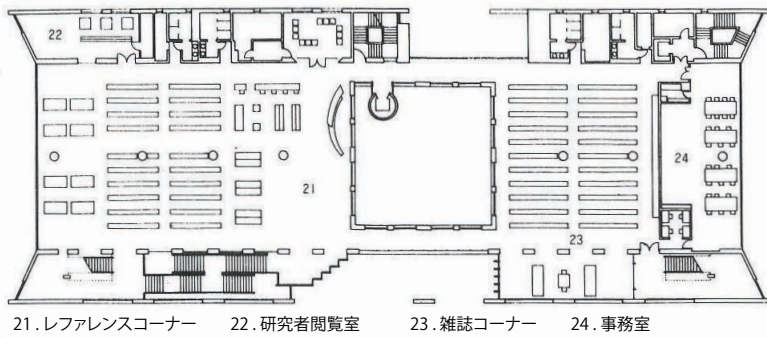
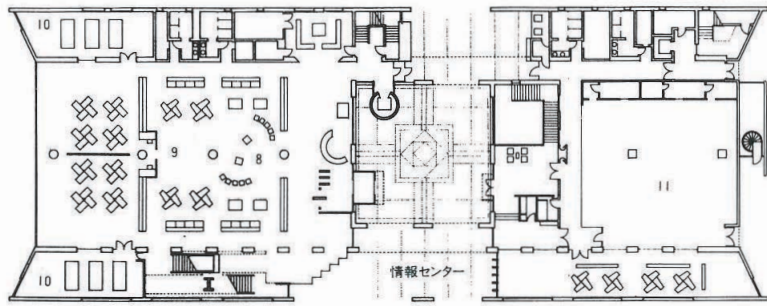


図 2-11 京都産業大学中央図書館 2 階(日建設計 1987) 1:800



2階



8. AVラウンジ 9. ワークステーションラウンジ 10. ワークステーションルーム 11. リサーチエリア 1階

図 2-12 慶応義塾大学 SFC メディアセンター(横総合計画事務所 1981) 1:800

ブック検索もその一例として挙げられる。

国際図書館連盟 (International Federation of Library Associations and Institutions: IFLA) は「場所と空間としての図書館 (Libraries as place and space)」と題してサテライト会議を開き、社会的な「場」と物理的な「空間」の両側から図書館を捉えてきた。そして第三の場、いわゆる **third places** の必要が論じられてきた。図書館が、情報通信技術の発達によって、変化が求められるようになったことは間違いない。しかし、これらの議論は良い転換期であり、従来型の建築計画、資料のあり方、利用者を中心とした図書館の価値を再考するきっかけとなり、成長として考えることができる。

(3) ネットワークでつながる図書館

大学図書館に限らず当然、教育においても情報化に対応した学問分野の設置、人材育成が求められるようになる。慶応義塾大学は、神奈川県藤沢市に情報処理能力や創造的能力開発の必要性などを理念に掲げた「総合政策学部」と「環境情報学部」を設置した (以下、SFC)。

SFC の最大の特徴は、ワークステーションによって教員、学生が電子メール等ネットワークで繋がっていることである。このメディアセンター(図 2-12)は、従来からある計算センターと図書館の境をなくしている。フロアは、「スタジオエリア (映像編集ブース、OHP によるプロジェクター)」、「オープンエリア (自由に使用できるワークステーション PC に加え、スキャナ専用 PC、AV 資料の視聴)」、「リサーチエリア (高機能ワークステーション)」、「ライブラリーエリア (図書館機能)」、「ビスタルーム (グループ学習室)」から構成され、利用目

的に合わせた機器を各所で提供している^{文2-21)}。

館内の蔵書資料の検索については、OPACで行うようになっており、全国的目録カードのみの蔵書検索ではない早期の事例である。さらには、市民に開かれた大学としてのコンセプトを持っていることで、いち早く市民図書館との連携を図り、市民にも図書館サービスを提供している。

2.3.4 ICT機器の過渡期とラーニングコモンズの誕生

米国の学習図書館やICの導入背景をみると、レファレンスサービスへの要求からきており、利用者のために何ができるかという使命が、図書館の第一主義にあり、自然とLCのような概念を持つ空間が生まれていた。

一方、日本では、90年代に、電子化による資料の扱い方、電子化するために方法の議論が行われていたが、空間はもとより、学生に対して、どのように活用を促すかまでは発展しなかった。しかし、LC導入を期に利用者の学習場所として整備が進んでいく。

(1) 日本の研究者によるLCの定義

LCと呼ばれる言葉は、2006年に東北大学の図書館職員であった米澤^{文2-22)}によって日本に輸入された。米澤は、米国の先進事例を紹介し、LC導入をきっかけに、大学図書館が学内においてリーダーシップを発揮していくことに期待し、ネット世代で学習支援を行う施設・サービスになることを述べている。

その他、永田^{文2-23,24)}は、次のように整理している。

「機関全体のビジョンは使命と明確に整合し、機関の広範囲な教育的な企画である」、「サービス資源、スタッフ、窓口を統合する視点を図書館全体に徹底」、「これまでの図書館サービスや豊かな技術(ハイテクなサービス)を提供する」、「多様で柔軟的で協働できる場所の提供」、「知識の創造やその構成を強調する」と述べている。

また、Beagleの言葉^{文2-4)}を挙げ、LCは学生に対して、図書館中心ではなく、外部(学内)の機関での機能や活動を一緒に取り込み、学内全体に活動の効果を行き渡らせる必要性を述べている。

同じく、溝上^{文2-25)}も、「学習・教育・研究のための共有資源、とりわけ多様な情報資源と人的資源による「知の公共化」を具現し、かつ「主体的な学び」を実現させる」と述べ、情報資源と、人によるサポートの2つをキーワードに挙げている。

呑海^{文1-26,27)}も学習支援の場としての立ち位置を示し、「総合的でポータル」と言葉を用い、より広範囲で包括的な学習支援であるとし、教育・政策と緊密に結びついたものとしている。

建築の視点より、植松^{文2-28)}は、LCの新規性について、「・・・図書館がレファレンス・デスクのような「待ち」の設備ではなく、能動的学習の場を設け、そ

の利用を積極的に働きかけるなど、教育組織と連携して学生の主体的な学習のためのスキル獲得を支援する・・・」と述べ、学習支援を行う場所としてのスタイルを発信する場（姿勢）と主張している。

また建築的配慮として、「明るくて開放的で入りやすい雰囲気をもたせる」、「プレゼンテーションを含めた多様な学習スタイルの開発を触発するような様々な家具・設備を設置できるような面積の確保」、「図書館の有する印刷資料とインターネット上の電子的情報資源との併用ができる環境」、「静かさを求める場所と遮音できるようにする」、「他者に聴かれたくない事柄について相談する利用者のための遮音されたブース」の4点を挙げて、LC内の整備のポイントを示している。

(2) デジタル機器導入の一般化

日本初のインフォメーション commons 的空間

国内の最も先進的な事例として、国際基督教大学（ICU）ミルドレットトップオスマー図書館が挙げられる（図2-13）。1991年に委員会^{注2-7)}が発足し、電子化を見据え「印刷物と将来の様々な媒体の資料を統合し総合的に提供できるスペースと設備を備えること。多様な資料と学習形態に対応する柔軟な設計を行い、利用者の知的な創造力を助ける大学の中心的『場』を構築すること」が述べられた^{文2-29)}。また、「増築による図書館員の増加を最小限に抑えるため、維持管理に適切な技術を導入する」ことについても提言している。

注2-7) 1991年に図書資料の増大やそれに伴う図書移動の作業により人件費による解決策を考えるために新図書館構想委員会が組織された。

そして、2000年9月に、50万冊入る自動化書庫と、従来の図書館（先述したp.55）が行ってきた情報サービスの充実と指導を図り、自由にPCの利用が可能な環境の構築を目指した、122台のパソコンを備えたスタディ・エリア、マルチメディアルーム、グループ学習室が配置された。

(3) アナログとデジタルの共存

競争的環境における大学全体の改革への動きを背景に大学の顔として、整備が進められるようになる。学内外の情報関連機関と連携し情報発信・蓄積、文化交流の場となる多様な機能空間を持った中核的な場を整備することを目的に改修を行った横浜国立大学附属中央図書館がある。

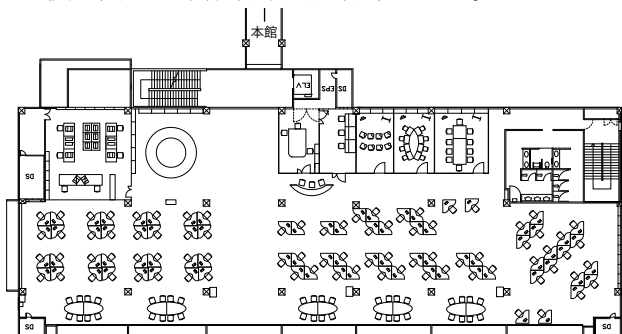


図2-13 国際基督教大学ミルドレットトップオスマー図書館
((アントニン・レーモンド 2000) 1:600)

分断された中央図書館を有機的に一体化し、オープンカフェやマルチメディア利用スペース等を備え、従来に紙資料と電子情報が共存するメディアミックス型の新しい図書館として、SFCやICUに次いで先進事例である。また、飲食ができるラウンジ等を設けたグループ学習やPC等を設置したエリア及び、IT関係職員によるサポートを受けることができるエリアを図書館内に設けている^{文2-30)}。

(4) 日本初のラーニングcommons

名称として初めてLCを冠したお茶の水女子大付属図書館がある。2007年4月に150㎡の場所を利用して、学生が自由にパソコンを使ってレポートなどを書くほか、図書館の論文検索講習会や授業、セミナー会場としての活用を目指した。設置直後の利用実態調査では、学生数3200人に対して、1450人(2008年4-5月、調査時刻10-17時)が来館している報告もある^{文2-31)}。

また図書館では大学教育の動きに前後して「リベラルアーツ支援図書館」をキーワードに将来像の検討を行っており、外から見えやすい改革案として図書館のフロアプランが評価されている。

(5) 施設計画と関連した図書館サービスと取り組み

図書館内での取り組みとそれに対応した施設計画として、東京女子大学図書館が挙げられる(図2-14)。学内において学生同士の会話や飲食ができる環境が学内で望まれるようになったことで図書館の改修計画がスタートしている。そして、平成19年度の学生支援GP^{文2-32)}の採択によって、学生アシスタントの充実を図り、学生が他学生の手本となり、人間力と知力双方に働きかけを試みている。また、全学で計画に取り組み、LCの理念に沿った導入経過を歩んだ。

1階(1473㎡)部分を主に改修し、全面会話を可能にした環境をコミュニケーション・オープンスペース、リフレッシュルーム、グループ閲覧室、メディアスペース(PC:50台)、AVブース、プレゼンテーションルームの6つのエリアから構成されている。当時は、ハードもソフトも先進的であり、多くの大学が参考にし、LCのモデルになっている。

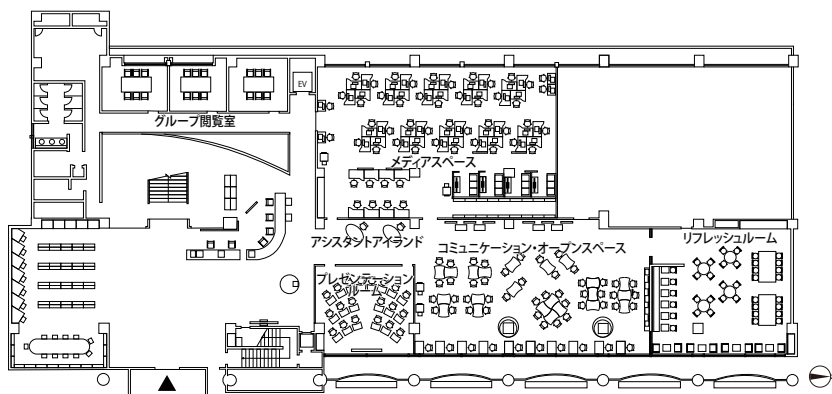


図2-14 東京女子大学図書館 1階(乃村工藝社 2009) 1:600

(6) 新しい開架閲覧室の在り方の模索

大学の教育方針に準じた図書館

大学教育方針と図書館での学びを結び付けたコンセプトを持つ初期の事例として、大手前大学メディアセンター CELL が挙げられる（図 2-15）。まだ文科省の答申が発表されていない時期から「社会人基礎力」や「自分で創る専門性」などの能力獲得を目標に掲げ、それを体現化している。発表の場を増やす、少人数教育の実施、キャンパス内の滞留を増やすことを目指し、1階開架閲覧室内に内向きと外向きの小部屋（CELL）を介入させ、様々な使い方を意図している。

(7) 大規模なラーニングコモন্ズの整備

大学図書館は学術情報政策の一部、研究基盤として論じられてきた。そのため、教育政策との関連で議論はされてこなかった。2010年以降は、答申^{注2-8)}の影響もあり、大学図書館が授業外学習環境提供の可能性を見出し、一気に整備が広がる。ここでは、特に多くの建築雑誌や図書館職員の間で話題になった施設を概観する。

注2-8) 文科省（答申）新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて生涯学び続け 主体的に考える力を育成する大学へ（文1-6）

開架閲覧室と LC の一体整備と長時間滞在型図書館

明治大学は開学 130 周年を迎え、その記念事業のとして、1,2 年生の教養科目が集まる和泉キャンパスに図書館の新築を行った（図 2-16）。和泉図書館は、図書館建設の際に LC を同時に整備している。施設構成は、1階から4階へ、入口から奥へと段階的な空間性と音環境のゾーニングを行い、活動的・賑わいのエリアから、静寂な空間になるようにしている。また、什器も明るいから暗い、といった色彩の変更を行っている。低層階に LC を設置し、上階はキャレル席を中心とした閲覧席が設置、最上階は PC の利用が禁止されている。滞在型図書館としての機能を重視し、利用制限を図書閲覧だけに限定していない^{文2-33)}。

明確な教育目標をもとにしたラーニングコモন্ズ

既存の図書館棟を改修し、その図書館棟を取り巻くように LC の棟を増築させた事例として千葉大学附属図書館（アカデミックリンク）が挙げられる（図

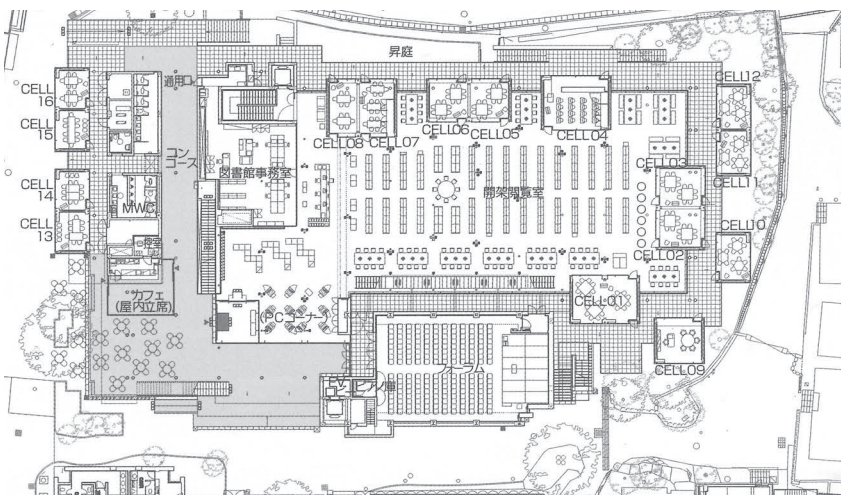


図 2-15 大手前大学メディアセンター CELL 1階（日建設計 2009）1:800

員が自分の専門分野をレクチャーし、自由に聴講できるような利用が新しい。さらには、その講義内容をアーカイブし、後日自由に閲覧できるようにしており、コンセプトを具現化している。N棟（南側）2階は全面LCとして整備し、多くの利用者が見渡せるようになっている。

また、実態調査を独自で行い、施設に対する満足度が向上していること、そして開館して数年後に静かな環境を増設したといった内容もあった^{文2-34)}。

2.3.5 キャンパス内へ導入されるラーニングコモنز

私立大学のLC整備は、文科省の補助金（私立大学等改革総合支援事業など）の積極的な交付も相乗して、右肩上がりである。また多くが1960年代にキャンパスが形成されており、校舎の老朽化が進んできたことで、施設更新によってLCが整備されている。

また、図書館の中につくるのではなく、別棟でLCを導入する事例が増えてきた。さらには、図書館やLCの枠組みを大きく超えてきたものも登場し、図書機能+LC+ α というように学習活動の場がさらに幅広くなってきている。

(1) 日本最大級の別棟ラーニングコモنز

まずは、図書館から独立したLCとして先進事例である同志社大学良心館^{文2-35)}をみる。良心館（図2-18）は、講義室が多くが入る建物でその内2, 3階に位置している。建設当時、国内最大規模のLC(約2,550 m²)として整備され、多くの大学職員が参考にする事例の一つである。その理由として挙げられるのは、人的支援の充実である。「聞ける人がいる」をコンセプトに、9種類^{注2-9)}の専属サポートスタッフが駐在しており、学習支援体制に力を入れている。さらに、それらの学習を可能にするために、それに応じたスペースも各所に配置し知的探求を経験できるように工夫している。

注2-9) アカデミック・インストラクター、ライティング・インストラクター、学習指導コーディネーター、学習支援コーディネーター、ラーニング・アシスタント、情報探索アシスタント、マルチメディアラウンジ専属スタッフ、留学コーディネーター、留学アシスタントがある。

(2) 産学連携空間を備えた学びの幅を広げたラーニングコモنز

LCが図書館から独立し、産学連携機能やアメニティ空間も兼ね備えた近畿大学ACADEMIC THEATERがある（図2-19）。1~5号館で構成され、いずれの館も1, 2階にLCがある。特に中心の5号館（ビブリオシアター(1,2階)）は、図書館と新たな価値創造のための「ACT」^{注2-10)}と呼ばれる42室のプロジェクト室が設けられ、今後の学術拠点としている。ACTを繋ぐ通路は、リゾーム状になり、それを縫うように図書資料が並べられ、その周りに閲覧机や椅子が置かれている。図書資料は十進分類法ではなく、テーマごとに配架されている。

注2-10) ACTとは、プロジェクト型、ギャラリー型、産学連携型の3つ分野からなるプロジェクト空間である。社会の諸問題の解決、文理融合であらゆる垣根を取り払う、活動内容の見える化などを目的に長期間貸し出した室になっている。

2階は主にマンガが配架され、学習を広義に捉えた環境ともいえる。従来のLCである可動式の机や椅子が並べられている環境だけではない空間がつけられている。

(3) 教職員と学生が一体になった学習環境とワークスペース

LC 機能に加え、学生を支援する環境として学生と教職員のスペースを一体にした事例として、梅光学院大学 CROSS LIGHT がある (図 2-20)。

教職協働で学生を支援するという考えの基、教員個別の研究室を廃止して、教職員ともにフリーアドレス制を採用し、学生の居場所と同居している。これまで同じ空間であっても教員との仕切りのないスペース下での学習場所という点では、全く新しい環境である。

また施設内には、図書館の図書資料が期間限定で配架されていたり、教員の

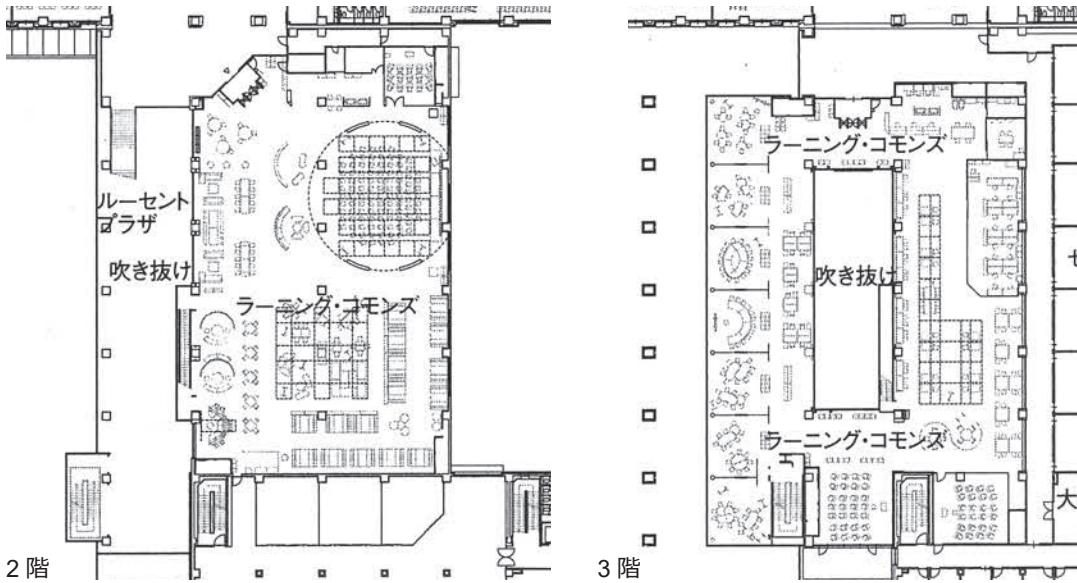


図 2-18 同志社大学良心館 (東畑建築事務所 2013) 1:800

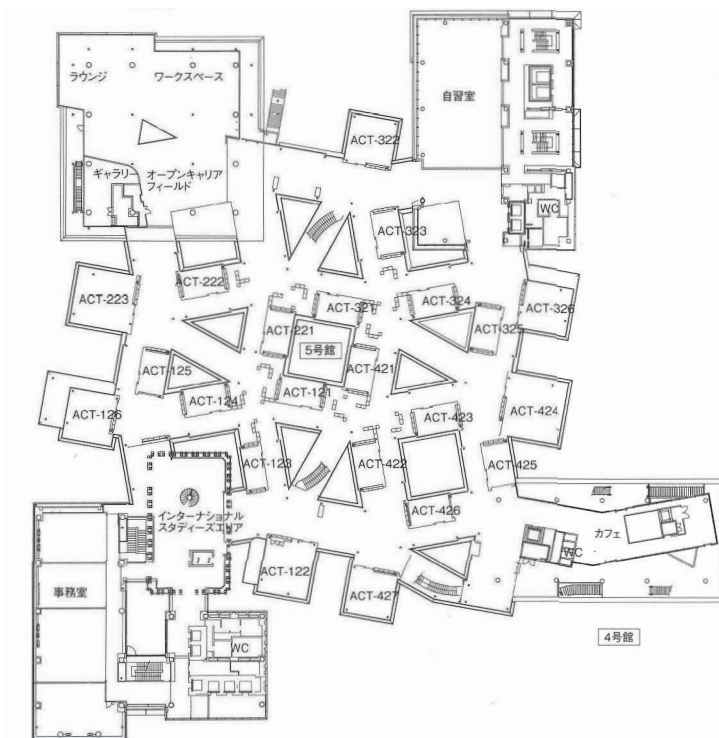


図 2-19 近畿大学アカデミックシアター 2階 (NTT ファシリティーズ 2017) 1:800

所有の本をスペース内に点在させたオープンライブラリーと呼ばれるものがあり、従来のようにただ図書資料を並べるだけでなく、学生の興味関心を引き出している。

空間構成については、学生を交えたWSなどから導き、3つの異なる対人距離^{文1-36)}を持つ空間を設け、かつ365種類の椅子から、集中できる場、議論ができる場、聴講する場を意図して計画されている。

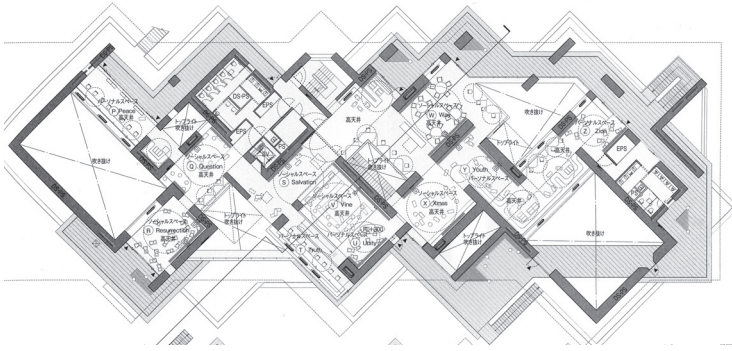


図 2-20 梅光学院大学 CROSS LIGHT (小堀哲夫 建築設計事務所 2019) 1:800

2.4 東海北陸甲信越地方の開架閲覧室及びラーニング commons の整備状況

2.4.1 研究の目的と方法

開架閲覧室と LC が現状どのようにつくられているか平面構成のみの分析に限らず、詳細に把握するために大学図書館職員のアンケート調査から分析を進める。3章以降での利用実態は、中央館を対象にするため、本節でも回答した大学の中から中央図書館を抽出し、機能と設置形態に着目して整備状況の傾向を明らかにし、問題点を整理する。

調査の対象として、既往研究より地域差や大学法人の違いを考慮して分析している事例^{注2-11)}もみられているが、東海圏を対象にしたものはみられない。また当該地域は、学生数が多い大学から少ない大学まで幅広い施設規模をカバーし、7割以上を占める私立大学も多く含んでいる。そこで東海圏を中心どのように整備がされているかを把握した^{注2-12)}。

注2-11) 例えば、山岡、渡辺ら：大学図書館のラーニング commons の現状 - 国内の14の大学図書館の事例、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 229-230、2013. 8
安部、夏目：国立大学図書館におけるラーニング・commons の現状、日本建築学会東海支部研究報告集第54号、pp. 369-372、2016. 2

注2-12) 東海圏を対象にした現状把握において、後述するが2015年時点で LC の整備は50%である。また、日本の全大学を対象にした文科省のデータ文1-11)は2015年時点で53%であり、全国の状況は把握できていると考えている。

2.4.2 延床面積と学生数からみた回答館の規模

回収した有効数は118館^{注2-13)}、その内、中央館は6割以上の80館(80大学)であった。床面積と学生数を分類して表2-2を作成した。その結果、1000-3000 m²未満の面積規模が33館と最も多い。9000 m²以上は、主に国立大学の回答であった。学生数は、1000-3000人が最も多く27館であった。

注2-13) 調査の概要は、本文p. 22を参照。付録には回答のあった大学図書館の基本情報を掲載している。

延床面積と学生数の相関をみる(図2-21)。なお、ここでは関西圏に位置し、本研究の対象である京都府内の立命と京産も数に足して図を作成した。82館の相関係数をみると+0.763であり、面積に準じて在籍する学生もいると判断できる。対象とした大学図書館の規模は、比較的大きな大学図書館から中規模の大学図書館である。

表2-2-① 対象とした館数

設置館種	館数	割合
中央館	80	68%
分館	38	32%
合計	118	100%

表2-2-② 学生数と延床面積

学生数	館数	割合
500人未満	14	18%
500-1000人未満	12	15%
1000-3000人未満	27	34%
3000-6000人未満	12	15%
6000-9000人未満	10	13%
9000人以上	5	6%
合計	80	100%

延床面積	館数	割合
1000m ² 未満	13	16%
1000m ² -3000m ² 未満	33	41%
3000m ² -6000m ² 未満	23	29%
6000m ² -9000m ² 未満	4	5%
9000m ² 以上	7	9%
合計	80	100%

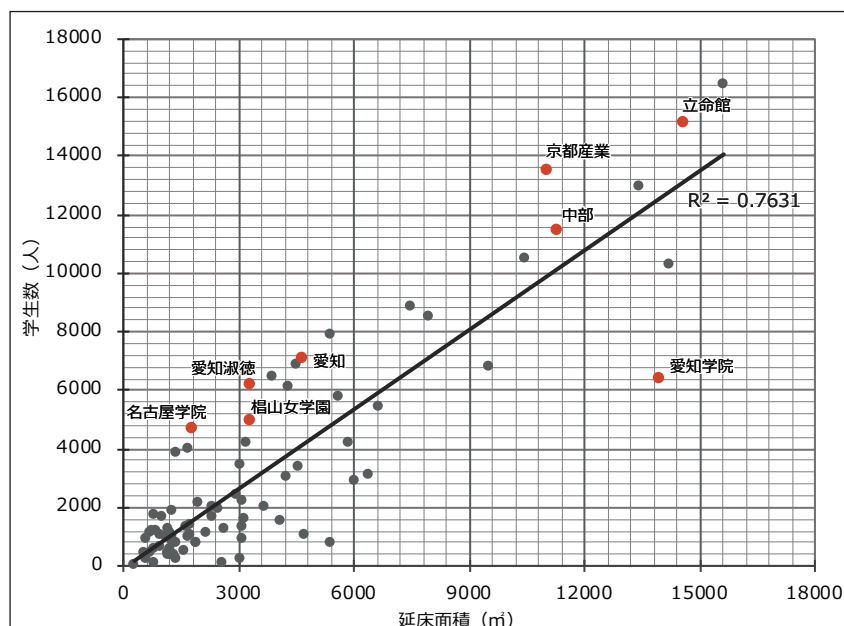


図2-21 対象館の学生数と延床面積の相関

2.4.3 開架閲覧室の整備状況

(1) 会話の可否

開架閲覧室^{注2-14)}で会話ができるか否かを見る(図2-22-①)。最も多いのは、「全面で会話禁止」の55%であった。半数以上が開架閲覧室内での会話が禁止されている。次いで、「一部の階の一部の場所で会話可能」が24%であった。「全面的に可能」は13%で、その内約半数の7館は3000㎡未満であることから、面積が小さくなると開架閲覧室全体での会話が許容された環境が作りやすくと考えられる。

注2-14) ここで、開架閲覧室は、「書架と一体になっている空間を指し、パーティション等の仕切りによるグループ閲覧室は除く。」とし、アンケート調査を行った。

(2) 座席のタイプ

開架閲覧室内にいくつかのタイプの席が設置されているかを見る(図2-22-②)。最も多い座席タイプは、4,6人掛けの「グループ席」で91%であった。次いで「キャレル席」の85%であった。また、何種類設置しているかを見ると、「2種類」が最も多い41%で、グループ席とキャレル席の2つの座席タイプで閲覧室が構成されていることがわかる。選択肢全てに回答している大学は(4種類)は、14%であった。その他の項目を見ると「2人掛けの机」や「椅子と机が一体になったもの」などの回答が得られ、様々な座席タイプを提供している。

(3) サービス内容

開架閲覧室内で提供している内容を見る(図2-22-③)。**[有線・無線LAN]**は最も多い80%で、多くの大学でインターネット環境が構築されている。ネット環境が構築されていることで一部では、貸出の情報機器として、「タブレット端末貸出」16%や、「ノートPC貸出」35%と電子化が進んでいる様子がみられる。一方で「プリンター・コピー機」は60%で、紙媒体を通して学習するスタイルも多くみられた。

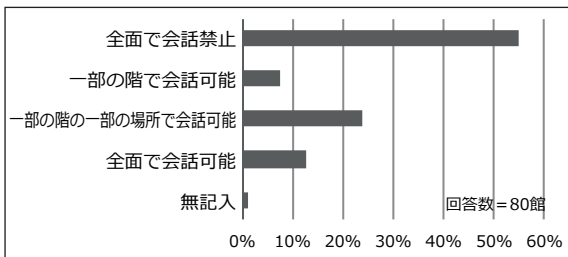


図2-22-① 開架閲覧室における会話の許諾状況

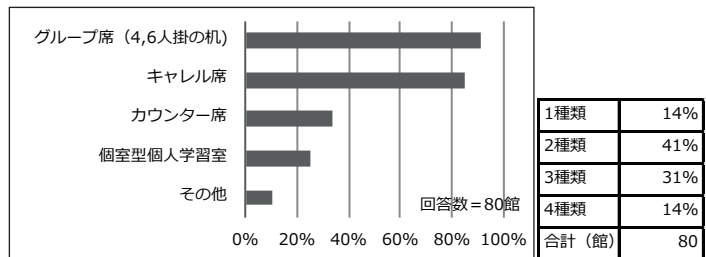


図2-22-② 開架閲覧室における座席の種類

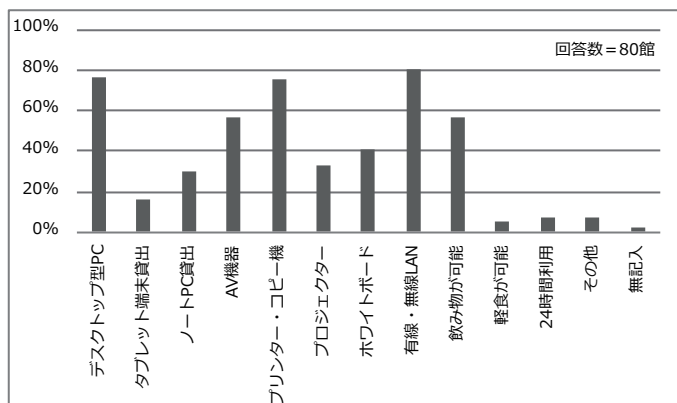


図2-22-③ 開架閲覧室におけるサービス内容

2.4.4 ラーニング commons の整備の状況

(1) 開架閲覧室以外の学習スペースの整備状況

開架閲覧室以外の学習スペースがどれだけ整備されているかをみる(表2-3)。LCは、名称が大学によって異なるため、LCに類似する「AL学習室」と「ディスカッションルーム」は「LC的空間」としてまとめた。「LC的空間」は、半数の51%で導入されている。最も多い学習スペースは「グループ学習室」で63%であった。「視聴覚室(AVブース)」の設置割合も高く、50%であった。伊藤らによって視聴覚室は1980年代に急増したことを整理したが、現在では半数が図書館内にAVブースが設置している。「パソコン室(PCエリア)」は、28%であった。

一つの館でいくつスペースを整備しているかをみると、平均2.8室で、「LC的空間」と「グループ学習室」を両方整備している館は24館と、グループで利用できる学習環境は、充実してきていると考えられる。

表2-3 開架閲覧室以外の学習スペースの整備状況

	部屋数	割合	館数の割合
LC	35	16%	50% (39館)
LC的空間 AL学習室	8	4%	
ディスカッションルーム	3	1%	
視聴覚室(AVブース)	40	19%	51%
パソコン室(PCエリア)	22	10%	28%
グループ学習室	49	23%	63%
休憩室・リラックスルーム	16	8%	21%
その他	40	19%	51%
合計	213	100%	
回答館数	78		
なにもない・無記入(館)	2		
平均設置部屋数(室)	2.7		

(2) LCのサービス内容

LC的空間(以下、LCとして扱う)内でのサービス内容を図2-23に示す。「インターネット環境」、「ホワイトボード」は90%以上と他の項目に比べて高く、LC内で学習活動を支えるツールとされているサービス内容^{注2-15)}に準じて高い。次いで、「プロジェクター」、「貸出ノートPC」が半数以上で設置・導入されている。一方、LCはアナログとデジタル資料が併用できるようにする場所として考えられているが、「図書資料の配架」をみると4割に留まっている。そのため多くがLCの外にある開架閲覧室から図書資料を取り出して、LC内で学習するような探索行動になると考えられる。

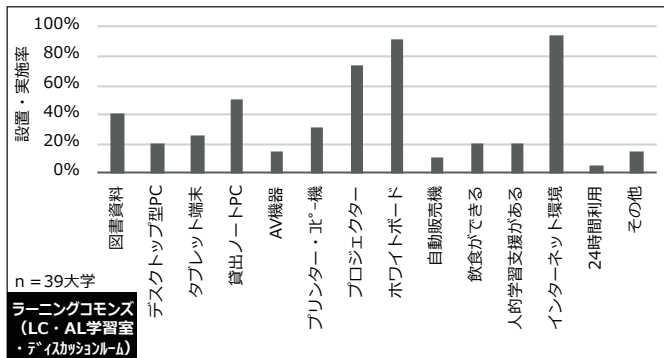


図2-23 LCのサービス内容

注2-15) 国立大学図書館協会の提言・文2-37)によると、LC内における物理的リソース(電算資源、什器等)として、表2-4が挙げられている。
◎は「必須」、○は「望ましい」、△は「設置目的による」としている。なお、最低基準を示すものではないと位置づけられている。

表2-4 物理的リソースの構成事例

導入割合	サービス内容	解説
◎	可動式テーブル 椅子	学習のスタイルに応じてセットが可能な可動式のテーブルと椅子
◎ ○	ホワイトボード 電子ボード	共同学習において、利用可能なボード
△	ソファ	リラックス可能なソファ
◎	電源及びネットワーク(有線、無線)	PC等の電子的機器に対応するインフラ
◎ ○ ○ ○	PC等(下記から選択) PC(備え付け) PC(貸出) iPad等	PCやタブレット等の機器 自学自修、リテラシー教育等を可能にする
△	ワークステーション	高度な作業を可能にするハイエンドワークステーション等
◎ ○	プリンター 複写機	作成した電子的素材を出力するプリンター
○	プレゼンテーション設備 (プロジェクター、専用PC等)	プレゼンテーションスペースや共同学習スペースにおいて、電子的素材を投影するための設備。情報リテラシー授業にも活用可能。
△	テレビ会議システム 遠隔放送設備 (ustreamなど)	遠隔会議関連設備及びイベント等を送信するための整備

(3) LCの整備手法と開架閲覧室との仕切り方

先のLCの39大学を対象に、どのように開架閲覧室と仕切られているか、導入した際は、どのような手法で整備をしているかをみる。両視点をクロスして、整備のハード面について整理したものを表2-5に示した。仕切り方は、「壁」が13大学で最も多く、整備手法は「一部改修」が半数以上であった。そのため最も多い組合せは、「壁/一部改修」で10大学であった。従来の図書館部分の一部を改修して仕切りを設けたLCが多いことになる。また、多くは壁で仕切られているが、「なし」も11大学と多く、学びの可視化が行われていると同時に、様々な整備の手法がみられる傾向にあった。

表 2-5 整備手法と仕切り方の関係

	導入する際の整備手法							総計(館)
	新築	一部改修	全面改修	増築	別棟	その他	無記入	
開架閲覧室との仕切り方 なし	2	6	1	1	-	1	0	11
壁	1	10	0	0	-	0	2	13
ガラス	2	3	1	0	-	0	1	7
階	1	2	0	0	-	0	0	3
別棟	0	0	0	1	4	0	0	5
合計(館)	6	21	2	2	4	1	3	39

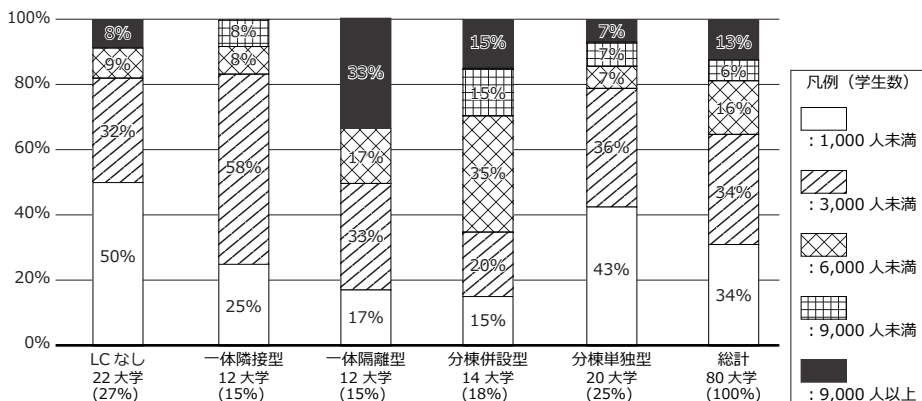
(4) LCの設置形態

2.3.5より、図書館の外にLCを導入する事例もあることが整理された。ここでは、web上での調査から、LCが図書館内部または分棟のいずれに設置されているか、内部の場合は開架閲覧室との間仕切りをもつか否かによってLCの設置形態を把握する(図2-24)。

図書館内にLCを持つ[一体隣接型]と[一体隔離型]、図書館とLCが分棟になった[分棟併設型]と[分棟単独型]の4タイプを抽出することができた。

なお、アンケート郵送時の調査に比べて、LCの設置数は58大学と増加しているが、別棟に設置された図書館管轄外のLCも数に入れているため、一概に増加したとは言いきれないことを付記しておく。

対象の大学図書館があるキャンパスには、27%がLCを設置していない。一方LCを導入したところは73%で、分棟型でLCを整備した事例が多かった。LCを導入していない大学は、1000人未満の比率が半数と最も多く、6000人



以上の割合も低い。一方、LC を導入している大学では、学生数が多い傾向がみられる。中でも「分棟併設型」は、6000 人以上の学生数が半数以上を占め、人数が多いことで LC を図書館外にも分散して配置している。

2.5.5 グループ学習室とパソコン室のサービス内容

次に LC 以外の代表的な学習スペースとして、[グループ学習室]と[パソコン室]のサービス内容を図 2-25 からみる。「グループ学習室」は、「ホワイトボード」の設置が約 8 割で最も高い。次いで「インターネット環境」が 65%であった。その他、目立った項目はないが、平均で 3 項目程度に回答し、「ホワイトボード」や「インターネット環境」とは別に各大学異なるサービスを提供している。

[パソコン学習室]は、「デスクトップ型 PC」、「インターネット環境」はもちろん、6 割以上でプリンターも設置されていた。

また、[PC 学習室]で、会話ができるか否かも聞いた。すると、64%は会話ができると回答し、残りの 38%は会話ができる環境ではないことがわかった。

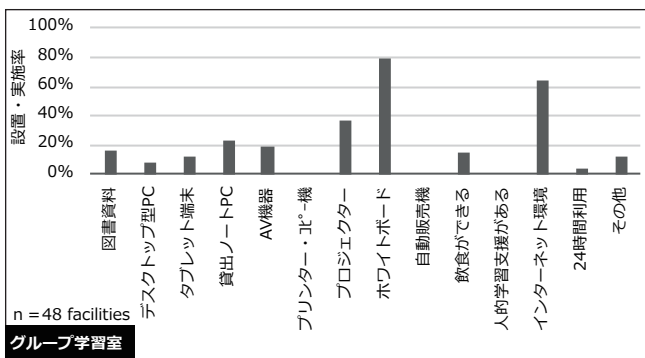


図 2-25-① グループ学習室のサービス内容

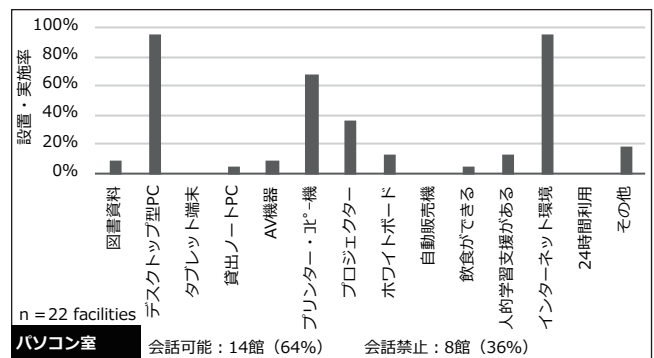


図 2-25-② PC 室のサービス内容

2.4.6 図書館における利用者向けのサービス・取組み

(1) 現状の取組み

学生への学習を支援するために、利用の周知のために取り組んでいることを LC の有無で分けて算出した (図 2-26)。まず LC の有無にかかわらず、割合が高いのは、「新 1 年生向けの利用ガイダンス」、「レファレンス」、「図書の紹介」であった。また、「データベース講習会」も半数以上で実施している。これらは、図書館としての基本的サービスであるが、実施していない大学もみられた。

LC の有無で大きな違いがみられた項目は、学習支援に関わる取組みであった。「レポートの作成講習」、「プレゼンテーションの技術講習」、「IT 等の情報技術支援」は、LC を導入している大学で高い。LC の役割として、学習支援が挙げられているため、それらの項目は高くなったと考えられる。しかし、一部の項目は 20% 以下であり、LC の導入をした全ての大学で取り組んでいるわけではないことがわかる。

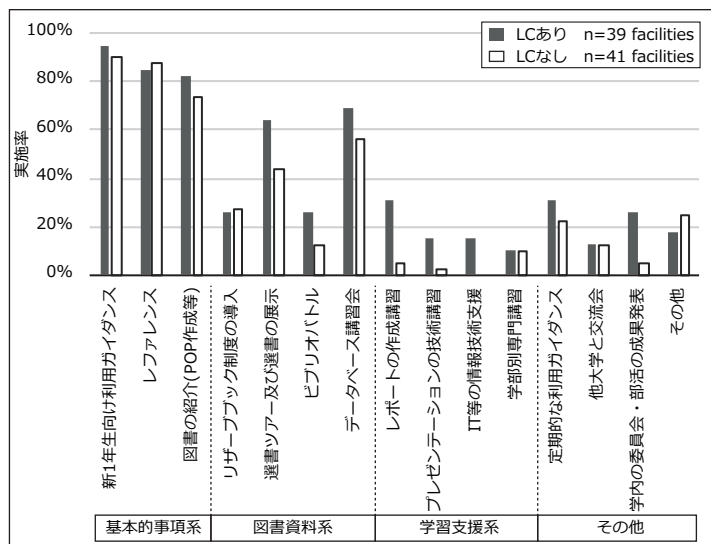


図 2-26 LC 設置の有無からみた図書館における取組内容^{注 2-16)}

注 2-16) ビブリオバトルは、参加者が読んで面白かった本を持って集まり、本を紹介し、ディスカッション等を行って参加者で投票の末、よかった本を競い合うものである。

(2) 今後に必要な取り組み

今後、必要となる取り組みや改善項目について(図 2-27)、重要なものを2つまで回答してもらった。なお、2つ以上回答があった大学については除外している。

LCを持たない大学は、「専門書や参考資料の充実」が60%で最も高く、LCを導入した大学は、「学習支援活動の充実」が76%と最も高い。先の「(1) 現状の取り組み」と同様に、LCがあることで学習支援をさらに強化しようしていることがわかる。「他部署との連携を図る」は両方で20%以上みられ、図書館だけで問題解決を図るだけではないといった意識があると思われる。

ハードの面をみると、数は少ないが、LCがない館は「会話可能な環境の増設」の実施を目指しており、グループ学習に関心を示している。一方で、「静かな環境の増設」や「静かな環境を増設する」はLCの有無にかかわらず、回答した大学はなかった。

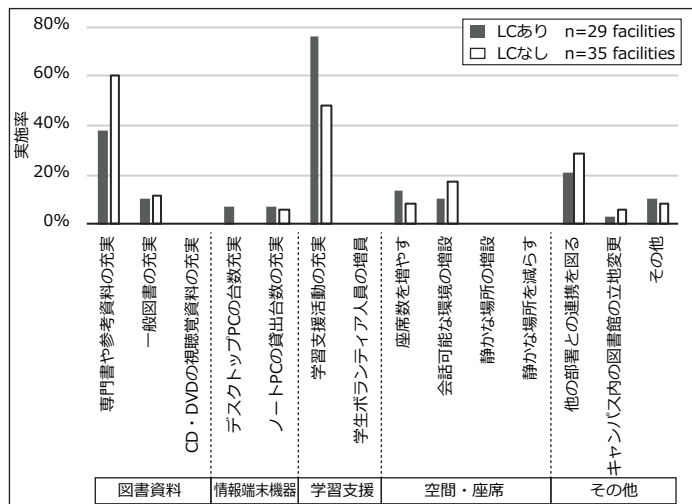


図 2-27 LC 設置の有無からみた今後の取組内容

2.5 まとめ

発祥の米国における LC の導入状況と東海北陸甲信越地方における大学図書館の職員へのアンケート調査より、日本の開架閲覧室及び LC の整備状況、サービス内容を整理した。また、建築系雑誌、日本図書館協会の図版集より、開架閲覧室と LC の計画の流れを読み取った。以下に明らかになったことを示す。

2.5.1 米国の LC 導入の経緯

- 1) 米国の大学図書館は、利用に不慣れな学生のために学習支援をしてきた歴史がある。そのため LC 導入においても、館内 PC で電子ジャーナルの利用を支援するためであった。
- 2) LC 導入後、教員（人類・行動学専門）が学生の利用状況を把握し、家具配置と館内ルールの見直しを行っていた。

2.5.2 日本の開架閲覧室と LC の整備の現状

- 1) 日本では、1960 年から開架閲覧室がつけられ、その後視聴覚室、PC 室の導入、目録エリアの廃止がされてきたが、平面計画はほとんど変化していない。
- 2) LC は 2000 年に初めて導入されている。導入当初は、図書館の一部に設置されているが、2010 年代以降になると、図書館外にも導入されるようになる。しかし、主体的な学びを行う場所であることは図書館内外で変わらない。
- 3) 開架閲覧室は、会話を禁止したルールが設定され、グループ利用者が制限されている場合が多い。座席のタイプをみると 4、6 人掛けの席が多く配置されているが、設置している座席の種類はさほど多くない。
- 4) LC は 50% の大学で導入されている。LC の設置の仕方は、4 つのタイプが抽出された。中でも開架閲覧室内を一部改修して、壁やガラスで仕切る空間構成は多い。
- 5) LC を設置している大学は、学習支援の実施率が高い。一方、空間や座席の整備は導入後ほとんど行われていない。

以上のことから、日本の LC は、米国の空間を優先して整備がされ、学習支援や開架閲覧室との関係は、やや置き去りである。しかし、多くの大学で整備がされ、大学の学習場所として中心的な位置を占めつつある。

また、開架閲覧室は LC 導入時においても、大きな変更はされず、個人用の学習場所として計画されている。LC は、グループで利用できることが第一条件であり、そのために座席が配置されている。一方、学習支援や PC の設置については、導入している大学としていない大学ある。

次章以降は、実際の利用者が開架閲覧室と LC 何を求めて、どこを選択しているかをみていく。

参考文献

- 文 2-1) 岩猿敏生、大城善盛、浅野次郎：大学図書館の管理と運営、社団法人日本図書館協会、1992.4
- 文 2-2) Iren A. Branden: The Separately Housed Undergraduate Library、College Research Libraries、pp.281-284、1968.6
- 文 2-3) 呑海沙織、溝上智恵子：大学図書館における学習支援空間の変化 北米の学習図書館からラーニング・コモンズへ、図書館界、63 卷 (1)、pp.2-15、2011
- 文 2-4) Beagle, D.R. : The Information Commons Handbook、Neal - Schuman、2006
- 文 2-5) Mac Whinnie, Laurie A. : The Information Commons: Academic Library of the Future, portal: Libraries and Academy, Vol.3, No.2, 2003, p.241-257
- 文 2-6) Lippincott, Joan, K. : Linking the information commons to learning. In Learning spaces. EDUCASE, 2006, Chapter 7, <https://www.educause.edu/books/635>
- 文 2-7) Bennett, Scott : The information or the learning commons : which will we have?、The Journal of Academic Librarianship、Vol.34、No.3、pp.183-185、2008
- 文 2-8) MacMullen, Susan. : US Academic Libraries: Today' s Learning Commons Model.、PEB Exchange、No.62、pp.1-6、2008.4
- 文 2-9) Daniels, Tim; Barratt, Caroline Cason: What is commons about learning commons? A look at the reference desk in this changing environment. Sarah K; Madden M. Leslie. ed. The desk and beyond: next generation reference service. Chicago. ACRL, 2008. pp.1-13
- 文 2-10) 川井奏美、野田晶子：米国大学図書館における利用者行動調査とラーニング・コモンズの整備について - ロチェスター大学とジョージア工科大学の事例、大学図書館研究、98 卷、pp.51-62、2013.8
- 文 2-11) 綿枝豊昭：図書・図書館史シリーズ図書館情報学、学文社、2014.4
- 文 2-12) 岩猿敏夫著：大学図書館、日本図書館学講座第 6 卷、雄山閣出版、1976.2
- 文 2-13) 佐藤政孝：大学図書館発達史、みずうみ書房、1986
- 文 2-14) 高鳥正夫：大学図書館の運営、勁草書房、1985
- 文 2-15) 長谷川誠：戦後日本の国土計画における私立大学政策の展開過程、獨協大学教育学部学会紀要、第 11 号、2012.3
- 文 2-16) 穴道勉：利用者教育が図書館利用に及ぼす効果について、大学図書館研究、23 卷、pp.3-19、1983.11
- 文 2-17) 伊藤敏明：大学図書館における視聴覚資料閲覧席の設置状況に関する調査研究、大学図書館研究、39 卷、pp.8-22、1992.3
- 文 2-18) 渋川雅俊：新館紹介 - 慶應義塾図書・新館、大学図書館研究、20 卷、pp.125-126、1982.5
- 文 2-19) 石田俊郎：新館紹介 - 京都産業大学中央図書館、大学図書館研究、31 卷、pp.100-105、1987.12
- 文 2-20) 富江伸治：電子図書館化に向けて／施設と図書館資料の配置・保存、大学図書館研究 50 卷、pp.56-61、1996.10
- 文 2-21) 金子泰樹：新館紹介 - 慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンター、大学図書館研究、39 卷、pp.86-91、1992.3
- 文 2-22) 米澤誠：インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ - 大学図書館におけるネット世代の学習支援、カレントアウェアネス、No.289、pp.9-12、2006
- 文 2-23) 永田治樹：大学図書館における新しい「場」インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ、名古屋大学附属図書館研究年報、No.7、pp.3-14、2008
- 文 2-24) 永田治樹：第 1 章 大学図書館における新しい「場」インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ、溝上智恵子（編著）、世界のラーニング・コモンズ 大学教育と「学び」の空間モデル、樹村房、pp.10-31、2015.3
- 文 2-25) 溝上智恵子：世界のラーニング・コモンズ 大学教育と「学び」の空間モデル、樹村房、pp.1-7、2015.3
- 文 2-26) 呑海沙織、溝上智恵子：大学図書館におけるラーニング・コモンズの学生アシスタントの意義、図書館界 63 卷 (2)、

- 第52回研究大会、pp.176-184、2011.7
- 文2-27) 呑海沙織、溝上智恵子: 大学図書館における学習支援空間の変化 北米の学習図書館からラーニング・commonsへ、図書館界、63巻(1)、pp.2-15、2011
- 文2-28) 植松貞夫: 第2章 大学図書館における学習支援空間、溝上智恵子(編著)、世界のラーニング・commons 大学教育と「学び」の空間モデル、樹村房、pp.32-38、2015.3
- 文2-29) 長野由紀: 新館紹介 - 国際基督教大学図書館新館 - ミルドレッド・トップ・オスマー図書館 -、大学図書館研究、60巻、pp.63-70、2001.2
- 文2-30) 横浜国立大学中央図書館: 横浜国立大学中央図書館施設基本計画、2001.11
- 文2-31) 茂出木理子: ラーニング・commonsの可能性 - 魅力ある学習空間へのお茶の水女子大学のチャレンジ、情報の科学と技術、58巻、pp.341-346、2008.7
- 文2-32) 文部科学省: 平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」報告書、2008.3
- 文2-33) 柴尾晋: 新館紹介 - 明治大学和泉図書館、大学図書館研究、97巻、pp.99-106、2013.3
- 文2-34) 谷菜穂他: 図書館における学生の行動とその行動に関する環境の要素 - フォーカス・グループ・インタビューによる探索的調査 -、大学図書館研究、104巻、pp.55-66、2016.11
- 文2-35) 鈴木夕佳、岡部晋典、浜島幸司: 利用実態からみるラーニング・commonsの学習行動 - 学年別の差異に着目して、同志社大学学習支援・教育開発センター年報、6巻、pp.51-73、2015.10
- 文2-36) エドワード・T・ホール、(翻訳 日高敏隆、佐藤信行): かくれた次元、みずす書房、1970年
- 文2-37) 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会: ラーニング・commonsの在り方に関する提言 - 実践事例普遍化小委員会報告(総会資料 No.62-2)、2015
- 文2-38) 加藤信哉、小山憲司: ラーニング・commons 大学図書館の新しいかたち、勁草書房、2012.7
- 文2-39) 日本図書館協会編: 図書館建築図集、日本図書館協会、1964
- 文2-40) 日本図書館協会編: 図書館建築図集'79、日本図書館協会、1979
- 文2-41) 日本図書館協会施設委員会図書館建築図集編集委員会編: 日本図書館協会建築賞作品集 1985-2006 - 図書館空間の創造、日本図書館協会、2007
- 文2-42) 日本建築学会編: 建築設計資料集成7 建築文化、丸善、1981
- 文2-43) 日本建築学会編: 建築設計資料集成[全面改訂版] 教育図書、丸善、2003
- 文2-44) 新建築社: 新建築、1959年~2019年
- 文2-45) 近代建築社: 近代建築 特集 図書館の設計と計画 2008、2008年
- 文2-46) 上田直人、長谷川豊祐: わが国の大学図書館におけるラーニング・commonsの事例研究、名古屋大学附属図書館研究年報7、pp.47-62、2009

第3章 学習利用者の分布場所と 学習媒体からみた来訪理由

第3章 学習利用者の分布場所と学習媒体からみた来訪理由

3.1 研究の目的と方法

開架閲覧室やLCは、2章で述べたように、個々の学習を達成するためにソフトからハードに至るまでサポートする努力がされている。

両学習場所は、強制的な入室制限はなく、自由な活動が認められ、学習の目的以外にも気軽に立ち寄れる。また、利用者も基本的にその大学の学生であれば、誰でも、どんな時でも利用することが可能である。つまり、開架閲覧室とLCは小中学校の各教室やオープンスペース、大学の講義室とは違い、カリキュラムやプログラムに左右されない自由な空間である。そのため既往研究^{3-1,2)}では、開架閲覧室にもかかわらず、図書を利用しない、いわゆる不閲覧利用者が従来から一定数いることが報告されている。そしてLCは様々な活動ができるよう検討されている。人によって、利用目的も違えば、行為や利用理由も様々と予想される。

本研究は、人によって違う利用目的や行為とそれを行う（達成する）ために選択する場所を構造的に解明して、求められる学習環境を考察していくものである。

そこで本章では、まずはどのような利用者がいるのか、どのような行為がされているのかといった利用実態の全体像を把握するために、利用者属性（3.1）、利用目的、行為など（3.2）から整理する。

次に、全体から学習目的の利用者を抽出して、学習利用に特化した場所づくりの全体像を捉える。まず、好みの学習場所をみるために、滞在場所を大まかに整理する（3.3）。そして、学習目的の違いで開架閲覧室、LCに対しての要求が異なると考え、学習目的を4つに分類し、それぞれの利用の要求（3.4）を来訪理由や利用イメージから明らかにする。

ここでは、来館者アンケート調査と巡回プロット調査から分析を進めていく。アンケートからは、所属や学年といった利用者層、滞在時間、利用目的、来訪理由、利用イメージなどを整理する。巡回プロット調査からは、どこに滞在しているか、どのような行為をしているかを把握する。

3.2 利用者の所属構成

3.2.1 利用者の所属と学年

(1) 学生数からみた学年構成

キャンパスに在籍する学生の中で、本研究のアンケート調査回答者がどの程度占め、どの学年の利用者で構成されているか、教職員・一般（その他）がどれだけ利用しているかを把握したものを表3-1に示す。学生は、学生数から1000人当たりの利用者数（(a/b) *1000）を割り出して分析した。

学生全体では、1000人当たり利用者数が77人程度となった。つまり、キャンパスで対象となる学生の約7%がアンケートに回答している。しかし、図書館の入館者数やアンケートの配布数を考慮すれば、10%ほどの学生が図書館やLCに来ている。

学部の合計では、1年生の1000人当たりの利用者数が最も高い92.3人である。中でも、名学、愛知、京産の1年生の1000人当たりの利用者数は、100人以上であった。一方、相山は32.9人、愛学は61.4人で比較的少なかった。

表3-1 アンケート回収者による1000人当たりの利用者数

		愛淑			相山			愛学			名学			愛知			立命			中部			京産			合計		
		a	b	(a/b)*1000	a	b	(a/b)*1000	a	b	(a/b)*1000	a	b	(a/b)*1000	a	b	(a/b)*1000	a	b	(a/b)*1000	a	b	(a/b)*1000	a	b	(a/b)*1000			
		学部	1年生	133	1699	78.3	41	1247	32.9	168	2736	61.4	142	1164	122.0	197	1653	119.2	319	3283	97.2	199	2678	74.3	417	3043	137.0	1616
	2年生	83	1542	53.8	80	1211	66.1	118	1598	73.8	118	1200	98.3	98	1594	61.5	250	3575	69.9	174	2786	62.5	313	3109	100.7	1234	16615	74.3
	3年生	110	1644	66.9	63	1385	45.5	124	1508	82.2	85	916	92.8	196	1691	115.9	288	3690	78.0	214	2885	74.2	233	2959	78.7	1313	16678	78.7
	4年生	106	1520	69.7	60	1280	46.9	159	1676	94.9	91	1128	80.7	97	1938	50.1	288	3456	83.3	121	2613	46.3	158	3695	42.8	1080	17306	62.4
	5年生以上	0			0			0			0			5			21	761	27.6				3				29	
	無記入	2			1			0			5			3			9			4			14				38	
	小計	434	6405	67.8	245	5123	47.8	569	7518	75.7	441	4408	100.0	596	6876	86.7	1175	14765	79.6	712	10962	65.0	1138	12806	88.9	5310	68863	77.1
大学院	修士・前期	6	42	142.9	1	23	43.5	12	95	126.3	3	79	38.0	4	47	85.1	53	510	103.9	10	244	41.0	8	144	55.6	97	1184	81.9
	後期	2	11	181.8	0	3	0.0	2	30	66.7	0	14	0.0	3	83	36.1	16	352	45.5	2	59	33.9	2	28	71.4	27	580	46.6
	小計	8	53	150.9	1	26	38.5	14	125	112.0	3	93	32.3	7	130	53.8	69	862	80.0	12	303	39.6	10	172	58.1	124	1764	70.3
	小計	442	6458	68.4	246	5149	47.8	583	7643	76.3	444	4501	98.6	603	7006	86.1	1244	15627	79.6	724	11265	64.3	1148	12978	88.5	5434	70627	76.9
	教職員	20			7			4			8			6			33			12			24				114	
	その他	10			3			51			30			10			55			88			18				265	
	合計	472			256			638			482			619			1332			824			1190				5813	

※5年生以上には、6、7年生も含めている

(2) 学年構成と割合

学年ごとの割合を算出したものを表3-2に示す。学部生の占める割合は、どの大学でも最も高い。中部以外で91%以上、中部は86%となった。中部「その他」は、附属高校生（春日丘高校）が多く含まれている。その他が2番目に多い愛学は、聴講生（開放講座の利用者）が多くを占めていた^{注3-1)}。

学年ごとで割合を整理する。合計より1年生は30%と最も高く、最も少ない学生は4年生の20%であった。1年生の中でも、愛淑31%、愛学29%、名学32%、愛知33%、立命26%、京産36%の6大学は高い。また、相山は2年生が多く33%であった。いずれも、授業のコマ数が集中し、大学に来る頻度が多いと思われる低学年の利用が多くなった。

なお、本研究では、学生の利用実態から学習場所内での行動を明らかにしていくことから、学部生と大学院生を含んだ学生の利用者から分析を進めていく。

注3-1) 春日丘高校(中部)は調査当日、テスト期間中であった。後日職員の方にヒアリングを行ったところ、平時の時より多いようであった。愛学の聴講生は、図書館の利用が可能であり、図書資料の貸出(3冊まで14日間)ができる。

表 3-2 学年ごとの利用者割合

	愛淑	椋山	愛学	名学	愛知	立命	中部	京産	合計
学部生	92%	96%	89%	91%	96%	88%	86%	96%	91%
大学院生	2%	0%	2%	1%	1%	5%	1%	1%	2%
教職員	4%	3%	1%	2%	1%	2%	1%	2%	2%
その他	2%	1%	8%	6%	2%	4%	11%	2%	5%
合計	472 (100%)	256 (100%)	638 (100%)	482 (100%)	619 (100%)	1332 (100%)	824 (100%)	1190 (100%)	5813 (100%)
学部	1年生	30%	17%	29%	32%	33%	26%	27%	30%
	2年生	19%	33%	20%	27%	16%	20%	24%	23%
	3年生	25%	26%	21%	19%	33%	23%	30%	24%
	4年生	24%	24%	27%	20%	16%	23%	17%	20%
	5年生以上	0%	0%	0%	0%	1%	1%	0%	0%
	無記入	0%	0%	0%	1%	0%	1%	1%	1%
大学院	修士・前期	1%	0%	2%	1%	1%	4%	1%	2%
	後期	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%
小計	442	246	583	444	603	1244	724	1148	5434

3.2.2 利用者の学部構成

各大学での所属している学部の割合と1000人当たりの人数を表3-3にみる。各大学で学生数と利用者は比例し、学生数の多い学部の割合は高い。1000人当たりの利用者数をみると、いずれの大学も文学部、人文学部、文化学部^{注3-2)}は多く、1000人当たり100人程度が利用している。その他、京産の外国語学部も多い。そのため、語学系、歴史系を取り扱う学問領域は、利用者が多い。また、理系分野である工学や情報学分野の1000人当たりの利用者数は少ない傾向にあった。

注3-2) 愛淑は、国文学科、総合英語学科、教育学科が含まれる。

愛学は、歴史学科、日本文化学科、国際文化学科、グローバル英語学科、宗教文化学科が含まれる。

立命は、人間研究学域、日本文学研究学域、日本史研究学域、東アジア研究学域、国際文化学域、地域研究学域、国際コミュニケーション学域、言語コミュニケーション学域が含まれ、さらに学域内で各専攻に分けられる。

中部は、日本語日本文化学科、英語英米文化学科、コミュニケーション学科、心理学科、歴史地理学科が含まれる。

京産は、京都文化学科、国際文化学科が含まれる。

3.2.3 利用者の男女比

学生の性別を表3-4に示す。女性の学生が多い大学は女子大学の椋山の他に、愛淑、立命であった。男性が多い大学は愛学、名学、愛大、中部、京産となった。なお、本研究では、男女差による分析は行っていない。

3.2.4 利用人数

利用者が個人で来ているか、あるいはグループ利用の何人組で来ているかを表3-5でみる。全ての大学で「個人利用」が最も多く、ほとんどが7割以上を占めている^{注3-3)}。仕切りのついた個人用のキャレル席を多く持つ愛知と立命は、8割以上の個人利用であった。

グループ利用では、「2人組」が最も多く1割程度である。開架閲覧室でも会話が可能であり、グループ利用を許容している椋山は、「2人組」が21%と他大学に比べて最も多い。また、LCを持たない愛淑でも13%のグループ利用がみられた。一方、開架閲覧室とLCが同程度の面積を占める名学では、グループ利用が27%と他と大きく変わらない結果であった。

注3-3) 植松・文3-3)は、「本は個人で利用する。すなわち、図書館は個人利用の場である。・・・図書館は日常的な活動においてもあるいはその空間的なたずまいにおいても、利用者一人一人に個人として接する努力を払わなければならない。・・・(p. 5)」としている。一方でパブリックな施設であることから共同の場いわゆる公的秩序は追及すべき課題と述べている。

表 3-3 学部別の学生数からみた 1000 人当たりの人数と割合

学部名称	回答者	割合	学生数	1000人当たりの利用者数
文学部	138	31%	1431	96.4
人間情報学部	55	12%	981	56.1
心理学部	63	14%	862	73.1
創造表現学部	61	14%	1043	58.5
健康医療科学部	55	12%	1148	47.9
福祉貢献学部	43	10%	582	73.9
交流文化学部	2	0%	1481	1.4
ビジネス学部	2	0%	1200	1.7
グローバル・コミュニケーション学部	0	0%	202	0.0
メディアプロデュース学部	13	3%	357	36.4
大学院	8	2%	57	140.4
無記入	2	0%		
合計	442	100%	9344	47.3

学部名称	回答者	割合	学生数	1000人当たりの利用者数
法学部	138	23%	1523	90.6
経済学部	136	23%	1601	84.9
経営学部	146	24%	1761	82.9
現代中国学部	78	13%	857	91.0
国際コミュニケーション学部	93	15%	1134	82.0
文学部	3	0%	1678	1.8
地域政策学部	0	0%	1113	0.0
短期大学部	1	0%	247	4.0
大学院	7	1%	140	50.0
無記入	1	0%		
合計	603	100%	10054	60.0

学部名称	回答者	割合	学生数	1000人当たりの利用者数
生活科学部	74	30%	1098	67.4
国際コミュニケーション学部	63	26%	990	63.6
人間関係学部	15	6%	959	15.6
文化情報学部	39	16%	1065	36.6
現代マネジメント学部	12	5%	814	14.7
教育学部	19	8%	718	26.5
看護学部	23	9%	438	52.5
大学院	1	0%	44	22.7
無記入	0	0%		
合計	246	100%	6126	40.2

学部名称	回答者	割合	学生数	1000人当たりの利用者数
法学部	338	27%	3795	89.1
産業社会学部	216	17%	4029	53.6
国際関係学部	120	10%	1404	85.5
文学部	444	36%	4851	91.5
映像学部	35	3%	686	51.0
大学院	70	6%	862	81.2
その他の学部	11	1%		
その他の研究科	2	0%		
無記入	8	1%		
合計	1244	100%	15627	79.6

学部名称	回答者	割合	学生数	1000人当たりの利用者数
工学部	216	30%	3474	62.2
経営情報学部	42	6%	1318	31.9
国際関係学部	39	5%	584	66.8
人文学部	127	18%	1737	73.1
応用生物学部	85	12%	1539	55.2
生命健康科学部	157	22%	1620	96.9
現代教育学部	44	6%	690	63.8
大学院	12	2%	303	39.6
無記入	2	0%		
合計	724	100%	11265	64.3

学部名称	回答者	割合	学生数	1000人当たりの利用者数
経済学部	181	16%	2576	70.3
経営学部	169	15%	2744	61.6
法学部	244	21%	2750	88.7
外国語学部	313	27%	2155	145.2
文化学部	118	10%	1038	113.7
理学部	28	2%	425	65.9
コンピュータ理工学部	41	4%	635	64.6
総合生命学部	38	3%	483	78.7
大学院	10	1%	172	58.1
無記入	6	1%		
合計	1148	100%	12978	88.5

学部名称	回答者	割合	学生数	1000人当たりの利用者数
文学部	192	33%	2272	84.5
心身科学部	98	17%	1674	58.5
商学部	27	5%	1266	21.3
経営学部	33	6%	1397	23.6
経済学部	22	4%	547	40.2
法学部	143	25%	1409	101.5
総合政策学部	31	5%	984	31.5
薬学部	14	2%	954	14.7
歯学部	7	1%	766	9.1
大学院	14	2%	282	49.6
無記入	2	0%		
合計	583	100%	11551	50.5

学部名称	回答者	割合	学生数	1000人当たりの利用者数
経済学部	163	37%	1774	91.9
商学部	158	36%	1331	118.7
法学部	23	5%	318	72.3
外国語学部	95	21%	985	96.4
スポーツ健康学部	0	0%	561	0.0
リハビリテーション学部	0	0%	354	0.0
人間健康学部	0	0%	4	0.0
大学院	3	1%	93	32.3
無記入	2	0%		
合計	444	100%	5420	81.9

表 3-4 性別ごとの利用者割合

	愛淑	椋山	愛学	名学	愛知	立命	中部	京産	合計
男性 人数 (人)	96	0	394	333	327	544	488	721	2903
男性 割合	22%	0%	68%	75%	54%	44%	67%	63%	53%
女性 人数 (人)	344	246	180	101	269	690	226	416	2472
女性 割合	78%	100%	31%	23%	45%	55%	31%	36%	45%
無記入 人数 (人)	2	0	9	10	7	10	10	11	59
無記入 割合	0%	0%	2%	2%	1%	1%	1%	1%	1%
合計 人数 (人)	442	246	583	444	603	1244	724	1148	5434
合計 割合	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 3-5 利用人数別の割合

	愛淑	椋山	愛学	名学	愛知	立命	中部	京産	合計
個人利用	82%	68%	78%	73%	87%	86%	70%	74%	78%
グループ利用	2人組	13%	21%	14%	15%	8%	11%	16%	13%
	3人組	2%	9%	5%	7%	4%	1%	7%	4%
	4人組	2%	0%	1%	3%	1%	0%	3%	2%
	5人組以上	0%	2%	2%	2%	0%	1%	3%	1%
その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%
無記入	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	1%	1%
合計(人)	442	246	583	444	603	1244	724	1148	5434

3.3 利用者の利用目的と利用理由

3.3.1 入退館前後の場所

入館前と退館後のそれぞれ居た場所を学内と学外^{注3-4)}に分け、それらを組み合わせ、調査した学習環境がどのタイミングで利用されているかを読み取ったものを表3-6に示す。ここでは、調査の都合上4大学で分析を行った。なお、椋山と愛知では「決めていない」の選択肢を設けていないため、並列して分析することは難しいが、全体の傾向を読み取るものとして位置付ける。

4大学共に大きな変化はみられない。「学内/学内」が4割近くを占め最も多く、授業の合間等々に来ている。また、「学外/学外」も一定数みられ、図書館やLCだけを目的に大学に来ている利用者もいる。中でも、名古屋駅近くにある愛知は、他大学に比べ、「学外/学外」が12%とわずかに高く、立地の影響を受けていると思われる。

注3-4) 学外は、「自宅」がほとんどで、その他はアルバイト先、他のキャンパスなどである。「学内」は、キャンパス内の講義室や食堂、クラブハウスを指している。

表 3-6 入退館前後の場所

入館前	退館後	愛淑	椋山	愛知	中部	合計
学外	学外	6%	7%	12%	8%	8%
学外	学内	21%	14%	17%	17%	17%
学内	学外	21%	36%	21%	23%	24%
学内	学内	38%	38%	41%	37%	39%
決めていない		4%	-	-	7%	4%
無記入		11%	4%	9%	8%	9%
合計(人)		442	246	603	724	2015

3.3.2 利用頻度

利用頻度を表3-7に示す。いずれの大学も「一週間に2、3回」が最も多い3割以上であった。一週間以上の利用者を全て足し合わせると、最低でも6割以上であった。利用している人は、利用頻度も高い傾向にある。

「ほとんど毎日」は、立命で31%が他の大学よりも高く、一週間以内に利用する学生は9割程度であった。

利用頻度の高さから、利用者の通常の利用実態を把握できているものと思われる。また、場所選択において利用できる時間帯などを予想して行動していると考えられる。

表 3-7 利用頻度

	愛淑	椋山	愛学	名学	愛知	立命	中部	京産	合計
ほとんど毎日	10%	11%	13%	15%	23%	31%	13%	19%	19%
一週間に2,3回	38%	30%	38%	48%	43%	44%	43%	37%	41%
一週間に1回	21%	20%	25%	19%	18%	14%	18%	22%	19%
二週間に1回	13%	16%	7%	6%	7%	5%	9%	11%	8%
月に1回	8%	11%	10%	7%	3%	3%	7%	5%	6%
二、三ヶ月に1回	6%	7%	4%	3%	3%	1%	5%	3%	4%
年に2,3回以下	4%	4%	2%	1%	1%	0%	3%	3%	2%
その他	1%	-	0%	1%	0%	0%	2%	1%	1%
無記入	0%	2%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	1%
合計(人)	442	246	583	444	603	1244	724	1148	5434

3.3.3 滞在時間

アンケート用紙の受渡しの際に記録した入退館時刻から、滞在時間を算出し、ヒストグラムにしたものを図3-1に示す。また同時に平均滞在時間も算出した。立命と中部は3時間以上の利用が10%を超え、他大学よりも多い。どの大学も3時間以上の利用を除くと概ね、「10分未満～10分」と「80～90分」の利用が多い傾向にある。また「100分以上」になると利用者が減っている。先の入退館前後の場所の分析結果からみて、授業と授業の合間に利用していると考えられる。

愛淑は「10分未満～10分」が30%以上と他の大学に比べて多く、平均滞在時間も1時間を下回り最も短い。愛知と名学は「30～40分」の利用が多い。

3.3.4 来訪理由

開架閲覧室とLCを利用する理由を表3-8に示す。なお調査の都合上、愛学と名学はアンケート用紙で聞いていない。どの大学も来訪理由は多岐にわたっている。中でも「静かで落ち着いている」が6割以上と最も多く、静かな場所が要求されている。2番目に高いのは「図書資料がある」であった。中でも愛淑は、半数の51%を占めている。これはLCがなく、開架閲覧室のみで構成されているため、要求する事項が限定的になったと思われる。逆に京産は10%と最も低かった。また「いつも席が空いている」は、どの大学でも10%程度みられ、大きな変化はなかった。

愛淑以外はLC内で、学習支援が受けられるが、どの大学も「学習支援サービスが受けられる」は1~3%程度と低く、あまり利用されていない。

立命、中部、京産は、「利用していた建物から近い」の割合が高い。これら3大学は、比較的広大なキャンパスで建物間の移動距離が長いため、近さの項目が高くなったと考えられる。椋山は「賑やか・会話ができる」が12%と他よりも高く、グループで利用できる場所が限定されているからと思われる。

また、図書資料だけでなく、PCや印刷機による選択理由もある。立命は「印刷・コピー機が利用できる」が21%と高く、椋山は「PC利用がしやすい」が30%と高い。

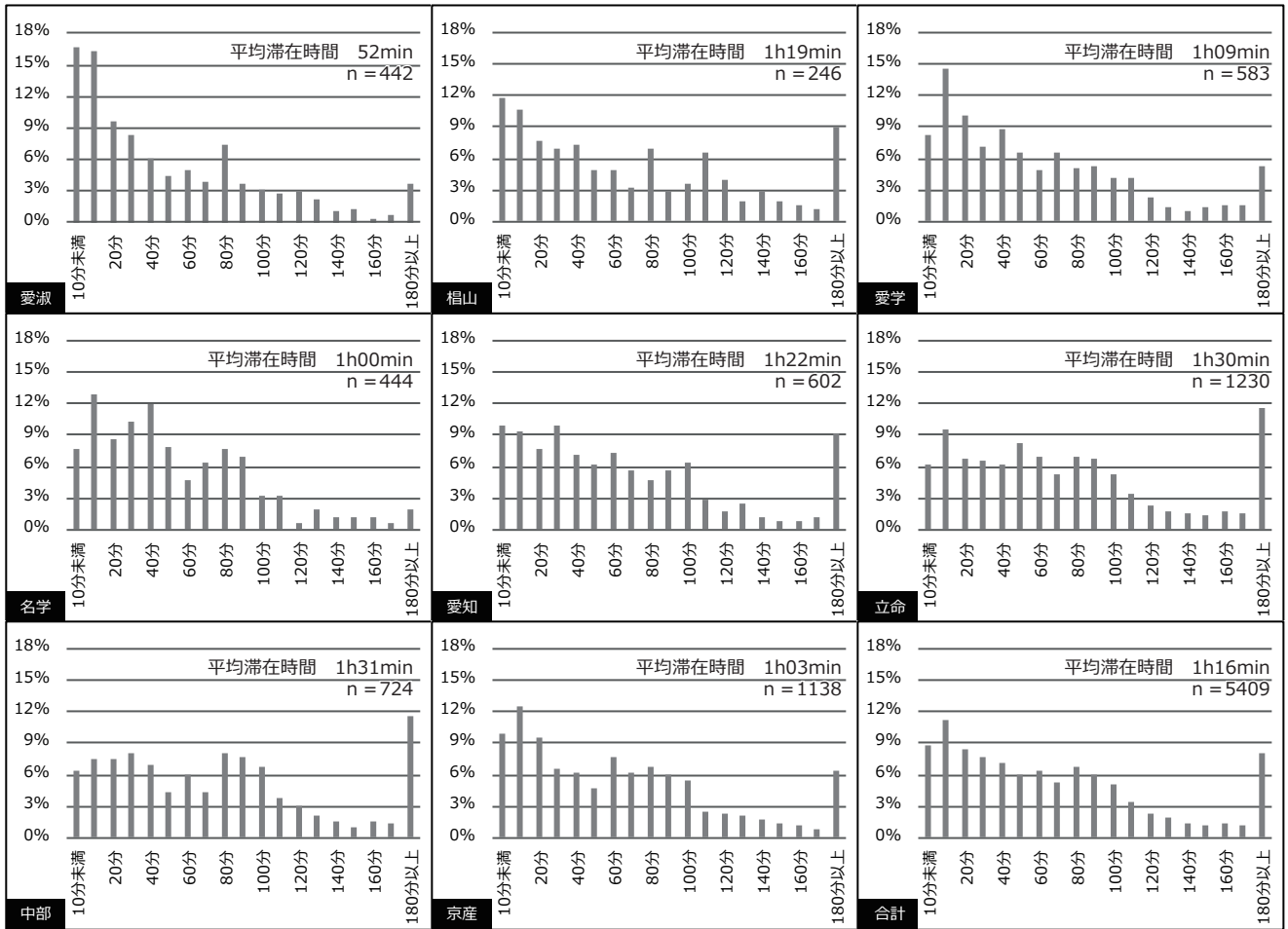


図 3-1 滞在時間の割合と平均滞在時間

表 3-8 来訪理由 (複数選択)

	愛淑	椋山	愛知	立命	中部	京産	合計
利用していた建物から近い	6%		4%	17%	12%	17%	13%
次の講義の建物に近い	2%		2%	3%	7%	8%	5%
静かで落ち着いている	69%	70%	75%	68%	65%	61%	67%
賑やか・会話できる	1%	12%	4%	2%	8%	7%	5%
図書・雑誌等の資料がある	51%	25%	28%	22%	29%	10%	24%
PCの利用がしやすい		30%	7%	26%	20%	18%	18%
空間の明るさや空調が良い	12%	17%	10%	27%	31%	23%	22%
開館時間が長い	7%	0%	8%	23%	12%	9%	12%
印刷・コピー機が利用できる		9%		21%	3%	11%	10%
学習支援サービス(ワル/込)が受けられる		2%	0%	3%	1%	1%	1%
いつも座席が空いている	11%	17%	18%	17%	12%	11%	14%
飲み物を飲むことができる	0%		3%	3%	2%	9%	4%
視聴覚資料(DVDなど)がある	18%						2%
その他	3%	13%	5%	4%	4%	4%	5%
無記入	1%	2%	0%	2%	1%	3%	2%
合計	442	246	603	1244	724	1148	4407

3.3.5 利用目的

(1) 全体の利用目的

開架閲覧室と LC を利用する目的を表 3-9 に示す。全ての大学で「一人で勉強する」が最も高く、平均からみても 40% を占めている。一方「友人と一緒に勉強をする」は 4～20% と大学ごとで異なる。別棟に LC を持つ中部と京産は 20%、12% と高い。多くの大学の約半数は、勉強を目的に利用しているが、名学は両項目を足し合わせても 28% と低かった。

次いで高い利用目的は、「本を借りる」で 2 割程度であった。この項目でも名学は 12% と他に比べ最も低かった。図書閲覧系では、「本を読む」が次に高く、平均でも 19% だった。

愛淑と立命は「本を借りる」、「本を読む」の割合が高く、図書資料を目的に利用している大学である。

PC 利用系をみると「PC で文書、レポートを作成する」は、多くの大学で 10% 以上みられる。特に、名学は割合が高く、座席数に対して、PC の台数が多いことが影響していると思われる。一方で、愛淑と愛知は低く、「PC で文書、レポートを作成する」は 3%、7% しかない。愛淑はインターネット設備がなく、愛知は電源タップが少ないことが PC 利用を妨げていると考えられる。

学習以外系をみると、「くつろぐ」は 1 割程度みられ、学習以外の目的も一定数みられる。講義室と同じ棟内に図書館を持つ名学と愛知は「くつろぐ」が 23% と最も高かった。名学は「ただふらっと来た」も 14% と高い。

来訪理由でも低かったが「学習支援を受ける」は 1% 程度と低く、またその他の項目にも学習支援に関する記述はほとんどみられなかった。LC があっても学習支援を目的に利用していない。

(2) 学習利用とその他の分類

学習目的として利用しているか否かを捉えるために、先の利用目的の選択項目から「学習利用」、「その他利用」に分類して割合を算出した。分類の基準は、開架閲覧室と LC 内で着座して、学習利用ができるかどうかとした (図 3-2)。設問は複数回答のため、学習に分類した目的とその他の目的の両方を選択している利用者がある。しかし、多くの回答者を捉えるため、学習利用に分類した。

8 大学の合計からみると「学習」は、77% で、「その他」は 23% といずれの大学も学習を目的に利用している利用者が多い。

大学別の「学習利用」の割合は、愛淑が 67% と最も低い。これは、図書の貸出返却を目的とした利用が多かったからである。

3.3.6 開架閲覧室と LC 内での過ごし方

(1) 着座行為率と座席占有率

巡回プロット調査より、全体の利用者数に対して、どれだけ座っている行為をしているかをみた着座行為率 (着座人数 / 滞在者数) と、座席数に対して

表 3-9 利用目的（複数回答）

系統	利用目的項目	愛淑	椋山	愛学	名学	愛知	立命	中部	京産	合計
勉強 利用系	一人で勉強をする	38%	36%	32%	24%	54%	50%	39%	35%	40%
	友人と一緒に勉強をする	6%	8%	8%	4%	4%	7%	20%	12%	9%
図書 閲覧系	本を借りる	30%	26%	23%	12%	20%	26%	16%	20%	22%
	本を返す	21%	16%	10%	5%	12%	16%	10%	12%	13%
	本・資料等を探す	12%	21%	18%	7%	16%	22%	14%	9%	15%
	本を読む	22%	13%	20%	15%	13%	25%	16%	17%	19%
	新聞を読む	2%	-	10%	5%	5%	8%	3%	4%	5%
	雑誌を読む	4%	-	9%	7%	1%	3%	2%	2%	3%
	新聞・雑誌を読むため	-	4%	-	-	-	-	-	-	0%
DVD・ビデオ等を鑑賞する	9%	2%	17%	6%	-	4%	3%	6%	6%	
PC 利用系	PCでWEBサイトを利用する	0%	4%	4%	23%	2%	8%	5%	8%	7%
	PCで文書、レポートを作成する	3%	17%	14%	19%	7%	19%	16%	12%	14%
	PCでデータベースを利用する	4%	0%	7%	11%	2%	6%	4%	6%	5%
	印刷・コピーする	0%	3%	4%	8%	0%	11%	1%	6%	5%
授業、 ゼミ系	授業、ゼミで利用する	5%	4%	3%	2%	6%	2%	1%	2%	2%
	サークル（ゼミ）で利用する	-	-	4%	2%	-	3%	2%	3%	2%
学習 以外系	くつろぐ	16%	5%	13%	23%	23%	11%	15%	18%	16%
	ただふらっときた	12%	2%	8%	14%	8%	8%	10%	10%	9%
	待ち合わせ場所として	1%	2%	5%	2%	1%	2%	3%	5%	3%
	友人とおしゃべりする	1%	2%	2%	3%	3%	1%	3%	6%	3%
人的 支援系	学習支援を受ける	-	-	-	-	-	-	0%	1%	0%
	イベント・WSに参加する	-	-	-	-	-	-	0%	1%	0%
その他 利用系	通り抜け、ついで利用する	2%	-	-	-	-	1%	-	0%	0%
	学生スタッフとして	-	-	-	-	-	-	-	1%	0%
	その他	4%	4%	2%	4%	3%	5%	4%	4%	4%
無記入	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%
回答者数	442	246	583	444	603	1244	724	1148	5434	

学習利用	その他の利用
<ul style="list-style-type: none"> ・本、新聞、雑誌を読む ・PCでデータベースを利用する ・本、資料等を探す ・レファレンスを受ける（中部、京産のみ） ・一人で勉強する ・友人と一緒に勉強する ・PCでWEBサイトを利用する ・PCで文書、レポートを作成する ・授業、ゼミで利用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・本を借りる ・本を返す ・友人とおしゃべりする ・くつろぐに来た ・DVD・ビデオ等を鑑賞する ・待ち合わせ場所として来た ・ただふらっと来た ・印刷・コピーをする ・他施設について（立命、京産のみ） ・アクティビティに参加する（京産のみ） ・ワークショップに参加する（京産のみ） ・通り抜けをする（愛淑のみ） 他施設について、立命は「カフェ」、京産は「Ascella(アスケラ)」・「部室」 その他は、自由記述の内容を分析してその都度分類した

図 3-2 学習利用の定義

表 3-10 学習目的とその他の目的の分類

	愛淑	椋山	愛学	名学	愛知	立命	中部	京産	合計
学習利用	67%	74%	76%	75%	80%	84%	78%	72%	77%
その他の利用	33%	26%	23%	25%	20%	15%	21%	27%	23%
無記入	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%
合計(人)	442	246	583	444	603	1244	724	1148	5434

どれだけ埋まっているかをみた座席占有率（着座人数 / 座席数）を算出し、図 3-3 に示す。

全体でみると平均 88% であり、いずれの大学も共通して 8 割程度で推移している。公共図書館が平均 65% 程^{文 3-4)} に対して、開架閲覧室と LC は着座に対して強い要求を持っている。残りの 2 割程は、図書資料の探索や、移動等の利用者を捉えている。また、時刻ごとで大きな偏りがあるわけではなく、どの時刻でも高い着座行為率を捉えた。中でも、名学は平均 93% と最も高く、LC 内の 3 割を PC 席が占めていることから、既往研究^{文 3-5)} と同様に PC の設置が着座を促していると思われる。



図 3-3 着座行為率と座席占有率

(2) 座席占有率

着座行為率の平均は11%程度であり、時刻変動でみていくと、大半の時間帯は1割以上埋まり、ピーク時は20%であった。中でも名学、愛知、立命は3割近くみられ、他の大学に比べて多く埋まっていた。

しかし、いずれの大学も、全体の3割しか埋まらないことを考慮すると、座席が空いていなかったから仕方なく着座するのではなく、利用者は求める場所を自由に選択していると考えられる。

(3) 利用行為

巡回プロット調査で把握した利用行為^{注3-5)}から、開架閲覧室とLC内で何が行われているかを表3-11に示す。名学以外は「読み書き」が全行為の2割程度を占めて最も多く、筆記具を利用して学習している。次いで、「携帯・スマホ操作」、「PC利用」となった。また、先の利用目的からもわかるように、「PC利用」は名学が32%と圧倒的に高い。

「会話」は、各大学7～14%みられ、LCの占める面積が多い京産が最も高かった。愛知は、「居眠り」が9%と他大学よりも多く、先の利用目的からわかるように、休息の場所として捉えている可能性が高い。

注3-5) 椋山、愛学、名学は「イヤフォンをしている」の項目は、注目してみてもなかったため、割合は低くなっている。

表 3-11 利用行為

	愛淑	相山	愛学	名学	愛知	立命	中部	京産	平均
読み書き(主に書きもの)	24%	31%	23%	14%	26%	29%	31%	19%	26%
携帯・スマホ操作	13%	8%	10%	18%	22%	14%	16%	16%	15%
PCの利用(WEB,文書作成など)	0%	4%	15%	32%	9%	17%	14%	15%	15%
図書(本)を閲覧	7%	3%	3%	3%	3%	5%	3%	5%	4%
新聞・雑誌を閲覧	3%	3%	3%	1%	1%	1%	0%	1%	1%
本・DVDを探す	4%	2%	2%	1%	1%	2%	1%	2%	2%
図書資料による調べ物	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
会話	8%	9%	7%	12%	11%	7%	13%	14%	10%
居眠り	5%	3%	4%	4%	9%	5%	5%	5%	5%
OPAC検索・レファレンス	4%	1%	2%	0%	1%	1%	0%	0%	1%
AV利用・動画視聴	14%	15%	16%	5%	0%	1%	2%	5%	4%
イヤフォンしている	5%	1%	1%	0%	10%	9%	5%	9%	7%
準備・片付け	1%	1%	1%	0%	1%	0%	1%	0%	1%
移動	5%	6%	8%	4%	2%	4%	4%	4%	4%
授業・ガイダンス	0%	8%	0%	0%	0%	1%	0%	2%	1%
その他	4%	6%	7%	5%	3%	2%	2%	2%	3%
行為数合計	2717	2352	3919	3128	7546	22036	10379	12905	64982

3.3.7 開架閲覧室とLCに対する利用イメージ

開架閲覧室とLCに対するイメージを表3-12に示し、開架閲覧室とLCをどのようなところと認識しているかを把握する。なお、調査の都合上、相山はアンケートで聞いておらず、愛学と名学は選択項目を増やして聞いている。全ての大学で「自分の勉強をするところ」が約半数以上と最も高く、勉強の場所として捉えられている。次いで、「知りたいこと、調べたいことがわかるところ」、「ひとりの時間を過ごせるところ」が3割以上であった。選択項目の多い、愛学と名学をみると、「本を貸し借りするところ」、「本を読むところ」の意識も高く、利用目的を勘案すると、他の大学でもそういった認識を多く持っていると考えられる。

いずれの大学も学習に対して利用する認識を持つ一方で、「友人、知人と交流を深めるところ」といった認識は低く、LCがあるところでも交流の場所としては認識されていない。

各大学で特徴的な項目をみると、「知りたいこと、調べたいことがわかるところ」は、図書利用の高い愛淑と立命が他大学に比べて50%以上と高い。図書利用と知識習得は高い関係性があると思われる。また愛淑は「暇なときに利用するところ」が36%と他大学以上に高い割合が得られ、渡り廊下で接続されていることで行きやすく、気軽さがあると考えられる。「友人と一緒に学習、議論するところ」は、LCが別で設置され、グループ利用者が多かった中部と京産でわずかに高い。

表 3-12 開架閲覧室とLCに対する利用イメージ（複数回答）

	愛淑	愛学	名学	愛知	立命	中部	京産	合計
日課として来るところ	7%	5%	3%	10%	13%	8%	10%	9%
自分の勉強するところ	58%	56%	45%	70%	77%	62%	61%	61%
知りたいこと、調べたいことがわかるところ	55%	36%	28%	34%	53%	37%	26%	37%
気分転換をするところ	17%	14%	12%	8%	14%	15%	14%	13%
ひとりの時間を過ごせるところ	46%	29%	30%	43%	41%	32%	36%	36%
友人、知人と交流を深めるところ	1%	3%	1%	3%	3%	3%	5%	3%
暇なときに来るところ	36%	19%	29%	31%	29%	24%	29%	27%
興味を深められるところ	16%	17%	13%	10%	13%	9%	10%	12%
友人と一緒に学習、議論するところ	4%	8%	4%	8%	8%	13%	11%	8%
他にいくところがないから来るところ	9%	-	-	9%	9%	10%	9%	7%
本を貸し借りするところ	-	51%	39%	-	-	-	-	9%
本を読むところ	-	43%	38%	-	-	-	-	8%
PCを使うところ	-	13%	22%	-	-	-	-	3%
CD、ビデオ、DVDを利用するところ	-	18%	8%	-	-	-	-	3%
居心地のよいところ	-	18%	14%	-	-	-	-	3%
多様な空間が用意されているところ	-	6%	6%	-	-	-	-	1%
その他	1%	1%	0%	1%	1%	1%	2%	1%
無記入	1%	0%	1%	0%	1%	1%	2%	1%
回答者数（人）	442	583	444	603	1244	724	1148	5434

3.4 利用者の選択場所

3.4.1 利用率と学習率

利用者がどこを選択しているか整理する。まず、座席の種類を通常の閲覧席（4,6人掛けの席、カウンター席、キャレル席、机のあるソファ席）、個室タイプの個人学習室とグループ学習室、PCエリア、AVエリア、ソファ、の6つに分類^{注3-6)}して、一日にどれだけその席が利用されているかをみた「利用率」と、そこで学習がされているか否かの比率をみた「学習率」^{注3-7、8)}を分析する（表3-13-①、②）。

注3-6)「AVエリア」は、DVDやビデオの視聴が可能な場所。「ソファ」は、特に雑誌や新聞が閲覧できるブラウジングコーナー付近に設置され、机がないところを指す。なお、LC内にもソファが設けられているが、机がセットである場合は、「通常の座席」に分類した。

注3-7) 利用率＝（その場所の利用者数 / （座席数×巡回回数））× 100
 学習率＝（学習利用者数 / その場所の利用者数）× 100
 なお巡回回数は、各大学で異なる。表の右上端に巡回回数を記載している。

(1) 座席比率

まず、対象としている座席の割合を整理しておく。全ての大学で「通常の座席」が約80%以上と最も多く占めている。「通常の座席」は、愛知が最も多い98%を占めていた。

注3-8) 学習利用は、巡回プロット調査から把握し、学習しているみられたものを対象とした。主な行為は以下に示す。「筆記作業」、「図書閲覧」、「検索」、「PC利用（デスクトップPC、ノートPC、タブレット端末）」、「会話（明らかに私語と思われたものは除外した）」、「ホワイトボードの利用」、「電子辞書の利用」、「学習と判断したスマートフォン利用」など

全体より「グループ学習室」は5%占め、2番目に座席が多い場所であった。愛淑、京産は9%、8%を占めている。特に京産は、調査概要に載せている図面をみてもわかるように、様々な大きさのグループ学習室が設置されている。「個人学習室」は1%程度と席数はほとんどなく、相山と名学は整備がされていない。名学は、「PCエリア」が多く占め、その影響で利用目的や利用行為に差が生じていた。

(2) 利用率

まず全体からみると、合計は13%であった。これは、1日を通して13%の座席が埋まっている（利用されている）ことを指す。「PCエリア」は、最も高

く、40%の利用率であった。特に名学、中部、京産で50%以上と高い。いずれもプリンターが用意されており、自ら作成した資料がプリントアウトできるため、高くなったと思われる。

合計より、次いで「個人学習室」が34%であった。周囲からの視線や音などをシャットアウトした場所は、一定の利用者に求められている。一方、「グループ学習室」は、全体でも5%しか着座しておらず、一部屋に対して用意されている座席がほとんど埋まっていない。中でも相山と立命の「グループ学習室」は、比較的高く、相山は室内でDVDの利用が可能、立命は調査当日に授業で利用

表 3-13-① 【全体】 座席タイプ別からみた利用率・学習率

	全体 巡回回数 [c] 45.0(回,平均)					
	座席数 [a]	座席比率 [a/t]	利用者数 [b]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]
通常の座席 (閲覧席等)	7174	85%	40034	12%	27001	67%
個人学習室	55	1%	851	34%	606	71%
グループ学習室	420	5%	922	5%	518	56%
PCエリア	214	3%	3846	40%	3405	89%
AVエリア	273	3%	2643	22%	81	3%
ソファ	299	4%	659	5%	406	62%
合計 [t]	8435	100%	48955	13%	32017	65%

表 3-13-② 【大学別】 座席タイプ別にみた利用率・学習率

	愛淑 巡回回数 [c] 43(回)						相山 巡回回数 [c] 39(回)					
	座席数 [a]	座席比率 [a/t]	利用者数 [b]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]	座席数 [a]	座席比率 [a/t]	利用者数 [b]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]
通常の座席 (閲覧席等)	446	79%	1388	7%	899	65%	394	91%	1489	10%	1006	68%
個人学習室	6	1%	16	6%	12	75%	0	0%	0	0%	0	0%
グループ学習室	48	9%	35	2%	32	91%	6	1%	77	33%	7	9%
PCエリア	0	0%	0	0%	0	0%	12	3%	51	0%	45	88%
AVエリア	38	7%	391	24%	2	1%	20	5%	285	37%	7	2%
ソファ	25	4%	94	9%	56	60%	0	0%	0	0%	0	0%
合計 [t]	563	100%	1924	8%	1001	52%	432	100%	1902	11%	1065	56%

	愛学 巡回回数 [c] 43(回)						名学 巡回回数 [c] 43(回)					
	座席数 [a]	座席比率 [a/t]	利用者数 [b]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]	座席数 [a]	座席比率 [a/t]	利用者数 [b]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]
通常の座席 (閲覧席等)	1129	86%	2122	4%	1436	68%	305	78%	1442	11%	841	58%
個人学習室	4	0%	5	3%	5	100%	0	0%	0	0%	0	0%
グループ学習室	32	2%	12	1%	9	75%	12	3%	15	3%	14	93%
PCエリア	45	3%	410	21%	388	95%	51	13%	1113	51%	949	85%
AVエリア	62	5%	666	25%	25	4%	9	2%	116	30%	2	2%
ソファ	35	3%	18	1%	8	44%	13	3%	52	9%	35	67%
合計 [t]	1307	100%	3233	6%	1871	58%	390	100%	2738	16%	1841	67%

	愛知 巡回回数 [c] 48(回)						立命 巡回回数 [c] 53(回)					
	座席数 [a]	座席比率 [a/t]	利用者数 [b]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]	座席数 [a]	座席比率 [a/t]	利用者数 [b]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]
通常の座席 (閲覧席等)	817	98%	5336	14%	2977	56%	1600	84%	14881	18%	10902	73%
個人学習室	11	1%	239	45%	164	69%	9	0%	222	47%	174	78%
グループ学習室	0	0%	0	0%	0	0%	92	5%	435	9%	215	49%
PCエリア	0	0%	0	0%	0	0%	31	2%	424	26%	386	91%
AVエリア	0	0%	0	0%	0	0%	12	1%	392	62%	25	6%
ソファ	2	0%	5	5%	2	0%	156	8%	288	3%	141	49%
合計 [t]	830	100%	5580	14%	3143	56%	1900	100%	16642	17%	11843	71%

	中部 巡回回数 [c] 47(回)						京産 巡回回数 [c] 44.3(回,平均)					
	座席数 [a]	座席比率 [a/t]	利用者数 [b]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]	座席数 [a]	座席比率 [a/t]	利用者数 [b]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]
通常の座席 (閲覧席等)	1062	85%	6921	14%	4984	72%	1421	81%	6455	10%	3956	61%
個人学習室	5	0%	55	23%	45	82%	20	1%	314	35%	206	66%
グループ学習室	92	7%	4	0%	4	100%	138	8%	344	6%	237	69%
PCエリア	19	2%	529	59%	429	81%	56	3%	1319	53%	1208	92%
AVエリア	39	3%	284	15%	9	3%	93	5%	509	12%	11	2%
ソファ	32	3%	150	10%	137	91%	36	2%	52	3%	27	52%
合計 [t]	1249	100%	7943	14%	5608	71%	1764	100%	8993	12%	5645	63%

していたことが高い原因であると考えられる。立命は、一室40人規模まで利用することができ、講義室として使うことができていた。

「通常の座席」は、4~18%で推移し、全体では12%の利用率であった。愛学は最も少ない4%、立命が最も高い18%と大学間でばらつきが生じている。

(3) 学習率

学習率は、座席で学習をした利用者数をその座席の全利用者数で割っている。全体の合計は65%で、6割以上は何かしらの学習を行っている。最も座席数の多い「通常の座席」は67%であった。

「PCエリア」は89%で最も高く、これはPCの利用を学習行為に分類しているからである^{注3-9)}。次いで「個人学習室」が71%であった。「AVエリア」は、多くが娯楽としての映画鑑賞が多いことから、学習利用としては低かった。

注3-9) PC内の画面が確認できた際に、動画の視聴やゲーム等を行っている場合は学習以外の行為としてカウントした。

「通常の座席」を各大学ごとで比較する。最も高い学習率は、立命で73%、低い学習率は愛知と名学の56%、57%であった。先の3.3.5利用目的から、立命が高くなった要因として、勉強利用系が他に比べて6割程度と高いからと考えられる。一方、名学と愛知は、くつろぐの割合が高いため、学習率が低下したと思われる。利用目的と学習率の分析を勘案すると、他の大学に比べて、学習環境の位置が大きく影響している。名学と愛知は、講義室棟内に設置しており、アクセスはし易いが、その分休息の場所として捉えていると考えられる。その他の愛淑、愛学、京産、相山は61~68%で推移していた。

3.4.2 利用者の分布

先の利用率と学習率を図面に反映させ、どの場所が利用されて、学習利用がされているかをみていく。円の大きさは利用率を表し、どれだけ長い時間、あるいは多くの利用者がその場所に座っているかを捉えてみる。円の色は、学習率を示し、赤になるにつれて学習の割合が高くなる。ここでは、会話行為^{注3-10)}も学習利用として分類している(図3-4)。

注3-10) 明らかに私語と認識できたもの、や、スマートフォン等とセットで会話行為があったものは、学習以外の行為として分類した。

(1) 愛淑(図3-4-①)

利用率が高いのは、両サイドが仕切れ壁に向いている2Dで、40%程度の利用率が多くみられる。特に西側の利用率は高く、背後の2B'に利用者が少ないことが影響していると思われる^{注3-11)}。また、書架と壁に囲まれたグループ席である1Bも比較的に利用されている。一つひとつの利用率は高くないが、多くの席で着座している。

注3-11) Aaron Colenら・文3-6)によれば、椅子の背後に利用者が滞在していると座りにくいと述べている。そのため2D東側はあまりし座られていないと思われる。

一方で、利用者がほとんどいないエリアは、1E-a~dや2Hであった。1Eは、職員の執務エリアを通過し、さらに出入口から奥まった薄暗いエリアである。職員は、奥まった場所が利用されと想定していたが、実態はそうではなかった。2Hも出入口から最も遠く、机と椅子が可動式になったグループ席である。そのため出入口から距離があるグループ席はあまり利用されていない。4人掛け

のグループ席が3つ並ぶ2Eは、真ん中の4席（机1つ分）がほとんど利用されていない。利用者同士が間隔を空けて着座していた。一方で、先で説明した1Bは同じグループ席でも、机同士に隙間（通過できるようになれば）があれば、利用率が上がると思われる。

学習率は、いずれのエリアでも高いところ、低いところがみられる。そのため、学習をする人と学習をしていない人が混在している。中でも高いエリアは、2Gで学習率が6割以上の利用者しかいない。ここは、2Dと同じ什器であり、間隔を空けて着座している。また周囲には座席がなく、他の利用者を感じさせないエリアである。その他、学習率80%以上が集まるエリアとして1A'や1Bが挙げられる。1A'は、館内で最も机が広いエリアであった。

(2) 楢山（図3-4-②）

通常の座席より、利用率の高い場所として、B1A、B1B、1F、2Cが挙げられる。中でもB1Bは利用率40%以上の席が多い。両サイドの仕切りは人気が高く、同じく1Fも両サイドに仕切りがある。利用率が低いところは、3D、3Eや2Bである。3階はグループワークが可能なエリアであるが、空席が多く、また1人当たりの利用時間も短い。2Bも会話が可能で同じグループ席である2Dに比べて利用は少ない。2Bは階段から上がってすぐのところにある座席で、通過動線上は利用されない可能性が考えられる。

学習率は、地下1階が全体的に高い。利用率の高かったB1BやB1J、B1K、B1Lは高い。いずれも書庫と壁に挟まれた環境である。また、LCにあたる1Dは、調査当日に4つの机でガイダンスが行われ、学習率が低いところもあるが東側の2つの机は、8割以上の座席が多い。

(3) 愛学（図3-4-③）

愛学は、他の大学に比べて、仕切りのないグループ席が圧倒的に多い。特に中央部の階段から東側は旧館と呼ばれ、2,3階にある什器のほとんどは、図書館開館以来から使用されている。

利用率が高かったのは、2L、2O、LCMである。いずれも30%以上が埋まり、多い席では70%以上も所々でみられる。2L、2Oは、サイドに仕切りがあり、他大学にはない個室のような場所がつくられている^{注3-12)}。またどの座席にも着座しており、一席当たりの着座率も高い。個室のような環境によって、個人学習室の3Eは、ほとんど利用がされていないと思われる。LCMは、片方がソファ席で2人掛けができるところである。

一方で利用率が低く空席が多いエリアは旧館が多い。中でも2E、2G、2M、2N、3Gが挙げられる。これらは、同じような机が一樣に並ぶエリアで死角になるものがない、上階で奥まったエリアは選択されない可能性が考えられる。また、2L'もほとんど利用がみられない。2Lに比べ仕切りが小さくなり、背

注3-12) 写真1 愛学の個室的な空間 (20)



後に書架がないことで利用されなかったと思われる。

学習率は、PCエリアである1B、1Cを除くとLCN、2A、2Oが高い。LCNは、LCに多くみられる可動式の机と椅子である。各所でグループ学習が行われていた。また2Aも60%以上の学習率が多くみられ、ほとんどが机の隅を利用している。また、2Cはキャレル席で利用率や学習率が高くなると思われたが、共に低かった。

(4) 名学 (図3-4④)

PCエリアの4C、4D^{注3-13)}は非常に利用率が高い。LCはPCの利用が多くを占めていた。ここは文章やwebページを印刷している様子もみられた。特に両サイドに仕切りのついた4Cは、4Dに比べて、多くの利用者が座っている。PC以外の座席をみると、利用率が高いエリアと低いエリアで差が大きい。特に3Kは個人学習室のタイプに近い形であり、5席で1部屋の構成をとっている。利用者は当日2人だけであったが、長時間利用している様子をとらえた。また3A'は愛学(2O)と同じく、仕切りが座席まで取り囲むように設置されているが、利用率はさほど高くない。これは、背後に他の利用者を感じることができるからと考えられる。その他、3Fもあまり利用されておらず、通過動線上にあることが影響していると思われる。

学習率は、PCエリアを除くと、他の大学に比べ学習率が低い。また学習に分類しない行為は、エリアによって大きな偏りはなく、どのエリアでも学習しない利用者がある。

(5) 愛知 (図3-4⑤)

愛知は、先でも少し述べた通り、2、3階の多くが仕切りのあるキャレル席で構成されている。そのため比較的密に座られていることがわかる。中でも最も利用率の高かったキャレル席は、隣に並べない配置である2F、2F、3Eとなった^{注3-14)}。その他LCに該当する1Aや、個人学習室である2N、3Hは、よく使われている。一方、グループ席の2Cや3Dや1Bはほとんど利用されていない。1Bは、他と違い座席に背もたれもないことが影響していると思われる。

学習率は、LCに位置する1Aや1F、3Gなどが高い。中でも1Aは、8割を超える席が多い。特に東側のエリアは、調査当日、経営学部の3,4年生のゼミ活動で、ほぼ終日利用しており、少数のグループでディスカッションをしていた。反対の左側は、特定の利用者ではないが、所々でよく利用している。しかし、その間に挟まれた中央付近は利用率が低い。そのため、比較的狭い面積で会話の盛り上がり方が異なると、両者が近づきにくく、利用率が低下すると考えられる。また、通常の座席は名学と同じく学習率が低い。特に2Lの西側は、20%以下が多く、学習をしていないエリアになっていた。

注3-13)写真2 名学のPCエリア(右側:4C、左側カウンター席:4D)



注3-14)写真3 愛知のキャレル席(2F、2F、3E)



(6) 立命 (図 3-4-⑥)

調査した8大学の中で、最も利用率が高く、学習率も71%と中部に次いで高い大学である。全体的に空席は少なく、50%を超える利用率も散見される。利用率が高かったエリアは、1D、3K、3N、3Oが挙げられる。特に1D北側は、両サイドが書架によって囲まれ、周囲から距離を保って着座ができる場所^{注3-15)}である。新聞架の付近であるため、新聞閲覧の利用も一部でみられたが、ノートや図書を利用して学習する様子も観察した。次いで、3K、3N、3Oはカウンター席で3Kと3Oは同じタイプで、3Nは少し机の幅が広い。そのため、隣同士の間隔を空けずに着座している。また、3Eや3Pも全体的に埋まっており、利用率も高い。

利用率が低かったエリアは、2G、3G、3Xのグループ席が挙げられる。しかし、これまでグループ席があまり利用されていなかった。

注3-15) 写真4 立命の新聞架に囲まれた個人用座席(1Dの北側)

**(7) 中部****図書館 (図 3-4-⑦)**

利用率が高いエリアは、3GのPCエリアを除くと、カウンター席の1C、1D、2F、3Jであった。1D以外は、書架と壁に囲まれたエリアであり、他大学同様によく利用される場所である。また1DはLCに位置づけられており、グループ利用が可能であるが、対面しないカウンター席も利用されている。また前面に衝立がある2A、2Bも利用率が高い。特に2Bは壁側の席は利用率が50%以上みられ、前面に仕切りがあり、壁付けされたグループ席は利用率が上がると考えられる。

一方、利用率が低いエリアは、2Dや3Nであった。両エリアもまた、通過動線上に配置されたエリアであるため、利用がされていないと思われる。

2D'、2F、3Lなどは60%以上の学習率がほとんどを占めている。特に2D'は、机の前面が遮られ、通過動線上にはないエリアにある。

中部 LC (図 3-4-⑧)

別棟のLCは、2、3階で構成されており、3階の利用が多い。2階はイベント利用ができるように計画されていることから、一定の頻度でイベントが開催されている。そのため調査日のように自由に利用できる期間は限られ、利用が下がったと考えられる。3階で利用率が高いエリアは3B、3C、3Dであった。特に3Bのボックスタイプのソファ席は、利用率が高く図書館のグループ席に比べて人気の座席^{注3-16)}である。また6人掛けであるが、円の大きさからみて1人で利用している様子もみられる。

カウンター席である3Cと3Dに着目してみると、机の広さは共に同じ大きさだが、3Dは机の高さが900mmとハイカウンター仕様になっている。ガラス張りになった3Cの方が学習率は高い傾向にある。

注3-16) 写真5 中部LCのボックスタイプのソファ席



(8) 京産

図書館 (図 3-4-⑨)

名学と同様に 1F の PC エリアや、窓際に設置された個人学習室の利用率が高い。2 階と 3 階は、ほとんど同じ座席の並べ方になっているが、2 階の方が利用率は高い。エリア別にみると、中でも 2B、2M、3G、3S は高い。2B や 2M^{注 3-17)} は、仕切りの高いキャレル席である。3G、3S は、他大学になく、壁に沿う形で一方向に仕切りのある机が並べられた場所である。5/6 席は長時間占有されており、学習率も比較的高かった^{注 3-18)}。

一方、利用率が低いエリアは、1 階の出入口から最も遠い位置にある 3K や 3L であった。また、2B や 2M と同じタイプである 3B、3F、3H、3R、3M の学習率は低かった。中でも書架に挟まれた 3F と 3R のキャレル席は学習率が下がっていた。1E と 1E' は休憩室であるが、ところどころで学習している様子が見られる。

注 3-17) 写真 6 京産図書館の仕切りの大きなキャレル席 (2M)、その他 3B、3F、3H、3R、3M も同じ座席タイプである。

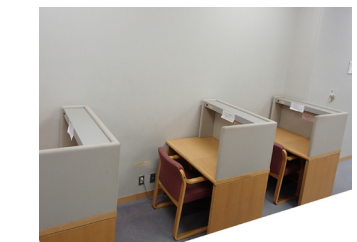


注 1-18) Aaron Colen ら・文 3-6) もこのタイプの座席は、利用度が高いと述べている。その理由として、自分の領域が確保できると同時に、他人が近寄ってくることを監視できるからとしている。

京産 LC (図 3-4-⑩)

利用率が高いエリアは、3A、3D であった。3D は中部 LC と同じボックス席である。また 2 階の 2C は、L 字のソファであるが、対面式の 3D の方が利用は高くなった。そのため、背面に高さのあるソファ席は人気が高く、さらには学習率も高いことから、学習利用がしやすい環境であると考えられる。また 3A、3B はフレームがあり、それによってホワイトボードが掛けられ、学習率も利用率も高くなったと思われる。

一方で、利用率が低いエリアは、2A や 3E (畳の席)^{注 3-19)} であった。また壁にもたれる形で座れる 3F のソファ席も利用が高いと思われたが、さほど高くなかった。また、同時に 3D の東側もカウンターから視認できる。そのため、いずれも利用率が低下したと考えられる。



注 3-19) 写真 7 京産 LC の畳のエリア (3E)



京産 GC (図 3-4-⑪)

最も利用率が高いエリアは、LC 内唯一のカウンター席である I である。しかし、学習率は 40~60%未満とさほど高くはない。その他 A は、いくつかの席で 40%以上の高い利用率がみられ、また 80%以上の学習率が確認できる。A は、2 人掛けで構成された席もあり、そこには、1 席だけプロットされている場所も多くあり、個人で利用している様子がみられた。

H は AV ブース (外国語学学習のための洋画の鑑賞専用・90 分の利用制限) である。いずれも 20%程度の利用率であり、1 席当たり 2 人程度で利用しているエリアであった。

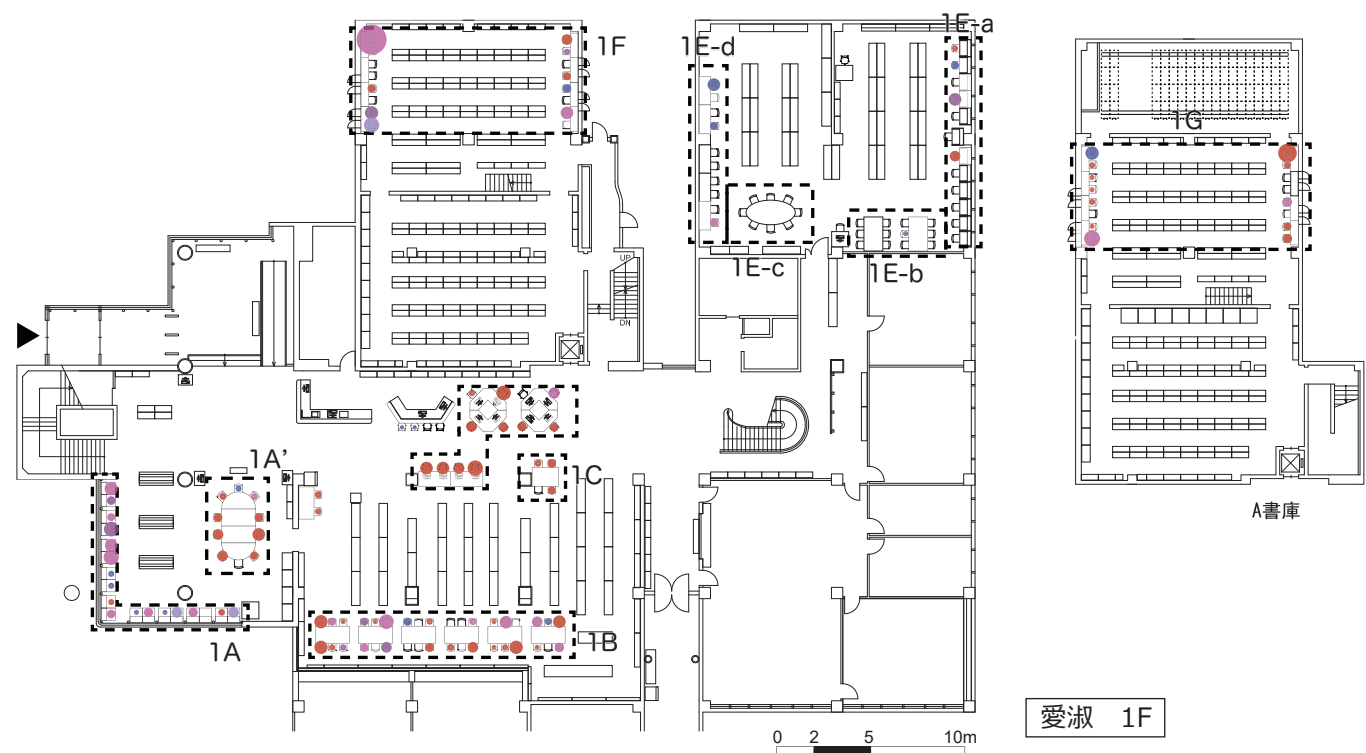
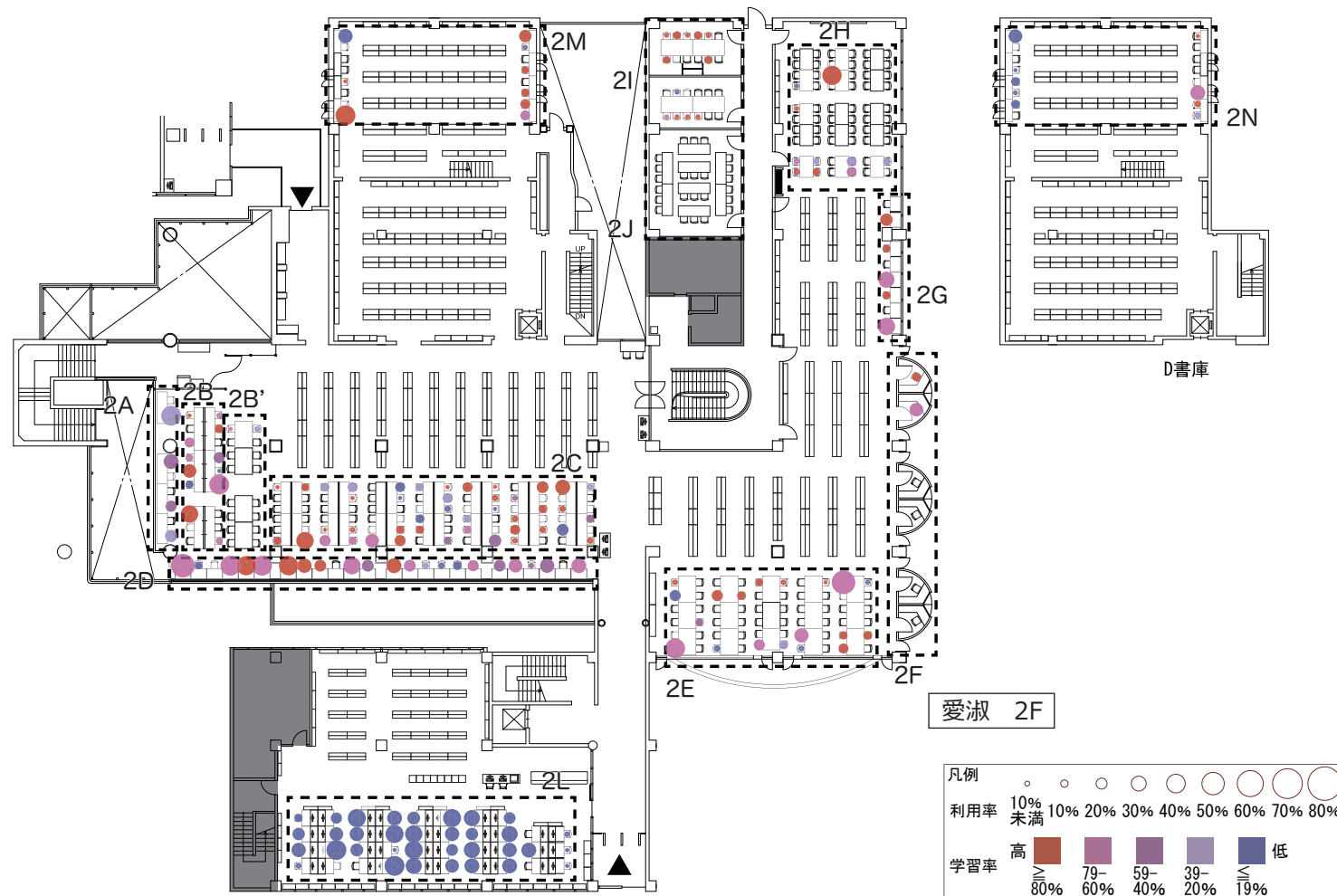


図 3-4-① 【愛淑】学習利用者とその他の利用者における分布場所

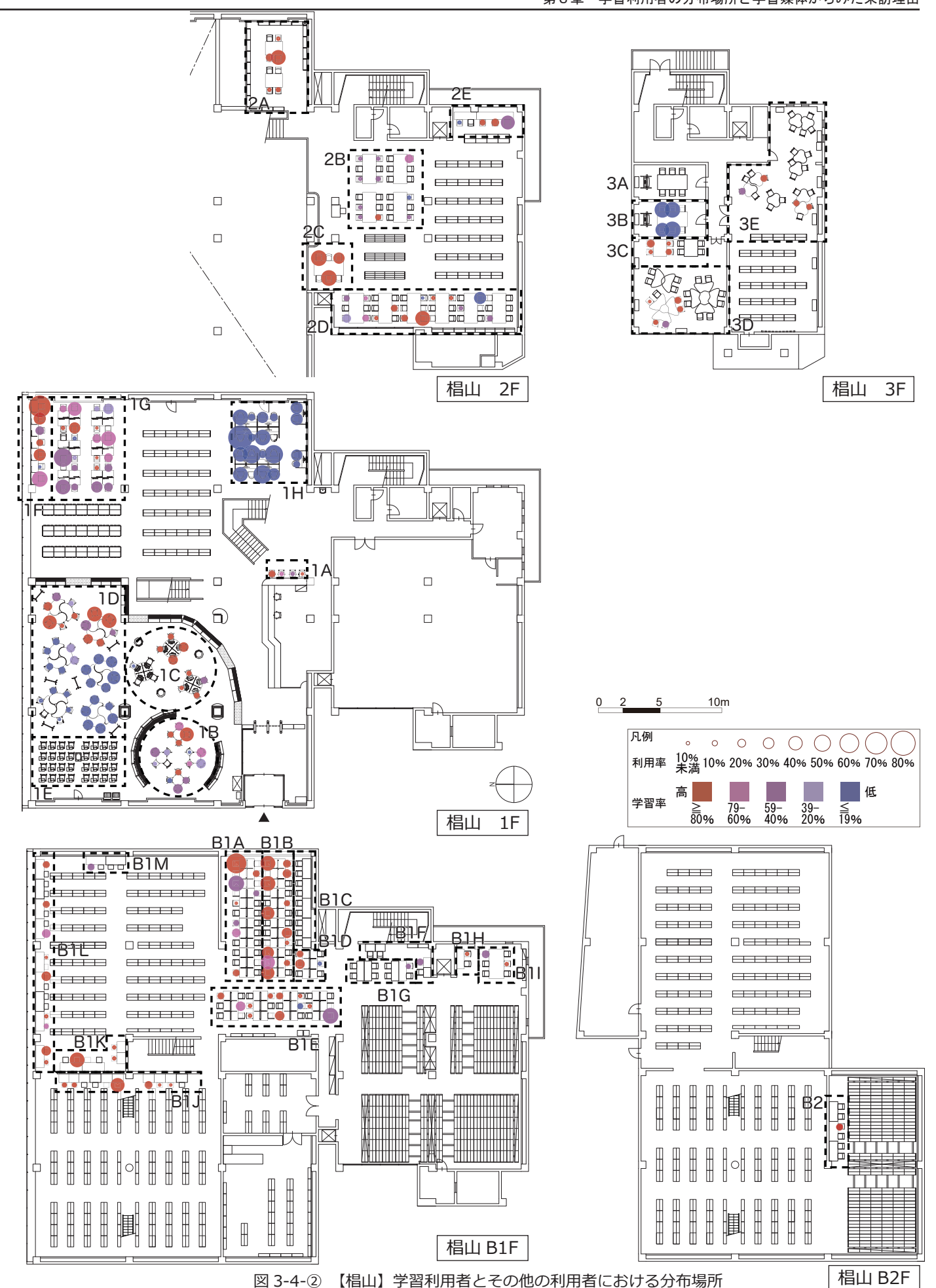


図 3-4-② 【梶山】学習利用者とその他の利用者における分布場所

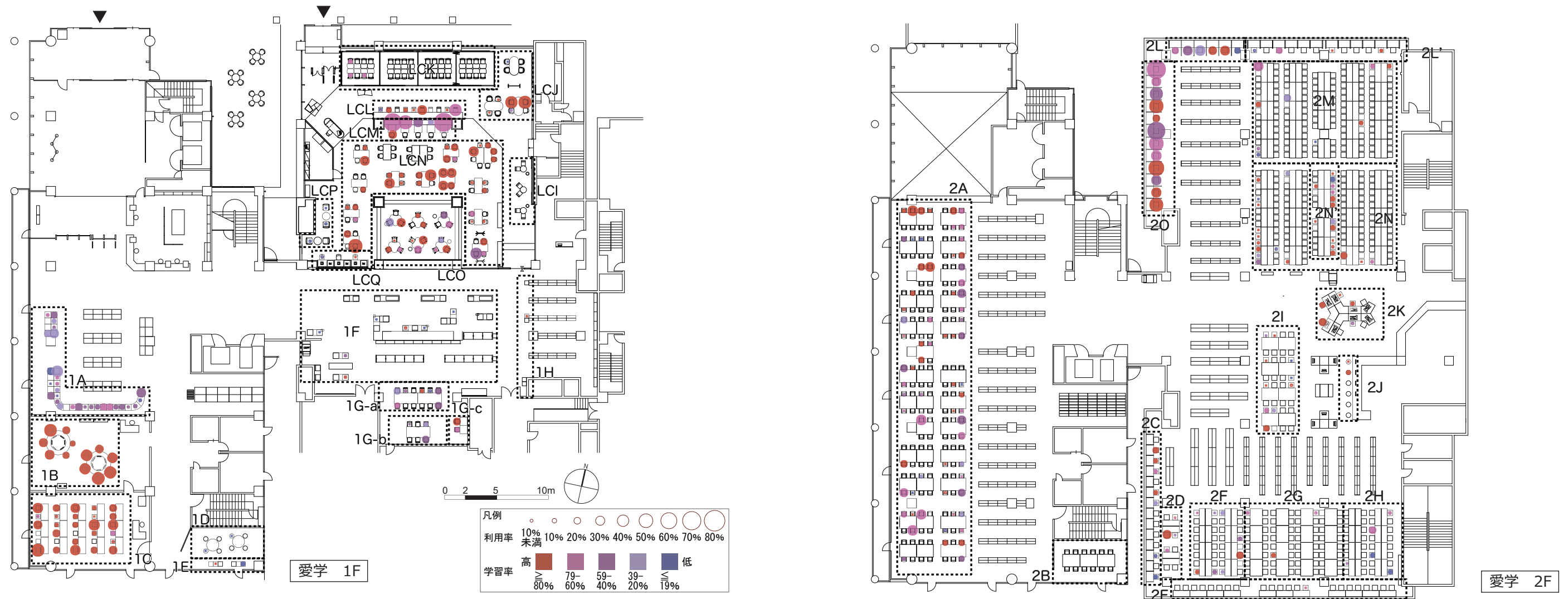


図 3-4-③ 【愛学】学習利用者とその他の利用者における分布場所

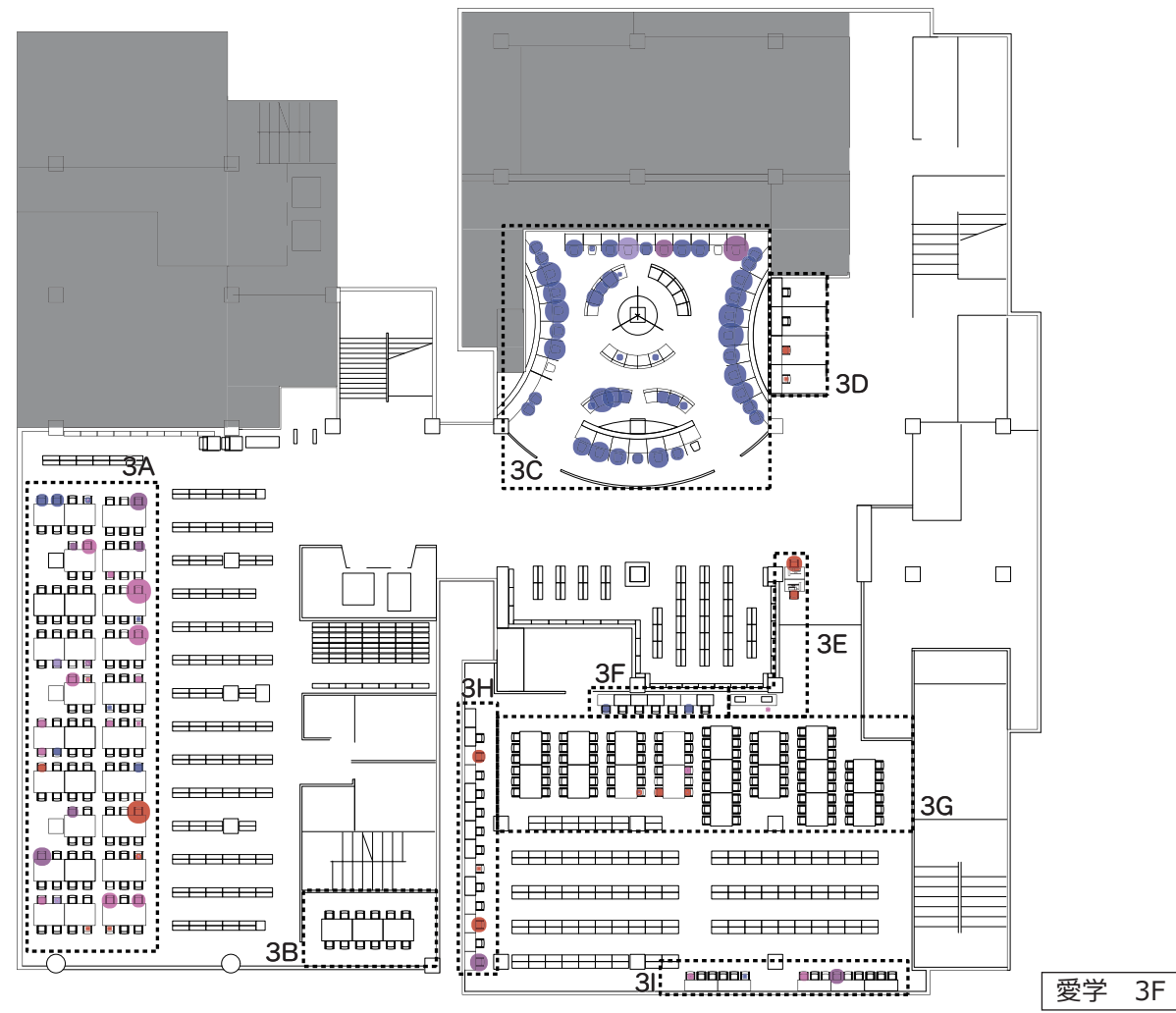


図 3-4-③ 【愛学】学習利用者とその他の利用者における分布場所

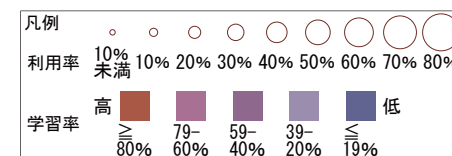
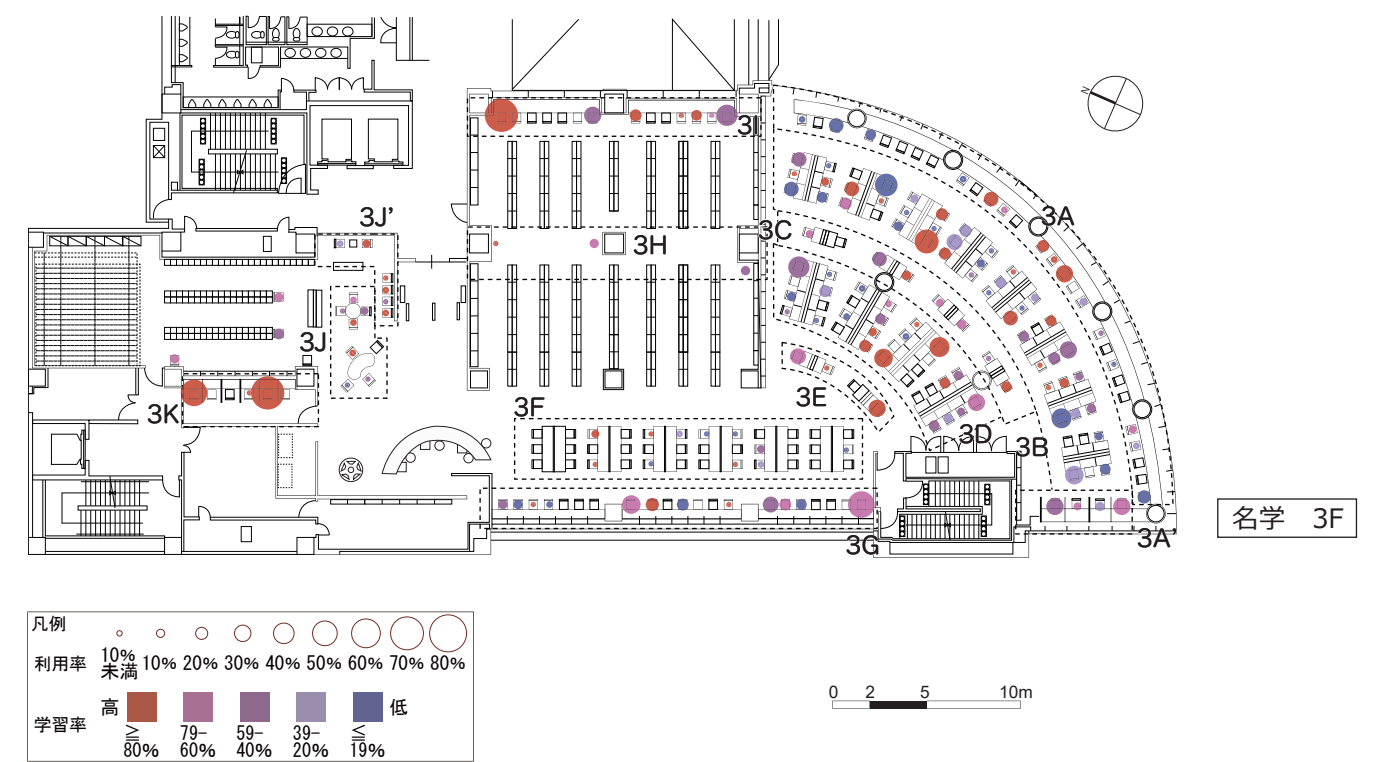
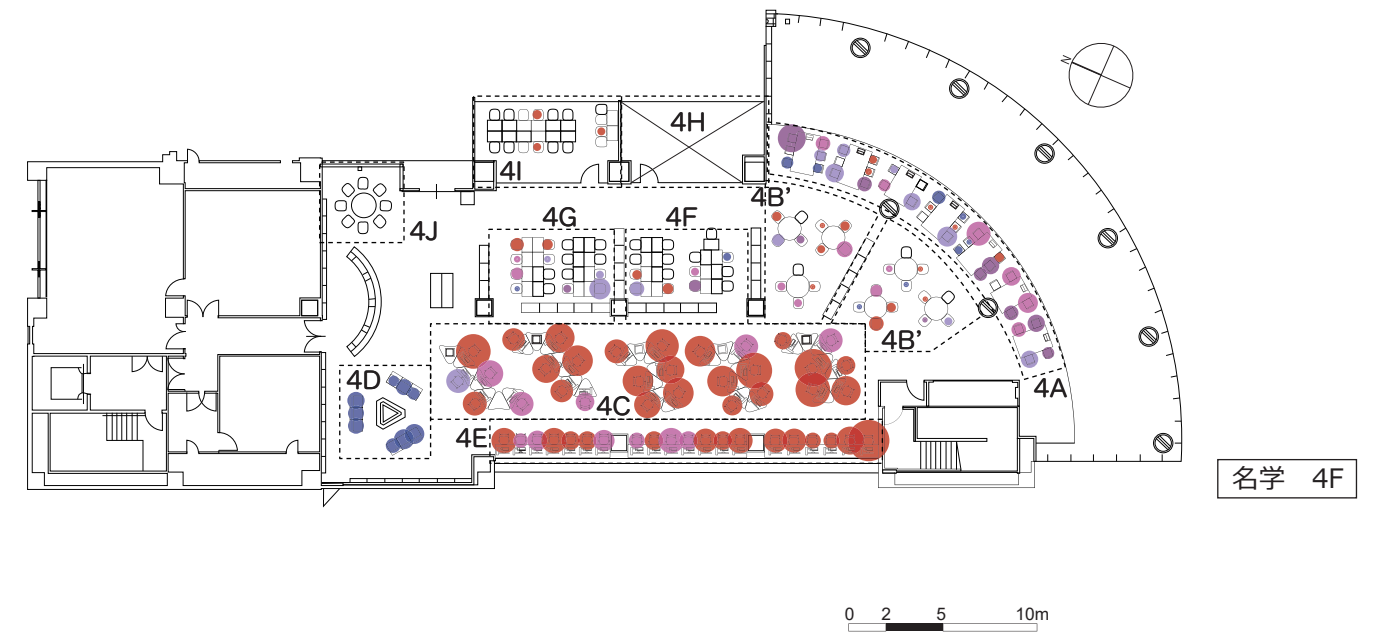


図 3-4-④ 【名学】学習利用者とその他の利用者における分布場所

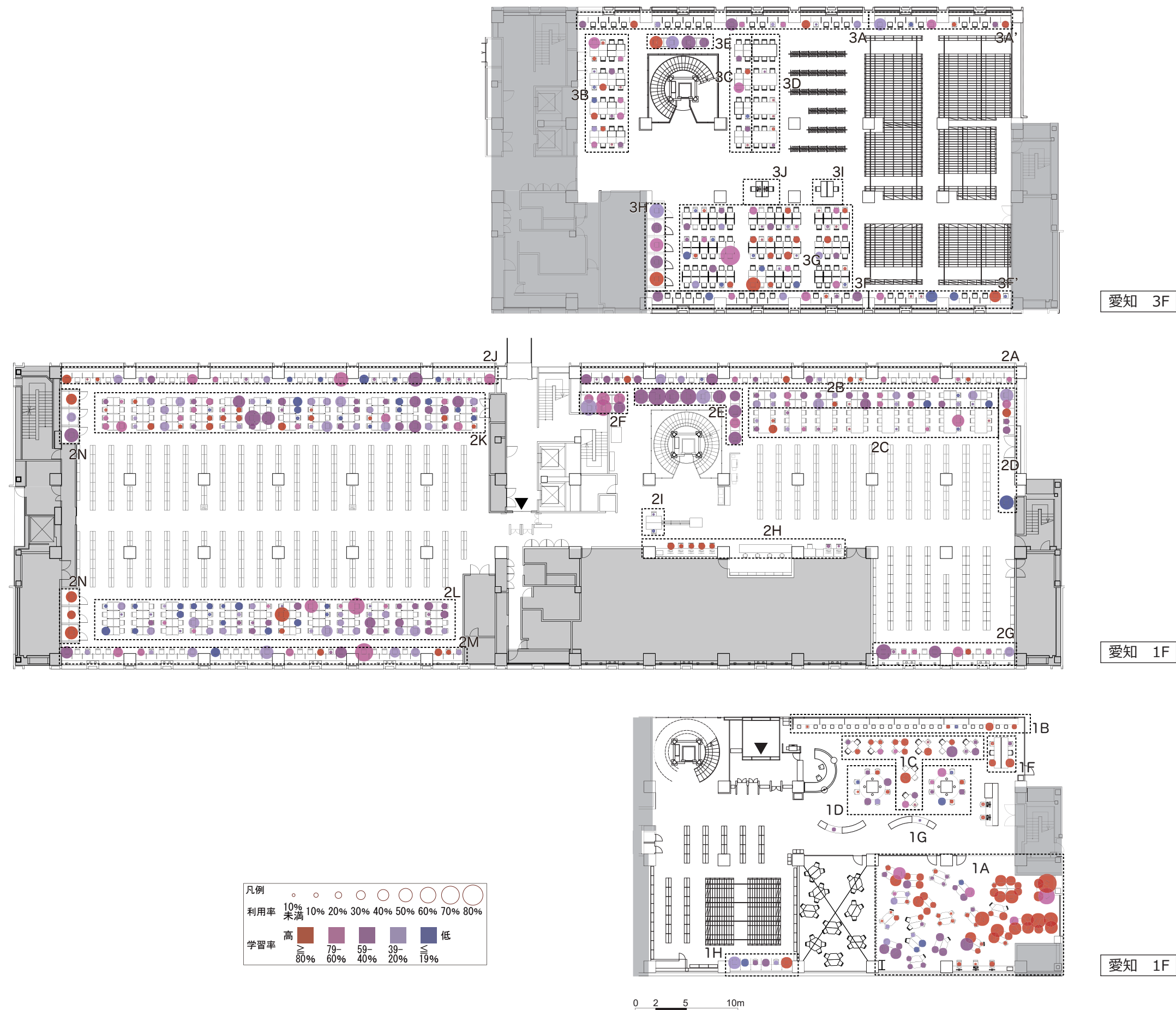


図 3-4-⑤ 【愛知】学習利用者とその他の利用者における分布場所

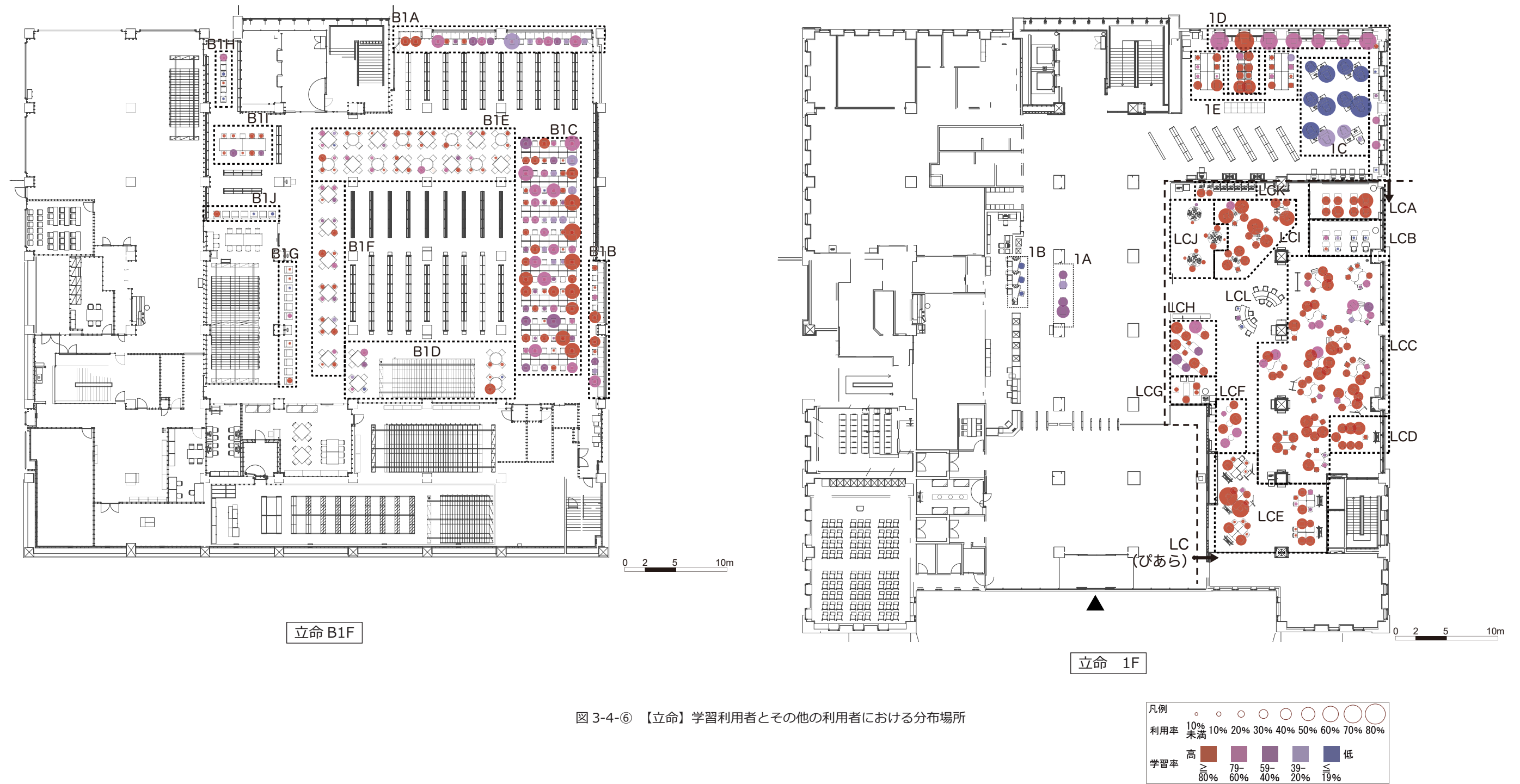


図 3-4-⑥ 【立命】学習利用者とその他の利用者における分布場所

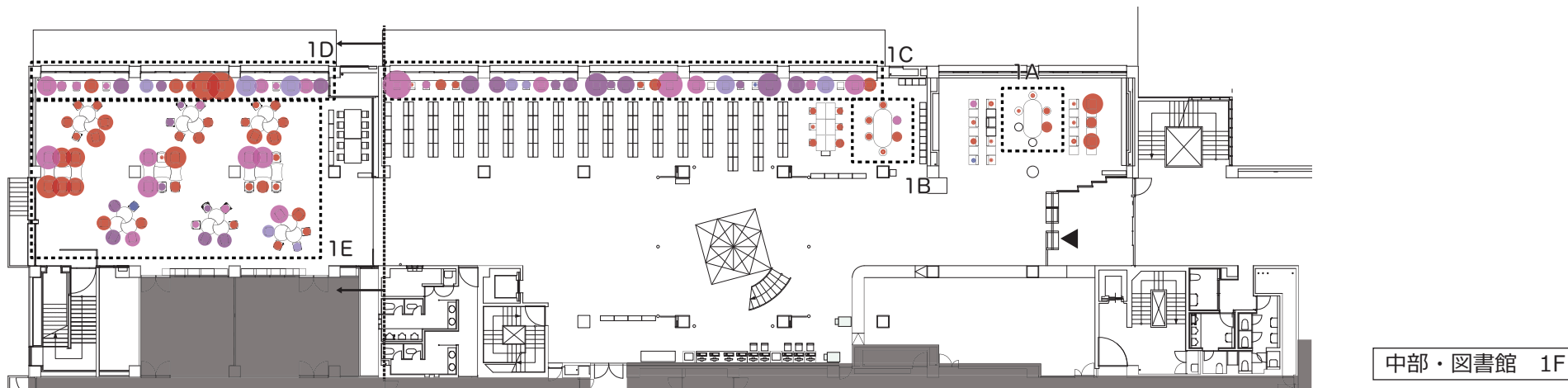
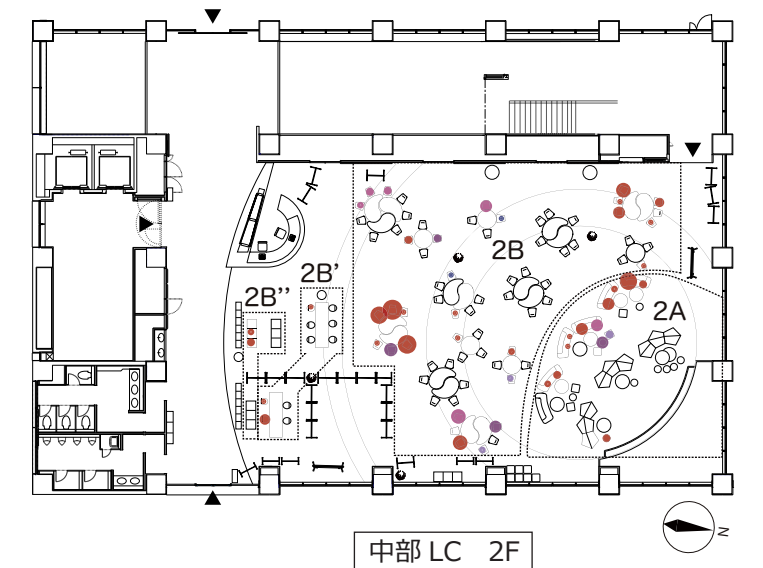
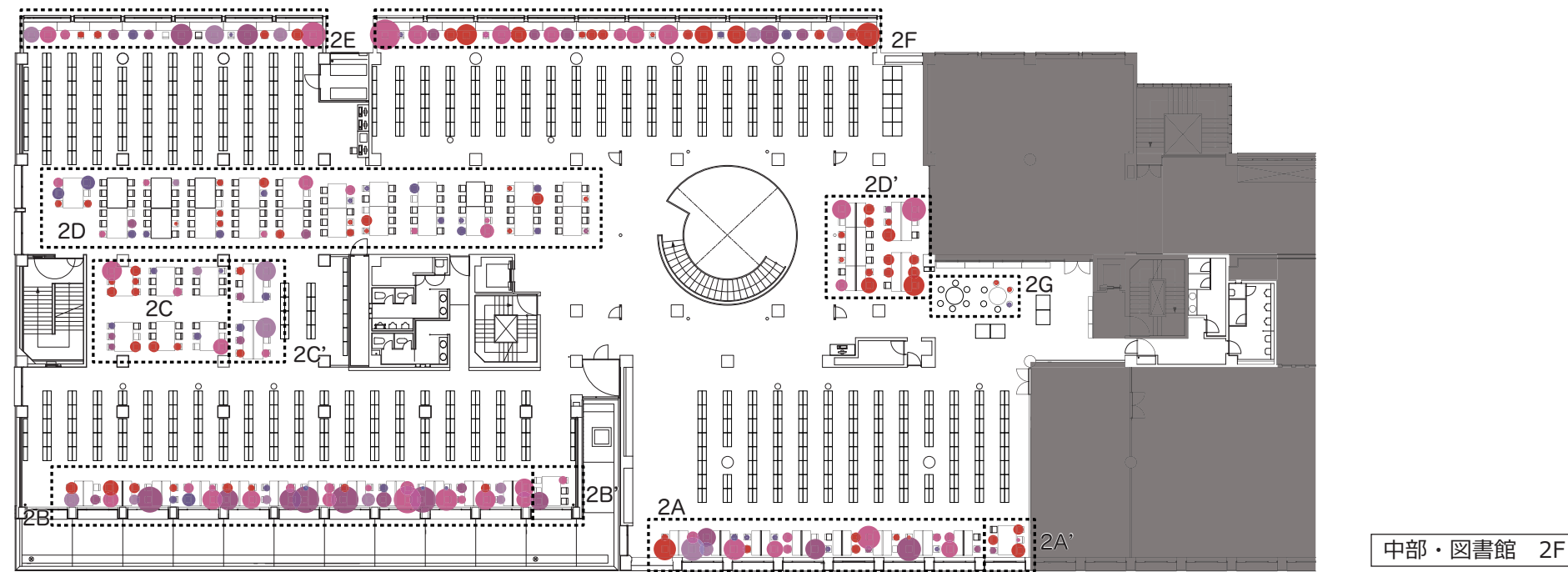
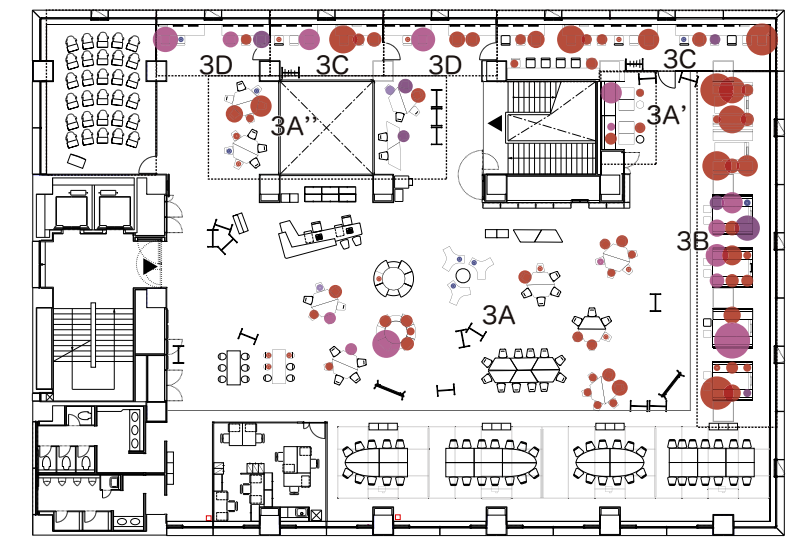
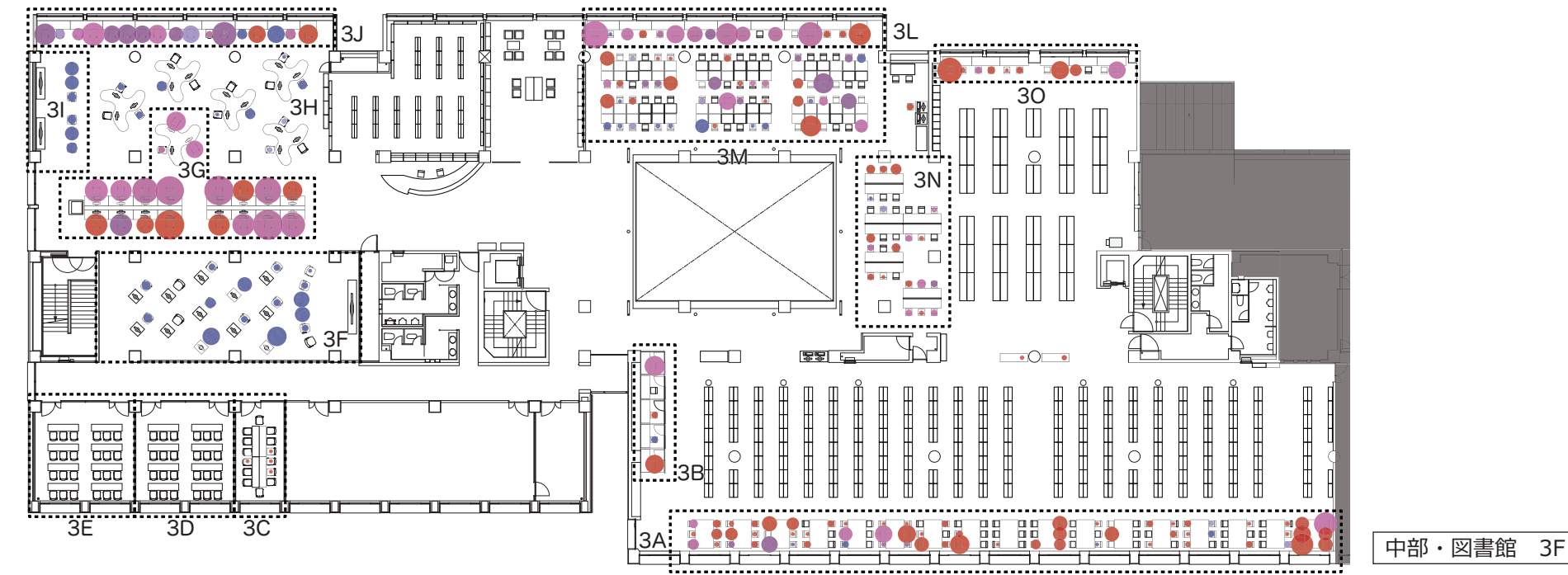


図 3-4-⑧ 【中部・LC】 学習利用者とその他の利用者における分布場所

0 2 5 10m

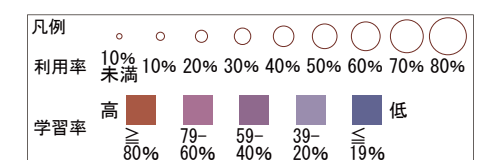


図 3-4-⑦ 【中部・図書館】 学習利用者とその他の利用者における分布場所

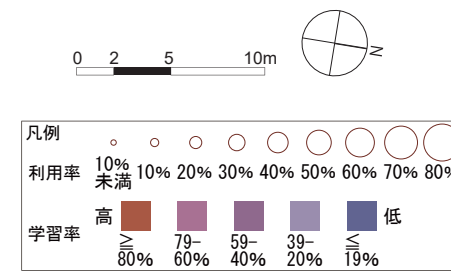
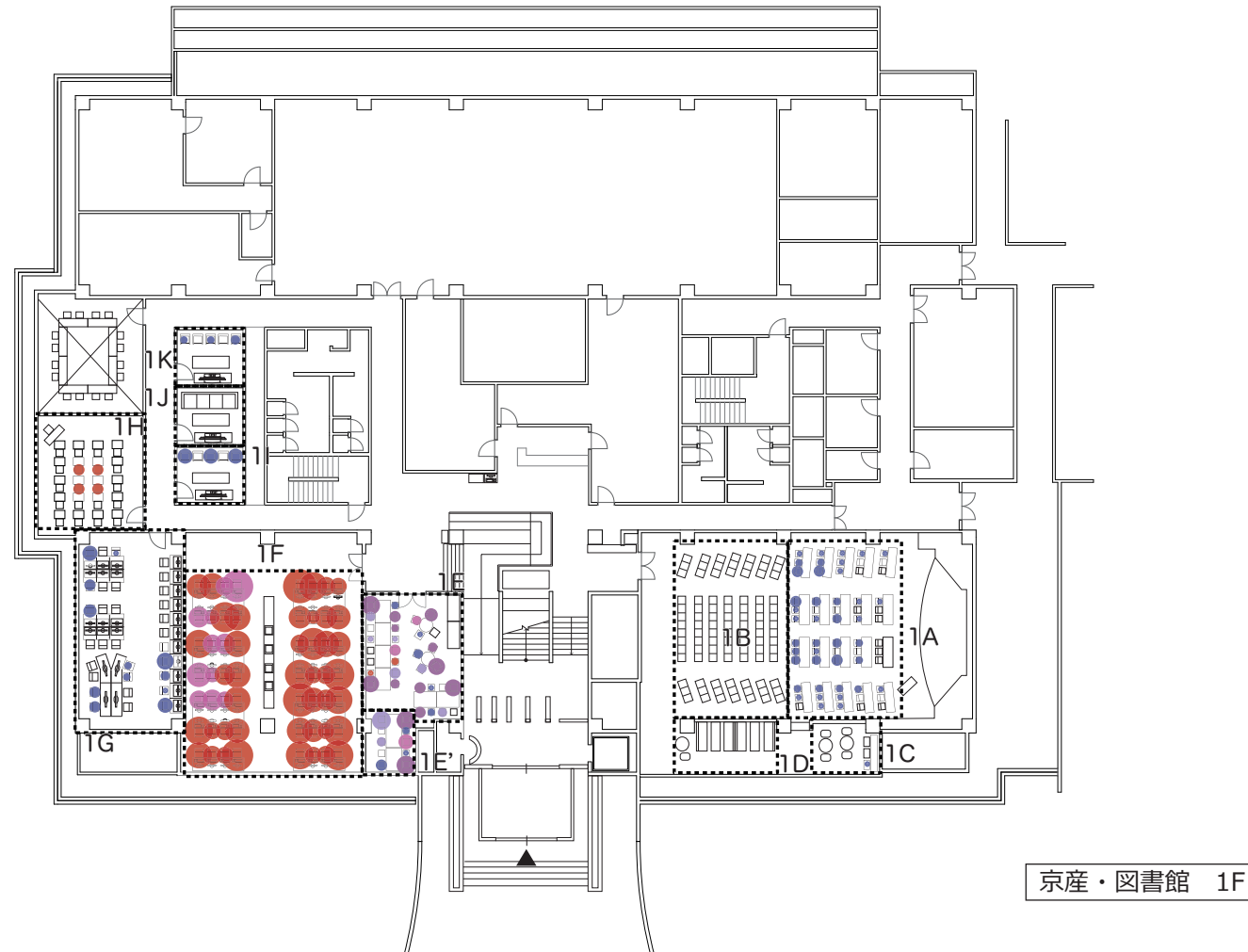
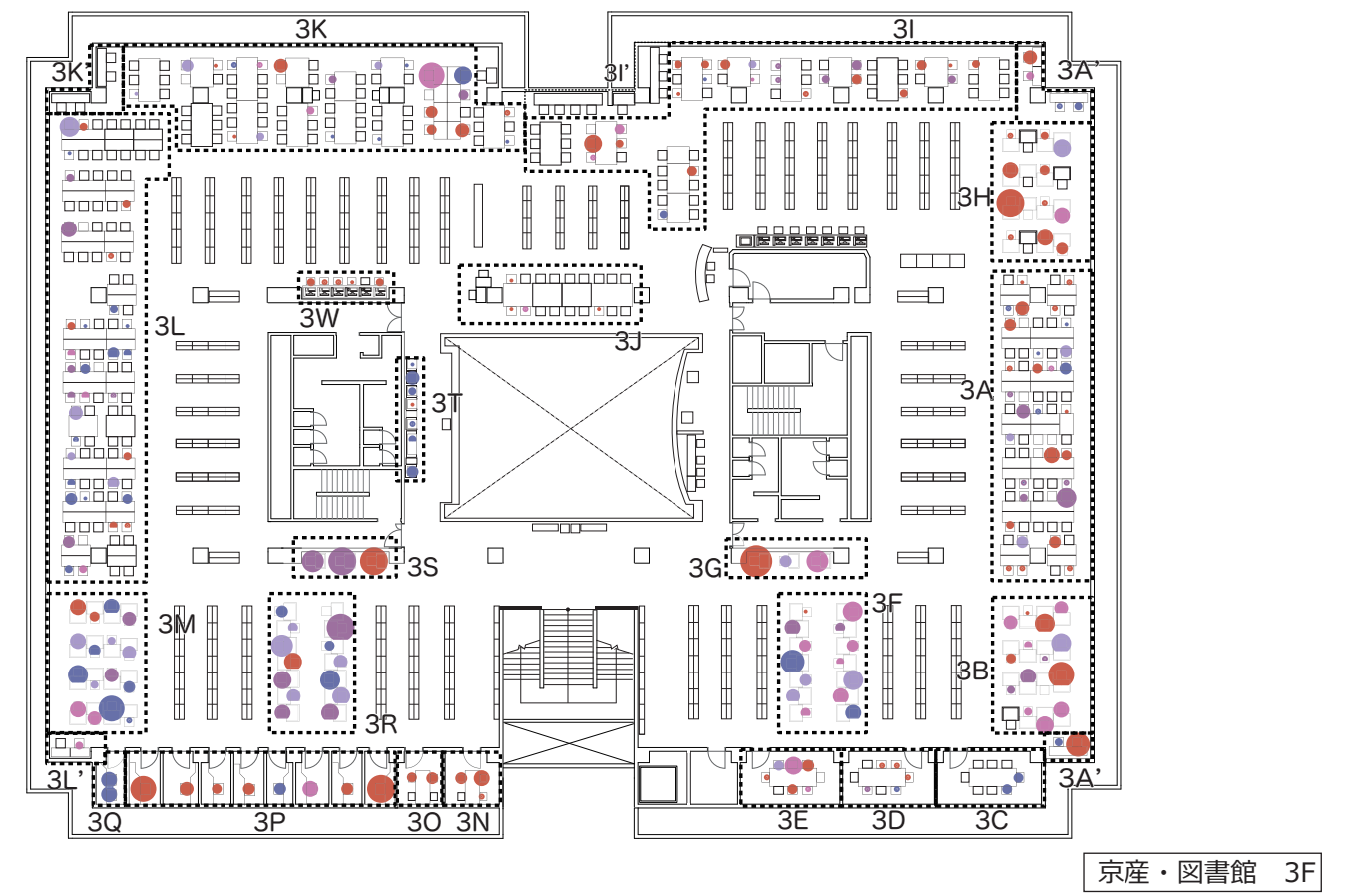
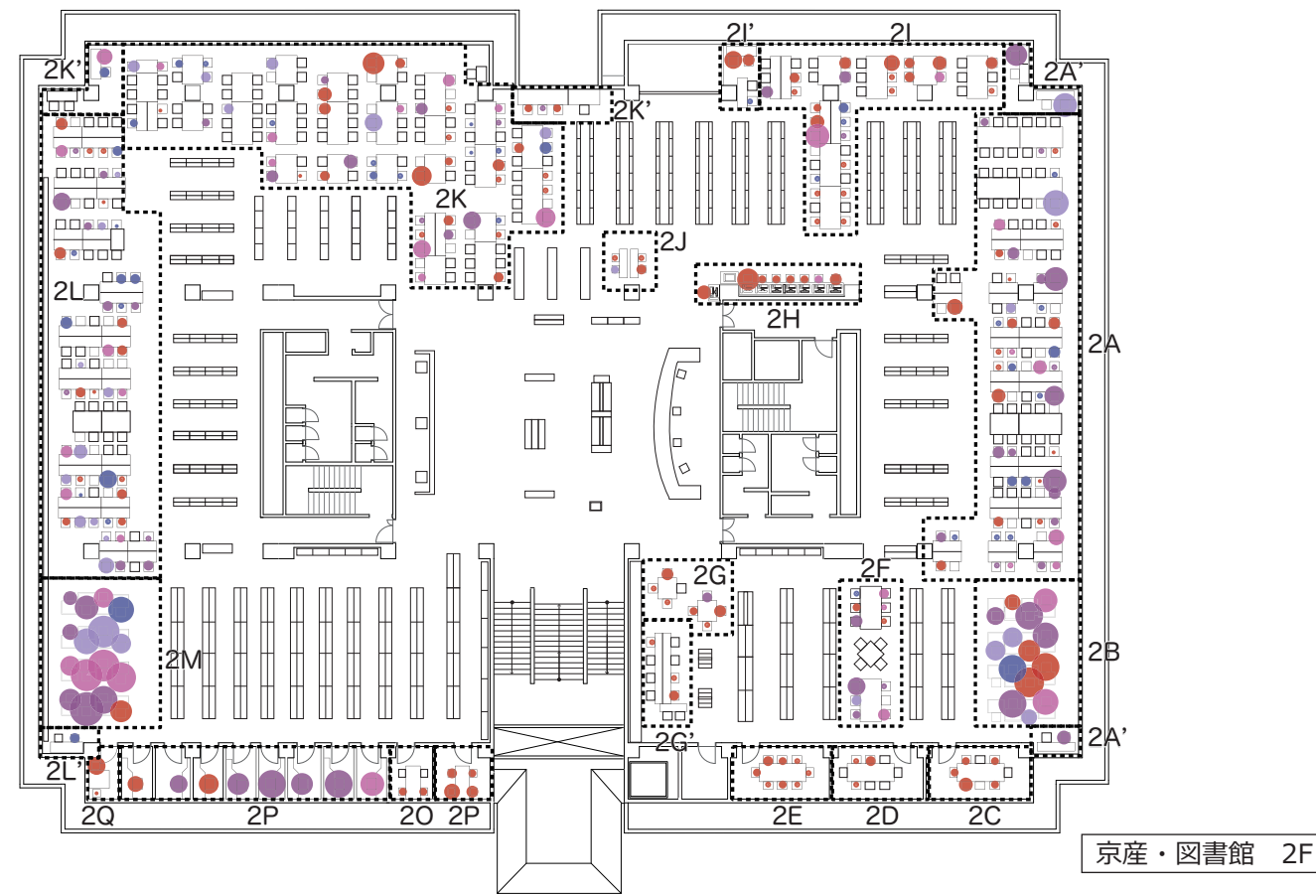


図 3-4-⑨ 【京産・図書館】学習利用者とその他の利用者における分布場所

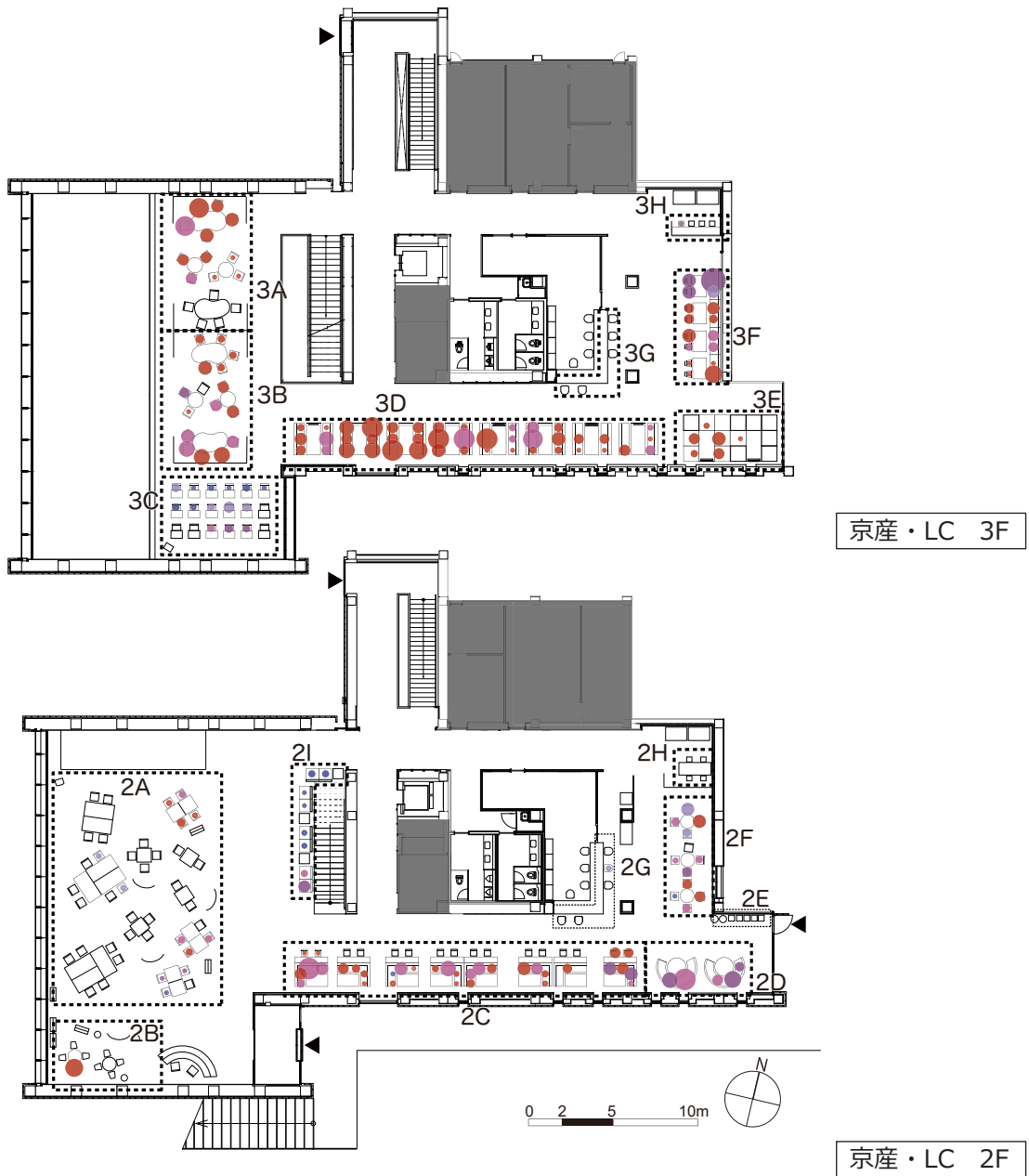


図 3-4-⑩ 【京産・LC】 学習利用者とその他の利用者における分布場所

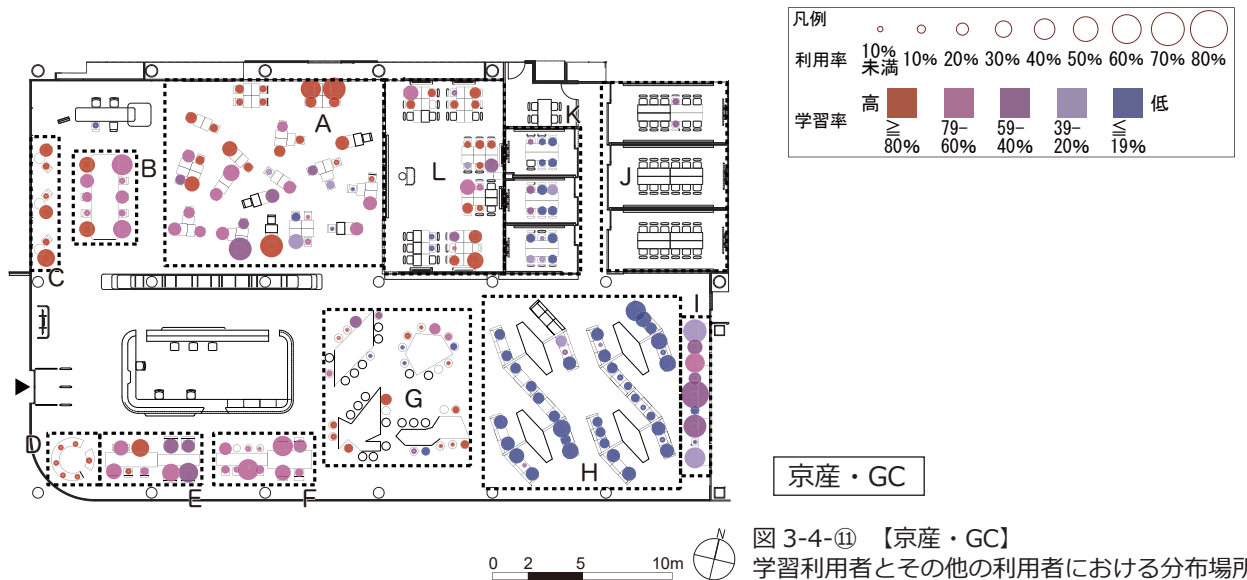


図 3-4-⑪ 【京産・GC】 学習利用者とその他の利用者における分布場所

3.5 学習媒体からみた利用者属性と来訪理由

本研究では、学習利用者に着目して場所の選択理由及び選択場所を解明するものである。先より、学習を目的にした利用は7割以上みられ、学習場所として滞在していた。本節からは、学習利用者の座席選択の実態を捉えていく。

さて主体的な学びは、自主的に図書、電子資料を用いて学習し、知識や問題意識を持つことが基本的な要素であると考えている。そこで利用する学習媒体の違いから利用者を分類し、利用したい学習場所を検討・提案したい。

また学習利用者は、学習目的達成のために場所の選択行動をとっている。利用する媒体についても学習者自身で事前に決めており、入館中に利用する媒体が変わることはあまり考えられない。さらに、どの大学でも共通する学習活動であることから多くの大学で知見を活かすことができると判断し、学習利用者を利用する学習媒体ごとで分析をすすめ、どのような利用属性、要求を持っているかを捉えていく。

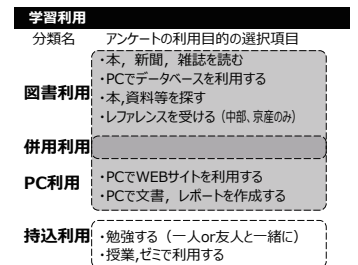
なお、本節以降は、本研究が目標とする学習場所としての整備の知見を示すため、学習利用の多い大学を取り上げたい。そこで学習室などを除いた開架閲覧室やLC内の一般的な座席で学習率の高い、愛淑、椙山、愛学、立命、中部、京産の6大学で分析を進めていく。

3.5.1 学習媒体の分類と割合

まずは、学習利用者を利用する学習媒体ごとに分類する。3.5.5の利用目的で学習利用として扱った項目から、図3-5のように、本を読む、探す目的の「図書利用」、PCでWEBや作業をする「PC利用」、両方を目的にした「併用利用」、図書資料やPC等のツールを目的にせず、持込んだツールを利用する「持込利用」の4つに分類してそれぞれの割合をみる(表3-14)。

平均は、「図書利用」、「持込利用」共に37%で最も多い。次いで「PC利用」が15%、「併用利用」が最も少ない10%であった。

大学別にみると、概ね全体と同じ傾向にあるが、特に変化がみられた大学もある。LAN環境のない愛淑で「PC利用」が少なく、「図書利用」と「場所利用」の割合が高い。愛学は「図書利用」が4割以上、「場所利用」の割合は低い。中部は「図書利用」と「PC利用」が同程度みられた。



図書利用
本や資料を目的に来た利用者。
PC利用
PCを目的に来た利用者。(設置型PCもノートPCも含む。)
併用利用
図書利用項目と、PCの項目の両方を選択した利用者。
持込利用
図書やPCの項目の回答はなく、勉強を目的の利用者。

図3-5 学習媒体の分類

表3-14 学習媒体別の割合

	愛淑	椙山	愛学	立命	中部	京産	合計
図書利用	46%	39%	50%	38%	24%	34%	37%
PC利用	4%	21%	15%	14%	23%	15%	15%
併用利用	4%	5%	7%	14%	13%	8%	10%
持込利用	45%	34%	29%	33%	40%	43%	37%
計(人)	293	182	445	1046	560	811	3337

3.5.2 学年と専門分野

(1) 学年

学習媒体別で、どの学年が多いかをみていく(表4-15)。まず全利用者(p.85)でみた平均の合計と比べて、学習利用者だからと言って学年に差異はみられず、どの学年も同じように学習しに来ている。

平均より、持込利用以外の学習媒体を用いた利用は、学年ごとに大きな変化はみられない^{注3-20}。持込利用は、学部1年生で35%と多い。開架閲覧室やLCにまだ慣れない低学年は、開架閲覧室やLC内の学習媒体はあまり利用しないと思われる。一方の4年生は、16%と他の学年より低い。

注3-20) 利用する学習媒体は、学年ごとで、授業・講義で要求されていることに違いがある。そのため、定量的な分析が困難であると思われることから詳細な記述は省略する。

(2) 専門分野

まず、学習媒体ごとの分析を行うにあたり、学習利用者の割合が、文系理系^{注3-21}で差異があるかを確認した(表3-16)。ここでは、理系文系別に学習利用を読み取った。その結果、共に学習利用は7割以上で差はみられなかった。

学習媒体ごとの専攻分野は表4-17に示す。

6大学の平均からみると、合計で文系学部が83%、理系学部が17%であるのに対し、図書利用は、文系学部で88%と僅かに高い。一方PC利用は、理系学部で21%と高い。

しかし、大学ごとの分析をみると専門分野での違いより、大学ごとで差がみられた。つまり、一概に文系だからといって図書利用が多くなるわけではない。学部学科関係なく、様々な学習媒体が利用されている。

表3-16 文系理系別の学習利用の割合

	学習利用	その他の利用	人数	割合
文系学部	77%	23%	3543	100%
理系学部	78%	22%	696	100%
無記入	77%	23%	31	100%
合計	77%	23%	4270	100%

※上記の表は6大学の平均を示している。

注3-21) 理系学部は、1章表1-3-②に記載した理学・工学・保健に分類する学部を対象にした。しかし、保健に位置する心身科学部は、文系の学科が多く占めているため、文系学部に分類した。なお、文系学部は上記以外とした。

表3-15 学習媒体別にみた学年構成

		学部				大学院	無記入	計
		1年	2年	3年	4年			
愛淑	図書利用	30%	13%	25%	28%	4%	0%	136
	PC利用	8%	42%	33%	17%	0%	0%	12
	併用利用	17%	17%	17%	50%	0%	0%	12
	持込利用	32%	23%	23%	21%	0%	1%	133
	計	30%	18%	24%	25%	2%	0%	293
椋山	図書利用	8%	46%	27%	15%	1%	1%	71
	PC利用	8%	23%	21%	49%	0%	0%	39
	併用利用	10%	20%	20%	50%	0%	0%	10
	持込利用	23%	26%	35%	16%	0%	0%	62
	計	13%	33%	28%	25%	1%	1%	182
愛学	図書利用	27%	21%	23%	24%	4%	0%	222
	PC利用	14%	18%	23%	43%	2%	0%	65
	併用利用	14%	17%	28%	41%	0%	0%	29
	持込利用	33%	20%	22%	23%	1%	0%	129
	計	26%	20%	23%	28%	2%	0%	445
立命	図書利用	20%	19%	22%	29%	7%	3%	400
	PC利用	32%	23%	18%	21%	3%	2%	147
	併用利用	23%	17%	26%	27%	5%	2%	150
	持込利用	32%	20%	26%	16%	3%	2%	349
	計	26%	20%	24%	23%	5%	2%	1046
中部	図書利用	20%	25%	31%	20%	3%	1%	137
	PC利用	25%	23%	35%	17%	0%	0%	130
	併用利用	24%	20%	35%	20%	1%	0%	71
	持込利用	31%	21%	24%	21%	2%	1%	222
	計	26%	22%	30%	19%	2%	1%	560
京産	図書利用	30%	26%	22%	19%	1%	2%	274
	PC利用	25%	24%	31%	19%	1%	2%	118
	併用利用	25%	36%	24%	15%	0%	0%	67
	持込利用	43%	26%	18%	10%	1%	2%	352
	計	35%	27%	22%	14%	1%	2%	811
平均	図書利用	24%	22%	24%	24%	4%	1%	1240
	PC利用	24%	23%	27%	24%	1%	1%	511
	併用利用	22%	22%	27%	26%	2%	1%	339
	持込利用	34%	23%	23%	16%	2%	2%	1247
	計	28%	23%	24%	21%	3%	1%	3337

表 3-16 学習媒体別にみた文系学部と理系学部

	文系学部		理系学部		無記入	計
	文系学部	理系学部	理系学部	理系学部		
愛淑	図書利用	82%	18%	0%	0%	131
	PC利用	92%	8%	0%	0%	12
	併用利用	100%	0%	0%	0%	12
	持込利用	80%	20%	0%	0%	133
	合計	82%	18%	0%	0%	288
福山	図書利用	80%	20%	0%	0%	71
	PC利用	79%	21%	0%	0%	39
	併用利用	100%	0%	0%	0%	10
	持込利用	92%	8%	0%	0%	62
	合計	85%	15%	0%	0%	182
愛学	図書利用	96%	4%	0%	0%	213
	PC利用	100%	0%	0%	0%	64
	併用利用	100%	0%	0%	0%	29
	持込利用	91%	8%	1%	1%	128
	合計	95%	4%	0%	0%	434
立命	図書利用	98%	0%	2%	0%	375
	PC利用	97%	0%	3%	0%	142
	併用利用	99%	0%	1%	0%	143
	持込利用	99%	0%	1%	0%	339
	合計	98%	0%	2%	0%	999
中部	図書利用	57%	43%	0%	0%	134
	PC利用	34%	66%	0%	0%	131
	併用利用	43%	57%	0%	0%	72
	持込利用	18%	81%	1%	0%	221
	合計	34%	65%	0%	0%	558
京産	図書利用	89%	10%	1%	0%	277
	PC利用	89%	11%	0%	0%	120
	併用利用	90%	10%	0%	0%	69
	持込利用	90%	9%	1%	0%	358
	合計	90%	10%	1%	0%	824
平均	図書利用	88%	11%	1%	0%	1201
	PC利用	78%	21%	1%	0%	508
	併用利用	85%	14%	1%	0%	335
	持込利用	79%	20%	1%	0%	1241
	合計	83%	17%	1%	0%	3285

3.5.3 滞在時間

全大学の学習媒体別で滞在時間を度数分布で示したものを図 3-6 に示す^{注 3-22)}。図書利用とそれ以外の学習媒体で違いがみられる。図書利用は、40 分台までが他に比べて多く、約半数の割合を占めている。平均滞在時間（表 3-17）をみても、1 時間 13 分と他に比べて最も短い利用であった。一方、図書利用以外では、同じ滞在時間を示している。

注 3-22) 先の全体の滞在時間（3.3.3）と比較すると、学習利用の滞在時間はどの大学も長い。

持込利用は、80～100 分台の利用が多く、授業の空き時間を狙って利用している。中部の持込利用は、1 時間 52 分と最も長い利用であった。

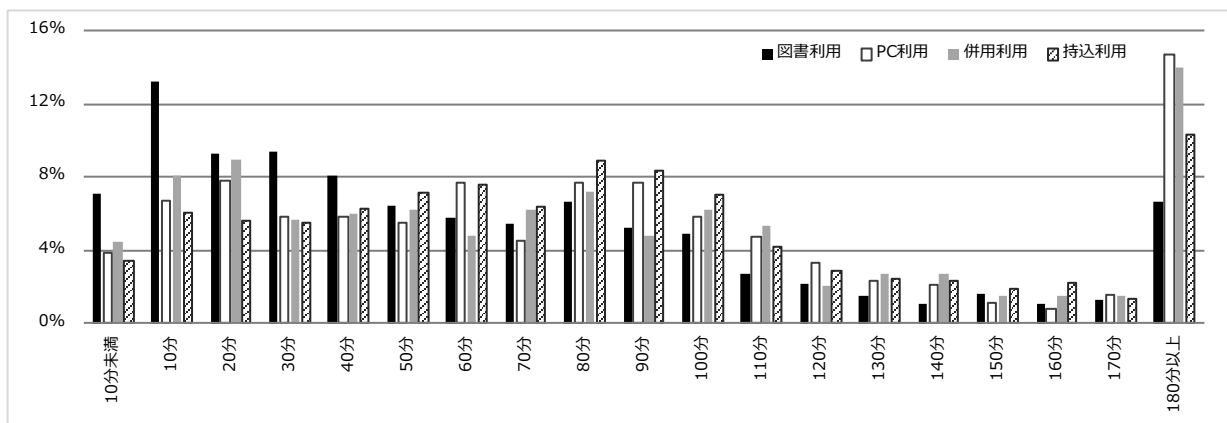


図 3-6 【平均】利用目的別の滞在時間

表 3-17 学習媒体別にみた滞在時間

	愛淑		福山		愛学		立命		中部		京産		平均	
	滞在時間	人数	滞在時間	人数	滞在時間	人数	滞在時間	人数	滞在時間	人数	滞在時間	人数	滞在時間	人数
図書利用	0時間57分	136	0時間57分	71	1時間02分	222	1時間28分	398	1時間18分	137	1時間08分	272	1時間13分	1236
PC利用	0時間49分	12	2時間32分	39	1時間14分	65	1時間34分	145	1時間59分	130	1時間15分	118	1時間37分	509
併用利用	2時間34分	12	2時間09分	10	1時間10分	29	1時間47分	147	1時間38分	71	1時間11分	66	1時間37分	335
持込利用	1時間14分	133	1時間28分	62	1時間33分	129	1時間46分	344	1時間52分	222	1時間29分	349	1時間37分	1239
計	1時間08分	293	1時間31分	182	1時間13分	445	1時間38分	1034	1時間43分	560	1時間18分	805	1時間28分	3319

3.5.4 来訪理由

利用者の要求を捉えていくために、学習媒体別での来訪理由を表3-18に示す。まず平均からみてみると、「静かで落ち着いている」は、どの学習媒体利用者も65%を超えて最も高い。どの学習媒体を利用していても静けさのある落ち着いた場所を求めている。館内の学習媒体を目的にした利用者でも開架閲覧室やLCの場所を評価して利用している。

一方で、図書やPCなど利用する媒体に伴って、その学習媒体を理由とした項目がある。図書利用と併用利用は、いずれも「図書資料があるから」が3割を超えて、他の利用目的より高い。PC利用と併用利用は「PCが利用しやすい」が49%となった。また、併用利用は「空間の明るさや空調が良い」、「開館時間が長い」の割合も高く、学習場所に求める事柄は多い。持込利用は、館内の資料を使わないため、様々な要求を持っていると思われたが、併用利用の方が開架閲覧室やLCの場所に対しての要求が高い。

表3-18 学習媒体別にみた来訪理由（複数回答）

	愛淑					椋山					立命				
	図書	PC	併用	持込	計	図書	PC	併用	持込	計	図書	PC	併用	持込	計
利用していた建物から近い	5%	0%	0%	5%	5%						20%	14%	11%	17%	17%
次講義の建物に近い	1%	8%	8%	2%	2%						4%	3%	2%	4%	3%
静かで落ち着いている	71%	92%	67%	83%	77%	62%	69%	80%	87%	73%	67%	71%	78%	74%	71%
賑やか・会話できる	0%	8%	0%	2%	1%	6%	21%	0%	13%	11%	2%	2%	4%	1%	2%
図書資料がある	66%	33%	67%	31%	49%	38%	15%	50%	11%	25%	30%	16%	29%	10%	21%
PCの利用がしやすい						23%	51%	50%	16%	28%	19%	51%	55%	18%	28%
空間の明るさや空調が良い	16%	33%	0%	6%	12%	18%	23%	20%	15%	18%	29%	26%	43%	25%	29%
開館時間が長い	10%	8%	8%	5%	8%						26%	21%	34%	17%	24%
印刷・コピー機が利用できる						6%	23%	30%	2%	9%	18%	31%	42%	13%	22%
学習支援サービスが受けれる						4%	0%	0%	2%	2%	3%	1%	3%	1%	2%
飲食をすることができる	0%	0%	0%	0%	0%						3%	6%	5%	1%	3%
いつも席が空いている	10%	17%	0%	17%	13%	15%	23%	30%	19%	19%	18%	18%	18%	20%	19%
視聴覚資料(DVDなど)がある	19%	25%	17%	11%	15%										
ネット環境が整っている						10%	5%	10%	5%	7%					
その他	3%	0%	0%	3%	3%	15%	8%	10%	15%	13%	4%	7%	1%	3%	4%
無記入	1%	0%	8%	1%	1%	1%	0%	0%	2%	1%	2%	2%	2%	1%	2%
n(人)	136	12	12	133	293	71	39	10	62	182	400	147	150	349	1046

	中部					京産					平均				
	図書	PC	併用	持込	計	図書	PC	併用	持込	計	図書	PC	併用	持込	計
利用していた建物から近い	11%	8%	18%	12%	12%	16%	15%	15%	22%	18%	14%	11%	13%	16%	14%
次講義の建物に近い	5%	5%	11%	8%	7%	5%	8%	3%	11%	8%	4%	5%	5%	6%	5%
静かで落ち着いている	66%	64%	77%	70%	68%	68%	55%	72%	66%	65%	67%	65%	76%	72%	70%
賑やか・会話できる	2%	8%	3%	14%	8%	2%	6%	3%	9%	6%	2%	7%	3%	7%	5%
図書資料がある	57%	21%	52%	13%	30%	20%	4%	15%	4%	10%	36%	15%	33%	11%	23%
PCの利用がしやすい	12%	48%	44%	5%	22%	13%	53%	49%	11%	21%	14%	49%	49%	11%	22%
空間の明るさや空調が良い	32%	32%	39%	34%	34%	26%	19%	36%	24%	25%	26%	26%	38%	24%	26%
開館時間が長い	9%	18%	14%	14%	14%	10%	16%	19%	7%	10%	16%	17%	24%	11%	15%
印刷・コピー機が利用できる	4%	4%	7%	2%	3%	11%	26%	34%	5%	13%	11%	20%	30%	6%	13%
学習支援サービスが受けれる	1%	0%	0%	0%	1%	1%	2%	3%	0%	1%	2%	1%	2%	1%	1%
飲食をすることができる	1%	5%	0%	3%	3%	5%	14%	13%	12%	10%	3%	7%	5%	4%	4%
いつも席が空いている	13%	9%	8%	14%	12%	13%	8%	13%	12%	12%	15%	13%	15%	16%	15%
視聴覚資料(DVDなど)がある											3%	1%	1%	1%	2%
ネット環境が整っている											1%	0%	0%	0%	0%
その他	2%	6%	1%	3%	3%	2%	3%	0%	3%	2%	4%	6%	1%	4%	4%
無記入	1%	1%	0%	0%	0%	4%	3%	0%	2%	2%	2%	2%	1%	1%	2%
n(人)	137	130	71	222	560	274	118	67	352	811	1018	446	310	1118	2892

3.5.5 開架閲覧室とLCに対するイメージ

利用者がどのように感じて利用しているかをみるために、学習媒体別に開架閲覧室とLCの利用のイメージを表3-17に示す。平均の合計は、先の全体の利用者の分析結果（p.91）でも触れたように、「自分の勉強するところ」が最も高い。さらに学習利用者を抽出して分析したため、全利用者に比べて高い。

学習媒体別にみると、特に併用利用と持込利用が「自分の勉強するところ」の割合が高い。

図書利用と併用利用は、「知りたいこと、調べたいことがわかるところ」が高く、図書資料の利用によって、得られたイメージである。併用利用は、「日課として来るところ」、「新しい興味や関心をみつけるところ」が他の利用者より高い割合が得られている。

愛学は調査の都合上、多くの選択項目を増やして調査を行った。図書に關係するものは、図書利用で多くみられた。併用利用は、「居心地の良いところ」が34%と他よりも高い。

表3-17 利用目的別の開架閲覧室とLCに対するイメージ（複数回答）

	愛淑					愛学					立命				
	図書	PC	併用	持込	計	図書	PC	併用	持込	計	図書	PC	併用	持込	計
日課として来るところ	13%	8%	8%	4%	8%	7%	5%	14%	3%	6%	17%	12%	18%	12%	14%
自分の勉強をするところ	57%	75%	67%	78%	68%	59%	46%	48%	71%	60%	74%	83%	88%	85%	81%
知りたいこと、調べたいことがわかるところ	65%	67%	67%	42%	55%	44%	29%	72%	30%	40%	60%	46%	76%	40%	54%
気分転換をするところ	24%	8%	8%	11%	17%	17%	8%	24%	7%	13%	15%	12%	16%	11%	13%
ひとりの時間を過ごせるところ	52%	75%	25%	40%	46%	32%	14%	41%	33%	30%	42%	42%	53%	37%	42%
友人、知人と交流を深めるところ	1%	0%	0%	1%	1%	3%	5%	7%	3%	4%	3%	3%	3%	4%	3%
暇なときに来るところ	38%	33%	42%	26%	32%	25%	12%	24%	11%	19%	31%	24%	31%	25%	28%
新しい興味や関心を見つげるところ	26%	8%	50%	4%	16%	23%	14%	41%	9%	19%	17%	11%	17%	8%	13%
他にいくところがないから来るところ	7%	17%	17%	9%	9%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	8%	11%	10%	9%
友人と一緒に学習、議論するところ	3%	8%	17%	5%	5%	7%	15%	7%	10%	9%	7%	10%	9%	10%	9%
本を貸し借りするところ						54%	54%	41%	44%	50%					
本を読むところ						63%	34%	52%	30%	48%					
CD、ビデオ、DVDを利用するところ						14%	14%	24%	16%	15%					
PCを使うところ						9%	35%	24%	8%	13%					
居心地のよいところ						21%	12%	34%	12%	18%					
多様な空間が用意されているところ						5%	8%	3%	7%	6%					
その他	1%	8%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	2%	1%	1%	1%	1%
無記入	0%	0%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	2%	1%	0%	0%
回答者数	136	12	12	133	293	222	65	29	129	445	400	147	150	349	1046

	中部					京産					平均				
	図書	PC	併用	持込	計	図書	PC	併用	持込	計	図書	PC	併用	持込	計
日課として来るところ	9%	7%	10%	8%	8%	12%	8%	19%	9%	11%	12%	8%	16%	9%	11%
自分の勉強をするところ	52%	72%	75%	72%	67%	59%	57%	69%	70%	64%	63%	68%	77%	76%	70%
知りたいこと、調べたいことがわかるところ	62%	29%	54%	21%	37%	48%	24%	51%	14%	30%	55%	34%	65%	28%	43%
気分転換をするところ	20%	12%	24%	11%	15%	17%	14%	19%	13%	15%	17%	12%	19%	11%	14%
ひとりの時間を過ごせるところ	47%	32%	51%	21%	34%	41%	41%	51%	36%	39%	41%	36%	50%	34%	39%
友人、知人と交流を深めるところ	1%	5%	3%	3%	3%	4%	9%	6%	6%	6%	3%	5%	4%	4%	4%
暇なときに来るところ	28%	23%	27%	14%	21%	31%	31%	36%	27%	30%	30%	24%	31%	22%	26%
新しい興味や関心を見つげるところ	16%	5%	18%	4%	9%	18%	3%	21%	5%	10%	19%	8%	21%	6%	13%
他にいくところがないから来るところ	4%	15%	17%	7%	9%	9%	9%	13%	9%	9%	6%	9%	12%	8%	8%
友人と一緒に学習、議論するところ	4%	18%	6%	23%	15%	6%	15%	9%	18%	13%	6%	14%	9%	14%	11%
その他	1%	2%	0%	0%	1%	0%	0%	1%	2%	1%	11%	1%	1%	1%	1%
無記入	1%	1%	0%	0%	0%	3%	2%	0%	1%	2%	1%	1%	1%	0%	1%
回答者数	137	130	71	222	560	274	118	67	352	811	1169	472	329	1185	3155

3.6 まとめ

全学生の利用者を対象に、アンケート調査と巡回プロット調査より、開架閲覧室とLCの目的と場所選択を概観した。各大学で共通してみられた点と、大学固有の状況に分けて、それぞれ記述する。

3.6.1 開架閲覧室とLCの利用者層と利用内容

- 1) 学部学生の占める割合が9割以上と圧倒的に多く、中でも授業数等関係で大学へ来る頻度が高い1年生の利用が多い。
- 2) 人数は、個人利用が7割以上を占めて最も多く、グループでは2人組が2割未満である。LCがない大学やLCの座席が開架閲覧室と変わらない大学でも個人とグループ利用の割合に大きな変化はない。
- 3) 学生の利用者は、授業と授業の空き時間に来ており、利用頻度は、1週間に1回以上が8割を超え、利用者はよく利用している。
- 4) 利用者の来訪理由として、静かで落ち着いている場所、自分の勉強をする場所を求める利用者は多い。一方、学習支援を求める利用者は1%程度と低く、享受されていない。
- 5) 利用目的のうち、7割以上は学習を目的に来ており、筆記具を用いての学習、PCを使ったWEB閲覧、文書作成を行っている。
- 6) 着座行為率は80%以上と高く、多くの利用者が椅子に座わって場所を選択している。ピーク時の占有率は、30%以下で空席が発生している。そのため、過ごしたい場所があり、仕方なく座るといった行動は少ないと思われる。
- 7) 愛淑は、従来型の図書館であるため、閲覧に特化している環境である。
- 8) 相山は、開架閲覧室内も会話が許容されているため、グループ利用の割合が高くなった。
- 9) 図書館が講義棟内に位置していると、休憩目的として利用されやすい。

3.6.2 学習利用者の分布場所

- 1) 学習利用者は、開架閲覧室とLCの様々な場所に分布している。個人学習室や机の両サイドにある仕切り板が高い席といった閉鎖的な席は、学習利用が多くみられた。
- 2) 一方で、ほとんど利用されない場所もある。それは、①出入口から平面的にも断面的にも遠いグループ席、②グループ席が連なり一様に並べられている、③通過動線上に配置された座席であった。

3.6.3 学習媒体別の来訪理由

学習利用者のうち、学習媒体を利用する「図書利用」、「PC利用」、「併用利用(図書とPCの両方を利用)」と、学習媒体を持ち込む「持込利用」の割合を整理した。

- 1) 全ての大学で、図書利用と持込利用は、それぞれ3~4割を占めている。

- 2) 持込利用は、1年生の利用で多いが、他の学習媒体は学年ごとの差異がみられない。また文系学部と理系学部でも違いはみられない。
- 3) 来訪理由をみると、利用する学習媒体の種類に関わらず、「静かで落ち着いている」とする割合が7割以上と最も高い。
- 4) 図書、PC、併用利用者は、「静かで落ち着いている」に次いで、学習媒体の利用を理由にしている。
- 5) 持込利用は、開架閲覧室とLC内の学習媒体を利用しないため、講義棟からの近さや、学内の他に利用したい施設がなく利用していると考えられたが、それらの来訪理由は得られず、居心地の良さを求めて来ている。

以上のことから、学習利用者の静かで落ち着いた場所への要求は、開架閲覧室とLCにおいて開放的な席から閉鎖的な席まで様々である。また持込利用以外は、図書利用やPCの利用のしやすさも来訪理由としており、利用する媒体による作業のしやすさは、学習媒体で選択する席が異なると考えられる。

次章では、利用人数に着目して分析を進めていく。

参考文献

- 文 3-1) 久米田紘一、佐藤仁、佐藤征：大学図書館の施設計画について 1- 利用目的と在館時間、日本建築学会大会学術講演梗概集、計画系、pp.493-494、1969.8
- 文 3-2) 富江伸治、植松貞夫、門谷真一郎、川島宏、栗原嘉一郎：大学図書館の利用状況 1-4、日本建築学会大会学術講演梗概集、計画系、pp.1093-1100、1981.9
- 文 3-3) 植松貞夫：図書館施設論 - 現代図書館情報学シリーズ 12、樹村房、2014
- 文 3-4) 中井孝幸、秋野崇大、谷口桃子：図書館における利用者属性からみた座席の選択行動と過ごし方「場」としての公共図書館の施設計画に関する研究・その1、日本建築学会計画系論文集、第741号、pp.2767-2777、2017.11
- 文 3-5) 中井孝幸、蔣逸凡：大学図書館における学習環境と利用者の図書館像 - 「場」としての大学図書館の施設計画に関する研究・その1、日本建築学会計画系論文集、第705号、pp.2347-2356、2014.11
- 文 3-6) Aron Cohen, Elain Cohan: Designing and Space Planning for Libraries -A behavioral guide, R. R. Bowker Company, 1979、栗原嘉一郎、植松貞夫（訳）：図書館のデザインとスペース計画、丸善株式会社、1984.10

第4章 個人とグループからみた学習媒体と 来訪理由と滞在場所

第4章 個人とグループからみた学習媒体と来訪理由と滞在場所

4.1 研究の目的と方法

1章で述べたように、学生の学習習慣を促すために、主体的な学びが注目されている。習得内容は、コミュニケーション能力、情報リテラシ能力、問題解決能力などが挙げられ、「グループ」を中心とした学習が求められている。

一方、個人での学びは、文科省の答申においてほとんど触れられていない。施設計画においても、個人学習の場所として考えられている開架閲覧室は、LCが整備されても現状維持であり、学習場所として十分に検討されているとは言えない。グループの学習は、個人での知識を出し合い集約する学びでもあり、グループ、個人ともに学習場所としての整備検討が必要である。

個人、グループの利用を対象にした研究において、石塚・柳澤^{文4.1)}は、個人席をグループ利用者が、グループ席を個人が利用する様子を捉えている。堀江・田上^{文4.2)}は、LC内のようにオープンな空間ほど、個人から共同まで多様な使い方がされていることを捉えている。また、浅間^{文4.3)}、川角^{文4.4)}らも、個人やグループでも利用できる場所を提供することを述べている。

しかし、実際の利用者の属性や利用意図、選択理由までは把握できていないこと、どのような席を提供すべきかは明確になっていない。

そこで本章では、個人とグループそれぞれの要求を聞き出して施設計画の手がかりを得るために、学習を目的にした利用者を個人、2人組、多人数の利用人数に分け、利用行動を明らかにする。詳しくは以下の点を明らかにする。

- ・利用人数別で利用者属性、利用する学習媒体、来訪理由の違いを明らかにする。
- ・開架閲覧室とLC（会話可能エリアと禁止エリア）に分けて、個人とグループの滞在場所を明らかにする。

調査対象は、先の3.5以降の分析と同じく、学習利用者の利用状況を多く捉えるために、学習行為が高かった（p.94）、愛淑、椙山、愛学、立命、中部、京産の6大学を対象にする。

研究の方法は、まず学習利用者を個人、2人組、多人数に分けて、利用者属性、来訪理由、利用目的などを整理し、人数ごとの利用状況と要求を把握する（4.2）。次に巡回プロット調査から、2人組と多人数をまとめてグループ利用とし、個人とグループでの実際の学習活動を把握する（4.5）。次に会話可能エリアと禁止エリアに分けて、会話行為から個人とグループ利用における滞在場所の大まかな傾向を捉える（4.4）。

4.2 個人とグループの学習利用者の学習媒体と来訪理由

4.2.1 個人、2人組、多人数利用の割合

学習利用者がどのような人数で利用しているかを表4-1でみる。個人利用が最も多く、平均で8割を占めている。次いで、2人組が13%であった。中でも愛淑、立命は8割を超えて高い。椙山、中部、京産は比較的、グループ利用の割合が高い。

また、3章の利用者全体の分析でも、いずれの大学も個人利用、次いで2人組の利用が多いことは触れていたが、学習利用者限定した本結果でも変わらず、学習利用者だからとって、利用人数に互いが生じるわけではない。

表4-1 利用人数の割合

		愛淑	椙山	愛学	立命	中部	京産	平均
個人		83%	72%	79%	87%	72%	78%	80%
グループ	2人組	14%	18%	13%	10%	16%	13%	13%
	多人数	3%	9%	8%	3%	10%	7%	6%
無記入		0%	1%	0%	0%	1%	3%	1%
合計(人)		294	183	445	1050	567	832	3371

4.2.2 学年構成と利用頻度

(1) 学年

利用人数に対して、どの学年が多く占めているかを表4-2にみる。学部生を中心にみていく。全大学を通して、1年生は個人利用に比べてグループ利用が多い傾向にある。特に、LCを持たない愛淑以外は、その比率が顕著にみられる。1年生は最も多い学年であるため、グループで持込利用ができる場所を検討することが必要になる。

2年生は、多人数利用が減少し、個人で利用している。一方3、4年生は、同じ傾向にあることが読み取れず、各大学で変わっている。例えば、椙山や愛学の4年生は、卒業研究等をグループで利用している可能性が考えられる。

(2) 利用頻度

利用人数別の利用頻度の違いを表4-3に示す。まず、全体的に3章での全利用者の利用頻度に比べて、「ほとんど毎日」や「一週間に2,3回」は高い。学習利用者は、利用頻度が高いことがわかる。

多人数は、「一週間に2,3回」以上の高い利用頻度が他の利用人数に比べて低く、多人数は利用頻度が低い傾向にある。個人と2人組では大きな違いはみられない。

表 4-2 利用人数別にみた学年構成

		学部				大学院	無記入	計			学部				大学院	無記入	計
		1年	2年	3年	4年						1年	2年	3年	4年			
愛淑	個人	31%	17%	25%	25%	2%	0%	245	中部	個人	22%	26%	31%	19%	2%	0%	409
	2人組	30%	30%	23%	18%	0%	0%	40		2人組	35%	14%	28%	22%	0%	1%	93
	多人数	0%	13%	13%	75%	0%	0%	8		多人数	38%	10%	26%	22%	2%	2%	58
	計	30%	18%	24%	25%	2%	0%	293		計	26%	22%	30%	19%	2%	1%	560
福山	個人	16%	28%	33%	21%	1%	1%	132	京産	個人	32%	27%	23%	16%	1%	2%	648
	2人組	6%	45%	21%	27%	0%	0%	33		2人組	45%	25%	12%	12%	1%	4%	106
	多人数	6%	47%	0%	47%	0%	0%	17		多人数	46%	25%	25%	4%	0%	2%	57
	計	13%	33%	28%	25%	1%	1%	182		計	35%	27%	22%	14%	1%	2%	811
愛学	個人	24%	19%	26%	28%	3%	0%	352	平均	個人	26%	22%	25%	22%	3%	1%	2699
	2人組	34%	29%	19%	19%	0%	0%	59		2人組	35%	24%	20%	19%	1%	1%	436
	多人数	35%	15%	9%	41%	0%	0%	34		多人数	35%	19%	22%	22%	1%	1%	202
	計	26%	20%	23%	28%	2%	0%	445		計	28%	23%	24%	21%	3%	1%	3337
立命	個人	25%	20%	23%	24%	5%	3%	913									
	2人組	34%	21%	20%	22%	3%	0%	105									
	多人数	32%	18%	43%	4%	4%	0%	28									
	計	26%	20%	24%	23%	5%	2%	1046									

表 4-3 利用人数別にみた利用頻度

		ほとんど	一週間に	一週間に	二週間に	月に1回	二、三ヶ	年に2,3	年に1回	初めて来	その他	無記入	n
		毎日	2,3回	1回	1回	月に1回	月に1回	回	回	た			
愛淑	個人	12%	45%	20%	11%	5%	5%	1%	0%	0%	1%	0%	245
	2人組	8%	50%	10%	15%	10%	3%	5%	0%	0%	0%	0%	40
	多人数	0%	0%	13%	25%	0%	25%	38%	0%	0%	0%	0%	8
	計	11%	44%	18%	12%	6%	5%	3%	0%	0%	1%	0%	293
福山	個人	14%	33%	24%	15%	7%	5%	2%	0%	-	-	0%	132
	2人組	9%	45%	12%	9%	15%	6%	0%	3%	-	-	0%	33
	多人数	18%	24%	6%	29%	6%	6%	12%	0%	-	-	0%	17
	計	14%	35%	20%	15%	8%	5%	2%	1%	-	-	0%	182
愛学	個人	14%	42%	23%	7%	10%	3%	1%	0%	0%	0%	1%	352
	2人組	7%	37%	22%	3%	17%	5%	5%	2%	0%	2%	0%	59
	多人数	24%	32%	24%	9%	12%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	34
	計	14%	40%	23%	7%	11%	3%	1%	0%	0%	0%	1%	445
立命	個人	36%	44%	12%	5%	2%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	913
	2人組	22%	42%	15%	10%	6%	5%	0%	0%	0%	1%	0%	105
	多人数	11%	46%	29%	4%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	28
	計	34%	44%	13%	5%	2%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	1046
中部	個人	14%	49%	17%	10%	5%	3%	0%	0%	0%	1%	0%	409
	2人組	11%	42%	22%	6%	5%	9%	0%	0%	2%	3%	0%	93
	多人数	16%	29%	21%	7%	10%	5%	0%	2%	3%	7%	0%	58
	計	14%	46%	18%	9%	6%	4%	0%	0%	1%	2%	0%	560
京産	個人	20%	44%	21%	7%	3%	2%	0%	0%	0%	1%	0%	648
	2人組	20%	31%	22%	7%	9%	8%	1%	0%	1%	0%	1%	106
	多人数	21%	28%	16%	12%	7%	11%	4%	0%	0%	2%	0%	57
	計	20%	41%	21%	7%	4%	4%	1%	0%	0%	1%	0%	811
平均	個人	23%	44%	18%	8%	4%	2%	0%	0%	0%	1%	0%	2699
	2人組	15%	40%	18%	8%	9%	6%	1%	0%	1%	1%	0%	436
	多人数	17%	30%	19%	11%	8%	6%	3%	0%	1%	2%	0%	202
	計	21%	43%	18%	8%	5%	3%	1%	0%	0%	1%	0%	3337

4.2.3 学習媒体と滞在時間及び来訪理由

(1) 学習媒体

利用人数ごとの学習活動を捉えるために、まず利用する学習媒体から把握する。利用人数ごとの学習媒体を表4-4に示す。まず平均をみると個人は、「図書利用」が40%と最も多い。2人組は「図書利用」よりも「持込利用」が47%と多くなる。そして、多人数になると「持込利用」が半数以上を占めている。これらは概ね、各大学で共通してみられる。

特に変化があったものとして、相山は、グループ利用で「持込利用」が多くなるわけではなく、「PC利用」が多くを占めている。これは、PC利用と多人数利用が多かった4年生が占めていたからと考えられる。愛学のグループ利用は、「図書利用」が4割以上みられ、「持込利用」の割合は低かった。

表4-4 利用人数別の学習媒体

		図書利用	PC利用	併用利用	持込利用	n(人)
愛淑	個人	49%	4%	4%	42%	245
	2人組	30%	3%	3%	65%	40
	多人数	50%	0%	0%	50%	8
	計	46%	4%	4%	45%	293
相山	個人	43%	16%	7%	34%	132
	2人組	27%	33%	0%	39%	33
	多人数	29%	41%	6%	24%	17
	計	39%	21%	5%	34%	182
愛学	個人	52%	13%	7%	28%	352
	2人組	41%	19%	5%	36%	59
	多人数	44%	26%	6%	24%	34
	計	50%	15%	7%	29%	445
立命	個人	39%	13%	14%	33%	913
	2人組	36%	18%	16%	30%	105
	多人数	25%	21%	7%	46%	28
	計	38%	14%	14%	33%	1046
中部	個人	29%	23%	16%	33%	409
	2人組	15%	26%	4%	55%	93
	多人数	9%	22%	3%	66%	58
	計	24%	23%	13%	40%	560
京産	個人	38%	15%	9%	38%	648
	2人組	22%	14%	4%	60%	106
	多人数	9%	11%	5%	75%	57
	計	34%	15%	8%	43%	811
平均	個人	40%	14%	11%	34%	2699
	2人組	28%	19%	7%	47%	436
	多人数	20%	20%	5%	54%	202
	計	37%	15%	10%	37%	3337

(2) 滞在時間

利用人数別に滞在時間をみる。全大学の人数別における滞在時間を度数分布で図4-1に示す。その結果、60分台を境に、個人、少人数と多人数で割合に違いがみられる。多人数は、60分を超えると多く、3時間以上の割合も最も多い。平均の平均滞在時間(表4-5)をみても10分程度、個人と2人組に比べて長い。なおこれらは、各大学でみても比較的同じ傾向が示されている。

先の学習媒体別で、「持込利用」の滞在時間は長いことが整理されている(p.116)。多人数は、持込利用が多く占めていたため、滞在時間が長いと推察できる。

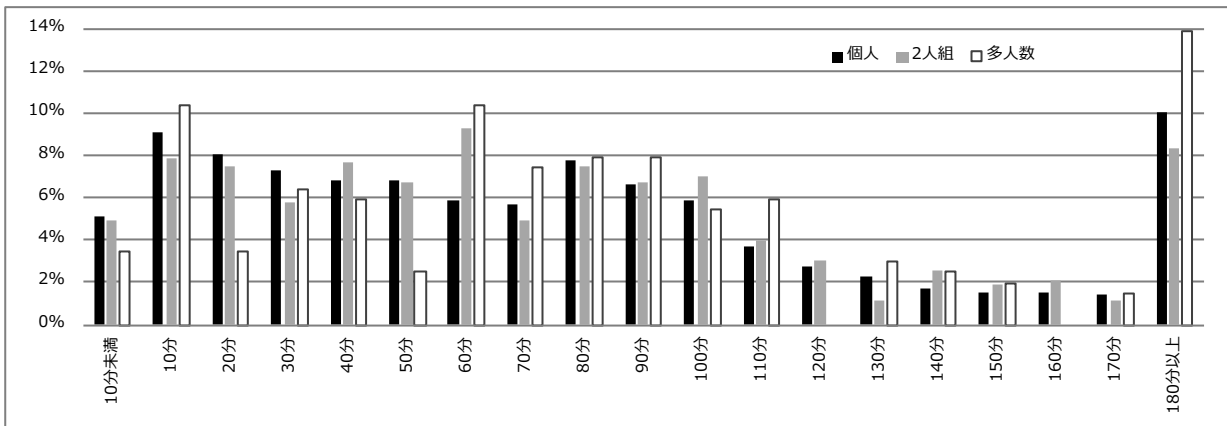


図 4-1 【平均】利用人数別の滞在時間

表 4-5 利用人数別の平均滞在時間

	愛淑		椋山		愛学		立命		中部		京産		平均	
	滞在時間	人数	滞在時間	人数	滞在時間	人数	滞在時間	人数	滞在時間	人数	滞在時間	人数	滞在時間	人数
個人	1時間07分	245	1時間32分	132	1時間13分	352	1時間39分	903	1時間37分	409	1時間19分	646	1時間27分	2687
2人組	1時間23分	40	1時間25分	33	1時間07分	59	1時間21分	103	2時間04分	93	1時間11分	102	1時間27分	430
多人数	0時間19分	8	1時間37分	17	1時間31分	34	2時間06分	28	1時間50分	58	1時間28分	57	1時間38分	202
計	1時間08分	293	1時間31分	182	1時間13分	445	1時間38分	1034	1時間43分	560	1時間18分	805	1時間28分	3319

(3) 来訪理由

利用人数別で開架閲覧室と LC に来訪する理由の違いをみる (表 4-6)。

まず平均からみると、個人から多人数にかけて変化していく項目が 5 項目みられる。最も高い「静かで落ち着いているため」は、2 人組、多人数になるにつれて割合が減少し、要求は少なくなる。一方、「賑やか・会話ができるため」は増加し、2 人組に比べて、多人数は友人と話すために選択している。しかし、多人数でも 17% であるため、グループだからと言って全員が、会話ができる場所を求めているわけではなく、静かで落ち着いた場所を求めている。

次に「利用していた建物から近いから」は、多人数にかけて割合が高い。特に、京産は顕著に表れ、開架閲覧室と LC を分けてみると、グローバルコモンズでは、割合が高い。学部棟内に設置され、アクセスが良いことで高くなったと推測できる。グループは、開架閲覧室や LC への距離によって選択されている。

「印刷・コピー機が利用できるため」は、多人数が他に比べて圧倒的に低い。PC 利用はさほど変わらないが、人数が増えると、印刷することは少なくなる。「いつも席が空いている」は、個人に比べて、グループの割合が高く、場所の選択理由が重要に感じていると思われる。一方、中部の「いつも席が空いている」は、多人数で 12% と高い。これは、先の利用率の図 (p.105) をみても LC 内で空いている座席が多かったからと考えられる。

「学習支援サービスが受けられる」は、利用人数別で変わらず低い。LC は、学習支援よりも会話ができる場所、PC が利用できる場所として捉えている可能性が考えられる。

表 4-6 利用人数別にみた来訪理由（複数回答）

	愛淑				相山				立命			
	個人	2人組	多人数	計	個人	2人組	多人数	計	個人	2人組	多人数	計
利用していた建物から近い	4%	10%	13%	5%					17%	16%	25%	17%
次講義の建物に近い	2%	3%	0%	2%					3%	3%	4%	3%
静かで落ち着いている	76%	80%	88%	77%	80%	48%	71%	73%	73%	69%	43%	71%
賑やか・会話できる	0%	8%	0%	1%	5%	39%	6%	11%	1%	6%	11%	2%
図書資料がある	48%	55%	38%	49%	23%	18%	47%	25%	22%	17%	21%	21%
PCの利用がしやすい					24%	48%	18%	28%	29%	29%	11%	28%
空間の明るさや空調が良い	12%	13%	0%	12%	20%	9%	18%	18%	30%	23%	32%	29%
開館時間が長い	8%	3%	13%	8%					25%	18%	14%	24%
印刷・コピー機が利用できる					10%	12%	0%	9%	21%	26%	18%	22%
学習支援サービスが受けられる					2%	3%	0%	2%	2%	4%	0%	2%
飲食をすることができる	0%	0%	0%	0%					3%	5%	7%	3%
いつも席が空いている	12%	13%	38%	13%	22%	15%	6%	19%	20%	10%	7%	19%
視聴覚資料(DVDなど)がある	16%	8%	25%	15%								
ネット環境が整っている					8%	6%	0%	7%				
その他	2%	8%	13%	3%	16%	6%	6%	13%	3%	10%	0%	4%
無記入	2%	0%	0%	1%	2%	0%	0%	1%	2%	1%	0%	2%
n(人)	245	40	8	293	132	33	17	182	913	105	28	1046

	中部				宗産				平均			
	個人	2人組	多人数	計	個人	2人組	多人数	計	個人	2人組	多人数	計
利用していた建物から近い	12%	12%	9%	12%	13%	34%	47%	18%	13%	18%	24%	14%
次講義の建物に近い	8%	3%	9%	7%	7%	12%	9%	8%	5%	5%	7%	5%
静かで落ち着いている	70%	69%	53%	68%	69%	53%	40%	65%	72%	64%	51%	70%
賑やか・会話できる	4%	17%	24%	8%	4%	10%	19%	6%	2%	13%	17%	5%
図書資料がある	34%	24%	12%	30%	12%	4%	7%	10%	24%	19%	17%	23%
PCの利用がしやすい	23%	19%	19%	22%	21%	15%	28%	21%	22%	21%	20%	22%
空間の明るさや空調が良い	33%	37%	33%	34%	25%	24%	28%	25%	27%	24%	28%	26%
開館時間が長い	12%	20%	14%	14%	11%	8%	9%	10%	16%	12%	11%	15%
印刷・コピー機が利用できる	4%	2%	0%	3%	14%	10%	2%	13%	13%	12%	4%	13%
学習支援サービスが受けられる	0%	0%	2%	1%	1%	2%	0%	1%	1%	2%	1%	1%
飲食をすることができる	2%	3%	2%	3%	9%	17%	12%	10%	4%	7%	6%	4%
いつも席が空いている	13%	8%	12%	12%	13%	8%	2%	12%	16%	10%	8%	15%
視聴覚資料(DVDなど)がある									2%	1%	1%	2%
ネット環境が整っている									0%	1%	0%	0%
その他	2%	6%	5%	3%	2%	5%	4%	2%	3%	7%	4%	4%
無記入	0%	0%	0%	0%	2%	3%	4%	2%	2%	1%	1%	2%
n(人)	409	93	58	560	648	106	57	811	2347	377	168	2892

4.3 個人とグループの行為と滞在場所

どのように個人利用とグループ利用が学習活動をしているかと選択状況を捉えるために、巡回プロット調査からみていく。なおグループ利用者の判断は、会話行為の有無とし、会話をしていないグループ利用者は、個人利用として分類している。

4.3.1 個人とグループの行為

調査で捉えた全利用行為から学習活動を行っていたものを抽出して表 4-7 に示した。選択状況の全体像を大きく把握するために、立位、着座など全て姿勢を対象にしている。平均をみると個人利用は、「筆記作業」が 48%と最も高い。多くがノート、プリント、参考書などへ書き込む作業である。次いで「PC 利用」で、WEB サイトの閲覧やワープロソフト、表計算ソフトによる筆記作業が行われていた。「その他」は、OPAC（蔵書検索機）の利用、音楽を聴く、アンケート記入、移動等が含まれている。

愛淑の「PC 利用」は、1%程度であり、Wi-Fi 環境もなく、PC 利用できる場所がほとんどないことが影響している。椛山は、PC 利用が少ないが、アンケート結果における PC 利用は、他大学に比べて高い。これは巡回プロット調査(2014 年) 時が、アンケート調査時 (2019 年) に比べてコンセンツの場所とノート PC の貸出数が少ないためだと考えられる。

グループ利用をみると、半数以上が「会話」であった。会話は、直接話しているだけでなく、その会話を聞いている利用者も含めている。次いで「会話 + 筆記作業」が 3 割未満であった。「会話 + 図書閲覧」は、4%と数は少ない。

表 4-7 個人とグループの利用行為

人数	個人利用者							延べ個人学習利用者数 (人)	グループ利用者					延べグループ学習利用者数 (人)
	筆記作業	図書閲覧	PC利用	図書閲覧 + PC利用	スマートフォン利用	その他	会話		会話 + 筆記作業	会話 + 図書閲覧	会話 + PC利用	会話 + その他		
愛淑	行為数	633	419	10	0	52	82	1196	87	13	43	0	16	159
	割合	53%	35%	1%	0%	4%	7%	100%	55%	8%	27%	0%	10%	100%
椛山	行為数	704	191	84	2	5	58	1044	135	26	11	5	4	181
	割合	67%	18%	8%	0%	0%	6%	100%	75%	14%	6%	3%	2%	100%
愛学	行為数	905	417	545	4	14	104	1989	163	51	4	21	9	248
	割合	46%	21%	27%	0%	1%	5%	100%	66%	21%	2%	8%	4%	100%
立命	行為数	6252	1943	3304	41	106	246	11892	822	309	20	240	15	1406
	割合	53%	16%	28%	0%	1%	2%	100%	58%	22%	1%	17%	1%	100%
中部	行為数	2952	655	1312	36	285	620	5860	430	562	35	176	18	1221
	割合	50%	11%	22%	1%	5%	11%	100%	35%	46%	3%	14%	1%	100%
京産	行為数	2138	926	1742	40	284	946	6076	831	370	67	188	41	1497
	割合	35%	15%	29%	1%	5%	16%	100%	56%	25%	4%	13%	3%	100%
平均	行為数	13584	4551	6997	123	746	2056	28057	2468	1331	180	630	103	4712
	割合	48%	16%	25%	0%	3%	7%	100%	52%	28%	4%	13%	2%	100%

4.3.2 個人とグループの滞在場所

(1) 会話可能と禁止エリア別の個人とグループの滞在状況

館内を会話可能と会話禁止のエリアに分けて、どのくらいの割合でそれぞれの場所に個人とグループが滞在しているかを整理する（図4-2）。ここでは、着座して学習利用している利用者を抽出して分析する。なお個人利用は、会話をしないグループ利用も含まれるため「みなし個人利用」とした。グループ利用は会話利用した人を示している。

エリアの分類について、会話可能エリアは、LCやグループ学習室、大学によってはPC室も含む。会話禁止エリアは、開架閲覧室、個人学習室である。

平均からみると、「みなし個人利用」は、会話禁止エリアで97%、会話可能エリアで61%であった。会話可能エリアであっても、「みなし個人利用」が半数以上を占める結果となり、会話をしない利用者が4割いることになる。一方グループ利用でも、会話禁止エリアに3%の利用者がいる。

愛淑は、7%のグループ利用者が会話禁止エリアに滞在し、他の大学に比べて高い。先で「会話+図書閲覧」が他の大学よりも多い。グループ学習室以外を会話禁止にし、会話可能な場所が少ないこと影響していると考えられる。

また、会話禁止のエリアに多くのキャレル席を設置する立命は、ほとんど会話をしないグループ利用者はみられなかった。

このように、必ずしも館内に与えられた会話の規則と人数の違いで場所を選択しているわけではなく、学習活動によって、場所を選択している可能性が考えられる。

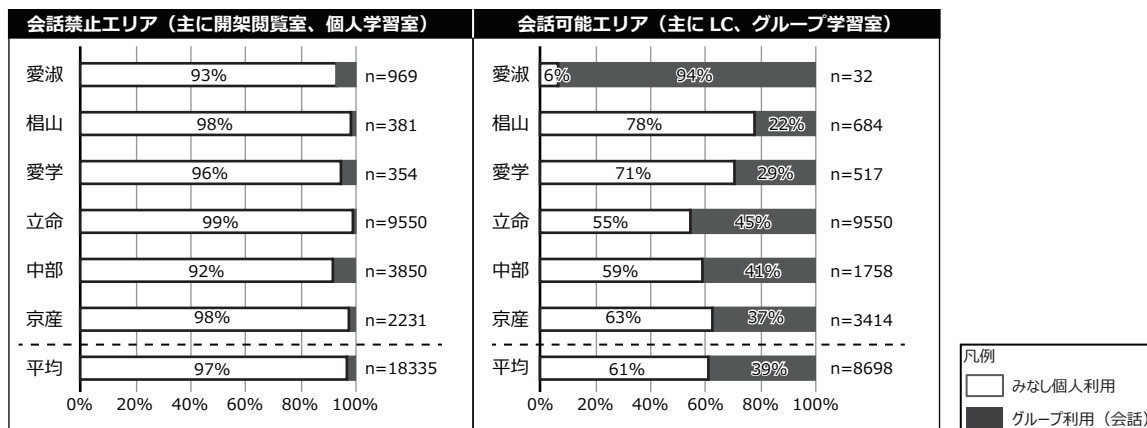


図4-2 会話可能エリアと禁止エリア別の個人とグループの滞在状況

(2) 個人とグループの分布状況

一日の利用者を会話行為とそれ以外に分けて、図面にプロットし、どの位置に個人利用とグループ利用が滞在しているかをみる（図4-3-①～⑧）。なお、会話利用とそれ以外の利用に分けてプロットしている。学習以外の行為も含まれているが、先で学習率が高い大学で分析をしているため、分析に大きく影響しないと考えている。なお分析の整合性を補うために、学習率の分布場所(3章)における分析を所々で踏まえながら考察する。

愛淑 (図 4-3-①)

1階のエントランス周辺、通過動線上にグループがみられる。特に、1A' 付近のコピー機周りに友人同士で利用し、さらにその付近にある課題図書を閲覧していた。また、印刷した用紙の整理で、1B でもグループがみられる。

2階は2Dの仕切りのあるキャレル席でもグループがみられる。また、書庫である2Nにもグループがおり、他の利用者があまりいない静かな場所にも滞在している。

楢山 (図 4-3-②)

地下1階は、会話禁止のエリアであるため、静かに学習しており、計画運用通りで利用されている。LCを含む1～3階の開架閲覧室は会話可能エリアであり、どこのエリアでもグループ利用が滞在している。特に2Eは、カウンタータイプの席であるが、グループ利用者がみられる。学習率の高い2Cも会話が見られるが、静かにグループ学習している様子がみられた。3階の3B(グループ学習室)以外は、利用率が低い、会話中心の利用がみられる。

愛学 (図 4-3-③)

2,3階の開架閲覧室は、会話禁止のエリアであるが、所々でグループがみられる。それらの場所に共通するのが、周囲に利用者がいない場所で、2Nや3Gが挙げられる。利用率、学習率が最も高いエリアの2L、2Oは、会話のプロットは一切見られず、個人で静かに学習している。

LCで最も利用率が高い2Mは、対面して2人で利用している時でも会話はあまり確認できなかった。LC内の1Oは、1テーブル当たり利用率の円の大きさが同一であることから、個人で学習し、会話のないグループ学習であると考えられる。

立命館 (図 4-3-④)

開架閲覧室の2,3階は、キャレル席が多く、ほとんどが個人利用で静かに利用している。キャレル席が多く、調査中グループでの利用もいくつかみられたが、隣同士の机を仕切ることで会話行為が制御される可能性がある。B1階は、他の階に比べて、グループ席が多く配置しており、2,3人で会話しながらの学習活動がみられた。

LCは、北側のPC付近に個人が集中し、静かにPC利用している人が多い。また入口付近の西側エリアは、愛学と同じく2人掛けであるが、個人が多く、会話を伴わない利用がされている。LCCやLCDでは、多くの会話が見られ、学習率も高いことからグループ学習がされている。

中部図書館 (図 4-3-⑤)

図書館は、開架閲覧室であるがグループが各場所に滞在している。中でも、3階に比較的多くのグループがみられる。特に3A東側では、会話中心の学習

が行われている。さらに3A付近の書架にもグループがみられ、友人同士で図書資料を手にしていた。職員は、当エリアを含め、グループ席を中心に、会話利用の注意を口頭で促しているが、効果があまりないとのことだった。

LCである1D、1Eは終日多くのグループを観察した。2A、2Bは、4人掛けの机の前面に仕切りがある座席である。窓側（南側）を中心に、個人利用者多く観察できた。一方で、グループが隣同士で座る様子もみられる。

中部 LC (図 4-3-⑥)

2階は、利用者が少なく、他の利用者と大きく距離を保って利用している。3階は、多くの座席で80%以上の学習率を捉えた場所である。グループ利用は、ボックス席タイプのソファ席である3Bに多く集まっている。一方で、個人利用も多くみられる。

3C、3Dのカウンター席は、個人利用がみられる。しかし、3Cはガラスで囲まれた個人ブースであるにもかかわらず、グループで会話している様子が見られ、明確な棲み分けができていない。

京産図書館 (図 4-3-⑦)

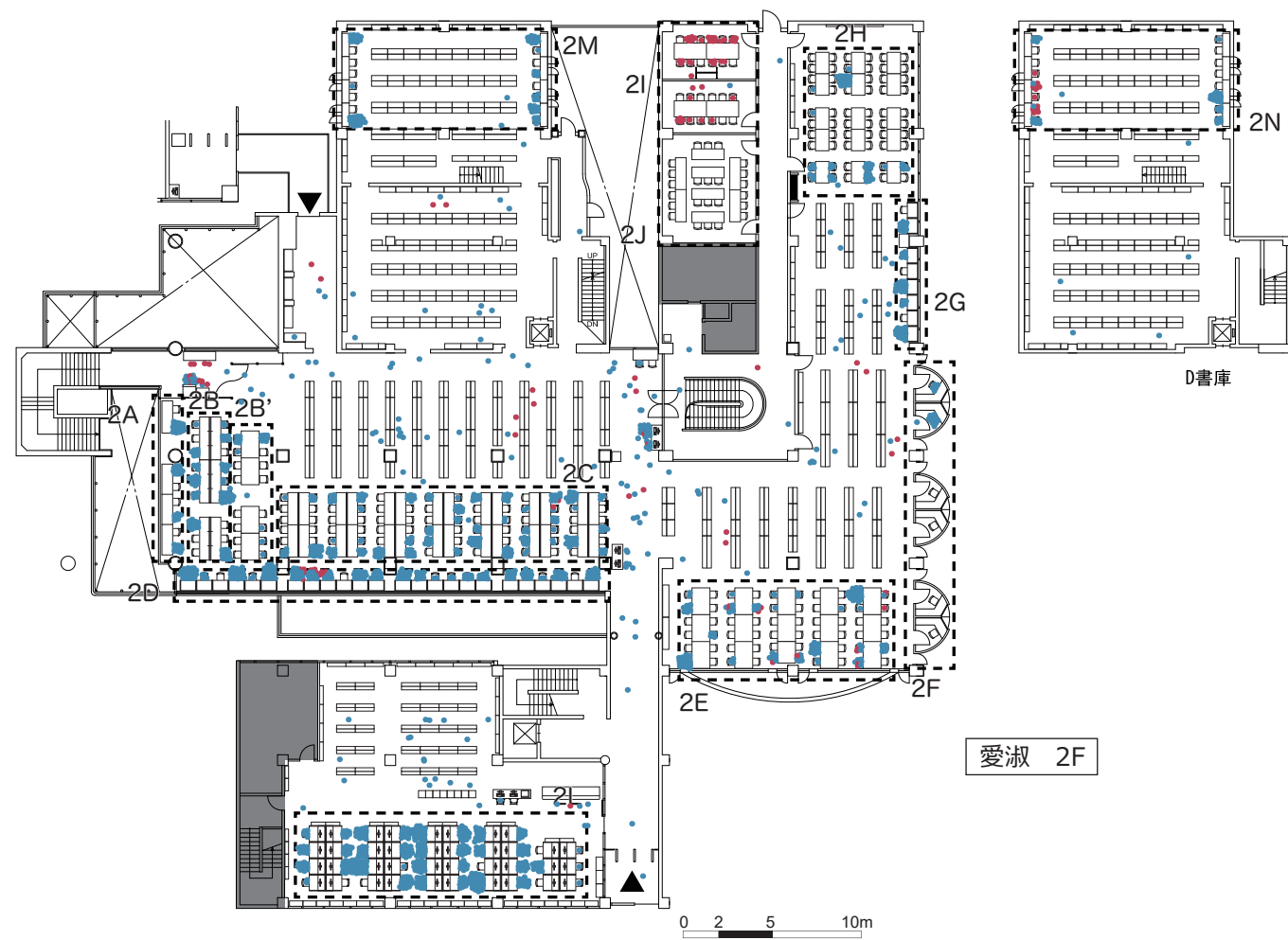
1階は、1E、1E' (休憩室)、1F (PC席) にグループ利用者がみられる。1Eはわずかに学習利用者もいることが分かっており、それらグループで学習している。会話禁止である開架閲覧室の2,3階は、個人利用を多く観察した。2M、2L付近ではグループ利用がみられた。この付近で、授業で推奨されている英語の多読本が配架されており、課題のために友人同士で利用していると思われる。2,3階のキャレル席は、個人が集中している。

京産 LC (図 4-3-⑧)

全体的にグループ利用が多くみられる。しかし、2Bや2Cの一部では個人で長時間学習している様子を観察した。3階の3A、3Bは、会話を交えたグループ学習を多く観察し、ホワイトボードを利用しながらの学習も確認できた。ホワイトボードが据え置きされている場所は、会話がしやすいと思われる。館内には学祭実行委員の部室があり、部室外での活動を行う様子もみられた。

京産 GC (図 4-3-⑨)

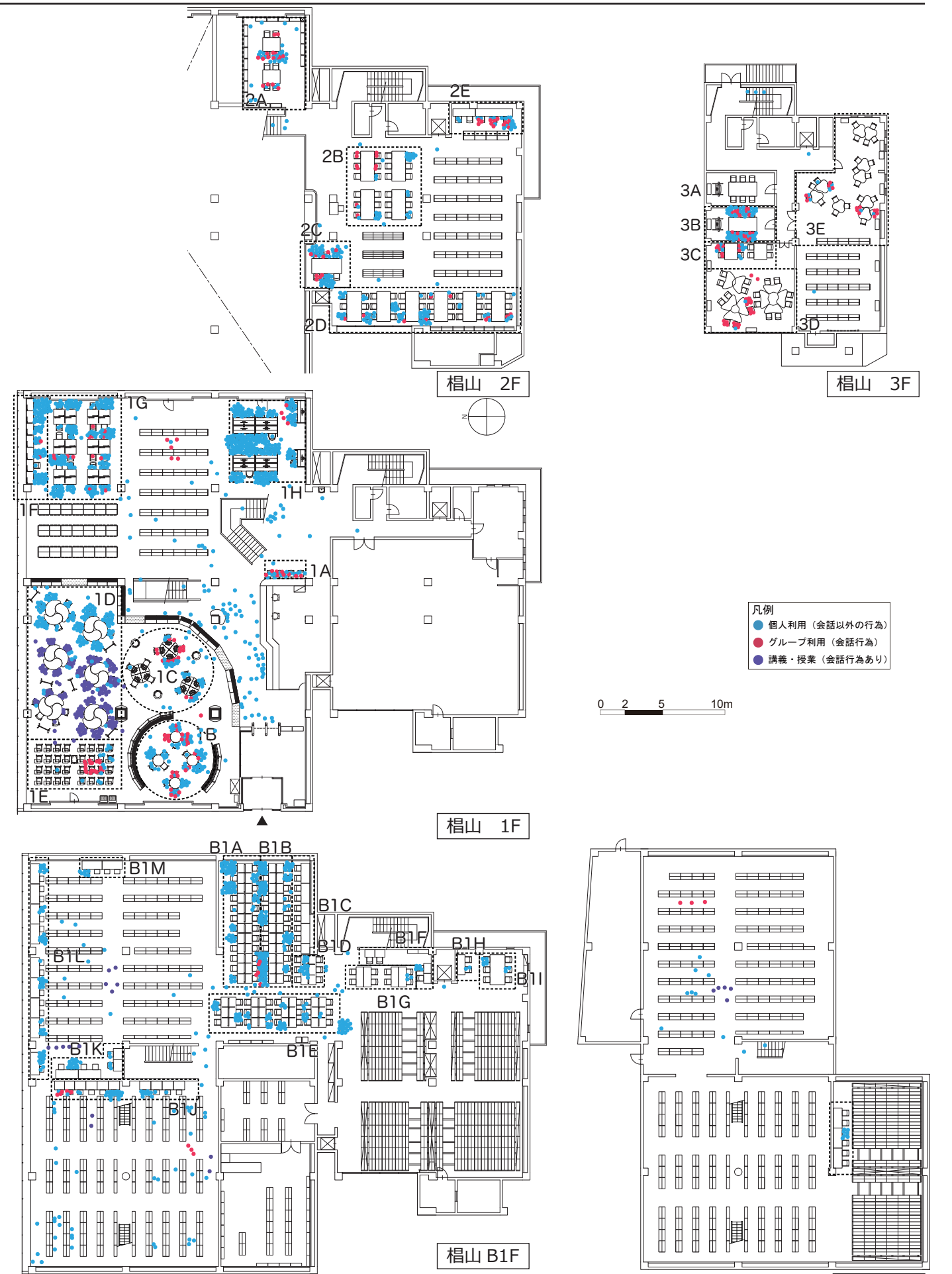
京産LCに比べ、グループ利用は少ない。Aのセミナースペースの什器は、他大学などのLCにある什器に比べて軽く、座席の配置を自由に変えやすい。しかし、他大学同様に、当日動かして利用する人はほとんど見られず、2人掛けの席に1人で座る様子がいくつかみられる。Iはハイカウンター席(9席)で、ほとんどが個人利用であった。



愛淑 2F



愛淑 1F



梶山 2F

梶山 3F

梶山 1F

梶山 B1F

梶山 B2F

- 凡例
- 個人利用 (会話以外の行為)
 - グループ利用 (会話行為)
 - 講義・授業 (会話行為あり)

図 4-3-① 【愛淑】会話行為の分布場所

図 4-3-② 【梶山】会話行為の分布場所

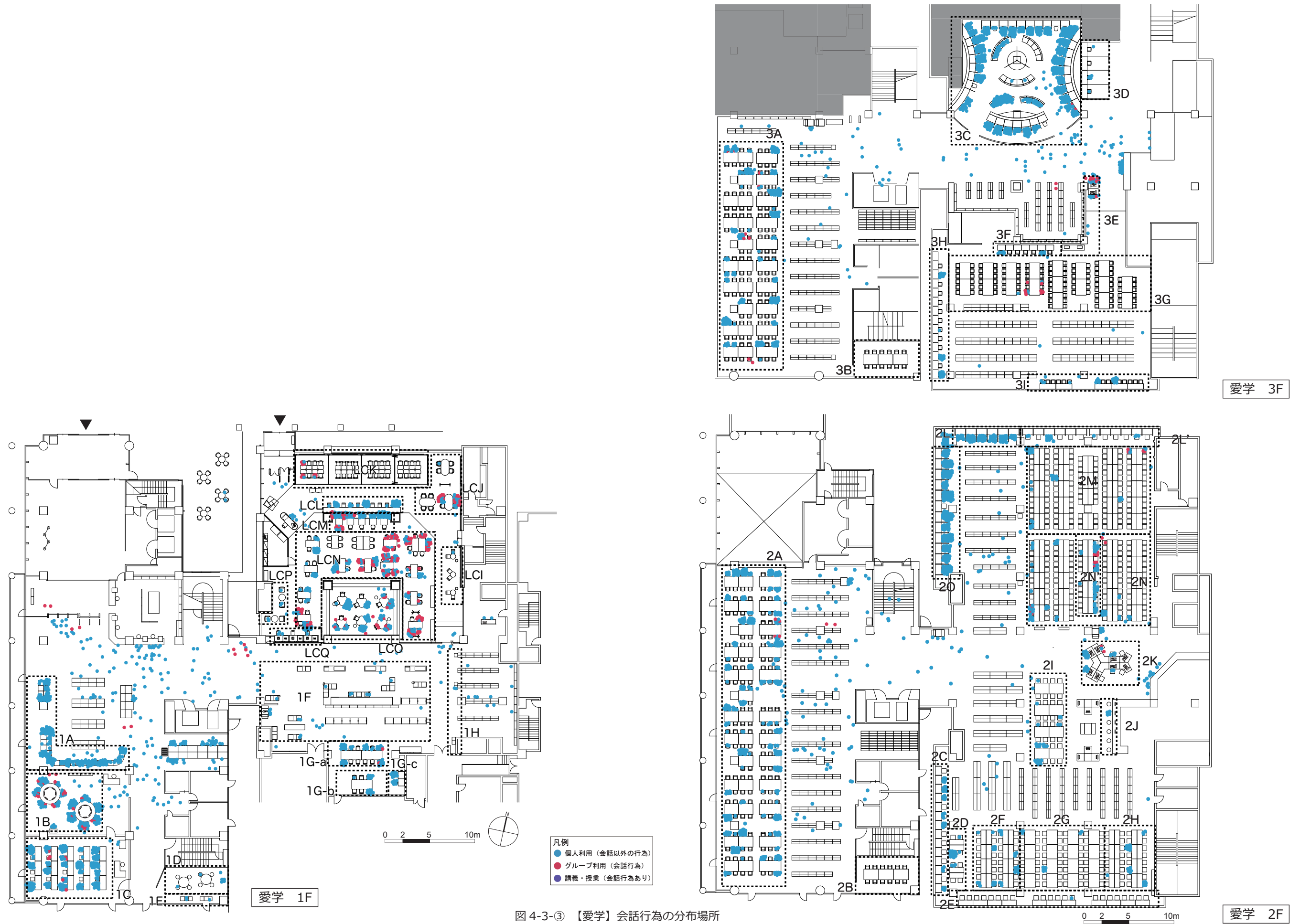


図 4-3-③ 【愛学】会話行為の分布場所

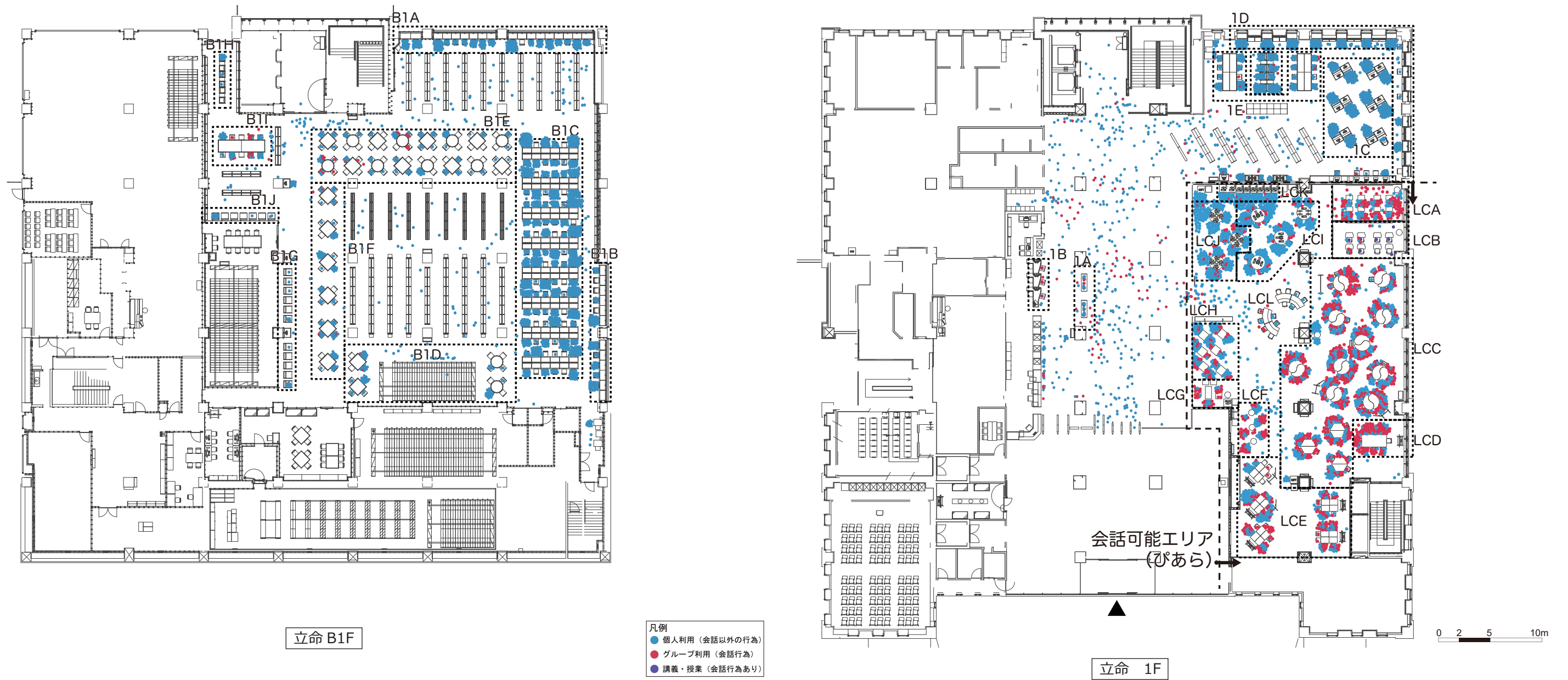


図 4-4-④ 【立命】会話行為の分布場所

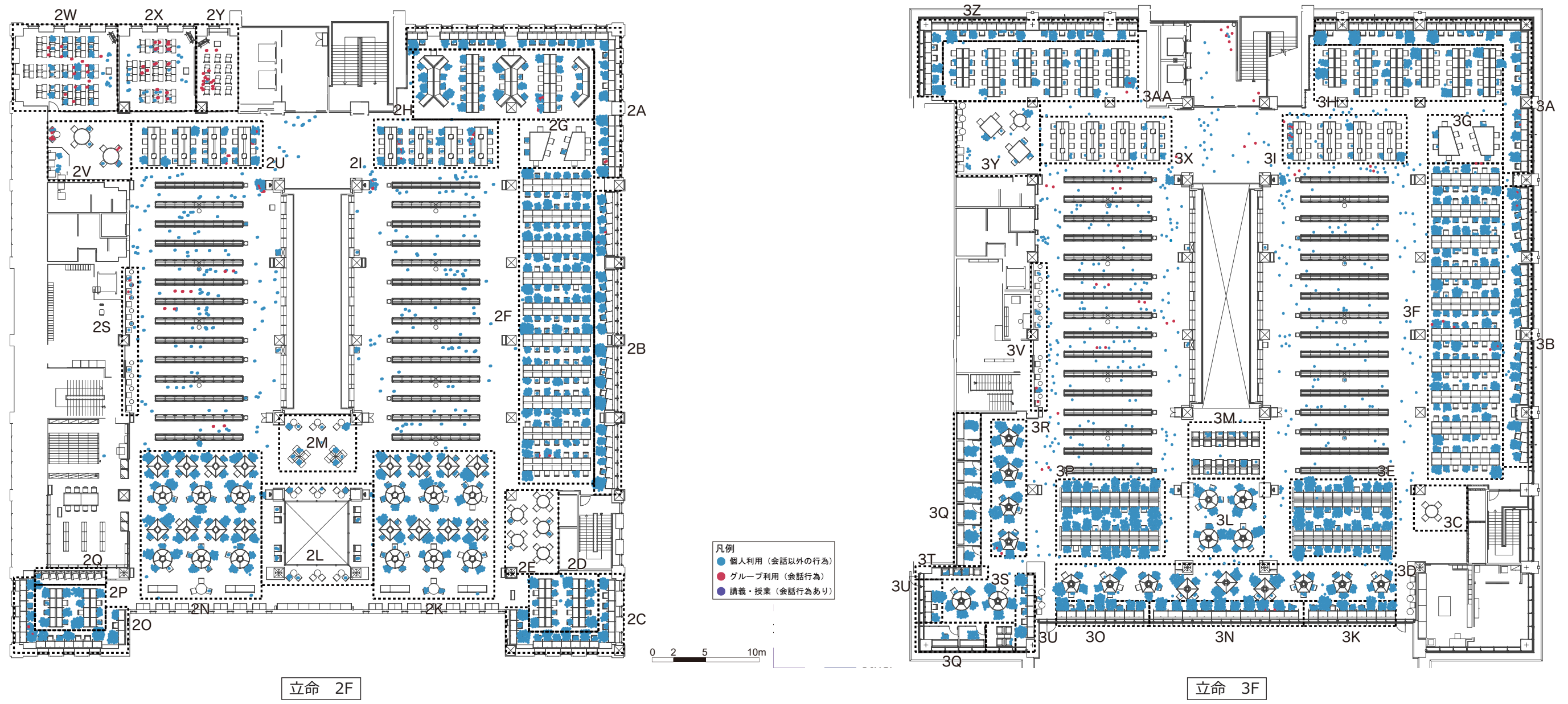


図 4-4-④ 【立命】会話行為の分布場所

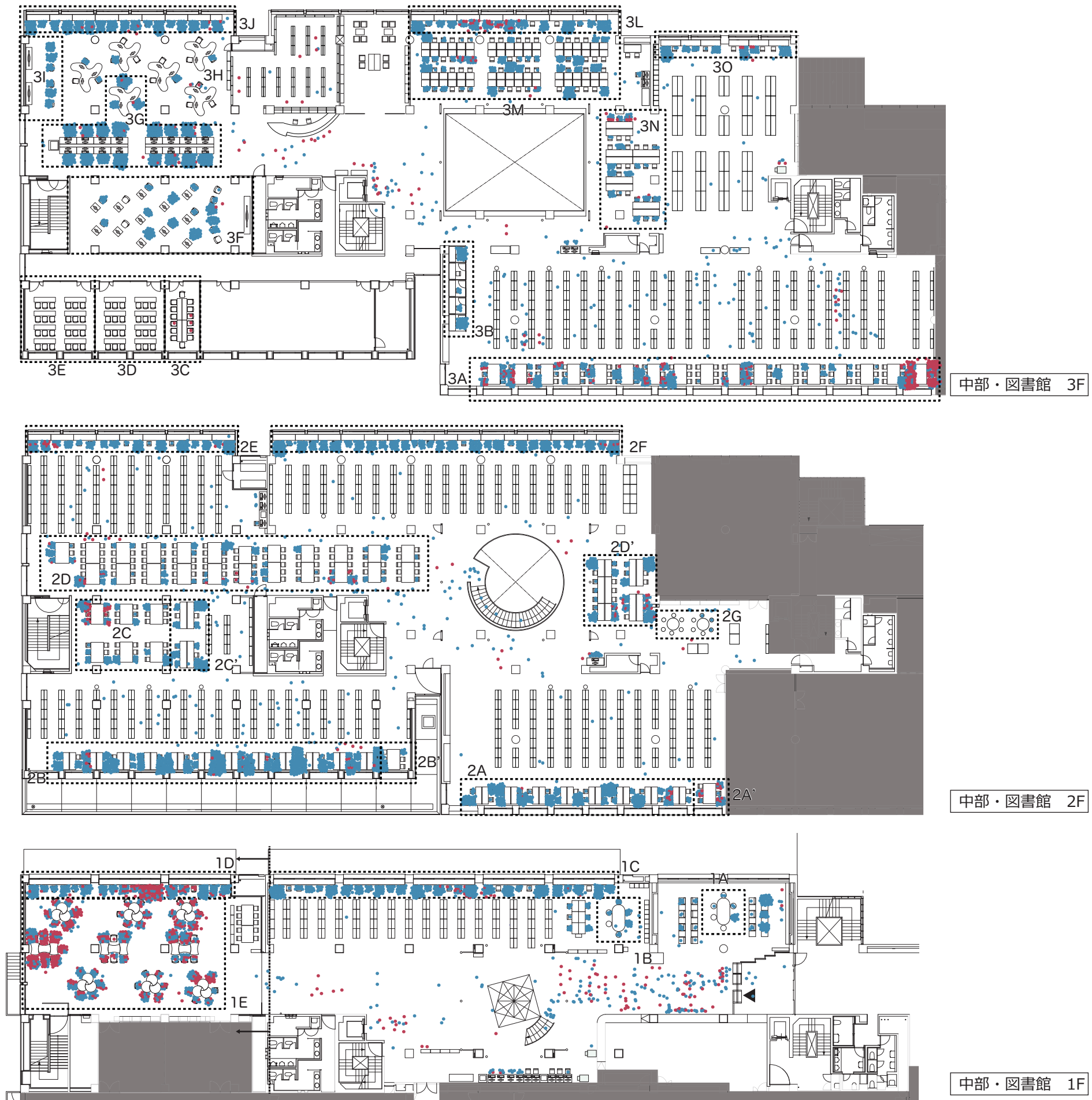


図 4-3-⑤ 【中部・図書館】会話行為の分布場所

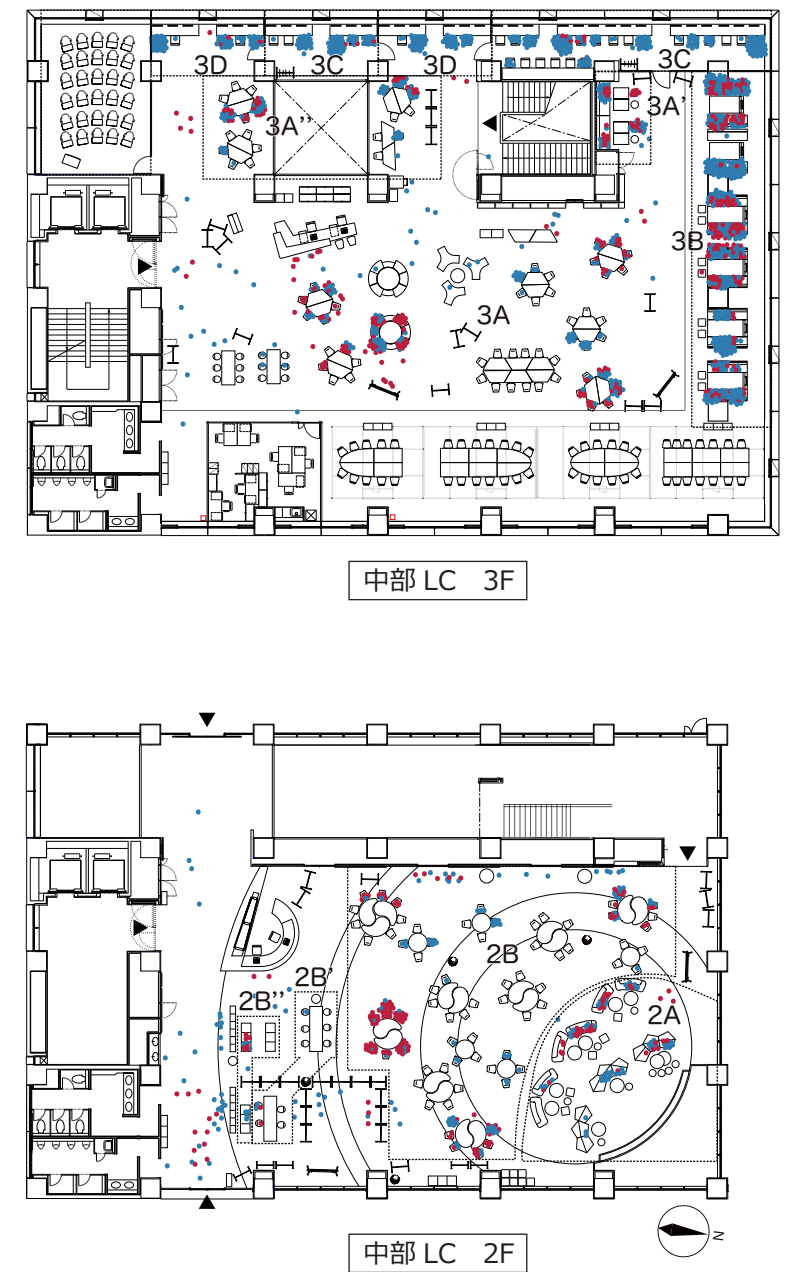


図 4-3-⑥ 【中部・LC】会話行為の分布場所

0 2 5 10m

- 凡例
- 個人利用 (会話以外の行為)
 - グループ利用 (会話行為)
 - 講義・授業 (会話行為あり)

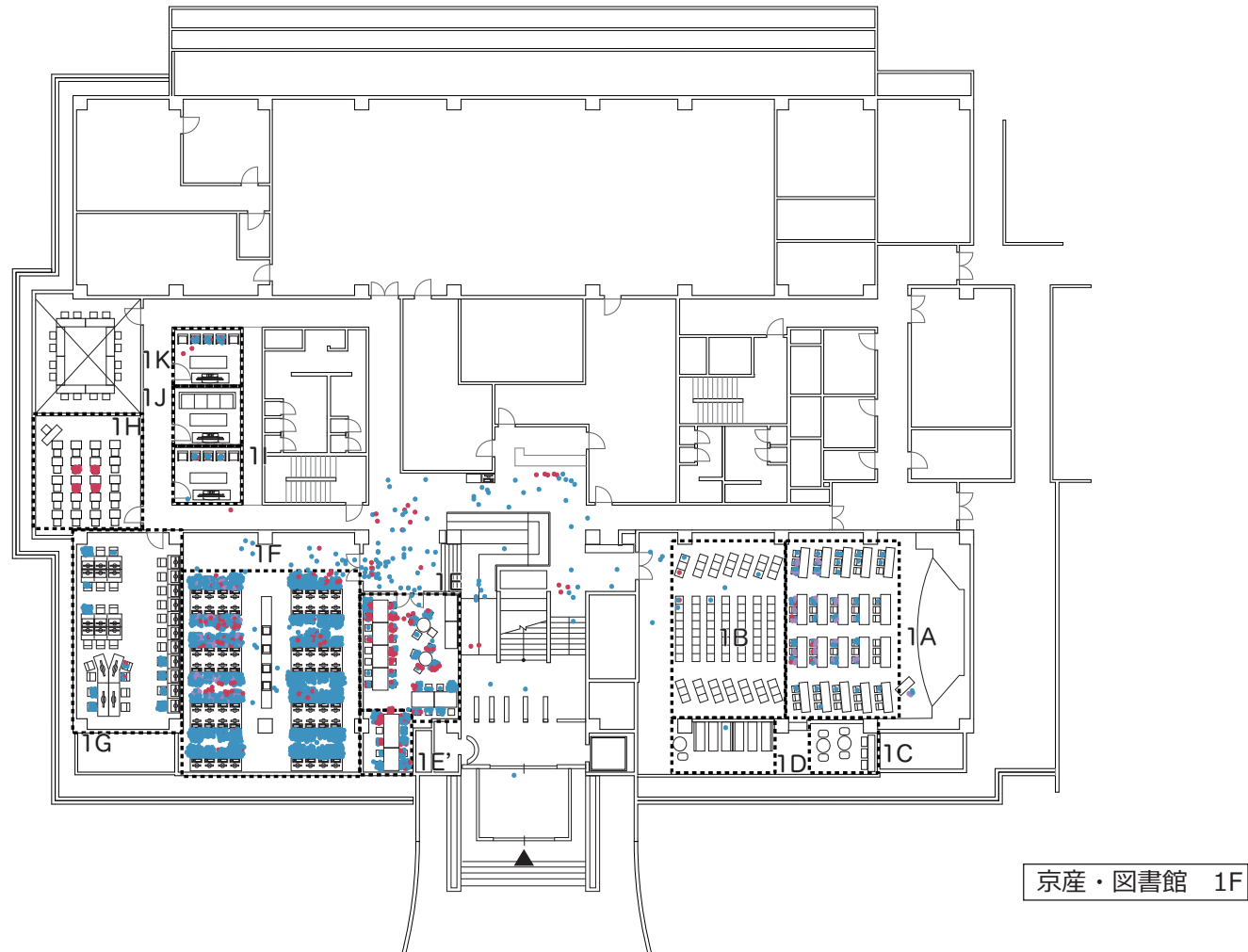
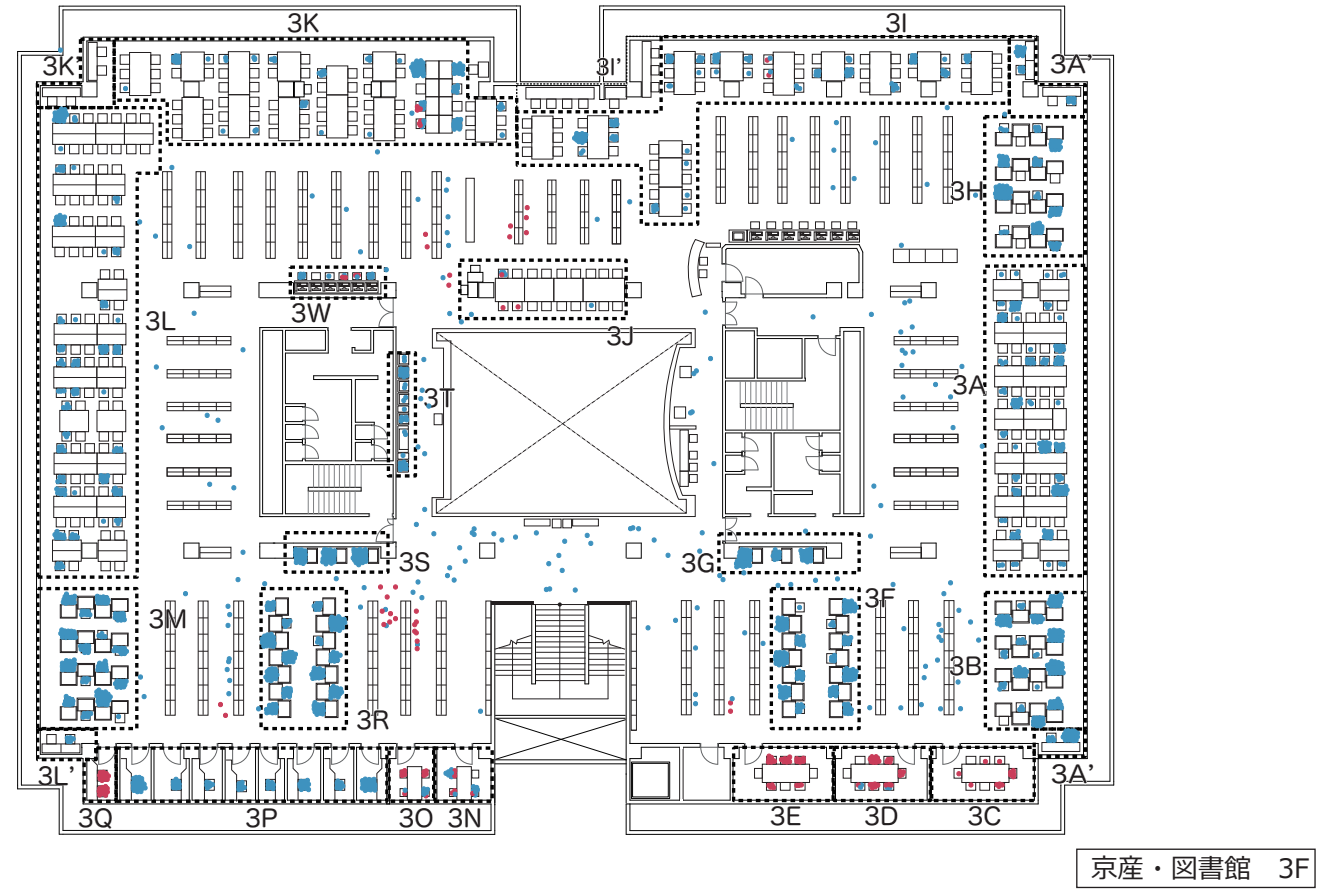
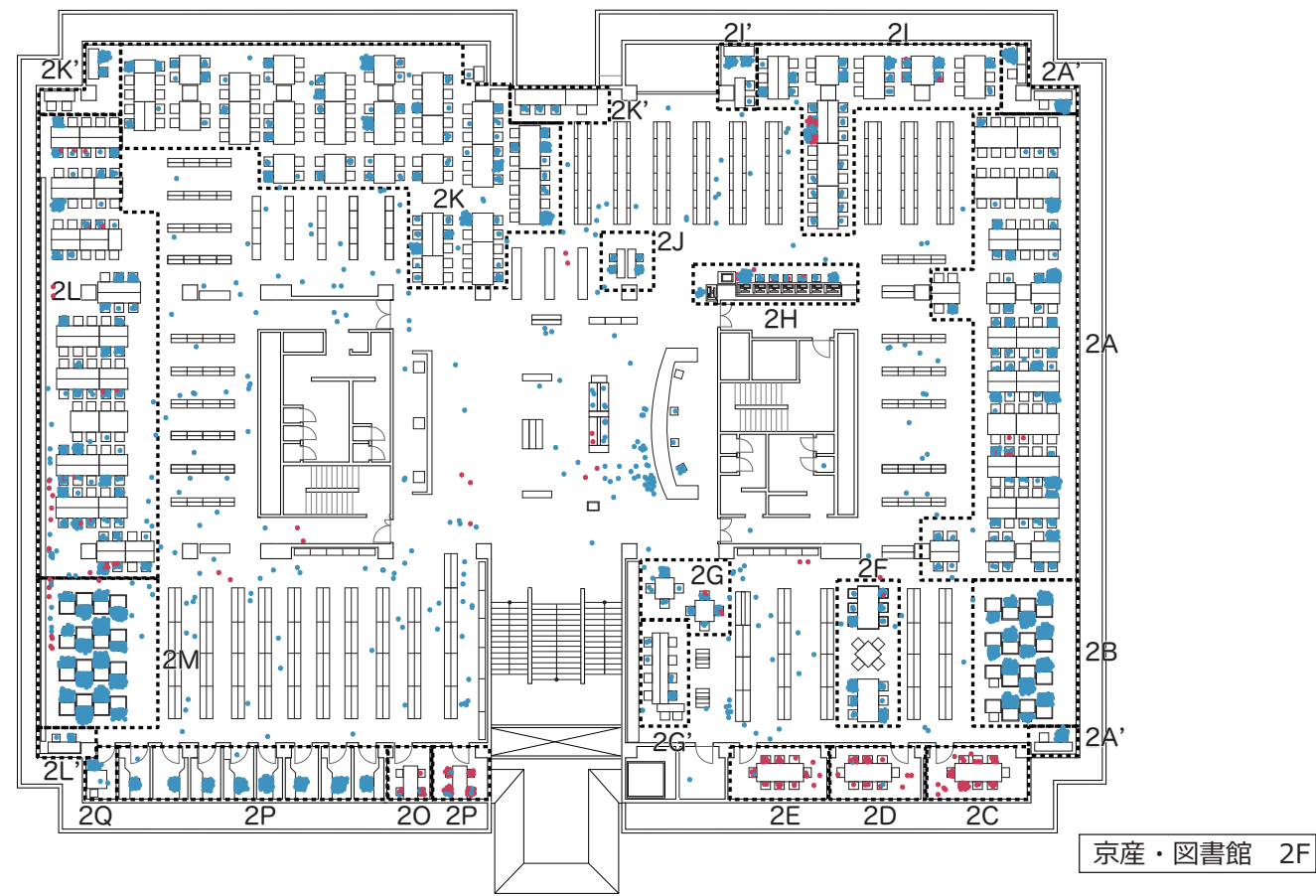


図 4-3-⑦ 【京産・図書館】会話行為の分布場所

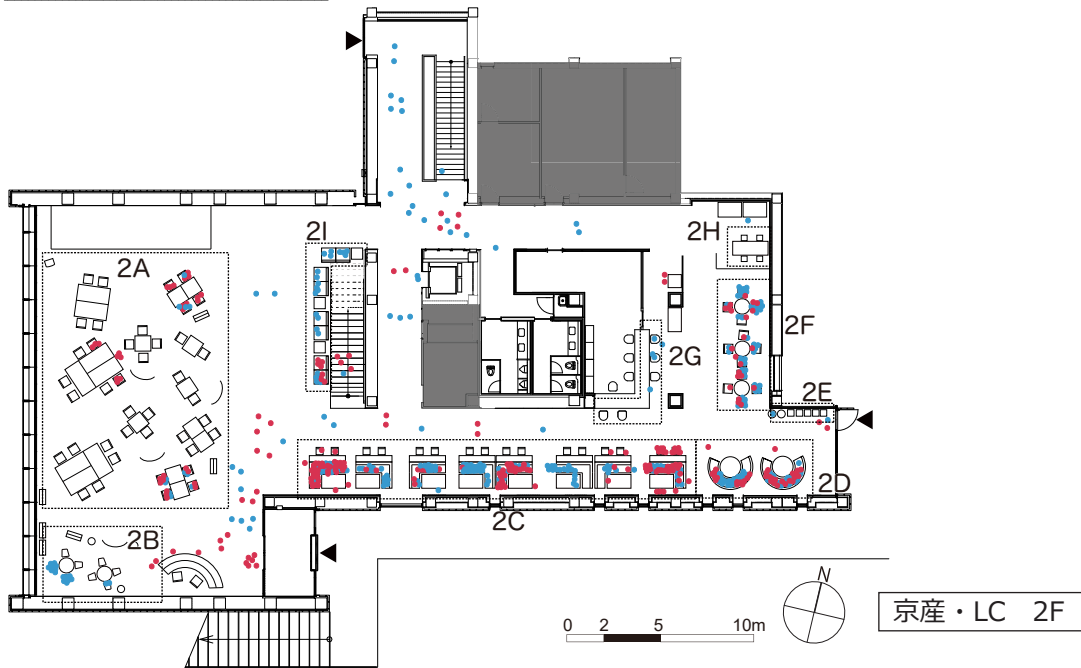
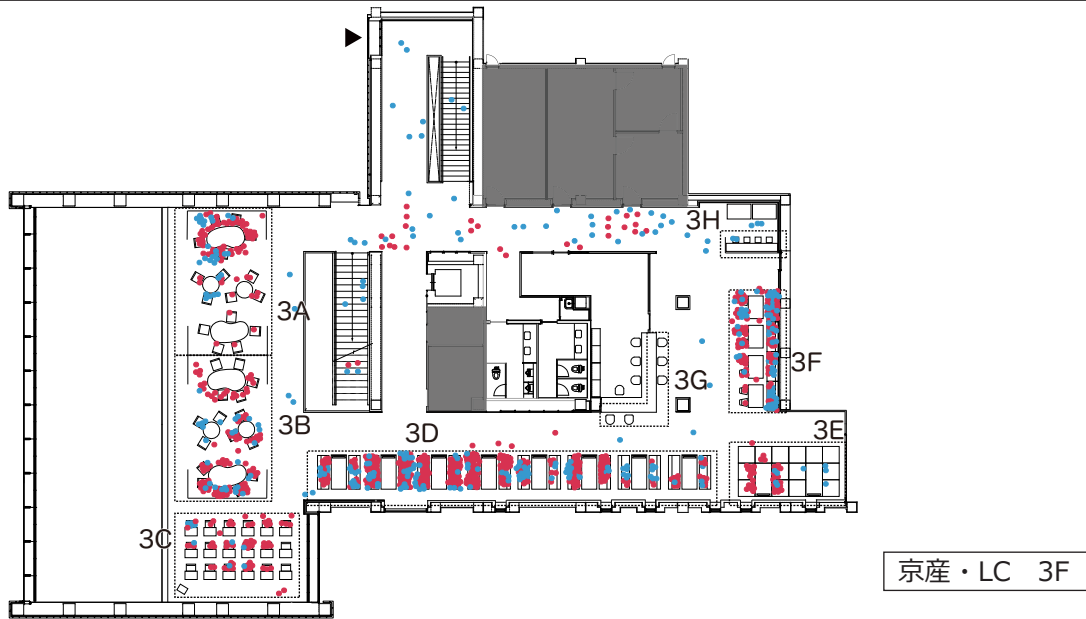


図 4-3-⑧ 【京産・LC】会話行為の分布場所

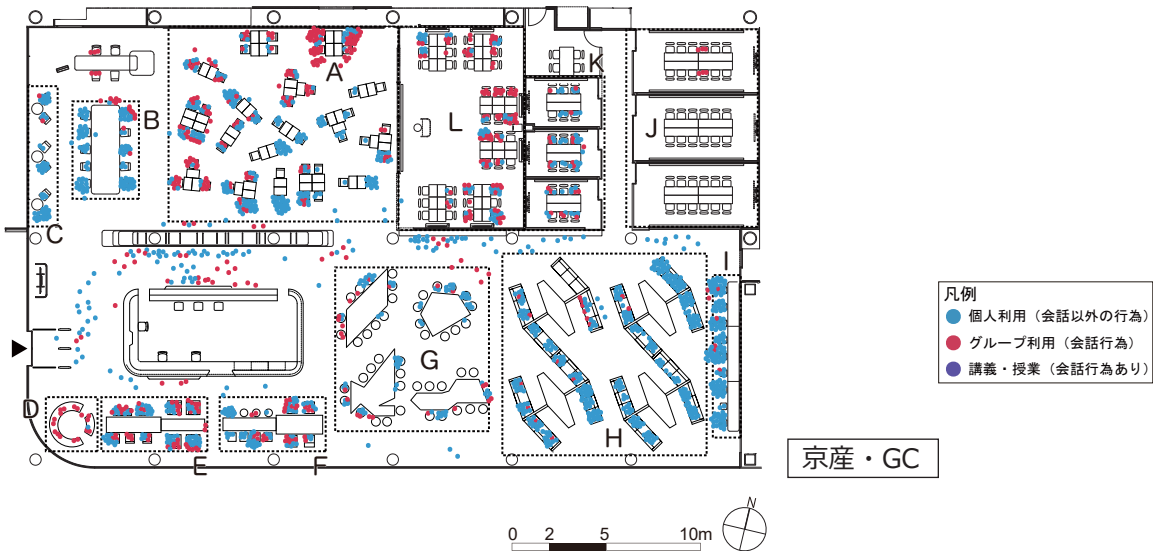


図 4-3-⑨ 【京産・GC】会話行為の分布場所

4.4 まとめ

本章では、学習利用が高い6大学の開架閲覧室とLCを対象に利用者属性や来訪理由、滞在場所から整理した。以下に分かったことを示す。

4.4.1 個人とグループの学習媒体と来訪理由

- 1) 利用人数の割合は、個人が80%以上を占め、次いで2人組が10～20%である。
LCがない大学でも15%程度のグループ利用者が来訪している。
- 2) グループは、1年生の利用が高い。個人は、学年の差がみられない。
- 3) 個人は図書利用が多く、グループはPC利用、持込利用が多い。また多人数は、会話を目的に利用し、持込利用が2人組に比べて多く半数以上みられる。
- 4) 個人、グループ共に、開架閲覧室とLCに対して、「静かで落ち着いている」の理由が最も高い。人数にかかわらず、多くが静かな場所を求めている。2人組、多人数における「会話ができる」は2割以下と「静かで落ち着いている」に比べて少ない。そのためグループ利用が賑やかで会話ができる場所を多くが要求しているわけではない。

4.4.2 個人とグループの滞在場所

- 1) 多くの個人利用は、開架閲覧室内に滞在し、キャレル席やグループ席等様々な場所にいる。一方、会話ができるLCにも滞在し、ソファ席やカウンター席、2人掛けができる座席でみられる。周囲に会話がある環境に滞在していることは、静かな場所だけが個人利用の学習場所ではないことを示している。
- 2) グループ利用の会話は、LC内やグループ学習室内がほとんどであるが、開架閲覧室の一部にも所在している。主な場所は、開架閲覧室内の壁や書架で閉ざされた場所、周囲に利用者がいない場所にも所在している。

以上のことから、静穏が前提の開架閲覧室で会話をするグループ利用や、会話のできるLCで個人利用があるなど、開架閲覧室とLC内の会話の状況が座席選択に影響していると考えられる。

また、3章では机に仕切りがある閉鎖的な場所からない開放的な場所まで座席の開き具合で異なる選択行動が得られている。

5章では、座席の開き具合を示す開放度と場所周辺部での会話率の違いによるから座席選択を分析する。

参考文献

- 文 4-1) 石塚由布子, 與安拓馬, 柳澤要: 千葉大学附属図書館の新学習空間におけるケーススタディ - 大学における先進的な学習空間に関する研究 (その2)、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 475-476、2013.7
- 文 4-2) 堀江壮、田上健一: 大学のラーニング・commonsが有する空間的課題、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp. 277-278、2015.7
- 文 4-3) 浅間亮太, 込山敦司: 空間転用により整備されたラーニングcommonsの利用実態—秋田県立大学本庄キャンパスを対象として、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.567-568、2017.7
- 文 4-4) 川角典弘、高木祐多: 大学図書館における学生の居場所と行動に関する基礎的研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、建築計画、pp.421-422、2014.7

第5章 学習活動別の選択理由及び 場所の開放度と会話率からみた座席選択

第5章 学習活動別の選択理由及び場所の開放度と会話率からみた座席選択

5.1 研究の目的と方法

3章において学習利用者は、開架閲覧室内の閉鎖的な座席や開放的な座席まで様々な場所に滞在し、学習媒体の違いで来訪理由が一部異なることがわかった。4章の個人とグループの滞在場所からは、静穏が前提の開架で会話をするグループ利用がみられたり、会話のできるLCで個人利用があるなど、開架閲覧室とLC内の会話の状況が座席選択に影響していること整理した。そして多くの利用者が、静かで落ち着いた場所を求めて来訪している。

さて、利用者が感じる落ち着きやすさは、各々で感じ方が違う。座席の選択は、建築空間の要因である座席の開き具合を示した開放度、人の要因である場所周辺部での会話率といった周辺状況が影響して座席が選択されていると考えた。また、学習者の利用人数と利用する学習媒体によって、開放度と会話率による座席選択行動が異なると考えた。

そこで、利用人数と学習媒体の組合せで学習活動を8つに区分し、それぞれの選択している座席を読み取り、各学習活動に応じた場所の指針を得ることを目的とし、以下の手順で明らかにしていく。

本章では、引き続き学習利用が高い6大学を対象にする。

まず、開架閲覧室とLC内にある机椅子の仕切りや配置状況から、座席の開き具合を3つに分類（開放度（閉・中・開））する。そして、周辺の会話の状況が座席選択に影響を与えていると考え、場所周辺部での会話がされているかをみた会話率を3つに分類する（低・中・高）(5.2)。

次に8つの学習活動ごとに選択理由と、開放度と会話率から座席場所の全体像を把握する(5.3)。

次に割合の高い選択理由である「集中・作業のしやすい」、「会話のしやすい」、「他人からの視線が気にならない」、「リラックスできる」、「図書利用のしやすい」、「PC利用のしやすい」の6つを抽出し、学習活動毎にその理由別から開放度と会話率による座席の選択を明らかにしていく(5.4)。

5.2 座席の開放度の分類及び学習率と会話率

5.2.1 座席の配置と仕切りの関係からみた開放度の分類

開架閲覧室、LCには、いくつかのバリエーションを持った座席が整備されている。開架閲覧室とLC内にある机のある座席全てに対して、座席の配置（壁際や書架に囲まれているか、個室かどうか）と、机の仕切り（左右や前面に仕切り板があるかないか）の2つの要素から場所を3つに分類（図5-1、図5-2）した。なお個室（個人学習室とグループ学習室）は、周辺からの人や会話の影響がほとんどないと設定し、3つの開放度の分類に加えていない。

各大学で個人学習室とグループ学習室を除いた分類の内訳を表5-1に示す。まず分類した場所ごとの比率をみると平均では、[開]が最も多く半数以上を占め、次いで[中]、[閉]と続く。

[閉]は、「壁+2」（机が壁付けされ、机の両サイドに仕切り板がある席）が多く占めている。[中]は、「なし+2」（机が壁や書架に隣接せず、机の両サイドが仕切られた席）や「壁+0」（机が壁付けされ、机に仕切り板がない席）の席が多い。[開]は、「なし+0」（机が壁や書架に接しておらず、机に仕切り板がない席）が7割以上を占めている。

配置	なし	壁		囲み	個室	
	周囲に壁がない、隣接していない	前面に壁がある	側面に壁がある（人が通れないほどの距離）	背面に壁がある 背面が高い席も含める	壁と書架で囲まれる	ドア前・後ろの席で仕切られている（個人とグループ両方）
仕切り	0	1	2			
	机に仕切りがない	前面あるいは、左右に仕切りがある（壁ではない）	左右に仕切りがある			

図5-1 座席の配置と仕切りの分類

開放度：開	開放度：中		開放度：閉
 なし+0	 壁+0	 壁+1	 壁+2
 なし+1	 壁+0	 壁+1	 囲み+2
机の仕切りが1面、壁、書架への隣接はなし 周囲に壁や書架がない座席、または周囲に壁や書架がなく、一面のみ仕切りがある座席	 壁+0	 壁+0	 壁、机の仕切りが3面以上
	 壁、机の仕切りが1~2面	両サイドに仕切りがある座席、壁に接している座席、囲まれているが、仕切りがない座席を対象としている。	いずれも+2（キャレル席）であり、壁や書架に接するか、囲まれている座席を対象としている。

図5-2 開放度の分類と定義

中部は[閉]に該当する場所はなく、京産もほとんどない。愛淑、中部は[中]、[開]の比率は変わらず、4割以上である。

椙山と立命で最も多かった場所は、[中]で50%以上である。中でも「なし+2」が最も多い。愛学と京産は[開]が70%と圧倒的に多い場所であった。

表 5-1 開放度ごとの座席の割合

大学	開放度	なし+0		なし+1		なし+2		壁+0		壁+1		囲み+0		囲み+1		壁+2		囲み+2		座席合計
		席数	割合	席数	割合	席数	割合	席数	割合	席数	割合	席数	割合	席数	割合	席数	割合	席数	割合	
愛淑	閉					0	0%	30	16%	0	0%	160	84%	0	0%	36	82%	8	18%	44
	中																			190
	開	110	52%	102	48%															212
	計	110	25%	102	23%	0	0%	30	7%	0	0%	160	36%	0	0%	36	8%	8	2%	446
椙山	閉					102	45%	72	32%	0	0%	52	23%	0	0%	11	41%	16	59%	27
	中																			226
	開	141	100%	0	0%															141
	計	141	36%	0	0%	102	26%	72	18%	0	0%	52	13%	0	0%	11	3%	16	4%	394
愛学	閉					19	21%	71	79%	0	0%	0	0%	0	0%	27	60%	18	40%	45
	中																			90
	開	906	91%	88	9%															994
	計	906	80%	88	8%	19	2%	71	6%	0	0%	0	0%	0	0%	27	2%	18	2%	1129
立命	閉					648	81%	123	15%	0	0%	28	4%	0	0%	128	91%	13	9%	141
	中																			799
	開	442	67%	218	33%															660
	計	442	28%	218	14%	648	41%	123	8%	0	0%	28	2%	0	0%	128	8%	13	1%	1600
中部	閉					72	14%	308	61%	80	16%	49	10%	0	0%	0	0%	0	0%	0
	中																			509
	開	485	88%	68	12%															553
	計	485	46%	68	6%	72	7%	308	29%	80	8%	49	5%	0	0%	0	0%	0	0%	1062
京産	閉					108	28%	246	65%	9	2%	16	4%	0	0%	6	100%	0	0%	6
	中																			379
	開	632	61%	404	39%															1036
	計	632	44%	404	28%	108	8%	246	17%	9	1%	16	1%	0	0%	6	0%	0	0%	1421
平均	閉					949	43%	850	39%	89	4%	305	14%	0	0%	208	79%	55	21%	263
	中																			2193
	開	2716	76%	880	24%															3596
	計	2716	45%	880	15%	949	16%	850	14%	89	1%	305	5%	0	0%	208	3%	55	1%	6052

5.2.2 座席の開放度からみた利用率と学習率

場所の開放度から利用率と学習率をみたものを表 5-2 に示す。

(1) 利用率

全ての大学で最も高い利用率は「閉」であった。京産は、座席数が6席と少ないが、50%以上の利用率が得られており、1日の半分は埋まっている。一方、「閉」のない中部は、「中」が最も高く21%であった。これは、他の大学に比べても高いため、「閉」の場所がないことで「中」の場所が選択されていると考えられる。相山は「閉」と「中」で差はみられなかった。

(2) 学習率

全体の平均をみると「開」は、全体平均で7割であった。特に立命、中部は79,78%と高い学習率を得た。「閉」の学習率は、68%であった。中でも相山は86%と他大学に比べて最も高い。相山は唯一、会話が可能なエリアにも「閉」の場所があり、その場所の学習率が高かった。

利用率が最も高い場所、すなわち人気のある座席は、学習率の高さは比例せず、利用率の低い「開」も学習利用がされている。

5.2.3 開放度からみた会話率

(1) 開放度毎の会話率

学習利用者を対象に分析を進めるために、開放度別に学習利用者の会話率(学習会話率)を算出し、どのような開放度で会話がされているかを表 5-3 に

表 5-2-① 【平均】配置と仕切りからみた利用率・学習率

	全体 巡回回数 [c] 45(回,平均)							
	座席数 [a]	利用者数 [b]	座席比率 [a/t]	選択比率 [b/t]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]	
閉	459	4483	6%	11%	22%	3045	68%	
中	2862	22649	40%	57%	18%	14765	65%	
開	3853	12902	54%	32%	7%	9191	71%	
合計 [t]	7174	40034	100%	100%	12%	27001	67%	

表 5-2-② 【各大学】配置と仕切りからみた利用率・学習率

	愛淑 巡回回数 [c] 43(回)								相山 巡回回数 [c] 39(回)							
	座席数 [a]	利用者数 [b]	座席比率 [a/t]	選択比率 [b/t]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]	座席数 [a]	利用者数 [b]	座席比率 [a/t]	選択比率 [b/t]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]		
閉	44	288	10%	21%	15%	199	69%	30	136	8%	9%	12%	117	86%		
中	190	580	43%	42%	7%	391	67%	223	922	57%	62%	11%	694	75%		
開	212	520	48%	37%	6%	309	59%	141	431	36%	29%	8%	195	45%		
合計 [t]	446	1388	100%	100%	7%	899	65%	394	1489	100%	100%	10%	1006	68%		

	愛学 巡回回数 [c] 43(回)								立命 巡回回数 [c] 53(回)							
	座席数 [a]	利用者数 [b]	座席比率 [a/t]	選択比率 [b/t]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]	座席数 [a]	利用者数 [b]	座席比率 [a/t]	選択比率 [b/t]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]		
閉	45	396	4%	19%	20%	261	66%	141	2212	9%	15%	30%	1667	75%		
中	90	299	8%	14%	8%	163	55%	799	8710	50%	59%	21%	6090	70%		
開	994	1427	88%	67%	3%	1012	71%	660	3959	41%	27%	11%	3145	79%		
合計 [t]	1129	2122	100%	100%	4%	1436	68%	1600	14881	100%	100%	18%	10902	73%		

	中部 巡回回数 [c] 47(回)								京産 巡回回数 [c] 44.3(回,平均)							
	座席数 [a]	利用者数 [b]	座席比率 [a/t]	選択比率 [b/t]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]	座席数 [a]	利用者数 [b]	座席比率 [a/t]	選択比率 [b/t]	利用率 [b/(a*c)]	学習利用者数 [d]	学習率 [d/b]		
閉	0	-	-	-	-	-	-	6	133	0%	2%	50%	88	66%		
中	509	4925	48%	71%	21%	3430	70%	379	3023	27%	47%	18%	1872	62%		
開	553	1996	52%	29%	8%	1554	78%	1036	3299	73%	51%	7%	1996	61%		
合計 [t]	1062	6921	100%	100%	14%	4984	72%	1421	6455	100%	100%	10%	3956	61%		

示す。平均からみると「開」の会話率は最も高い25%で、次いで「中」、「閉」と続く。「開」は、会話可能エリアの割合が高いことから、会話がしやすくなっていると思われる。

大学別でもほとんどの大学で「開」の座席の会話率は高い。一方の「閉」は、ほとんど会話行為はみられなかった。特に、「閉」の場所が多い立命では、会話はほとんどなく、隣同士の机を仕切ることで会話行為が制御されている。そのため、机に仕切りがあるかないかは、会話ができるかできないかに大きく関係する。一方で、京産のみは「中」の会話率が他の開放度の中で最も高い30%であった。

(2) 開放度の開と中における会話率の高い場所

以上より、開と中の開放度は、会話率が高い傾向が得られた。では、どういった場所で会話率が高くなっているかを表5-4で詳細にみる。表は、開放度別に会話率が高い場所から順番に並べ^{注6-1)}、会話率が高い場所の詳細を先の4章の会話行為の分布場所(図4-3-①~⑨)を参照しながらみていく。

注6-1) 会話している利用者がいない場所(会話率:0%)は、省略した。

愛淑

「開」は、1Cで67%みられ、館内で最も会話が多いエリアである。OPACなどを利用しながら友人との利用を捉えた。次いで1A'が31%であった。1A'は周囲の利用者を気にせず利用できる場所であり、出入口に最も近い机である。周囲には、コピー機や課題図書が配架されている。

表5-3-① 【平均】開放度ごとにみた会話率

平均	会話可能 エリア割合	学習者数	学習会話数	会話率
閉	3%	2355	20	1%
中	21%	12617	1297	10%
開	28%	8211	2086	25%
合計	24%	23183	3403	15%

表5-3-② 【各大学】開放度ごとにみた会話率

	愛淑				眉山				愛学			
	会話可能 エリア割合	学習者数	学習会話数	会話率	会話可能 エリア割合	学習者数	学習会話数	会話率	会話可能 エリア割合	学習者数	学習会話数	会話率
閉	0%	199	2	1%	26%	140	8	6%	0%	261	0	0%
中	0%	391	24	6%	46%	671	81	12%	29%	163	17	10%
開	0%	309	31	10%	94%	195	50	26%	13%	1012	154	15%
合計	0%	899	57	6%	62%	1006	139	14%	13%	1436	171	12%

	立命				中部				京産			
	会話可能 エリア割合	学習者数	学習会話数	会話率	会話可能 エリア割合	学習者数	学習会話数	会話率	会話可能 エリア割合	学習者数	学習会話数	会話率
閉	0%	1667	10	1%	0%	0	0	0%	0%	88	0	0%
中	3%	6090	149	2%	18%	3430	472	14%	57%	1872	554	30%
開	18%	3145	828	26%	56%	1554	544	35%	31%	1996	479	24%
合計	9%	10902	987	9%	38%	4984	1016	20%	38%	3956	1033	26%

梶山

[開] で特に会話率が高かったのは、3階の3Dである。全ての行為が会話であり、100%であった。また3Eも67%と高い。これらは共に利用者がある程度限定される場所で、扉の中に入るといった個室的な側面を持っている。

[中]の中で、最も高い会話率の場所は、2Eで59%であった。2Eは、カウンター席で対面して会話できないが、壁と書架で囲まれた場所であるため、人目を気にせず会話ができたと思われる。また、2Aや1Bといった本棚に囲まれた場所は、30%程度の会話率が得られた。

愛学

[開] は、会話禁止の3Gで50%の会話率を得た。3Gは同じタイプの座席が一様に並び、見通しがよい。周囲に利用者は、ほとんどいない様子がわかる。会話可能な場所では、LC内のLCJで42%の会話率が得られた。壁側に多くのプロットが集中している。次いで高かったのは、可動式の机と椅子があるLCNで36%であった。ディスカッションができるように計画がされているが半数以下は、会話のない学習を捉えた。

[中]で会話率が最も高い場所であったのが、LCMの22%であった。LCMは、2人掛けでソファと背のある椅子で構成され、周囲の様子が見渡せる。

立命

[開] で会話率が高い場所は、LCDの73%であった。LC内で最も多い人数に対応した8人掛けで、大型ディスプレイと持込のPCと接続が可能である。

表 5-4-① 【開放度：開】 会話がある場所

大学	場所	配置と仕切り	学習者	学習会話	会話率
梶山	3D	なし+0	19	19	100%
立命	3C	なし+0	1	1	100%
京産	[R]1B	なし+0	8	8	100%
中部	[L]2B'	なし+0	7	6	86%
京産	[L]2A	なし+0	28	23	82%
京産	[L]3B	なし+0	111	90	81%
京産	[R]3J	なし+0	5	4	80%
立命	LCD	なし+0	131	95	73%
愛淑	1C	なし+0	21	14	67%
梶山	3E	なし+0	18	12	67%
立命	2V	なし+0	16	9	56%
京産	[L]3C	なし+0	16	9	56%
中部	[R]1E	なし+0	587	323	55%
立命	LCC	なし+0	990	530	54%
中部	[L]2B	なし+0	135	71	53%
愛学	3G	なし+0	12	6	50%
京産	[G]E	なし+0	73	36	49%
立命	LCE	なし+0	301	148	49%
京産	[R]1E	なし+0	85	41	48%
京産	[G]A	なし+0	289	135	47%
愛学	LCI	なし+0	38	16	42%
梶山	1E	なし+0	29	12	41%
中部	[L]2A	なし+0	70	28	40%
愛学	LCN	なし+0	271	97	36%
京産	[L]2F	なし+0	45	15	33%
京産	[G]G	なし+0	61	20	33%
愛淑	1A'	なし+0	42	13	31%
梶山	2B	なし+0	21	6	29%
中部	[L]3A	なし+0	189	54	29%
京産	[L]3A	なし+0	86	22	26%
京産	[G]F	なし+0	69	17	25%
中部	[L]2B'	なし+0	9	2	22%
京産	[G]B	なし+0	77	16	21%
中部	[R]2C	なし+0	97	17	18%
愛学	2N'	なし+1	35	6	17%
愛学	LCO	なし+0	82	14	17%
京産	[R]2I	なし+1	126	17	13%
愛学	2M	なし+0	32	4	13%
愛淑	2N	なし+0	33	4	12%
中部	[R]3N	なし+1	86	10	12%
京産	[R]2G	なし+0	35	4	11%
立命	B1E	なし+0	141	16	11%
京産	[R]2J	なし+0	18	2	11%
中部	[R]2D	なし+0	153	16	10%
中部	[R]2D'	なし+1	172	17	10%
立命	3I	なし+0	61	6	10%
立命	2I	なし+0	136	12	9%
京産	[R]2L	なし+1	140	12	9%
愛学	1G-a	なし+0	26	2	8%
京産	[R]3K	なし+0	59	4	7%
愛学	3A	なし+0	129	5	4%
立命	B1D	なし+0	57	2	4%
立命	B1F	なし+0	90	3	3%
愛淑	2C	なし+1	142	4	3%
京産	[R]2A	なし+1	182	4	2%
立命	2H	なし+1	235	4	2%
梶山	1D	なし+0	106	1	1%
立命	2U	なし+0	121	1	1%
立命	3AA	なし+1	125	1	1%

表 5-4-② 【開放度：中】 会話がある場所

大学	場所	配置と仕切り	学習者	学習会話	会話率
京産	[G]O	壁+0	27	24	89%
立命	LCG	壁+0	42	35	83%
京産	[L]3E	壁+0	40	33	83%
京産	[G]P	壁+0	19	15	79%
京産	[G]N	壁+0	22	17	77%
京産	[L]3D	壁+0	341	241	71%
京産	[G]M	壁+0	33	20	61%
梶山	2E	壁+0	22	13	59%
京産	[L]2D	壁+0	43	25	58%
京産	[L]3F	壁+0	97	55	57%
立命	LCF	壁+0	87	49	56%
京産	[L]2C	壁+0	183	95	52%
中部	[L]3A'	壁+0	32	14	44%
梶山	3C	壁+0	17	7	41%
京産	[R]1E'	壁+0	37	15	41%
中部	[L]3A''	壁+0	63	25	40%
梶山	2A	囲み+0	32	12	38%
梶山	1B	囲み+0	61	22	36%
立命	B1I	囲み+0	43	15	35%
中部	[R]3A	壁+0	441	145	33%
中部	[L]3B	壁+0	385	124	32%
中部	[R]1D	壁+0	202	64	32%
京産	[G]Q	壁+0	20	6	30%
中部	[R]2A'	壁+0	34	9	26%
立命	2S	壁+0	4	1	25%
立命	LCH	壁+0	164	37	23%
愛学	LCM	壁+0	77	17	22%
立命	3V	壁+0	10	2	20%
愛淑	1B	囲み+0	105	20	19%
梶山	2C	壁+0	48	9	19%
梶山	2D	壁+0	53	7	13%
中部	[R]2E	囲み+0	125	12	10%
中部	[R]3L	壁+0	188	17	9%
京産	[G]I	壁+0	67	5	7%
梶山	1G	なし+2	122	9	7%
中部	[R]1C	壁+0	280	18	6%
中部	[L]3C	壁+0	187	10	5%
京産	[G]C	壁+0	41	2	5%
中部	[R]2B	壁+1	394	16	4%
愛淑	1G	囲み+0	51	2	4%
中部	[R]2A	壁+1	212	6	3%
京産	[R]2F	囲み+0	36	1	3%
中部	[R]3J	壁+0	163	4	2%
中部	[R]3M	なし+2	205	5	2%
愛淑	2E	囲み+0	88	2	2%
梶山	B1B	なし+2	123	2	2%
中部	[L]3D	壁+0	75	1	1%
立命	3R	なし+2	175	2	1%
立命	2A	壁+0	272	2	1%
中部	[R]2F	囲み+0	330	2	1%
立命	3F	なし+2	809	4	0%
立命	2F	なし+2	834	2	0%

また、周囲の座席とゆとりがあることも特徴である。LCC、LCEはLCで一般的にみられる可動式の机と椅子がある席で、50%程度の会話率であった。

[中]で会話率が高い場所は、LCG、LCFであった。特にLCFは、2人掛けで深く腰掛けれる座席で、2人で利用している様子している。一方、会話禁止の開架閲覧室のB1Iでも35%の会話率を得た。その他、2Vでもみられた。2Vは、多くの利用者が集まる場所から大きく離れた場所にある。

中部

[開]は、先の表5-3をみても他大学に比べて35%と会話率が高い(表5-3参照)。中でも[R]1Eは55%で、利用者も比較的多く、常に会話をしている。

[中]は、会話率が14%程度と京産に次いで高い(表5-3)。そのため、[中]の開放度が多い開架閲覧室でも多くの会話をしている。中でも[R]3Aは、33%の会話率を捉えた。会話行為の図をみると、3A東側に多くの会話利用が集中している。[R]3Aは、フロアの隅に配置され、行き止りの場所であり、周囲の視線を考慮せずに会話しやすいと感じていると思われる。その他、[L]3A'、[L]3A"は4割以上の会話率を捉えた。3A'は壁側がソファ席になっている。一方、利用者が多かった[L]3Bのソファ席は、32%の会話率であった。

京産

[開]で会話率が高い場所は、[L]3Bで81%であった。ここは、アルミの枠で座席が囲まれ、ホワイトボードが設置されている。一方、隣の[L]3Aは26%の会話率であった。互いの利用者の話し声や使用状況が分かるため、一方は選択されない可能性がある。

[中]は、他の大学に比べ、最も高い会話率である。特に[L]3Eは、量が敷かれ、掘りごたつのようにになっている。また、利用率が高かった[L]3Dも会話率が71%と高く、グループ利用者によって利用されている。一方、2階の同じ場所に位置する[L]2Cは、52%であり、ソファ席でも会話率に違いがみられた。また、付属するハイカウンター席とソファを介した会話は、ほとんどみられなかった。

以上のように、会話可能な場所で、会話率が100%の高い場所から低い場所まである。そこで、会話率を「会話が多かったエリア(66%以上)」、「会話が中程度のエリア(33%~66%未満)」、「会話が少ないエリア(会話率:33%未満)」の3つに分類する(表5-5)。開放度の[開]と[中]における会話率が高い場所[高]と中程度の場所[中]の特徴をまとめる。

開放度「開」の場所

1) 会話率が高い場所は、[なし+0](壁や書架に接さない仕切りのないグループ席)である。特に机の面積が広く、一机当たりの席数が多い場所のホワイトボードや、液晶ディスプレイが附属してある場所は高い会話率である

表5-5 会話率の分類の定義

表記	会話率	定義
低	33%未満	周囲に話し声や会話を伴うグループ利用者がほとんどみられない状況の場所。会話率が低い場所。
中	33%以上-66%未満	会話の行為の率が高い環境に比べてさほど多くない、小声で話す様子状態も部分的に確認できた場所。
高	66%以上(100%未満)	会話率が最も高い場所。当日利用者が多くなくても、会話が多いエリアを指す。

(例えば、立命 LCD、京産 [L]3A など)。

- 2) 会話率が中程度の場所は、同じく、[なし+0] で可動式の机や椅子があるところであった (例えば、中部 [R]1E、立命 LCC、京産 [G]A、愛学 LCN など)。

開放度 [中] の場所

- 1) 会話率が高い場所は、[壁+0] で、対面して配置している背面が高いソファがある場所である (例えば、京産 [L]3D、立命 LCG)。
- 2) 会話率が中程度の場所は、他の利用者から死角になるような場所に配置されているグループ席である (例えば、中部 [L]3A' など)。

5.2.4 開放度と会話率の分類による座席の割合

各大学の座席を開放度と場所の会話率をもとに図 5-4 のように分類して、どの程度の座席があるかをみる。

まず平均より、開放度が [閉] における会話率が [中]、[高] はどの大学もみられなかった。最も多い座席は、[開・低] で 42% であった。次いで、[中・低] が 29% である。

各大学でみると愛淑は、LC がないため、会話率の低い場所がほとんどであった。椛山は、[中・低] が半数と最も多く占め、他の座席との差は大きい。京産と愛学は、半数の座席を [開・低] が占め最も多い。京産は会話率が [中]、[高] に分類された場所が他の大学に比べて多かった。

立命は「中・低」が 45%、[開・低] が 30% であった。中部は、唯一 [閉・低] に分類した場所がなかった。次節以降では、この開放度と会話率の分類を基に場所選択をみていく。

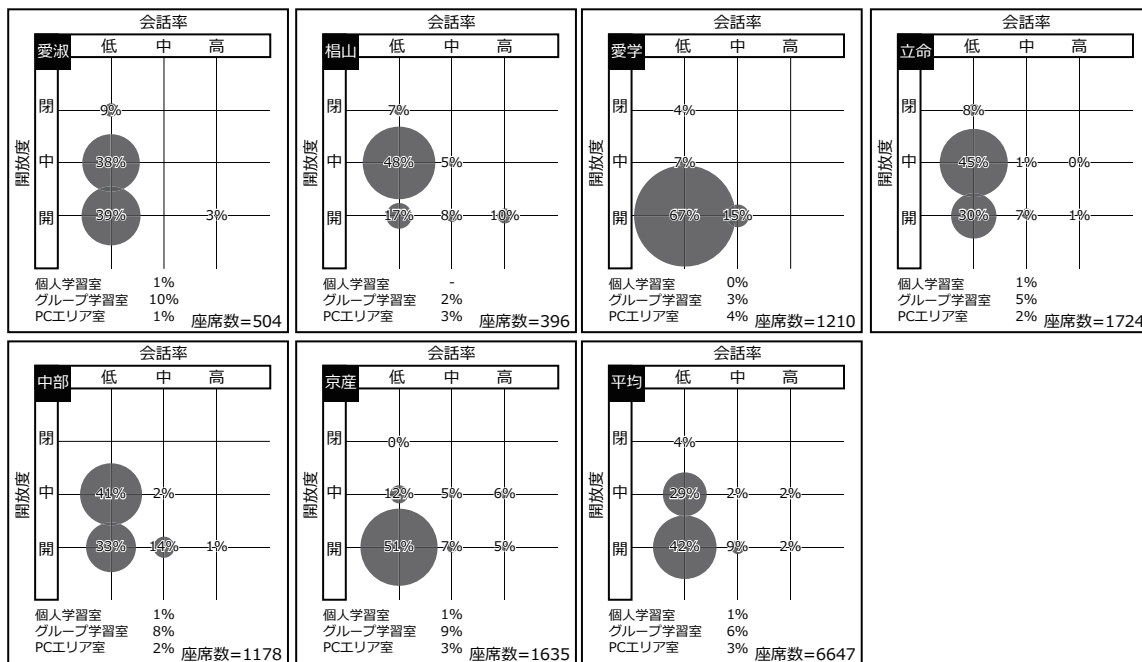


図 5-3 開放度と会話率からみた座席の割合

5.3 学習活動毎の選択理由と開放度と会話率からみた座席選択

アンケートから、選択理由と開放度と会話率からみた場所選択を整理し、4章のまとめで分類した各学習活動の選択理由と場所の全体像を概観する。

5.3.1 選択理由

8つに分類した学習活動別にアンケート調査から得た場所選択理由を表5-6に示す^{注6-2)}。まず平均より、いずれの学習活動も「集中・作業ができるから」が40%を占めて最も高い。多くの利用者が、集中や作業がしやすい場所を選択している。中でも個人とグループの[併用利用]は、46%以上と高く、3章での利用理由の要求の高さからもわかるように集中できる場所が求められている。また「他人の視線が気にならないから」や「リラックスできるから」も共通して約10%以上と高い傾向が得られた。

その他、個人利用は「周りが静かだから」が12～16%以上、グループ利用は「友人と会話ができるから」が9～20%と高い。しかし[グループ図書]は、「友人と会話ができるから」が9%と低く、他のグループの学習活動とは違って、会話ができる場所を求めている。

[個人図書]と[グループ図書]は、「図書・資料が利用しやすいから」が31%、28%と2番目に高い割合を占めている。図書利用は、3章の来訪理由でも図書資料があることで利用しに来ており、場所選択においても図書資料が利用しやすい場所を求めている。

[個人PC]と[グループPC]については、「PC利用がしやすいから」が20%以上みられる。

[個人併用]は、図書とPCを目的にした学習であるが、「図書・資料の利用がしやすいから」が27%と「PC利用がしやすいから」の18%より高くなった。[グループ併用]は「図書・資料が利用しやすいから」、「PC利用がしやすいから」は、個人併用に比べて低くあまり求めているわけではなかった。

大学ごとでみていくと、愛淑の個人とグループの図書利用は、「図書資料が利用しやすい」が43%、45%と他の大学に比べて高い。これは、従来型の図書館であり、図書の閲覧に特化したサービスを提供しているからと思われる。愛学と中部の[個人併用]は、「図書・資料の利用がしやすいから」と「PC利用がしやすいから」の両方が高く、同時に利用できる場所があるからと思われる。愛学の[グループ持込]は、「友人と会話ができるから」が44%と最も高い。

注6-2) 本節以降、選択理由に対応して選択した座席を把握していくために、複数の座席を選択している利用者は分析の対象外とした。そのため全体的に分析する母数が減少している。

本調査では、選択理由の項目において、「外の景色が見えて明るい」、「よく席が空いている」、「周りの人が勉強している」の場所の問題と、「集中・作業しやすい」「リラックスできる」などの心理上の問題を一度に聞いている。そのため、別指標である二つを一つの表に掲載している。分析過程においては、場所の問題は開放度と会話率に関係ないため、詳しくは分析しないものとした。

しかし、一定の利用者が求めていることは、実態として把握する必要があるため、選択理由の表には掲載した。

表 5-6-① 【平均】学習活動からみた選択理由

平均	個人				グループ				計
	図書	PC	併用	持込	図書	PC	併用	持込	
図書・資料の利用がしやすいから	31%	9%	27%	11%	28%	15%	14%	9%	19%
PC利用がしやすいから	8%	21%	18%	8%	9%	20%	17%	9%	11%
友人と会話ができるから	2%	1%	0%	3%	9%	16%	14%	20%	5%
集中・作業しやすいから	33%	39%	46%	46%	31%	47%	48%	35%	40%
他人の視線が気にならないから	17%	18%	19%	22%	12%	10%	14%	14%	18%
周りが静かだから	13%	12%	12%	16%	13%	7%	10%	9%	13%
周りが賑わっているから	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%
周りの人が勉強しているから	2%	3%	5%	4%	4%	1%	7%	2%	3%
外の景色が見えて明るいから	8%	13%	13%	8%	9%	12%	10%	8%	9%
座り心地が良いから	6%	7%	9%	7%	5%	9%	3%	8%	7%
よく席が空いているから	7%	5%	6%	8%	9%	7%	14%	5%	7%
リラックスできるから	9%	11%	11%	12%	8%	16%	10%	14%	11%
周りの雰囲気が良いから	1%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	1%	1%
開放的だから	0%	0%	0%	0%	1%	0%	3%	0%	0%
閉鎖的だから	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%
その他	3%	3%	6%	5%	4%	1%	7%	4%	4%
無記入	1%	2%	1%	1%	5%	4%	0%	4%	2%
n (人)	819	289	222	732	114	92	29	240	2537

表 5-6-② 【愛淑】学習活動からみた選択理由

大学名	愛淑								
	個人				グループ				計
	図書	PC	併用	持込	図書	PC	併用	持込	
図書・資料の利用がしやすいから	43%	18%	50%	12%	45%	0%	0%	12%	27%
PC利用がしやすいから	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
友人と会話ができるから	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	1%
集中・作業しやすいから	30%	64%	50%	47%	45%	100%	100%	44%	41%
他人の視線が気にならないから	20%	9%	0%	14%	9%	0%	0%	28%	17%
周りが静かだから	22%	27%	25%	23%	27%	0%	0%	8%	21%
周りが賑わっているから	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%
周りの人が勉強しているから	6%	18%	0%	3%	0%	0%	0%	8%	5%
外の景色が見えて明るいから	1%	9%	0%	4%	0%	0%	0%	12%	4%
座り心地が良いから	4%	9%	0%	3%	9%	0%	0%	0%	4%
よく席が空いているから	19%	9%	13%	16%	18%	0%	0%	28%	18%
リラックスできるから	15%	27%	0%	8%	9%	0%	0%	12%	12%
その他	4%	0%	0%	3%	0%	0%	0%	4%	3%
無記入	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
n (人)	100	11	8	91	11	1	1	25	248

表 5-6-③ 【椋山】学習活動からみた選択理由

大学名	椋山								
	個人				グループ				計
	図書	PC	併用	持込	図書	PC	併用	持込	
図書・資料の利用がしやすいから	28%	5%	63%	6%	50%	25%	100%	18%	22%
PC利用がしやすいから	15%	19%	38%	6%	8%	19%	0%	12%	14%
友人と会話ができるから	0%	0%	0%	0%	8%	13%	0%	18%	4%
集中・作業しやすいから	33%	52%	50%	47%	25%	69%	0%	35%	42%
他人の視線が気にならないから	7%	19%	0%	14%	8%	13%	0%	6%	10%
周りが静かだから	17%	10%	13%	17%	0%	0%	0%	0%	11%
周りが賑わっているから	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
周りの人が勉強しているから	0%	10%	0%	6%	0%	0%	0%	0%	2%
外の景色が見えて明るいから	2%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%
座り心地が良いから	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	1%
よく席が空いているから	6%	0%	13%	0%	8%	6%	0%	0%	4%
リラックスできるから	6%	5%	13%	11%	8%	19%	0%	6%	8%
その他	2%	0%	0%	3%	0%	0%	0%	0%	1%
無記入	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
n (人)	54	21	8	36	12	16	1	17	165

表 5-6-④ 【愛学】学習活動からみた選択理由

大学名	愛学								
	個人				グループ				計
	図書	PC	併用	持込	図書	PC	併用	持込	
図書・資料の利用がしやすいから	27%	14%	38%	14%	27%	15%	0%	6%	21%
PC利用がしやすいから	3%	23%	8%	4%	5%	15%	25%	6%	6%
友人と会話ができるから	2%	0%	0%	4%	5%	8%	25%	44%	5%
集中・作業しやすいから	19%	23%	23%	22%	14%	23%	25%	38%	21%
他人の視線が気にならないから	23%	9%	15%	21%	14%	15%	0%	13%	19%
周りが静かだから	14%	5%	8%	11%	9%	0%	25%	25%	12%
周りが賑わっているから	2%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	1%
周りの人が勉強しているから	1%	0%	0%	0%	5%	0%	0%	0%	1%
外の景色が見えて明るいから	5%	5%	0%	11%	5%	8%	0%	13%	7%
座り心地が良いから	4%	9%	0%	5%	5%	8%	25%	0%	5%
よく席が空いているから	4%	0%	0%	10%	14%	0%	0%	6%	5%
リラックスできるから	4%	5%	8%	7%	5%	0%	0%	13%	5%
周りの雰囲気が良いから	7%	0%	0%	3%	5%	0%	0%	13%	5%
開放的だから	3%	5%	0%	1%	5%	0%	25%	6%	3%
閉鎖的だから	1%	0%	0%	4%	5%	0%	0%	0%	2%
その他	3%	5%	0%	3%	0%	0%	0%	19%	3%
無記入	0%	9%	8%	4%	14%	8%	0%	6%	4%
n (人)	113	22	13	73	22	13	4	16	276

表 5-6-⑤ 【立命】学習活動からみた選択理由

大学名	立命								
	個人				グループ				計
	図書	PC	併用	持込	図書	PC	併用	持込	
図書・資料の利用がしやすいから	28%	14%	23%	12%	22%	11%	8%	3%	19%
PC利用がしやすいから	12%	18%	15%	14%	22%	21%	15%	9%	14%
友人と会話ができるから	3%	1%	0%	3%	6%	5%	15%	13%	3%
集中・作業しやすいから	41%	50%	54%	49%	53%	58%	54%	41%	47%
他人の視線が気にならないから	17%	22%	22%	30%	22%	16%	8%	9%	22%
周りが静かだから	11%	16%	15%	17%	19%	16%	8%	13%	14%
周りが賑わっているから	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
周りの人が勉強しているから	2%	6%	6%	7%	6%	0%	8%	0%	5%
外の景色が見えて明るいから	12%	12%	17%	10%	16%	16%	8%	16%	12%
座り心地が良いから	10%	12%	15%	10%	9%	21%	0%	6%	11%
よく席が空いているから	3%	6%	6%	5%	6%	11%	15%	3%	5%
リラックスできるから	10%	12%	12%	12%	9%	16%	8%	16%	11%
その他	5%	4%	5%	6%	6%	5%	15%	3%	5%
無記入	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	1%
n (人)	261	90	103	227	32	19	13	32	777

表 5-6-⑥ 【中部】学習活動からみた選択理由

大学名	中部								
	個人				グループ				計
	図書	PC	併用	持込	図書	PC	併用	持込	
図書・資料の利用がしやすいから	30%	6%	29%	6%	14%	20%	25%	11%	16%
PC利用がしやすいから	12%	25%	27%	8%	7%	30%	0%	12%	16%
友人と会話ができるから	1%	1%	2%	4%	21%	30%	25%	19%	8%
集中・作業しやすいから	28%	35%	41%	45%	21%	33%	25%	27%	34%
他人の視線が気にならないから	13%	15%	18%	25%	7%	3%	0%	16%	16%
周りが静かだから	4%	10%	6%	16%	0%	7%	25%	4%	8%
周りが賑わっているから	0%	0%	0%	1%	0%	3%	0%	0%	0%
周りの人が勉強しているから	1%	1%	6%	0%	0%	3%	0%	0%	1%
外の景色が見えて明るいから	5%	15%	14%	9%	7%	17%	25%	5%	10%
座り心地が良いから	0%	3%	4%	8%	7%	3%	0%	5%	4%
よく席が空いているから	5%	6%	10%	8%	0%	3%	25%	1%	6%
リラックスできるから	7%	7%	10%	13%	0%	20%	25%	8%	10%
その他	1%	3%	4%	4%	0%	0%	0%	1%	2%
無記入	4%	1%	2%	5%	14%	10%	0%	7%	5%
n (人)	98	72	49	109	14	30	4	74	450

表 5-6-⑦ 【京産】学習活動からみた選択理由

大学名	京産								
	個人				グループ				計
	図書	PC	併用	持込	図書	PC	併用	持込	
図書・資料の利用がしやすいから	35%	5%	20%	11%	26%	0%	17%	8%	18%
PC利用がしやすいから	6%	26%	17%	6%	0%	0%	33%	8%	9%
友人と会話ができるから	2%	3%	0%	4%	13%	15%	0%	26%	6%
集中・作業しやすいから	36%	27%	37%	52%	17%	54%	67%	38%	40%
他人の視線が気にならないから	15%	21%	20%	18%	4%	8%	50%	12%	16%
周りが静かだから	12%	11%	10%	15%	17%	8%	0%	12%	13%
周りが賑わっているから	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
周りの人が勉強しているから	1%	0%	2%	3%	4%	0%	17%	3%	2%
外の景色が見えて明るいから	12%	15%	12%	6%	13%	15%	17%	7%	10%
座り心地が良いから	8%	5%	5%	7%	0%	15%	0%	14%	8%
よく席が空いているから	10%	5%	0%	8%	9%	15%	17%	4%	8%
リラックスできるから	10%	14%	15%	16%	13%	23%	17%	22%	14%
その他	4%	3%	17%	5%	9%	0%	0%	4%	5%
無記入	0%	1%	2%	1%	4%	0%	0%	3%	1%
n (人)	193	73	41	196	23	13	6	76	621

5.3.1 開放度と会話率からみた座席選択

開放度と会話率から8つに分類した各学習活動の場所選択をみていく（図5-4）。まず平均をみていく。[個人学習室]は学習活動ごとに違いはみられない。[個人併用]は、他の学習活動に比べて、[中・低]（開放度・会話率）が52%と最も多く選択されている。[個人図書]、[個人PC]、[個人併用]は、会話率が高い[中・高]、[開・高]をほとんど選択していない。一方、[個人持込]は、全ての開放度と会話率を選択していることが読み取れ、他の学習活動に比べ多様に場所を選択している。

[グループ図書]は、個人利用全体と同じような場所選択の傾向を示し、[中・低]が最も高い。また先の選択理由からは、会話ができるからが低く、グループでの図書利用は、あまり会話を求めている。[グループPC]は、[開・中]が24%と他の学習活動より高く、中間的に賑やかな場所を選択していた。

[グループ併用]は、母数は少ないが、[開・低]が30%と他に比べ最も高い。そのため、LCの学習目標の一つである図書とPCを併用した学習は、LCではなく静かな場所で行われている割合が高い。[グループ持込]は、他に比べて会話率の高い[中・高]、[開・高]を選択している。会話率の高い場所の利用者は、主に持込利用である。

大学ごとでみると、愛淑は、会話率の高い場所は、ほとんど選択されておらず、9割以上が会話率の低い場所を選択している。これは、先の選択理由で「周りが静かだから」の割合が高かったからだと思われる。中部は、どの学習活動も[中・低]の割合が60%以上と高い。これらは、よく選択されており、最も利用率が高い[開・低]がないことが影響している。

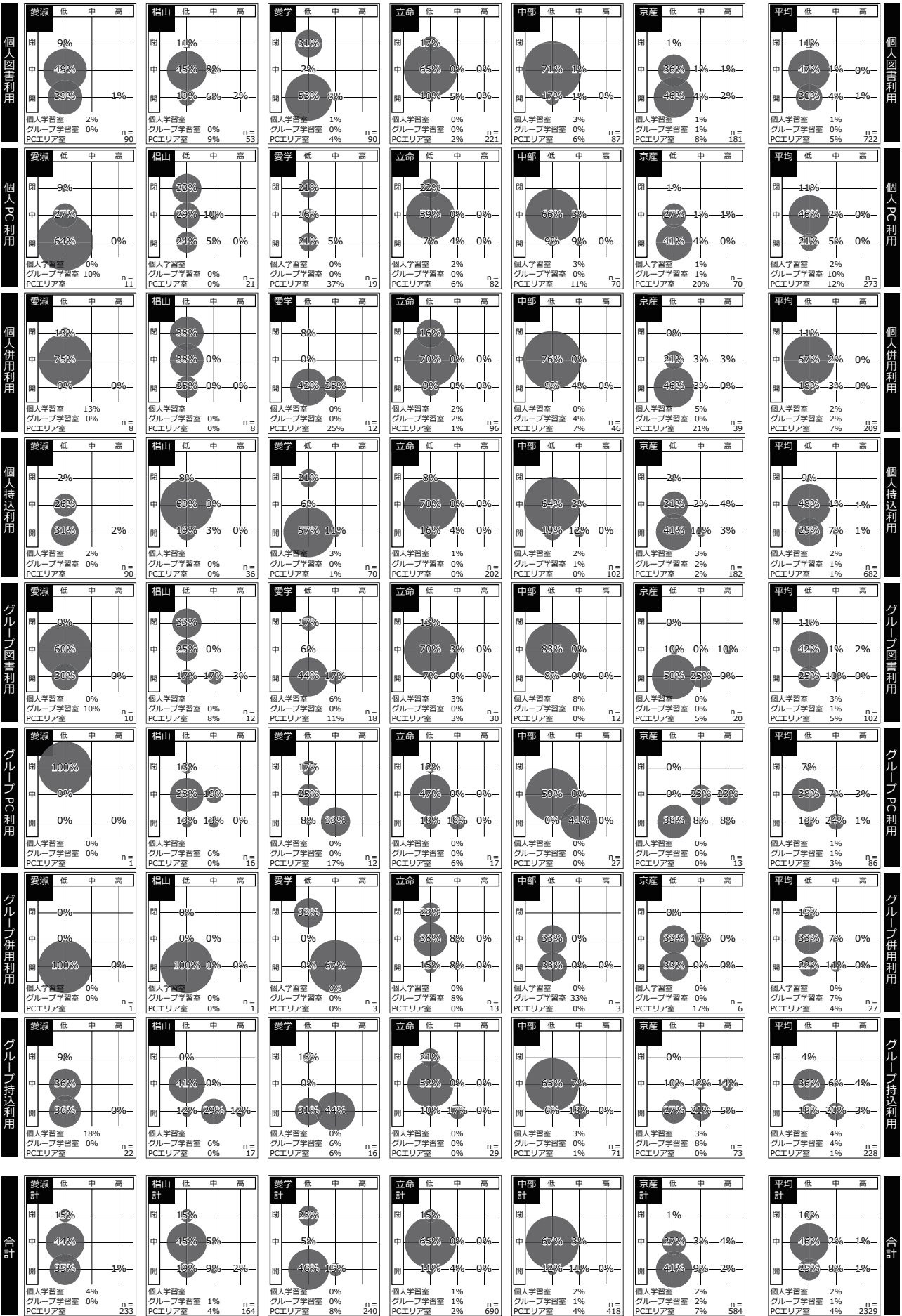


図 5-4 学習活動ごとの開放度と会話率からみた座席選択

5.4 選択理由からみた開放度と会話率による座席選択

詳細に各学習活動の座席選択を捉えていくために、それぞれの理由に対応した場所選択を把握する。ここでは、割合の高い選択理由に着目し、座席選択を把握した。

5.4.1 全学習活動における「集中・作業がしやすい」の座席選択

まず、選択理由で最も回答者が多かった「集中・作業がしやすいから」の場所選択をみていく。「集中・作業がしやすいから」と回答した利用者とそれ以外の理由を回答した利用者（その他の理由）別で開放度と会話率から座席選択をみていく（表 5-7）。

まず、平均からみていく。個人の4つの学習活動と[グループ図書]の集中・作業ができるとした人は、その他の理由に比べて、[中・低]の割合が高い。特に[個人併用]は、他の学習活動に比べて[中・低]が58%と最も多く選択されている。[中・低]の場所は、個人利用全体、グループ図書利用者にとって、集中・作業ができる座席になっている。その他[個人PC]は、[閉・低]が13%で、それ以外の理由を回答した利用者よりわずかに高い。

[個人図書]、[個人PC]、[個人併用]は、[中・高]、[開・高]の会話率が高い席が0%で、集中できるとして選択していなかった。[個人持込]は、全ての開放度と会話率の座席を集中できるとして選択し、他の学習活動に比べ選択肢の幅が広い。

[グループPC]は、[閉・低]、[中・中]が選ばれる傾向があり、閉ざされた場所や会話率が中程度の席が集中しやすいとして選択されている。[グループ併用]は、母数が少ないが、[開・低]が43%と他に比べ最も高い。LCの学習目標の一つである図書とPCの併用した学習は、LCではなく静かな場所で行われている。[グループ持込]は、他の学習活動に比べて[中・高]、[開・高]の会話率の高い席が選択されている。特に、[開・高]は、6%と少ないが、その他の理由より高い。

次に大学ごとでみていく。まず最も利用者が多い「中・低」に着目する。[個人併用]は、中部で90%以上と他の大学に比べて最も高い。座席を詳しくみると、壁+0（壁際にある仕切りのないグループ席）や壁+1（壁際にある仕切りのないグループ席）が多く選択されている。また、京産の[個人PC]、[個人持込]の[中・低]は、特に他の大学に比べて割合が高く、集中・作業ができる場所として選択している。その場所は、なし+2（壁に隣接していないキャレル席）が多く選択されていた。

[グループ持込]で選択している割合が高かった「開・高」は、特に京産で差がみられ、14%であった。場所を詳しくみると、[L]3Aの[なし+0]でホワイトボードが設置された可動式の机と椅子が並べられているところである。

表 5-7-① 【平均・集中、作業】学習活動別の座席選択

平均		個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グルー ブ室	PC	人数 合計
個人	集中・作業の理由	2%	12%	51%	0%	0%	27%	4%	0%	0%	3%	252
	その他の理由	1%	11%	44%	1%	0%	32%	4%	1%	0%	6%	470
個人 PC	集中・作業の理由	2%	13%	55%	3%	0%	19%	3%	0%	0%	6%	109
	その他の理由	2%	10%	38%	1%	1%	23%	7%	0%	1%	17%	164
個人 併用	集中・作業の理由	2%	9%	65%	0%	1%	14%	4%	0%	0%	4%	97
	その他の理由	3%	10%	47%	1%	0%	24%	2%	0%	4%	10%	112
個人 持込	集中・作業の理由	3%	7%	52%	1%	1%	28%	5%	1%	1%	0%	313
	その他の理由	1%	10%	43%	1%	1%	32%	9%	1%	1%	1%	369
グループ 図書	集中・作業の理由	6%	6%	56%	0%	3%	18%	6%	0%	3%	3%	34
	その他の理由	1%	13%	34%	1%	1%	31%	12%	0%	0%	6%	68
グループ PC	集中・作業の理由	3%	13%	38%	13%	3%	15%	13%	0%	3%	3%	40
	その他の理由	0%	2%	39%	2%	4%	11%	35%	2%	0%	4%	46
グループ 併用	集中・作業の理由	0%	0%	36%	7%	0%	36%	14%	0%	0%	7%	14
	その他の理由	0%	31%	23%	8%	0%	15%	8%	0%	15%	0%	13
グループ 持込	集中・作業の理由	6%	9%	33%	2%	5%	20%	15%	6%	4%	0%	81
	その他の理由	2%	2%	37%	8%	4%	18%	22%	1%	3%	1%	147
全体	集中・作業の理由	3%	9%	51%	2%	1%	24%	6%	1%	1%	2%	940
	その他の理由	1%	10%	42%	2%	1%	28%	9%	1%	1%	6%	1389
全体の理由		2%	10%	46%	2%	1%	25%	8%	1%	1%	4%	2329

表 5-7-③ 【椋山・集中、作業】
学習活動別の座席選択

表 5-7-② 【愛淑・集中、作業】学習活動別の座席選択

		愛淑											椋山										
		個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グルー ブ室	PC	人数 合計	個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グルー ブ室	PC	人数 合計
個人	集中・作業の理由	0%	11%	48%			41%		0%	0%	0%	27	24%	41%	6%			29%	0%	0%	0%	0%	17
	その他の理由	3%	8%	49%			38%		2%	0%	0%	63	6%	47%	8%			14%	8%	3%	0%	14%	36
個人 PC	集中・作業の理由	0%	0%	29%			71%		0%	0%	0%	7	36%	36%	9%			18%	0%	0%	0%	0%	11
	その他の理由	0%	25%	25%			50%		0%	0%	0%	4	30%	20%	10%			30%	10%	0%	0%	0%	10
個人 併用	集中・作業の理由	0%	25%	75%			0%		0%	0%	0%	4	25%	75%	0%			0%	0%	0%	0%	0%	4
	その他の理由	25%	0%	75%			0%		0%	0%	0%	4	50%	0%	0%			50%	0%	0%	0%	0%	4
個人 持込	集中・作業の理由	2%	26%	30%			40%		2%	0%	0%	43	12%	76%	0%			12%	0%	0%	0%	0%	17
	その他の理由	2%	26%	47%			23%		2%	0%	0%	47	5%	63%	0%			26%	5%	0%	0%	0%	19
グループ 図書	集中・作業の理由	0%	0%	71%			14%		0%	14%	0%	7	33%	0%	0%			33%	33%	0%	0%	0%	3
	その他の理由	0%	0%	33%			67%		0%	0%	0%	3	33%	33%	0%			11%	11%	0%	0%	11%	9
グループ PC	集中・作業の理由	100%	0%	0%			0%		0%	0%	0%	1	18%	27%	27%			9%	9%	0%	9%	0%	11
	その他の理由	0%	0%	0%			0%		0%	0%	0%	0	0%	60%	0%			20%	20%	0%	0%	0%	5
グループ 併用	集中・作業の理由	0%	0%	100%			0%		0%	0%	0%	1	0%	0%	0%			100%	0%	0%	0%	0%	1
	その他の理由	0%	0%	0%			0%		0%	0%	0%	0	0%	0%	0%			0%	100%	0%	0%	0%	1
グループ 持込	集中・作業の理由	11%	11%	33%			44%		0%	0%	0%	9	0%	33%	0%			17%	17%	17%	17%	0%	6
	その他の理由	23%	8%	33%			31%		0%	0%	0%	13	0%	45%	0%			9%	36%	9%	0%	0%	11
全体	集中・作業の理由	3%	16%	40%			38%		1%	1%	0%	99	20%	46%	7%			17%	4%	1%	3%	0%	69
	その他の理由	5%	14%	47%			32%		1%	0%	0%	134	12%	44%	4%			20%	12%	2%	0%	6%	95
全体の理由		4%	15%	44%			35%		1%	0%	0%	233	15%	45%	5%			19%	9%	2%	1%	4%	164

表 5-7-⑤ 【立命・集中、作業】
学習活動別の座席選択

表 5-7-④ 【愛学・集中、作業】学習活動別の座席選択

大学名		愛学											立命										
		個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グルー ブ室	PC	人数 合計	個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グルー ブ室	PC	人数 合計
個人	集中・作業の理由	0%	38%	10%			48%	0%	0%	0%	5%	21	0%	15%	65%	0%	0%	12%	5%	0%	1%	2%	95
	その他の理由	1%	29%	0%			55%	10%		0%	4%	69	0%	19%	64%	1%	0%	9%	4%	1%	0%	2%	126
個人 PC	集中・作業の理由	0%	20%	40%			20%	0%		0%	20%	5	2%	20%	61%	0%	0%	10%	5%	0%	0%	2%	41
	その他の理由	0%	21%	7%			21%	7%		0%	43%	14	2%	24%	56%	0%	0%	5%	2%	0%	0%	10%	41
個人 併用	集中・作業の理由	0%	0%	0%			33%	67%		0%	0%	3	4%	14%	67%	0%	0%	14%	0%	0%	0%	0%	51
	その他の理由	0%	11%	0%			44%	11%		0%	33%	9	0%	18%	73%	0%	0%	4%	0%	0%	4%	0%	45
個人 持込	集中・作業の理由	6%	19%	6%			69%	0%		0%	0%	16	2%	5%	73%	0%	0%	17%	3%	0%	0%	0%	99
	その他の理由	2%	22%	6%			54%	15%		0%	2%	54	1%	11%	67%	0%	0%	15%	5%	0%	1%	1%	103
グループ 図書	集中・作業の理由	0%	33%	0%			33%	0%		0%	33%	3	7%	0%	80%	0%	0%	13%	0%	0%	0%	0%	15
	その他の理由	7%	13%	7%			47%	20%		0%	7%	15	0%	27%	60%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	15
グループ PC	集中・作業の理由	0%	67%	33%			0%	0%		0%	0%	3	0%	11%	44%	0%	0%	22%	11%	0%	0%	11%	9
	その他の理由	0%	0%	22%			11%	44%		0%	22%	9	0%	13%	50%	0%	0%	13%	25%	0%	0%	0%	8
グループ 併用	集中・作業の理由	0%	0%	0%			0%	100%		0%	0%	1	0%	0%	57%	0%	0%	29%	14%	0%	0%	0%	7
	その他の理由	0%	50%	0%			0%	50%		0%	0%	2	0%	50%	17%	17%	0%	0%	0%	0%	17%	0%	6
グループ 持込	集中・作業の理由	0%	33%	0%			33%	33%		0%	0%	6	0%	31%	46%	0%	0%	8%	15%	0%	0%	0%	13
	その他の理由	0%	0%	0%			30%	50%		10%	10%	10	0%	13%	56%	0%	0%	13%	19%	0%	0%	0%	16
全体	集中・作業の理由	2%	29%	10%			45%	9%		0%	5%	58	2%	12%	66%	0%	0%	14%	4%	0%	0%	2%	330
	その他の理由	2%	21%	4%			47%	16%		1%	9%	182	1%	18%	64%	1%	0%	9%	4%	0%	1%	3%	360
全体の理由		2%	23%	5%			46%	15%		0%	8%	240	1%	15%	65%	0%	0%	11%	4%	0%	1%	2%	690

表 5-7-⑦ 【京産・集中、作業】
学習活動別の場所選択

大学名		【中部・集中、作業】学習活動別の場所選択											京産										
		中部											京産										
個人	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	PC	人数合計	個人	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	PC	人数合計		
個人	集中・作業の理由	12%	80%	0%		8%	0%	0%	0%	25	3%	0%	37%	0%	0%	43%	9%	1%	0%	6%	67		
個人	その他の理由	0%	68%	2%		21%	2%	0%	0%	62	0%	2%	36%	1%	1%	47%	1%	3%	1%	9%	114		
個人	集中・作業の理由	0%	76%	4%		8%	4%	0%	0%	25	5%	5%	40%	5%	0%	35%	0%	0%	0%	10%	20		
個人	その他の理由	4%	60%	2%		9%	11%	0%	0%	45	0%	0%	22%	0%	2%	44%	6%	0%	2%	24%	50		
個人	集中・作業の理由	0%	90%	0%		0%	5%	0%	0%	20	0%	0%	33%	0%	7%	40%	7%	0%	0%	13%	15		
個人	その他の理由	2%	68%	2%		18%	11%	0%	0%	57	0%	2%	21%	2%	6%	47%	13%	2%	2%	3%	89		
個人	集中・作業の理由	2%	58%	4%		20%	13%	0%	2%	45	5%	2%	40%	1%	3%	34%	9%	3%	1%	1%	93		
個人	その他の理由	0%	65%	0%		15%	4%	0%	8%	26	8%	0%	13%	4%	0%	50%	0%	0%	0%	25%	24		
グループ	集中・作業の理由	33%	67%	0%		0%	0%	0%	0%	3	0%	0%	0%	0%	33%	33%	33%	0%	0%	0%	3		
グループ	その他の理由	0%	89%	0%		11%	0%	0%	0%	9	0%	0%	12%	0%	6%	53%	24%	0%	0%	6%	17		
グループ	集中・作業の理由	0%	78%	0%		0%	22%	0%	0%	9	0%	0%	0%	29%	14%	43%	14%	0%	0%	0%	7		
グループ	その他の理由	0%	50%	0%		0%	50%	0%	0%	18	0%	0%	0%	17%	33%	33%	0%	17%	0%	0%	6		
グループ	集中・作業の理由	0%	0%	0%		100%	0%	0%	0%	1	0%	0%	0%	25%	0%	50%	0%	0%	0%	25%	4		
グループ	その他の理由	0%	50%	0%		0%	0%	0%	50%	2	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2		
グループ	集中・作業の理由	11%	79%	0%		5%	5%	0%	0%	19	7%	0%	4%	7%	14%	25%	21%	14%	7%	0%	28		
グループ	その他の理由	0%	60%	10%		6%	23%	0%	0%	52	0%	0%	13%	16%	13%	29%	20%	0%	9%	0%	45		
全体	集中・作業の理由	5%	73%	2%		10%	7%	0%	1%	147	4%	1%	32%	3%	4%	37%	10%	3%	1%	4%	237		
全体	その他の理由	1%	64%	3%		13%	13%	0%	1%	271	1%	1%	24%	3%	5%	44%	8%	2%	2%	9%	347		
全体	全体の理由	2%	67%	3%		12%	11%	0%	1%	418	2%	1%	27%	3%	4%	41%	9%	2%	2%	7%	584		

5.4.2 個人利用における「他人の視線が気にならないから」の座席選択

次に先の理由で高かった個人利用の学習活動に着目して、「他人の視線が気にならないから」と回答した利用者の座席選択を開放度と会話率からみる（表 5-8）。個人の学習活動全てで、視線が気にならないと回答した人は、[閉・低] や [中・低] の割合が高い。

視線が気にならない割合が高かった持込利用は、当回答者は、その他の理由に比べ [中・低] が 62% と高い。これは他の学習活動よりも高い。また持込利用は、わずかではあるが、[中・中]、[中・高] も視線が気にならないとして選択している。個人持込利用は、視線が気にならない座席を多様に持ち合わせていると言える。

大学ごとにみると個人持込利用において、他人の視線が気にならない理由の割合が高かった中部と立命の座席選択は、[中・低] が両大学共に 77% と有意な差がみられる。中部は、[R]2A [壁+1]（壁に接している前面に仕切りのついたグループ席）や [L]3C [壁+0]（カウンター席）を多く選択している。立命は、[なし+2]（キャレル席）の選択がほとんどを占めていた。

個人図書利用は、表 5-6 より当該の選択理由は高くなかったが、他人の視線を気にした人は、[閉・低] が 20% と他の学習活動よりも高い。個人図書利用は、閉じられた場所を求めている。中でも愛学の [閉・低] は 46% と他の大学よりも高い。愛学は、他の大学に比べて開放度が [中] の場所が少ないことから、高くなったと思われる。

表 5-8-① 【平均・視線】 学習活動別の場所選択

平均		個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グル ープ 室	PC	人数 合計
個人 図書	視線の理由	2%	20%	52%	0%	0%	24%	2%	0%	0%	0%	128
	その他の理由	1%	9%	45%	1%	0%	32%	4%	1%	0%	6%	594
個人 PC	視線の理由	4%	16%	56%	0%	0%	16%	4%	0%	0%	4%	50
	その他の理由	1%	10%	42%	2%	0%	23%	5%	0%	0%	14%	223
個人 併用	視線の理由	5%	10%	58%	0%	3%	20%	0%	0%	3%	3%	40
	その他の理由	2%	8%	54%	1%	0%	23%	4%	0%	2%	7%	192
個人 持込	視線の理由	1%	13%	62%	1%	1%	18%	4%	0%	0%	0%	152
	その他の理由	2%	8%	41%	1%	1%	34%	8%	1%	1%	1%	507
全体	視線の理由	2%	15%	57%	0%	1%	20%	3%	0%	0%	1%	370
	その他の理由	2%	9%	44%	1%	1%	30%	6%	1%	1%	6%	1516
全体利用者		2%	10%	44%	2%	1%	27%	8%	1%	1%	4%	2329

表 5-8-② 【各大学・視線】 学習活動別の場所選択

		愛淑											椋山											
個人		個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グル ープ 室	PC	人数 合計	個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グル ープ 室	PC	人数 合計	
個人 図書	視線の理由	6%	22%	44%	0%	0%	28%	0%	0%	0%	0%	18	0%	25%	25%	0%	0%	25%	25%	0%	0%	0%	0%	4
	その他の理由	1%	6%	50%	0%	0%	42%	0%	1%	0%	0%	72	0%	10%	47%	8%	0%	18%	4%	2%	0%	10%	49	
個人 PC	視線の理由	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1	0%	50%	25%	0%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	4
	その他の理由	0%	0%	30%	0%	0%	70%	0%	0%	0%	0%	10	0%	29%	29%	12%	0%	24%	6%	0%	0%	0%	0%	17
個人 併用	視線の理由											0												0
	その他の理由	13%	13%	75%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	8	0%	10%	65%	0%	0%	23%	3%	0%	0%	0%	0%	31
個人 持込	視線の理由	8%	38%	23%	0%	0%	31%	0%	0%	0%	0%	13	0%	0%	###	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5
	その他の理由	1%	23%	42%	0%	0%	31%	0%	3%	0%	0%	77	0%	38%	38%	0%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	8
全体	視線の理由	6%	31%	34%	0%	0%	28%	0%	0%	0%	0%	32	0%	23%	54%	0%	0%	15%	8%	0%	0%	0%	0%	13
	その他の理由	2%	14%	46%	0%	0%	37%	0%	2%	0%	0%	167	0%	15%	49%	6%	0%	21%	4%	1%	0%	5%	105	
全体利用者		4%	15%	44%	0%	0%	35%	0%	1%	0%	0%	233	0%	15%	45%	5%	0%	19%	9%	2%	1%	4%	164	

		愛学											立命											
個人		個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グル ープ 室	PC	人数 合計	個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グル ープ 室	PC	人数 合計	
個人 図書	視線の理由	4%	46%	0%	0%	0%	46%	4%	0%	0%	0%	26	0%	21%	74%	0%	0%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	42
	その他の理由	0%	25%	3%	0%	0%	56%	9%	0%	0%	6%	64	0%	16%	59%	1%	0%	15%	6%	1%	1%	3%	179	
個人 PC	視線の理由	0%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	2	6%	22%	72%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	18
	その他の理由	0%	18%	18%	0%	0%	24%	6%	0%	0%	35%	17	2%	22%	50%	0%	0%	14%	5%	0%	0%	8%	64	
個人 併用	視線の理由	0%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	2	0%	14%	52%	0%	0%	29%	0%	0%	5%	0%	21	
	その他の理由	0%	0%	0%	0%	0%	50%	30%	0%	0%	20%	10	3%	16%	61%	0%	0%	17%	0%	0%	1%	1%	75	
個人 持込	視線の理由	7%	43%	0%	0%	0%	36%	14%	0%	0%	0%	14	0%	10%	77%	0%	0%	11%	2%	0%	0%	0%	62	
	その他の理由	2%	16%	7%	0%	0%	63%	11%	0%	0%	2%	56	2%	7%	61%	0%	0%	23%	5%	0%	1%	1%	140	
全体	視線の理由	5%	45%	0%	0%	0%	39%	7%	0%	0%	5%	44	1%	15%	72%	0%	0%	10%	1%	0%	1%	0%	143	
	その他の理由	1%	19%	6%	0%	0%	54%	11%	0%	0%	9%	147	1%	14%	59%	0%	0%	17%	4%	0%	1%	3%	458	
全体利用者		2%	23%	5%	0%	0%	46%	15%	0%	0%	8%	240	1%	15%	58%	0%	0%	18%	4%	0%	1%	2%	690	

		中部											京産										
個人		個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グル ープ 室	PC	人数 合計	個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グル ープ 室	PC	人数 合計
個人 図書	視線の理由	8%	0%	58%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	12	0%	0%	73%	0%	0%	27%	0%	0%	0%	0%	26
	その他の理由	3%	0%	73%	1%	0%	15%	1%	0%	0%	7%	75	1%	1%	30%	1%	1%	49%	5%	3%	1%	9%	155
個人 PC	視線の理由	0%	0%	70%	0%	0%	10%	20%	0%	0%	0%	10	7%	0%	47%	0%	0%	40%	0%	0%	0%	7%	15
	その他の理由	3%	0%	65%	3%	0%	8%	7%	0%	0%	13%	60	0%	2%	22%	2%	2%	42%	5%	0%	2%	24%	55
個人 併用	視線の理由	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9	25%	0%	38%	0%	13%	25%	0%	0%	0%	0%	8
	その他の理由	0%	0%	70%	0%	0%	11%	5%	0%	5%	8%	37	0%	0%	16%	3%	0%	52%	3%	0%	0%	26%	31
個人 持込	視線の理由	0%	0%	77%	4%	0%	12%	8%	0%	0%	0%	26	0%	6%	56%	0%	6%	28%	3%	0%	0%	0%	32
	その他の理由	3%	0%	59%	3%	0%	21%	13%	0%	1%	0%	76	3%	1%	25%	2%	4%	43%	13%	3%	2%	3%	150
全体	視線の理由	2%	0%	75%	2%	0%	14%	7%	0%	0%	0%	57	4%	2%	58%	0%	4%	30%	1%	0%	0%	1%	81
	その他の理由	2%	0%	67%	2%	0%	15%	7%	0%	1%	6%	248	2%	1%	26%	2%	2%	46%	8%	2%	1%	10%	391
全体利用者		2%	0%	68%	2%	0%	14%	7%	0%	1%	5%	305	2%	1%	27%	3%	4%	41%	9%	2%	2%	7%	584

5.4.3 グループ利用における「友人と会話がしやすいから」の座席選択

「友人と会話がしやすいから」と回答した利用者の座席選択をみる。ここでは、割合の高いグループ利用に着目した（表 5-9）。

全大学の平均からみると会話割合が高かったグループ PC、持込利用は、[開・中] が 40%以上、[中・中] が 10%以上と開放度が高い場所から中程度にかけた場所が選択されている。両学習活動は、会話のしやすさで選択している。

[開・中] の場所を詳しくみると、中部 [R]1E、愛学 LCN などの机と椅子が自由に動かせる場所が該当する。LC 内の広々したエリアにある可動式の机や椅子は、グループ持込、PC 利用にとって会話がしやすい場所になっている。その他、グループ持込利用は、京産 [G] の A、立命 LCC も多く選択していた。

グループ持込利用者の [中・中] の場所は、京産 [L]2C の L 字型のソファ席が、グループ PC 利用は眉山 2A の 6 人掛けの閲覧机がよく選択されている。

表 5-9-① 【平均・会話】学習活動別の座席選択

平均		個人室	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	PC	人数合計
グループ	会話しやすい理由	0%	0%	38%	0%	13%	25%	25%	0%	0%	0%	8
図書	その他の理由	3%	12%	39%	1%	1%	29%	9%	0%	1%	5%	94
グループ	会話しやすい理由	0%	0%	27%	13%	7%	13%	40%	0%	0%	0%	15
PC	その他の理由	1%	8%	41%	6%	3%	13%	21%	1%	1%	4%	71
グループ	会話しやすい理由	0%	0%	33%	33%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	3
併用	その他の理由	0%	17%	25%	4%	0%	33%	13%	0%	4%	4%	24
グループ	会話しやすい理由	0%	0%	21%	10%	6%	8%	50%	0%	4%	0%	48
持込	その他の理由	4%	6%	39%	5%	4%	23%	12%	3%	3%	1%	180
全体	会話しやすい理由	0%	0%	24%	11%	7%	11%	43%	0%	4%	0%	74
	その他の理由	3%	8%	38%	4%	3%	23%	13%	2%	2%	3%	369
	全体利用者	2%	10%	44%	2%	1%	27%	8%	1%	1%	4%	2329

表 5-9-② 【各大学・会話】学習活動別の座席選択

		眉山										
		個人室	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	PC	人数合計
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	1
図書	その他の理由	0%	36%	27%	0%	0%	9%	18%	0%	0%	9%	11
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2
PC	その他の理由	0%	14%	43%	7%	0%	14%	14%	0%	7%	0%	14
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0
併用	その他の理由	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	1
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	67%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	3
持込	その他の理由	0%	0%	36%	0%	0%	14%	29%	14%	7%	0%	14
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	33%	33%	0%	17%	17%	0%	0%	0%	6
全体	その他の理由	0%	15%	35%	3%	0%	15%	20%	5%	5%	3%	40
全体利用者		0%	15%	45%	5%	0%	19%	9%	2%	1%	4%	164

表 5-9-③ 【各大学・会話】学習活動別の座席選択

大学名		愛学											立命										
		個人室	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	PC	人数合計	個人室	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	PC	人数合計
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	1	0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	2
図書	その他の理由	6%	18%	6%	0%	0%	47%	12%	0%	0%	12%	17	4%	14%	61%	4%	0%	14%	0%	0%	0%	4%	28
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	1	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	1
PC	その他の理由	0%	18%	27%	0%	0%	9%	27%	0%	0%	18%	11	0%	13%	50%	0%	0%	13%	19%	0%	0%	6%	16
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0	0%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	2
併用	その他の理由	0%	33%	0%	0%	0%	0%	67%	0%	0%	0%	3	0%	27%	27%	0%	0%	36%	9%	0%	0%	0%	11
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	0%	0%	0%	14%	86%	0%	0%	0%	7	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	4
持込	その他の理由	0%	22%	0%	0%	0%	44%	11%	0%	11%	11%	9	0%	24%	48%	0%	0%	24%	4%	0%	0%	0%	25
個人室	視線の理由	0%	0%	0%	0%	0%	11%	89%	0%	0%	0%	9	0%	0%	11%	11%	0%	22%	44%	0%	11%	0%	9
全体	その他の理由	3%	20%	10%	0%	0%	33%	20%	0%	3%	13%	40	1%	19%	50%	1%	0%	20%	6%	0%	0%	3%	80
全体利用者		2%	23%	5%	0%	0%	46%	15%	0%	0%	8%	240	1%	15%	58%	0%	0%	18%	4%	0%	1%	2%	690

表 5-9-④ 【各大学・会話】学習活動別の座席選択

大学名		中部											京産										
		個人室	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	PC	人数合計	個人室	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	PC	人数合計
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2	0%	0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	2
図書	その他の理由	10%	0%	80%	0%	0%	10%	0%	0%	0%	0%	10	0%	0%	11%	0%	6%	56%	22%	0%	0%	6%	18
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	44%	0%	0%	0%	56%	0%	0%	0%	9	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	0%	2
PC	その他の理由	0%	0%	67%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	18	0%	0%	0%	27%	18%	36%	9%	9%	0%	0%	11
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1	0%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0
併用	その他の理由	0%	0%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%	2	0%	0%	33%	17%	0%	33%	0%	0%	0%	17%	6
個人室	会話しやすい理由	0%	0%	57%	14%	0%	0%	29%	0%	0%	0%	14	0%	0%	0%	15%	15%	15%	45%	0%	10%	0%	20
持込	その他の理由	4%	0%	67%	5%	0%	7%	16%	0%	0%	2%	57	4%	0%	13%	11%	13%	32%	11%	8%	8%	0%	53
個人室	視線の理由	0%	0%	58%	8%	0%	0%	35%	0%	0%	0%	26	0%	0%	0%	13%	21%	17%	42%	0%	8%	0%	24
全体	その他の理由	3%	0%	67%	3%	0%	7%	17%	0%	1%	1%	87	2%	0%	13%	11%	11%	38%	13%	6%	5%	2%	88
全体利用者		2%	0%	67%	3%	0%	12%	11%	0%	1%	4%	418	2%	1%	27%	3%	4%	41%	9%	2%	2%	7%	584

5.4.4 全学習活動における「リラックスできるから」の座席選択

「リラックスできるから」と回答した利用者の座席選択をみる。本理由は、個人、グループに関わらず10%程度みられたことから、8つの学習活動全てを対象にした(表5-10)。なお、リラックスできる理由は、全体の母数が少ないことから全大学の平均のみを示す。

まず全体をみると、リラックスできる人の座席選択は、[中・中]、[開・中]、[中・低]である。グループPC、持込利用は、[中・中]で15%、13%とその他の理由に比べて高く、有意な差がみられる。またグループ持込利用は、[開・高]でも13%と、その他の理由に比べて高い。

個人持込利用は、[開・中]で15%と静かではなく、ある程度会話がされている席がリラックスできる席として利用されている。そのため会話率が中程度から高い席までの選択はリラックスできるかどうかに関係している。

一方、個人図書や個人PCは、[閉・低]を選択する割合が16%、14%で、他の学習活動に比べて高い傾向にある。リラックスできる席は、学習活動によって異なる傾向が示された。

表5-10 【平均・リラックス】学習活動別の座席選択

平均		個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グルー プ室	PC	人数 合計
個人 図書	リラックスの理由	0%	16%	48%	2%	2%	21%	8%	2%	0%	2%	61
	その他の理由	1%	11%	46%	1%	0%	32%	3%	1%	0%	5%	661
個人 PC	リラックスの理由	0%	14%	50%	0%	4%	18%	4%	0%	0%	11%	28
	その他の理由	2%	11%	44%	2%	0%	22%	5%	0%	0%	13%	245
個人 併用	リラックスの理由	0%	9%	52%	0%	0%	30%	9%	0%	0%	0%	23
	その他の理由	3%	10%	52%	1%	1%	22%	2%	0%	2%	8%	186
個人 持込	リラックスの理由	1%	1%	52%	1%	1%	24%	15%	1%	1%	1%	82
	その他の理由	2%	10%	45%	1%	1%	33%	6%	1%	1%	1%	600
グループ 図書	リラックスの理由	0%	0%	50%	0%	13%	0%	13%	0%	13%	13%	8
	その他の理由	3%	12%	38%	1%	1%	31%	10%	0%	0%	4%	94
グループ PC	リラックスの理由	0%	8%	46%	15%	0%	15%	15%	0%	0%	0%	13
	その他の理由	1%	7%	37%	5%	4%	12%	26%	1%	1%	4%	73
グループ 併用	リラックスの理由	0%	33%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	33%	0%	3
	その他の理由	0%	13%	25%	8%	0%	33%	13%	0%	4%	4%	24
グループ 持込	リラックスの理由	3%	3%	27%	13%	13%	17%	20%	0%	3%	0%	30
	その他の理由	4%	5%	36%	5%	3%	20%	20%	3%	4%	1%	198
全体	リラックスの理由	1%	8%	47%	3%	3%	21%	12%	1%	2%	2%	248
	その他の理由	2%	10%	44%	2%	1%	28%	7%	1%	1%	4%	2081
全体利用者		2%	10%	44%	2%	1%	27%	8%	1%	1%	4%	2329

5.4.5 個人・グループ図書利用の「図書・資料が利用しやすいから」の座席選択

個人とグループの図書利用が「図書・資料の利用がしやすい」と答えた利用者の場所選択をみていく。ここからは、座席数の影響、利用者がどのように場所を選択しているかを詳細にみるために、大学間の分析だけでなく、6大学の合計を示した平均で分析を行う。

(1) 書架の隣接状況からみた場所選択

図書利用の場所選択は、開放度と会話率からの議論を進める前に、書架との

近さが影響すると思われる。そこで、書架との隣接状況^{注5-3)}から、図書資料の利用がしやすいと回答した利用者とそれ以外の回答者に分けて、選択した場所を整理する(表5-11-①)。

平均では、個人とグループ共に利用しやすいと回答した利用者は、「隣接」が78%と、その他の理由に比べて高いことが分かる。図書利用のしやすさの要因の一つは、個人もグループも変わらず書架からの近さであると思われる。愛淑、京産は、個人とグループ共に利用しやすいと回答した利用者の「隣接」は、9割以上と高く、近くが書架に近い場所を選択している。

次に巡回プロット調査より実際の利用行為から、図書閲覧の行為が書架に隣接しているところで展開されているかをみる(表5-11-②)。ここでは、座席数の大小が行為数に影響を与えると判断し、1000席当たりの行為人数も算出し、アンケートの座席選択と同様に、6大学の合計を示す。図書閲覧は、「隣接」は10.7人/1000席と「隣接なし」に比べて、多い人数が得られた。多くの利用者が書架に近い座席で閲覧が行われていることになる。会話+図書閲覧(グループ利用)は、隣接状況で大きな差はなく、両方の場所で同じ程度の閲覧がみられる。

注5-3) 書架との隣接状況は、書架と分類したエリア(同じ座席タイプ、例えば3章の利用者分布(p.)での1a,2aなど)が隣同士の場合、書架との間に通路一つ挟んだ場合としている。書架と分類したエリアの間に他のエリアがある場合は、隣接していないものとして扱った。

表5-11-① 図書利用における書架の隣接状況からみた座席選択

	隣接した席	隣接していない席	ブラウジング	合計
個人 利用しやすい利用者	78%	13%	9%	243
個人 それ以外の理由の利用者	64%	33%	3%	516
グループ 利用しやすい利用者	78%	16%	6%	32
グループ それ以外の理由の利用者	54%	44%	1%	72
合計	68%	28%	5%	863
座席数	3916	2727	116	6759
(座席数割合)	58%	40%	2%	100%

表5-11-② 書架の隣接状況からみた図書閲覧の行為の所在

利用行為(人/1000席)	隣接	隣接なし	ブラウジング	合計
平均 図書閲覧	10.5	7.1	97.9	10.6
図書閲覧+PC	0.3	0.5	0.2	0.4
会話+図書閲覧	0.2	0.2	2.3	0.3
合計	11.0	7.9	100.4	11.3

(2) 開放度と会話率からみた座席選択

次に、先の指標で用いた書架の隣接と隣接なしの2つに分けて、それぞれの開放度と会話率の場所選択をみていく(表5-12)。まず書架に隣接した場所からみる。

平均より、個人利用において利用しやすいと答えた人は、[中・低]53%、[開・低]で40%と、わずかにその他の理由の回答者より高いことから、この2つの場所が選択されている。場所を詳しくみると、[なし+1]や[なし+2]が多く選択されている。

グループにおいて、利用しやすいと答えた人は、[開・低]が16%と高い。図書資料の利用しやすい場所は、閉ざされた静かなところである。

大学ごとでみると個人において愛学と京産は、特に[開・低]が高い。これらは、書架近くに仕切りがない机がほとんどを占めるため、書架から近く、資料が広げやすい場所は、利用しやすいと思われる。

次に書架に隣接していない場所における開放度と会話率の座席選択をみる(表 5-13)。

個人で利用しやすいと答えた人は、[閉・低] が31%と、その他の利用者比べて高い。一方、会話率の高い [中・高]、[開・高]、[個人学習室] は図書利用がしやすいとして選択していない。

平均のグループをみる。母数は少ないが、「閉・低」、「開・低」を選択しており、書架から離れて図書利用が利用しやすい場所は、個人、グループ共に閉ざされた場所である。

表 5-12 【平均・図書利用】書架に隣接した席の座席選択

平均	個人室	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	PC	人数合計	
個人	利用がしやすい	0%	5%	53%	1%	0%	40%	1%	1%	0%	188	
	それ以外の理由	0%	9%	49%	1%	0%	36%	3%	1%	0%	331	
グループ	利用がしやすい	0%	16%	36%	0%	0%	40%	4%	0%	0%	25	
	それ以外の理由	0%	5%	49%	0%	0%	36%	10%	0%	0%	39	
図書利用者の全理由		0%	8%	50%	1%	0%	38%	3%	1%	0%	583	
座席数		0	73	1231	23	15	2261	242	59	0	12	3916

表 5-13 【平均・図書利用】書架に隣接していない席の座席選択

平均	個人室	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	PC	人数合計	
個人	利用がしやすい	0%	31%	38%	3%	0%	19%	9%	0%	0%	32	
	それ以外の理由	4%	20%	34%	1%	1%	12%	9%	2%	1%	169	
グループ	利用がしやすい	0%	40%	0%	20%	0%	40%	0%	0%	0%	5	
	それ以外の理由	6%	9%	38%	0%	6%	9%	16%	0%	3%	32	
図書利用者の全理由		4%	21%	34%	1%	1%	13%	10%	1%	1%	238	
座席数		40	190	609	124	175	561	370	95	412	155	2731

5.4.6 個人・グループ PC 利用の「PC の利用がしやすいから」の座席選択

個人とグループの図書利用が「PC の利用がしやすい」と答えた利用者の場所選択をみていく。

(1) 電源コンセントの状況からみた座席選択

先の図書利用と同様に、電源コンセントの設置状況が場所選択に影響を与えていると考え、電源コンセント有り、なし、PC エリアに分けて、選択した場所を整理していく(表 5-14-①)。愛淑は PC の利用者がいないため、分析から除いた。

平均より、個人で利用しやすいと回答した人は、「PC エリア」が 37%と高く、

表 5-14-① PC 利用における電源コンセントの設置状況からみた座席選択

	電源コンセントがある席	電源コンセントがない席	PCエリア	合計(人)
個人				
利用しやすい利用者	39%	24%	37%	62
それ以外の理由の利用者	43%	52%	5%	212
グループ				
利用しやすい利用者	44%	44%	11%	18
それ以外の理由の利用者	59%	40%	1%	68
合計	46%	44%	10%	360
座席数	1873	4723	167	6763
(座席数割合)	28%	70%	2%	100%

表 5-14-② 電源コンセントの状況からみた PC 利用の行為の所在

利用行為(人/1000席)	電源コンセントある席	電源コンセントない席	PCエリア	合計
平均				
PC利用	38.6	7.4	288.5	23.0
図書閲覧+PC利用	0.7	0.2	2.7	0.4
会話+PC利用	4.6	0.5	14.0	2.0
座席数	1873	4723	167	6763

その他の利用者に比べて、差がある。PCの利用がしやすい座席は、PCエリアであり、電源コンセントの有無は、PCの利用がしやすいといった直接的な選択理由ではない。

次に巡回プロット調査より、電源コンセント有り、なし、PCエリアの3つに場所を分けて、1000席当たりの行為人数を算出した(表5-14-②)。「PC利用」は、PCエリアが最も多く、233.3人/1000席の利用者を捉えた。コンセントがある場所は38.6人と、コンセントがない場所に比べて多くのPC利用者がいる。「会話+PC利用」についても、電源コンセントがある場所で、4.6人/1000席の利用者を観察し、コンセントがない場所よりも多い。これらは、行為で捉えており、一人の利用者が長時間の滞在をしている可能性も考えられる。そのため、数は少ないが、PC利用がしやすい理由での開放度と会話率における場所を把握していく。

(2) 開放度と会話率からみた座席選択

電源コンセントの有無から、開放度と会話率の座席選択をみる。

まず、電源コンセントありの座席から分析する(表5-15)。個人は、[開・低]がその他の理由に比べて25%と高い。[開・低]の場所をみると京産グローバルcommonsのf(壁や書架が周りにない開かれたカウンター席)で主にみられた。

グループ利用は、[中・中]、[開・中]が多く選択されている。[中・中]の座席を詳細にみると椋山2a(書架と壁に囲まれた4,6人掛けグループ席)、[開・中]をみると立命LCcとLCe(液晶ディスプレイのあるグループ席)でいずれも会話ができ、会話率が中程度の座席であった。

次に電源コンセントなしの座席での座席選択をみる(表5-18)。個人は[閉・低]や[開・中]を選択している利用者が多く、特に[閉・低]は33%であった。椋山と立命で高い値が得られたが、立命は、[閉・低]の座席にも電源コンセントがあるにもかかわらず選択されている。そこで詳細に場所をみてみると、

表5-15 【平均・PC利用】電源コンセントがある席の座席選択

		個人室	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	合計
個人PC	利用がしやすい	4%	4%	63%	0%	0%	25%	0%	0%	4%	24
	それ以外の理由	3%	13%	61%	5%	3%	8%	5%	1%	0%	95
グループPC	利用がしやすい	0%	0%	50%	20%	0%	0%	30%	0%	0%	10
	それ以外の理由	3%	9%	54%	6%	3%	6%	20%	0%	0%	35
PC利用者の全理由(電源あり)		3%	10%	59%	5%	2%	10%	9%	1%	1%	164
座席数		30	134	698	80	130	142	220	30	320	1784

表5-16 【平均・PC利用】電源コンセントがない席の座席選択

		個人室	閉・低	中・低	中・中	中・高	開・低	開・中	開・高	グループ室	合計
個人PC	利用がしやすい	3%	15%	49%	0%	0%	26%	5%	0%	3%	39
	それ以外の理由	2%	12%	51%	4%	2%	23%	6%	2%	1%	195
グループPC	利用がしやすい	0%	0%	39%	11%	0%	0%	39%	0%	0%	18
	それ以外の理由	2%	11%	42%	3%	2%	16%	24%	0%	0%	62
PC利用者の全理由(電源なし)		2%	11%	48%	4%	1%	20%	11%	1%	1%	314
座席数		4	85	1042	83	38	2448	401	73	38	4212

壁と書架に囲まれているキャレル席で50%得られた。つまり、[閉・低]の中でも、周辺から閉ざされた場所が求められていると思われる。

グループ利用では、電源がある場所とない場所では変わらない座席選択であった。そのため、[開・中]が半数の50%で、会話ができるオープンな場所がグループでPC利用に求められている。

5.4.7 個人・グループ併用利用の「図書・資料、PCの利用がしやすいから」の座席選択

(1) 書架の隣接状況と電源コンセントの状況からみた座席選択

併用利用において、選択場所が、書架への隣接と電源コンセントの設置状況が影響するのかをみていく。書架への隣接の有無、電源コンセントの有無の組み合わせより4つのタイプに分けて選択した座席を整理する(表5-17)。愛淑はPCの利用者がほとんどいないことから、分析から除いた。利用者の分類は、「図書・資料の利用がしやすいから」と「PCの利用がしやすいから」を回答した利用者を足し合わせたものと、それ以外の理由の回答者とした。

その結果、図書・PCの利用のしやすい座席は、書架や電源コンセントの位置との影響は受けていないことが分かった。特に個人併用は、全併用利用者と比較しても、どの座席もほとんど変化していない。グループ併用は、合計が少ないが、「書架に隣接、電源あり」を33%選択している。

以上のことから、書架への隣接、電源コンセントの設置状況の影響はない。次に開放度と会話率からみた座席選択をみていく。

表 5-17 併用利用における書架への隣接と電源コンセントの設置状況からみた座席選択

		書架に隣接	書架に隣接	書架隣接なし	書架隣接なし	合計
		電源あり	電源なし	電源あり	電源なし	
個人併用	図書・PCが利用しやすい利用者	19%	38%	34%	9%	79
	それ以外の理由の利用者	20%	36%	35%	9%	125
グループ併用	図書・PCが利用しやすい利用者	33%	17%	33%	17%	6
	それ以外の理由の利用者	10%	35%	30%	25%	20
合計		19%	36%	34%	10%	230
座席数		585	3077	1368	1211	6241
(座席数割合)		9%	49%	22%	19%	100%

表 5-18 【平均・併用利用】「図書、資料の利用がしやすい」回答者における座席選択

		個人	閉・	中・	中・	中・	開・	開・	開・	グルー	PC	人数
		室	低	低	中	高	低	中	高	ブ室		
個人併用	利用しやすいから	0%	6%	65%	0%	0%	24%	4%	0%	0%	0%	49
	その他の理由	3%	11%	47%	1%	1%	24%	3%	0%	3%	10%	152
グループ併用	利用しやすいから	0%	0%	33%	0%	0%	67%	0%	0%	0%	0%	3
	その他の理由	0%	17%	22%	9%	0%	26%	13%	0%	9%	4%	23
全体	利用しやすいから	0%	6%	63%	0%	0%	27%	4%	0%	0%	0%	52
	その他の理由	2%	11%	43%	2%	1%	24%	4%	0%	3%	9%	175
全持込利用者		2%	10%	48%	1%	0%	25%	4%	0%	3%	7%	227

(2) 「図書・資料の利用がしやすいから」の開放度と会話率における座席選択

併用利用において、「図書・資料の利用がしやすい」理由における座席選択を開放度と会話率からみる（表 5-18）。個人グループ共に、図書利用がしやすい座席は、[中・低] である。特に個人併用は、[中・低] を 65% が選択している。また、個人、グループ共に [閉・低] は利用がしやすいとして、あまり選択されていない。

(3) 「PC の利用がしやすいから」の開放度と会話率における座席選択

「PC の利用がしやすい」理由における座席選択をみる（表 5-19）。個人は [中・低] と [PC エリア] が、その他の理由に比べて高い。そのため、[中・低] と [PC エリア] は利用がしやすい座席と考えられる。グループは、会話率が中程度の座席をが選択されている。

以上のことから、個人併用で、図書資料、PC のいずれも利用しやすいと回答した利用者は、[中・低] であった。個人併用は、図 5-4 の選択場所をみても、[中・低] の座席が他の学習活動に比べて最も多く選択されている。そのため、図書、PC の利用のしやすさによって割合が高くなったと考えられる。一方、[閉・低] はあまり選択されていない。これは、机に仕切りがあることで、図書と PC が同時に拮げにくいからと考えられる。

表 5-19 【平均・併用利用】「PC の利用がしやすい」の座席選択

平均		個人 室	閉・ 低	中・ 低	中・ 中	中・ 高	開・ 低	開・ 中	開・ 高	グルー プ室	PC	人数 合計
個人 併用	利用しやすいから	0%	5%	55%	0%	0%	8%	3%	0%	5%	24%	38
	その他の理由	2%	10%	50%	1%	1%	28%	3%	0%	1%	4%	163
グループ 併用	利用しやすいから	0%	0%	20%	20%	0%	20%	20%	0%	0%	20%	5
	その他の理由	0%	19%	24%	5%	0%	33%	10%	0%	10%	0%	21
全体	利用しやすいから	0%	5%	51%	2%	0%	9%	5%	0%	5%	23%	43
	その他の理由	2%	11%	47%	1%	1%	28%	4%	0%	2%	3%	184
全持込利用者		2%	10%	48%	1%	0%	25%	4%	0%	3%	7%	227

5.5 まとめ

本章では、2つの利用人数と4つの学習媒体の組合せで区分される8つの学習活動毎に、選択理由と座席の開き具合を示す開放度と場所周辺部での会話率の違いから座席選択を分析した。

5.5.1 学習活動毎の選択理由

- 1) 学習活動の違いに関わらず、「集中・作業がしやすい」の理由が最も高い。特に個人持込利用、グループ PC 利用、併用利用は、45%以上である。
- 2) 利用人数に関わらず、持込利用以外の図書、PC、併用の学習活動は、「集中・作業がしやすい」に次いで、学習媒体の利用のしやすさが理由である。

5.5.2 学習活動毎の座席選択

- 1) どの学習活動も、会話率が低い席が選択されている。特に会話率が低く、

開放度が中程度の座席を選択する割合が高い。

- 2) 持込利用、グループでPCを利用する場合は、会話率の高い席と開放的で会話率が中程度の席が選択される。個人・グループの図書、併用と個人のPCによる学習活動は、会話率が高い席の選択がほとんどみられない。

5.5.3 学習活動毎の選択理由と座席選択の関係

開放度と会話率の異なる座席の選択割合と主な選択理由を学習活動別に図5-5に示す。

- 1) 個人・グループ持込と個人PC利用者が、会話率の高い席や開放的で会話率が中程度の席を選択する理由は、会話利用を求めること、集中・作業、リラックスできることを挙げている。これらの学習活動は、他の学習活動に比べて、集中・作業、リラックスできるための座席の選択肢を多く持ち合わせている。
- 2) 個人持込は、他人の視線を気にする割合が高く、その座席選択は、会話率の低い少し開かれた席や、会話率が中程度の開放的な席も選択している。
- 3) 学習媒体を持ち込まない場合は、図書資料や、PC利用が利用しやすいとして、会話率が低い席を選択している。特に個人併用は、図書資料、PCが利用しやすいとして、やや開放的で静かな席を選択している。またグループの図書、併用は、会話利用をあまり求めないため、会話率の高い席（会話がしやすい席）は選択されないことがわかった。

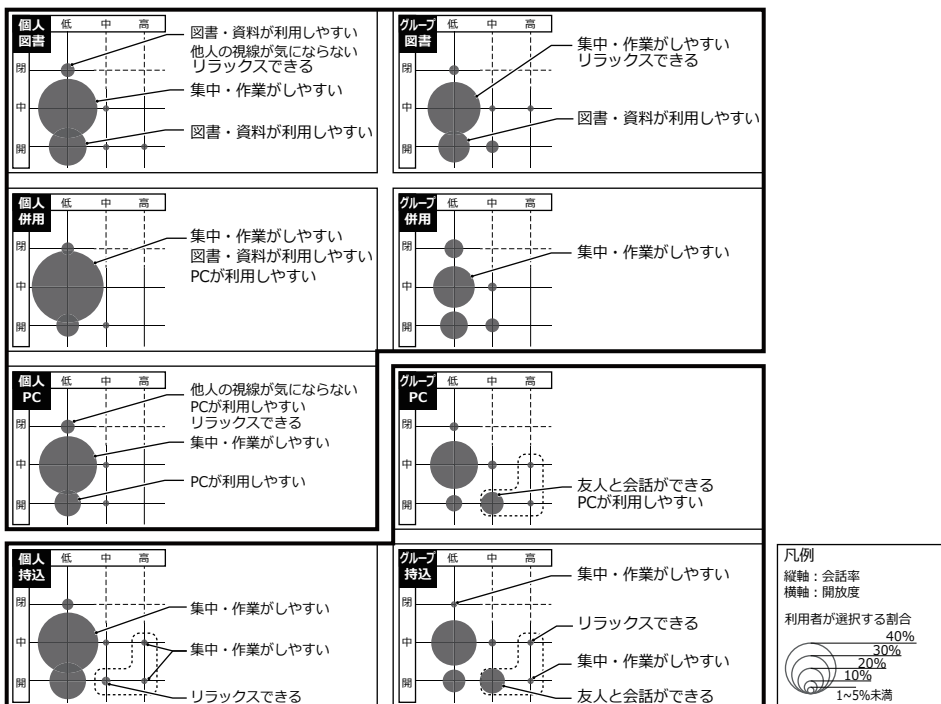


図 5-5 学習活動別における選択した座席と主な座席理由との関係

第6章 ラーニングコモンズの設置形態別における 使い分け行動からみた理由と座席選択

第6章 ラーニングコモンズの設置形態別における 使い分け行動からみた理由と座席選択

6.1 研究の目的と方法

5章では、利用者一人がどこを選択したかを把握した座席の選択行動を開架閲覧室とLCを対象に分析した。しかし、利用者の選択場所は一つとは限らず、状況に応じた選択場所をいくつ持ち合わせているのか、個人もグループも開架閲覧室、LCを両方選択しているのかまでは把握できていない。

そこで本章は、開架閲覧室とLCの複数の場所を選択した「使い分け行動」に着目した。開架閲覧室とLCを状況に応じて使い分け行動を捉えることで、座席選択理由の意味をより深く理解できると考えている。

ところで、LCは2章で述べたように、最近は図書館から独立して設置される場合もある。そのため、開架閲覧室とLCの設置形態が大学によって多様な様相を示し始めている。

本章では、対象を設置形態の違うLCを有する4大学を対象にする。図書館内にLCを持つ[一体隣接型]と[一体隔離型]、図書館とLCが分棟になった[分棟併設型]と[分棟単独型]の4タイプに分けて分析を進める。調査は、来館者アンケート調査と巡回プロット調査を用いた。

まず開架閲覧室とLCの面積や座席数などの規模、個人とグループの滞在状況を整理し、LC設置形態の4タイプの施設利用の全体像を抑える。その後、「使い分ける利用者」と「使い分けない利用者」の割合、来訪理由と利用目的から使い分ける要因を大まかに捉える。

そして、使い分ける利用者の利用人数（個人かグループか）を把握し、同じ利用人数で使い分ける人（例えば開架・個人、LC・個人）の使い分け理由と座席の選択行動を明らかにする。

なお、使い分け利用を読み取っていく際、双方の利用が学習かどうかまでは判断できない。そこで、3~5章で分析した学習利用者だけの回答だけでなく、学習に分類されない利用者も含めて分析し、利用の全体像を捉えて議論していく。

6.2 開架閲覧室とラーニングコモنزの比率と会話率

6.2.1 開架閲覧室とLCの各規模の比率

調査対象大学並びにLCの設置形態を図6-1に示す。また、4大学の床面積・座席数・利用者数（プロット数）を開架閲覧室とLCに分けてそれぞれの比率は表6-1に示す^{注6-1)}。

床面積、座席数の比率は、どの大学も開架閲覧室の方が高い。[一体型]2館の床面積は、9割以上が開架閲覧室であり、書架が占める面積が大きい。しかし開架閲覧室の座席数は、[一体隔離型]が90%に対し、[一体隣接型]は78%とLCが占める座席数は多い。[分棟型]の座席数は、3割程度と[一体型]のLCに比べると多い。利用者比率は、最もLCの面積が広い[分棟単独型]のLCで高い。

注6-1) 分棟型図書館は、書庫にも閲覧席があるが、カウンターで受付があること、入室規制があること等から自由な往来が制限されると判断して座席数、床面積から除外した。

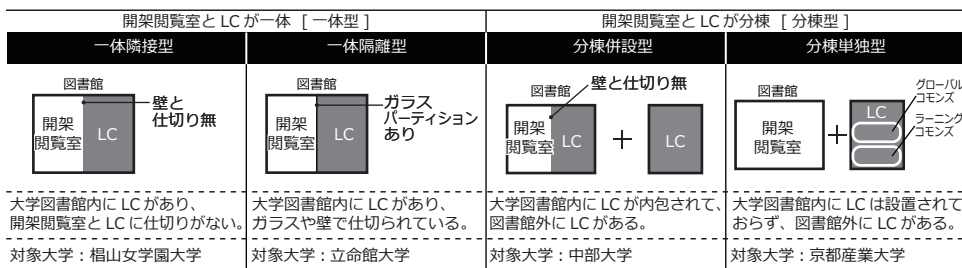


図6-1 LCの設置形態と対象大学の概要

表6-1 LCの設置形態別の開架閲覧室とLCの規模

		一体隣接型 (椋山)	一体隔離型 (立命)	分棟併設型 (中部)	分棟単独型 (京産)
床面積 (m ²)	開架閲覧室	91%	95%	83%	63%
	LC	9%	5%	17%	37%
	合計	3002	12295	10137	7726
座席数(席)	開架閲覧室	78%	90%	62%	69%
	LC	22%	10%	38%	31%
	合計	436	1954	1266	1761
プロット数 (人)	開架閲覧室	76%	83%	72%	67%
	LC	24%	17%	28%	33%
	合計	2265	18675	8821	10046

6.2.2 個人利用者とグループ利用者の滞在と会話の発生場所

個人・グループ利用者が館内のどこで滞在し、会話しているかを先の3章をもとに再整理する。エリア別に会話行為とそれ以外の行為に分け、会話率（会話行為/プロット数）を算出した。ただプロット数の大小が会話率に大きな影響を与えるため、座席占有率（プロット数 / (座席数 × 巡回回数)）を算出し、エリアに対する利用者数を踏まえた会話の発生状況を捉えた（図6-2-①～⑦、表6-2）。ここでは、一部会話率が高い傾向にあるものを賑わっている場所と捉えて、分析を進める。

(1) 一体隣接型・椋山（図6-2-①）

地上階（1~3階）は、会話が可能で会話率は全体的に高い。LCcでは当日講義が行われ、その利用者の会話も捉えた。LCを含む1階から2階は吹抜のため、

会話は2層にわたって広がり、1bは2階やLCの会話音が聞こえてくる場所である。地下階は全体的に会話率は低く、静かな環境が保たれていた。

(2) 一体隔離型・立命 (図 6-2-②)

開架閲覧室1階からB1階は、あまり会話がみられない。特にキャレル席が多い3階は、会話率の少ない場所が多い。2fはガラスパーテーションで仕切られた3つの部屋があり、当日は講義が行われていた。1階にあるLCは、全体的に会話率が高く、Lc~LCdはいずれも2割以上と占有率も高い。

(3) 分棟併設型・中部

分棟併設型(図書館)(図 6-2-③)の1c, 1dと3aは賑やかな場所である。特にグループ席で会話できる1dは会話率が49%と高い。3aは6人掛けのグループ席で、グループ利用者は小声での会話であった。2階は、全エリア20%以下の会話率であった。

分棟併設型(LC)(図 6-2-④)の2bは可動式の机と椅子が並べられ、52%が会話を交えた活動であった。しかし占有率は4%と低く、静かな時間帯も多かった。3bはLC内で最も利用者が集まるエリアで33%の会話率である。3c、3dはカウンター席であるが、空間の作りが異なっており、3cはガラスパーテーションで仕切られ、3dは仕切られていない。3a、3bから会話音などが聞こえる。なお3c、3d共に個人利用が多い。

表 6-2 LC の設置形態別の開架閲覧室と LC における会話率と座席占有率

一体隣接型 (岡山)					一体隔離型 (立命)					分棟併設型 (中部)					分棟単独型 (京産)				
I77名	座席のタイプ	会話率	占有率	ア07人数 (人)	I77名	座席のタイプ	会話率	占有率	ア07人数 (人)	I77名	座席のタイプ	会話率	占有率	ア07人数 (人)	I77名	座席のタイプ	会話率	占有率	ア07人数 (人)
Lca	Group seats	23%	17%	106	1a	Audiovisual station	1%	34%	985	1a	Sofa seats	0%	10%	151	1a	Group seats	21%	5%	196
LCb	PC area	20%	11%	51	1b	Other	43%	27%	101	1b	Counter seats	4%	31%	437	1b	Rest rooms	31%	15%	288
LCC	Group seats	56%	13%	350	2a	Carrel seats	1%	28%	773	1c	Counter seats	26%	36%	308	1c	PC rooms	6%	52%	1319
1a	Counter seats	31%	8%	13	2b	Carrel seats	0%	18%	1356	1d	Group seats	49%	24%	723	1d	Audiovisual station	8%	8%	155
1b	Carrel seats	4%	25%	303	2c	Carrel seats	0%	21%	773	2a	Group seats ※1	5%	20%	353	2a	Group seats ※1	3%	7%	645
1c	Audiovisual station	1%	37%	285	2d	Group seats ※1	1%	16%	366	2b	Group seats ※1	3%	27%	678	2b	Carrel seats	0%	47%	683
2a	Group seats	34%	11%	35	2e	Group seats	6%	7%	370	2c	Group seats	8%	7%	696	2c	Group rooms	65%	9%	136
2b	Group seats	15%	6%	156	2f	Group rooms	9%	6%	257	2d	Counter seats	6%	28%	234	2d	Personal rooms	0%	45%	163
2c	Counter seats	41%	16%	32	2g	Carrel seats	0%	20%	1366	2e	Counter seats	0%	32%	470	2e	Group seats	2%	9%	66
3a	Group rooms	16%	33%	77	2h	Sofa seats	0%	4%	81	3a	Group seats	30%	11%	525	2f	Reading stations	8%	6%	50
3b	Group seats	68%	4%	40	2i	Seats for two ※4	29%	1%	7	3b	Personal rooms	0%	23%	55	2g	Group seats	4%	7%	620
3c	Group seats	55%	2%	22	2j	Other	0%	1%	17	3c	Group rooms	100%	0%	4	3a	Group seats ※1	0%	5%	368
B1a	Carrel seats	1%	11%	235	3a	Carrel seats	0%	23%	891	3d	Audiovisual station	1%	20%	165	3b	Carrel seats	0%	25%	913
B1b	Counter seats	0%	0%	0	3b	Carrel seats	0%	14%	1037	3e	PC area	3%	59%	529	3c	Group rooms	59%	8%	130
B1c	Carrel seats	0%	7%	70	3c	Group seats	4%	3%	159	3f	Audiovisual station	4%	12%	119	3d	Personal rooms	0%	30%	108
B1d	Carrel seats	0%	3%	8	3d	Carrel seats	0%	8%	459	3g	Counter seats	4%	32%	683	3e	Group seats	67%	1%	6
B1e	Group seats	0%	3%	15	3e	Carrel seats	0%	30%	1272	3h	Carrel seats	3%	10%	333	3f	Sofa seats	0%	7%	33
B1f	Carrel seats	14%	9%	43	3f	Carrel seats	0%	19%	627	3i	Group seats ※1	9%	8%	107	3g	Group seats	2%	4%	234
B1g	Counter seats	0%	8%	78	3g	Carrel seats	0%	36%	535	全体		12%	16%	6570	全体		7%	11%	6113
B2	Counter seats	0%	3%	7	3h	Carrel seats	1%	27%	561										
全体		18%	11%	1926	3i	Personal rooms	0%	47%	222										
					3j	Sofa seats	0%	3%	39										
					3k	Seats for two ※4	13%	3%	16										
					3l	Other	3%	2%	38										
					B1a	Carrel seats	0%	24%	374										
					B1b	Carrel seats	0%	23%	1190										
					B1c	Group seats	9%	7%	412										
					B1d	Sofa seats	0%	4%	45										
					B1e	Other	43%	4%	23										
					LCa	PC area	9%	24%	421										
					LCb	Group rooms	47%	21%	178										
					LCC	Seats for two ※5	36%	27%	361										
					LCd	Group seats	49%	26%	1619										
					LCe	Other	75%	2%	8										
					全体		7%	16%	16939										

※1: Group seats with front partitions 前面に仕切りのあるグループ席
 ※2: Group seats (high chairs) グループ席 (座面が高い)
 ※3: Chairs integrated with desk 椅子と机が一体化している ※5: Seats for two (sofa seats)
 ※4: Seats for two (high chairs) 2人掛け席 (座面が高い) ※6: 2人掛け席 (ソファ)

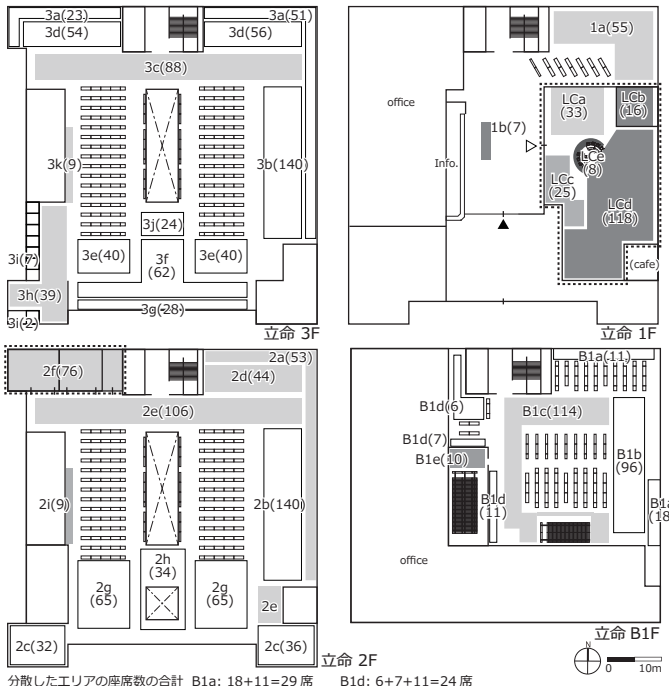


図 6-2-2 【立命・一体隔離型】エリア別会話率

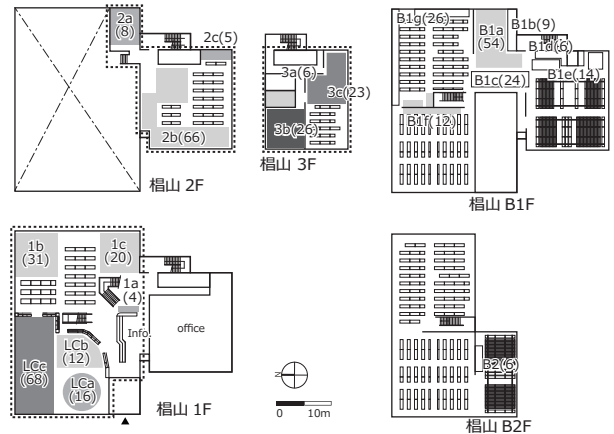
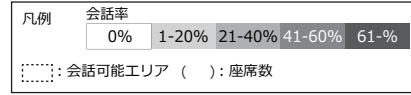


図 6-2-1 【桐山・一体隣接型】エリア別会話率

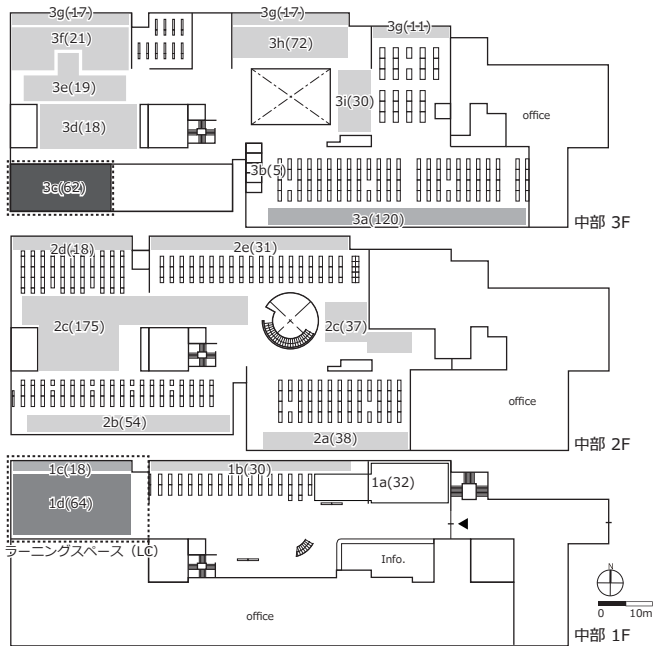


図 6-2-3 【中部 (図書館)・分棟併設型】エリア別会話率

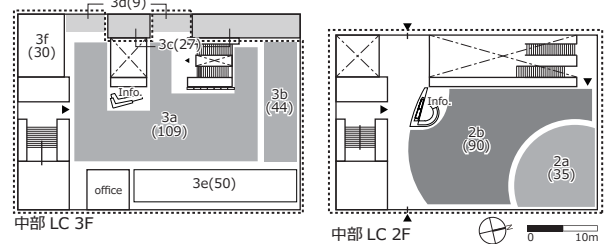


図 6-2-4 【中部 LC・分棟併設型】エリア別会話率

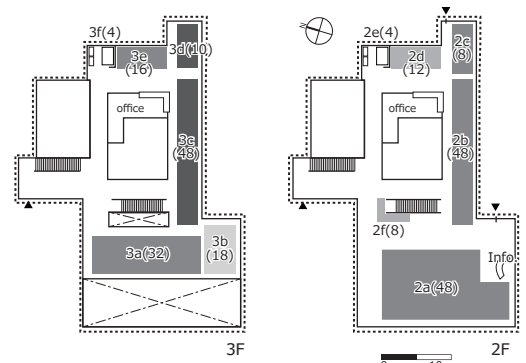


図 6-2-6 【京産 LC・分棟単独型】エリア別会話率

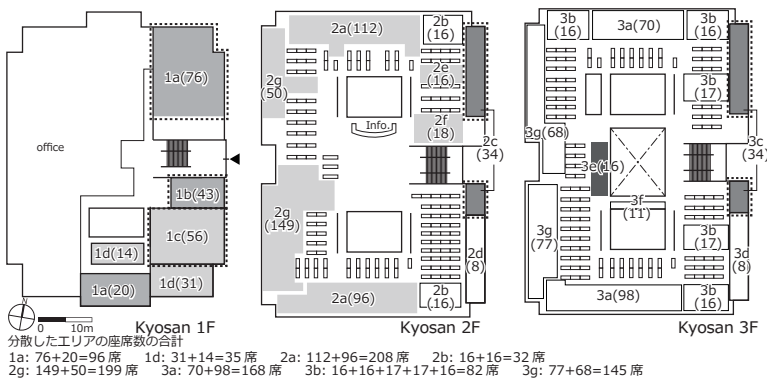


図 6-2-5 【京産 (図書館)・分棟単独型】エリア別会話率

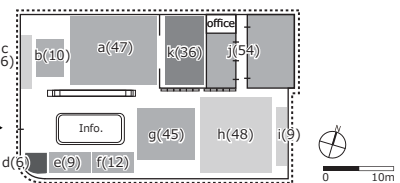


図 6-2-7 【京産 GC・分棟単独型】エリア別会話率

(4) 分棟単独型・京産

分棟単独型(図書館)(図6-2-⑤)の会話禁止エリアは、8%以下の会話率で、全体的に静かな場所を維持しつつ個人利用が占めている。2c、3cのグループ室は、グループ利用しか認められてないため、会話率が高い。また1bの休憩室は、会話率が3割以上みられ、グループでも利用している。

分棟単独型(LC・ラーニングコモンズ)(図6-2-⑥)の会話率は、全体で53%と他の型のLCに比べて高い。2aは会話率が53%と高いが、5割を超えた他のエリアに比べ、占有率は低く静かな時間帯が多い。賑わったエリアは、占有率を考慮して3a、3c、3eが挙げられる。

分棟単独型(LC・グローバルコモンズ)(図6-2-⑦)のa、e、fは、会話率や占有率も全体と比べて高く、賑わっている場所である。またdも9割の会話率であるためカウンター南側エリアは比較的賑わっている場所であった。一方でiは、個人利用者が多く会話が少ない。

以上、4章で整理したように、会話が許容されるエリアであっても会話率にばらつきが生じ、会話が発生した場所でも個人利用がみられた。逆に周辺に会話がなく、静寂と思われる場所でもグループが利用している。また同じフロアに静かと賑やかな場所が混在していたことを整理した。

6.3 開架閲覧室とラーニングコモンズの使い分け状況

本章から使い分け利用に着目して分析を進める。

6.3.1 使い分け利用者と使い分けない利用者の比率

LCの設置形態別に開架閲覧室とLCの使い分け利用を整理したものを図6-3に示す。使い分け利用は、アンケート調査の設問から把握し、アンケートを配布した場所とは別の場所^{注6-2)}の利用頻度から得ている。「使い分ける際の利用頻度はどのくらいですか」の問より、「ほとんど毎日」から「年に一回」まで8段階の選択肢を設け、いずれかに回答した場合は「使い分ける」と判断した。選択肢には「使い分けない」も加え、使い分け利用の状況を把握した。

[立命・一体隔離型]^{注6-3)}は「使い分ける利用者」が74%と最も高い。[分棟型]のうち[京産・分棟単独型]は、58%であり、図書館とLCが250mと離れているにもかかわらず、距離の近い[中部・分棟併設型]に比べて使い分ける利用者が多い。同日での使い分け利用を聞いていないが、一概に距離によって使い分け利用が変動するわけではない。

一方[椋山・一体隣接型]の使い分け利用者は28%と最も低い。なお、参考として[椋山・一体隣接型]で、LCと開架閲覧室の使い分けに限らず、館内での場所の使い分けを聞いた。すると62%が複数の場所を使い分けており、LCに限らず、開架閲覧室内に複数を選択したい場所があると考えられる。

注6-2) 分棟型の使い分け利用の把握について、図書館で配布したアンケート用紙の使い分け利用の設問は、別棟のLCの利用について尋ねている。また逆に別棟LCは、図書館の使い分け利用を尋ねている。

注6-3) 一体隔離型は図書館の出入口でアンケート用紙を渡しているため、LCのみの利用者を抽出できない。そこで「使い分ける利用者」からアンケートの最も座る座席(座席選択)の質問からLCを選択した利用者を抽出して割り出した。

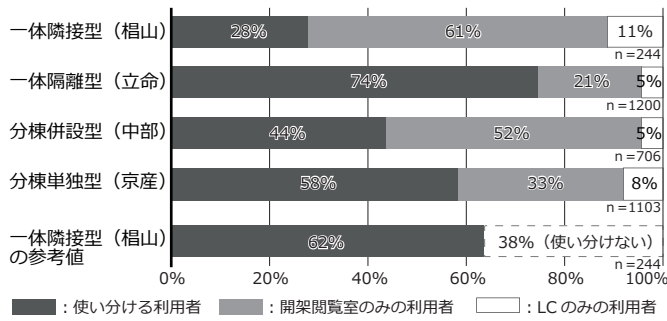


図 6-3 LC の設置形態別にみた使い分け利用の割合

6.3.2 使い分け利用別にみた学習場所の来訪理由

次に使い分けている人といない人より、来訪理由と利用目的から利用状況を概観する。まず来訪理由からみていく。開架閲覧室と LC の選択理由を足し合わせ（分棟型は図書館と別棟の LC を足す）、使い分けの有無から選択理由の大まかな傾向を把握したものを表 6-3 に示す。

各大学の合計からみる。「静かで落ち着いているから」が最も高く、63%以上が選択している。2 番目に高くなったのは、[一体型] と [京産・分棟単独型] は、「PC・印刷機の利用ができるから」で [立命・一体隔離型] が 37% と高い。[中部・分棟併設型] は、「空調・明るさがよいから」31% であった。[京産・分棟単独型] は、「建物が近いから」も高く 23% 得られた。

使い分け利用ごとでみていく。使い分け利用者をみると「静かで落ち着いているから」は、一体型で高い傾向を示めし、[椋山・一体隣接型]82%、[立命・一体隔離型]72% と多くの利用者が静かな場所を選択している。一方、[分棟型] では、使い分けない利用者がより多くを占め、[中部・分棟併設型]68%、[京産・分棟単独型]70% であった。また [立命・一体隔離型] 以外は、「賑やか・会話できる環境があるから」が使い分ける利用者で高く、グループ利用として学習場所を使い分けていると考えられる。

「建物が近いから」において、[一体隣接型] と [分棟単独型] は、使い分け

表 6-3 使い分け利用ごとの学習環境選択理由（複数回答）

設置形態	利用状況	建物が近いから	静かで落ち着いているから	賑やか・会話できる環境があるから	図書資料があるから	空調・明るさがいいから	空席があるから	PC・印刷機の利用ができるから	人的支援を受けられるから	その他	n (人)
一体隣接型 (椋山)	使い分ける利用者	29%	82%	25%	31%	25%	26%	50%	1%	15%	68
	使い分けない利用者	13%	66%	7%	24%	15%	15%	21%	2%	12%	174
	合計	17%	70%	12%	26%	18%	18%	29%	2%	13%	242
一体隔離型 (立命)	使い分ける利用者	18%	72%	2%	24%	30%	18%	41%	3%	30%	881
	使い分けない利用者	20%	66%	2%	20%	19%	16%	26%	2%	20%	308
	合計	19%	70%	2%	23%	28%	17%	37%	3%	28%	1189
分棟併設型 (中部)	使い分ける利用者	19%	62%	16%	22%	34%	14%	22%	1%	24%	307
	使い分けない利用者	15%	68%	3%	35%	29%	11%	21%	0%	13%	396
	合計	16%	66%	8%	30%	31%	12%	22%	1%	18%	703
分棟単独型 (京産)	使い分ける利用者	28%	57%	10%	10%	27%	10%	24%	1%	23%	635
	使い分けない利用者	15%	70%	2%	10%	19%	13%	25%	1%	15%	455
	合計	23%	63%	7%	10%	24%	11%	25%	1%	20%	1090

る利用者で29%、28%であった。[一体隣接型]は開架閲覧室とLCに隔てがないこと、[分棟単独型]はLC（グローバルコモンズ）が外国語学部棟内にあること、アクセスの良さが行きやすさに影響を与えると思われる。

「PC・印刷機の利用ができるから」をみると、[一体型]の使い分ける利用者は、全体でも高かったが、が50%、41%と使い分けない利用者比べて高い。使い分ける要因の一つになっている。一方[分棟型]では、プリンターやPCの利用場所は限定されているが、使い分け利用別に差はみられず、使い分け利用の大きな要因でないと思われる。

「図書資料があるから」をみると[分棟型]の2大学の使い分けない利用者は、[一体型]に比べ、が使い分ける利用者より高くなる傾向があり、特に[中部・分棟併設型]は、35%と高い。

その他、全ての設置形態で「空調・明るさがいいから」が、使い分ける利用者で高く、「空席があるから」では、LCの設置形態に加え、使い分け行動の違いもあまりみられなかった。

6.3.3 使い分け利用別にみた利用目的

使い分け利用ごとに分け、LCの設置形態別で利用目的の違いをみたものを表6-4に示す。なお、使い分けない利用者は「開架閲覧室のみ」と「LCのみ」に分けて分析した。

(1) 使い分ける利用者

どの設置形態も合計は、「一人で勉強をする」が最も高い。使い分け利用者をもみても、全体の割合と大きく変わらず「一人で勉強する」は高い。[一体型]は、「PCを利用する」が[椋山・一体隣接型]31%、[立命・一体隔離型]35%と高い。選択理由（図6-3）からもわかるように、PCを利用するために使い分けしている可能性がある。[立命・一体隔離型]以外は「友人と会話・勉強をする」が全体に比べて高い。特に[椋山・一体隣接型]は16%と高く、開架閲覧室内でも会話ができるからだと考えられる。

[一体型]は、図書資料に関する項目が、使い分ける利用者で若干高くなる傾向がある。図書館内にLCがあり、図書利用が[分棟型]に比べて容易である。一方、[分棟単独型]は「図書資料を貸し借りする」が25%と使い分けない利用者（開架閲覧室のみ）に比べて高い。これは、LC（グローバルコモンズ）でも多読本の貸出^{注6-4}がされているからと思われる。

注6-4) 貸出期間は、学部・大学院に限らず2泊3日である。

(2) 使い分けない利用者

開架閲覧室のみの利用者を見る。[一体隣接型]以外では「くつろぐ」が全体に比べてわずかに高い。一方の[一体隣接型]は、LCのみの利用者で11%と高い。つまり[一体隣接型]は、くつろぐために複数の場所を使い分ける利用者が少ない。では、何がどのくらいかをみてみると、[一体隣接型]は「図書資料

を貸し借りする」が LC のみの利用者で 43%と本に関する項目が高い。開架閲覧室と LC が連続的につながることで、図書資料にアクセスしやすくなっていると考えられる。

[分棟型]2館の LC のみの利用者は「友人と会話・勉強をする」がどの項目よりも高く、LC としての機能している。

表 6-4 使い分け利用ごとの利用目的（複数回答）

		図書資料を貸し借りするため	本・資料等を探するため	本を読むため	新聞・雑誌を読むため	DVD・ビデオ等を鑑賞するため	PCを利用するため	一人で勉強をするため	友人と会話・勉強をするため	ただふらっときた	授業・サークルで利用するため	くつろぐため	人的支援を受けるため	その他	n (人)
一体隣接型 (榎山)	使い分ける利用者	34%	18%	12%	6%	1%	31%	31%	16%	1%	4%	3%	0%	4%	68
	開架閲覧室のみ利用者	28%	22%	14%	2%	3%	18%	43%	6%	2%	3%	5%	0%	5%	148
	LCのみ利用者	43%	25%	14%	11%	0%	18%	14%	4%	4%	7%	11%	0%	7%	28
	合計	31%	21%	14%	4%	2%	21%	36%	9%	2%	4%	5%	0%	5%	244
一体隔離型 (立命)	使い分ける利用者	32%	23%	27%	11%	4%	35%	52%	9%	8%	5%	10%	0%	8%	887
	開架閲覧室のみ利用者	27%	17%	23%	8%	4%	17%	52%	2%	9%	3%	15%	0%	7%	252
	LCのみ利用者	27%	19%	10%	7%	0%	49%	29%	24%	2%	12%	7%	0%	10%	59
	合計	31%	22%	25%	10%	4%	32%	51%	8%	8%	5%	11%	0%	8%	1198
分棟併設型 (中部)	使い分ける利用者	17%	14%	12%	5%	3%	19%	39%	29%	10%	4%	13%	0%	4%	308
	開架閲覧室のみ利用者	24%	16%	20%	5%	5%	23%	42%	12%	10%	2%	17%	0%	0%	365
	LCのみ利用者	0%	3%	6%	0%	0%	13%	28%	50%	13%	0%	13%	0%	16%	32
	合計	20%	14%	16%	5%	4%	21%	40%	21%	10%	3%	15%	0%	3%	705
分棟単独型 (京産)	使い分ける利用者	25%	9%	16%	5%	9%	22%	34%	19%	10%	7%	17%	1%	9%	642
	開架閲覧室のみ利用者	21%	12%	21%	8%	1%	27%	38%	3%	10%	4%	22%	0%	7%	368
	LCのみ利用者	4%	0%	8%	0%	16%	10%	28%	43%	15%	13%	14%	5%	11%	92
	合計	22%	9%	17%	5%	7%	23%	35%	16%	10%	7%	18%	1%	9%	1102

6.4 使い分け利用者の特徴

利用者が選択している場所から学習場所を提案していくために、複数の場所を利用している使い分ける利用者に着目して分析を進める。

6.4.1 利用人数別の使い分け状況

開架閲覧室と LC で、個人とグループのどちらを使い分けているかを分析する（表 6-5）。

[一体型]は、「開架閲覧室 - 個人 / LC - 個人」が高い。特に、[榎山・一体隣接型]は 56%と最も高く、次いで[立命・一体隔離型]は 45%であった。一方[分棟型]は、それぞれ 36%、38%と一体型に比べて低い。また[榎山・一体隣接型]は「開架閲覧室 - 個人 / LC - グループ」が 15%と他の設置形態に比べて低い。これは先で述べたように、開架閲覧室も会話を許容し、LC 内だけにグループ利用が許容されていないからと考えられる。

[中部・分棟併設型]は、「開架閲覧室 - グループ / LC - グループ」が 18%と最も高く、どちらもグループ利用できる場所があるからと思われる。

各学習場所で人数形態が同じタイプを「同形態」、個人とグループで使い分けているタイプを「異形態」とし、それぞれ足し合わせて算出した。それにより約 50%以上が「同形態」で使い分け、特に[榎山・一体隣接型]で 67%と最も高かった。「異形態」は、[榎山・一体隣接型]以外で 40%程度である。

表 6-5 使い分け利用者の利用人数パタン

開架閲覧室	LC	一体隣接型 (眉山)	一体隔離型 (立命)	分棟併設型 (中部)	分棟単独型 (京産)
個人	個人	56%	45%	36%	38%
個人	グループ	15%	36%	31%	39%
グループ	個人	6%	5%	9%	5%
グループ	グループ	11%	9%	18%	10%
両方同じくらい		12%	5%	6%	8%
合計(人)		66	856	300	604
同形態		67%	54%	54%	48%
異形態		21%	41%	40%	44%
両方同じくらい(再掲)		12%	5%	6%	8%
合計		100%	100%	100%	100%

6.4.2 同形態利用者の選択理由と使い分け理由

異形態は、4割程度みられ、開架閲覧室やLC内の会話の可否によって、個人とグループで使い分ける割合が高い傾向にある。しかし、先より静かな場所を求める利用者が6割以上いること等から、使い分けには会話規則のルールや、利用人数に影響を受けず、学習場所そのものに選択要因があると思われる。そこで、「同形態」に着目して、開架閲覧室とLCそれぞれの選択理由と使い分け理由をクロス集計したものを表6-6に示す。

[眉山・一体隣接型]と[分棟型]2館は、開架閲覧室とLCをいずれも静かで落ち着いているから(以下:静かな場所)として、25%以上が使い分けている。特に[中部・分棟併設型]は36%と最も高い。一方、[立命・一体隔離型]は、LCを静かな場所と認識して使い分けている利用者が2%に留まっている。特にLCを静かな場所としては認識していない。

[立命・一体隔離型]の最も高い組み合わせは、「開架閲覧室-静かな場所/LC

表 6-6 開架閲覧室とLCの使い分けている理由(複数回答)

眉山・一体隣接型		開架閲覧室の選択理由						
回答者数		建物が近いから	静かで落ち着いているから	賑やか・会話できる環境があるから	学習ツールが利用できるから	空調・明るさがいいから	空席があるから	その他
44人								
LCの選択理由	建物が近いから	5%	20%	0%	14%	5%	9%	2%
	静かで落ち着いているから	0%	25%	0%	7%	9%	9%	5%
	賑やか・会話できる環境があるから	0%	7%	0%	5%	2%	2%	5%
	学習ツールが利用できるから	5%	45%	2%	14%	9%	11%	7%
	空調・明るさがいいから	0%	9%	0%	2%	7%	5%	2%
	空席があるから	2%	7%	0%	0%	2%	5%	5%
	その他	0%	5%	0%	2%	5%	2%	5%

中部・分棟併設型		開架閲覧室の選択理由						
回答者数		建物が近いから	静かで落ち着いているから	賑やか・会話できる環境があるから	学習ツールが利用できるから	空調・明るさがいいから	空席があるから	その他
156人								
LCの選択理由	建物が近いから	7%	13%	0%	16%	6%	3%	4%
	静かで落ち着いているから	6%	36%	0%	35%	13%	5%	12%
	賑やか・会話できる環境があるから	4%	14%	0%	14%	6%	5%	4%
	学習ツールが利用できるから	4%	17%	1%	21%	7%	4%	4%
	空調・明るさがいいから	5%	22%	0%	23%	12%	4%	8%
	空席があるから	2%	8%	0%	11%	6%	3%	4%
	その他	4%	23%	0%	26%	11%	8%	12%

立命・一体隔離型		開架閲覧室の選択理由						
回答者数		建物が近いから	静かで落ち着いているから	賑やか・会話できる環境があるから	学習ツールが利用できるから	空調・明るさがいいから	空席があるから	その他
445人								
LCの選択理由	建物が近いから	4%	16%	0%	14%	9%	4%	8%
	静かで落ち着いているから	1%	2%	0%	2%	1%	1%	1%
	賑やか・会話できる環境があるから	2%	11%	1%	9%	4%	3%	6%
	学習ツールが利用できるから	12%	61%	1%	52%	27%	15%	29%
	空調・明るさがいいから	1%	4%	0%	3%	3%	1%	3%
	空席があるから	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	その他	3%	7%	0%	6%	5%	2%	5%

京産・分棟単独型		開架閲覧室の選択理由						
回答者数		建物が近いから	静かで落ち着いているから	賑やか・会話できる環境があるから	学習ツールが利用できるから	空調・明るさがいいから	空席があるから	その他
278人								
LCの選択理由	建物が近いから	5%	23%	1%	16%	9%	6%	12%
	静かで落ち着いているから	13%	26%	3%	11%	11%	4%	9%
	賑やか・会話できる環境があるから	2%	16%	0%	10%	4%	2%	6%
	学習ツールが利用できるから	11%	21%	1%	12%	9%	3%	9%
	空調・明るさがいいから	4%	12%	1%	9%	9%	1%	6%
	空席があるから	4%	8%	0%	4%	5%	3%	4%
	その他	5%	19%	1%	13%	8%	3%	10%

「学習ツール」が61%で、開架閲覧室には静かな場所を、LCではPCやプリンターなどの学習ツール求めている。[梶山・一体隣接型]もそれらの使い分け利用が45%と[分棟型]に比べて高い傾向がみられる。また[立命・一体隔離型]は、両環境を学習ツールがあるとした割合も52%と高い。図書資料やPC利用に関する利用目的(表6-4)が使い分ける利用者で高いことを考えると開架閲覧室で図書資料をLCでPC等を求めていることになる。

[中部・分棟併設型]は、「開架閲覧室-学習ツール/LC-静かな場所」が35%となった。開架閲覧室利用者の図書資料に関する利用目的は、低いが多く求めるため当該の組み合わせが高くなったと考える。以上のように[一体型]と[分棟型]では、使い分け行動の選択理由が異なる。

6.4.3 分棟型における静かで落ち着いた場所を求める利用者の座席選択

同形態利用者の多くは、開架閲覧室とLCを静かな場所と認識して使い分けており、それらは[分棟型]と[梶山・一体隣接型]で比較的多くみられている。そこで、分棟型の同形態利用者の図書館とLCの両方を「静かな場所」と選択した利用者(LCQ、LBQ)とそれ以外(LCO、LBO)に分けて^{注6-5)}座席選択をみた(表6-7)。なお本節は、各エリアの会話率(図6-2、表6-8)やPCの設置状況などをもとに分析した。なお、ここでは一人の利用者が2つの場所を必ずしも選択しているとは限らない。そのため、静かな場所として利用している人がどこなのかをみていく。

注6-5) 本節では静かな場所とした来訪理由を対象に分析し、主に4つの利用者で分類している。詳しくは下記の表6-7に示す。

表6-7 静かな場所を選択した利用者における選択場所のクロス表

学習場所	選択理由	LC	
		静かな場所	それ以外
図書館	静かな場所	LBQ LCQ	LCO
	それ以外	LBO	

詳しい説明

LBO: LCを静かな場所として、図書館をそれ以外の理由で使い分ける利用者

LCO: 図書館を静かな場所として、LCをそれ以外の理由で使い分ける利用者

※LBQとLCQはアンケートの配布場所で異なる

LCQ: LCも静かな場所を使い分ける利用者

LBQ: 図書館も静かな場所を使い分ける利用者

(1) 中部・分棟併設型

図書館のLCQ(LCも静かな場所として利用)利用者は2aが11%と多い。ここは会話率5%と低いことから、LCより図書館が静かな場所として使い分けている。また会話ができる1dは、LCO(LCは静かな場所以外の理由として利用)利用者が多く、周辺の静けさに対する選択ではないため、グループで図書などの学習ツールを理由にした選択と考えられる。会話率が比較的高かった1c(会話率26%)は、カウンター席で個人利用が多く見られていたが、LCQ利用者が多い結果であった。これは図書館内のラーニングスペースと別棟のLCの両方を利用している結果であり、静かな場所の中にも、違った静けさや賑やかさを選択していると思われる。

LCのLBQ(図書館も静かな場所として利用)利用者では、静かな場所の2b(会話率52%、しかし占有率4%)や3d(会話率1%)の割合が29%、20%とLBO(図書館は静かな場所以外の理由として利用)利用者より高い。そのため図書館を静かな場所として選択している。

(2) 京産・分棟単独型

図書館でLCQ利用者の3aは、20%とLCO利用者との差が最も大きい。3aは前面に衝立のある机で、会話率が0%であり、その周辺(3b、3g)も静かな

利用者 151 人^{注6-6)} 中、41 人 (27%) であった。

最も多い組み合わせは「地上階と地下階」46%で、静かな場所と賑やかな場所を使い分け、多くが個人利用であった。また4割が地上階の中で使い分けていた。

6.5 まとめ

本章では、利用者が状況に応じて複数の場所を選択する使い分け行動に着目した。LCの設置形態の違う4大学から、使い分け利用者の割合、利用人数、使い分け理由と座席選択を明らかにした。

6.5.1 使い分け利用の割合と利用人数

- 1) 開架閲覧室とLCを使い分ける人の割合は、一体隔離型が最も高く74%、一体隣接型は最も少なく28%、分棟型は50%程度であった。
- 2) どの大学も開架閲覧室とLCを共に個人で使い分ける割合が最も多く、全体で42%であった。中でも一体隣接型は56%で最も高い。

6.5.2 同じ利用人数での使い分け理由

利用人数の異なる使い分けは、会話規則の可否と会話率の高低で行われている。しかし、同じ利用人数での使い分け行動には、利用人数の影響を受けず、開架閲覧室とLCそのものに選択要因があると考え、同じ利用人数に着目した。

- 1) 一体型では、開架閲覧室を「静かで落ち着いている」、LCを「学習ツールがある(PC・印刷)」での使い分けが主である。
- 2) 一体隣接型は、上記の理由に次いで、開架閲覧室とLCを「静かで落ち着いている」として使い分ける人がいる。
- 3) 分棟型は、開架閲覧室とLCを「静かで落ち着いている」が2割以上みられ他の理由に比べて最も高い。その利用者の座席選択をみると、開架とLCで会話率の違う席を選択する傾向を捉えた。

6.5.3 LCの設置形態と会話率の関係

1) 会話率に応じた座席の選択肢が少ない一体隔離型

一体隔離型は、LCと開架閲覧室が区切られ、LCは部屋として捉えられることで、場所の静けさや落ち着きやすさとして使い分ける理由は少ない。

2) 図書館内に会話率の高低の座席をもつ一体隣接型

使い分けている人自体が少ない要因は、開架閲覧室とLCが連続的に繋がり、館内全体が利用できるからである。

3) 開架閲覧室とLCが合わさることで会話率の高低の座席をもつ分棟型

分棟型の2つは、開架閲覧室とLCが足し合わさることで、会話率が低い席から高い席まで幅広い座席が選択でき、開架閲覧室とLCでそれぞれ会話率の違う席を選択して使い分けることができたと考える。

第 7 章 結論

第7章 結論

本章では、研究のまとめを行う。

7.1 まとめ

7.1.1 開架閲覧室とLCの現状と計画の課題

まず、日本の開架閲覧室及びLCの現状を把握し、計画課題を抽出するために、東海北陸甲信越地方にある大学図書館へのアンケートから学習場所の整備状況を整理した。

LCは7割設置され、図書館の一部を改修して整備する事例が多い。開架閲覧室は従来通り、個人用として会話を禁止している。LCは、グループ用として利用人数に基づいて計画されている場合が多い。また、LC導入後、図書資料や学習支援の充実を検討し、空間や座席の見直しの予定はほとんどない。

開架閲覧室だけでなくLCが学習場所として中心的な役割を示している。開架閲覧室とLCを個々に捉えるのではなく総合的に検討すること、利用者の実態を通して検討することの重要性を提示した。

7.1.2 学部生と学習目的の高さ及び着座への要求

開架閲覧室とLCでどのような利用がされているかの全体像を把握するために、利用者の属性、利用頻度、目的、行為から明らかにした。

その結果、開架閲覧室とLCは、学部生中心の学習の場所であること、自分の意志で過ごしたい座席を選択している施設であった。一方で、近年の潮流として交流などがキーワードになって施設整備が進められているが、交流を求める学生は非常に少なかった。

そして、本研究が捉えようとしている学習活動と個々が主体的に選択する場所の選択行動の分析が可能であることを示した。

7.1.3 学習媒体及び利用人数からみた来訪理由と滞在場所

利用する学習媒体や利用人数の違いで開架閲覧室とLCの利用に対する要求や、利用する場所が異なると考えた。そこで、学習利用者に着目し、学習媒体を図書、PC、併用、持込の4つ、利用人数を個人とグループに分けて来訪理由と滞在場所を明らかにした。

(1) 全ての学習利用者が求める静かさと落ち着きのある場所

開架閲覧室及びLCの来訪理由は、どの学習媒体、利用人数でも「静かで落ち着いている」が最も高いことが分かった。グループ利用は、会話目的の利用者が多いと思われたが、「静かで落ち着いている」に比べ「賑やかで会話がで

きる」とした理由が少ない。

(2) 開架閲覧室が個人、LCがグループだけではない滞在利用

静穏が前提の開架閲覧室で会話をするグループ利用がみられたり、会話のできるLCで個人利用があり、必ずしもLCがグループ利用の場所だけなかった。

7.1.4 学習活動ごとの開放度と会話率からみた座席選択と選択理由の関係

2つの利用人数と4つの学習媒体の組合せで区分される8つの学習活動毎に、選択理由と場所に対する座席の開き具合を示す「開放度」と場所周辺部での「会話率」の違いから座席選択場所を分析した。

その結果、学習活動によって選択場所の状況が異なり、学習媒体を持たない利用者は会話率が低く、閉鎖的な座席を選択し、学習媒体を持たない利用者は会話率が高く、開放的な座席も選択する傾向がある(図7-1)。

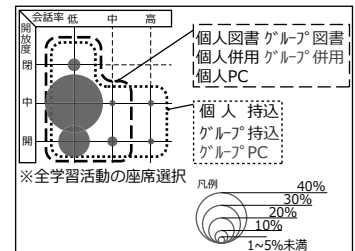


図7-1 学習活動別の座席選択の違い
(5.5 まとめて記載した図を簡略化している。)

(1) 会話率が高く開放的な座席を選択する持込利用とグループPC利用

個人、グループ共に学習媒体を持ち込んでの利用や、グループでPCを利用する場合は、会話率の高い席や開放的で会話率が中程度の席を選択している。その選択理由は「会話行為への要求」、「集中・作業」、「他者からの視線」、「リラックスできる」であった。これらの理由に対応した席を会話率の低い静かな席だけでなく、複数持ち合わせている。

(2) 会話率が低く閉鎖的な座席を選択する図書、併用利用と個人PC利用

個人グループの図書、併用と個人PCの学習活動は、会話率が高い席の選択はみられない。学習媒体を持たない場合は、図書・PCが利用しやすいとして、会話率が低い席を選択する。グループの図書、併用は、会話利用をあまり求めないため、会話率の高い席は選択されない。

7.1.5 LCの設置形態における場所の使い分け行動と会話率の関係

利用者が状況に応じて複数の場所を選択する使い分け行動に着目した。LCの設置形態の違う4大学(一体隣接型、一体隔離型、分棟併設型、分棟単独型)の使い分け利用者の割合、利用人数、使い分け理由と座席選択から使い分け行動を明らかにした。

その結果、LCの設置形態の違いで使い分け利用の割合、利用人数、理由は異なり、学習場所に会話率の低い席から高い席までが幅広く用意されているかどうかに関係していた(図7-2)。

(1) 図書館内に会話率の高低の座席を有する一体隣接型

一体隣接型は、使い分けしている人自体が少ない。その要因は、会話率によって開架閲覧室とLCを使い分けしていないからであった。開架閲覧室とLCが連続的に繋がり、館内全体に会話率が低い席から高い席までが内包されたため、開架閲覧室にもLCにも多様な選択肢ができたからであった。

(2) 会話率による座席の選択肢が少ない一体隔離型

一体隔離型は、利用する媒体による使い分けが中心で、静けさや落ち着きやすさとして利用する理由は少ない。その要因は、LCと開架閲覧室が区切られたことでLCが独立し、段階的に会話率の高低がある席が形成されなかったからと考えられる。

(3) 会話率の高低の座席を有する分棟型

分棟型は、静かで落ち着いているとした使い分けが最も多く、それらの利用者は、開架閲覧室とLCでそれぞれ会話率の違う席を選択して使い分けしている。その要因は、LCの面積を十分確保したことで、会話率の異なる席がつけられたからである。そのため開架閲覧室とLCが足し合わさることで、会話率が低い席から高い席まで幅広く選択できる。

LCの設置形態	一体隣接型	一体隔離型	分棟併設型	分棟単独型
使い分けの人の割合	39%	79%	49%	59%
使い分けの利用人数	57%	54%	54%	48%
使い分け理由	23% 静かで落ち着くとして開架を利用する 23% 静かで落ち着くとして開架を利用する	2%	38%	38%
選択している座席 (5章における大学ごとの座席選択)	会話率 低 中 高 開放度 閉 中 開 開架閲覧室とLCが連続的に繋がることにより、館内一体で様々な会話率の形成され、選択できる。	会話率 低 中 高 開放度 閉 中 開 開架閲覧室とLCが隔離されたことで、LCを「部屋」として捉え、多様な会話率は形成されない。	会話率 低 中 高 開放度 閉 中 開 開架閲覧室とLCを足し合わせることで多様な会話率を持つ。分棟したLCは、図書館内に比べて自由度が高く、LCを広くつくることで、会話率の違う座席が形成された。	会話率 低 中 高 開放度 閉 中 開 開架閲覧室とLCを足し合わせることで多様な会話率を持つ。分棟したLCは、図書館内に比べて自由度が高く、LCを広くつくることで、会話率の違う座席が形成された。
特徴	開架閲覧室とLCが連続的に繋がることにより、館内一体で様々な会話率の形成され、選択できる。そのため、使い分け利用が開架閲覧室とLCだけでなく、館内全体を利用できる。	開架閲覧室とLCが隔離されたことで、LCを「部屋」として捉え、多様な会話率は形成されない。静かで落ち着くといった場所として使い分けすることができない。	開架閲覧室とLCを足し合わせることで多様な会話率を持つ。分棟したLCは、図書館内に比べて自由度が高く、LCを広くつくることで、会話率の違う座席が形成された。そのため、静かで落ち着くといった場所として使い分け、会話率の異なる座席選択ができた。	開架閲覧室とLCを足し合わせることで多様な会話率を持つ。分棟したLCは、図書館内に比べて自由度が高く、LCを広くつくることで、会話率の違う座席が形成された。そのため、静かで落ち着くといった場所として使い分け、会話率の異なる座席選択ができた。

図 7-2 LCの設置形態からみた使い分け行動の違いと開放率と会話率による座席選択

7.2 学習場所整備に向けた計画の知見

ここからは、自主学習のために、どのように学習場所を整備していくべきか、得られた知見から計画の指針を提案していく。

7.2.1 開放度と会話率の「選択肢」の重要性

まず学習利用者は、学習場所を選択する際、自宅やその他の学習場所に比べて、開架閲覧室やLCを静かに落ち着いた場所として利用している。選択理由からは、他人の視線が気にならないからといった選択理由もあったり、巡回プロット調査では、人混みの中で学習している様子を何度も捉えた。学習活動によって座席の選択は異なり、開放的な場所から閉鎖的な場所、会話がしやすい場所からしにくい場所まで様々な好みの場所をもっている。

そのため、開架閲覧室とLC内には、様々な学習活動に対応した開放的な場所から閉鎖的な場所、会話がしやすい場所からしにくい場所までの「選択肢」が必要になると考える。「選択肢」を構築していくことが、学生の主体性を生み自主学習を促すきっかけになる。

さて、学習媒体を持ち込む利用者は、自分の勉強をする場所として求める利用者が多く、集中できる場所や視線を遮る場所を複数持ち合わせている。つまり資料の充実だけでなく、選択肢のある場所が整備されることで、これまで来訪しなかった利用者を増やすことができる。そして、選択肢を設けることで場所を使い分けて利用することも可能である。

7.2.2 多様な会話率の創出

学習場所に対して、会話禁止から会話可能まで段階的に規則を設ける必要があると考える。この際、会話規則のルールだけでなく、建築的な仕掛けが重要になる。ここでは会話規則の設定を前提にし、座席配置や机・椅子の形状、座席を取り巻く周辺の什器を検討する。

(1) 会話を生む場所の計画（会話率の高い場所）

会話可能な場所に、利用者が周囲にいることが感じられ、会話をしやすくなることが重要である。逆を言えば、利用者が少なく、まばらであると周囲を意識してか会話は起こりにくい。またグループ同士が近すぎて密になり過ぎても隣を意識して会話が生まれにくい。

会話可能な場所に利用者を増やすには、エントランスフロアを中心に館内で最もアクセスが良い場所にすることが望まれる。そして、できるだけグループ利用者が専有できる場所とする必要がある。

机・椅子の形状は、大きな机であること、ソファ席であることが望ましいと考える。大きな机は、会話利用の頻度が多くなる3人組以上のグループ利用に対応できる。ソファ席は、背もたれの高いタイプが望まれる。その際、ソファを対面で配置することでより会話行為が生まれやすくなる。

座席を取り巻く周辺の什器については、ホワイトボードと授業課題で利用する図書がまとめて配架された書架を設置することが望まれる。ホワイトボードの設置方法は、他の利用者から干渉されないよう、隣同士が仕切られた壁掛けのタイプが望まれる。もちろんホワイトボードの利用によって、議論がしやすくなると思われるが、他者からの視線を遮り、グループ学習者自身が自分達の空間として意識できるという点で有効と考える。授業課題で利用する図書資料は、グループで利用される場合が多いため、会話率を高める。

実際に計画する際は、これら各要素を組み合わせる必要がある（図7-3）。また、様々な開放度に対応して各要素を組み合わせられた計画が求められる。例えば、中程度の開放度だけでなく、開放度の高い場所でも会話を生む計画を考えなければならない。

また、個人利用でも会話率の高い場所を選択するため、上述した机・椅子付近、それらの周辺部にカウンター席、あるいは一人で掛けれる席を設ける必要がある。

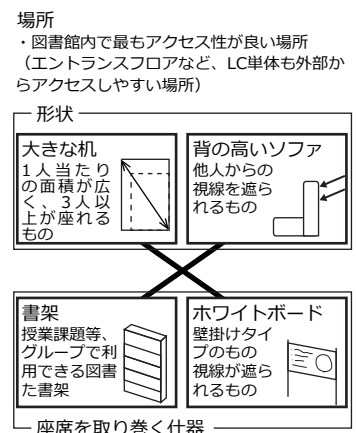


図7-3 会話を促すための要素

(2) 静かな場所の計画

会話禁止の規則を前提に、会話を伴うグループ利用者の利用を防ぐことが重要である。机に仕切りのある席を積極的に設け、隣同士で干渉しないようにすること、壁や書架で死角になるような場所に大きな机のグループ席の設置を避けること、は静かな場所を作り出せると思われる。

その他、静かな場所を担保するために、グループ利用者の逃げ場である会話ができる場所を確保することも重要になる。

(3) 中間的に賑やかな場所の計画

開架閲覧室と LC を物理的に仕切られることで、会話率による多様な場所が生まれにくいことを整理した。そのため、個々の部屋として独立した空間とするのではなく、連続させ中間的に賑やかな場所を作ることが学習場所づくりにおいて非常に重要である（図 7-4）。先の（1）、（2）の場所が同一空間であり、それらと接続していることで、中間的に賑やかな場所を作り出せる。

その場所での設えは、前面が壁や窓によって構成しているカウンター席や、2人掛けのデスクなどが求められ、個人から2人組程度のグループに対応できるようにすることが望ましい。

これからの学習場所は、シーンとした静寂な場所だけでなく、少しざわつきのある中間的な賑わいがある学習場所が求められている。

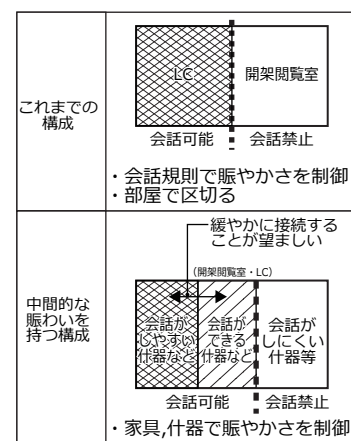


図 7-4 中間的な賑わいのある場所の構成モデル

7.2.3 学習活動に対応した開放度と会話率

現在、開架閲覧室が個人用、LC がグループ用として計画・運用がなされている。しかし、それらの学習場所と利用人数の選択行動は必ずしも合致するわけではない。そのため、利用人数を計画・運用要素に盛り込むのではなく、目的（本研究では学習媒体）にも対応させて、座席の配置を行う必要があると考える。ここでは、本研究で分類した4つの学習媒体ごとにどのような座席を提供すべきかを検討したい。

(1) 持込利用者

持込利用者は、開架閲覧室や LC 内の学習ツールを求めず、座席の周辺環境を意識している。4つのタイプの中でも最もバリエーションが求められる。中でも会話を生む場所は、その他の学習媒体利用に比べ最も選択しているため、整備が重要になる。個人の持込利用については、周囲の賑やかさを許容できるよう、会話がしやすい場所での個人掛けの席が望まれる。また、開放度は、中程度から高を積極的に整備したい。

(2) 併用利用者

個人グループ共に、図書、PC の両方の利用がしやすく、会話率が低い、やや閉鎖的な場所が求められている。特に壁や書架で囲まれたカウンタータイプの設置が望まれる。また、図書、PC が同時に広げられるよう、机の幅にゆと

りある座席は有効と考える。

(3) PC 利用者

個人、グループ共に、会話率の低い静かな場所を求め、電源タップがある場所に依存していない。むしろ静かな中にある様々な開放度や、印刷機、Wi-Fiに接続できる環境が求められている。

両サイドに仕切りがある閉鎖的な座席は、PC画面がみられず有効である。また、カウンタータイプで館内からアクセスしやすく、手軽に利用できる場所や、自分のPCから印刷ができる場所が望まれる。

(4) 図書利用者

図書利用者にとって、書架と近接することは選択要素の一つであり、素早い情報探索行動を可能にする。さらに、資料が広げやすい座席は重要であり、書架付近に仕切りのある狭い席を多く並べることは、図書利用者の場所を奪う恐れがあるため、注意するべきと考える。またグループ利用のためにも、会話がしやすい場所にも書架の設置が望まれる。

7.3 今後の課題

7.3.1 人的学習支援の学習場所として

本研究では、利用者に着目して、学習活動に即した開架閲覧室とLCの環境整備のためにどのような理由で、どの場所を選択しているかを分析してきた。しかし、環境整備においてLCの目標の一つである人的支援についての検討も必要と考える。授業方法が変化することで、学生支援の仕方も変わる。学生の学びたい意思を尊重することが大学の使命になりつつある。支援の内容や方法によって、設える環境は異なるべきと考える。教職員が学生を支援する際の行動、支援を受ける学生の行動把握から、人的支援を行う場所としての環境整備のありかを検討したいと考える。

7.3.2 調査方法

本研究の巡回プロット調査は、目視によって行動を観察してきたが、同一人物の行動であるのか、PCの画面や、開いている図書資料の分類などは把握できていない。特に図書館等はカメラの持込や個人の特定がされないような配慮が必要なため、調査の限界性を感じる。巡回プロット調査は、調査人数と巡回回数を考慮して、少ない利用者を対象にしてでも詳細なデータ収集を行う必要がある。

またアンケート調査では、利用する学習媒体を聞き、その違いから学習活動を読み取った。しかし、利用者が学習において置かれている状況（授業課題をやらなければいけないのか、資格試験が間近にせまっているのか）までは把握できていない。利用者がどのような状況下に置かれて利用しているのかの視点を分析の視点に加えることで、より計画に近い学習環境の提案が考えられる。

7.3.3 大学生の学習場所から地域の学習場所へ

2章でも述べたように、90年代から地域に開かれたキャンパスといったコンセプトを持つ大学が増え始めてきた。しかし大学図書館の利用は、管理運営上の観点からほとんどが学生利用である。今後は、公共施設維持の体力が厳しいとされ、大学と公共の図書館が一体で整備する事例が増える可能性が考えられる^{注7-1)}。そのため、学生の利用者層だけの学習環境ではなくなる可能性があり、地域に目を向ける必要があると考える。地域に開放する大学の学習環境の視点からの環境整備を模索したい。

注7-1) 大阪大学箕面キャンパス(外国語学部)では、2021年5月に、箕面市立図書館と一体化した新たな図書館を開館する予定・文7-1である。キャンパスにおける知の拠点として、教育研究の支援機能を果たすとともに、地域貢献の役割を担っていくとしている。

参考文献

文7-1) 大阪大学附属図書館：大阪大学箕面新キャンパス(令和3(2021)年度)における図書館について、掲載日2019年8月19日、<https://www.library.osaka-u.ac.jp/newlibrary2021/#overview> (最終参照日2020.10.10)

査読付き論文

- 1) 楠川充敏, 鈴木賢一, 中井孝幸: 大学におけるラーニングコモنزの設置形態別にみた学習環境の使い分け行動, 日本建築学会計画系論文集, 第 776 号, pp.2107-2117, 2020.10
- 2) 楠川充敏, 中井孝幸, 大山真司: 大学図書館における利用行動と座席周辺環境からみた学習空間の階層構造 - ラーニングコモنزのある大学図書館における「場」の階層性に関する研究・その 1, 日本建築学会計画系論文集, 第 732 号, pp.341-351, 2017.2
- 3) 楠川充敏, 鈴木賢一, 中井孝幸: 大学図書館の座席選択における利用者間の距離と視線の認識 - 大学キャンパス内の人的支援を有する学習環境の整備計画に関する研究その 2, 日本建築学会地域施設計画研究第 37 回, pp.107-114, 2019.7
- 4) 楠川充敏, 鈴木賢一, 中井孝幸: 大学図書館における場の階層構造に基づく学習環境の発展的な使い分け行動 - 大学キャンパス内の人的支援を有する学習環境の整備計画に関する研究その 1, 日本建築学会地域施設計画研究第 36 回, pp.161-168, 2018.7

口頭発表論文

- 5) 楠川充敏, 鈴木賢一, 中井孝幸: 大学図書館の開架閲覧室とラーニングコモنزにおける学生の集合形態と学習活動, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp.503-504, 2020.7
- 6) 楠川充敏, 鈴木賢一, 中井孝幸: 大学図書館の開架閲覧室とラーニングコモنزの学習活動からみた机上における学習ツールの利用と広げ具合の状況, 日本建築学会関東支部研究報告集第 90 号, pp.311-314, 2020.3
- 7) 楠川充敏, 鈴木賢一, 中井孝幸: ラーニングコモنزの設置形態からみた使い分け利用者の学習環境の選択行動, 日本建築学会東海支部研究報告書第 58 号, pp.381-384, 2020.2
- 8) 楠川充敏, 鈴木賢一, 中井孝幸: 大学図書館における座席タイプからみた利用者密度と視線の認識に関する研究, 日本建築学会東海支部研究報告書第 57 号, pp.393-396, 2019.2
- 9) 楠川充敏, 鈴木賢一, 中井孝幸: 大学図書館における入退館前後の活動場所からみた学生の座席選択行動, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp.503-504, 2018.7
- 10) 楠川充敏, 鈴木賢一, 中井孝幸: 大学図書館における学年ごとの利用からみた使い分け行動に関する研究, 日本建築学会東海支部研究報告書第 56 号, pp.421-424, 2018.2
- 11) 楠川充敏, 中井孝幸, 鈴木賢一: 場の階層構造に基づく学習環境の発展的な使い分け行動 - ラーニングコモنزのある大学図書館における学習環境の整備に関する研究その 2, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp.125-126, 2017.7
- 12) 中井孝幸, 楠川充敏, 鈴木賢一: 改修状況からみた大学図書館の学習環境の導入について - ラーニングコモنزのある大学図書館における学習環境の整備に関する研究その 1, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp.123-124, 2017.7
- 13) 楠川充敏, 北村風音, 大槻和義, 中井孝幸: 大学図書館における学習環境の使い分け意識からみた学習媒体と音環境の影響, 日本建築学会東海支部研究報告書第 55 号, pp.465-468, 2017.2
- 14) 楠川充敏, 中井孝幸: 利用形態からみた「場」の 6 段階選択における利用者分類, 日本建築学会東海支部研究報告集第 54 号, pp.389-392, 2016.2
- 15) 大山真司, 楠川充敏, 中井孝幸: 大学図書館における学習スタイルからみた図書館サービスと利用行動に

関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp.121-122, 2015.7

- 16) 楠川充敏, 大山真司, 中井孝幸: 学習形態と音環境からみた大学図書館における居場所の多様性—ラーニングコモンズのある大学図書館における「場」の階層性に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp.119-120, 2015.7
- 17) 大山真司, 楠川充敏, 中井孝幸: 大学図書館の改修による座席レイアウトの再構成からみた座席選択の指向性について, 日本建築学会東海支部研究報告集第 53 号, pp.413-416, 2015.2
- 18) 楠川充敏, 大山真司, 中井孝幸: ラーニング・コモンズの新設に伴う利用者意識の変化, 日本建築学会東海支部研究報告集第 53 号, pp.409-412, 2015.2

学校に関する研究

- 19) 李倩, 水谷文音, 楠川充敏, 鈴木賢一: 小学校職員室の機能と平面構成に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp.463-564, 2018.7
- 20) 楠川充敏, 河口名月, 中井孝幸: 学校図書館における利用行為からみた利用意識の変化について - 子どもの発達段階からみた学校図書館の活用に関する研究・その 2, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp.111-112, 2016.7
- 21) 河口名月, 楠川充敏, 中井孝幸: 児童生徒の読書習慣からみた学校図書館と公共図書館の相関性 - 子どもの発達段階からみた学校図書館の活用に関する研究・その 1, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 建築計画, pp.109-110, 2016.7

病院に関する研究

- 22) 田仲弘明, 楠川充敏, 鈴木賢一: 病院における救急スタッフの休憩実態, 日本建築学会東海支部研究報告書第 56 号, pp.453-456, 2018.2
- 23) 加藤実緒, 楠川充敏, 鈴木賢一: 病院のアプローチと待合室における歩行困難者に関する研究, 日本建築学会東海支部研究報告書第 57 号, pp.357-360, 2019.2

寄稿・著書

- 24) 楠川充敏: 学生の選択行動からみ多仕様型学習環境の構築 - 大学図書館とラーニングコモンズの使われ方を通して, 館灯 58 巻, pp.1-9, 2020.05
- 25) 楠川充敏: 第 4 章 学習環境としてのラーニング・コモンズの利用行動とデザイン, 原田昌幸監修, 芸術工学への挑戦「人の心と体に挑む環境デザイン」, 岐阜新聞社, pp.149-160, 2019.10
- 26) 中井孝幸, 楠川充敏: 図書館・図書館学の発展 - 2010 年代を中心に「施設計画と建築」, 図書館界 vol.70, No.1, pp.125-141, 2018.5
- 27) 図書館問題研究会編集: 第 63 回図書館問題研究会全国大会を通して, みんなの図書館 No.475 号, pp.2-6, 2016.10

これまで見学した大学【教職員のヒアリングあり】

国立大学

1. 東京大学（本郷）
2. 金沢大学
3. 筑波大学（筑波）
4. お茶の水女子大学
5. 千葉大学
6. 愛知教育大学
7. 三重大学

公立大学

8. 愛知県立芸術大学

私立大学

9. 東京女子大学
10. 明治大学（和泉）
11. 大正大学
12. 神田外語大学
13. 日本大学（文理学部）
14. 愛知大学（名古屋）
15. 愛知工業大学
16. 愛知淑徳大学（長久手）
17. 愛知学院大学（日進、名城公園）
18. 椋山女学園大学（星が丘）
19. 金城学院大学
20. 日本福祉大学（美浜）
21. 中部大学
22. 名古屋学院大学（名古屋、瀬戸）
23. 名古屋女子大学
24. 南山大学
25. 同志社大学（今出川）
26. 立命館大学（衣笠）
27. 京都女子大学
28. 京都産業大学
29. 関西大学（千里）
30. 武庫川女子大学
31. 大手前大学（さくら夙川）
32. 梅光学院大学
33. 西南学院大学

これまで見学した大学【施設見学のみ】

国立大学

34. 東北大学（青葉山）
35. 名古屋大学（東山）
36. 九州大学（伊都）
37. 岡山大学
38. 横浜国立大学
39. 名古屋工業大学

公立大学

40. 大阪市立大学（杉本）
41. 愛知県立大学
42. 名古屋市立大学
43. 広島県立大学
44. 高知県立大学

私立大学

45. 国際基督教大学
46. 東京農業大学
47. 東京経済大学
48. 東京理科大学（葛飾）
49. 立教大学（池袋）
50. 大同大学
51. 中京大学（名古屋）
52. 金沢工業大学
53. 同志社女子大学
54. 立命館大学（茨木）
55. 近畿大学（東大阪）
56. 大手門学院大学（茨木総持寺）
57. 大阪芸術大学
58. 福岡大学

謝辞

この論文は、大学4年生から取り組んできた調査、研究の成果をまとめたものです。多くの方のご指導、ご支援、ご協力頂き、論文としてまとめることができました。

本論文を執筆するにあたり、指導教員である鈴木賢一先生には、度重なるご迷惑とご面倒をおかけしました。まずは、得体の知れない私を4年間引き受けて下さり、ありがとうございます。鈴木先生には、常に変わらない姿勢で、多角的な視点でご指導いただきました。終始できの悪い学生でしたが、辛抱強く見守りいただきました。この4年間、なんとか研究生活が送れたのも先生のおかげです。心よりお礼申し上げます。

本論文の副査をお願いしました伊藤恭行先生、原田昌幸先生、中井孝幸先生には、お忙しい中、何度も審査会を開催していただき、説明能力が皆無の私に、丁寧にご指導下さいました。本当にありがとうございます。伊藤先生には、設計にどのように生かすかについての導き方をご教授いただきました。原田先生は、本の執筆からお世話になり、丁寧な言葉遣いに対して多く学ばせていただきました。

また大学生の学習施設に興味を持っていた私に、大学図書館、ラーニングcommonsのフィールドを教えてくれたのは、中井孝幸先生です。中井先生には、愛知工業大学在学時の学部4年から前期課程修了まで研究に対する基本的な知識等様々な事を教わりました。後期課程進学後もお忙しい中、何かと面倒見て頂きました。丁寧にご指導ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

また本学、佐藤泰先生には、研究に対する姿勢や励ましの言葉頂きました。ありがとうございます。

さらに調査にあたり各館の館長様、ならびに職員の皆様には、お忙しい中調査の段取りを図って頂き、また館内のデータ資料の提供などのご協力に感謝を申し上げます。ありがとうございました。アンケート調査において快くご記入いただいた各大学生の皆様にもお礼申し上げます。

長時間に及ぶ調査やデータ作成の中、ご協力して下さいました名古屋市立大学鈴木研究室、愛知工業大学中井研究室的皆様には、多大なる尽力と集計、分析にご協力していただきました。皆さんがいなければ本論文は、完成していません。本当にありがとうございます。

また、同じ研究室の博士後期課程に在籍する高野真悟さん、Pietro Vecchiさんにはどれだけ勇気づけられたかわかりません。コロナ渦で会えない日が多かったですが、一緒にいた時間は、僕にとってすごく楽しかったです。またいろんなことを知るきっかけにもなりました。

その他、数えきれない友人、諸先輩にお世話になりました皆様のお名前を申し上げたいところが割愛させていただきます。皆さん本当にありがとうございました。

学部から修士、博士へと進学を認めてくれ、様々なことに悩んだ時にいつも励ましてくれたのは父・量啓、母・清子と妹・裕子です。特に今年になってからは、電話の度に悲しい思いをさせてしまいました。ありがとう。

最後に祥子には、自身の博士論文の執筆が忙しいにもかかわらず、気を配っていただき支えていただきました。本当にありがとう。

2021年3月12日

楠川充敏

付録

来館者アンケート調査票	・・・1
大学図書館の整備状況に関するアンケート調査票	・・・12
定点観察時のアンケート調査票	・・・14
大学図書館の整備状況に関するアンケート調査の回収館の概要	・・・15
大学図書館の年代順の竣工一覧	・・・17
巡回プロット調査票	・・・20
定点観察調査票	・・・40

入館時間 : 連絡時間

お振りの際、出入口の調査員にお渡しください。 調査のお願い。 利用者が求める「学習環境の場」としての図書館に関する研究を行っています。

図書館に関するアンケート調査

問1 あなたの性別、学年、所属等をお書き下さい。 問2 あなたの専攻する学部・研究科は何ですか。 問3 あなたは、今日この図書館にA.来館する面はどこから来ましたか。 問4 今日、どなたと一緒に来ましたか。 問5 あなたは、この図書館をどの程度利用していますか。 問6 今日は、この図書館にどのような目的で来ましたが。 問7 利用する学習ツールと、その学習ツールを使って、どのような勉強を行いましたか。 問8 あなたにとってこの図書館はどのようなところだと考えていますか。 問9 あなたが、日ごろこの図書館を利用する理由は何ですか。 問10 あなたは、日ごろこの図書館で学習する際どのようなものを使用しますか。

問11 この図書館で「一人で利用」「二人以上で利用」をする時、a~fの活動をどこでやるか。 または、行きたいですが、右の太枠よりA~Cのそれぞれにつき1つずつ選んで【】の、最もあてはまる数字に○をしてください。その活動を行わない場合はアルファベットにXをして下さい。

問12 あなたは、日ごろ「この図書館」と「キャンパス内の他の学習スペース」を使い分けて利用していますか。 a.利用している理由とあれば部屋の名称を記入して下さい。 aで「1」を選んだ人は、b.利用する際の回帰形態、c.使い分けている理由を教えてください。

問13 あなたがこの図書館の最もよく利用する座席に☆印をして下さい。またその理由もお答えください。 図13 図書館の1階、2階、3階の座席配置図。よく利用する座席を選んだ理由(○は一つだけ)。

問14 図書館がよりよいサービスを提供するため、よいと思われるものはなんですか。(○は一つだけ) 1.図書資料の充実 2.利用のしやすさ 3.静かな学習環境の充実 4.グループでの学習環境の充実

名古屋大学大学院芸術工学研究科鈴木研究室

購読のお問い合わせ先
利用者が求める学芸書以外の目的には使用致しません。ご協力をお願いします。

下記の□の中に入力してください
記入しない場合は「-」で

お申し込みの際、出入口の調査員にお渡しください

図書館に関するアンケート調査

問1 あなたの性別、学年、所属等をお書き下さい。(○はいくつでも)

問2 あなたの専攻する学部・研究科は何ですか。(○は一つだけ)

問3 今日は、どなたと一緒に来られましたか。(○は一つだけ)

問4 今日は、この図書館にどのような目的で来ましたか。(○はいくつでも)

問5 問4で「1.一人で勉強をするため」「2.友人と一緒に勉強をするため」を選択した人にお尋ねします。どのような勉強をしに来ましたか。(○はいくつでも)

問6 この図書館に来た時の利用しているエリアについてお尋ねします。利用しているエリアを2ヶ所まで挙げてお答えください。

問6-1 a.利用している場所はどこですか。そのb.利用頻度と、c.利用する時の利用人数と、d.選択している理由を教えてください。

利用している場所(○は一つだけ)
1. ラーニングコモンズ(サークル)
2. プラザシンクコーナー
3. 一階 情報検索コーナー
4. AVコーナー
5. 一階 ラーニングエリア
6. 二階 ラーニングエリア
7. 三階 グループワーク
8. 三階(個室)グループワーク
9. 地下一階 ラーニングエリア
10. 地下二階 ラーニングエリア
b.aで選択した場所の利用頻度(○は一つだけ)
1. ほとんど毎日
2. 一週間に1回
3. 二週間に1回
4. 三週間に1回
5. 月に1回
6. 二、三ヶ月に1回
7. 年に2、3回
8. 二週間に1回
9. 年に1回
c.aで選択した場所の利用人数(○は一つだけ)
1. 一人での利用が多い
2. 二人以上の利用が多い
3. 一人、二人以上の利用は同じくらい
d.aで選択した場所の利用している理由(○はいくつでも)
1. 出入口から近い
2. 静かで落ち着いている
3. 賑やか・会話できる
4. 図書資料が近くにある
5. PCの利用がしやすい
6. ネット環境が整っている
7. 空間の明るさや空調が良い
8. 印刷機が利用できる
9. 空の明るさや空調が良い
10. いつも座席が空いている
11. 図書館自体が近いから

問6-2 a.もう一つの利用している場所はどこですか。そのb.利用頻度と、c.利用する時の利用人数と、d.選択している理由を教えてください。

利用している場所(○は一つだけ)
1. ラーニングコモンズ(サークル)
2. プラザシンクコーナー
3. 一階 情報検索コーナー
4. AVコーナー
5. 一階 ラーニングエリア
6. 二階 ラーニングエリア
7. 三階 グループワーク
8. 三階(個室)グループワーク
9. 地下一階 ラーニングエリア
10. 地下二階 ラーニングエリア
b.aで選択した場所の利用頻度(○は一つだけ)
1. ほとんど毎日
2. 一週間に1回
3. 二週間に1回
4. 三週間に1回
5. 月に1回
6. 二、三ヶ月に1回
7. 年に2、3回
8. 二週間に1回
9. 年に1回
c.aで選択した場所の利用人数(○は一つだけ)
1. 一人での利用が多い
2. 二人以上の利用が多い
3. 一人、二人以上の利用は同じくらい
d.aで選択した場所の利用している理由(○はいくつでも)
1. 出入口から近い
2. 静かで落ち着いている
3. 賑やか・会話できる
4. 図書資料が近くにある
5. PCの利用がしやすい
6. ネット環境が整っている
7. 空間の明るさや空調が良い
8. 印刷機が利用できる
9. 空の明るさや空調が良い
10. いつも座席が空いている
11. 図書館自体が近いから

2019.11.28 稲山女子園大学中央図書館

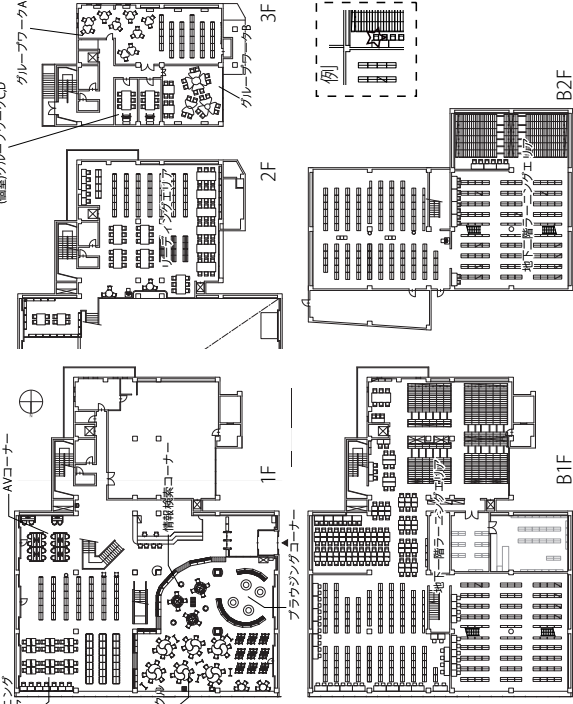
入館時間

退館時間

問7 あなたは、日ごろこの図書館で学習する際どのようなものを用いますか。(○はいくつでも)

問8 あなたは、今日この図書館に△来る前はどこから、図書館を出た後はどこに行く予定ですか。

問9 あなたがこの図書館の最もよく利用する座席に☆印をして、その理由もお答えください。



最もよく利用する座席を選んだ理由(○は一つだけ)

ご意見やご要望があれば自由にお書きください。ご協力ありがとうございます。

(記入欄)

愛知学院大学 2014.10.16

お帰りの際にお渡しください

調査のお願い
利用者が求める「場」としての図書館に関する研究を行っています。得られた調査結果は研究以外の目的には使用致しません。ご協力をお願い致します。

入館時間

退館時間

愛知工業大学工学部建築学科中井研究室

図書館に関するアンケート調査

問1 あなたの性別、学年、所属等をお書き下さい。

1. 学部()年	2. 修士()年	3. 博士()年
4. 教員	5. 職員	6. その他()

問2 あなたの専攻する学科は何ですか。(○は一つだけ)

1. 歴史学科	3. 国際文化学科	4. グローバル英語学科
5. 宗教学科	7. 健康科学科	8. 健康栄養学科
9. 商学科	10. 経済学科	12. 法律学科
13. 現代社会学科	14. 総合政策学科	16. 歯学科
17. その他()		

問3 今日は、どなたと一緒に来ましたが。(○は一つだけ)

1. 一人で	2. 友人と(本人)()名	3. その他()
--------	----------------	-----------

問4 あなたは、この図書館をどの程度利用していますか。(○は一つだけ)

1. ほとんど毎日	2. 一週間に2,3回	3. 一週間に1回	4. 二週間に1回
5. 月に1回	6. 二ヶ月に1回	7. 年に2,3回	8. 年に1回
9. 初めて来た	10. その他()		

問5 今日は、この図書館にどのような目的で来ましたが。(○はいくつでも)

1. 本を借りるため	3. 本・資料等を探するため
2. 本を読むため	6. DVD・ビデオ等を鑑賞するため
4. 雑誌を読むため	9. PCで文章、レポートを作成するため
7. 雑誌を読むため	11. 一人で勉強をするため
10. PCでデータベースを利用するため	14. 友達と一緒に勉強するため
13. 友人とおしゃべりするため	17. 授業で利用するため
16. ゼミ、サークルで利用するため	18. かつらぐため
19. 印刷するため	20. その他()

問6 あなたは、どのような種類の図書資料をよく利用していますか。(○はいくつでも)

1. 新聞	3. 学術雑誌	4. 辞書、辞典など
5. 一般的な図書	7. 白書・統計書	8. フォトベース
9. DVD、CD等視覚資料	10. WEBサイト	12. 資格本
13. この図書資料も利用しない	14. その他()	

問7 あなたにとって図書館はどのようなところだと考えていますか。(○はいくつでも)

1. 本を借りる場所	3. 知りたこと、調べたいこと、聞きたいこと、調べたいこと、聞きたいこと、調べたいこと、聞きたいこと
2. 本を読む場所	6. 友人、知人と交流を深めたいところ
4. 自分の勉強する場所	9. 気分転換する場所
7. 興味を深めたい場所	12. CD、ビデオ、DVDを利用する場所
10. 雑誌を読む場所	15. 先生と一緒に学習、議論する場所
13. PCを使う場所	18. 多様な空間が用意されている場所
16. 友人と一緒に学習、議論する場所	
19. その他()	

問8 あなたは、借りたり、読んだりする図書、資料をどのように探しますか。(○はいくつでも)

1. レファレンスデスク(相談など)を利用する	3. 館外のPCで調べてから来る
4. 館内のOPAC(PCの蔵書検索機)を利用する	6. サービスデスクの職員に聞く
5. フロア内で作業中の職員に聞く	7. 探し方
8. その他()	

問9 あなたは、この図書館が2014年4月のリニューアルオープンする以前と比べて、利用の頻度は変わりましたか。(○は一つだけ)

1. 増えた	2. 減った	3. 今まで利用したことなかったが利用するようになった	4. リニューアルオープン前の図書館を知らない
--------	--------	-----------------------------	-------------------------

問10 リニューアルオープンすることによって良くなった場所、悪くなった場所は何ですか。(○は一つずつ)

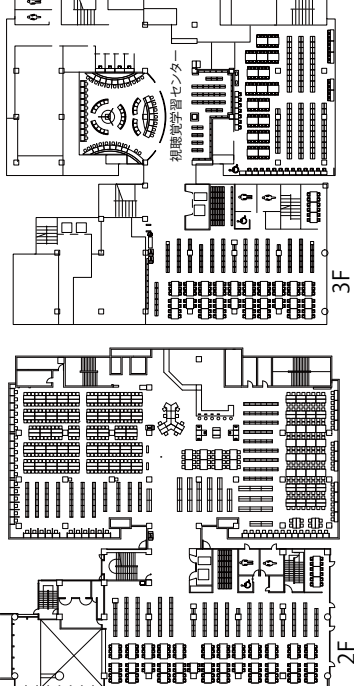
場所	1. ラーニング・コモンズ	2. 情報検索コーナー	3. 一階書架・閲覧席	4. 二階書架・閲覧席
理由	1. 一人での利用がしやすい	2. 2人以上での利用がしやすい	3. 水分補給ができる	4. 図書を探しやすい
	5. 静か	6. PCが利用できる	7. 充電できる	8. その他()
	9. 7. 明るく	10. PCが利用できる	11. ノートPCが利用できる	
	11. 10. 明るく	12. PCが利用できる		
	13. その他()			

問11

リニューアルオープンする前とした後は、図書館以外のどこで学習活動をしてきた、またはしていますか。

1. 図書館だけを利用	2. 他の場所を利用(下の欄)に記入して下さい
リニューアルオープンする前	リニューアルオープンした後
場所	場所
理由	理由

問12 あなたがこの図書館の最もよく利用する座席を○で囲んでください。その理由もお書きください。



よく利用する座席を選んだ理由(○は一つだけ)

1. 利用する書架の近くだから	12. その他()
2. 周りの雰囲気によさ	
3. 他人の視線が気にならないため	
4. 図書・資料を広げられるため	
5. 作業のしやすさ	
6. 座り心地が良いから	
7. 周りが静かだから	
8. 暖かっているから	
9. 外の風景が見えるため	
10. リラックスできるため	
11. 友人と座るため	
12. 窓際で明るいから	
13. パソコンがあるから	
14. 充電できるため	
15. 開放的だから	
16. 開架的だから	
17. 集中できるから	
18. しゃべれるから	
19. 水分が取れるから	
20. 周りの人が勉強している	
21. 周りのグループが勉強している	
22. よく席が空いているため	
23. その他()	

問13 図書館がよりよいサービスを提供するために、あなたのご意見やお考えをお尋ねします。

よくと恐れるものを運んでください。(○はいくつでも)	よくと恐れるものを運んでください。(○はいくつでも)
1. 専門書や参考資料などの充実	2. 電子情報 (E-Book, E-Journal) の充実
3. CD/DVDの充実	4. 一般雑誌、漫画の種類の充実
5. ノートPCの貸出し台数を増やして欲しい	6. 図書を見つつけやすくして欲しい
7. 閲覧席やソファなども増やして欲しい	8. 電子書籍をweb上で閲覧できる
9. 閉館時間の延長して欲しい	10. 飲食できる場の充実
11. フリーベイスが欲しい	12. SNSの利用 (face book, mixi, Twitter)
13. アップグレードの台数を増やして欲しい	14. 展示ギャラリーを設けて欲しい
15. 熱帯に学習できるスペース	16. 話しなから学習できるスペース
17. 授業の問題等をサポートしてくれる学習支援コーナー	18. グループ学習室を増やして欲しい
19. 個人学習室を増やして欲しい	20. その他 (記入欄)

その他のご意見やご要望があれば自由に裏面に書き込んで下さい。ご協力ありがとうございました。

お申し込みの際、出入口の調査員にお渡しください

調査のお願い
利用者から求める「学習環境の場」としての図書館に関する研究を行っています。協力をお願い致します。
得られた調査結果は研究以外の目的には使用致しません。ご協力をお願いします。

下記の口の中には記入しないで下さい

図書館に関するアンケート調査

問1 あなたの性別、学年、所属等をお書き下さい。

1. 性別 () 年 2. 修士 () 年 3. 博士 () 年
4. 学部 () 年 5. 職員 6. その他 ()

問2 あなたの専攻する学部・研究科は何ですか。(○は一つだけ)

1. 法学部 2. 経営学部 3. 現代中国学部 4. 国際コミュニケーション学部
5. 文学部 6. 経済学部 7. 地理政策学部 8. 短期大学部 9. 大学院 () 研究科 10. その他 ()

問3 あなたは、今日この図書館にA.来館する前はどこから来ましたが、また、B.図書館を退館した後はどこに行く予定ですか。
(2～4)の、学内にいる様を選択した人は、そこで何をしていたかor 何を予定していますか。

A. 来館前 (○は一つだけ)
1. 自宅 () 階 2. 厚生棟 () 階 3. 講義棟 () 階 4. 研究棟 () 階 5. 自宅以外の学外 () 6. その他 ()
7. 2～4) 学内にいる様を選択した場合は、その理由を記入してください ()

B. 退館後 (○は一つだけ)
1. 自宅 () 階 2. 厚生棟 () 階 3. 講義棟 () 階 4. 研究棟 () 階 5. 自宅以外の学外 () 6. その他 ()
7. 2～4) 学内にいる様を選択した場合は、その理由を記入してください ()

問4 今日は、どなたと一緒に来ましたが。(○は一つだけ)

1. 一人で () 2. 友人と(本人+ () 名) 3. その他 ()

問5 あなたは、この図書館をどの程度利用していますか。(○は一つだけ)

1. ほとんど毎日 () 2. 一週間に2回 () 3. 一週間に1回 ()
4. 月に1回 () 5. 月に2回 () 6. 二ヶ月に1回 () 7. 年に2回 ()
8. 年に1回 () 9. 初めから来た () 10. その他 ()

問6 今日は、この図書館にどのような目的で来ましたが。(○はいくつでも)

1. 本を借りるため () 2. 本を返すため () 3. 本・資料等を預けるため ()
4. 本を借りたい () 5. 新聞を読むため () 6. 雑誌を読むため () 7. 雑誌を返すため ()
8. PCでWEBサイトを利用するため () 9. PCでデータベースを利用するため ()
10. 一人で勉強するため () 11. 友人と一緒に勉強するため () 12. 友人とおしゃべりするため ()
13. だんだんときた () 14. 待ち合わせ場所として () 15. 授業・ゼミ・サークルで利用するため ()
16. かつらぐため () 17. その他 ()

問7 問6で「10.一人で勉強をするため」「11.友人と一緒に勉強をするため」を選択した人に聞きます。どのような勉強をしに来ましたか。
今日、a.利用する学習ツールと、その学習ツールを使って、b.どのような勉強を行いましたか。

a. 利用する学習ツール (○はいくつでも) 1. 利便性が高い学習ツール () 2. 図書館内の図書資料 () 3. 持ち込みの図書資料(教科書・参考書) () 4. 図書館内のPC等の電子機器 ()
5. 持ち込みのPC等の電子機器 () 6. その他 ()

b. どのような勉強 (○は一つだけ) 1. 授業・ゼミ・サークルの準備 () 2. 授業の予習 () 3. テスト勉強 () 4. 資格・受験・公務員試験勉強 ()
5. 就職活動準備 () 6. 研究活動・論文の執筆 () 7. その他 ()

問8 あなたにとってこの図書館はどのようなところだと考えていますか。(○はいくつでも)

1. 目録として来るところ () 2. 自分の勉強をするところ () 3. 知りたこと、調べたいことがわかること ()
4. 気分転換をするところ () 5. ひとりの時間を過ごせること () 6. 友人、知人と交流を深めること ()
7. 暇なときに来るところ () 8. 新しい興味や関心を見つけたこと () 9. 他に行くところがないから来るところ ()
10. 友人と一緒に学習、議論すること () 11. その他 ()

問9 あなたが、日ごろこの図書館を利用する理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 利用している講義室に近い () 2. 次の講義室に近い () 3. 静かで落ち着いているため ()
4. 昼や夜か・会議ができる () 5. ひとりの時間を過ごせる () 6. 友人、知人と交流を深めるため ()
7. 空閑の明るさや空間がよい () 8. 開館時間が長い () 9. レファレンスサービスを受けられる ()
10. 飲み物を飲むことができる () 11. いろいろな座席が空いている () 12. その他 ()

問10 あなたは、日ごろこの図書館で学習する際どのようなものを用いますか。(○はいくつでも)

1. どれも利用しない () 2. 一般的な雑誌 () 3. 学術雑誌 () 4. 辞書・辞典など () 5. 一般的な図書 ()
6. 専門に関する図書 () 7. 白書・統計書 () 8. データベース () 9. DVD、CD等音源資料 () 10. 新聞 ()
11. 指定図書・課題図書 () 12. 資格本 () 13. WEBサイト () 14. その他 ()

問11 この図書館で「一人で利用」「二人以上で利用」をする時、a～fの活動をする際、どんなところを選択(鑑賞)していますか。または、選択(鑑賞)したいですか。右の太字よりA～Cのそれぞれにつき3つずつ選んで【 】の、最も合致する数字に○をしてください。その活動を行わない場合はアルファベットに×をして下さい。

一人で利用

A. 活動内容
a. 課題レポートを作成する () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. ()
b. テスト・資格・受験勉強をする () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. ()
c. かつらぐ・休憩する () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. ()

B. 他人の邪魔をしない
1. 他人の邪魔をしない () 2. 他人の邪魔をしない () 3. 他人の邪魔をしない ()

C. 他人の邪魔をしない
1. 他人の邪魔をしない () 2. 他人の邪魔をしない () 3. 他人の邪魔をしない ()

二人以上で利用

A. 活動内容
a. 課題レポートを作成する () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. ()
b. テスト・資格・受験勉強をする () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. ()
c. かつらぐ・休憩する () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. () 1. 2. 3. ()

B. 他人の邪魔をしない
1. 他人の邪魔をしない () 2. 他人の邪魔をしない () 3. 他人の邪魔をしない ()

C. 他人の邪魔をしない
1. 他人の邪魔をしない () 2. 他人の邪魔をしない () 3. 他人の邪魔をしない ()

問12 あなたは、日ごろ「この図書館」と「メディアアライアンス」を使い分けて利用していますか。a.利用頻度ほどのくらひですか。また、a.利用頻度で「1～8」を選択した人にお聞きします。b.利用する時の回座形態、ご使い分けておられる理由、d.主な活動内容を教えてください。

a. メディアアライアンスの利用頻度 (○は一つだけ)
1. ほとんど毎日 () 2. 一週間に2,3回 () 3. 一週間に1回 () 4. 二週間に1回 ()
5. 月に1回 () 6. 二ヶ月に1回 () 7. 年に1回 () 8. 年に2回 () 9. 使い分けがない ()

b. メディアアライアンスの回座形態 (○は一つだけ)
1. 一人で利用が多い () 2. 二人以上の利用が多い () 3. 二人以上の利用が多い ()

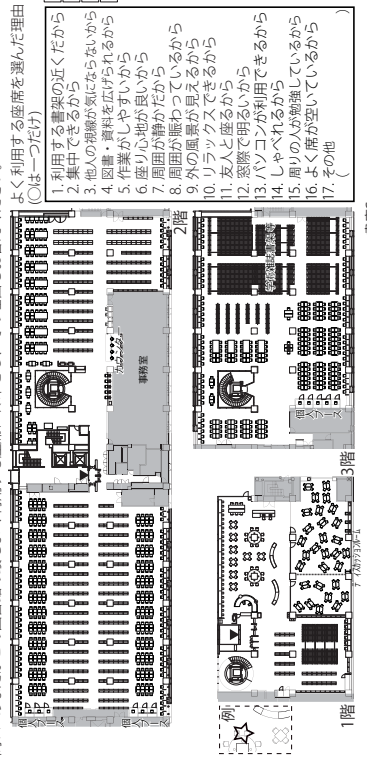
c. メディアアライアンスを利用している理由 (○はいくつでも)
1. 利用している講義室に近い () 2. 次の講義室に近い () 3. 静かで落ち着いているため ()
4. 昼や夜か・会議ができる () 5. 語学雑誌・DVDがあるため () 6. PCの利用がしやすい ()
7. 空閑の明るさや空間がよい () 8. 開館時間が長い () 9. 印刷機が利用できる ()
10. 朝晩活動量を受けられる () 11. 飲み物を飲むことができる () 12. いつも座席が空いているため ()
13. その他 ()

d. メディアアライアンスの主な活動内容 (○はいくつでも)
1. 授業の課題・レポートの作成 () 2. テスト勉強 () 3. 資格・受験・公務員試験勉強 () 4. 就職活動準備 ()
5. 研究活動・論文の執筆 () 6. かつらぐため () 7. その他 ()

問13 あなたは、「本館2階ラーニングcommons」をどの程度、使い分けて利用していますか。(○は一つだけ)

1. ほとんど毎日 () 2. 一週間に2,3回 () 3. 一週間に1回 () 4. 二週間に1回 () 5. 月に1回 ()
6. 二ヶ月に1回 () 7. 年に1回 () 8. 年に2回 () 9. 使い分けがない ()

問14 あなたがこの図書館の最もよく利用する座席に☆印をし、その理由もお答えください。



問15 あなたにとって図書館がよりよいサービスを提供するために必要と思われるものはなんですか。(○は一つだけ)

1. 図書資料の充実 () 2. PC台数の充実 () 3. 静かな学習環境の充実 () 4. グループでの学習環境の充実 ()
5. 他館との連携 () 6. 他館との連携 () 7. 他館との連携 () 8. 他館との連携 () 9. 他館との連携 ()
10. 他館との連携 () 11. 他館との連携 () 12. 他館との連携 () 13. 他館との連携 () 14. 他館との連携 () 15. 他館との連携 ()

その他のご意見やご要望があれば自由に裏面に書き添えてください。ご協力ありがとうございます。

立命館大学 平井嘉一郎記念図書館 2016.10.12

お帰りの際、出入口の加蓋員にお渡しください。

調査者のお問い合わせ先は「場」としてこの図書館に関する研究を行っています。得られた調査結果は研究以外の目的には使用致しません。ご協力をお願い致します。

下記の口
記入し
て下さい

図書館に関するアンケート調査

問1 あなたの性別、学年、所属等をお書き下さい。

1. 男 2. 女 3. 専攻()年 4. 専攻()年 5. 専攻()年 6. その他()

問2 あなたの専攻する学部は何か。(○は一つだけ)

1. 法学部 2. 産業社会学部 3. 国際関係学部 4. 文学部 5. 映像学部
6. 法学研究科 7. 社会学研究科 8. 文学研究科 9. 応用人間科学研究所 10. 言語教育情報研究所
11. 先端総合学術研究所 12. 映像研究科 13. その他()学部

問3 今日、どなたと一緒に来ましたが。(○は一つだけ)

1. 一人で 2. 友人と(本人)()名 3. その他()

問4 あなたは、この図書館をどの程度利用していますか。(○は一つだけ)

1. ほとんど毎日 2. 一週間に2-3回 3. 一週間に1回 4. 二週間に1回
5. 月に1回 6. 三ヶ月に1回 7. 年に2-3回 8. 年に1回 9. 初めて来た 10. その他()

問5 今日、この図書館にどのような目的で来ましたが。(○はいくつでも)

1. 本を借りるため 2. 本を返すため 3. 本・資料等を探するため
4. 本を読むため 5. 新聞を読むため 6. DVD・ビデオ等を鑑賞するため
7. 雑誌を読むため 8. PCでWEBサイトを利用するため 9. PCで文書、レポートを作成するため
10. PCでデータベースを利用するため 11. 一人で勉強するため 12. 友人と一緒に勉強するため
13. 友人とおしゃべりするため 14. たたふらつするため 15. 待ち合わせ場所として
16. ゼミサークルで利用するため 17. 授業で利用するため 18. かつらぐため
19. 印刷するため 20. カフェを利用する 21. その他()

問6 あなたは、この図書館で学習する際どのようなものを使用しますか。(○はいくつでも)

1. どの図書館資料も利用しない 2. 一般的な雑誌 3. 学術雑誌 4. 辞書・辞典など
5. 一般的な図書 6. 専門に関する図書 7. 日書・統計書 8. アーカイブス
9. DVD、CD等視聴資料 10. 新聞 11. 課題図書・指定図書 12. 資格本
13. WEBサイト 14. その他()

問7 あなたにとって図書館はどのようなところと考えていますか。(○はいくつでも)

1. 日課として来るところ 2. 自分勉強するところ 3. 知りたこと、調べたいことがわかること
4. 気分転換できる場所 5. ひとりの時間を過ごすところ 6. 友人、知人と交流を深めること
7. 暇なときに来るところ 8. 新しい興味や関心を見つけること 9. 他に行くところがないから来るところ
10. 友人と一緒に学習、議論すること 11. その他()

問8 あなたが、日ごろこの図書館を利用する際に選ぶ理由はなんですか。(○はいくつでも)またこの図書館以外に学習・研究活動の場所を
使っていますか。あれば学内の中から一つだけ場所を記入し、その理由を教えてください。(○はいくつでも)

1. 利用していた建物から近い 2. 次講義の建物に近い 3. 静かで落ち着いている 4. 図書館以外の場所
2. 利用しやすい 3. 静かな環境 4. 次講義の建物に近い 5. 近くに飲食店がある 6. PCの利用がしやすい 7. 空調設備が整っている 8. 空調設備が整っていない 9. 開館時間が長い 10. 印刷・コピー機が利用できる 11. 学習支援サービスが受けられる 12. 飲食をすることが出来る
13. いつも座席が空いている 14. その他()

1. どの図書館資料も利用しない 2. 衣笠キャンパス 3. 修学館リサーチライブラリー 4. 人文系文庫資料室 5. キャンパス
3. 利用していた建物から近い 4. 利用しやすい 5. 近くに飲食店がある 6. PCの利用がしやすい 7. 空調設備が整っている 8. 空調設備が整っていない 9. 開館時間が長い 10. 印刷・コピー機が利用できる 11. 学習支援サービスが受けられる 12. 飲食をすることが出来る
13. いつも座席が空いている 14. その他()

問9 あなたは、この図書館で座席のタイプはなんですか。(○は一つまで)

1. キーボード席(仕切りがある席) 2. 4人掛けのグループ席 3. 6人掛けのグループ席
4. 仕切りのないカウンター席 5. 個人研究ブース 6. セミナールーム

入館時間 : 退館時間 : 愛知工業大学工学部建築学科中井研究室

問10 あなたは、日ごろあびらと図書館の閉架閲覧席あびら以外の場所を使っていますか。利用頻度といつ
も利用している同伴形態(○は一つだけ)を使い分けていますか。理由を教えてください。(○はいくつでも)

あびらの利用頻度

1. ほとんど毎日 2. 一週間に2-3回 3. 一週間に1回 4. 二週間に1回
5. 月に1回 6. 二、三ヶ月に1回 7. 年に2-3回 8. 年に1回 9. 初めて来た 10. その他()

あびら以外の利用頻度

1. 一人で 2. 友人と(本人)()名 3. 二人以上で利用は同じくらいある
4. 一人で 5. 友人と(本人)()名 6. 二人以上で利用は同じくらいある
7. 一人で 8. 友人と(本人)()名 9. 二人以上で利用は同じくらいある
10. 一人で 11. 友人と(本人)()名 12. 二人以上で利用は同じくらいある
13. 一人で 14. 友人と(本人)()名 15. 二人以上で利用は同じくらいある
16. 一人で 17. 友人と(本人)()名 18. 二人以上で利用は同じくらいある
19. 一人で 20. 友人と(本人)()名 21. 二人以上で利用は同じくらいある
22. 一人で 23. 友人と(本人)()名 24. 二人以上で利用は同じくらいある
25. 一人で 26. 友人と(本人)()名 27. 二人以上で利用は同じくらいある
28. 一人で 29. 友人と(本人)()名 30. 二人以上で利用は同じくらいある
31. 一人で 32. 友人と(本人)()名 33. 二人以上で利用は同じくらいある
34. 一人で 35. 友人と(本人)()名 36. 二人以上で利用は同じくらいある
37. 一人で 38. 友人と(本人)()名 39. 二人以上で利用は同じくらいある
40. 一人で 41. 友人と(本人)()名 42. 二人以上で利用は同じくらいある
43. 一人で 44. 友人と(本人)()名 45. 二人以上で利用は同じくらいある
46. 一人で 47. 友人と(本人)()名 48. 二人以上で利用は同じくらいある
49. 一人で 50. 友人と(本人)()名 51. 二人以上で利用は同じくらいある
52. 一人で 53. 友人と(本人)()名 54. 二人以上で利用は同じくらいある
55. 一人で 56. 友人と(本人)()名 57. 二人以上で利用は同じくらいある
58. 一人で 59. 友人と(本人)()名 60. 二人以上で利用は同じくらいある
61. 一人で 62. 友人と(本人)()名 63. 二人以上で利用は同じくらいある
64. 一人で 65. 友人と(本人)()名 66. 二人以上で利用は同じくらいある
67. 一人で 68. 友人と(本人)()名 69. 二人以上で利用は同じくらいある
70. 一人で 71. 友人と(本人)()名 72. 二人以上で利用は同じくらいある
73. 一人で 74. 友人と(本人)()名 75. 二人以上で利用は同じくらいある
76. 一人で 77. 友人と(本人)()名 78. 二人以上で利用は同じくらいある
79. 一人で 80. 友人と(本人)()名 81. 二人以上で利用は同じくらいある
82. 一人で 83. 友人と(本人)()名 84. 二人以上で利用は同じくらいある
85. 一人で 86. 友人と(本人)()名 87. 二人以上で利用は同じくらいある
88. 一人で 89. 友人と(本人)()名 90. 二人以上で利用は同じくらいある
89. 一人で 90. 友人と(本人)()名 91. 二人以上で利用は同じくらいある
92. 一人で 93. 友人と(本人)()名 94. 二人以上で利用は同じくらいある
93. 一人で 94. 友人と(本人)()名 95. 二人以上で利用は同じくらいある
94. 一人で 95. 友人と(本人)()名 96. 二人以上で利用は同じくらいある
95. 一人で 96. 友人と(本人)()名 97. 二人以上で利用は同じくらいある
96. 一人で 97. 友人と(本人)()名 98. 二人以上で利用は同じくらいある
97. 一人で 98. 友人と(本人)()名 99. 二人以上で利用は同じくらいある
98. 一人で 99. 友人と(本人)()名 100. 二人以上で利用は同じくらいある
99. 一人で 100. 友人と(本人)()名 101. 二人以上で利用は同じくらいある
100. 一人で 101. 友人と(本人)()名 102. 二人以上で利用は同じくらいある
101. 一人で 102. 友人と(本人)()名 103. 二人以上で利用は同じくらいある
102. 一人で 103. 友人と(本人)()名 104. 二人以上で利用は同じくらいある
103. 一人で 104. 友人と(本人)()名 105. 二人以上で利用は同じくらいある
104. 一人で 105. 友人と(本人)()名 106. 二人以上で利用は同じくらいある
105. 一人で 106. 友人と(本人)()名 107. 二人以上で利用は同じくらいある
106. 一人で 107. 友人と(本人)()名 108. 二人以上で利用は同じくらいある
107. 一人で 108. 友人と(本人)()名 109. 二人以上で利用は同じくらいある
108. 一人で 109. 友人と(本人)()名 110. 二人以上で利用は同じくらいある
109. 一人で 110. 友人と(本人)()名 111. 二人以上で利用は同じくらいある
110. 一人で 111. 友人と(本人)()名 112. 二人以上で利用は同じくらいある
111. 一人で 112. 友人と(本人)()名 113. 二人以上で利用は同じくらいある
112. 一人で 113. 友人と(本人)()名 114. 二人以上で利用は同じくらいある
113. 一人で 114. 友人と(本人)()名 115. 二人以上で利用は同じくらいある
114. 一人で 115. 友人と(本人)()名 116. 二人以上で利用は同じくらいある
115. 一人で 116. 友人と(本人)()名 117. 二人以上で利用は同じくらいある
116. 一人で 117. 友人と(本人)()名 118. 二人以上で利用は同じくらいある
117. 一人で 118. 友人と(本人)()名 119. 二人以上で利用は同じくらいある
118. 一人で 119. 友人と(本人)()名 120. 二人以上で利用は同じくらいある
119. 一人で 120. 友人と(本人)()名 121. 二人以上で利用は同じくらいある
120. 一人で 121. 友人と(本人)()名 122. 二人以上で利用は同じくらいある
121. 一人で 122. 友人と(本人)()名 123. 二人以上で利用は同じくらいある
122. 一人で 123. 友人と(本人)()名 124. 二人以上で利用は同じくらいある
123. 一人で 124. 友人と(本人)()名 125. 二人以上で利用は同じくらいある
124. 一人で 125. 友人と(本人)()名 126. 二人以上で利用は同じくらいある
125. 一人で 126. 友人と(本人)()名 127. 二人以上で利用は同じくらいある
126. 一人で 127. 友人と(本人)()名 128. 二人以上で利用は同じくらいある
127. 一人で 128. 友人と(本人)()名 129. 二人以上で利用は同じくらいある
128. 一人で 129. 友人と(本人)()名 130. 二人以上で利用は同じくらいある
129. 一人で 130. 友人と(本人)()名 131. 二人以上で利用は同じくらいある
130. 一人で 131. 友人と(本人)()名 132. 二人以上で利用は同じくらいある
131. 一人で 132. 友人と(本人)()名 133. 二人以上で利用は同じくらいある
132. 一人で 133. 友人と(本人)()名 134. 二人以上で利用は同じくらいある
133. 一人で 134. 友人と(本人)()名 135. 二人以上で利用は同じくらいある
134. 一人で 135. 友人と(本人)()名 136. 二人以上で利用は同じくらいある
135. 一人で 136. 友人と(本人)()名 137. 二人以上で利用は同じくらいある
136. 一人で 137. 友人と(本人)()名 138. 二人以上で利用は同じくらいある
137. 一人で 138. 友人と(本人)()名 139. 二人以上で利用は同じくらいある
138. 一人で 139. 友人と(本人)()名 140. 二人以上で利用は同じくらいある
139. 一人で 140. 友人と(本人)()名 141. 二人以上で利用は同じくらいある
140. 一人で 141. 友人と(本人)()名 142. 二人以上で利用は同じくらいある
141. 一人で 142. 友人と(本人)()名 143. 二人以上で利用は同じくらいある
142. 一人で 143. 友人と(本人)()名 144. 二人以上で利用は同じくらいある
143. 一人で 144. 友人と(本人)()名 145. 二人以上で利用は同じくらいある
144. 一人で 145. 友人と(本人)()名 146. 二人以上で利用は同じくらいある
145. 一人で 146. 友人と(本人)()名 147. 二人以上で利用は同じくらいある
146. 一人で 147. 友人と(本人)()名 148. 二人以上で利用は同じくらいある
147. 一人で 148. 友人と(本人)()名 149. 二人以上で利用は同じくらいある
148. 一人で 149. 友人と(本人)()名 150. 二人以上で利用は同じくらいある
149. 一人で 150. 友人と(本人)()名 151. 二人以上で利用は同じくらいある
150. 一人で 151. 友人と(本人)()名 152. 二人以上で利用は同じくらいある
151. 一人で 152. 友人と(本人)()名 153. 二人以上で利用は同じくらいある
152. 一人で 153. 友人と(本人)()名 154. 二人以上で利用は同じくらいある
153. 一人で 154. 友人と(本人)()名 155. 二人以上で利用は同じくらいある
154. 一人で 155. 友人と(本人)()名 156. 二人以上で利用は同じくらいある
155. 一人で 156. 友人と(本人)()名 157. 二人以上で利用は同じくらいある
156. 一人で 157. 友人と(本人)()名 158. 二人以上で利用は同じくらいある
157. 一人で 158. 友人と(本人)()名 159. 二人以上で利用は同じくらいある
158. 一人で 159. 友人と(本人)()名 160. 二人以上で利用は同じくらいある
159. 一人で 160. 友人と(本人)()名 161. 二人以上で利用は同じくらいある
160. 一人で 161. 友人と(本人)()名 162. 二人以上で利用は同じくらいある
161. 一人で 162. 友人と(本人)()名 163. 二人以上で利用は同じくらいある
162. 一人で 163. 友人と(本人)()名 164. 二人以上で利用は同じくらいある
163. 一人で 164. 友人と(本人)()名 165. 二人以上で利用は同じくらいある
164. 一人で 165. 友人と(本人)()名 166. 二人以上で利用は同じくらいある
165. 一人で 166. 友人と(本人)()名 167. 二人以上で利用は同じくらいある
166. 一人で 167. 友人と(本人)()名 168. 二人以上で利用は同じくらいある
167. 一人で 168. 友人と(本人)()名 169. 二人以上で利用は同じくらいある
168. 一人で 169. 友人と(本人)()名 170. 二人以上で利用は同じくらいある
169. 一人で 170. 友人と(本人)()名 171. 二人以上で利用は同じくらいある
170. 一人で 171. 友人と(本人)()名 172. 二人以上で利用は同じくらいある
171. 一人で 172. 友人と(本人)()名 173. 二人以上で利用は同じくらいある
172. 一人で 173. 友人と(本人)()名 174. 二人以上で利用は同じくらいある
173. 一人で 174. 友人と(本人)()名 175. 二人以上で利用は同じくらいある
174. 一人で 175. 友人と(本人)()名 176. 二人以上で利用は同じくらいある
175. 一人で 176. 友人と(本人)()名 177. 二人以上で利用は同じくらいある
176. 一人で 177. 友人と(本人)()名 178. 二人以上で利用は同じくらいある
177. 一人で 178. 友人と(本人)()名 179. 二人以上で利用は同じくらいある
178. 一人で 179. 友人と(本人)()名 180. 二人以上で利用は同じくらいある
179. 一人で 180. 友人と(本人)()名 181. 二人以上で利用は同じくらいある
180. 一人で 181. 友人と(本人)()名 182. 二人以上で利用は同じくらいある
181. 一人で 182. 友人と(本人)()名 183. 二人以上で利用は同じくらいある
182. 一人で 183. 友人と(本人)()名 184. 二人以上で利用は同じくらいある
183. 一人で 184. 友人と(本人)()名 185. 二人以上で利用は同じくらいある
184. 一人で 185. 友人と(本人)()名 186. 二人以上で利用は同じくらいある
185. 一人で 186. 友人と(本人)()名 187. 二人以上で利用は同じくらいある
186. 一人で 187. 友人と(本人)()名 188. 二人以上で利用は同じくらいある
187. 一人で 188. 友人と(本人)()名 189. 二人以上で利用は同じくらいある
188. 一人で 189. 友人と(本人)()名 190. 二人以上で利用は同じくらいある
189. 一人で 190. 友人と(本人)()名 191. 二人以上で利用は同じくらいある
190. 一人で 191. 友人と(本人)()名 192. 二人以上で利用は同じくらいある
191. 一人で 192. 友人と(本人)()名 193. 二人以上で利用は同じくらいある
192. 一人で 193. 友人と(本人)()名 194. 二人以上で利用は同じくらいある
193. 一人で 194. 友人と(本人)()名 195. 二人以上で利用は同じくらいある
194. 一人で 195. 友人と(本人)()名 196. 二人以上で利用は同じくらいある
195. 一人で 196. 友人と(本人)()名 197. 二人以上で利用は同じくらいある
196. 一人で 197. 友人と(本人)()名 198. 二人以上で利用は同じくらいある
197. 一人で 198. 友人と(本人)()名 199. 二人以上で利用は同じくらいある
198. 一人で 199. 友人と(本人)()名 200. 二人以上で利用は同じくらいある
199. 一人で 200. 友人と(本人)()名 201. 二人以上で利用は同じくらいある
200. 一人で 201. 友人と(本人)()名 202. 二人以上で利用は同じくらいある
201. 一人で 202. 友人と(本人)()名 203. 二人以上で利用は同じくらいある
202. 一人で 203. 友人と(本人)()名 204. 二人以上で利用は同じくらいある
203. 一人で 204. 友人と(本人)()名 205. 二人以上で利用は同じくらいある
204. 一人で 205. 友人と(本人)()名 206. 二人以上で利用は同じくらいある
205. 一人で 206. 友人と(本人)()名 207. 二人以上で利用は同じくらいある
206. 一人で 207. 友人と(本人)()名 208. 二人以上で利用は同じくらいある
207. 一人で 208. 友人と(本人)()名 209. 二人以上で利用は同じくらいある
208. 一人で 209. 友人と(本人)()名 210. 二人以上で利用は同じくらいある
209. 一人で 210. 友人と(本人)()名 211. 二人以上で利用は同じくらいある
210. 一人で 211. 友人と(本人)()名 212. 二人以上で利用は同じくらいある
211. 一人で 212. 友人と(本人)()名 213. 二人以上で利用は同じくらいある
212. 一人で 213. 友人と(本人)()名 214. 二人以上で利用は同じくらいある
213. 一人で 214. 友人と(本人)()名 215. 二人以上で利用は同じくらいある
214. 一人で 215. 友人と(本人)()名 216. 二人以上で利用は同じくらいある
215. 一人で 216. 友人と(本人)()名 217. 二人以上で利用は同じくらいある
216. 一人で 217. 友人と(本人)()名 218. 二人以上で利用は同じくらいある
217. 一人で 218. 友人と(本人)()名 219. 二人以上で利用は同じくらいある
218. 一人で 219. 友人と(本人)()名 220. 二人以上で利用は同じくらいある
219. 一人で 220. 友人と(本人)()名 221. 二人以上で利用は同じくらいある
220. 一人で 221. 友人と(本人)()名 222. 二人以上で利用は同じくらいある
221. 一人で 222. 友人と(本人)()名 223. 二人以上で利用は同じくらいある
222. 一人で 223. 友人と(本人)()名 224. 二人以上で利用は同じくらいある
223. 一人で 224. 友人と(本人)()名 225. 二人以上で利用は同じくらいある
224. 一人で 225. 友人と(本人)()名 226. 二人以上で利用は同じくらいある
225. 一人で 226. 友人と(本人)()名 227. 二人以上で利用は同じくらいある
226. 一人で 227. 友人と(本人)()名 228. 二人以上で利用は同じくらいある
227. 一人で 228. 友人と(本人)()名 229. 二人以上で利用は同じくらいある
228. 一人で 229. 友人と(本人)()名 230. 二人以上で利用は同じくらいある
229. 一人で 230. 友人と(本人)()名 231. 二人以上で利用は同じくらいある
230. 一人で 231. 友人と(本人)()名 232. 二人以上で利用は同じくらいある
231. 一人で 232. 友人と(本人)()名 233. 二人以上で利用は同じくらいある
232. 一人で 233. 友人と(本人)()名 234. 二人以上で利用は同じくらいある
233. 一人で 234. 友人と(本人)()名 235. 二人以上で利用は同じくらいある
234. 一人で 235. 友人と(本人)()名 236. 二人以上で利用は同じくらいある
235. 一人で 236. 友人と(本人)()名 237. 二人以上で利用は同じくらいある
236. 一人で 237. 友人と(本人)()名 238. 二人以上で利用は同じくらいある
237. 一人で 238. 友人と(本人)()名 239. 二人以上で利用は同じくらいある
238. 一人で 239. 友人と(本人)()名 240. 二人以上で利用は同じくらいある
239. 一人で 240. 友人と(本人)()名 241. 二人以上で利用は同じくらいある
240. 一人で 241. 友人と(本人)()名 242. 二人以上で利用は同じくらいある
241. 一人で 242. 友人と(本人)()名 243. 二人以上で利用は同じくらいある
242. 一人で 243. 友人と(本人)()名 244. 二人以上で利用は同じくらいある
243. 一人で 244. 友人と(本人)()名 245. 二人以上で利用は同じくらいある
244. 一人で 245. 友人と(本人)()名 246. 二人以上で利用は同じくらいある
245. 一人で 246. 友人と(本人)()名 247. 二人以上で利用は同じくらいある
246. 一人で 247

名古屋大学大学院芸術工学研究科鈴木研究室

お申し込みの際、出入口の加蓋にお渡しください。
調査のお願い
利用者が求める「学習環境の場」としての図書館に関する研究を行っています。ご協力をお願いします。

図書館に関するアンケート調査

問1 あなたの性別、学年、所属等をお書き下さい。
1. 男 2. 女
4. 教員 5. 職員 6. その他

問2 あなたの専攻する学部・研究科は何ですか。
1. 工学部 2. 経営情報学部 3. 国際関係学部 4. 人文学部 5. 応用生物工学部
6. 生命健康科学部 7. 現代教育学部 8. 大学院 9. その他

問3 あなたは、今日この図書館にA.来館してから来ましたか、また、B.図書館を退館した後はどこに行く予定ですか。
A. 1.自宅 2.学生寮 3.コモンズセンター(2,3階) 4.講義室 5.研究室 6.食堂 7.その他
B. 1.自宅 2.学生寮 3.コモンズセンター(2,3階) 4.講義室 5.研究室 6.食堂 7.その他

問4 今日、どなたと一緒に来ましたか。(〇は一つだけ)
1. 一人で 2. 友人と(本人)(名) 3. その他

問5 あなたは、この図書館をどの程度利用していますか。(〇は一つだけ)
1. ほとんど毎日 2. 一週間に2,3回 3. 一週間に1回 4. 二週間に1回
5. 月に1回 6. 二、三ヶ月に1回 7. 年に2,3回 8. 年に1回 9. 初めて来た 10. その他

問6 今日、この図書館にどのような目的で来ましたか。(〇はいくつでも)
1. 本を借りるため 2. 本を返すため 3. 本・資料等を探すため
4. 本を読むため 5. 新聞を読むため 6. DVD・ビデオ等を鑑賞するため
7. 雑誌を読むため 8. PCで文書、レポートを作成するため
9. PCでデータベースを利用するため 10. PCでデータ操作や印刷をするため
11. 一人で勉強をするため 12. 友人と一緒に勉強をするため
13. 友人と話しやべりするため 14. だだふらつするため 15. 待ち合わせ場所として
16. 授業・サークルで利用するため 17. 授業で利用するため 18. かつらぐため
19. PCで印刷するため 20. その他

問7 今日、「1.一人で勉強をするため」「12.友人と一緒に勉強をするため」を選択した人に聞きます。どのような勉強をしましたが。
1. 利用する学習ツール(〇はいくつでも) 2. 図書館内の図書資料 3. 持込めの図書資料 4. 図書館内のPC等の電子機器
5. 持込めのPC等の電子機器 6. その他
7. 授業・サークルでの勉強 8. 部活・サークル内での勉強 9. その他

問8 あなたにとって図書館はどのような場所と考えていますか。(〇はいくつでも)
1. 日課として来るところ 2. 自分の勉強をするところ 3. 知りたことを調べたいところ
4. 気分転換をするところ 5. ひとりの時間を過ごせる場所 6. 友人、知人と交流を深めたいところ
7. 暇なときに来るところ 8. 新しい興味や関心を見つづける場所 9. 他に行くところがないから来るところ
10. 友人と一緒に学習、議論するところ 11. その他

問9 あなたが、日ごこの図書館を利用する際に選ぶ理由は何ですか。(〇はいくつでも)
1. 利用している建物から近い 2. 次講義の建物に近い 3. 静かで落ち着いているため
4. 賑やか、会話できる 5. 図書資料がある 6. PCの利用がしやすい 7. 閉館時間が長い
8. 空間設備が整っている 9. 印刷・コピー機が利用できる 10. レファレンスサービスを受けられる
11. かつらぐことができる 12. 飲食をすることができる
13. いつも座席が空いている 14. その他

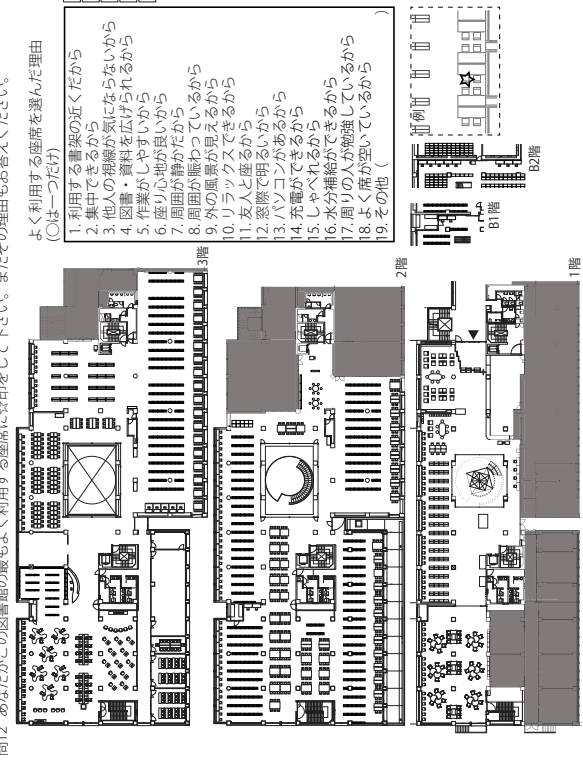
2017.10.16

中部大学附属三浦記念図書館

入館時間 退館時間
問10 あなたは、この図書館で学習する際どのようなものを用いますか。(〇はいくつでも)
1. どの図書資料も利用しない 2. 一般的な雑誌 3. 学術雑誌 4. 辞書・辞典など
5. 一般的な図書 6. 専門に関する図書 7. 白書・統計書 8. テキスト・ペーパー
9. DVD、CD等視聴覚資料 10. 新聞 11. 課題図書・指定図書 12. 資格本
13. WEBSITE 14. その他

問11 あなたは、日ごこの「図書館」と「不特定行館」を併用していますか。併用頻度はどのくらいですか。また、a.利用頻度の「1」~「8」を選択した人にお聞きします。b.利用する際の同定形態とc.使分けしている理由とd.主な活動内容を教えてください。
1. 併用頻度(〇は1つだけ) 2. 併用頻度(〇は1つだけ)
3. 併用頻度(〇は1つだけ) 4. 併用頻度(〇は1つだけ)
5. 併用頻度(〇は1つだけ) 6. 併用頻度(〇は1つだけ) 7. 併用頻度(〇は1つだけ) 8. 併用頻度(〇は1つだけ)
9. 併用頻度(〇は1つだけ) 10. 併用頻度(〇は1つだけ) 11. 併用頻度(〇は1つだけ) 12. 併用頻度(〇は1つだけ)
13. 併用頻度(〇は1つだけ) 14. 併用頻度(〇は1つだけ) 15. 併用頻度(〇は1つだけ) 16. 併用頻度(〇は1つだけ)
17. 併用頻度(〇は1つだけ) 18. 併用頻度(〇は1つだけ) 19. 併用頻度(〇は1つだけ) 20. 併用頻度(〇は1つだけ)

問12 あなたがこの図書館の最もよく利用する座席に☆印をして下さい。またその理由もお書きください。
よく利用する座席を選んだ理由
(〇は一つだけ)
1. 利用する書架の近くから 2. 集中できるから 3. 他人の視線が気にならないから 4. 図書・資料をながめられるから
5. 作業がしやすいから 6. 作業がしやすいから 7. 周囲が静かだから 8. 周囲が賑やかだから
9. 外の風景が見えるから 10. リラックスできるから 11. 友人と座席から 12. 窓際で座席から
13. パソコンがあるから 14. 充電ができるから 15. しゃべれるから 16. 水分補給ができるから
17. 周りの人が勉強しているから 18. よく席が空いているから 19. その他



問13 小・中学校の時に学校の図書室や、公共図書館を利用していましたか。(A,B,〇は一つだけ C,〇二つまで)
A. 小学校の時 1. よく利用していた 2. 時々利用していた 3. 利用していません
B. 中学校の時 1. よく利用していた 2. 時々利用していた 3. 利用していません
C. 公共図書館 1. 小学校の時に利用していた 2. 中学校の時に利用していた 3. どちらの時も利用していません

問14 図書館がよりよいサービスを提供するため、よいと思われるものはありますか。(〇は一つだけ)
1. 図書資料の充実 2. PC台数の充実 3. 静かな学習環境の充実 4. クラウドでの学習環境の充実
その他のご意見やご要望があれば自由に裏面に書き添えてください。ご協力ありがとうございます。

お申し込みの際、出入口の扉職員にお渡しください

お名前() 性別() 学年() 所属等() をお書き下さい。

1. 男 2. 女

1. 学部() 年 2. 修士() 年 3. 博士() 年

4. 教員 5. 職員 6. その他()

1. 専攻科() 2. 専攻() 3. 専攻() 4. 専攻()

5. 専攻() 6. 専攻() 7. 専攻() 8. 専攻() 9. 専攻()

10. 専攻() 11. 専攻() 12. 専攻()

コモンズセンターに関するアンケート調査

問1 あなたの性別、学年、所属等をお書き下さい。(○はい、×いいえ)

1. 男 2. 女

1. 学部() 年 2. 修士() 年 3. 博士() 年

4. 教員 5. 職員 6. その他()

問2 あなたの専攻する学部、研究科は何ですか。(○はい、×いいえ)

1. 工学部 2. 経営情報学部 3. 国際関係学部 4. 人文学部 5. 応用生物工学部

6. 生命環境科学部 7. 現代教育学部 8. 大学院 9. その他()

問3 あなたは、今日コモンズセンターにA来る前はどこから来ましたか。また、Bコモンズセンターを出た後はどこに行く予定ですか。

14. 講義室 [5. 研究室] 16. 食堂 [7. 8. その他] を選択した人は、授業の名称とそこで向をしていたか・何をやる予定ですか。

A. [] 1. 自宅 2. 学生寮 3. 附属三浦記念図書館 4. 講義室 [] 館

5. 研究室 [] 館 6. 食堂 [] 7. その他 [] 8. その他 []

14. 講義室 [] 15. 研究室 [] 16. 食堂 [] 17. その他 []

1. 授業 [] 2. 授業 [] 3. 食事 [] 4. 自主勉強 [] 5. サークル・部活 [] 6. その他 []

7. 決めている [] 8. その他 []

B. [] 1. 自宅 2. 学生寮 3. 附属三浦記念図書館 4. 講義室 [] 館

5. 研究室 [] 6. 食堂 [] 7. 決めている [] 8. その他 []

14. 講義室 [] 15. 研究室 [] 16. 食堂 [] 17. その他 []

1. 授業 [] 2. 授業 [] 3. 食事 [] 4. 自主勉強 [] 5. サークル・部活 [] 6. その他 []

問4 今日は、どなたと一緒に来ましたか。(○はい、×いいえ)

1. 一人で 2. 友人と(本人)() 3. その他()

問5 あなたは、このコモンズセンターをどの程度利用していますか。(○はい、×いいえ)

1. ほとんど毎日 2. 一週間に2回 3. 一週間に1回 4. 二週間に1回

5. 月に1回 6. 二ヶ月に1回 7. 年に2回 8. 年に1回

9. 初めで来た 10. その他()

問6 今日は、このコモンズセンターにどのような目的で来ましたか。(○はい、×いいえ)

1. 一人で勉強するため 2. 友人と一緒に勉強するため 3. 本・資料等を採るため

4. 本を読むため 5. コモンズセンターのPC等に相談するため 6. コモンズ・カフェに参加するため

7. PCでWEBサイトを利用するため 8. PCで文書、レポートを作成するため 9. PCでメールを送るため

10. 友人とおしゃべりするため 11. ただふらふらきたため 12. 待合合わせ場所として

13. 3Dミ、サークルで利用するため 14. 授業で利用するため 15. くつろぐため

16. 印刷、コピーをするため 17. その他()

問7 問6で「一人で勉強をするため」「友人と一緒に勉強をするため」を選択した人に聞きます。どのような勉強をしましたか。

今日、a.利用する学習ツール、b.その学習ツールを使って、c.どのような勉強を行いましたか。

1. 何毛利用しない 2. コモンズセンター内の図書資料 3. 持ち込みの図書資料

4. コモンズセンター内のPC等の電子機器 5. 持ち込みのPC等の電子機器 6. その他()

a. どのような勉強 (○はい、×いいえ)

1. 授業の準備・レポートの作成 2. 授業の学習 3. 研究に向けた勉強

4. 資格勉強 5. 資格勉強 6. 部活・サークル内の勉強 7. その他()

問8 あなたにとってコモンズセンターはどのようなところだと考えていますか。(○はい、×いいえ)

1. 日課として来るところ 2. 自分の勉強をするところ 3. 知りたこと、調べたことなどがわかるどころ

4. 気分転換をするところ 5. ひとりの時間を過ごせるところ 6. 友人、知人と交流を深めるところ

7. 暇なときに来るところ 8. 新しい趣味や関心を見つけたところ 9. 他に行くところがないから来るところ

10. 友人と一緒に学習、議論するところ 11. その他()

問9 あなたが、日ごろコモンズセンターを利用する際に選ぶ理由はなんですか。(○はい、×いいえ)

1. 利用していた建物に近いため 2. 図書資料が近いから 3. 静かで落ち着いているから

4. 賑やかな会話ができるため 5. 図書資料があるから 6. PCの利用がしやすいから

7. 空間設備が整っているから 8. 空間の明るさが良いから 9. 勉強時間かいたいから

10. 印刷・コピー機が利用できるため 11. コモンズセンターの設備を愛用するため 12. 飲食をするところがあるから

13. いつでも座席が空いているから 14. その他()

問10 あなたは、このコモンズセンターで学習する際どのようなものを用いますか。(○はい、×いいえ)

1. なにも利用しない 2. 貸出ノートPC 3. DVのプレイヤー 4. 備え付けTVモニター

5. フロントワークス 6. ホワイトボード 7. センター内の図書資料 8. センター内の文房具類

9. 大字図書館の図書資料 10. 私物の図書資料 11. 私物のノートPC 12. その他()

問11 あなたは、日ごろ「コモンズセンター-0,3階」と「附属三浦記念図書館」を使い分けていますか。a.利用頻度はどのくらいですか。また、a.利用頻度の「1」~「18」を選択した人にお聞きします。b.利用する際の回数はどのくらいですか。c.利用する理由を教えてください。

a.中部大学附属三浦記念図書館の利用率 (○はい、×いいえ)

1. ほとんど毎日 2. 一週間に2回 3. 一週間に1回 4. 二週間に1回

5. 月に1回 6. 二ヶ月に1回 7. 年に2回 8. 年に1回

9. 使い分けがない(行かない)

b.中部大学附属三浦記念図書館の利用率 (○はい、×いいえ)

1. ほとんど毎日 2. 一週間に2回 3. 一週間に1回 4. 二週間に1回

5. 月に1回 6. 二ヶ月に1回 7. 年に2回 8. 年に1回

9. 使い分けがない(行かない)

c.中部大学附属三浦記念図書館の利用率 (○はい、×いいえ)

1. ほとんど毎日 2. 一週間に2回 3. 一週間に1回 4. 二週間に1回

5. 月に1回 6. 二ヶ月に1回 7. 年に2回 8. 年に1回

9. 使い分けがない(行かない)

d.附属三浦記念図書館の利用率 (○はい、×いいえ)

1. ほとんど毎日 2. 一週間に2回 3. 一週間に1回 4. 二週間に1回

5. 月に1回 6. 二ヶ月に1回 7. 年に2回 8. 年に1回

9. 使い分けがない(行かない)

問12 あなたがこのコモンズセンターの最もよく利用する座席に捺印をして下さい。またその理由もお答えください。

1. ほとんど毎日 2. 一週間に2回 3. 一週間に1回 4. 二週間に1回

5. 月に1回 6. 二ヶ月に1回 7. 年に2回 8. 年に1回

9. 使い分けがない(行かない)

10. PCで印刷ができるから 11. レファレンスサービスを受けられるから 12. 飲み物を持ち込むことができるから

13. いつでも座席が空いているから 14. その他()

1. 授業の準備・レポートの作成 (○はい、×いいえ)

2. 資格勉強 3. 資格勉強 4. 資格勉強

5. 資格勉強 6. 部活・サークル内の勉強

7. くつろぐため 8. その他()

問13 小・中学校の時に学校の図書室や、公共図書館を利用していましたか。(A,B,○はい、×いいえ)

A.小中学校の時 1. よく利用していた 2. 時々利用していた 3. 利用しなかった

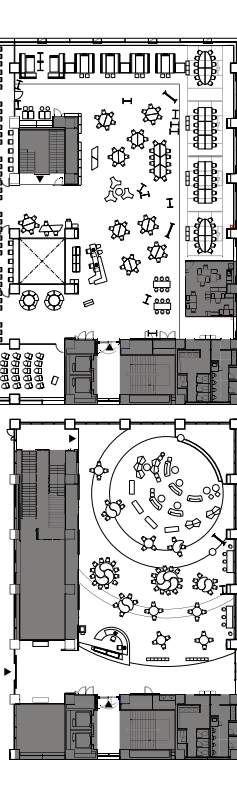
B.中学校の時 1. よく利用していた 2. 時々利用していた 3. 利用しなかった

C.公共図書館 1. 小学校の時に利用していた 2. 中学校の時に利用していた 3. どちらの時も利用しなかった

問14 コモンズセンターがよりよいサービスを提供するために、よいと思われるものはありませんか。(○はい、×いいえ)

1. 図書資料の充実 2. PC台数の充実 3. 静かな学習環境の充実 4. 会議ができる学習環境の充実

5. その他()



問15 よく利用する座席を選ぶ理由 (○はい、×いいえ)

1. 利用する書架の近くだから 2. 集中できるから 3. 他人の視線が気にならないから 4. 図書・資料を広げられるから

5. 作業しやすいから 6. 周囲が賑わっているから 7. 周囲が静かだから 8. 周囲の明るさが良いから

9. 外の風景が見えるから 10. リラックスできるから 11. 周囲の明るさが良いから 12. 窓際で勉強できるから

13. 友人と座席があるから 14. 充電ができるから 15. シャベルがあるから 16. 水分補給ができるから

17. 周りの人が勉強しているから 18. よく座席が空いているから

19. その他()

問16 今日、a.利用する学習ツール、b.その学習ツールを使って、c.どのような勉強を行いましたか。

1. 何毛利用しない 2. コモンズセンター内の図書資料 3. 持ち込みの図書資料

4. コモンズセンター内のPC等の電子機器 5. 持ち込みのPC等の電子機器 6. その他()

a. どのような勉強 (○はい、×いいえ)

1. 授業の準備・レポートの作成 2. 授業の学習 3. 研究に向けた勉強

4. 資格勉強 5. 資格勉強 6. 部活・サークル内の勉強 7. その他()

問17 あなたにとってコモンズセンターはどのようなところだと考えていますか。(○はい、×いいえ)

1. 日課として来るところ 2. 自分の勉強をするところ 3. 知りたこと、調べたことなどがわかるどころ

4. 気分転換をするところ 5. ひとりの時間を過ごせるところ 6. 友人、知人と交流を深めるところ

7. 暇なときに来るところ 8. 新しい趣味や関心を見つけたところ 9. 他に行くところがないから来るところ

10. 友人と一緒に学習、議論するところ 11. その他()

問18 あなたが、日ごろコモンズセンターを利用する際に選ぶ理由はなんですか。(○はい、×いいえ)

1. 利用していた建物に近いから 2. 図書資料が近いから 3. 静かで落ち着いているから

4. 賑やかな会話ができるため 5. 図書資料があるから 6. PCの利用がしやすいから

7. 空間設備が整っているから 8. 空間の明るさが良いから 9. 勉強時間かいたいから

10. 印刷・コピー機が利用できるため 11. コモンズセンターの設備を愛用するため 12. 飲食をするところがあるから

13. いつでも座席が空いているから 14. その他()

愛知工業大学工学部建築学科中研究室

お問い合わせの際は、出入口の調査員にお渡しください

調査のお願い
利用者が求める「場」としての図書館に関する研究を行っています。得られた調査結果は研究以外の目的には使用致しません。ご協力をお願い致します。

下記の口の中は、記入しないで下さい

図書館に関するアンケート調査

問1 あなたの性別、学年、所属等をお書き下さい。

1. 男	2. 女	1. 学部()年	2. 修士()年	3. 博士()年	4. その他()
5. 教員	6. 職員	7. その他()	8. その他()	9. その他()	10. その他()

問2 あなたの専攻する学部・研究科は何ですか。(○はいくつでも)

1. 経営学部	2. 経営学部	3. 法学部	4. 外国語学部	5. 文化学部
6. 理学部	7. コンピュータ理工学部	8. 総合生命科学部	9. 大学院()研究科	10. 法務研究科
11. その他()	12. その他()	13. その他()	14. その他()	15. その他()

問3 今日、どなたと一緒に来ましたか。(○はいくつでも)

1. 一人で	2. 友人と(本人氏名())	3. その他()
--------	-----------------	-----------

問4 あなたは、この図書館をどの程度利用していますか。(○はいくつでも)

1. ほとんど毎日	2. 一週間に2,3回	3. 一週間に1回	4. 二週間に1回
5. 月に1回	6. 二、三ヶ月に1回	7. 年に2,3回	8. 年に1回
9. 初めて来た	10. その他()	11. その他()	12. その他()

問5 今日、この図書館にどのような目的で来ましたが。(○はいくつでも)

1. 本を借りるため	2. 本を返すため	3. 本・資料等を閲覧するため	4. 辞書・辞典など
5. 一般的な図書	6. DVD・ビデオ等を鑑賞するため	7. 雑誌を読むため	8. 学術雑誌
9. 一般的な図書	10. PCでWEBサイトを利用するため	11. PCで論文、レポートを作成するため	9. 白書・統計書
10. DVD、CD等視聴覚資料	12. 友人と一緒に勉強するため	13. 友人と一緒に勉強するため	10. 課題図書・指定図書
11. WEBサイト	14. 友人と一緒に勉強するため	15. 待ち合わせ場所として	11. その他()
12. その他()	16. ゼミ、サークルで利用するため	17. 授業で利用するため	12. その他()
13. その他()	18. PCで印刷するため	19. その他()	13. その他()

問6 あなたは、この図書館で学習する際どのようなものを用いますか。(○はいくつでも)

1. 一般的な図書	2. 一般的な雑誌	3. 学術雑誌	4. 辞書・辞典など
5. 一般的な図書	6. 専門に関する図書	7. 白書・統計書	5. データベース
9. DVD、CD等視聴覚資料	10. 新聞	11. 課題図書・指定図書	12. 資格本
13. WEBサイト	14. その他()	15. その他()	16. その他()

問7 あなたにとって図書館はどのようなところと考えていますか。(○はいくつでも)

1. 日課として来るところ	2. 自分の勉強をするところ	3. 知りたいこと、調べたいことなどがわかること	4. 友人、知人、知人と交流を深めること
5. 気分転換をするところ	6. 新しそうな興味や関心を見つけたところ	7. 友人と一緒に勉強すること	8. 他に行くところがないから来るところ
9. 暇なときに来るところ	10. 友人と一緒に学習、議論すること	11. その他()	12. その他()
13. その他()	14. その他()	15. その他()	16. その他()

問8 あなたが、日ごる図書館を利用する際に選ぶ理由はなんですか。(○はいくつでも)

1. 利用している建物から近い	2. 次講義の建物に近い	3. 静かで落ち着いている	4. PCの利用がしやすい
5. 空気がいい	6. 空気がいい	7. 空気がいい	8. 空気がいい
9. PCで印刷ができる	10. PCで印刷ができる	11. 学修支援サービスが受けられる	12. 学修支援サービスが受けられる
13. 印刷機が使いやすい	14. 印刷機が使いやすい	15. 印刷機が使いやすい	16. 印刷機が使いやすい
17. 印刷機が使いやすい	18. 印刷機が使いやすい	19. 印刷機が使いやすい	20. 印刷機が使いやすい

問9 あなたは、この図書館で座りたい座席のタイプはなんですか。(○はいくつでも)

1. キーボード席 (仕切りのある席)	2. 4人掛け机の席	3. 6人掛け机の席
4. 仕切りのないカウンター席 (窓側など)	5. 研究個室	6. 研究個室
7. その他()	8. その他()	9. その他()

問10 あなたは、日ごる図書館と遠飛館二階の図書室を使い分けていますか。利用頻度とどうも利用している同伴形態(○はいくつでも)を使い分けている理由を教えてください。(○はいくつでも)

遠飛館二階の図書室の利用率	1. ほとんど毎日	2. 一週間に2,3回	3. 一週間に1回	4. 二週間に1回	5. 月に1回
遠飛館二階の図書室の利用率	6. 二、三ヶ月に1回	7. 年に1回	8. 年に1回	9. 使い分けなし	10. その他()
遠飛館二階の図書室の利用率	11. 一人で	12. 友人と(本人氏名())	13. 二人以上の利用が多い	14. 二人以上の利用が多い	15. 二人以上の利用が多い
遠飛館二階の図書室の利用率	16. 利用している建物から近い	17. 利用している建物から近い	18. 利用している建物から近い	19. 利用している建物から近い	20. 利用している建物から近い
21. 静かで落ち着いている	22. 静かで落ち着いている	23. 静かで落ち着いている	24. 静かで落ち着いている	25. 静かで落ち着いている	26. 静かで落ち着いている
27. PCの利用がしやすい	28. PCの利用がしやすい	29. PCの利用がしやすい	30. PCの利用がしやすい	31. PCの利用がしやすい	32. PCの利用がしやすい
33. 印刷機が使いやすい	34. 印刷機が使いやすい	35. 印刷機が使いやすい	36. 印刷機が使いやすい	37. 印刷機が使いやすい	38. 印刷機が使いやすい
39. 印刷機が使いやすい	40. 印刷機が使いやすい	41. 印刷機が使いやすい	42. 印刷機が使いやすい	43. 印刷機が使いやすい	44. 印刷機が使いやすい

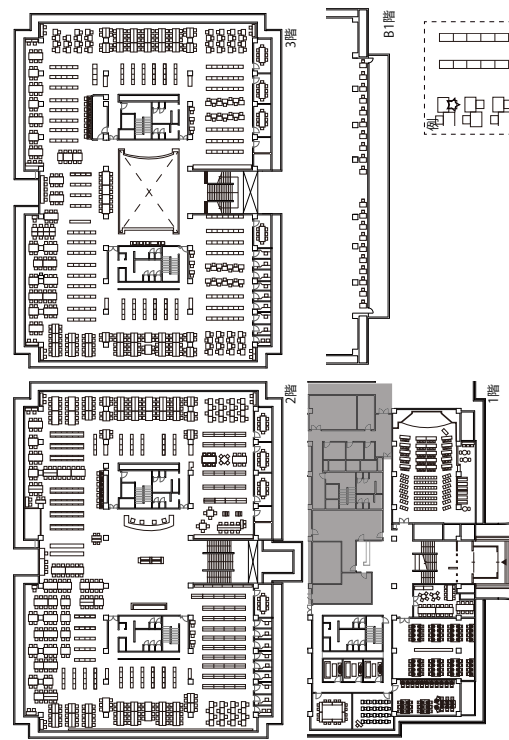
2016.10.13 京都産業大学中央図書館

入館時間 : 遠館時間 :

あなたは、日ごる図書館とサギタリクス館のどちらを主に使っていますか。利用頻度とどうも利用している同伴形態(○はいくつでも)を使い分けている理由を教えてください。(○はいくつでも)

サギタリクス館の利用率	1. ほとんど毎日	2. 一週間に2,3回	3. 一週間に1回	4. 二週間に1回	5. 月に1回
サギタリクス館の利用率	6. 二、三ヶ月に1回	7. 年に2,3回	8. 年に1回	9. 使い分けなし	10. その他()
サギタリクス館の利用率	11. 一人で	12. 友人と(本人氏名())	13. 二人以上の利用が多い	14. 二人以上の利用が多い	15. 二人以上の利用が多い
サギタリクス館の利用率	16. 利用している建物から近い	17. 利用している建物から近い	18. 利用している建物から近い	19. 利用している建物から近い	20. 利用している建物から近い
21. 静かで落ち着いている	22. 静かで落ち着いている	23. 静かで落ち着いている	24. 静かで落ち着いている	25. 静かで落ち着いている	26. 静かで落ち着いている
27. PCの利用がしやすい	28. PCの利用がしやすい	29. PCの利用がしやすい	30. PCの利用がしやすい	31. PCの利用がしやすい	32. PCの利用がしやすい
33. 印刷機が使いやすい	34. 印刷機が使いやすい	35. 印刷機が使いやすい	36. 印刷機が使いやすい	37. 印刷機が使いやすい	38. 印刷機が使いやすい
39. 印刷機が使いやすい	40. 印刷機が使いやすい	41. 印刷機が使いやすい	42. 印刷機が使いやすい	43. 印刷機が使いやすい	44. 印刷機が使いやすい

問11 あなたが、この図書館の最もよく利用する座席に☆印をして下さい。またその理由もお書き下さい。



よく利用する座席を選んだ理由 (○はいくつでも)

1. 利用している建物から近い	2. 集中できる	3. 他人の邪魔が気にならない	4. 印刷機が使いやすい
5. 空気がいい	6. 空気がいい	7. 空気がいい	8. 空気がいい
9. PCで印刷ができる	10. PCで印刷ができる	11. 学修支援サービスが受けられる	12. 学修支援サービスが受けられる
13. 印刷機が使いやすい	14. 印刷機が使いやすい	15. 印刷機が使いやすい	16. 印刷機が使いやすい
17. 印刷機が使いやすい	18. 印刷機が使いやすい	19. 印刷機が使いやすい	20. 印刷機が使いやすい

問12 あなたが、この図書館で座りたい座席のタイプはなんですか。(○はいくつでも)

1. キーボード席 (仕切りのある席)	2. 4人掛け机の席	3. 6人掛け机の席
4. 仕切りのないカウンター席 (窓側など)	5. 研究個室	6. 研究個室
7. その他()	8. その他()	9. その他()

問13 図書館がよりよいサービスを提供するために、あなたのご意見やお考えをお尋ねします。よいと思われるものをいくつか選んでください。(○はいくつでも)

1. 専門書や参考資料などの充実	2. 電子情報 (E-Book, E-Journal) の充実
3. AVコーナーの充実	4. 一般雑誌の種類の充実
5. PCの台数を増やして欲しい	6. 図書を早く返して欲しい
7. 閲覧席やソファなどが増えたい	8. 学修支援サービスの充実
9. 閉館時間の延長を欲しい	10. 飲食できる場の充実
11. 静かに学習できるスペース	12. LiCoモンスのようにな場所を増やして欲しい
13. 研究個室を増やして欲しい	14. グループ学習室を増やして欲しい
15. その他()	16. その他()

その他のご意見やご要望があれば自由に裏面に書き込んで下さい。ご協力ありがとうございました。

慶知工業大学工学部建築学科中井研究室

お滞りの際、出入口の扉扉にお渡ください

調査のお問い合わせ先、利用者が求める「場」としての図書館に関する研究を行っています。得られた調査結果は研究以外の目的には使用致しません。ご協力をお願い致します。

下の口の中は記入しないで下さい

雄飛館ラーニングcommonsに関するアンケート調査

問1 あなたはの性別、学年、所属等をお書き下さい。
1. 男 2. 女
1. 学部()年 2. 修士()年 3. 博士()年
4. 教員 5. 職員 6. その他()

問2 あなたの専攻する学部・研究科は何か。(〇はいくつだけ)
1. 建築学部 2. 経営学部 3. 法学部 4. 外国語学部 5. 文化学部
6. 理学部 7. コンピュータ理工学部 8. 総合生命科学部 9. 大学院()研究科
10. 法務研究科 11. その他()

問3 今日、どなたと一緒に来ましたが。(〇はいくつだけ)
1. 一人 2. 友人と(本人)()名 3. その他()

問4 あなたは、この雄飛館ラーニングcommonsをどの程度利用していますか。(〇はいくつだけ)
1. ほとんど毎日 2. 一週間に2,3回 3. 一週間に1回
5. 月に1回 6. 二、三ヶ月に1回 7. 年に2,3回
9. 初めに来た 10. その他()

問5 今日、この雄飛館ラーニングcommonsにどのような目的で来ましたが。(〇はいくつでも)
1. 本を読むため 2. 友人と一緒に勉強するため 3. 友人とおしゃべりするため
4. 一人で勉強するため 5. 学習の個別相談をするため 6. ワークショップに参加するため
7. PCでWEBサイトを利用するため 8. PCで文書、レポートを作成するため 9. PCでデータベースを利用するため
10. ただふらつとき 11. 待ち合わせ場所として 12. くつろぐため
13. 授業で利用するため 14. 学生スタッフとしてきたため 15. 部室利用のため
16. Asella(アセラ)について 17. PC以外のICT機器を利用するため 18. その他()

問6 あなたは、この雄飛館ラーニングcommonsで学習の際どのようなものを用いますか。(〇はいくつでも)
1. なにも利用しない 2. 真白ノートPC 3. ipad mini
5. プロジェクター 6. ホワイトボード 7. 私物の図書資料
9. 私物のノートPC 10. その他()

問7 あなたにとって雄飛館ラーニングcommonsはどのようなところだと考えていますか。(〇はいくつでも)
1. 日課として来るところ 2. 自分の勉強をするところ 3. 知りたこと調べるところ
4. 気分転換をするところ 5. ひとりの時間を過ごすところ 6. 友人、知人と交流を深めるところ
7. 暇なときに来るところ 8. 新しい興味や関心を見つけたところ 9. 他に行くところがないから来るところ
10. 友人と一緒に学習、議論すること 11. その他()

問8 あなたは、日ごろ雄飛館ラーニングcommonsを利用する際に選ぶ理由はなんですか。(〇はいくつでも)
1. 利用していた建物から近い 2. 次講義の建物に近い 3. 静かで落ち着いているため
4. 座席が広い 5. ICTに関する質問ができるため 6. PCの利用がしやすいため
7. 空席設備が整っているため 8. 空間の明るさが良いため 12. 開館時間が長い
10. 印刷・コピー機が利用できるため 11. 学習支援サービスが受けられるため
13. いつも座席が空いているため 14. その他()

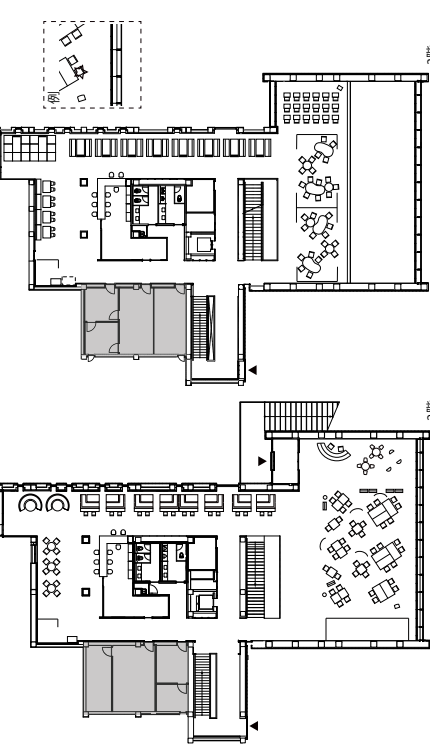
問9 あなたは、日ごろ雄飛館ラーニングcommonsと図書館を使い分けていますか。利用頻度についても利用している同伴形態(〇はいくつでも)
図書館の利用頻度
1. ほとんど毎日 2. 一週間に2,3回 3. 一週間に1回 4. 二週間に1回
6. 二、三ヶ月に1回 7. 年に2,3回 8. 年に1回 9. 使い分けなし
10. その他()
図書館の同伴形態
1. 一人での利用が多い 2. 二人以上の利用が多い 3. 一人、二人以上の利用は同じくらいある
4. 一人で利用している理由
1. 利用していた建物から近い 2. 次講義の建物に近い
3. 静かで落ち着いているため 4. 座席が広い 5. ここにしかない図書資料があるため
6. PCの利用がしやすい 7. 空間設備が整っているため 8. 空間の明るさが良い
9. 開館時間が長い 10. PCで印刷ができるため 11. 学習支援サービスが受けられるため
12. 休憩室で勉強をすることができるため 13. いつも座席が空いているため 14. その他()

入館時間 : 2016/10/13 京都産業大学ラーニングcommons

問10 あなたは、日ごろ雄飛館ラーニングcommonsとサギタリウス館(〇はいくつだけ)を使い分けている理由を教えてください。(〇はいくつでも)

サギタリウス館の利用理由
1. ほとんど毎日 2. 一週間に2,3回 3. 一週間に1回 4. 二週間に1回
5. 月に1回 6. 二、三ヶ月に1回 7. 年に2,3回 8. 年に1回
9. 使い分けなし
10. その他()
雄飛館の利用理由
1. 一人での利用が多い 2. 二人以上の利用が多い 3. 一人、二人以上の利用は同じくらいある
4. 一人で利用している理由
1. 利用していた建物から近い 2. 次講義の建物に近い
3. 静かで落ち着いているため 4. 座席が広い 5. ここにしかない図書資料があるため
6. PCの利用がしやすい 7. 空間設備が整っているため 8. 空間の明るさが良い
9. 開館時間が長い 10. PCで印刷ができるため 11. 学習支援サービスが受けられるため
12. 休憩室で勉強をすることができるため 13. いつも座席が空いているため 14. その他()

問11 あなたが雄飛館ラーニングcommonsの最もよく利用する座席に☆印をしてください。またその理由も教えてください。



よく利用する座席を選んだ理由 (〇はいくつだけ)
1. 利用する書架の近くから 2. 集中できるから 3. 他人の視線が気にならないため
4. 図書、資料を上げられるため 5. 作業のしやすさ 6. 座り心地が良いから
7. 周りが静かだから 8. 周囲が賑わっているから 9. 外の風景が見えるため
10. リラックスできるため 11. 友人と座るため 12. 窓際で明るいから
13. パソコンがあるから 14. 充電できるため 15. 薄暗いから
16. しゃべれるから 17. 水分補給ができるから 18. 周りの人が勉強しているから
19. 周りのグループが勉強しているから 20. よく席が空いているため 21. その他()

問12 雄飛館ラーニングcommonsがよりよいサービスを提供するために、あなたのご意見やお考えをお尋ねします。よいと思われるものを選びください。(〇はいくつでも)
1. PC資料の台数を増やして欲しい 2. 電子情報 (E-Book, E-Journal) の充実
3. 図書資料の充実をして欲しい 4. PC以外のICT機器の台数を増やして欲しい
5. 席やソファなどもっと増やして欲しい 6. 学習支援サービスの充実
7. 開館時間の延長を欲しい 8. 食事できる席の充実
9. 静かに学習できるスペースが欲しい 10. 作業スペースを増やして欲しい
11. 個人学習室を設けて欲しい 12. グループ学習室を設けて欲しい
13. セミナーの回数を増やして欲しい 14. コピー機を増設して欲しい
15. その他()
その他のご意見やご要望があれば自由に裏面に書き添えてください。ご協力ありがとうございます。

愛知工業大学工学部建築学科中井研究室

お帰りの際、出入口の加蓋にお渡しください。
調査のお願い
利用者が求める「場」としての図書館に関する研究を行っています。
得られた調査結果は研究以外の目的には使用致しません。ご協力をお願い致します。

サギタリウス館グローバルコモンズに関するアンケート調査

問1 問2 問3 問4 問5 問6 問7 問8 問9
あなたの性別、学年、所属等をお書き下さい。
あなたの専攻する学部・研究科は何ですか。
今日は、どなたと一緒に来ましたか。
あなたは、このサギタリウス館グローバルコモンズをどの程度利用していますか。
今日は、このサギタリウス館グローバルコモンズにどのような目的で来ましたか。
あなたは、このサギタリウス館グローバルコモンズで学習する際どのようなものを使用していますか。
あなたにとってサギタリウス館グローバルコモンズはどのようなところだと考えていますか。
あなたは、日ごろサギタリウス館グローバルコモンズを利用する際に選ぶ理由はなんですか。
あなたは、日ごろサギタリウス館グローバルコモンズと図書館を使い分けていますか。利用頻度といつも利用している同伴形態は

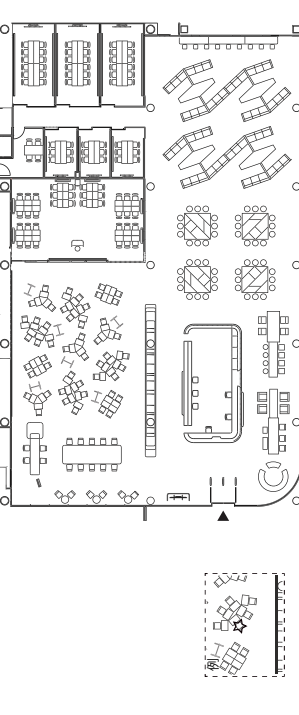
2016.10.13 京都産業大学 グローバルコモンズ

入館時間
退館時間
あなたは、日ごろサギタリウス館グローバルコモンズと図書館をどのように使い分けていますか。利用頻度といつも利用している同伴形態は

問10
サギタリウス館グローバルコモンズの利用頻度
同伴形態
利用している理由

問11
あなたは、サギタリウス館グローバルコモンズが利用できる前は主にどこで学習していましたか。またその理由を教えてください。
雄飛館ラウンジ学習室
図書館 開架閲覧席
図書館 Libコモンズ
図書館グループ学習室
学内の食堂
学内の他施設
学外の施設
その他

問12
あなたはサギタリウス館グローバルコモンズの最もよく利用する座席に☆印をつけてください。またその理由もお書きください。



よく利用する座席を選んだ理由
1.利用する座席の近くから
2.集中できるから
3.他人の視線が気にならないため
4.図書、資料が届けられるため
5.作業のしやすさ
6.座り心地が良いから
7.周囲が賑わっているから
8.周囲の風景が見えるため
9.外の風景が見えるため
10.リラクゼーションできるため
11.友人と座るため
12.空席が空いているから
13.パソコンがあるから
14.充電できるから
15.調音機があるから
16.シャワーがあるから
17.水分補給ができるから
18.周りの人が勉強しているから
19.周りのグループが勉強しているから
20.よく席が空いているから
21.その他

問13
サギタリウス館グローバルコモンズがよりよいサービスを提供するために、あなたのご意見やお考えをお書きください。
1.PC貸出の台数を増やして欲しい
2.電子情報 (E-Book, E-Journal) の充実
3.図書資料の台数を増やして欲しい
4.PC以外のICT機器の台数を増やして欲しい
5.席やソファなど、作業のしやすさ
6.学修支援サービスの充実
7.開架閲覧席の延長を欲しい
8.食事できるスペースの増やして欲しい
9.開架閲覧席の延長を欲しい
9.開架閲覧席の延長を欲しい
10.作業スペースを増やして欲しい
11.個人学習室を設けて欲しい
12.グループ学習室を設けて欲しい
13.セミナーの開催を希望して欲しい
14.グループ学習室を設けて欲しい
15.その他

問 8 学内における**図書館以外の学習場所**（アクティビ、ラーニングスペース、コミュニケーションスペース、情報センター等）の整備についてお聞きします。『A. 学習場所がある』と回答した大学は、計画した際の図書館職員の参画の有無、図書館との連携について教えて下さい。また、学習場所にある設備・サービスを教えてください。（○はいくつでも）（B. 学習場所はない）と回答した大学は問9に進んでください

A. 学習場所がある (ケ所) B. 学習場所はない →問9へ

→ a. 学習場所の計画に際して(○はいくつだけ)

a1. 図書館職員が参画した a2. 図書館職員の参画なし

→ b. 図書館との連携について(○はいくつでも)

b1. アナログ資料の提供 b2. デジタル資料の提供 b3. 人的支援 b4. 図書館との連携はない

→ c. 学習場所の設備・サービス内容(○はいくつでも)

c1. 図書・資料 c2. PC

c4. 可動式の机や椅子 c5. 自動販売機

c7. 飲食が可能 c8. ライティング等の支援員の配置

c10. 会話禁止になっている c11. 就職支援室とセット

c12. その他 ()

→ d. 代表的施設の名前 (一つまで)

問 9 大学図書館をよりよくするために必要だと考えているサービス・改善点がありますか。(○は2つまで)

1. 専門書や参考資料の充実 2. 一般圖書の充実 3. デスクトップPCの充実

4. ノートPCの貸出増設 5. CD・DVDの増設増設 6. 学習支援活動の充実

7. 学生ボランティアの増員 8. 会話可能な環境の増設 9. 静かな場所の増設

10. 静かな場所を減らす 11. 座席数を増やす 12. 他の部署との連携

13. キャンパスにおける図書館の立地変更 14. その他 ()

質問は以上になります。
本調査に関するご意見、補足内容等がございましたら、下記にお書きください。

■自由記述欄

ご協力ありがとうございました。

■最後に
アンケートで得られた本調査の回答に加えて、一部の大学で追加のヒアリング調査・施設見学を行いましたと考えています。
そこで差支えなければ、後日こちらからご連絡を申し上げますので、ご連絡先のご記入または、お名刺を同封して頂けると幸いです。今後ともご指導の程よろしくお願ひ致します。
ご記入者様の氏名 @

大学図書館における学習環境の整備状況に関するアンケート調査

■本調査へのお問い合わせ

私たちの研究室では、2011年度より大学図書館において来館者アンケート調査、館内での行動観察調査等を行い、利用者（学生）の利用意識や図書館内における利用行動の観点から研究を進めてきました。

2014年度は、ラーニング commons（以下 LC）設置のために改修を行った2館を含む愛知県内の大学図書館3館で調査を行いました。その結果、LC導入によって学習空間が整備された図書館では、利用者の場所に対する選択性が多様化していること、利用者自身の学習形態と周辺の音環境に合わせた座席や場所を求めていること、利用者が学習環境に求める「場」にはいくつかの段階性があることなどが整理できました。

今後、人口減少によって入学者の確保に向けて様々な取り組みが各大学で行われ、大学図書館も「大学の顔」としての役割を担い、LC等の新しい学習環境の導入や、各々特徴ある学習支援を行う必要性が増えると考えられます。

様々な大学で学習支援が行われる中、大学の教育方針、理系・文系といった研究領域によって学生の学習活動は変化し、提供すべきサービス内容にも違いが生じ、各大学で学習空間の作り方が工夫されていると思います。特にそうした新しい学習空間を新築・増築・改修か、また開架閲覧室との一体化・ガラスや壁による区画・別棟など、どのように整備されているかに関心があります。

そこで本調査は、地域差などを考慮して、中部・東海・北陸地方周辺の大学図書館を対象に調査を行い、静かな学習環境である開架閲覧室や会話が可能など様々な学習環境を提供している空間の整備状況、館内の構成やLC導入状況・学習支援内容などについて、現状と今後の整備方針について把握したいと考えています。そのため、実際の図書館運営に携わっておられる図書館司書・職員の皆様から、館内における現状の整備状況をお伺いすることによって、これまでの利用者だけの意見ではなく、管理・運営側の視点も踏まえて、図書館の在り方を考えていきたいと思います。

尚、本調査で得られた集計結果は研究目的以外での使用はいたしません。調査結果・研究報告の詳細につきましては、ご回答いただいた各大学図書館にご報告させていただきます。何卒、調査の主旨をご理解いただき、ご協力の程をよろしくお願ひ致します。

■回収について

本用紙につきましては、返信用封筒を同封しておりますので、封筒に入れて投函してください。また、アンケート項目以外でも、館内の空間構成や施設概要等の把握を行いたいと考えています。そこで**図書館利用案内パンフレット・平面図やLC等の学習環境を紹介したパンフレット**等がありますから、ご同封いただければ幸いです。

何卒、ご高配の程をよろしくお願ひ致します。

回答用紙は、**2016年11月7日** までにご投函をお願い致します。

アンケート内容や本調査の主旨に関して、ご意見・ご質問がありましたら、下記のE-mailアドレスまでご連絡下さい。

研究者代表
愛知工業大学工学部建築学科 中井孝幸研究室
担当：同大学院工学研究科 博士前期課程2年 楠川亮敏
〒470-0392
愛知県豊田市八草町八千草 1247 番地
TEL：(0565)48-8121 (代表) E-mail: donotmath@gmail.com (楠川亮)

問5 図書館で学生の学習を支援するため、または図書館の利用を周知してもらうために取組んでいる取り組みはありますか。(Oはいくつでも)

1. 新1年生に向けてのガイダンス	3. 他大学との交流会
4. リザーブブック制度の導入	6. データベース講習会
7. 速習ツアー・兼通書の展示	8. ヒパリオハトル
10. レポート・ノート作成法講習	11. プレゼンテーション技術の講習
12. IT等の情報技術支援	13. 図書紹介(POP作成等)
	14. 学部別専門講習会
	15. その他()

問6 今後、図書館に新たな学習空間を新設・改修をご予定はありますか。『A. 計画予定がある』と回答した大学は、会話の語群と学習空間の名称、竣工予定年、導入・計画を行ったきっかけ(導入理由)を教えてください。(B. 計画予定がない)と回答した大学は問8に進んでください

今後、図書館に新たな学習空間を新設・改修をご予定はありますか。『A. 計画予定がある』と回答した大学は、会話の語群と学習空間の名称、竣工予定年、導入・計画を行ったきっかけ(導入理由)を教えてください。(B. 計画予定がない)と回答した大学は問8に進んでください

問7 問6で『A. 計画予定がある』と解答した大学にお聞きします。問6の『B. 学習空間の名称』から代表的なものを2つまで抜き出し、抜き出した学習空間の竣工予定日、新設方法(『e2. 図書館を一部改修して整備する際に整備』を意味する場合は、その用途についてもお答えください)。構成方法はどのように行っていますか。

1. 学習空間の名称 (Oはいくつでも)

2. 竣工予定年(西暦20()年()月()日)

3. 新設方法 (Oはいくつでも)

4. 図書館を新築する際に整備

5. 図書館とは別棟で整備

6. 図書館を一部改修する際に整備

7. 図書館を全面改修して整備

8. 図書館を新築する際に整備

9. 図書館とは別棟で整備

10. 図書館を一部改修する際に整備

11. 図書館を全面改修して整備

12. 図書館を新築する際に整備

13. 図書館とは別棟で整備

14. 図書館を一部改修する際に整備

15. 図書館を全面改修して整備

16. その他()

17. その他()

18. その他()

19. その他()

20. その他()

21. その他()

22. その他()

23. その他()

24. その他()

25. その他()

26. その他()

27. その他()

28. その他()

29. その他()

30. その他()

31. その他()

32. その他()

33. その他()

34. その他()

35. その他()

36. その他()

37. その他()

38. その他()

39. その他()

40. その他()

41. その他()

42. その他()

43. その他()

44. その他()

45. その他()

46. その他()

47. その他()

48. その他()

49. その他()

50. その他()

51. その他()

52. その他()

53. その他()

54. その他()

55. その他()

56. その他()

57. その他()

58. その他()

59. その他()

60. その他()

61. その他()

62. その他()

63. その他()

64. その他()

65. その他()

66. その他()

67. その他()

68. その他()

69. その他()

70. その他()

71. その他()

72. その他()

73. その他()

74. その他()

75. その他()

76. その他()

77. その他()

78. その他()

79. その他()

80. その他()

81. その他()

82. その他()

83. その他()

84. その他()

85. その他()

86. その他()

87. その他()

88. その他()

89. その他()

90. その他()

91. その他()

92. その他()

93. その他()

94. その他()

95. その他()

96. その他()

97. その他()

98. その他()

99. その他()

100. その他()

問8 A. 計画予定がある B. 計画予定はない

1. 会話の語群 (Oはいくつでも)

2. 会議可能な環境を整備する

3. 会議禁止の環境を整備する

4. 会議可能・禁止環境を両方整備する

5. 会議可能な環境を整備する

6. 会議禁止の環境を整備する

7. 会議可能・禁止環境を両方整備する

8. 会議可能な環境を整備する

9. 会議禁止の環境を整備する

10. 会議可能・禁止環境を両方整備する

11. 会議可能な環境を整備する

12. 会議禁止の環境を整備する

13. 会議可能・禁止環境を両方整備する

14. 会議可能な環境を整備する

15. 会議禁止の環境を整備する

16. 会議可能・禁止環境を両方整備する

17. 会議可能な環境を整備する

18. 会議禁止の環境を整備する

19. 会議可能・禁止環境を両方整備する

20. 会議可能な環境を整備する

21. 会議禁止の環境を整備する

22. 会議可能・禁止環境を両方整備する

23. 会議可能な環境を整備する

24. 会議禁止の環境を整備する

25. 会議可能・禁止環境を両方整備する

26. 会議可能な環境を整備する

27. 会議禁止の環境を整備する

28. 会議可能・禁止環境を両方整備する

29. 会議可能な環境を整備する

30. 会議禁止の環境を整備する

31. 会議可能・禁止環境を両方整備する

32. 会議可能な環境を整備する

33. 会議禁止の環境を整備する

34. 会議可能・禁止環境を両方整備する

35. 会議可能な環境を整備する

36. 会議禁止の環境を整備する

37. 会議可能・禁止環境を両方整備する

38. 会議可能な環境を整備する

39. 会議禁止の環境を整備する

40. 会議可能・禁止環境を両方整備する

41. 会議可能な環境を整備する

42. 会議禁止の環境を整備する

43. 会議可能・禁止環境を両方整備する

44. 会議可能な環境を整備する

45. 会議禁止の環境を整備する

46. 会議可能・禁止環境を両方整備する

47. 会議可能な環境を整備する

48. 会議禁止の環境を整備する

49. 会議可能・禁止環境を両方整備する

50. 会議可能な環境を整備する

51. 会議禁止の環境を整備する

52. 会議可能・禁止環境を両方整備する

53. 会議可能な環境を整備する

54. 会議禁止の環境を整備する

55. 会議可能・禁止環境を両方整備する

56. 会議可能な環境を整備する

57. 会議禁止の環境を整備する

58. 会議可能・禁止環境を両方整備する

59. 会議可能な環境を整備する

60. 会議禁止の環境を整備する

61. 会議可能・禁止環境を両方整備する

62. 会議可能な環境を整備する

63. 会議禁止の環境を整備する

64. 会議可能・禁止環境を両方整備する

65. 会議可能な環境を整備する

66. 会議禁止の環境を整備する

67. 会議可能・禁止環境を両方整備する

68. 会議可能な環境を整備する

69. 会議禁止の環境を整備する

70. 会議可能・禁止環境を両方整備する

71. 会議可能な環境を整備する

72. 会議禁止の環境を整備する

73. 会議可能・禁止環境を両方整備する

74. 会議可能な環境を整備する

75. 会議禁止の環境を整備する

76. 会議可能・禁止環境を両方整備する

77. 会議可能な環境を整備する

78. 会議禁止の環境を整備する

79. 会議可能・禁止環境を両方整備する

80. 会議可能な環境を整備する

81. 会議禁止の環境を整備する

82. 会議可能・禁止環境を両方整備する

83. 会議可能な環境を整備する

84. 会議禁止の環境を整備する

85. 会議可能・禁止環境を両方整備する

86. 会議可能な環境を整備する

87. 会議禁止の環境を整備する

88. 会議可能・禁止環境を両方整備する

89. 会議可能な環境を整備する

90. 会議禁止の環境を整備する

91. 会議可能・禁止環境を両方整備する

92. 会議可能な環境を整備する

93. 会議禁止の環境を整備する

94. 会議可能・禁止環境を両方整備する

95. 会議可能な環境を整備する

96. 会議禁止の環境を整備する

97. 会議可能・禁止環境を両方整備する

98. 会議可能な環境を整備する

99. 会議禁止の環境を整備する

100. 会議可能・禁止環境を両方整備する

問9 問6で『A. 計画予定がある』と解答した大学にお聞きします。問6の『B. 学習空間の名称』から代表的なものを2つまで抜き出し、抜き出した学習空間の竣工予定日、新設方法(『e2. 図書館を一部改修して整備』を意味する場合は、その用途についてもお答えください)。構成方法はどのように行っていますか。

1. ラーニングコモンズ (LC)

2. アクティブラーニング室

3. 視聴覚室 (AV室)

4. グループ学習室

5. ディスカッション室

6. パソコン室

7. 休憩室・リラクゼーション室

8. その他()

9. その他()

10. その他()

11. その他()

12. その他()

13. その他()

14. その他()

15. その他()

16. その他()

17. その他()

18. その他()

19. その他()

20. その他()

21. その他()

22. その他()

23. その他()

24. その他()

25. その他()

26. その他()

27. その他()

28. その他()

29. その他()

30. その他()

31. その他()

32. その他()

33. その他()

34. その他()

35. その他()

36. その他()

37. その他()

38. その他()

39. その他()

40. その他()

41. その他()

42. その他()

43. その他()

44. その他()

45. その他()

46. その他()

47. その他()

48. その他()

49. その他()

50. その他()

51. その他()

52. その他()

53. その他()

54. その他()

55. その他()

56. その他()

57. その他()

58. その他()

59. その他()

60. その他()

61. その他()

62. その他()

63. その他()

64. その他()

65. その他()

66. その他()

67. その他()

68. その他()

69. その他()

70. その他()

71. その他()

72. その他()

73. その他()

74. その他()

75. その他()

76. その他()

77. その他()

78. その他()

79. その他()

80. その他()

81. その他()

82. その他()

83. その他()

84. その他()

85. その他()

86. その他()

87. その他()

88. その他()

89. その他()

90. その他()

91. その他()

92. その他()

93. その他()

94. その他()

95. その他()

96. その他()

97. その他()

98. その他()

99. その他()

100. その他()

問10 問6で『A. 計画予定がある』と解答した大学にお聞きします。問6の『B. 学習空間の名称』から代表的なものを2つまで抜き出し、抜き出した学習空間の竣工予定日、新設方法(『e2. 図書館を一部改修して整備』を意味する場合は、その用途についてもお答えください)。構成方法はどのように行っていますか。

問11 問6で『A. 計画予定がある』と解答した大学にお聞きします。問6の『B. 学習空間の名称』から代表的なものを2つまで抜き出し、抜き出した学習空間の竣工予定日、新設方法(『e2. 図書館を一部改修して整備』を意味する場合は、その用途についてもお答えください)。構成方法はどのように行っていますか。

1. ラーニングコモンズ (LC)

2. アクティブラーニング室

3. 視聴覚室 (AV室)

4. グループ学習室

5. ディスカッション室

6. パソコン室

7. 休憩室・リラクゼーション室

8. その他()

9. その他()

10. その他()

11. その他()

12. その他()

13. その他()

14. その他()

15. その他()

16. その他()

17. その他()

18. その他()

19. その他()

20. その他()

21. その他()

22. その他()

23. その他()

24. その他()

25. その他()

26. その他()

27. その他()

28. その他()

29. その他()

30. その他()

31. その他()

32. その他()

33. その他()

34. その他()

35. その他()

36. その他()

37. その他()

38. その他()

39. その他()

40. その他()

41. その他()

42. その他()

43. その他()

44. その他()

45. その他()

46. その他()

47. その他()

48. その他()

49. その他()

50. その他()

51. その他()

52. その他()

53. その他()

54. その他()

55. その他()

56. その他()

57. その他()

58. その他()

59. その他()

60. その他()

61. その他()

62. その他()

63. その他()

64. その他()

65. その他()

66. その他()

67. その他()

68. その他()

69. その他()

70. その他()

71. その他()

72. その他()

73. その他()

74. その他()

75. その他()

76. その他()

77. その他()

78. その他()

79. その他()

80. その他()

81. その他()

82. その他()

83. その他()

84. その他()

85. その他()

86. その他()

87. その他()

88. その他()

89. その他()

90. その他()

91. その他()

92. その他()

93. その他()

94. その他()

95. その他()

96. その他()

97. その他()

98. その他()

99. その他()

100. その他()

問12 問6で『A. 計画予定がある』と解答した大学にお聞きします。問6の『B. 学習空間の名称』から代表的なものを2つまで抜き出し、抜き出した学習空間の竣工予定日、新設方法(『e2. 図書館を一部改修して整備』を意味する場合は、その用途についてもお答えください)。構成方法はどのように行っていますか。

問13 問6で『A. 計画予定がある』と解答した大学にお聞きします。問6の『B. 学習空間の名称』から代表的なものを2つまで抜き出し、抜き出した学習空間の竣工予定日、新設方法(『e2. 図書館を一部改修して整備』を意味する場合は、その用途についてもお答えください)。構成方法はどのように行っていますか。

調査のお願い

利用者が求める学習環境としての大学図書館に関する研究を行っています。
得られた調査結果は研究以外の目的には使用致しません。ご協力をお願い致します。

◆◆お帰りの際、出入口に設置したポストにお入れください◆◆

下記の□
の中には
記入しない
で下さい

問1 あなたの性別、学年、所属等をお書き下さい。

1.男 2.女

1.学部()年 2.修士()年 3.博士()年 4.その他()

1
□ □

問2 あなたの専攻する学部・研究科は何ですか。(○は一つだけ)

1.工学部 2.経営情報学部 3.国際関係学部 4.人文学部 5.応用生物学部
6.生命健康科学部 7.現代教育学部 8.大学院()研究科 9.その他()

2
□

問3 今日は、どなたと一緒に利用していますか。(○は一つだけ)

1.一人で 2.友人と(本人+()名) 3.その他()

3
□ □

問4 あなたは、この図書館をどの程度利用していますか。(○は一つだけ)

1.ほとんど毎日 2.一週間に2,3回 3.一週間に1回 4.二週間に1回
5.月に1回 6.二、三ヶ月に1回 7.年に2,3回 8.年に1回
9.初めて来た 10.その他()

4
□

問5 今日は、この図書館にどのような目的で来ましたか。(○はいくつでも)

1.授業課題・レポートの作成 2.授業の予習 3.授業のテスト勉強
4.資格・受験・公務員試験勉強 5.就職活動関連の作業 6.研究活動・論文執筆
7.上記外の私的な用事をする 8.ただふらっときた 9.くつろぐため
10.その他()

5
□
□
□

問6 今日は、問5で選択した目的のために、どのような内容を利用しましたか。(○はいくつでも)

1.本を借りきた 2.本を返しきた 3.本・資料等を探してきた
4.図書館の本・資料を読んだ 5.新聞・雑誌を読んだ 6.DVD・ビデオ等を鑑賞した
7.PCでWEBサイトを閲覧した 8.PCで文書を作成した 9.PCでデータベースを利用した
10.PCで印刷した 11.友人とディスカッションした 12.その他()

6
□
□
□
□

問7 今日、選択したこの座席(アンケートを配布した時の場所)をよく利用しますか。(○は一つだけ)

1.来たら良く座る 2.他が空席でないから第二候補 3.ほとんど利用しない

7
□

問8 今日この座席(アンケートを配布した時の場所)を選択した理由はなんですか。(○は2つ以内)

1.利用する書架の近くだから 2.他人の視線が気にならないから
3.机が広くモノをひろげやすいから 4.椅子の座り心地が良いから
5.電源用コンセントがあるから 6.窓から外の風景が見えるから
7.太陽の光が入って明るいから 8.出入口に近いから
9.周囲が静かだから 10.周囲が賑わっているから
11.友人としゃべれるから 12.周りの人が勉強しているから
13.よく席が空いているから 14.その他()

8
□
□

問9 あなたは、「不言実行館 コモンズセンター」をどの程度、使い分けて利用していますか。(○は一つだけ)

1.ほとんど毎日 2.一週間に2,3回 3.一週間に1回 4.二週間に1回 5.月に1回
6.二、三ヶ月に1回 7.年に2,3回 8.年に1回 9.使い分けない(行かない)

9
□

その他、ご意見やご要望があれば自由に裏面にお書きください。ご協力ありがとうございます。

資料-1-① 東海・北陸・甲信越地方の大学図書館施設概要（出典：日本の図書館統計と名簿、日本図書館協会）

通し番号	管轄	所在	名称	奉仕 人数	学生数	延床面積 (m ²)	建物 階数	蔵書冊数 (千冊)	受入 図書数	貸出数 (千点)	開館 日数	座席数	来館者数 /日
1	国立	新潟	上越教育大学附属図書館	1739	1338	3121	3	356	4377	43	348	330	289
2	国立	新潟	長岡技術科学大学附属図書館	3130	2418	2934	3	155	2593	42	356	312	232
3	国立	新潟	新潟大学学術情報基盤機構附属図書館中央図書館	11953	10335	14212	3	1313	8061	106	348	1623	2744
4	国立	富山	富山大学附属図書館中央図書館	8028	6814	9492	6	1064	8733	50	308	891	1009
5	国立	富山	富山大学附属図書館薬学図書館	3807	1926	3285	3	231	3141	13	334	592	727
6	国立	石川	金沢大学附属図書館	13221	10488	10456	4	1198	13786	70	313	1091	2000
7	国立	石川	金沢大学附属図書館医学図書館	3807	1926	3185	4	231	3141	13	334	343	433
8	国立	石川	金沢大学附属図書館医学図書館保健学類図書室	1256	1154	356	1	45	969	17	265	56	200
9	国立	石川	北陸先端科学技術大学院大学附属図書館	1464	957	3076	3	148	1625	19	365	162	237
10	国立	福井	福井大学附属図書館医学図書館	3245	1091	3307	2	131	1840	29	360	427	448
11	国立	山梨	山梨大学附属図書館医学分館	6745	3976	1663	2	96	1638	16	288	189	495
12	国立	長野	信州大学附属図書館医学部図書館	3587	1300	1812	2	160	1673	10	288	204	245
13	国立	長野	信州大学附属図書館工学部図書館	2446	2053	1470	2	157	1828	21	277	315	450
14	国立	長野	信州大学附属図書館農学部図書館	887	724	1209	2	102	915	10	280	177	196
15	国立	岐阜	岐阜大学附属図書館医学図書館	3087	1229	2032	3	164	1001	11	281	154	165
16	国立	愛知	愛知教育大学附属図書館	4974	4217	5861	3	632	8681	60	291	453	722
17	国立	愛知	豊橋技術科学大学附属図書館	2976	2244	3093	3	178	1570	21	342	185	215
18	国立	愛知	名古屋工業大学附属図書館	6772	5766	5594	4	475	3428	43	319	472	893
19	国立	愛知	名古屋大学附属図書館中央図書館	25114	16451	15597	6	1231	13135	160	348	1042	2188
20	国立	愛知	名古屋大学附属図書館医学部分館保健学図書室	1226	1090	884	1	48	1078	9	233	190	298
21	国立	愛知	名古屋大学附属図書館法学図書室	1276	1111	1059	1	248	4152	14	278	36	157
22	国立	愛知	名古屋大学附属図書館理学図書室	2733	1993	1786	1	212	4387	34	242	144	176
23	国立	愛知	名古屋大学附属図書館工学図書室	6365	5381	1459	1	198	3589	8	243	109	88
24	国立	愛知	名古屋大学附属図書館生命農学図書室	1310	1176	846	1	108	1022	8	241	94	255
25	国立	愛知	名古屋大学附属図書館太陽地球環境研究所 第一図書室	127	90	185	1	14	136		190	7	10
26	国立	愛知	名古屋大学附属図書館国際開発図書室	354	299	348	1	71	1862	9	236	8	91
27	国立	愛知	名古屋大学附属図書館太陽地球環境研究所 第二図書室	173	56	147	1	13	224	0	241	8	5
28	国立	愛知	名古屋大学附属図書館情報基盤センター図書室	68	36	86	1	9	157	0	242	12	5
29	国立	三重	三重大学附属図書館医学部図書館	10632	7449	910	2			10	356	157	500
30	公立	石川	石川県立看護大学附属図書館	617	396	1186.44	2	54	2014	14	275	108	250
31	公立	石川	石川県立大学図書・情報センター	729	579	1226	1	9	1245	7	281	82	135
32	公立	福井	敦賀市立看護大学			782	1					80	64
33	公立	福井	福井県立大学附属図書館	1908	1579	4080.52	2	341	6923	13	265	228	230
34	公立	福井	福井県立大学附属図書館小浜分館	246	185	382.29	2	39	754	1	261	43	39
35	公立	山梨	都留文科大学附属図書館	3877	3386	4553	4	343	11091	44	297	677	1174
36	公立	山梨	山梨県立大学飯田図書館	503	425	1187	2	82	1594	13	267	125	164
37	公立	岐阜	岐阜県立看護大学図書館	593	364	1196	2	91	2649	34	275	122	215
38	公立	岐阜	情報科学芸術大学院大学附属図書館	110	5740	295	1	40	1227	4	240	15	22
39	公立	静岡	静岡県立大学附属図書館	3592	2937	5996	4	380	6983	30	274	655	520
40	公立	愛知	愛知県立芸術大学芸術情報センター図書館	1613	998	1703	3	106	3398	11	216	90	117
41	公立	愛知	愛知県立大学長久手キャンパス図書館	3703	3115	6374	3	565	7589	75	222	463	784
42	公立	愛知	愛知県立大学守山キャンパス図書館	610	448	818	2	82	1366	12	246	93	130
43	公立	愛知	名古屋市長久手総合情報センター山の煙分館	2186	2055	3679	2	563	6344	24	276	219	286
44	公立	愛知	名古屋市長久手総合情報センター川澄分館	3653	1187	1726	2	2143	4287	18	318	115	518
45	公立	愛知	名古屋市長久手総合情報センター田辺通分館	1449	779	879.98	1	66	552	4	283	114	280
46	公立	愛知	名古屋市長久手総合情報センター北千種分館	536	499	1145	1	87	1541	7	282	68	84
47	私立	新潟	敬和学園大学図書館	788	659	971	1	93	2816	5	261	126	266
48	私立	新潟	長岡造形大学附属図書館			974	1					122	148
49	私立	新潟	新潟医療福祉大学図書館	4321	3849	1399	3	97	7357	38	297	395	
50	私立	新潟	新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部図書館	1999	1653	1017	2	143	4768	33	284	166	150
51	私立	富山	高岡法科大学図書館	304	246	1381	2	100	2216	1	274	101	82
52	私立	石川	金沢医科大学図書館	3936	1123	2143	2	205	1537	8	281	189	
53	私立	石川	金城大学図書館	2020	1731	788.23	2	105	4512	12	212	212	124
54	私立	石川	北陸学院大学ヘッセル記念図書館	897	784	1902.74	2	163	2489	17	219	246	299
55	私立	石川	北陸学院大学図書館	2207	1929	2495	4	151	2146	6	339	428	250
56	私立	福井	仁愛大学附属図書館	1361	1148	1194	2	118	3281	23	281	282	350
57	私立	山梨	身延山大学図書館	219	125	2590	5	118	3454	2	200	73	50
58	私立	山梨	山梨学院総合図書館	4834	4186	3201.5	2	325	4511	11	256	500	300
59	私立	長野	松本歯科大学図書館	1354	770	1894	2	152	877	6	272	198	77
60	私立	長野	松本大学図書館	2210	1888	1262	3	107	3482	10	275	209	326
61	私立	岐阜	岐阜医療科学大学図書館	1397	1197	728	1	56	1628	6	267	132	161
62	私立	岐阜	岐阜聖徳学園大学羽島キャンパス図書館	2416	2129	1957	4	194	2167	18	257	228	188
63	私立	岐阜	岐阜聖徳学園大学岐阜キャンパス図書館	1174	562	1088	2	144	1568	8	256	163	98
64	私立	岐阜	岐阜女子大学図書館	1289	1067	1723	2	143	1821	11	272	180	61
65	私立	岐阜	中部学院大学附属図書館	1659	1030	1245	2	146	2636	22	314	199	
66	私立	岐阜	東海学院大学・東海学院大学短期大学部附属図書館	1216	1066	4734	4	234	330	11	286	368	122
67	私立	静岡	静岡産業大学図書館	1366	1161	677.27	2	63	1298	3	266	144	158
68	私立	静岡	静岡産業大学藤枝図書館	892	756	1156.2	2	58	916	3	268	169	112
69	私立	静岡	静岡理工科大学附属図書館	1589	1410	1739.36	1	113	2432	9	229	243	360
70	私立	静岡	常葉大学附属図書館浜松図書館	2401	2095	1185	2	178	2139	8	249	223	83
71	私立	静岡	常葉大学附属図書館富士図書館	1435	12250	960	1	98	1984	4	250	202	94
72	私立	静岡	浜松学院大学図書館			526	2					119	45
73	私立	静岡	浜松学院大学図書館住吉分館				3					96	13
74	私立	愛知	愛知医科大学医学情報センター（図書館）	4051	1295	2640	2	106	1709	17	324	269	651
75	私立	愛知	愛知学院大学図書館情報センター	14466	6411	13960	4	936	9602	47	271	1494	957
76	私立	愛知	愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター	3809	2061	1957	2	170	2164	15	295	237	655
77	私立	愛知	愛知学院大学豊田図書館	617	529	3407	2	189	2585	2	216	314	162
78	私立	愛知	愛知学院大学岡崎図書館	1541	1367	1653.07	2	134	2989	9	229	224	202
79	私立	愛知	愛知工業大学付属図書館	1003	888	1291	1	38	796	8	246	31	
80	私立	愛知	愛知工業大学附属図書館	6870	6136	4316	4	331	7348	49	284	625	837
81	私立	愛知	愛知淑徳大学図書館	10000	8905	3303.41	2	269	7151	47	249	476	635
82	私立	愛知	愛知淑徳大学図書館星が丘分館	1000	8905	1585	3	138	4111	15	247	175	348
83	私立	愛知	愛知大学名古屋図書館	11508	7087	4650.52	3	528	8894	57	288	884	1195
84	私立	愛知	愛知大学豊橋図書館		3105	6990	3	825	5770	36	293	811	504
85	私立	愛知	愛知大学車道図書館		160	2518	3	156	828		282	452	945
86	私立	愛知	愛知東邦大学図書館	1442	1297	1142.22	4	96	1625	6	242	188	271

資料-1-② 東海・北陸・甲信越地方の大学図書館施設概要（出典：日本の図書館統計と名簿、日本図書館協会）

通し番号	管轄	所在	名称	奉仕 人数	学生数	延床面積 (m ²)	建物 階数	蔵書冊数 (千冊)	受入 図書数	貸出数 (千点)	開館 日数	座席数	来館者数 /日
87	私立	愛知	愛知文教大学附属図書館	353	271	606	2	79	281	1	252	110	70
88	私立	愛知	愛知みずほ大学附属図書館		441		1					131	62
89	私立	愛知	桜花学園大学図書館	1936	1669	2324	3	231	3752	24	266	320	127
90	私立	愛知	岡崎女子大学・岡崎女子短期大学図書館	1142	950	581	1	91	879	10	284	120	84
91	私立	愛知	金城学院大学図書館	6372	5464	6651	4	505	6631	50	272	566	400
92	私立	愛知	修文大学附属図書館	1071	972	1130	2	83	597	5	284	155	120
93	私立	愛知	椋山女学院大学中央図書館	6270	5873	3298	5	359	3970	57	282	460	391
94	私立	愛知	椋山女学院大学日進図書館	6270	5873	643	1	84	900	12	288	146	105
95	私立	愛知	大同大学図書館	3982	3447	3064	4	249	4575	9	234	392	336
96	私立	愛知	中京大学図書館	14308	13049	7493.5	2	459	7472	73	273	478	800
97	私立	愛知	中部大学附属三浦記念図書館	12760	11491	11273.3	5	651	12864	54	283	951	1051
98	私立	愛知	東海学園大学名古屋キャンパス図書館	2316	2028	2306.98	3	215	3928	29	227		300
99	私立	愛知	東海学園大学三好キャンパス図書館	2364	2145	1242	3	79	3958	4	263	187	111
100	私立	愛知	同朋学園大学部附属図書館（名古屋音楽大学）			3018.73	3					257	240
101	私立	愛知	豊田工業大学総合情報センター	742	488	1608.53	1	99	2453	13	271	104	
102	私立	愛知	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館	8030	6906	4480	6	309	13159	49	279	640	850
103	私立	愛知	名古屋学院大学学術情報センター	5100	4676	1773.64	2	379	7305	18	271	417	1000
104	私立	愛知	名古屋学院大学学術情報センター（瀬戸図書館）	1092	990	4122	3			5	261	408	400
105	私立	愛知	名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部図書館	2256	7938	5409.04	5	355	1178	6	287	584	66
106	私立	愛知	名古屋芸術大学附属図書館東キャンパス図書館	2981	2450	2026	2	187	4883	21	240	117	110
107	私立	愛知	名古屋産業大学・名古屋経営短期大学図書館	997	782	5409.04	1	70	1598	3	281	124	87
108	私立	愛知	名古屋女子大学学術情報センター	2244	1233	876	2	266	3646	13	275	461	900
109	私立	愛知	名古屋造形大学図書館			1349.06	1					152	220
110	私立	愛知	南山大学名古屋図書館	11597	9812	7942	5	708	10403	103	314	831	1029
111	私立	愛知	南山大学瀬戸図書館	11597	9812	3167	2	100	1826	19	313	393	344
112	私立	愛知	日本福祉大学付属図書館（美浜本館）	7359	6503	3879	2	485	14156	48	272	561	930
113	私立	愛知	人間環境大学附属図書館	818	594	792	2	75	655	4	254	130	70
114	私立	愛知	名城大学附属図書館	14366	12956	13453.36	7	901	11328	64	312	1203	958
115	私立	三重	皇學館大学附属図書館	3376	3025	4244	3	351	6822	22	273	432	567
116	私立	三重	鈴鹿医療科学大学附属図書館	2780	2543	3166.37	2	80	764	34	249	361	455
117	私立	三重	鈴鹿医療科学大学附属図書館白子分館			775	2	10	1204	6	280	138	379
118	私立	三重	鈴鹿大学附属図書館	439	378	1331	3	98	1407	3	239	213	174
119	私立	三重	四日市看護医療大学図書館	588	456	718.81	1	22	1466	9	252	108	310

番号	竣工年	種類	図書館名	図書館建築 図集1960	図書館建築 図集79	日本図書館 協会建築賞	建築設計資 料集成	新建築	その他	抽出 数	設計者	面積(m ²)	規模
1	1954	中央	津田塾大学図書館					55'		1	丹下健三	1,202	地下1階地上2階
2	1958	中央	神奈川大学図書館	○						1	山口文象	2,618	地上4階地下1階
3	1958	分館・部局	慶應義塾鶴山記念日吉図書館	○						1	三菱地所	1,683	地上1階地下2階
4	1959	中央	明治大学図書館	○				59'11		2	明治大学工学部堀口捨己研究室	2,860	地上8階(書庫4階、)
5	1960	分館・部局	明治大学図書館和泉分館	○						1	翁村建築設計事務所	1,200	地上3階地下1階
6	1960	中央	国際基督教大学図書館	○						2	レーモンド事務所		地下1階地上2階
7	1960	中央	立教大学図書館	○				61'8		2	レーモンド事務所	3,060	地上3階
8	1961	中央	大谷大学図書館	○						1	丹下健三	5,624	地上3階
9	1961	分館・部局	東京大学医学部総合図書館	○						1	東京大学工学部吉武研究室, 市浦建築事務所	5,226	地上2階地下1階
10	1964	中央	南山大学図書館		○					1	東京大学施設部	5,013	地下2階地上3階
11	1964	中央	名古屋大学古川図書館							1	レーモンド事務所		
12	1963	中央	学習院大学図書館					65'2		1	谷口吉郎	3,271	地上3階
13	1965	中央	東京芸術大学図書館					64'1		1	前川国男建築設計事務所		
14	1967	中央	武蔵野美術大学美術資料図書館					65'11		1	東京芸術大学建築科教室		
15	1968	中央	東京経済大学図書館					67'5		2	芦原義信建築設計事務所	5,801	地上3階地下1階
16	1968	中央	武蔵川女子大学図書館					68'8		3	鬼頭梓建築設計事務所	5,000	地下2階地上1階
17	1969	中央	福岡大学図書館研究室棟					70'12		1	志賀設計	12,583	地上4階まで
18	1970	分館・部局	東京農工大学附属図書館工学部図書館			○				1	東京農工大学施設部	1,552	地上1階
19	1970	中央	大妻女子大学図書館棟					70'12		1	日建設計	1,721	
20	1971	分館・部局	芝浦工業大学大宮図書館					71'12		2	沖種郎・設計連合		
21	1971	中央	広島工業大学図書館					72'4		1	河内義就建築事務所	4,180	地上3階
22	1972	中央	東北大学附属図書館							2	鬼頭梓建築設計事務所	12,480	地上2階地下1階
23	1972	中央	九州大学附属図書館中央図書館							1	九州大学施設部	8,060	地上3階
24	1973	中央	東京工業大学附属図書館							1	東京工業大学施設部, 石塚建築事務所	6,397	地下1階地上4階
25	1973	中央	同志社大学図書館					74'3		3	栗原研究室, 富家建築事務所	9,687	地下2階地上3階
26	1974	分館・部局	筑波大学体育芸術図書館					74'11		2	橋総合計画事務所	3,264	地上4階
27	1974	中央	日本大学生産工学部図書館					74'3		3	大高建築事務所	5,182	地上8階地下1階
28	1975	中央	聖心女子大学図書館					75'12		1	土岐新建築総合計画事務所	1,215	地上2階
29	1976	中央	甲南女子大学阿部記念図書館					77'11		1	村野・森建築事務所	3,600	地下1階地上4階
30	1977	中央	中央大学中央図書館(多摩キャンパス)					78'7		1	久米設計	14,492	地上5階
31	1977	中央	同志社女子大学図書館							2	鬼頭梓建築設計事務所	2,969	地下2階地上1階
32	1977	分館・部局	筑波大学医学図書館							1	山下設計	4,340	地上3階
33	1978	中央	甲南大学図書館							1	鬼頭梓建築設計事務所	7,296	地下1階地上4階
34	1979	中央	筑波大学附属中央図書館			1985		80'3		3	筑波大学中央図書館設計小委員, 筑波大学施設部, 岡田新一建築設計事務所	14,946	地上5階
35	1979	中央	工学院大学八王子図書館					80'5		1	工学院大学建築学科大学施設委員会	1,438	地下1階地上3階

番号	竣工年	種類	図書館名	図書館建築 図集1960	図書館建築 図集79	日本図書館 協会建築賞	建築設計賞 料集成	新建築	その他	抽出 数	設計者	面積(m ²)	規模
36	1981	中央	慶応義塾大学図書館(新館・三田情報センター)			1985		82'6		2	横総合計画事務所	15,188	地下5階地上7階
37	1981	中央	自治医科大学図書館			1986				1	日建設計	11,285	地下1階地上4階
38	1982	中央	金沢工業大学ライブラリーセンター					82'10		1	大谷幸夫+大谷研究室	21,730	地下1階地上9階
39	1982	中央	学習院女子大学図書館(学習院戸山図書館)			1985		84'7		2	前川国男建築設計事務所, ミト同人原田和雄	3,587	地下1階地上3階
40	1984	中央	関西大学総合図書館			1988				1	鬼頭特建築設計事務所	21,750	地下2階地上3階
41	1987	中央	京都産業大学図書館			1989				1	日建設計	8,988	地下2階地上3階
42	1987	中央	北海道工業大学図書館			1989				1	團山彬男・北海道工業大学図書館建設ワーキンググループ	5,954	地下1階地上2階
43	1989	中央	大同工業大学図書館					90'2		1	DIT図書館基本設計プロジェクトチーム+日本設計	3,593	地上5階
44	1989	中央	成城大学図書館			1991	○	90'4		3	栗原嘉一郎・増沢建築設計事務所	6,526	地下3階地上5階
45	1990	中央	早稲田大学総合学術情報センター				○			1	日建設計	27,705	地下3階地上4階
46	1991	中央	東京都立大学付属図書館				○			1	第一工房	9,608	地下2階地上3階
47	1992	分館・部局	慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス(情報センター)				○	92'7		1	横総合計画事務所	7,054	地下1回地上3階
48	1992	中央	相模女子大学・相模女子大学短期大学部附属図書館			1994		92'11		2	香川アトリエ・環境造形研究所	5,509	地上4階
49	1993	中央	武蔵川女子大学中央図書館			1995				1	竹中工務店	13,486	地上4階
50	1995	中央	東京国際大学図書館				○			1	第一工房	4,033	地上4階
51	1997	中央	広島女子大学附属図書館				○	98'11		1	石本建築事務所	3,333	地上4階
52	1997	中央	同志社大学ラーネット記念図書館				○			1	日建設計	6,591	地上3階
53	1997	中央	関西学院大学図書館			1999	○			2	日本設計	19,586	地下2階地上3階
54	1998	中央	国土館大学附属図書館				○			1	日本設計	6,950	地下1階地上5階
55	1998	中央	沖繩国際大学図書館				○			1	日本設計・泉建築事務所共同企業体	10,161	地下2階地上4階
56	2000	中央	高知大学附属図書館メディアの森				○			1	中屋敦夫建築設計事務所	7,675	地上6階
57	2001	中央	明治大学中央図書館			2002	○			2	日建設計	7,869	地下3階地上1階
58	2003	中央	広島修道大学図書館			2004				1	日建設計	11,771	地上4階
59	2004	分館・部局	日本大学法学部図書館					05'3		1	日本大学本部管財部/石本建築事務所	10,154	地下2階地上2階
60	2005	分館・部局	東京大学柏図書館					07'5		1	東京大学キャンパス計画室(岸田省吾・施設部), 山下設計	5,024	地上2階
61	2005	その他	公立ほこだて未来大学研究棟					05'9		1	山本理嗣設計工場・函館建築設計監理事業協同組合共同企業体	4,384	地上2階
62	2005	中央	武蔵工業大学新図書館					05'10		1	岩崎堅一・武蔵工業大学岩崎研究室	5,978	地下1階地上4階
63	2006	分館・部局	龍谷大学大宮図書館			2008				1	合共同企業体		
64	2006	中央	成蹊大学情報図書館					06'11		1	坂茂建築設計, 三菱地所設計	11,956	地下2階地上5階
65	2007	中央	多摩美術大学図書館(八王子キャンパス)					07'7		1	伊東豊雄建築設計事務所	5,639	地下1階地上2階
66	2007	中央	大手前大学さくら夙川キャンパス"CELL"			2009		08'4		1	日建設計	4,479	地上2階
67	2007	中央	日本工業大学百年記念館/ライブラリー&ミニエレクトロニクス					08'4		1	日本工業大学小川研究室	4,694	地下1階地上9階
68	2008	中央	神田外語大学7号館					09'9		1	松田平田設計	7,156	地上4階

番号	竣工年	種類	図書館名	図書館建築 図集1960	図書館建築 図集79	日本図書館 協会建築賞	建築設計賞 料集成	新建築	その他	抽出 数	設計者	面積(m ²)	規模
69	2010	中央	国際教養大学新校舎群 (図書館棟)					09'5		1	仙田満 (環境デザイン研究所)	4,055	地上2階
70	2010	中央	武蔵野美術大学 美術館・図書館					10'7		1	藤本比介建築設計事務所	6,435	地下1階地上2階
71	2011	中央	東京工業大学附属図書館					11'9		1	東工大安田研究室+佐藤総合計画	8,587	地下2階地上3階
72	2012	中央	明治大学創立130周年記念和泉図書館			2014		12'9		2	松田平田設計	8,856	地上4階
73	2012	中央	立教大学池袋図書館			2014				1	日建設計	19,000	地下2階地上3階
74	2012	中央	千葉大学アカデミックリンク					12'9		1	千葉大学キャンパス整備企画室・施設環境部+左藤総合計画	10,891	地下1階地上4階
75	2013	中央	東京理科大学 藝術図書館			2015		13'7		2	日建設計	9,802	地上5階
76	2012	中央	東京電機大学 東京千住Camp. (総合ライブラリー)					12'7		1	横総合計画事務所		地上2階
77	2013	LC	同志社大学 良心館					14'1		1	今出川キャンパス整備設計共同企業体 (東畑建築事務所・類設計室)	40,273	地下2階地上5階
78	2013	中央	農大アカデミアセンター (東京農業大学)					14'10		1	久米設計	18,127	地下2階地上9階
79	2014	中央	福岡女子大学図書館棟					15'6		1	久米・NKS・大設計設計業務共同企業体	3,544	地下1階地上2階
80	2015	中央	龍谷大学深草キャンパス 和顔館					15'6		1	飯田善彦建築工房	27,612	地下2階地上5階
81	2016	LC	近畿大学 ACADEMIC THEATER (1~5号館)					17'10		1	NTTファイブ・エース	28,345	地下1階地上11階
82	2016	分館・部局	京都府立京都学・歴史館					18'3		1	飯田善彦建築工房	23,940	地下2階地上4階
83	2016	中央	西南学院大学図書館					18'12		1	佐藤総合計画	11,715	地上7階
84	2017	LC	神田外語大学8号館					17'10		1	松田平田設計	5,115	地上2階
85	2017	LC	京都外国語大学新4号館					18'1		1	小嶋一浩、赤松佳子/シーラカンズアンドアソ	4,661	地上6階
86	2017	中央	東京大学総合図書館 別館					18'12		1	東京大学キャンパス計画室	5,752	地下4階地上1階
87	2017	中央	京都女子大学図書館					18'3		1	佐藤総合計画	8,197	地下2階地上4階
88	2017	中央	九州大学伊都新キャンパス九州大学中央図書館					18'12		1	九州大学施設部+石本建築事務所	24,829	地下4階地上2階
89	2018	LC	早稲田大学37号館					19'1		1	山下設計	14,028	地下2階地上4階
90	2019	中央	日本女子大学図書館					19'5		1	妹島和世建築設計事務所・清水建設設計共同企業	6,769	地下1階地上4階
91	2019	LC	梅光学院大学 The Learning Station CROSSLIGHT					19'6		1	小嶋哲夫建築設計事務所	3,874	地上3階
92	2019	分館・部局	追手門学院大学 ACADEMIC-ARK					19'6		1	三葉地所設計	20,410	地上5階

巡回調査票

愛知淑徳大学 図書館 1階
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 鈴木研究室

No. _____ (1F)

属性 学生が多い場合は“○”を省略してよい。

男 ○ 女 ● 大学生 C
教員 T 一般人 A

例: Re+ 内容: 学生女子
ke 1 イス座り、
C 本を読む、
携帯機

行為 全てに行方がある。「なにもしていない」はありえない。この欄になければ適当に書く。

新聞雑誌を読む Re	本を読む Re+	本を探す Sa
調べ物をする Si	勉強をする St	ビデオをみる AV
CDを聞く OD	会話をする Ta	飲食をする Et
座席リ Sl	本の貸出・返却 Ka	検索(OPAC)をする Ke
アンケート A	職員と話をする Sy	PCを利用する Pc
ケータイ・スマートフォンを触る Ke	イヤホンしている m	PCで文書作成 Wo

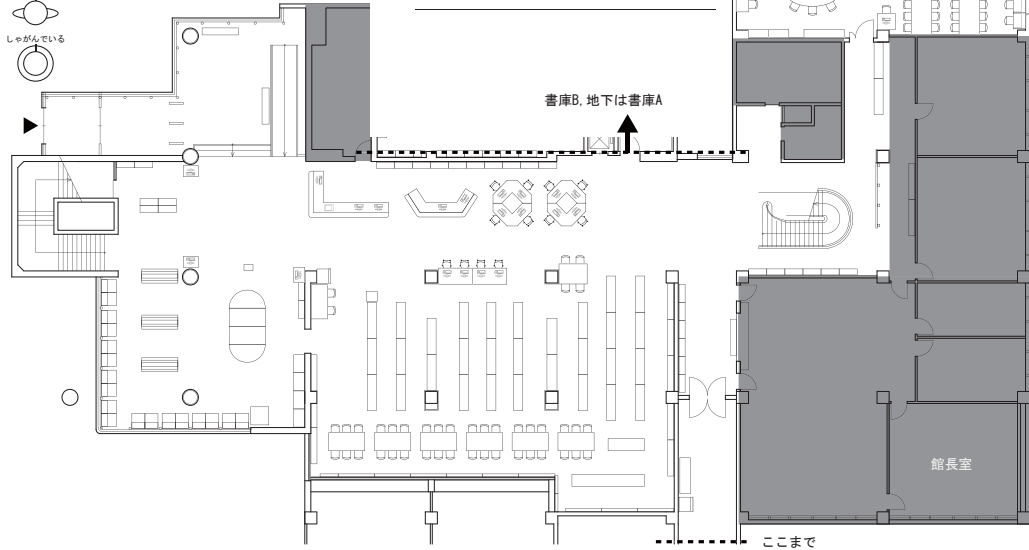
荷物などを置いたままで席を外している場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ○ で囲む
これは、その間に会話を捉えていなくても、以前に会話行為があれば各欄に ○ をする

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)

姿勢 椅子の上に乗っている場合は適宜口は描かなくてもよい。

立っている ○ 座っている ○ 床に座っている ○
移動している ←○ 寝転がっている ○ しゃがんでいる ○



巡回調査票

愛知淑徳大学 図書館 2階 (マルチメディアリソース室)
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 鈴木研究室

No. _____ (2F)

属性 学生が多い場合は“○”を省略してよい。

男 ○ 女 ● 大学生 C
教員 T 一般人 A

例: Re+ 内容: 学生女子
ke 1 イス座り、
C 本を読む、
携帯機

行為 全てに行方がある。「なにもしていない」はありえない。この欄になければ適当に書く。

新聞雑誌を読む Re	本を読む Re+	本を探す Sa
調べ物をする Si	勉強をする St	ビデオをみる AV
CDを聞く OD	会話をする Ta	飲食をする Et
座席リ Sl	本の貸出・返却 Ka	検索(OPAC)をする Ke
アンケート A	職員と話をする Sy	PCを利用する Pc
ケータイ・スマートフォンを触る Ke	イヤホンしている m	PCで文書作成 Wo

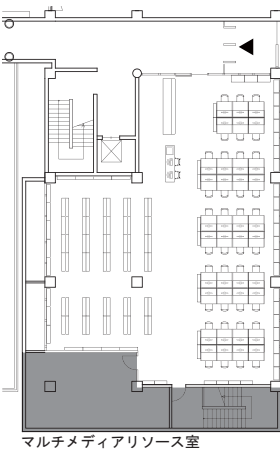
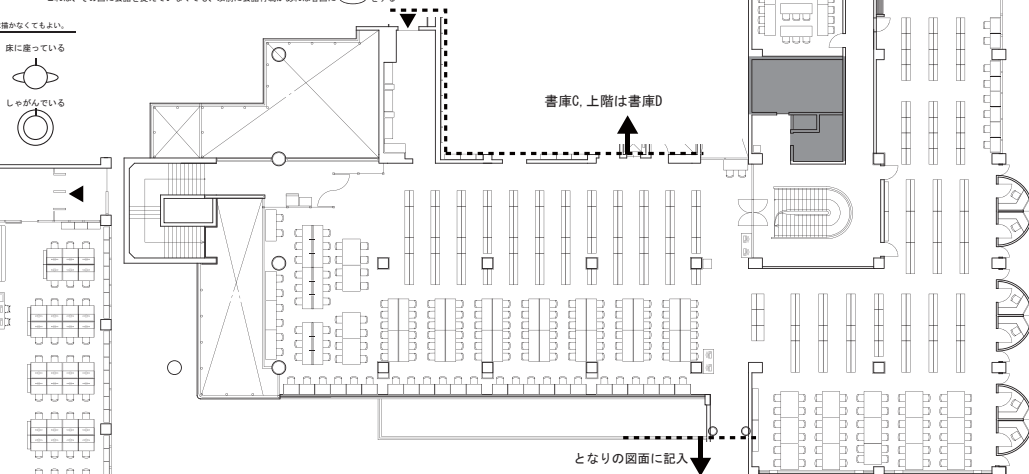
荷物などを置いたままで席を外している場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ○ で囲む
これは、その間に会話を捉えていなくても、以前に会話行為があれば各欄に ○ をする

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)

姿勢 椅子の上に乗っている場合は適宜口は描かなくてもよい。

立っている ○ 座っている ○ 床に座っている ○
移動している ←○ 寝転がっている ○ しゃがんでいる ○



マルチメディアリソース室

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)

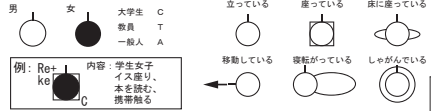
巡回調査票

愛知淑徳大学 図書館 書庫 A, B, C, D
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 鈴木研究室

No. _____ (書庫)

風性 学生が多い場合は「0」を省略してよい。

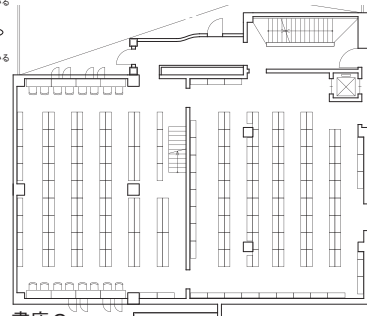
姿勢 椅子の上に乗っている場合は踵は描かなくてもよい。



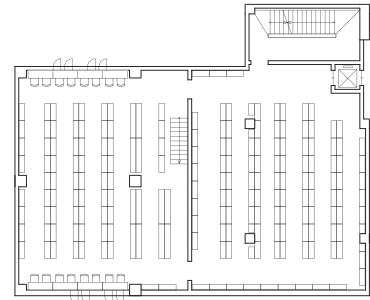
行為 全てに行動はある。「なにもしていない」はありえない。この欄になければ調査不十分。

新聞雑誌を読む	Re	本を読む	Re+	本を探す	Sa
調べ物をする	Sl	勉強をする	St	ビデオをみる	AV
0を読む	0D	会話をする	Ta	飲食をする	Et
読書	Sl	本の貸出・返却	Ka	検索 (OPAC) をする	Ke
アンケート	A	職員と話をする	Sy	PC を利用する	Pc
ケータイ・スマートフォンを触る	Ke	イヤホンしている	m	PC で文書作成	Bo

荷物などを置いたままで席を外している場合は と記入
グループ利用の場合は で囲む
これは、その箇に会話を投入してなくても、以前に会話行為があれば各箇に をする

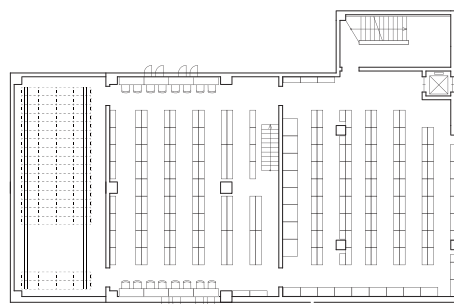


書庫 C
2階と同じ階

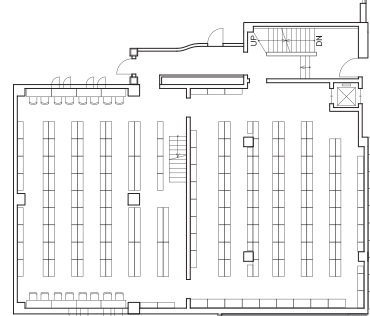


書庫 D

天候 時間： 時 分～ 記入者
メモ (行動の特徴など)



書庫 A



書庫 B
1階と同じ階

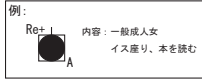
巡回調査票

愛知工業大学 工学部建築学科 中井研究室

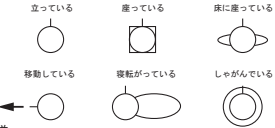
No. _____

相山女子園大学 1F

属性



姿勢

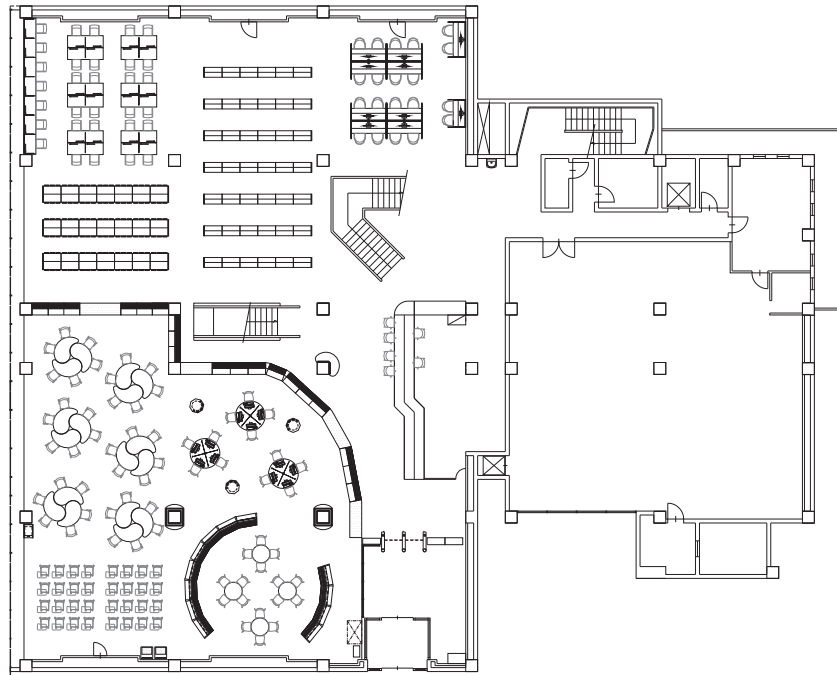


行為

- | | | | | | |
|---------|----|----------|-----|---------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | SI | 勉強をする | St | ビデオをみる | AV |
| CDを聞く | CD | おしゃべりをする | Ta | 飲食をする | Et |
| 扇振り | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイを触る | Ke | | | | |
- 荷物などを置いたままで席を外している場合は ☒ と記入

天候 時間: 時 分 ~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



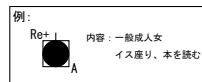
巡回調査票

愛知工業大学 工学部建築学科 中井研究室

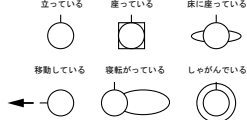
No. _____

相山女子園大学 2F

属性



姿勢

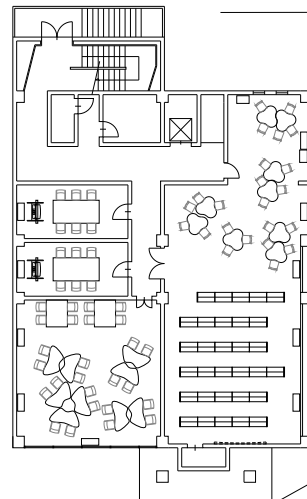
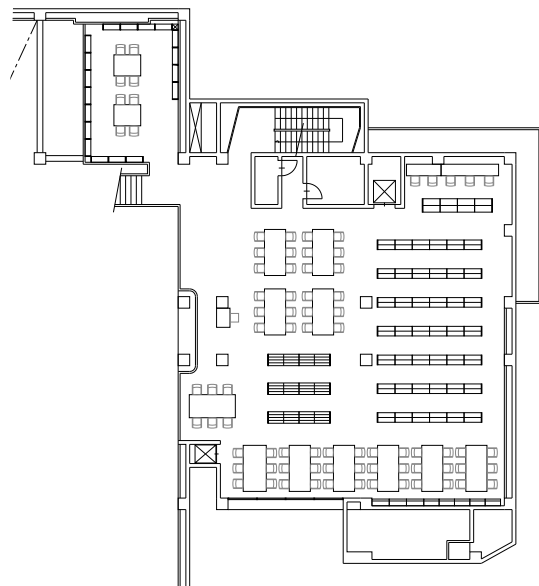


行為

- | | | | | | |
|---------|----|----------|-----|---------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | SI | 勉強をする | St | ビデオをみる | AV |
| CDを聞く | CD | おしゃべりをする | Ta | 飲食をする | Et |
| 扇振り | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイを触る | Ke | | | | |
- 荷物などを置いたままで席を外している場合は ☒ と記入

天候 時間: 時 分 ~ 記入者

メモ (行動の特徴など)

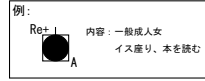


巡回調査票

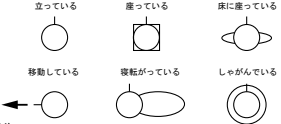
愛知工業大学 工学部建築学科 中井研究室

椋山女学園大学 B1F

風性



姿勢

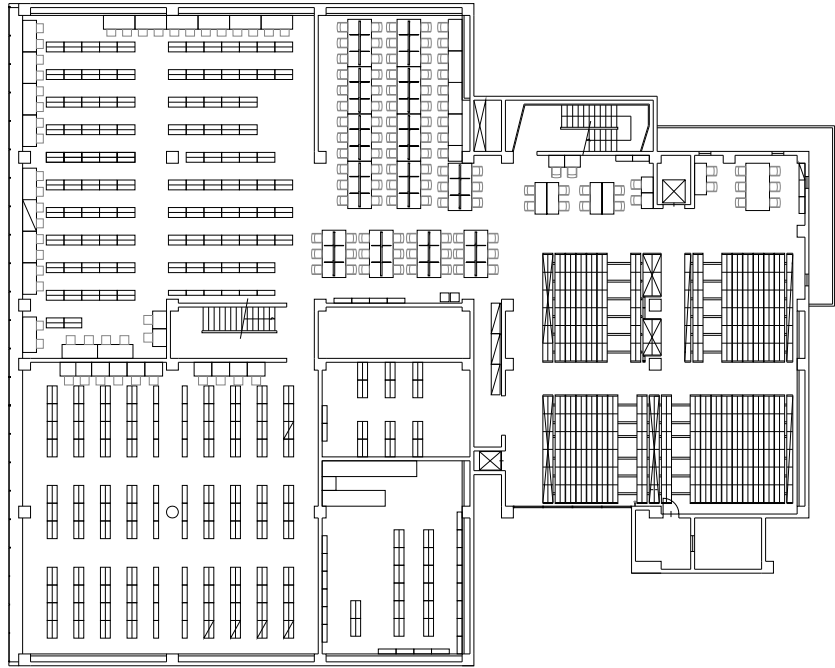


行為

- | | | | | | |
|---------|----|---------|-----|---------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | SI | 勉強をする | St | ビデオを見る | AV |
| CDを聞く | CD | おしゃべりする | Ta | 飲食をする | Et |
| 扇紙り | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイを触る | Ke | | | | |
- 荷物などを置いたまま座っている場合は と記入

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)

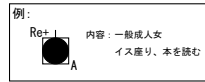


巡回調査票

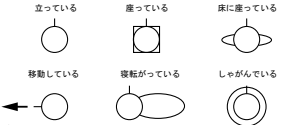
愛知工業大学 工学部建築学科 中井研究室

椋山女学園大学 B2F

風性



姿勢

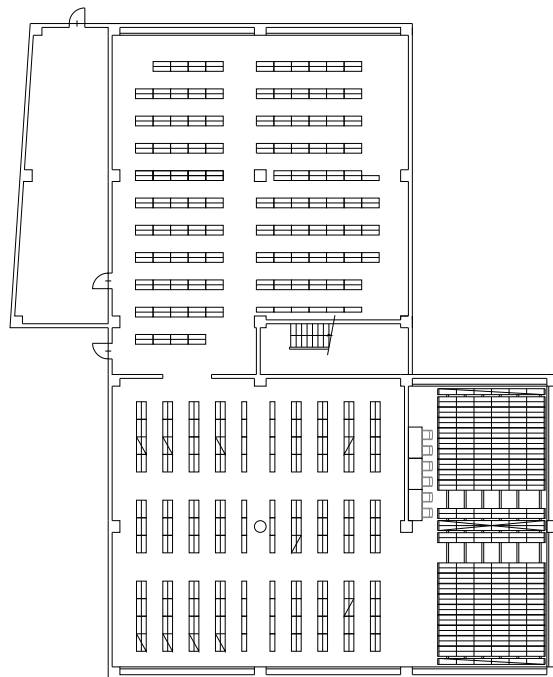


行為

- | | | | | | |
|---------|----|---------|-----|---------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | SI | 勉強をする | St | ビデオを見る | AV |
| CDを聞く | CD | おしゃべりする | Ta | 飲食をする | Et |
| 扇紙り | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイを触る | Ke | | | | |
- 荷物などを置いたまま座っている場合は と記入

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



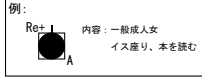
巡回調査票

愛知工業大学 工学部建築学科 中井研究室

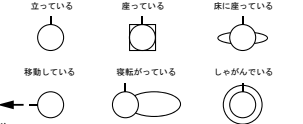
No. _____

愛知学院大学 1F

属性



姿勢

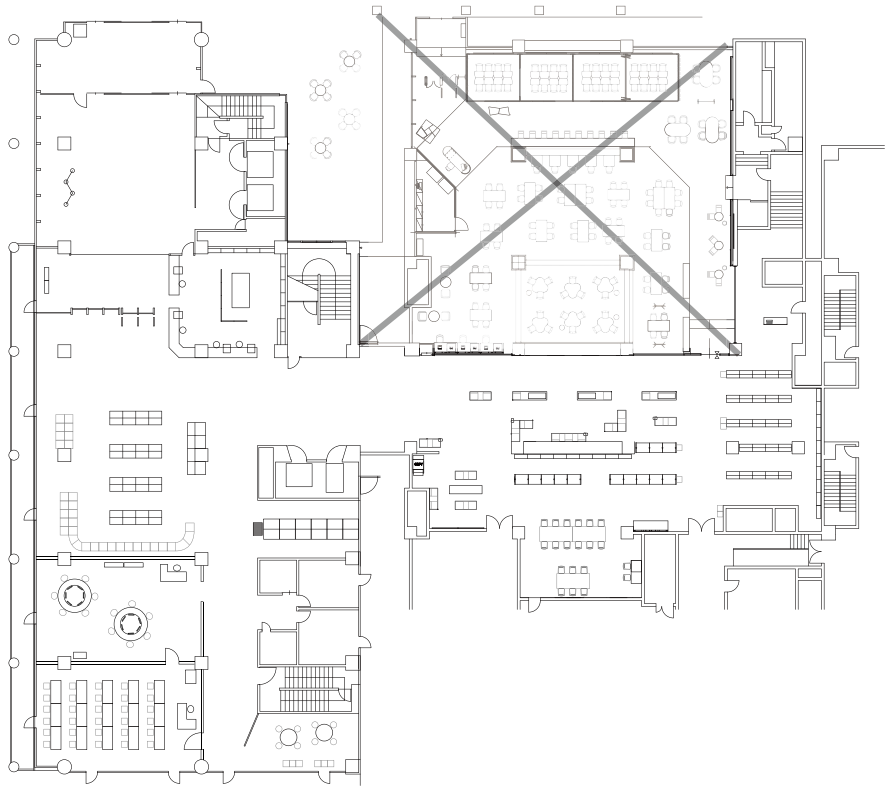


行為

- | | | | | | |
|---------|-------------------------------------|----------|-----|---------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | SI | 勉強をする | St | ビデオをみる | AV |
| CDを聴く | CD | おしゃべりをする | Ta | 飲食をする | Et |
| 扇振り | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイを触る | Ke | | | | |
| 荷物 | <input checked="" type="checkbox"/> | | | | |

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



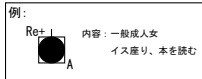
巡回調査票

愛知工業大学 工学部建築学科 中井研究室

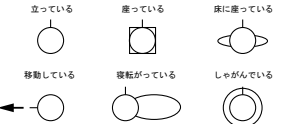
No. _____

愛知学院大学 1F ラーニング・コモンス

属性



姿勢

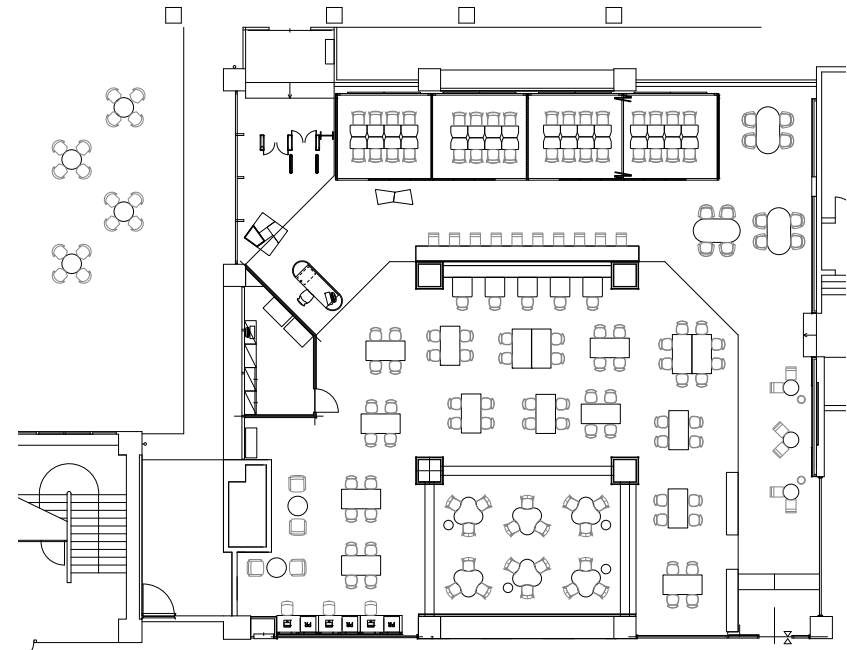


行為

- | | | | | | |
|---------|-------------------------------------|----------|-----|---------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | SI | 勉強をする | St | ビデオをみる | AV |
| CDを聴く | CD | おしゃべりをする | Ta | 飲食をする | Et |
| 扇振り | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイを触る | Ke | | | | |
| 荷物 | <input checked="" type="checkbox"/> | | | | |

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



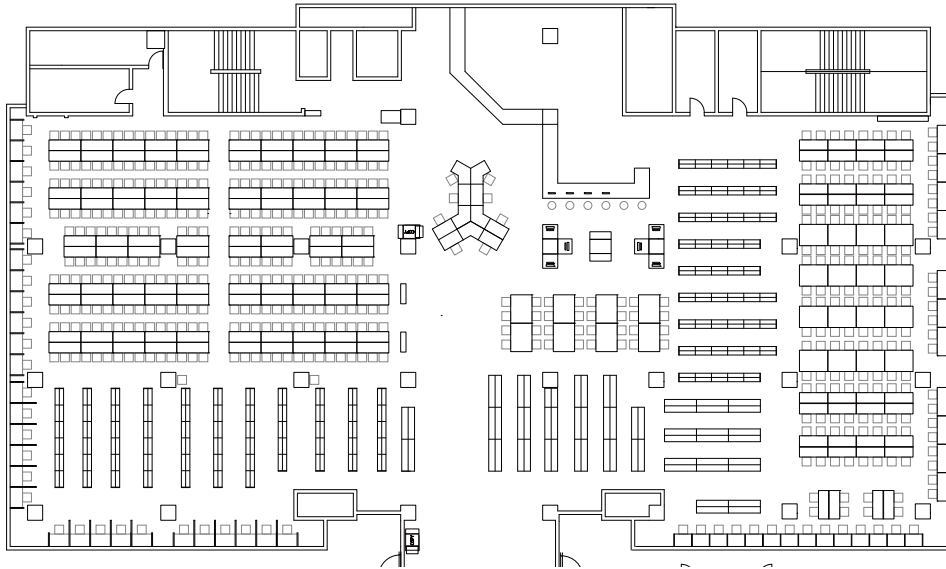
巡回調査票

愛知工業大学 工学部建築学科 中井研究室

No. _____

愛知学院大学 2F

<p>風性</p> <p>男 ○ 女 ●</p> <p>大学生 C 教員 T 一般人 A</p> <p>例: Ret+ ● A</p> <p>内容: 一般成人女 イス座り、本を読む</p>	<p>姿勢</p> <p>立っている 座っている 床に座っている</p> <p>移動している 寝転がっている しゃがんでいる</p>	<p>行為</p> <p>新聞雑誌を読む Re 本を読む Re+ 本を探す Sa</p> <p>調べ物をする Si 勉強をする St ビデオをみる AV</p> <p>CDを聞く Cd おしゃべりをする Ta 飲食をする Et</p> <p>展覧会 S1 本の貸出・返却 Ka 検索をする Ke</p> <p>アンケート A 職員と話す Sy PCを利用する Pc</p> <p>ケータイを触る Ke</p> <p>荷物 ☒</p>	<p>天候 時間: 時 分 ~ 記入者</p> <p>メモ (行動の特徴など)</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
--	--	--	--



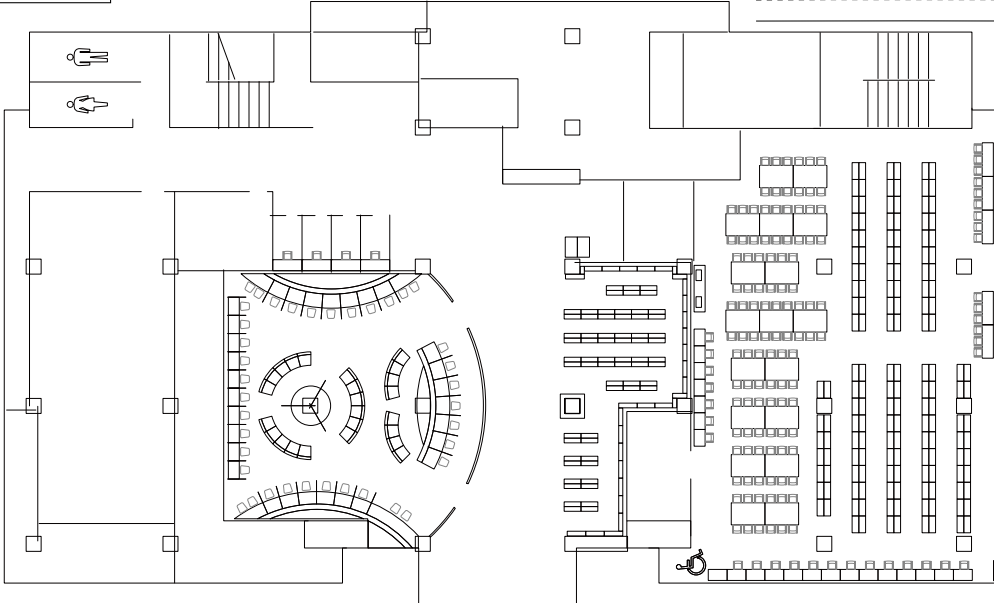
巡回調査票

愛知工業大学 工学部建築学科 中井研究室

No. _____

愛知学院大学 3F

<p>風性</p> <p>男 ○ 女 ●</p> <p>大学生 C 教員 T 一般人 A</p> <p>例: Ret+ ● A</p> <p>内容: 一般成人女 イス座り、本を読む</p>	<p>姿勢</p> <p>立っている 座っている 床に座っている</p> <p>移動している 寝転がっている しゃがんでいる</p>	<p>行為</p> <p>新聞雑誌を読む Re 本を読む Re+ 本を探す Sa</p> <p>調べ物をする Si 勉強をする St ビデオをみる AV</p> <p>CDを聞く Cd おしゃべりをする Ta 飲食をする Et</p> <p>展覧会 S1 本の貸出・返却 Ka 検索をする Ke</p> <p>アンケート A 職員と話す Sy PCを利用する Pc</p> <p>ケータイを触る Ke</p> <p>荷物 ☒</p>	<p>天候 時間: 時 分 ~ 記入者</p> <p>メモ (行動の特徴など)</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
--	--	--	---



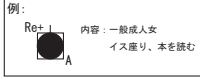
巡回調査票

愛知工業大学 工学部建築学科 中井研究室

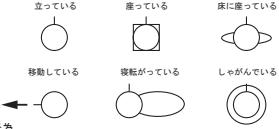
No. _____

愛知学院大学 2F・3F

属性



姿勢



行為

新聞雑誌を読む	Re	本を読む	Re+	本を探す	Sa
調べ物をする	SI	勉強をする	St	ビデオをみる	AV
CDを聴く	CD	おしゃべりする	Ta	飲食をする	Et
居眠り	SI	本の貸出・返却	Ka	検索をする	Ke
アンケート	A	職員と話をする	Sy	PCを利用する	Pc
ケータイを触る	Ke				
荷物	☒				

天候 _____ 時間: 時 分 ~ 記入者 _____

メモ (行動の特徴など)

.....

.....

.....

.....

.....

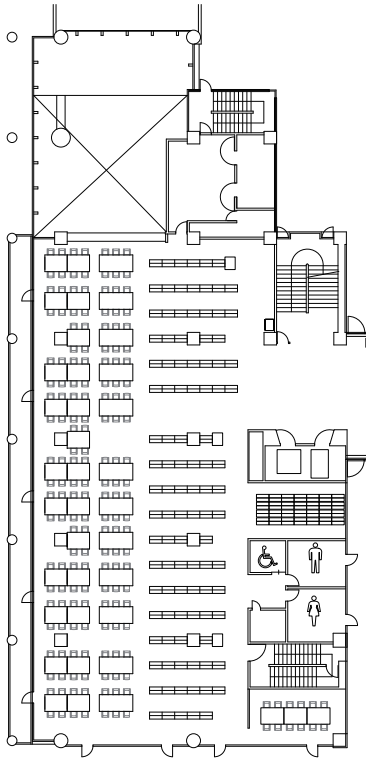
.....

.....

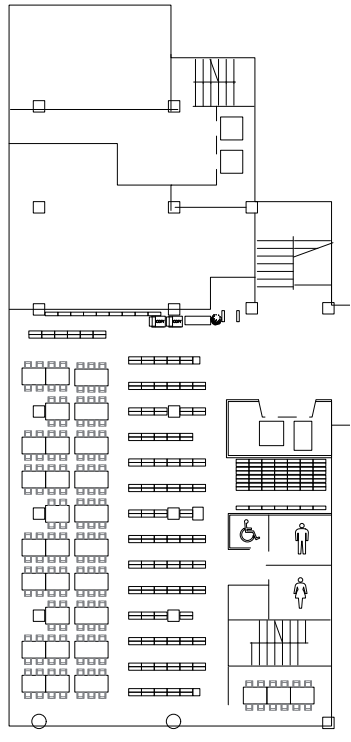
.....

.....

.....



2F



3F

巡回調査票

愛知工業大学 工学部建築学科 中井研究室

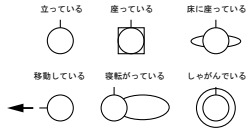
No. _____

名古屋学院大学 3F

風性



姿勢

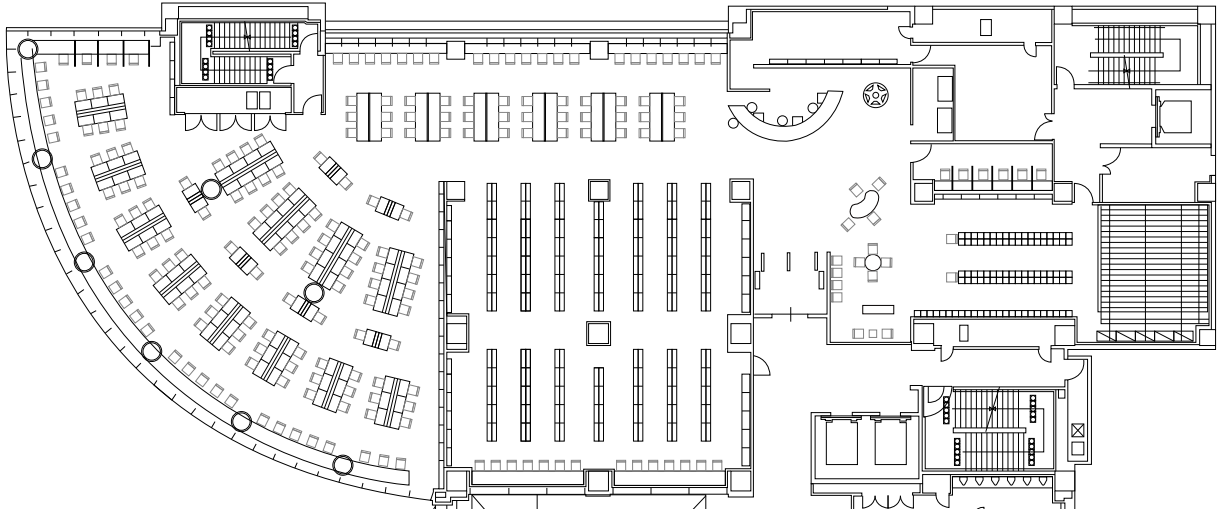


行為

- | | | | | | |
|---------|----|----------|-----|---------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 読べ物をする | SI | 勉強をする | ST | ビデオをみる | AV |
| CDを聞く | CD | おしゃべりをする | Ta | 飲食をする | Et |
| 展覧り | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイを触る | Ke | | | | |
| 荷物 | ☒ | | | | |

天候 時間： 時 分～ 記入者

メモ (行動の特徴など)



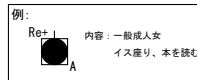
巡回調査票

愛知工業大学 工学部建築学科 中井研究室

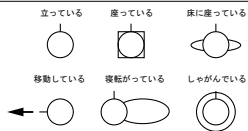
No. _____

名古屋学院大学 4F

風性



姿勢

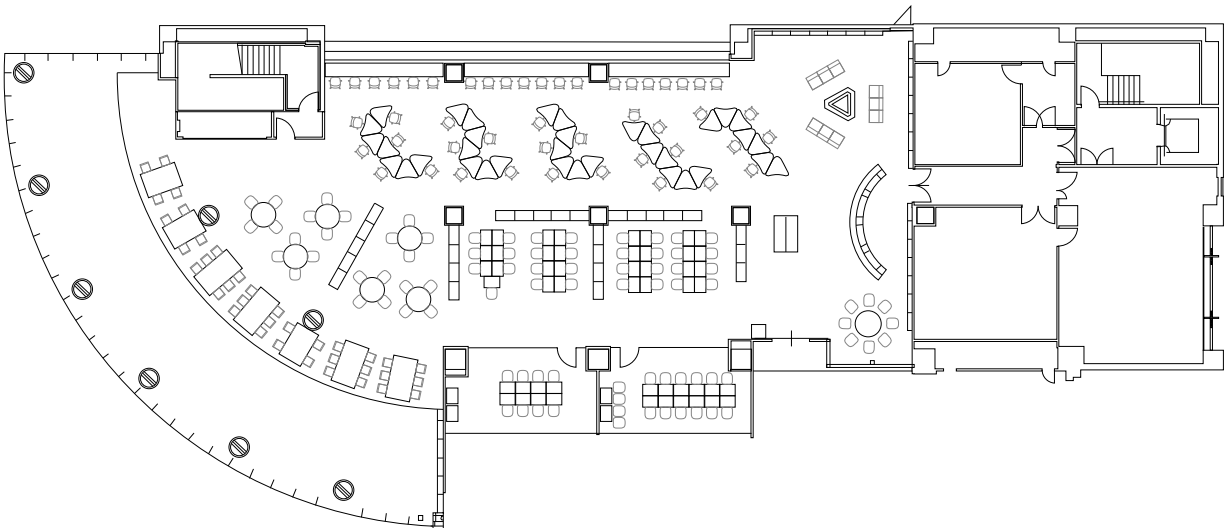


行為

- | | | | | | |
|---------|----|----------|-----|---------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 読べ物をする | SI | 勉強をする | ST | ビデオをみる | AV |
| CDを聞く | CD | おしゃべりをする | Ta | 飲食をする | Et |
| 展覧り | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイを触る | Ke | | | | |
| 荷物 | ☒ | | | | |

天候 時間： 時 分～ 記入者

メモ (行動の特徴など)



巡回調査票

愛知大学 名古屋図書館 1階
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 鈴木研究室

No. _____ (1F)

属性 学生が多い場合は“○”を省略してよい。

男 ○ 女 ●

大学生 C
教員 T
一般人 A

例: Re+
ke ●
C

内容: 学生女子
イス座り、
本を読む、
スマホを触る

行為 全てに行動はある。「なにもしていない」はありえない。この欄になければ適宜書く。

新聞雑誌を読む Re	本を読む Re+	本を探す Sa
調べ物をする Si	勉強をする St	ビデオを見る AV
CDを聞く CD	会話をする Ia	飲食をする Et
原稿リ SI	本の貸出・返却 Ka	検索(OPAC)をする Ke
アンケート A	職員と話をする Sy	PCを利用する Pc
ケータイ・ スマホを触る Ke	イヤホンしている m	PCで文書作成 Wo

荷物などを置いたままで席を外している場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ○ で囲む
これは、その間に会話を捉えていなくても、以前に会話行為があれば各欄に ○ をする

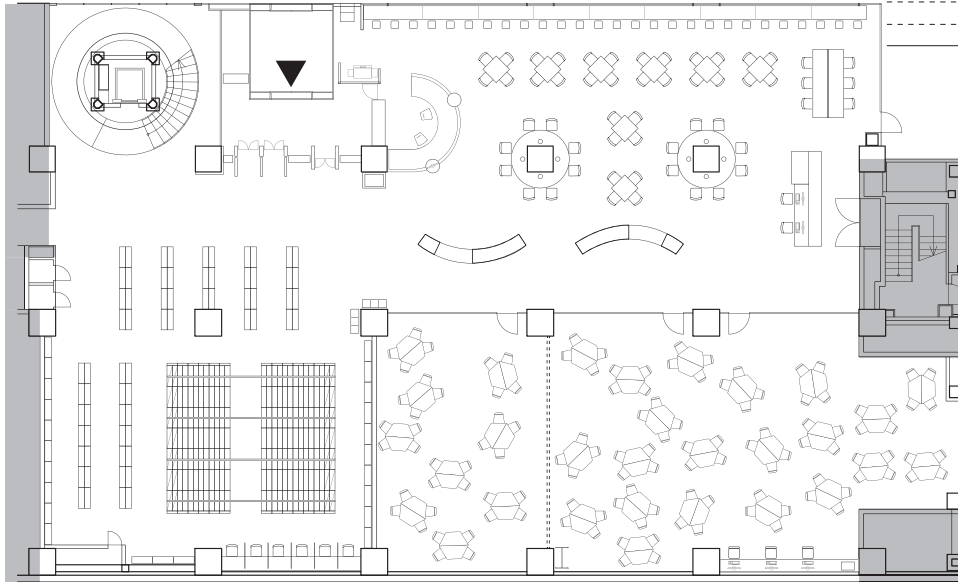
姿勢 椅子の上に乗っている場合は適宜口は描かなくてもよい。

立っている 座っている 床に座っている

移動している 寝転がっている しゃがんでいる

天候 時間: 時 分 ~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



巡回調査票

愛知大学 名古屋図書館 2階-A
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 鈴木研究室

No. _____ (2FA)

属性 学生が多い場合は“○”を省略してよい。

男 ○ 女 ●

大学生 C
教員 T
一般人 A

例: Re+
ke ●
C

内容: 学生女子
イス座り、
本を読む、
スマホを触る

行為 全てに行動はある。「なにもしていない」はありえない。この欄になければ適宜書く。

新聞雑誌を読む Re	本を読む Re+	本を探す Sa
調べ物をする Si	勉強をする St	ビデオを見る AV
CDを聞く CD	会話をする Ia	飲食をする Et
原稿リ SI	本の貸出・返却 Ka	検索(OPAC)をする Ke
アンケート A	職員と話をする Sy	PCを利用する Pc
ケータイ・ スマホを触る Ke	イヤホンしている m	PCで文書作成 Wo

荷物などを置いたままで席を外している場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ○ で囲む
これは、その間に会話を捉えていなくても、以前に会話行為があれば各欄に ○ をする

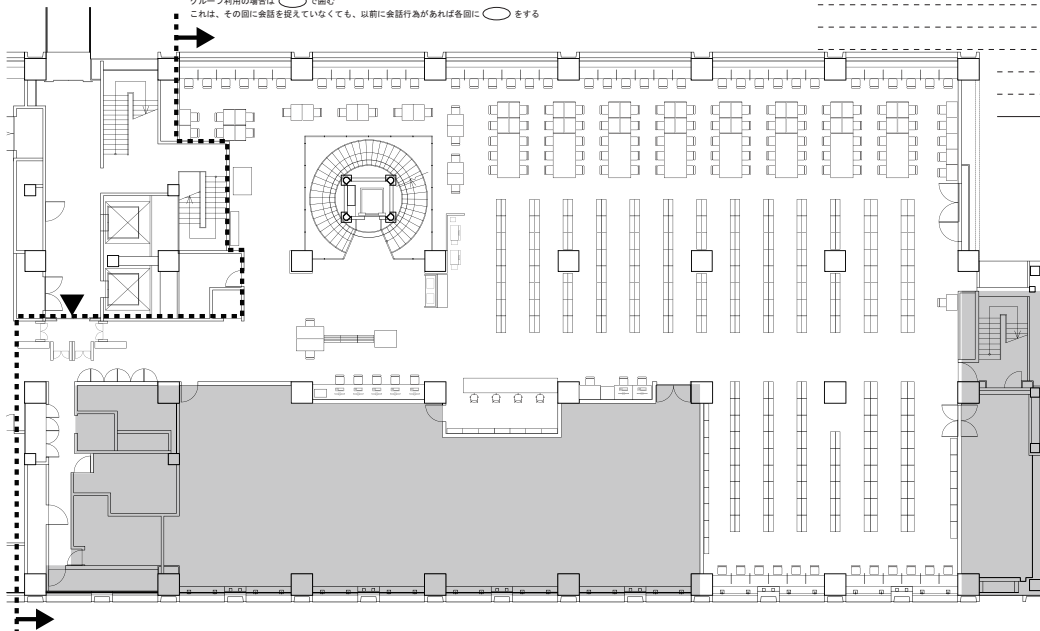
姿勢 椅子の上に乗っている場合は適宜口は描かなくてもよい。

立っている 座っている 床に座っている

移動している 寝転がっている しゃがんでいる

天候 時間: 時 分 ~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



巡回調査票

愛知工業大学工学部建築学科 中井研究室

No. _____

立命館大学
平井嘉一郎記念図書館 B1階

属性



行為

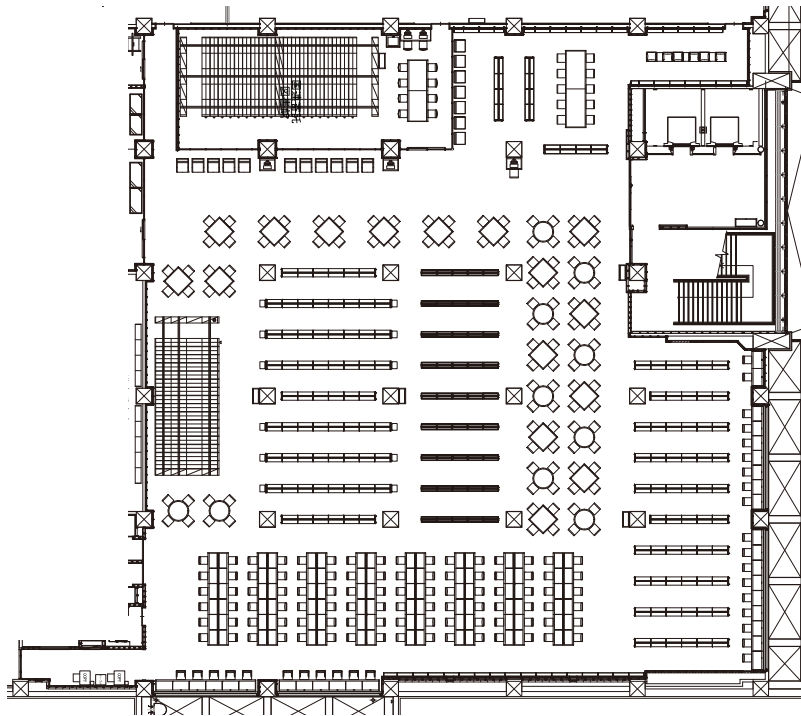
- | | | | | | |
|-------------|----|----------|-----|-------------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | Si | 勉強をする | St | ビデオをみる | AV |
| CDを聞く | CD | おしゃべりをする | Ta | 飲食をする | Et |
| 展覧り | Sl | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイ・スマホを触る | Ke | | | (パソコン・携帯PC) | |

荷物などを置いたままで席を外している場合は と記入
グループ利用の場合は で囲む
これは、その日に会話を採っていないでも、以前に会話行為があれば各箇所に○をして下さい

天候 _____ 時間: 時 分 ~ 記入者 _____

メモ (行動の特徴など)

姿勢



巡回調査票

愛知工業大学工学部建築学科 中井研究室

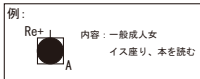
No. _____

立命館大学
平井嘉一郎記念図書館 1階(びあら含む)

天候 _____ 時間: 時 分 ~ 記入者 _____

メモ (行動の特徴など)

属性

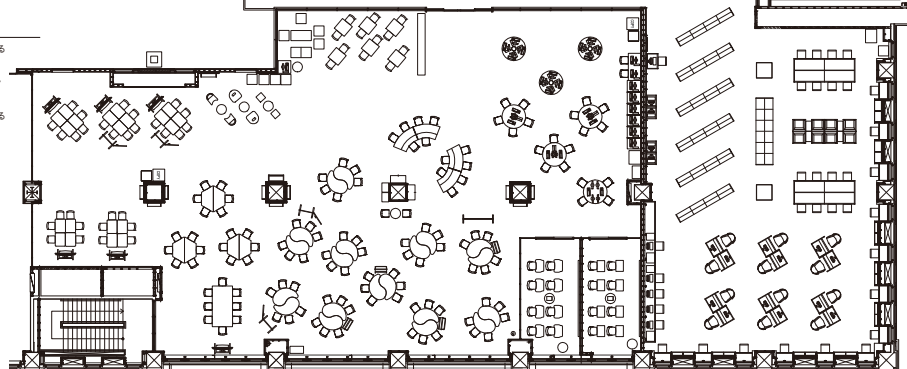
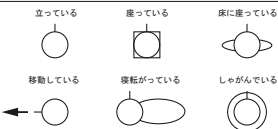


行為

- | | | | | | |
|-------------|----|----------|-----|-------------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | Si | 勉強をする | St | ビデオをみる | AV |
| CDを聞く | CD | おしゃべりをする | Ta | 飲食をする | Et |
| 展覧り | Sl | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイ・スマホを触る | Ke | | | (パソコン・携帯PC) | |

荷物などを置いたままで席を外している場合は と記入
グループ利用の場合は で囲む
これは、その日に会話を採っていないでも、以前に会話行為があれば各箇所に○をして下さい

姿勢



巡回調査票

愛知工業大学工学部建築学科 中井研究室

No. _____

立命館大学
平井嘉一郎記念図書館 2階 (1)

属性

男 ○ 女 ● 大学生 C 教員 T 一般人 A

例: 内容: 一般成人女
イス座り、本を読む

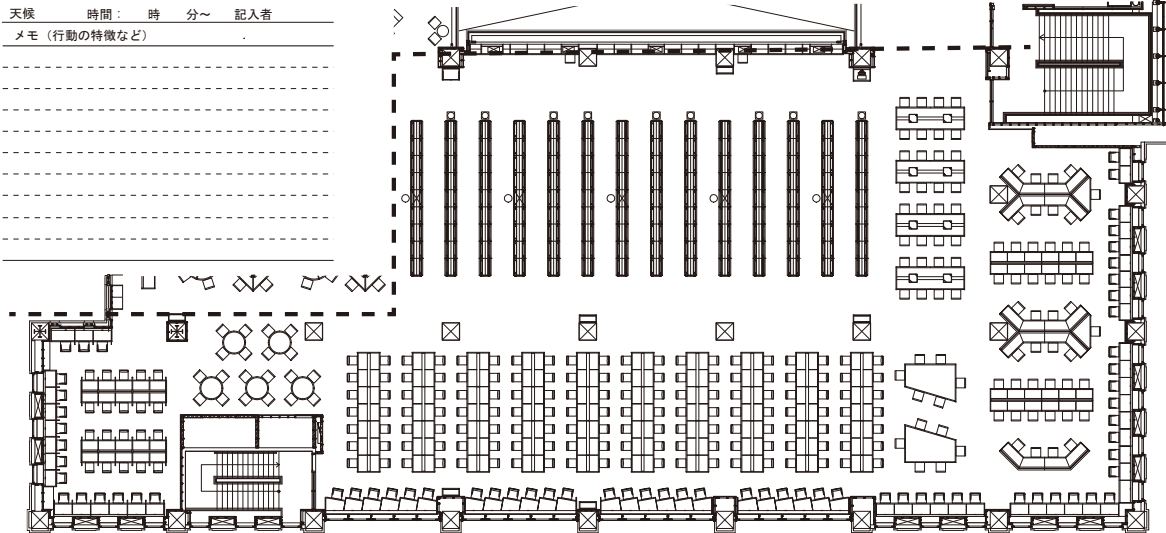
姿勢

立っている ○ 座っている □ 床に座っている ○
移動している ←○ 寝転がっている ○ しゃがんでいる ○

行為

新聞雑誌を読む Re 本を読む Re+ 本を探す Sa
調べ物をする SI 勉強をする St ビデオをみる AV
CDを聞く OD おしゃべりをする Ta 飲食をする Et
原稿り SI 本の貸出・返却 Ka 検索をする ケ
アンケート ア 職員と話をする Sy PCを利用する Pc
ケータイ、スマートフォンを触る Ke
荷物などを置いたままで座を外している場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ○ で囲む
これは、その図に会話を記入してなくても、以前に会話行為があれば各図に○をして下さい

天候 時間: 時 分 ~ 記入者
メモ (行動の特徴など)



巡回調査票

愛知工業大学工学部建築学科 中井研究室

No. _____

立命館大学
平井嘉一郎記念図書館 2階 (2)

属性

男 ○ 女 ● 大学生 C 教員 T 一般人 A

例: 内容: 一般成人女
イス座り、本を読む

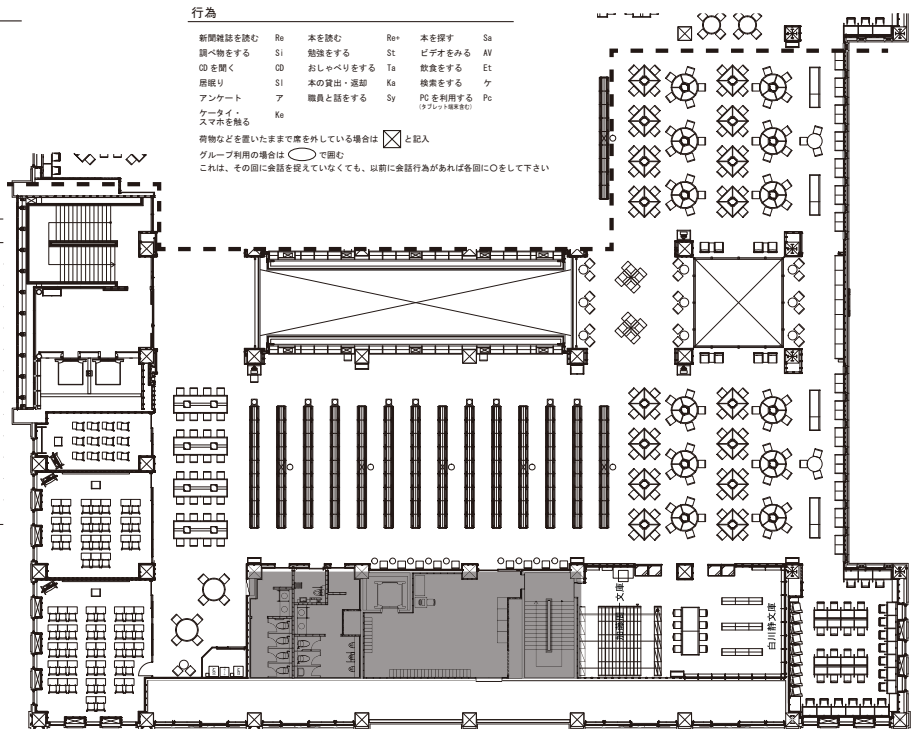
行為

新聞雑誌を読む Re 本を読む Re+ 本を探す Sa
調べ物をする SI 勉強をする St ビデオをみる AV
CDを聞く OD おしゃべりをする Ta 飲食をする Et
原稿り SI 本の貸出・返却 Ka 検索をする ケ
アンケート ア 職員と話をする Sy PCを利用する Pc
ケータイ、スマートフォンを触る Ke
荷物などを置いたままで座を外している場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ○ で囲む
これは、その図に会話を記入してなくても、以前に会話行為があれば各図に○をして下さい

天候 時間: 時 分 ~ 記入者
メモ (行動の特徴など)

姿勢

立っている ○ 座っている □
移動している ←○ 寝転がっている ○
床に座っている ○ しゃがんでいる ○



巡回調査票

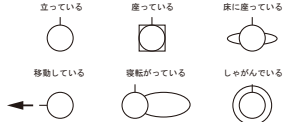
愛知工業大学工学部建築学科 中井研究室

立命館大学
平井嘉一郎記念図書館 3階 (1)

属性



姿勢

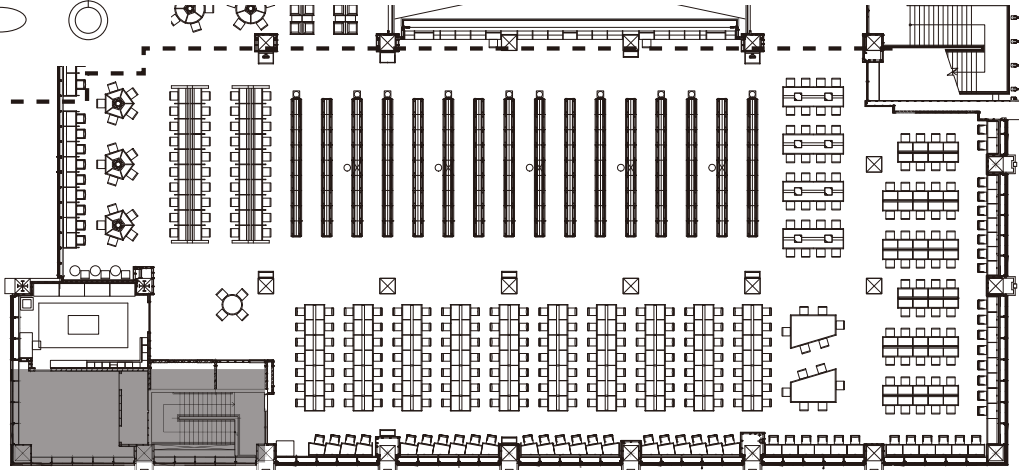


行為

- | | | | | | |
|-------------|----|---------|-----|---------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | SI | 勉強をする | St | ビデオを見る | AV |
| CDを聞く | OD | おしゃべりする | Ta | 飲食をする | Et |
| 扇風機 | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイ・スマホを触る | Ke | | | | |
- 荷物などを置いたままで席を外している場合は と記入
グループ利用の場合は で囲む
これは、その箇所に会話を捉えていなくても、以前に会話行為があれば各箇所に○をして下さい

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)

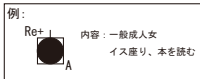


巡回調査票

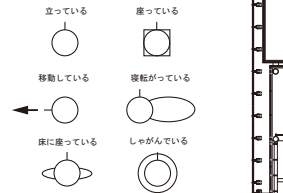
愛知工業大学工学部建築学科 中井研究室

立命館大学
平井嘉一郎記念図書館 3階 (2)

属性



姿勢

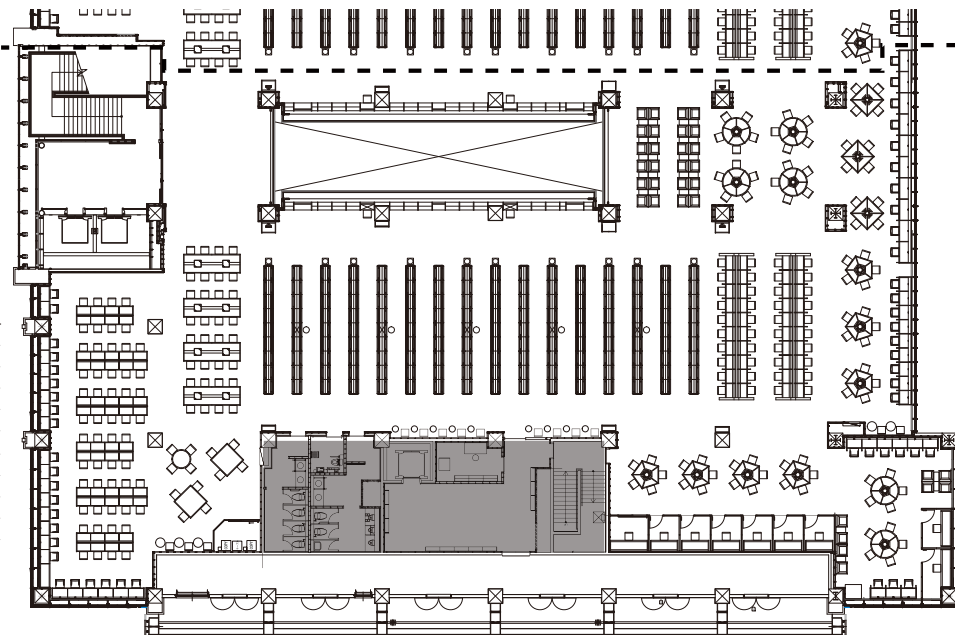


行為

- | | | | | | |
|-------------|----|---------|-----|---------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | SI | 勉強をする | St | ビデオを見る | AV |
| CDを聞く | OD | おしゃべりする | Ta | 飲食をする | Et |
| 扇風機 | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイ・スマホを触る | Ke | | | | |
- 荷物などを置いたままで席を外している場合は と記入
グループ利用の場合は で囲む
これは、その箇所に会話を捉えていなくても、以前に会話行為があれば各箇所に○をして下さい

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



巡回調査票

中部大学 附属三浦記念図書館 地下1階・2階
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 鈴木研究室

No. _____ (地下F)

属性 学生がほとんどの場合は省略してよい。

男 ○ 女 ●

大学生 C
教員 T
一般人 A

例:
Re+ Ke C
内容: 学生女子
イス座り、本を読む、携帯触る

行為 全てに行ははる。「なにもしていない」はありえない。この欄になければ適宜書く。

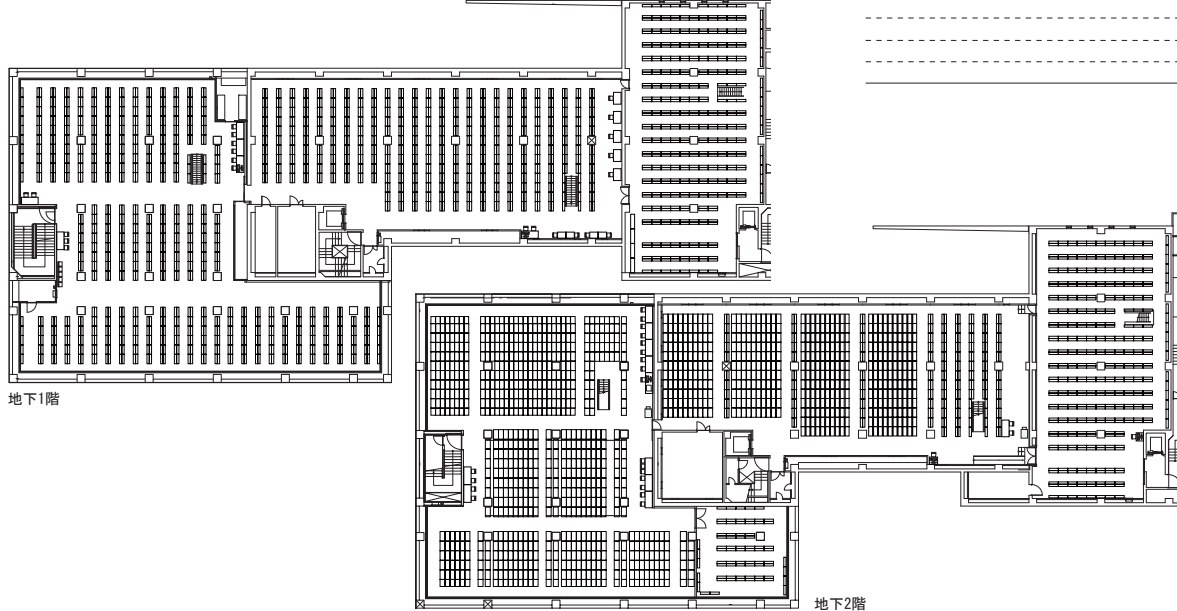
- | | | |
|----------------|------------|------------|
| 新聞雑誌を読む Re | 本を読む Re+ | 本を探す Sa |
| 調べ物をする SI | 勉強をする St | ビデオをみる AV |
| CDを聞く CD | おしゃべりする Ta | 飲食をする Et |
| 屏張り SI | 本の貸出・返却 Ka | 検索をする Ke |
| アンケート A | 職員と話をする Sy | PCを利用する Pc |
| ケータイ・スマホを触る Ke | イヤホンしている H | |
- 荷物などを置いたままで席を外している場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ○ で囲む
これは、その箇に会話を捉えていなくても、以前に会話行為があれば各箇に○をして下さい

姿勢 椅子の上に乗っている場合は適宜口は開かなくてもよい。

- 立っている 座っている 床に座っている
- 移動している 寝転がっている しゃがんでいる

天候 時間: 時 分 ~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



巡回調査票

中部大学 附属三浦記念図書館 1階 (GL階)
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 鈴木研究室

No. _____ (1F)

属性 学生がほとんどの場合は省略してよい。

男 ○ 女 ●

大学生 C
教員 T
一般人 A

例:
Re+ Ke C
内容: 学生女子
イス座り、本を読む、携帯触る

行為 全てに行ははる。「なにもしていない」はありえない。この欄になければ適宜書く。

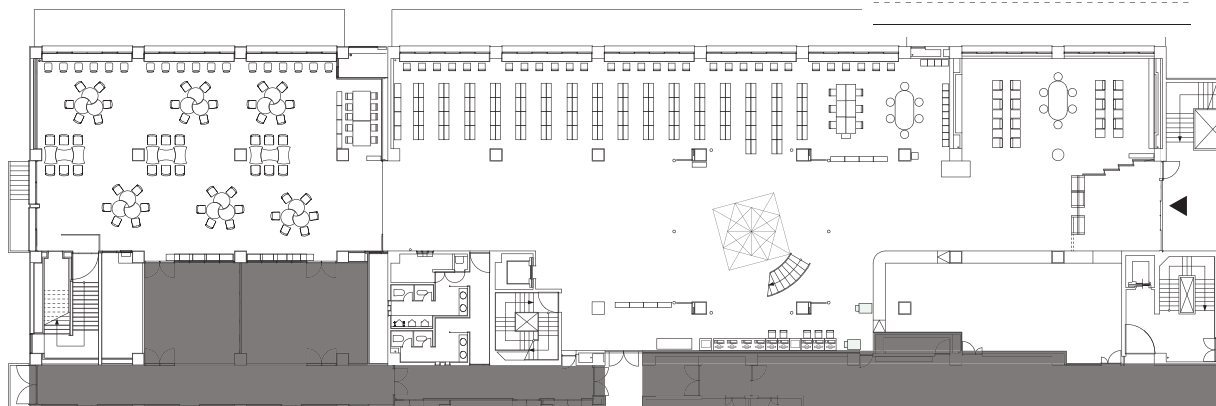
- | | | |
|----------------|------------|------------|
| 新聞雑誌を読む Re | 本を読む Re+ | 本を探す Sa |
| 調べ物をする SI | 勉強をする St | ビデオをみる AV |
| CDを聞く CD | おしゃべりする Ta | 飲食をする Et |
| 屏張り SI | 本の貸出・返却 Ka | 検索をする Ke |
| アンケート A | 職員と話をする Sy | PCを利用する Pc |
| ケータイ・スマホを触る Ke | イヤホンしている H | |
- 荷物などを置いたままで席を外している場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ○ で囲む
これは、その箇に会話を捉えていなくても、以前に会話行為があれば各箇に○をして下さい

姿勢 椅子の上に乗っている場合は適宜口は開かなくてもよい。

- 立っている 座っている 床に座っている
- 移動している 寝転がっている しゃがんでいる

天候 時間: 時 分 ~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



巡回調査票

中部大学 附属三浦記念図書館 2階
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 鈴木研究室

No. _____ (2F)

属性 学生がほとんどの場合は省略してよい。

男 女 大学生 C
教員 T 一般人 A

例: Re+ ke C
内容: 学生女子
イス座り、本を読む、
携帯触る

行為 全てに行いはある。「なにもしていない」はありえない。この欄になければ適当に書く。

- | | | |
|----------------|-------------|------------|
| 新聞雑誌を読む Re | 本を読む Re+ | 本を探す Sa |
| 調べ物をする SI | 勉強をする St | ビデオを見る AV |
| CDを聞く OD | おしゃべりをする Ta | 飲食をする Et |
| 座席リ SI | 本の貸出・返却 Ka | 検索をする Ke |
| アンケート アンケート | 職員と話をする Sy | PCを利用する Pc |
| ケータイ スマホを触る Ke | イヤホンしている H | |

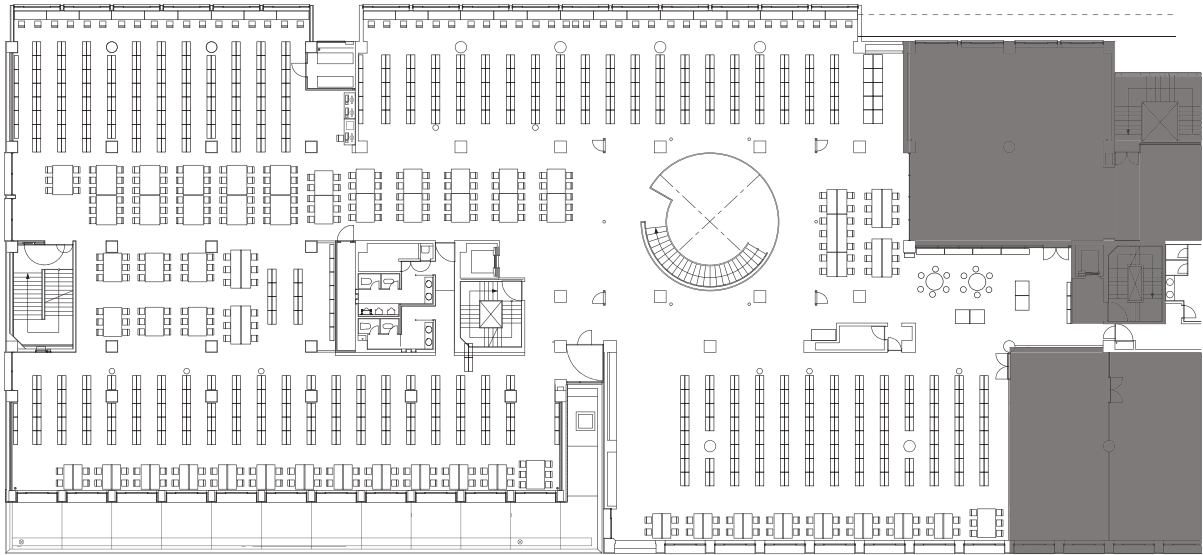
荷物などを置いたままで席を外している場合は と記入
グループ利用の場合は で囲む
これは、その間に会話を促さなくても、以前に会話行為があれば各欄に○をして下さい

姿勢 椅子の上に乗っている場合は適当に描かなくてもよい。

- 立っている 座っている 床に座っている
- 移動している 寝転がっている しゃがんでいる

天候 時間: 時 分 ~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



巡回調査票

中部大学 附属三浦記念図書館 3階
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 鈴木研究室

No. _____ (3F)

属性 学生がほとんどの場合は省略してよい。

男 女 大学生 C
教員 T 一般人 A

例: Re+ ke C
内容: 学生女子
イス座り、本を読む、
携帯触る

行為 全てに行いはある。「なにもしていない」はありえない。この欄になければ適当に書く。

- | | | |
|----------------|-------------|------------|
| 新聞雑誌を読む Re | 本を読む Re+ | 本を探す Sa |
| 調べ物をする SI | 勉強をする St | ビデオを見る AV |
| CDを聞く OD | おしゃべりをする Ta | 飲食をする Et |
| 座席リ SI | 本の貸出・返却 Ka | 検索をする Ke |
| アンケート アンケート | 職員と話をする Sy | PCを利用する Pc |
| ケータイ スマホを触る Ke | イヤホンしている H | |

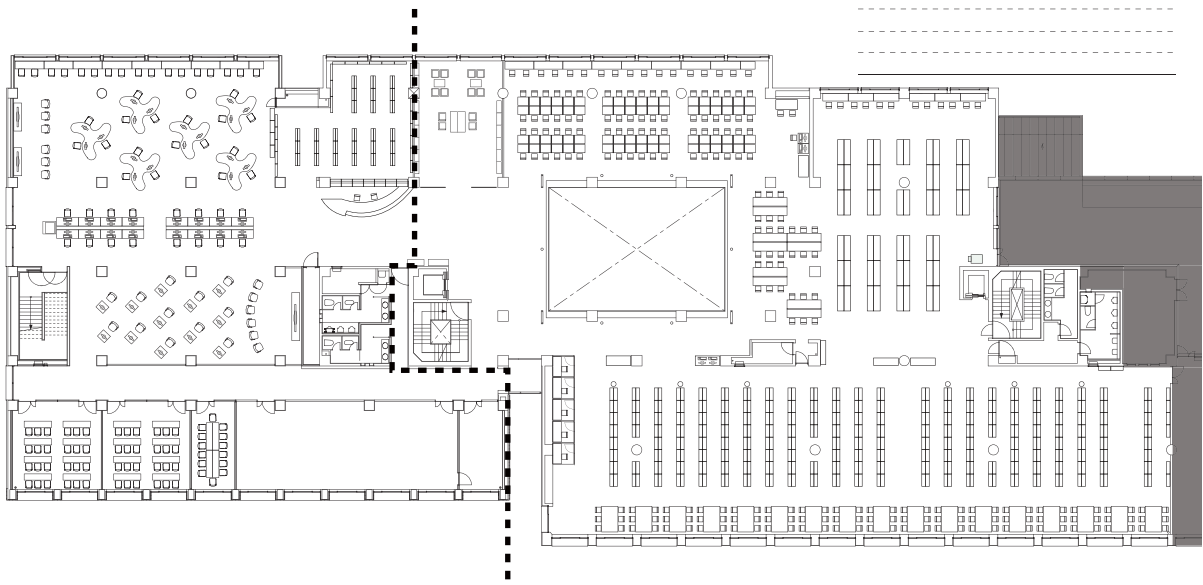
荷物などを置いたままで席を外している場合は と記入
グループ利用の場合は で囲む
これは、その間に会話を促さなくても、以前に会話行為があれば各欄に○をして下さい

姿勢 椅子の上に乗っている場合は適当に描かなくてもよい。

- 立っている 座っている 床に座っている
- 移動している 寝転がっている しゃがんでいる

天候 時間: 時 分 ~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



巡回調査票

中部大学 不言実行館コモンズセンター 2階
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 鈴木研究室

No. _____ (コ2F)

属性 学生がほとんどの場合は省略してよい。

男 ○ 女 ●

大学生 C
教員 T
一般人 A

例:
Re+ Ke- C
内容: 学生女子
イス座り、本を読む、
携帯触る

行為 全てに行はる。『なにもしていない』はありえない。この欄になければ適宜書く。

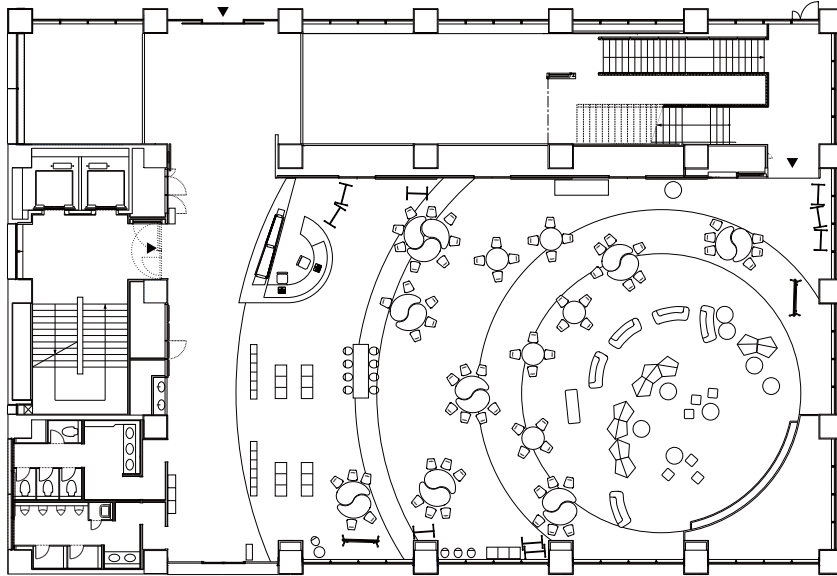
- | | | | | | |
|-------------|----|----------|-----|------------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | Si | 勉強をする | St | ビデオをみる | AV |
| CDを聞く | CD | おしゃべりする | Ta | 飲食をする | Et |
| 扇振り | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイ・スマホを触る | Ke | イヤホンしている | Il | (フリック操作含む) | |
- 荷物などを置いたままでも席を外している場合は と記入
グループ利用の場合は で囲む
これは、その箇に会話を捉えていなくても、以前に会話行為があれば各箇に○をして下さい

姿勢 椅子の上に座っている場合は適宜○は描かなくてもよい。

- 立っている 座っている 床に座っている
- 移動している 寝転がっている しゃがんでいる

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)



巡回調査票

中部大学 不言実行館コモンズセンター 3階
名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 鈴木研究室

No. _____ (コ3F)

属性 学生がほとんどの場合は省略してよい。

男 ○ 女 ●

大学生 C
教員 T
一般人 A

例:
Re+ Ke- C
内容: 学生女子
イス座り、本を読む、
携帯触る

行為 全てに行はる。『なにもしていない』はありえない。この欄になければ適宜書く。

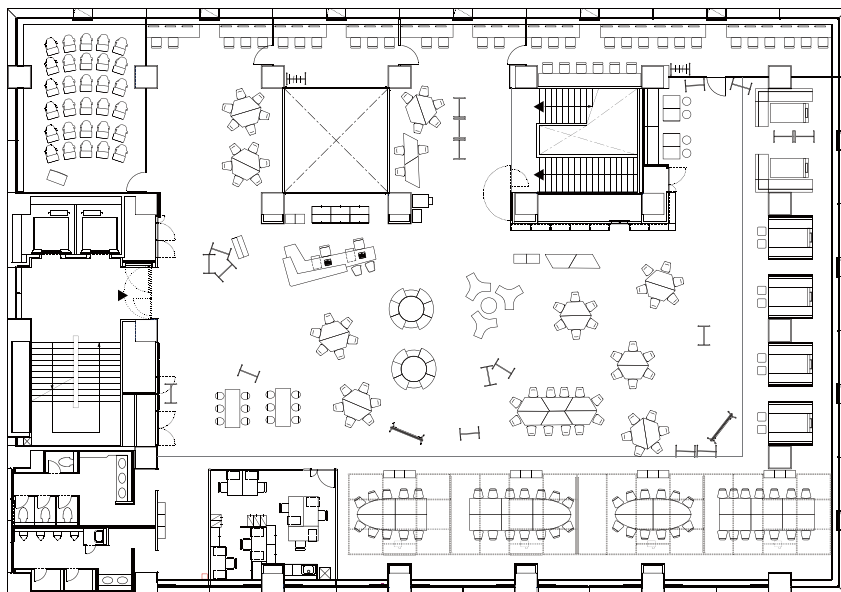
- | | | | | | |
|-------------|----|----------|-----|------------|----|
| 新聞雑誌を読む | Re | 本を読む | Re+ | 本を探す | Sa |
| 調べ物をする | Si | 勉強をする | St | ビデオをみる | AV |
| CDを聞く | CD | おしゃべりする | Ta | 飲食をする | Et |
| 扇振り | SI | 本の貸出・返却 | Ka | 検索をする | Ke |
| アンケート | A | 職員と話をする | Sy | PCを利用する | Pc |
| ケータイ・スマホを触る | Ke | イヤホンしている | Il | (フリック操作含む) | |
- 荷物などを置いたままでも席を外している場合は と記入
グループ利用の場合は で囲む
これは、その箇に会話を捉えていなくても、以前に会話行為があれば各箇に○をして下さい

姿勢 椅子の上に座っている場合は適宜○は描かなくてもよい。

- 立っている 座っている 床に座っている
- 移動している 寝転がっている しゃがんでいる

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)




巡回調査票

愛知工業大学工学部建築学科 中井研究室

京都産業大学
サギタリウス館グローバルコモンズ

属性

男 ○ 女 ● 大学生 C 教員 T 一般人 A

例:  内容: 一般成人女
イス座り、本を読む

姿勢

立っている 座っている 床に座っている
移動している 寝転がっている しゃがんでいる

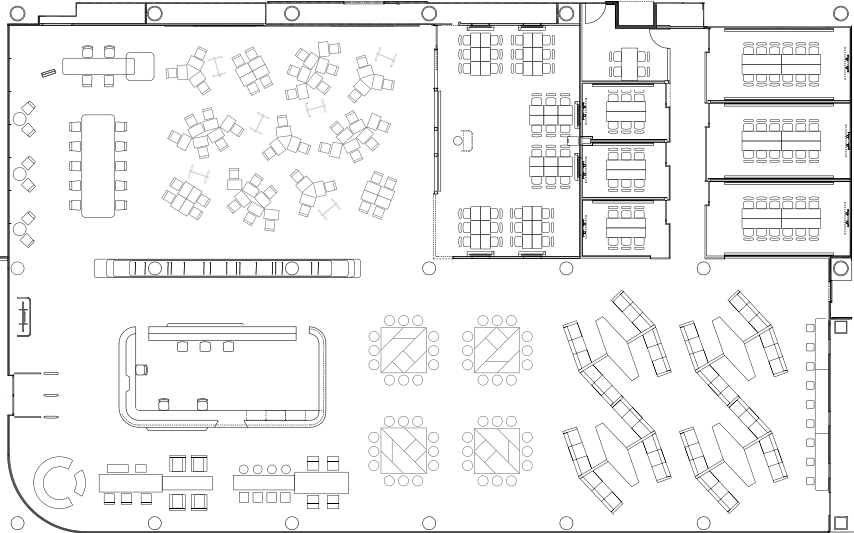
行為

新聞雑誌を読む Re 本を読む Re+ 本を探す Sa
調べ物をする SI 勉強をする St ビデオを見る AV
CDを聞く CD おしゃべりする Ta 飲食をする Et
居眠り SI 本の貸出・返却 Ka 休養をする Ke
アンケート A 職員と話す Sy PCを利用する Pc
ケータイ・スマホを触る Ke

荷物などを置いたままで席を外している場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ○ で囲む
これは、その場に会話を促さなくても、以前に会話行為があれば各箇所に○をして下さい

天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)




巡回調査票

愛知工業大学工学部建築学科 中井研究室

京都産業大学
中央図書館 1階

属性

男 ○ 女 ● 大学生 C 教員 T 一般人 A

例:  内容: 一般成人女
イス座り、本を読む

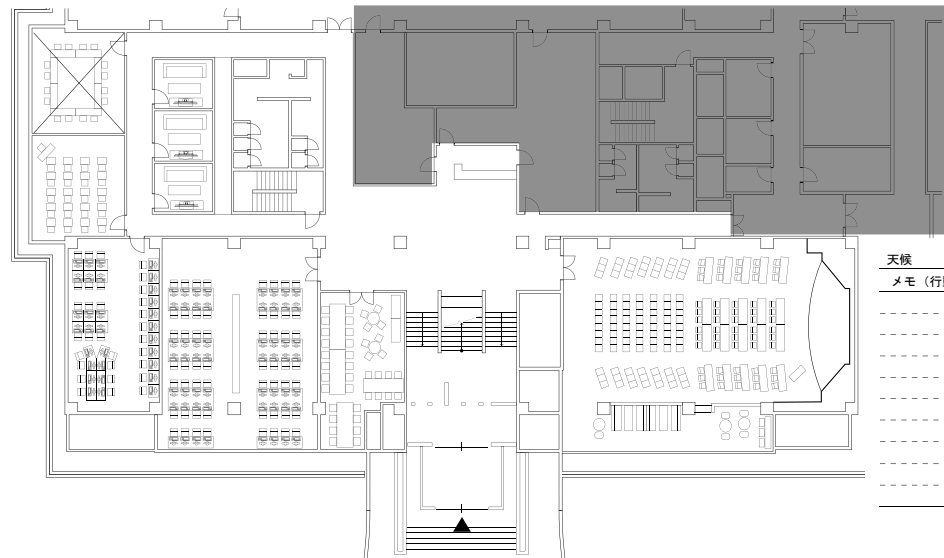
姿勢

立っている 座っている 床に座っている
移動している 寝転がっている しゃがんでいる

行為

新聞雑誌を読む Re 本を読む Re+ 本を探す Sa
調べ物をする SI 勉強をする St ビデオを見る AV
CDを聞く CD おしゃべりする Ta 飲食をする Et
居眠り SI 本の貸出・返却 Ka 休養をする Ke
アンケート A 職員と話す Sy PCを利用する Pc
ケータイ・スマホを触る Ke

荷物などを置いたままで席を外している場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ○ で囲む
これは、その場に会話を促さなくても、以前に会話行為があれば各箇所に○をして下さい



天候 時間: 時 分~ 記入者

メモ (行動の特徴など)

巡回調査票

愛知工業大学工学部建築学科 中井研究室

No. _____

京都産業大学
中央図書館 2階 (1)

属性

男 ○ 女 ●

大学生 C
教員 T
一般人 A

例:
Re+ ● A
内容: 一般成人女
イス座り、本を読む

姿勢

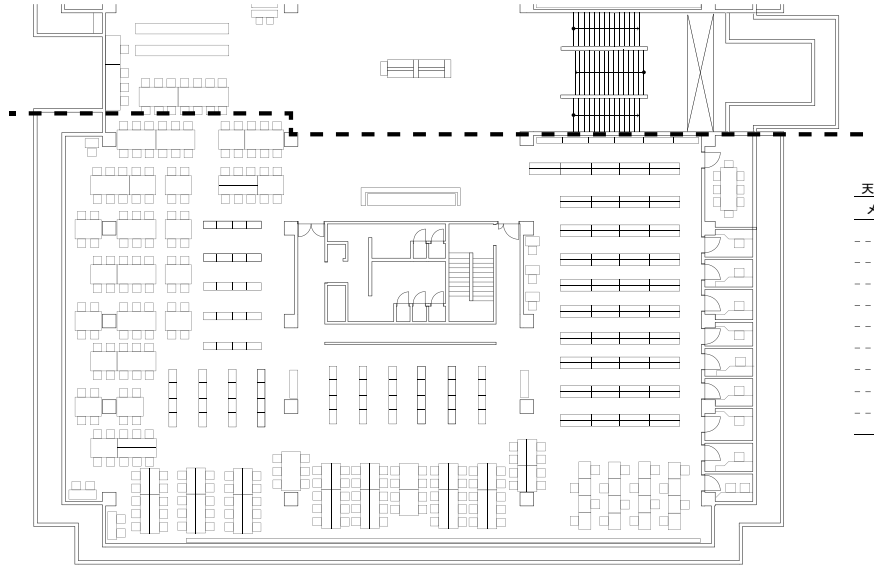
立っている ○ 座っている □ 床に座っている ○

移動している ←○ 寝転がっている ○ しゃがんでいる ○

行為

新聞雑誌を読む Re 本を読む Re+ 本を探す Sa
調べ物をする Si 勉強をする St ビデオをみる AV
CDを聞く OD おしゃべりをする Ta 飲食をする Et
展覧会 S1 本の貸出・返却 Ka 検閲をする Ke
アンケート ア 職員と話をする Sy PCを利用する Pc
ケータイ、 Ke
スマホを触る

荷物などを置いたままで座っている場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ☉ で囲む
これは、その図に余話を入れていなくても、以前に余話行為があれば各図に○をして下さい



天候 _____ 時間: 時 分 ~ 記入者 _____
メモ (行動の特徴など)

巡回調査票

愛知工業大学工学部建築学科 中井研究室

No. _____

京都産業大学
中央図書館 2階 (2)

属性

男 ○ 女 ●

大学生 C
教員 T
一般人 A

例:
Re+ ● A
内容: 一般成人女
イス座り、本を読む

姿勢

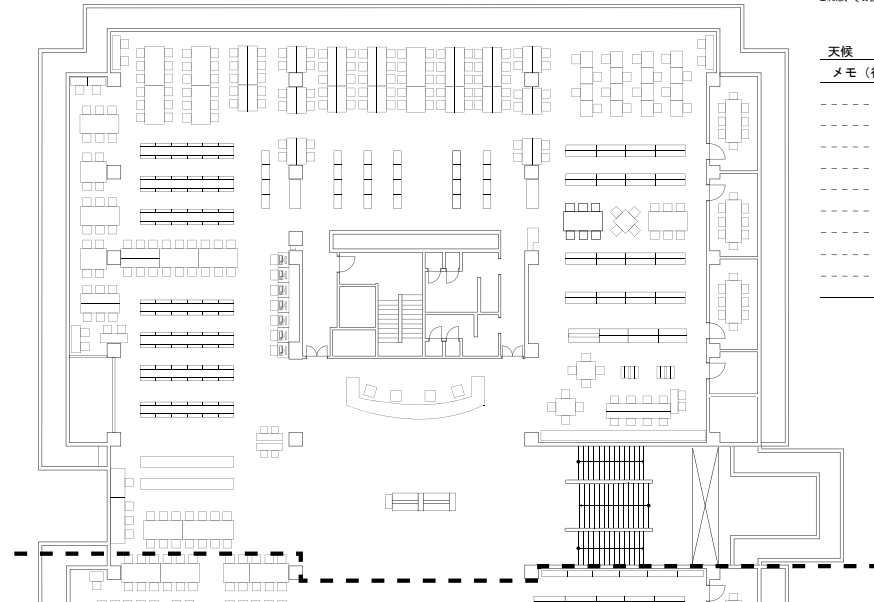
立っている ○ 座っている □ 床に座っている ○

移動している ←○ 寝転がっている ○ しゃがんでいる ○

行為

新聞雑誌を読む Re 本を読む Re+ 本を探す Sa
調べ物をする Si 勉強をする St ビデオをみる AV
CDを聞く OD おしゃべりをする Ta 飲食をする Et
展覧会 S1 本の貸出・返却 Ka 検閲をする Ke
アンケート ア 職員と話をする Sy PCを利用する Pc
ケータイ、 Ke
スマホを触る

荷物などを置いたままで座っている場合は ☒ と記入
グループ利用の場合は ☉ で囲む
これは、その図に余話を入れていなくても、以前に余話行為があれば各図に○をして下さい



天候 _____ 時間: 時 分 ~ 記入者 _____
メモ (行動の特徴など)
